

長沼町  
幌内D遺跡

ながぬまちょう  
長沼町

ほろ ない  
幌内D遺跡

— 道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書  
第308集  
平成25年度

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

ながぬまちょう  
長沼町

ほろ ない  
幌内D遺跡

— 道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 調査状況（北から）



2 遺構調査状況（南から）

口絵2



1 H-4 遺物出土状況（北東から）



2 P-51 遺物出土状況（北から）



1 P-125遺物出土状況（南から）



1 P-5・11完掘（南東から）

口絵 4



1 続縄文時代後葉土器



2 擦文文化期前期土器

# 例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路泉郷道路工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成23（2011）・24（2012）年度に発掘調査を実施した長沼町幌内D遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査・整理は、平成23～25年度の3か年にわたり第1調査部第2調査課が担当した。
3. 整理作業は、遺構を各担当職員、金属製品・玉類を鈴木 信、土器・石器・動物遺存体ほかを鈴木宏行が担当した。
4. 現場の写真撮影は菊池慈人・鈴木宏行・末光正卓が行い、遺物の撮影は菊池が行った。
5. 本書の執筆は、鈴木 信・菊池・鈴木宏行・末光が行い、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は鈴木宏行が担当した。
6. 作業の一部および各種測定・分析は、下記の機関・個人に委託・依頼した。  
放射性炭素年代測定：（株）加速器分析研究所、（株）パレオ・ラボ（V章1・2）  
黒曜石原産地分析：（株）パレオ・ラボ（V章3）  
炭化材樹種同定・動物遺存体同定・炭化種実同定：パリノ・サーヴェイ株式会社（V章4・5）  
土器圧痕分析：小畑弘己（熊本大学）（V章6）  
金属製品成分分析：岩手県立博物館（V章8）
7. 報告書刊行後、遺物および台帳は長沼町教育委員会が、図面・写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
8. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏の御指導、御協力をいただいた。（順不同、敬称略）  
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課  
長沼町教育委員会：相澤昌之、崇田章男、齋藤義弘、山下光雄、高田和孝  
恵庭市教育委員会：上屋眞一、長町章弘、鈴木将太  
厚真町教育委員会：乾 哲也、奈良智法、荻野幸男、中沢祐一、天方博章  
北方文化研究センター：野村 崇  
札幌市：大沼忠春  
東北大学：鹿又喜隆  
新潟県教育庁：沢田 敦

## 記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。  
H：住居跡 B：掘立柱建物跡 P：土坑・土坑墓 SP：小ピット F：焼土 AC：灰集中  
PC：土器集中 SC：集石 HP：住居内のピット・柱穴 HF：住居内の焼土  
PP：土坑（墓）内の柱穴 PF：土坑（墓）内の焼土 PFC：土坑（墓）内の剥片集中
2. 遺構図の縮尺は、一部の遺物出土状況については1／20とし、それ以外は1／40とした。いずれの場合もスケールを示した。
3. 遺構図の方位は真北を示す。遺構平面図の+はグリッドラインの交点で、傍らの名称番号は右下のグリッドを示している。レベルは標高（単位：m）である。
4. 遺構図には以下の略称を使用した。  
AH：石鏃 SC：スクレイパー PE：楔形石器 RF：二次加工ある剥片 CO：石核  
AX：石斧 HS：たたき石 GS：すり石 AS：台石 WS：砥石 P：土器 S：礫
5. 遺構図に掲載している実測図等の数字は挿図中の掲載番号と同一である。
6. 遺構図に掲載している実測図等は複数破片が接合したものは主体となる遺構に掲載し、複数破片が複数遺構から出土している場合は、それぞれの遺構に掲載している。
7. 礫の傾きを示すために礫底面の高低2点の計測を行ったものがあり、遺構図ではそれらを結線している。
8. 土層の表記については、基本土層はローマ数字、遺構の層位はアラビア数字で示した。
9. 土層の色調は『新版 標準土色帖 2002年版』（小山・竹原2002）に従った。
10. 遺物の実測図の縮尺は以下のとおりである。  
復元土器・土器拓影 1／3 土製品 1／3 剥片石器・礫石器・石製品 1／2  
玉類 1／1 金属製品 1／1 金属製品（図Ⅳ-39-7のみ）1／2
11. 土器図には正面図では表現できない箇所を図を追加して補助的に掲載しているものがある。この補助図は「⊕」印によってその実測位置を示している。「⊕」印は土器の上面観を模式化したもので、十字の垂直線は下端が正面側、上端が裏面側を、十字の水平線は左端が左面側、右端が右面側を示す。「⊕」に太線がある場所が補助図の位置で、太線が円の内側にある場合（「⊕」）は内面、外側にある場合（「⊕」）は外面を示している。
12. 土器の断面図を追加する場合、その位置を「▽」「▼」で示した。
13. 土器に粘土の積み上げ痕である接合面が確認できる場合、断面図に接合面を記入した。正面図の上に「ㄚ」や「ㄥ」の印を付けてその位置を示し、「ㄚ」は正面側、「ㄥ」は裏面側である。数字は断面図と対応し、下部から順に付けた。但し、記入された接合面のみが製作工程上の「継ぎ目」を示すものではない。
14. 土器の正面図に付されている「○」は粘土の内傾接合面の露呈部分を示す。
15. 土器表面に赤色顔料の付着した範囲は赤のトーンで示した。
16. 礫石器に関して敲打痕はV——V、すり痕は←——→で範囲を示した。
17. 掲載一覧表の計測値は復元値を（ ）で、現存値を〔 〕で括って表し、計測不能は「-」と表記した。



# 目 次

口絵（カラー図版）

例言・記号等の説明

目次・挿図目次・表目次・図版目次

## I 緒言

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経過	2
4 調査概要	2
(1) 調査区の設定	
(2) 土層	
(3) 調査の方法	
(4) 整理の方法	
(5) 遺物の分類	
(6) 調査結果の概要	

## II 遺跡の位置と周辺的环境

1 遺跡の位置と環境	17
2 周辺の遺跡	19

## III 遺構

1 概要	23
2 竪穴住居跡	23
3 掘立柱建物跡	33
4 土坑	36
5 小ピット	135
6 焼土	135
7 灰集中	147
8 土器集中	147
9 集石	147

## IV 遺構・包含層出土の遺物

1 概要	163
2 土器・土製品	169
3 石器・石製品	196
4 玉類	209
5 金属製品	210
6 動物遺存体	210
7 フローテーション・水洗選別によって回収された微細遺物	212

## V 自然科学的分析等

1 幌内D遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）（榊加速器分析研究所）	237
--------------------------------------	-----

2	放射性炭素年代測定（パレオ・ラボAMS年代測定グループ）	242
3	幌内D遺跡出土黒曜石製石器の産地推定（竹原弘展：パレオ・ラボ）	253
4	幌内D遺跡の自然科学分析（パリノ・サーヴェイ株式会社）	257
5	炭化種実同定（長沼町幌内D遺跡）（パリノ・サーヴェイ株式会社）	263
6	幌内D遺跡出土土器の圧痕調査報告（小畑弘己：熊本大学文学部、 百原 新：千葉大学大学院園芸学研究科）	270
7	石器の使用痕分析	277
8	幌内D遺跡出土遺物の文化財科学的調査（赤沼英男：岩手県立博物館）	279
VI まとめ		
1	遺構について	295
2	遺物について	305
	（1）土器	
	（2）石器	
3	分析について	318
4	遺跡の形成過程	323

引用文献

写真図版

報告書抄録

## 挿 図 目 次

<b>I 調査の概要</b>	
図Ⅰ-1	幌内D遺跡の位置 3
図Ⅰ-2	調査範囲・調査区設定図 4
図Ⅰ-3	基本土層図 6
図Ⅰ-4	Ⅱ層分布範囲 6
図Ⅰ-5	土層断面図（1） 7
図Ⅰ-6	土層断面図（2） 8
図Ⅰ-7	土層断面図（3） 9
図Ⅰ-8	土層断面図（4） 10
図Ⅰ-9	土層断面図（5） 11
<b>Ⅱ 遺跡の位置と周辺環境</b>	
図Ⅱ-1	石狩低地帯周辺の遺跡 18
図Ⅱ-2	長沼町の遺跡 20
図Ⅱ-3	長沼町内の遺跡（1） 21
図Ⅱ-4	長沼町内の遺跡（2） 22
<b>Ⅲ 遺構と遺物</b>	
図Ⅲ-1	遺構位置図（1） 24
図Ⅲ-2	遺構位置図（2） 25
図Ⅲ-3	遺構位置図（3） 26
図Ⅲ-4	竪穴住居跡（1） H-1・2 28
図Ⅲ-5	竪穴住居跡（2） H-3（1） 29
図Ⅲ-6	竪穴住居跡（3） H-3（2） 30
図Ⅲ-7	竪穴住居跡（4） H-3（3） 31
図Ⅲ-8	竪穴住居跡（5） H-3（4） 32
図Ⅲ-9	竪穴住居跡（6） H-4 34
図Ⅲ-10	掘立柱建物跡 B-1・2 35
図Ⅲ-11	土坑・土坑墓（1） P-1～6 37
図Ⅲ-12	土坑・土坑墓（2） P-7～10 39
図Ⅲ-13	土坑・土坑墓（3） P-11～13 40
図Ⅲ-14	土坑・土坑墓（4） P-14～17 43
図Ⅲ-15	土坑・土坑墓（5） P-18～20 44
図Ⅲ-16	土坑・土坑墓（6） P-21～23 45
図Ⅲ-17	土坑・土坑墓（7） P-24～27 47
図Ⅲ-18	土坑・土坑墓（8） P-28～30 49
図Ⅲ-19	土坑・土坑墓（9） P-31・32 50
図Ⅲ-20	土坑・土坑墓（10） P-33～36 51
図Ⅲ-21	土坑・土坑墓（11） P-37～39 53
図Ⅲ-22	土坑・土坑墓（12） P-40～43 55
図Ⅲ-23	土坑・土坑墓（13） P-44～46 57
図Ⅲ-24	土坑・土坑墓（14） P-47～50 58
図Ⅲ-25	土坑・土坑墓（15） P-51・52 60
図Ⅲ-26	土坑・土坑墓（16） P-53～57 61
図Ⅲ-27	土坑・土坑墓（17） P-58～61 63
図Ⅲ-28	土坑・土坑墓（18） P-62・63 65
図Ⅲ-29	土坑・土坑墓（19） P-64～66 66
図Ⅲ-30	土坑・土坑墓（20） P-67～69 67
図Ⅲ-31	土坑・土坑墓（21） P-70～72 69
図Ⅲ-32	土坑・土坑墓（22） P-73・74 71

図Ⅲ-33	土坑・土坑墓 (23)	P-75~78	72	図Ⅳ-5	包含層出土石器(4)・金属製品・骨片分布	168
図Ⅲ-34	土坑・土坑墓 (24)	P-79~82	73	図Ⅳ-6	遺構・包含層出土石器(1)	174
図Ⅲ-35	土坑・土坑墓 (25)	P-83~86	75	図Ⅳ-7	遺構・包含層出土石器(2)	175
図Ⅲ-36	土坑・土坑墓 (26)	P-87~89	77	図Ⅳ-8	遺構・包含層出土石器(3)	176
図Ⅲ-37	土坑・土坑墓 (27)	P-90~92	79	図Ⅳ-9	遺構・包含層出土石器(4)	177
図Ⅲ-38	土坑・土坑墓 (28)	P-93~96	80	図Ⅳ-10	遺構・包含層出土石器(5)	178
図Ⅲ-39	土坑・土坑墓 (29)	P-97~99	81	図Ⅳ-11	遺構・包含層出土石器(6)	179
図Ⅲ-40	土坑・土坑墓 (30)	P-100	83	図Ⅳ-12	遺構・包含層出土石器(7)	180
図Ⅲ-41	土坑・土坑墓 (31)	P-101~103	85	図Ⅳ-13	遺構・包含層出土石器(8)	181
図Ⅲ-42	土坑・土坑墓 (32)	P-104~106	86	図Ⅳ-14	遺構・包含層出土石器(9)	182
図Ⅲ-43	土坑・土坑墓 (33)	P-107~110	87	図Ⅳ-15	遺構・包含層出土石器(10)	183
図Ⅲ-44	土坑・土坑墓 (34)	P-111~113	89	図Ⅳ-16	遺構・包含層出土石器(11)	184
図Ⅲ-45	土坑・土坑墓 (35)	P-114~116	91	図Ⅳ-17	遺構・包含層出土石器(12)	185
図Ⅲ-46	土坑・土坑墓 (36)	P-117~119	93	図Ⅳ-18	遺構・包含層出土石器(13)	186
図Ⅲ-47	土坑・土坑墓 (37)	P-120~123	94	図Ⅳ-19	遺構・包含層出土石器(14)	187
図Ⅲ-48	土坑・土坑墓 (38)	P-124~126	96	図Ⅳ-20	遺構・包含層出土石器(15)	188
図Ⅲ-49	土坑・土坑墓 (39)	P-127・128	97	図Ⅳ-21	遺構・包含層出土石器(16)	189
図Ⅲ-50	土坑・土坑墓 (40)	P-129~131	99	図Ⅳ-22	遺構・包含層出土石器(17)	190
図Ⅲ-51	土坑・土坑墓 (41)	P-132・133	100	図Ⅳ-23	遺構・包含層出土石器(18)	191
図Ⅲ-52	土坑・土坑墓 (42)	P-134~137	101	図Ⅳ-24	遺構・包含層出土石器(19)	192
図Ⅲ-53	土坑・土坑墓 (43)	P-138~141	103	図Ⅳ-25	遺構・包含層出土石器(20)	193
図Ⅲ-54	土坑・土坑墓 (44)	P-142・143	105	図Ⅳ-26	遺構・包含層出土石器(21)	194
図Ⅲ-55	土坑・土坑墓 (45)	P-144・145	106	図Ⅳ-27	遺構・包含層出土石器(22)	195
図Ⅲ-56	土坑・土坑墓 (46)	P-146~148	108	図Ⅳ-28	遺構・包含層出土石器(1)	199
図Ⅲ-57	土坑・土坑墓 (47)	P-149~152	109	図Ⅳ-29	遺構・包含層出土石器(2)	200
図Ⅲ-58	土坑・土坑墓 (48)	P-153~156	111	図Ⅳ-30	遺構・包含層出土石器(3)	201
図Ⅲ-59	土坑・土坑墓 (49)	P-157~159	113	図Ⅳ-31	遺構・包含層出土石器(4)	202
図Ⅲ-60	土坑・土坑墓 (50)	P-160~162	114	図Ⅳ-32	遺構・包含層出土石器(5)	203
図Ⅲ-61	土坑・土坑墓 (51)	P-163(1)	116	図Ⅳ-33	遺構・包含層出土石器(6)	204
図Ⅲ-62	土坑・土坑墓 (52)	P-163(2)・164	117	図Ⅳ-34	遺構・包含層出土石器(7)	205
図Ⅲ-63	土坑・土坑墓 (53)	P-165~167	118	図Ⅳ-35	遺構・包含層出土石器(8)	206
図Ⅲ-64	土坑・土坑墓 (54)	P-168~170	119	図Ⅳ-36	遺構・包含層出土石器(9)	207
図Ⅲ-65	土坑・土坑墓 (55)	P-171~173	121	図Ⅳ-37	遺構・包含層出土石器(10)	208
図Ⅲ-66	土坑・土坑墓 (56)	P-174~176	123	図Ⅳ-38	遺構・包含層出土玉類	209
図Ⅲ-67	土坑・土坑墓 (57)	P-177~180	124	図Ⅳ-39	遺構・包含層出土金属製品	211
図Ⅲ-68	土坑・土坑墓 (58)	P-181~183	126			
図Ⅲ-69	土坑・土坑墓 (59)	P-184~187	127	<b>V 自然科学的分析等</b>		
図Ⅲ-70	土坑・土坑墓 (60)	P-188~190	129	図V-1	暦年較正年代グラフ	240
図Ⅲ-71	土坑・土坑墓 (61)	P-191~194	131	図V-2	較正年代一覧	241
図Ⅲ-72	土坑・土坑墓 (62)	P-195~198	133	図V-3	暦年較正結果(1)	248
図Ⅲ-73	土坑・土坑墓 (63)	P-199~204・小ピット SP-1	134	図V-4	暦年較正結果(2)	249
図Ⅲ-74	焼土(1)	F-1~4・22・23	136	図V-5	暦年較正結果(3)	250
図Ⅲ-75	焼土(2)	F-5~10・20	138	図V-6	暦年較正結果(4)	251
図Ⅲ-76	焼土(3)	F-11~19	140	図V-7	暦年代の分布	252
図Ⅲ-77	焼土(4)	F-21・24~29	142	図V-8	北海道・東北地方の黒曜石原石採取地の分布図	254
図Ⅲ-78	焼土(5)	F-30~39	144	図V-9	黒曜石産地推定判別図(1)	256
図Ⅲ-79	焼土(6)	F-40~47	146	図V-10	黒曜石産地推定判別図(2)	256
図Ⅲ-80	灰集中 AC-1・2、土器集中 PC-1~3、集石 SC-1・2		148	図V-11	黒曜石産地分析試料一覧	256
				図V-12	炭化材(1)	261
<b>IV 遺構・包含層の遺物</b>				図V-13	炭化材(2)・出土骨	262
図Ⅳ-1	包含層出土土器分布(1)		164	図V-14	種実遺体	269
図Ⅳ-2	包含層出土土器(2)・石器分布(1)		165	図V-15	幌内D遺跡出土土器圧痕・レプリカSEM画像1	272
図Ⅳ-3	包含層出土土器分布(2)		166	図V-16	幌内D遺跡出土土器圧痕・レプリカSEM画像2	273
図Ⅳ-4	包含層出土土器分布(3)		167	図V-17	幌内D遺跡出土土器圧痕・レプリカSEM画像3	274

図V-18	土器圧痕検出位置	276
図V-19	スクレイパー・楔形石器の使用痕	278
図V-20	No.1の組織観察結果	287
図V-21	No.2の組織観察結果	288
図V-22	No.3の組織観察結果	289
図V-23	幌内D遺跡出土鉄器に含有されるCu・Ni・Co三成分比	290
図V-24(1)	No.5の組織観察結果	291
図V-24(2)	No.5の組織観察結果	292
図V-25	No.6-1 ガラス片の蛍光X線スペクトル	293
図V-26	No.6-2 ガラス片の蛍光X線スペクトル	294
<b>VI まとめ</b>		
図VI-1	遺構の大きさ	295
図VI-2	縄文期円形土坑の長径	296
図VI-3	土坑の深さ(推定)	296
図VI-4	土坑の推定深さの分布	296
図VI-5	時期別土層断面図	297
図VI-6	遺構出土礫残存率別重量分布	298
図VI-7	遺構別礫重量	298

図VI-8	遺構別完形・半完形礫重量	298
図VI-9	礫重量階級別出土状況	301
図VI-10	遺構別礫石材比率(完・半完形)	302
図VI-11	遺構出土礫残存率別重量分布	302
図VI-12	遺構別出土礫重量(1)	302
図VI-13	遺構別出土礫重量(2)	303
図VI-14	掲載土器接合分布(1)	304
図VI-15	掲載土器接合分布(2)	305
図VI-16	円形刺突文土器群	307
図VI-17	擦文文化期土器群	308
図VI-18	穿孔分類要素	309
図VI-19	石核分類	316
図VI-20	時期別石器組成	317
図VI-21	暦年較正年代分布	319
図VI-22	年代測定結果分布(1)	320
図VI-23	年代測定結果分布(2)	321
図VI-24	時期別利用域	323

## 表 目 次

### I 調査の概要

表I-1	出土遺物一覧	16
------	--------	----

### II 遺跡の位置と周辺環境

表II-1	長沼町の遺跡一覧	21
-------	----------	----

### III 遺構

表III-1	遺構一覧	149
--------	------	-----

表III-2	遺構出土遺物一覧	153
--------	----------	-----

### IV 遺構・包含層出土の遺物

表IV-1	フローテーション・水洗選別による動物遺存体一覧	213
-------	-------------------------	-----

表IV-2	遺構出土手取り動物遺存体一覧	214
-------	----------------	-----

表IV-3	包含層出土手取り動物遺存体一覧	214
-------	-----------------	-----

表IV-4	フローテーション(浮遊物)回収遺物一覧	215
-------	---------------------	-----

表IV-5	フローテーション(残渣)回収遺物一覧	215
-------	--------------------	-----

表IV-6	水洗選別(1mm)回収遺物一覧	217
-------	-----------------	-----

表IV-7	遺構・包含層出土遺物一覧	219
-------	--------------	-----

表IV-8	遺構・包含層出土掲載土器一覧	220
-------	----------------	-----

表IV-9	遺構・包含層出土掲載石器一覧	232
-------	----------------	-----

表IV-10	遺構・包含層出土掲載玉類一覧	235
--------	----------------	-----

表IV-11	遺構・包含層出土掲載金属製品一覧	235
--------	------------------	-----

### V 自然科学的分析等

表V-1	放射性炭素年代測定結果	239
------	-------------	-----

表V-2	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	239
------	---------------------	-----

表V-3	測定試料および処理(1)	245
------	--------------	-----

表V-4	測定試料および処理(2)	246
------	--------------	-----

表V-5	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果(1)	247
------	------------------------	-----

表V-6	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果(2)	248
------	------------------------	-----

表V-7	分析対象	253
------	------	-----

表V-8	北海道・東北地方黒曜石産地の判別群	254
------	-------------------	-----

表V-9	測定値および産地推定結果	255
------	--------------	-----

表V-10	器種別の産地	255
-------	--------	-----

表V-11	時期別の産地	255
-------	--------	-----

表V-12	樹種同定結果	257
-------	--------	-----

表V-13	骨同定結果	259
-------	-------	-----

表V-14	種実分析結果	266
-------	--------	-----

表V-15	幌内D遺跡検出圧痕一覧表	271
-------	--------------	-----

表V-16	分析試料一覧	277
-------	--------	-----

表V-17	幌内D遺跡出土調査鉄器	286
-------	-------------	-----

表V-18	No.2に見出された非金属介在物に混在する鉱物相のEPMAによる定量分析結果	286
-------	--	-----

表V-19	鉄器の調査結果	286
-------	---------	-----

表V-20	幌内D遺跡出土調査銅銭	286
-------	-------------	-----

表V-21	幌内D遺跡出土調査ガラス片	286
-------	---------------	-----

### VI まとめ

表VI-1	階級別完形・半完形礫平均個数	298
-------	----------------	-----

表VI-2	遺構別完形・半完形礫サイズ	300
-------	---------------	-----

表VI-3	遺構出土礫石材別重量(完形)	302
-------	----------------	-----

表VI-4	遺構別礫総重量と推定深さ	303
-------	--------------	-----

表VI-5	補修孔一覧	310
-------	-------	-----

表VI-6	幌内Dと梅川4の比較	313
-------	------------	-----

表VI-7	スクレイパーの素材と原石形状	315
-------	----------------	-----

表VI-8	楔形石器の素材と原石形状	315
-------	--------------	-----

表VI-9	石核形状と原石形状	316
-------	-----------	-----

表VI-10	器種別産地分析結果	316
--------	-----------	-----

## 図 版 目 次

### 図版1 空中写真

1	幌内D遺跡(1947年9月米軍撮影)
---	--------------------

### 図版2 遺跡遠景

1	遺跡遠景(西から)
---	-----------

- 2 遺跡遠景 (南東から)
- 図版3 調査状況1
- 1 調査前 (北東から)
  - 2 I層除去状況 (南から)
  - 3 平成23年度完掘 (北から)
  - 4 平成24年度完掘 (北から)
  - 5 遺構検出状況 (北東から)
- 図版4 調査状況2
- 1 調査状況 (南西から)
  - 2 調査状況 (南から)
- 図版5 土層断面
- 1 B22区西壁土層断面 (東から)
  - 2 平成23年度南東部土層断面 (西から)
  - 3 南東斜面部土層断面 (西から)
  - 4 南東斜面部土層断面 (西から)
- 図版6 住居跡 (1)
- 1 H-1 遺物出土状況 (北から)
  - 2 H-1 断面1 (南西から)
  - 3 H-1 断面2 (南東から)
- 図版7 住居跡 (2)
- 1 H-2 遺物出土状況 (南西から)
  - 2 H-2 断面1 (南から)
  - 3 H-2 断面2 (西から)
- 図版8 住居跡 (3)
- 1 H-3 完掘 (北西から)
  - 2 H-3 断面3 (北西から)
- 図版9 住居跡 (4)
- 1 H-3 断面2 (西から)
  - 2 H-3 断面1 (北西から)
  - 3 H-3 掘り上げ土 (北西から)
  - 4 H-3 HP-1 断面 (北から)
  - 5 H-3 HP-1 完掘 (北から)
  - 6 H-3 HP-2 断面 (北西から)
  - 7 H-3 HP-2 完掘 (北から)
- 図版10 住居跡 (5)
- 1 H-3 竈検出 (北から)
  - 2 H-3 竈断面1 (北から)
  - 3 H-3 竈断面2 (北西から)
  - 4 H-3 竈完掘 (北西から)
  - 5 H-3 刀子出土状況 (北から)
  - 6 H-3 炭化材出土状況 (北西から)
- 図版11 住居跡 (6)
- 1 H-4 遺物出土状況 (北東から)
  - 2 H-4 断面1 (西から)
  - 3 H-4 断面2 (北から)
- 図版12 小ピット・掘立柱建物跡・土坑・土坑墓 (1)
- 1 B-1 BP-1 断面 (南から)
  - 2 B-1 BP-2 断面 (北西から)
  - 3 B-2 BP-3 断面 (南から)
  - 4 B-2 BP-4 断面 (南から)
  - 5 B-2 BP-4 完掘 (南から)
  - 6 SP-1 完掘 (北西から)
  - 7 P-1 断面 (南東から)
- 8 P-1 完掘 (南から)
  - 9 P-2 断面 (南西から)
  - 10 P-3 断面 (南西から)
- 図版13 土坑・土坑墓 (2)
- 1 P-2 完掘 (南西から)
  - 2 P-3 完掘 (南西から)
  - 3 P-4 断面 (南から)
  - 4 P-4 完掘 (西から)
  - 5 P-5 断面 (東から)
  - 6 P-5 (右)・P-11 (左) 完掘 (南東から)
- 図版14 土坑・土坑墓 (3)
- 1 P-6 断面 (南西から)
  - 2 P-6 完掘 (南から)
  - 3 P-7 断面 (南西から)
  - 4 P-7 遺物出土状況 (南西から)
  - 5 P-8 断面 (西から)
  - 6 P-8 完掘 (南西から)
  - 7 P-9 断面 (南西から)
  - 8 P-9 完掘 (南西から)
- 図版15 土坑・土坑墓 (4)
- 1 P-10 断面 (西から)
  - 2 P-10 遺物出土状況 (北から)
  - 3 P-11 断面 (南から)
  - 4 P-12 断面 (南から)
  - 5 P-12 検出状況 (北西から)
  - 6 P-12 遺物出土状況 (東から)
  - 7 P-13 断面 (南から)
- 図版16 土坑・土坑墓 (5)
- 1 P-13 完掘 (南西から)
  - 2 P-14 断面 (南西から)
  - 3 P-14 完掘 (南西から)
  - 4 P-15 断面 (南から)
  - 5 P-15 遺物出土状況 (北西から)
  - 6 P-16 断面 (南西から)
  - 7 P-16 遺物出土状況 (西から)
  - 8 P-17 断面 (南西から)
- 図版17 土坑・土坑墓 (6)
- 1 P-17 遺物出土状況 (南西から)
  - 2 P-18 断面 (南から)
  - 3 P-18 遺物出土状況 (南から)
  - 4 P-19 断面 (南西から)
  - 5 P-19 遺物出土状況 (南西から)
  - 6 P-20 断面 (南東から)
  - 7 P-20 遺物出土状況 (南東から)
  - 8 P-21 断面 (南西から)
- 図版18 土坑・土坑墓 (7)
- 1 P-21 遺物出土状況 (南から)
  - 2 P-22 断面 (南から)
  - 3 P-22 遺物出土状況 (南から)
  - 4 P-23 遺物出土状況 (南西から)
  - 5 P-24 断面 (南西から)
  - 6 P-24 遺物出土状況 (南西から)
  - 7 P-25 断面 (南東から)

8 P-25 遺物出土状況 (北西から)

図版19 土坑・土坑墓 (8)

- 1 P-26 断面 (南西から)
- 2 P-26 遺物出土状況 (南東から)
- 3 P-27 断面 (南東から)
- 4 P-28 断面 (南東から)
- 5 P-28 遺物出土状況 (南から)
- 6 P-29 断面 (南東から)
- 7 P-29 遺物出土状況 (南から)
- 8 P-30 断面 (南から)

図版20 土坑・土坑墓 (9)

- 1 P-30 遺物出土状況 (西から)
- 2 P-31 断面1 (南東から)
- 3 P-31 断面2 (南西から)
- 4 P-31 完掘 (北東から)
- 5 P-31 HP-1 断面 (西から)
- 6 P-31 HP-2 断面 (北西から)
- 7 P-31 HP-3 断面 (南西から)
- 8 P-31 HP-4 断面 (北から)
- 9 P-32 断面 (南から)
- 10 P-32 遺物出土状況 (南から)

図版21 土坑・土坑墓 (10)

- 1 P-33 断面 (南から)
- 2 P-33 完掘 (南西から)
- 3 P-34 断面 (南から)
- 4 P-34 遺物出土状況 (南西から)
- 5 P-35 断面 (南から)
- 6 P-35 遺物出土状況 (南東から)
- 7 P-36 断面 (南から)
- 8 P-36 完掘 (南東から)

図版22 土坑・土坑墓 (11)

- 1 P-37 断面 (南から)
- 2 P-37 完掘 (南東から)
- 3 P-38・41 断面 (西から)
- 4 P-38・41 遺物出土状況 (南から)
- 5 P-38 下層遺物出土状況 (北西から)
- 6 P-41 遺物出土状況 (南から)
- 7 P-39 断面 (東から)
- 8 P-39 遺物出土状況 (東から)

図版23 土坑・土坑墓 (12)

- 1 P-40 断面 (南東から)
- 2 P-40 遺物出土状況 (北から)
- 3 P-42 断面 (南東から)
- 4 P-42 遺物出土状況 (北から)
- 5 P-43 断面 (南東から)
- 6 P-43 遺物出土状況 (南から)
- 7 P-44 断面 (南から)
- 8 P-44 遺物出土状況 (南から)

図版24 土坑・土坑墓 (13)

- 1 P-45 断面 (南西から)
- 2 P-45 遺物出土状況 (南から)
- 3 P-46 断面 (南東から)
- 4 P-46 遺物出土状況 (南西から)

5 P-47 断面 (南東から)

6 P-47 遺物出土状況 (南から)

7 P-48 断面 (南東から)

8 P-48 遺物出土状況 (西から)

図版25 土坑・土坑墓 (14)

- 1 P-49 断面 (南から)
- 2 P-49 遺物出土状況 (北東から)
- 3 P-50 断面 (南東から)
- 4 P-50 遺物出土状況 (東から)
- 5 P-51 断面 (南から)
- 6 P-51 遺物出土状況 (北から)
- 7 P-51 鉄製品出土状況 (北東から)
- 8 P-51 下層遺物出土状況 (南西から)

図版26 土坑・土坑墓 (15)

- 1 P-52 断面 (南東から)
- 2 P-52 遺物出土状況 (南から)
- 3 P-52 下部礫出土状況 (北から)
- 4 P-53 断面 (南東から)
- 5 P-53 遺物出土状況 (北東から)
- 6 P-54 断面 (南東から)
- 7 P-54 遺物出土状況 (東から)
- 8 P-55 断面 (南から)

図版27 土坑・土坑墓 (16)

- 1 P-55 完掘 (南から)
- 2 P-56 断面 (南西から)
- 3 P-56 完掘 (南西から)
- 4 P-57 断面 (南から)
- 5 P-57 完掘 (北東から)
- 6 P-58 断面 (東から)
- 7 P-58 完掘 (北東から)
- 8 P-59 断面 (北から)

図版28 土坑・土坑墓 (17)

- 1 P-59 完掘 (北東から)
- 2 P-60 断面 (北東から)
- 3 P-61 断面 (北東から)
- 4 P-60・61 完掘 (北東から)
- 5 P-62 断面1 (南東から)
- 6 P-62 断面2 (南西から)
- 7 P-62 遺物出土状況 (南西から)
- 8 P-62 炭化物出土状況 (西から)

図版29 土坑・土坑墓 (18)

- 1 P-63 断面 (南から)
- 2 P-63 遺物出土状況 (北から)
- 3 P-64 断面 (南東から)
- 4 P-64 遺物出土状況 (北東から)
- 5 P-65 断面 (南東から)
- 6 P-65 遺物出土状況 (南東から)
- 7 P-66 断面 (南から)
- 8 P-66 遺物出土状況 (南から)

図版30 土坑・土坑墓 (19)

- 1 P-67 断面 (南から)
- 2 P-67 遺物出土状況 (南から)
- 3 P-68 検出状況 (東から)

- 4 P-68 断面 (北東から)  
 5 P-68 完掘 (東から)  
 6 P-69 断面 (南から)  
 7 P-69 遺物出土状況 (南東から)  
 8 P-70 断面 (南から)
- 図版31 土坑・土坑墓 (20)  
 1 P-70 遺物出土状況 (南東から)  
 2 P-71 断面 (南から)  
 3 P-71 完掘 (北から)  
 4 P-72 断面1 (南西から)  
 5 P-72 断面2 (南東から)  
 6 P-72 完掘 (北東から)  
 7 P-73 断面1 (北東から)  
 8 P-73 断面2 (南東から)
- 図版32 土坑・土坑墓 (21)  
 1 P-73 遺物出土状況 (北東から)  
 2 P-74 断面 (東から)  
 3 P-75 検出状況 (北東から)  
 4 P-75 断面1 (南から)  
 5 P-75 断面2 (東から)  
 6 P-75 遺物出土状況 (南東から)  
 7 P-76 断面 (南東から)  
 8 P-76 遺物出土状況 (南から)
- 図版33 土坑・土坑墓 (22)  
 1 P-77 断面 (北西から)  
 2 P-77 完掘 (西から)  
 3 P-78 断面 (南から)  
 4 P-78 遺物出土状況 (東から)  
 5 P-79 断面 (北東から)  
 6 P-79 遺物出土状況 (東から)  
 7 P-80 断面 (南から)  
 8 P-80 遺物出土状況 (北西から)
- 図版34 土坑・土坑墓 (23)  
 1 P-81 断面 (南から)  
 2 P-81 完掘 (南東から)  
 3 P-82・83 断面 (南から)  
 4 P-82・83 遺物出土状況 (北西から)  
 5 P-84 断面 (南から)  
 6 P-84 遺物出土状況 (南西から)  
 7 P-85 断面 (南から)  
 8 P-85 遺物出土状況 (北東から)
- 図版35 土坑・土坑墓 (24)  
 1 P-85 骨片出土状況 (南から)  
 2 P-86 断面 (東から)  
 3 P-87 断面 (南から)  
 4 P-87 遺物出土状況 (東から)  
 5 P-87~89 断面 (北西から)  
 6 P-88 完掘 (南東から)  
 7 P-89 遺物出土状況 (東から)  
 8 P-90 断面 (南西から)
- 図版36 土坑・土坑墓 (25)  
 1 P-90 遺物出土状況 (南西から)  
 2 P-91 断面 (南西から)
- 3 P-91 遺物出土状況 (西から)  
 4 P-92 断面 (南東から)  
 5 P-92 遺物出土状況 (南から)  
 6 P-93 断面 (南東から)  
 7 P-93 遺物出土状況 (北から)  
 8 P-94 断面 (北東から)
- 図版37 土坑・土坑墓 (26)  
 1 P-94 遺物出土状況 (北から)  
 2 P-95 断面 (北東から)  
 3 P-95 遺物出土状況 (南から)  
 4 P-96 断面 (東から)  
 5 P-96 完掘 (東から)  
 6 P-97 断面 (東から)  
 7 P-97 遺物出土状況 (東から)
- 図版38 土坑・土坑墓 (27)  
 1 P-98 断面 (南西から)  
 2 P-98 完掘 (南から)  
 3 P-99 断面 (南西から)  
 4 P-99 完掘 (東から)  
 5 P-100・101・118 断面 (南東から)  
 6 P-100 遺物出土状況 (北から)  
 7 P-100 片口土器・粘土出土状況 (北西から)  
 8 P-100 樹皮出土状況 (北東から)
- 図版39 土坑・土坑墓 (28)  
 1 P-100 樹皮痕?出土状況 (北西から)  
 2 P-101 遺物出土状況 (南東から)  
 3 P-102 断面 (北西から)  
 4 P-102 完掘 (東から)  
 5 P-103・104 断面 (北東から)  
 6 P-103 遺物出土状況 (北西から)  
 7 P-104 完掘 (南から)  
 8 P-105 断面 (南から)
- 図版40 土坑・土坑墓 (29)  
 1 P-105 遺物出土状況 (南東から)  
 2 P-106 断面 (南東から)  
 3 P-106 遺物出土状況 (東から)  
 4 P-107 断面 (西から)  
 5 P-107 完掘 (北から)  
 6 P-108 断面 (南から)  
 7 P-108 遺物出土状況 (東から)  
 8 P-109 断面 (南西から)
- 図版41 土坑・土坑墓 (30)  
 1 P-109 完掘 (北東から)  
 2 P-110 断面 (南西から)  
 3 P-110 遺物出土状況 (東から)  
 4 P-111 断面 (東から)  
 5 P-111 遺物出土状況 (南から)  
 6 P-112 断面 (南から)  
 7 P-112 遺物出土状況 (南西から)
- 図版42 土坑・土坑墓 (31)  
 1 P-113 断面 (南から)  
 2 P-113 遺物出土状況 (東から)  
 3 P-114 断面 (北から)

- 4 P-114 遺物出土状況（北西から）  
 5 P-114 骨片出土状況（北東から）  
 6 P-114 白色粘土出土状況（北東から）  
 7 P-115 断面（南から）  
 8 P-115 遺物出土状況（東から）
- 図版43 土坑・土坑墓（32）  
 1 P-116・137 断面（南東から）  
 2 P-116・137 完掘（北から）  
 3 P-117 断面（南西から）  
 4 P-117 完掘（西から）  
 5 P-118 断面（東から）  
 6 P-118 遺物出土状況（東から）  
 7 P-119・120 断面（南東から）  
 8 P-119・120 遺物出土状況（東から）
- 図版44 土坑・土坑墓（33）  
 1 P-121 断面（南から）  
 2 P-121 遺物出土状況（南から）  
 3 P-122 断面（南西から）  
 4 P-122 完掘（南から）  
 5 P-123 断面（南東から）  
 6 P-123 遺物出土状況（東から）  
 7 P-124 断面（南から）  
 8 P-124 完掘（北から）
- 図版45 土坑・土坑墓（34）  
 1 P-125 断面（南東から）  
 2 P-125 遺物出土状況（南から）  
 3 P-126 断面（南西から）  
 4 P-127 断面（南東から）  
 5 P-127 完掘（東から）  
 6 P-128 断面1（北東から）  
 7 P-128 断面2（南東から）  
 8 P-128 完掘（東から）
- 図版46 土坑・土坑墓（35）  
 1 P-129 断面（南から）  
 2 P-129 遺物出土状況（南から）  
 3 P-130・131 断面（南から）  
 4 P-130 遺物出土状況（南西から）  
 5 P-131 遺物出土状況（南西から）  
 6 P-132・133 断面（南から）  
 7 P-132 遺物出土状況（北から）  
 8 P-133 遺物出土状況（南から）
- 図版47 土坑・土坑墓（36）  
 1 P-134 断面（南西から）  
 2 P-134 遺物出土状況（南から）  
 3 P-135 断面（南から）  
 4 P-135 遺物出土状況（南東から）  
 5 P-136 断面（北から）  
 6 P-136 遺物出土状況（東から）  
 7 P-138 断面（南から）  
 8 P-138 完掘（南から）
- 図版48 土坑・土坑墓（37）  
 1 P-139 断面（東から）  
 2 P-140 断面（東から）
- 3 P-140 遺物出土状況（北から）  
 4 P-141 断面（南西から）  
 5 P-141 PF-1 検出状況（西から）  
 6 P-141 遺物出土状況（東から）  
 7 P-141 PF-1 断面（南西から）  
 8 P-142・143 断面（東から）
- 図版49 土坑・土坑墓（38）  
 1 P-142 遺物出土状況（東から）  
 2 P-143 完掘（南東から）  
 3 P-144 断面（東から）  
 4 P-144 遺物出土状況（南東から）  
 5 P-145 断面（東から）  
 6 P-145 遺物出土状況（北から）  
 7 P-146 断面（南から）  
 8 P-146 遺物出土状況（南から）
- 図版50 土坑・土坑墓（39）  
 1 P-147・165 断面（南から）  
 2 P-147・165 遺物出土状況（南東から）  
 3 P-148 断面（南から）  
 4 P-148 遺物出土状況（東から）  
 5 P-149 断面（南から）  
 6 P-149 遺物出土状況（南から）  
 7 P-150 断面（南から）  
 8 P-150 遺物出土状況（北から）
- 図版51 土坑・土坑墓（40）  
 1 P-151・152 断面（西から）  
 2 P-151・152 完掘（西から）  
 3 P-153 断面（南東から）  
 4 P-153 遺物出土状況（北から）  
 5 P-154 断面（東から）  
 6 P-154 遺物出土状況（東から）  
 7 P-155・156 断面（北東から）  
 8 P-155 遺物出土状況（南から）
- 図版52 土坑・土坑墓（41）  
 1 P-155・156 完掘（南西から）  
 2 P-157 断面（南東から）  
 3 P-157 遺物出土状況（南東から）  
 4 P-158 断面（東から）  
 5 P-158 遺物出土状況（北西から）  
 6 P-159・189 断面（南東から）  
 7 P-159 遺物出土状況（北から）  
 8 P-189 遺物出土状況（北東から）
- 図版53 土坑・土坑墓（42）  
 1 P-160 断面（南東から）  
 2 P-160 遺物出土状況（東から）  
 3 P-161 断面（北東から）  
 4 P-161 遺物出土状況（東から）  
 5 P-162 完掘（南から）  
 6 P-163 検出状況（南東から）  
 7 P-163 断面（東から）  
 8 P-163 遺物・焼土出土状況（東から）
- 図版54 土坑・土坑墓（43）  
 1 P-163 焼土検出状況（北から）



- 2 P-163 焼土断面 (東から)
- 3 P-163 完掘 (東から)
- 4 P-164 断面 (南から)
- 5 P-164 完掘 (南から)
- 6 P-166 断面 (東から)
- 7 P-166 遺物出土状況 (東から)
- 図版55 土坑・土坑墓 (44)
- 1 P-167 断面 (南から)
- 2 P-167 遺物出土状況 (北から)
- 3 P-168 断面 (南から)
- 4 P-168 遺物出土状況 (南から)
- 5 P-169 断面 (南東から)
- 6 P-169 遺物出土状況 (東から)
- 7 P-170 断面 (北東から)
- 8 P-170 遺物出土状況 (東から)
- 図版56 土坑・土坑墓 (45)
- 1 P-171 断面 (北東から)
- 2 P-171 遺物出土状況 (東から)
- 3 P-172・178 断面 (東から)
- 4 P-172 遺物出土状況 (東から)
- 5 P-178 遺物出土状況 (東から)
- 6 P-173 断面 (東から)
- 7 P-173 遺物出土状況 (北から)
- 8 P-174・180 断面 (西から)
- 図版57 土坑・土坑墓 (46)
- 1 P-174 遺物出土状況 (南から)
- 2 P-180 完掘 (南西から)
- 3 P-175 断面 (南東から)
- 4 P-175 遺物出土状況 (南東から)
- 5 P-176 断面 (東から)
- 6 P-177 断面 (南西から)
- 7 P-177 遺物出土状況 (南西から)
- 8 P-179 断面 (南東から)
- 図版58 土坑・土坑墓 (47)
- 1 P-179 遺物出土状況 (南東から)
- 2 P-181 断面 (北東から)
- 3 P-181 遺物出土状況 (北東から)
- 4 P-182・183 断面 (南東から)
- 5 P-182・183 遺物出土状況 (南西から)
- 6 P-184 断面 (東から)
- 7 P-185 断面 (南東から)
- 8 P-186 断面 (東から)
- 図版59 土坑・土坑墓 (48)
- 1 P-186 遺物出土状況 (東から)
- 2 P-187 断面 (東から)
- 3 P-187 遺物出土状況 (南から)
- 4 P-188 断面 (北東から)
- 5 P-188 遺物出土状況 (東から)
- 6 P-190 断面 (西から)
- 7 P-190 遺物出土状況 (南東から)
- 8 P-191 断面 (南東から)
- 図版60 土坑・土坑墓 (49)
- 1 P-191 遺物出土状況 (南東から)
- 2 P-192 断面 (北西から)
- 3 P-192 遺物出土状況 (南東から)
- 4 P-193 断面 (北西から)
- 5 P-193 遺物出土状況 (南東から)
- 6 P-194 断面 (南から)
- 7 P-194 遺物出土状況 (南から)
- 8 P-195・196 断面 (東から)
- 図版61 土坑・土坑墓 (50)
- 1 P-195・196 遺物出土状況 (東から)
- 2 P-197 断面 (南東から)
- 3 P-197 完掘 (東から)
- 4 P-198 断面 (東から)
- 5 P-198 完掘 (東から)
- 6 P-199 断面 (北西から)
- 7 P-199 遺物出土状況 (南西から)
- 図版62 土坑・土坑墓 (51)・焼土 (1)
- 1 P-200 断面 (南東から)
- 2 P-200 遺物出土状況 (南から)
- 3 P-201 断面 (東から)
- 4 P-202 断面 (東から)
- 5 P-203・204 断面 (北から)
- 6 P-203・204 完掘 (北から)
- 7 F-2 検出状況 (東から)
- 8 F-2 断面 (南西から)
- 図版63 焼土 (2)
- 1 F-5 検出状況 (北から)
- 2 F-5 断面 (南西から)
- 3 F-17 検出状況 (北東から)
- 4 F-17 断面 (北西から)
- 5 F-22 検出状況 (南から)
- 6 F-22 断面 (南から)
- 7 F-27・28 検出状況 (南から)
- 8 F-27 断面 (東から)
- 図版64 焼土 (3)・土器集中 (1)
- 1 F-34 検出状況 (北東から)
- 2 F-34 断面 (北東から)
- 3 F-35 検出状況 (北東から)
- 4 F-35 断面 (北東から)
- 5 F-43 検出状況 (北から)
- 6 F-43 断面 (南西から)
- 7 PC-1 遺物出土状況 (南から)
- 8 PC-3 遺物出土状況 (北東から)
- 図版65 土器集中 (2)・灰集中・遺物出土状況
- 1 PC-2 遺物出土状況 (北から)
- 2 AC-1 断面 (東から)
- 3 AC-2 断面 (北西から)
- 4 鉄鍋片出土状況 (C11区、南から)
- 5 片口土器出土状況 (C27区、北東から)
- 6 南長沼小学校体験発掘 (西から)
- 7 調査状況 (北東から)
- 図版66 遺構・包含層出土土器 (1)
- 1 掲載番号18
- 2 掲載番号26

- 3 掲載番号27  
4 掲載番号65  
5 掲載番号82  
図版67 遺構・包含層出土土器 (2)  
1 掲載番号83  
2 掲載番号87  
3 掲載番号117  
4 掲載番号88  
5 掲載番号89  
図版68 遺構・包含層出土土器 (3)  
1 掲載番号134  
2 掲載番号146  
3 掲載番号147  
4 掲載番号135  
5 掲載番号181  
図版69 遺構・包含層出土土器 (4)  
1 掲載番号182  
2 掲載番号183  
3 掲載番号212  
4 掲載番号230  
5 掲載番号234  
図版70 遺構・包含層出土土器 (5)  
1 掲載番号235  
2 掲載番号236  
3 掲載番号240  
4 掲載番号241  
5 掲載番号251  
6 掲載番号253  
図版71 遺構・包含層出土土器 (6)  
1 掲載番号258  
2 掲載番号262  
3 掲載番号267  
4 掲載番号268  
5 掲載番号269  
6 掲載番号273  
図版72 遺構・包含層出土土器 (7)  
1 掲載番号274  
2 掲載番号275  
3 掲載番号276  
4 掲載番号277  
5 掲載番号278  
6 掲載番号279  
図版73 遺構・包含層出土土器 (8)  
1 掲載番号280  
2 掲載番号281  
3 掲載番号305  
4 掲載番号306  
5 掲載番号307  
図版74 遺構・包含層出土土器 (9)  
1 掲載番号308  
2 掲載番号363  
3 掲載番号366  
4 掲載番号369  
5 掲載番号348  
6 掲載番号361  
7 掲載番号362  
図版75 遺構・包含層出土土器 (10)  
1 掲載番号373  
2 掲載番号375  
3 掲載番号377  
4 掲載番号379  
5 掲載番号380  
6 掲載番号382  
7 掲載番号383  
8 掲載番号393  
図版76 遺構・包含層出土土器 (11)  
1 掲載番号1~17・19~25・28~37  
図版77 遺構・包含層出土土器 (12)  
1 掲載番号38~64・66~68  
図版78 遺構・包含層出土土器 (13)  
1 掲載番号69~81・84~86・90~116・118~121  
図版79 遺構・包含層出土土器 (14)  
1 掲載番号122~133・136~145・148~154  
図版80 遺構・包含層出土土器 (15)  
1 掲載番号155~180・184~199  
図版81 遺構・包含層出土土器 (16)  
1 掲載番号200~211・213~229・231~233・237~239・242  
図版82 遺構・包含層出土土器 (17)  
1 掲載番号243~250・252・254~257・259~261・263~266・270~272・282~300  
図版83 遺構・包含層出土土器 (18)  
1 掲載番号301~304・309~322  
図版84 遺構・包含層出土土器 (19)  
1 掲載番号323~347・349~353  
図版85 遺構・包含層出土土器 (20)  
1 掲載番号354~360・364・365・367・368・370~372・374・376・378・381・384~392・394~414  
図版86 遺構・包含層出土土器 (1)  
1 掲載番号1~93  
図版87 遺構・包含層出土土器 (2)  
1 掲載番号94~168  
図版88 遺構・包含層出土土器 (3)  
1 掲載番号169~183  
図版89 遺構・包含層出土土器 (4)  
1 掲載番号184~196  
図版90 遺構・包含層出土金属製品・玉類  
1 金属製品 掲載番号1~8  
2 玉類 掲載番号1~4

# I 緒言

## 1 調査要項

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年度より公益財団法人）

遺跡名：幌内D遺跡（北海道教育委員会登録番号：E-17-4）

所在地：夕張郡長沼町字幌内2032-1外

調査面積：4,438㎡（平成23年度1,400㎡、平成24年度3,038㎡）

受託期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

平成24年4月9日～平成25年3月29日

平成25年4月1日～平成26年3月31日

（発掘期間：平成23年10月18日～11月11日、平成24年5月7日～6月29日）

## 2 調査体制

平成23年度

理事長 坂本 均

専務理事 松本昭一

総務部長 中田 仁

第2調査課長 鈴木 信

主 査 末光正卓(発掘担当者)

常務理事 畑 宏明

第1調査部長 千葉英一

主 査 鈴木宏行(発掘担当者)

平成24年度

理事長 坂本 均

専務理事 松本昭一(平成24年6月7日まで)

中田 仁(平成24年6月8日から)

事務局長 中田 仁(平成24年6月8日から)

(兼務)

総務部長 中田 仁(平成24年6月7日まで)

和田基興(平成24年6月11日から)

第2調査課長 鈴木 信(発掘担当者)

主 査 鈴木宏行(発掘担当者)

副理事長 畑 宏明(平成24年6月8日から)

常務理事 畑 宏明(平成24年6月7日まで)

千葉英一(平成24年6月8日から)

第1調査部長 千葉 英一

(兼務)

主 査 菊池 慈人(発掘担当者)

平成25年度

理事長 坂本 均

専務理事 中田 仁

事務局長 中田 仁

(兼務)

総務部長 和田基興

第2調査課長 鈴木 信

副理事長 畑 宏明

常務理事 千葉英一

第1調査部長 千葉英一

(兼務)

主 査 鈴木宏行

### 3 調査に至る経過

この調査の原因である道央圏連絡道路泉郷道路工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環である。

道央圏連絡道路は道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦断自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・中樹林道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの7区間に分けられている。

泉郷道路は千歳市中央から長沼町幌内に至る延長8.2kmの区間である。事業者である北海道開発局札幌開発建設部は平成7年度北海道教育委員会（以下、「道教委」と記す。）へ埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。その後、平成18年には区域の変更により事前協議書は再提出されている。この区間には幌内D遺跡、(仮)ウレロッチ川右岸遺跡、南六号川左岸遺跡が所在することから、道教委は平成21年9月15日～9月17日に3遺跡の試掘調査（幌内D遺跡については全体の半分程度）を実施した。その結果、(仮)ウレロッチ川右岸遺跡は790㎡の工事立会、南六号川左岸遺跡は北東側2,150㎡の発掘調査を要する旨、札幌開発建設部に対して回答した。幌内D遺跡については平成21年11月26日に残りの試掘調査を行い、遺構確認2,740㎡、発掘調査700㎡、工事立会3,330㎡の回答がなされた。

幌内D遺跡の発掘調査は、当初は平成23年10月1日から調査開始予定であったが、作物の収穫を待って調査の準備を開始したため、結果的に発掘調査の着手は10月18日にずれ込んだ。調査を開始すると遺構確認地区では予想通り多くの遺構が検出され、段丘縁辺に相当する調査範囲の西側と南側では包含層の土量が予想より多く、また、調査区の北側に延びることが確認された。その段階で道教委に連絡し、平成23年10月27日に北西側隣接地の試掘調査が行われ、その結果、780㎡が発掘調査の対象として追加された。平成23年度は包含層土量・土坑の層厚の増加により調査面積は当初予定面積の3,440㎡から1,400㎡に留まり、平成23年11月11日に作業を終了した。残り2,040㎡と追加780㎡の2,820㎡については平成24年度に調査を行うこととした。

平成24年度は5月7日より開始したが、北側の追加地区を着手したところ、さらに東側に遺構の分布が延びることが予想された。そのため道教委に連絡を行った結果、竪穴住居跡が南側に広がることが確認された南東部と合わせて218㎡が調査の対象として追加された。調査面積の増加により調査期間を1週間延長し、7月6日に終了した。

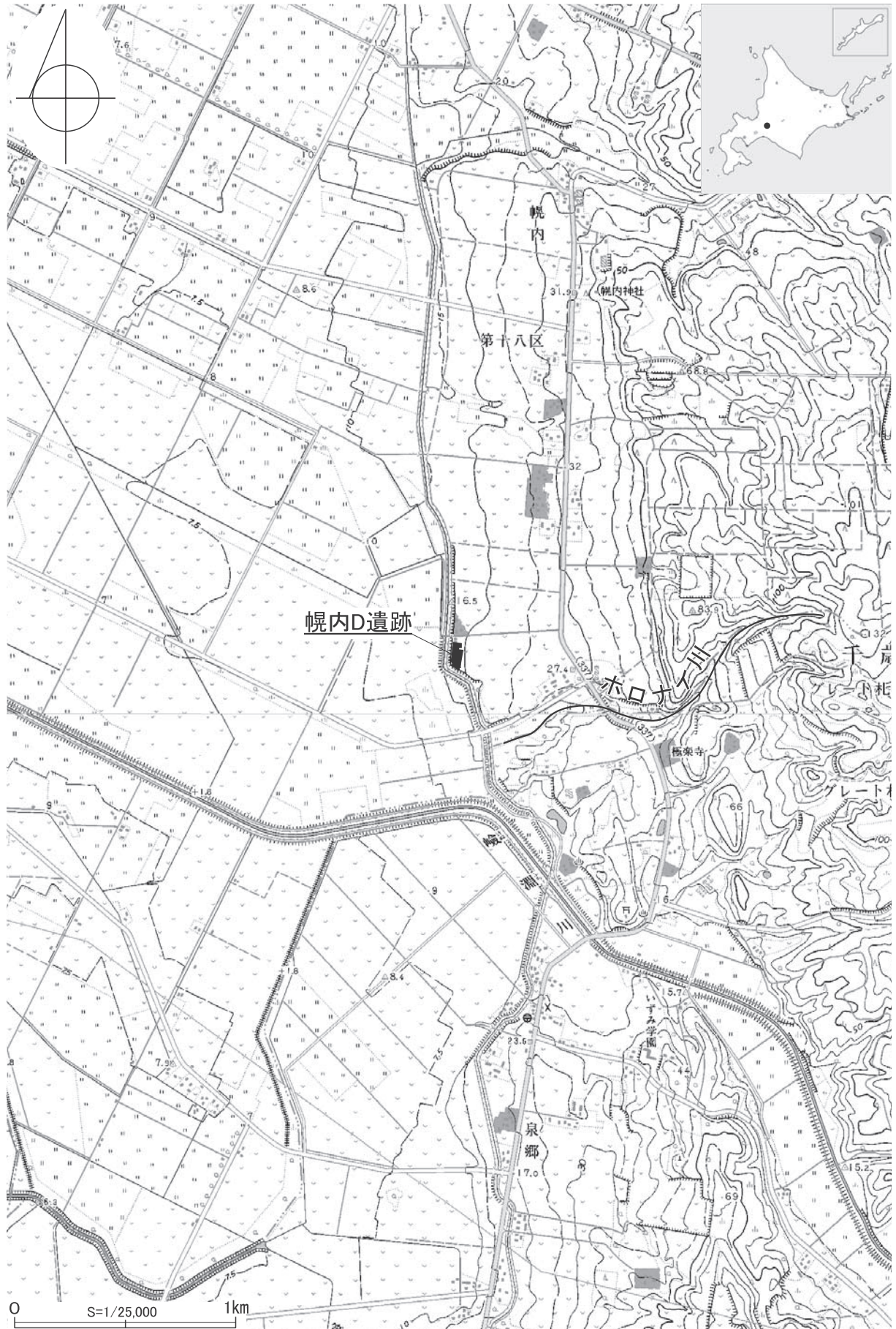
### 4 調査概要

#### (1) 調査区の設定

調査区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の基準軸については、従来行われてきた用地のセンターラインなどを利用せず、広域での位置比較を容易に可能とするために世界測地系による平面直角座標値に東西、南北方向を一致させた。設定については北側工事立会地区の南半分と調査区全体が入るように、南北方向はNラインを-43600.00、東西方向は1ラインを-119600.00に設定した（図I-1・2）。

ラインは、東西方向をアルファベットの大文字とし、東に向かってA～Q、南北方向をアラビア数字とし、南に向かって1～46まで付けた。

調査区の呼称は4m四方区画の北西隅（図では左上）のライン交点で示した。例えば、Dラインと



国土地理院発行数値地図25000（地図画像）「札幌」を一部加筆して使用  
図 I - 1 幌内D遺跡の位置

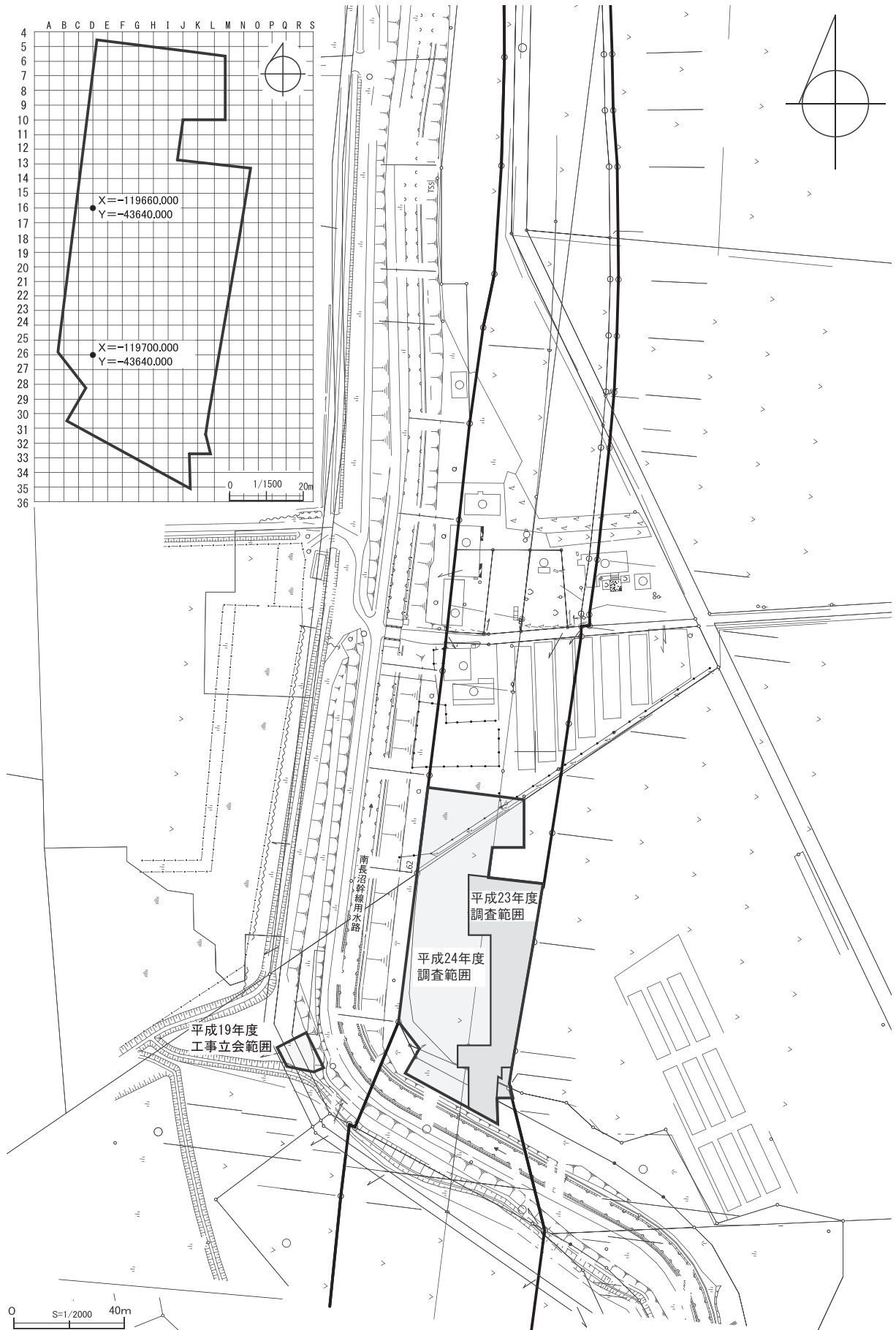


図 I - 2 調査範囲・調査区設定図

13ラインの交点の南東側が「D13区」ということになる。

D16・D26の世界測地系による平面直角座標は以下のとおり。

D16            X=-119660.000        Y=-43640.000

D26            X=-119700.000        Y=-43640.000

## (2) 土層

### a 観察方法

土層については、以下の項目について観察・記録した。色調・面積割合については『新版標準土色帖』を用い、土性・堅密度・粘性（粘着性）の区分は『土壤調査ハンドブック』（ペドロジスト懇話会1984）の基準を用いた。

- ・色調：色相・明度・彩度を記号および数値で表した。
- ・土性：砂土（S）・砂壤土（SL）・壤土（L）・シルト質壤土（SiL）・埴壤土（CL）・軽埴土（LiC）・重埴土（HC）に区分し、必要に応じて記載した。
- ・粘性：なし・弱・中・強に区分した。
- ・堅密度：すこぶるしょう・しょう・軟・堅・すこぶる堅・固結に区分した。
- ・火山噴出物の有無：種類と面積割合を記載した。

その他、主に混入物については種類・大きさなどを記載した。

（鈴木宏行）

### b 基本土層（図I-3）

I層：黒褐色（10YR2/2） 砂壤土 粘性弱 すこぶる堅 Ta-a軽石（平均：4mm最大：8mm、未風化・亜角礫）：7～10% 表土・耕作土 II層との層界面然

Ta-a1：（灰色） 砂壤土 粘性なし しょう Ta-a軽石（平均・最大：2mm、未風化・亜角礫）：90%以上 層界面然

Ta-a2：（灰白色） 砂土 粘性なし しょう Ta-a軽石（平均：2mm 最大：8mm、未風化・亜角礫）：90%以上 層界面然 斜面部のTa-aに類似

II層：黒色（10YR1.7/1～2/1） 埴壤土 粘性強 堅 Ta-a（平均：2mm、未風化・亜角礫）：3%以下、En-P（平均：2mm最大：10mm、腐朽・亜円礫）：3%以下 III層との層界漸変 遺物包含層

III層：暗褐色（10YR4/2）～灰黄褐（10YR3/4） 埴壤土 粘性強 軟～堅 En-P（平均：10mm 最大：22mm、腐朽・亜円礫）：3～5% IV層との層界漸変 漸移層

IV1層：明黄褐色（10YR6/6） 埴壤土 粘性強 軟～堅 En-P（平均：8～10mm、腐朽～風化・亜円礫）：5～7% IV2層との層界漸変

IV2層：明黄褐色（10YR6/8） 埴壤土 粘性強 すこぶる堅 En-P（平均：10mm最大：30mm、腐朽～風化・亜円礫）：70% （末光）

### c 土層（図I-4～8）

#### 西壁、6・7・8ライン、30ライン

調査区は馬追丘陵から西側に延びる石狩低地帯に臨む低い段丘上に位置し、全体的には緩やかに西側に向かって傾斜している。前述のとおり、段丘縁辺部を除いて畑作が行われ、大部分でI・II層が攪乱を受けていた。西壁は包含層の残存が良好で、I層は土手状に盛り土が厚く堆積するが、その下位にTa-a火山灰が10cmほど安定して堆積し、その下位には黒色土であるII層が25～35cm堆積する。6～8ラインは西壁に比べ、II層がやや薄く15～20cmほどである。30ラインは斜面部で、II層は上部が薄く、下部はIII層と混合した土が厚く堆積する。本遺跡より4km南に位置するキウス遺跡群に

においてはⅡ層中にTa-c軽石が確認され、縄文晩期後葉の前後を分ける指標となるが、本遺跡では肉眼的には確認することができなかった。(鈴木宏行)

**調査区南東壁**

台地平坦部は、Ⅰ層の耕作表土とⅣ層のみがあり、攪乱されている。これを受けていない平坦部は現地表土、Ⅱ層の黒色土層、漸移層がみられ、一部H-3の掘り上げ土と考えられる黄色味を帯びた層がみられる。ゆるやかな斜面部の落ち込みでは、樽前a降下軽石層(Ta-a)が堆積し、粒径等から概ね三つに分層できる。さらに崖部分ではⅠ層とⅣ層のみで、斜面を土層が移動している。

崖下の平坦部を少し掘り下げ、土層断面を観察したところ、支笏軽石流堆積物(Spfl)を主たる構成物とする、砂層・砂礫層・軽石層がみられた。すべて薄層から成り、同様な特徴のものを1~10層にまとめた。

1層はラミナが水平にみられ、2層は、Spfl軽石が細かく破碎したものが水平に堆積し、一部黒色土の薄い層(3層)が認められた。4層はラミナが波打つもので、インボリューションと考える。5層はSpflが土壌化した層で、構成物は軽石岩片と鉱物である。

6層も破碎した軽石から成る層であるが、En-a軽石がみられ、二次堆積層と判断とされる。7・8・9層は水平に堆積する砂層で、前二者はSpfl軽石、後者は有色鉱物からなり、色調が異なる。10はSpflの二次堆積層である。

構成粒子の円磨度は亜円礫状が多く、水成堆積物層と推測するが、馬追丘陵の裾部の低位段丘には、千歳市市域、丸子山遺跡(千歳市教委 1994)、アンカリト9遺跡(北埋調報268)等で、風成の古砂丘があり、これらの地形と同様なものである可能性も考えられる。(末光)

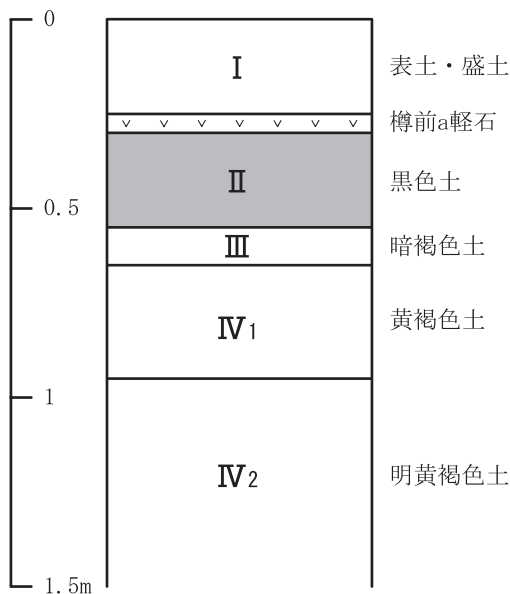


図 I - 3 基本土層図

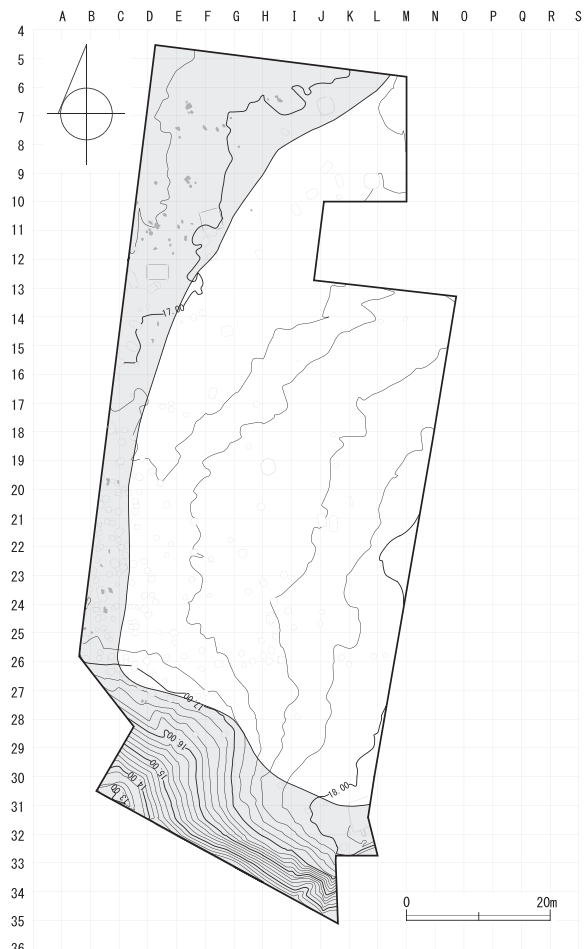


図 I - 4 Ⅱ層分布範囲



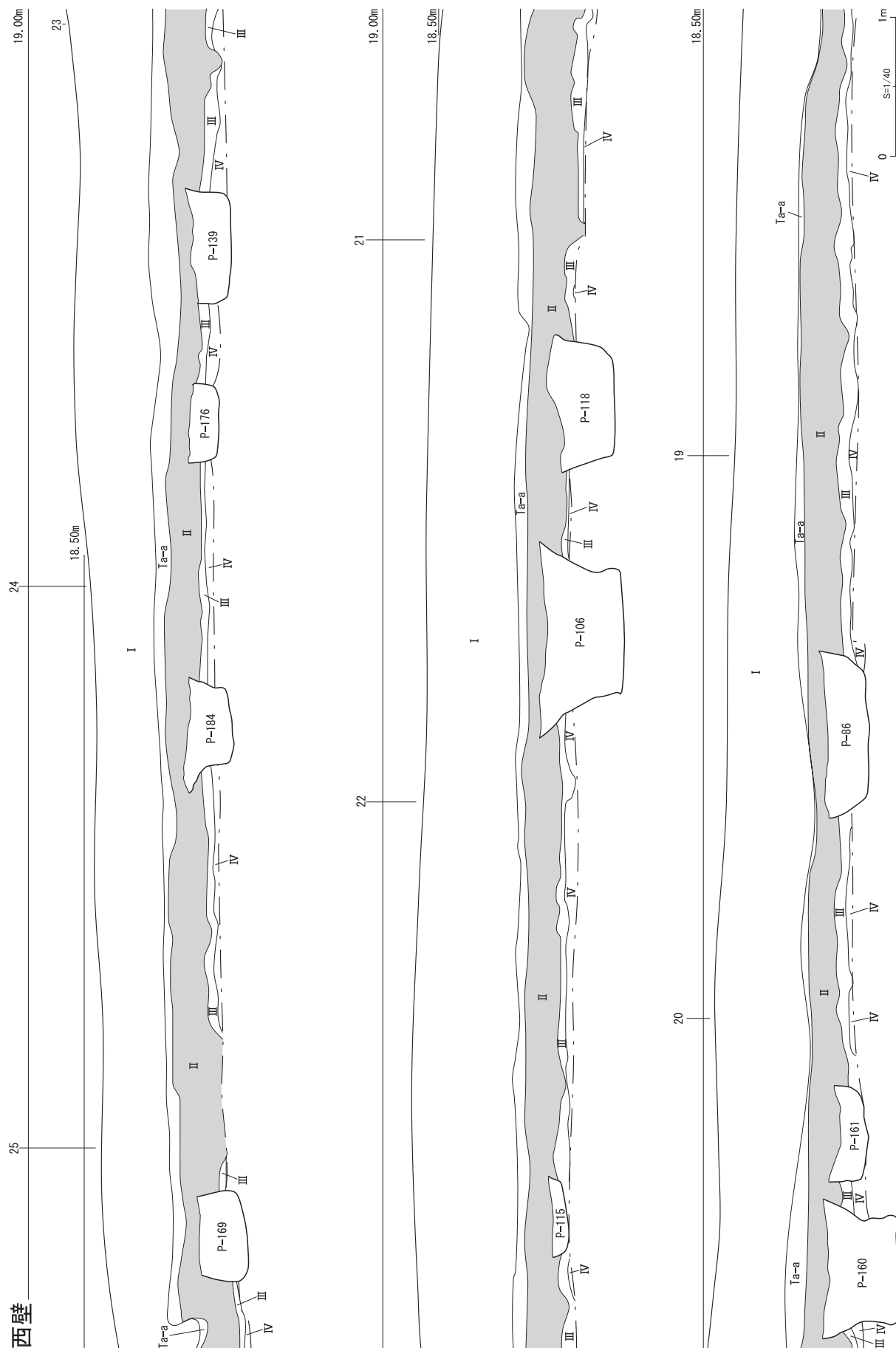
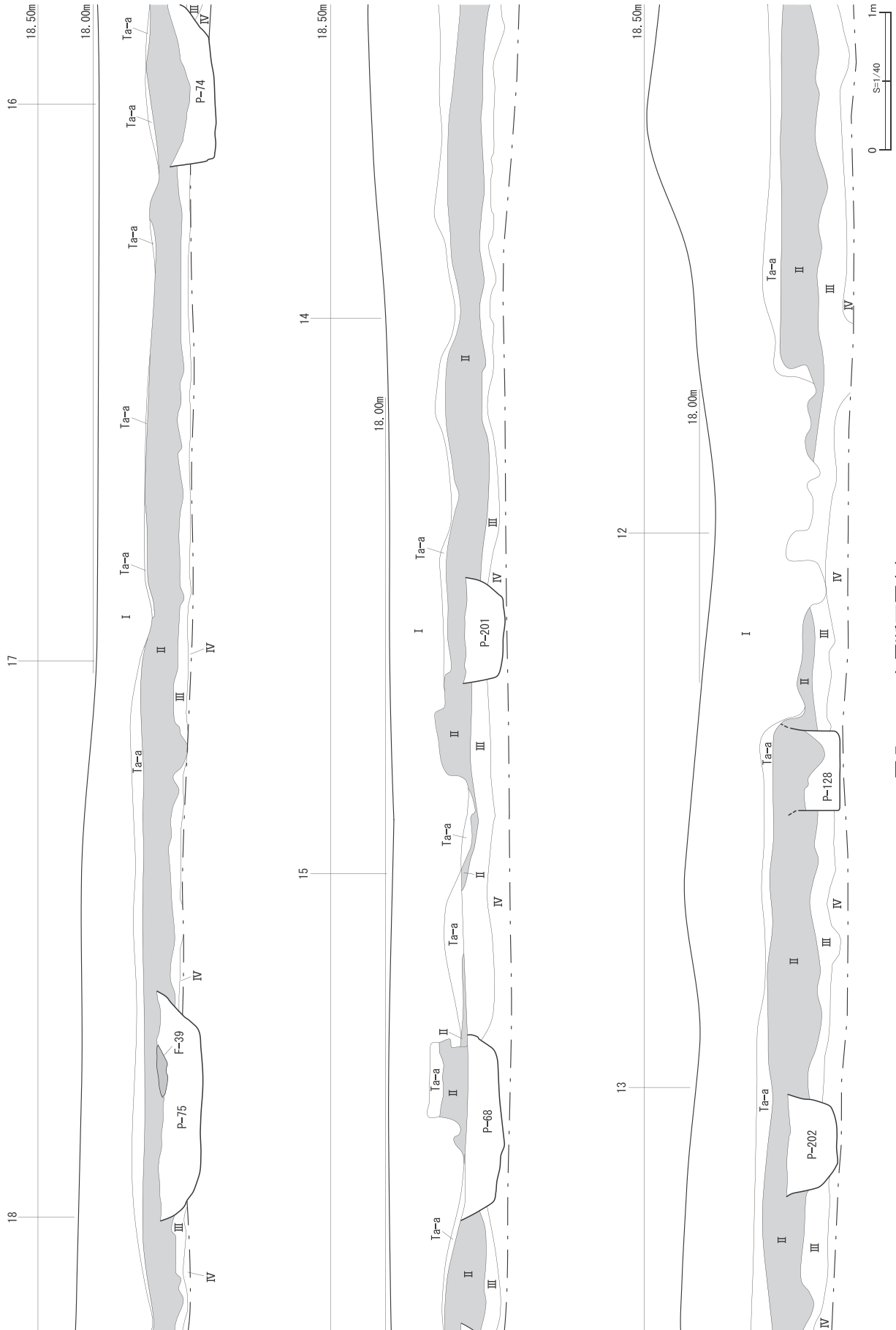


图 I-5 土层断面图(1)



図I-6 土層断面図(2)

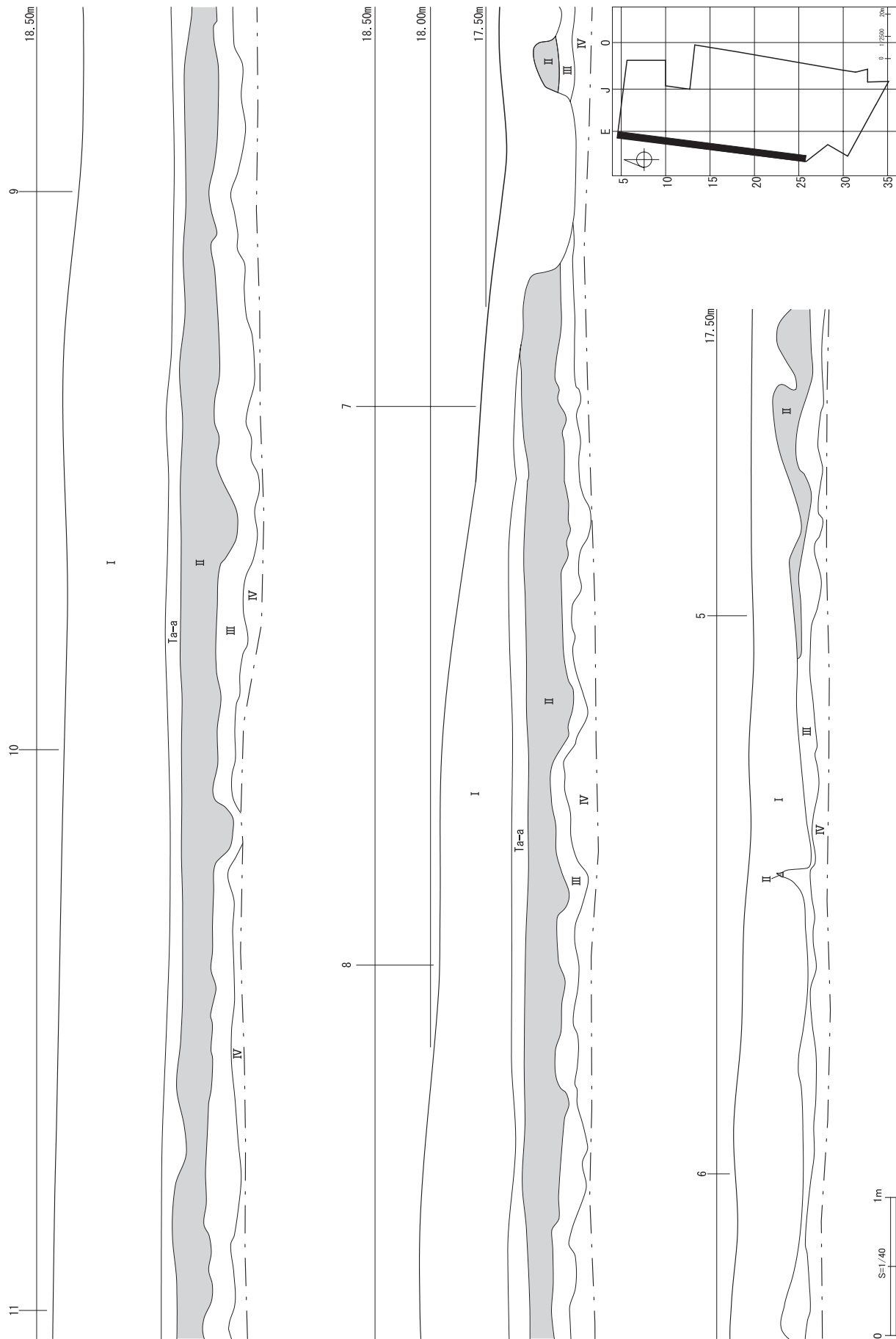
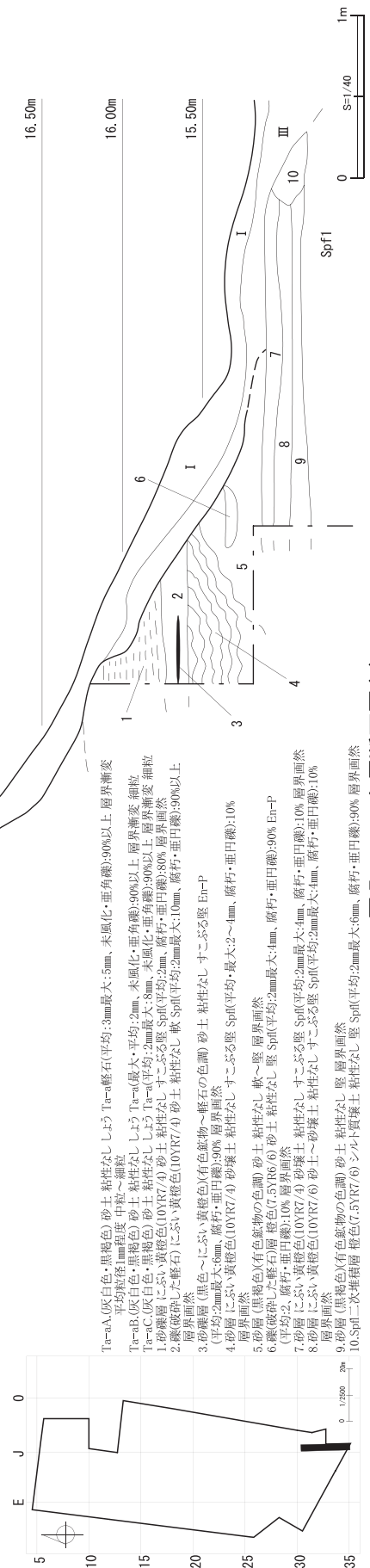
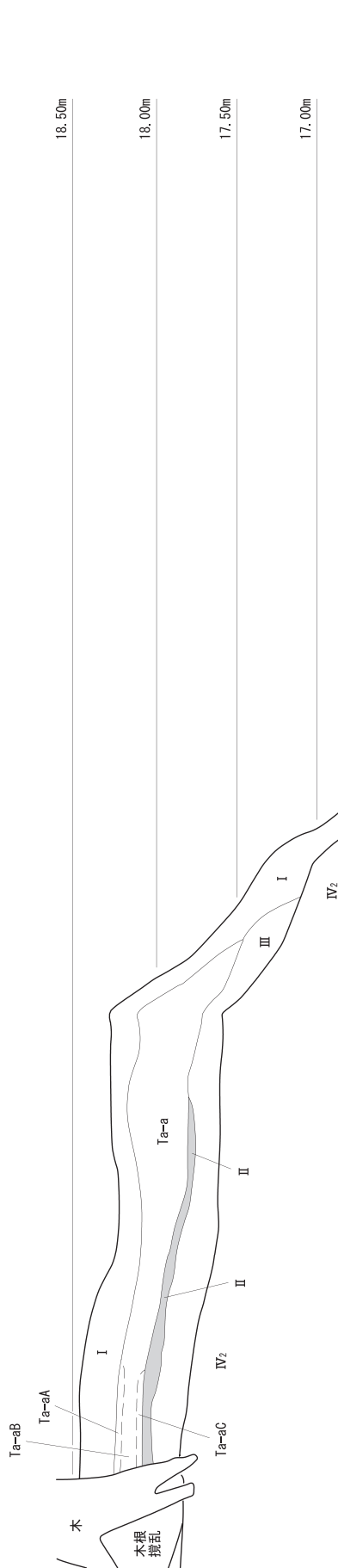
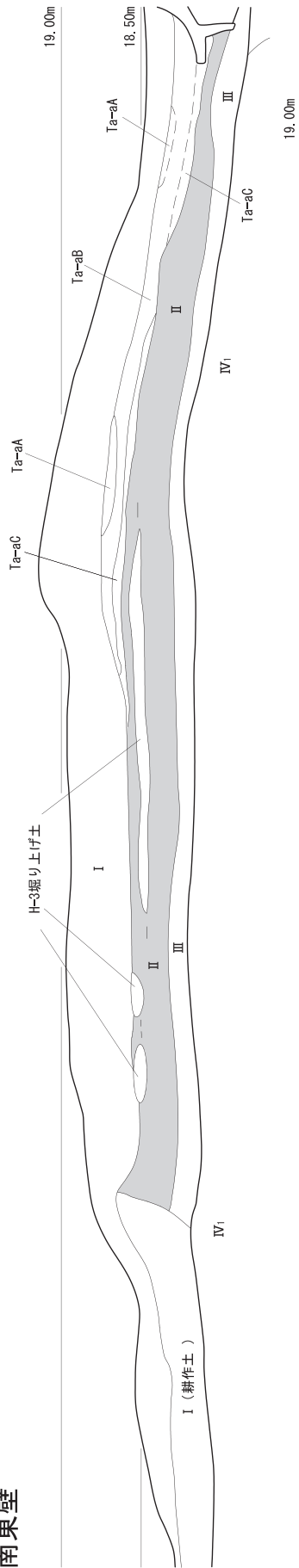


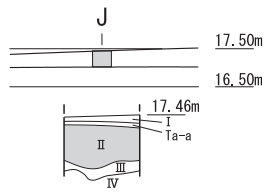
图 I-7 土层断面图(3)



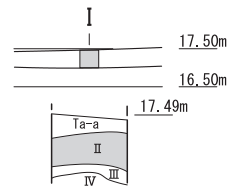
- Ta-aA. 灰白色、黒褐色) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(略石(平均: 3mm最大: 5mm、未風化・垂円礫): 90%以上 層界漸変 平均粒径1mm程度 中粗〜細粒
- Ta-aB. 灰白色、黒褐色) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(最大: 平均: 2mm、未風化・垂円礫): 90%以上 層界漸変 細粒
- Ta-aC. 灰白色、黒褐色) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(平均: 2mm最大: 8mm、未風化・垂円礫): 90%以上 層界漸変 細粒
- 1. 砂礫層 濃い黄褐色(10YR7/4) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(平均: 2mm、腐朽・垂円礫): 80% 層界面然
- 2. 礫破砕した礫石) 濃い黄褐色(10YR7/4) 砂土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 10mm、腐朽・垂円礫): 90%以上 層界面然
- 3. 砂礫層 黒色〜にぶい黄褐色(有色彩物の色調) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(平均: 2mm最大: 6mm、腐朽・垂円礫): 90% 層界面然
- 4. 砂層 にぶい黄褐色(10YR7/4) 砂礫土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 4mm、腐朽・垂円礫): 10% 層界面然
- 5. 砂層 (黒褐色) 有色彩物の色調) 砂土 粘性なし 土 Ta-a(平均: 2mm最大: 4mm、腐朽・垂円礫): 90% En-P 層界面然
- 6. 礫破砕した礫石層 褐色(7.5YR6/6) 砂土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 4mm、腐朽・垂円礫): 10% 層界面然
- 7. 砂層 にぶい黄褐色(10YR7/4) 砂礫土 粘性なし 土 Ta-a(平均: 2mm最大: 4mm、腐朽・垂円礫): 10% 層界面然
- 8. 砂層 にぶい黄褐色(10YR7/6) 砂土〜砂礫土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 4mm、腐朽・垂円礫): 10% 層界面然
- 9. 砂層 (黒褐色) 有色彩物の色調) 砂土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 6mm、腐朽・垂円礫): 90% 層界面然
- 10. Spf1 二次堆積層 褐色(7.5YR7/6) シルト質壤土 粘性なし 土 Spf(平均: 2mm最大: 6mm、腐朽・垂円礫): 90% 層界面然

図1-8 土層断面図(4)

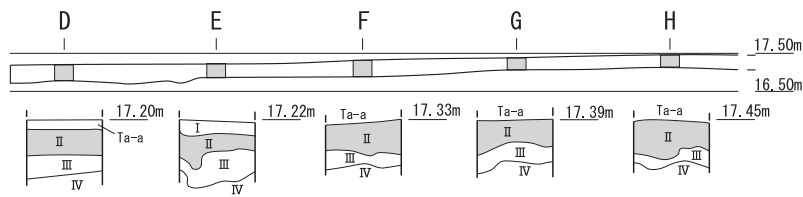
6ライン



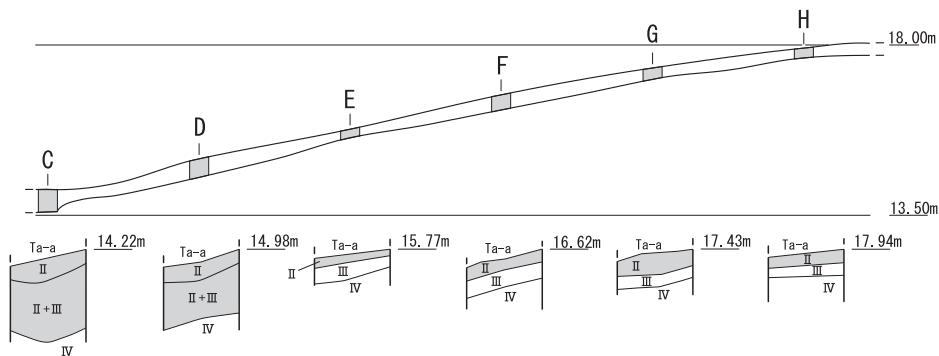
7ライン



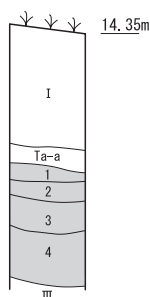
8ライン



30ライン



南壁



- C30区南壁
1. 黒色土(10YR2/1) 堆填土 粘性中堅 En-P(0.1~0.2cm):3% II 上層
  2. 黒褐色土(10YR2/2) 堆填土 粘性中軟~堅 En-P(0.1~0.2cm):3% II >> III・IV
  3. 黒褐色土(10YR2/2) 軽填土 粘性やや強 軟~堅 II >> III
  4. 黒色土(10YR2/1) 軽填土 粘性やや強 軟~堅 II 下層

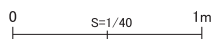
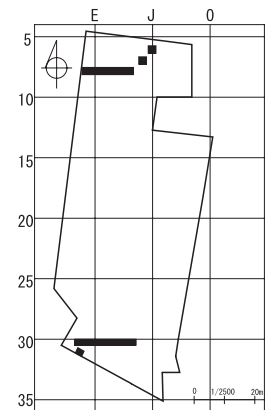


図 I - 9 土層断面図(5)

### (3) 調査の方法

#### H23年度

調査区は畑地で、調査開始時は作物の収穫後の状態であった。機械による耕作は調査区ほぼ全域に及び、石狩低地帯に臨む段丘の西縁には調査範囲に沿うように現代の盛土が土手状に伸びていた。

調査は9月準備、10月作業開始予定であったが、畑の収穫を待って準備を始めたため、結果として10月18日に作業を開始することになった。調査準備はまず重機によってI層を除去した。I層は機械による耕作が及んでいる層で、平均40cm程の深度であったが、土手の裾にあたる西側縁辺と段丘縁にあたる南側縁辺は耕作が及んでおらず、その範囲には樽前a火山灰が堆積し、わずかに樽前a火山灰を残してI層を除去した。耕作範囲については遺構確認調査を、包含層残存範囲については包含層調査および遺構確認調査を行う予定であったが、前述のようにこの段階で包含層残存範囲と遺構数の増加が確認され、また、遺構の分布が調査範囲の北縁まで連続し、さらに調査区外の北側に広がることが推定されたため北海道開発局札幌開発建設部・道教委と協議し、増加分については次年度に先送りすることとした。

重機によるI層除去後は、杭の打設を行い、人力によりI層の残りを除去し、II層以下の調査を開始した。次年度に先送りする可能性を考慮して、東側の遺構確認調査範囲から着手し、調査を進めた結果、土坑19基、小ピット1基を検出し、結果として、12～18ラインはHライン、18～28ラインはJライン、28～30ラインはGライン、30～34ラインはHライン以東の範囲の調査を行い、作業を終了した(図I-2)。作業終了後は未調査範囲の表面を保護するためにブルーシートを敷き、その上にI層・排土を埋め戻し、次年度の調査に備えた。

#### H24年度

H23年度に埋め戻した排土を重機・人力で除去した後、杭打設、表面清掃後、調査を開始した。この段階で、調査範囲の北東部のI9・10区、J8区で調査区外に広がる遺構を検出したため、道教委と協議し、東側に調査範囲を拡張することとなった。

包含層調査は調査区全体を早期に把握するために1グリッド置きに掘り下げ(25%調査)、その結果をもとに、包含層が厚く、遺物量の多い北西側を先行して進めた。また、包含層調査においては遺構の検出に努め、検出した遺構は大型のものは十字ベルトを残し、小型のものは半截、断面図作成後、完掘し、図面を作成した。遺構出土遺物は床面・坑底面・覆土中の主要なものについては図面に記載し、それ以外のは覆土単位で取り上げ、包含層の遺物はグリッド単位で層位ごとに取り上げた。図面作成・遺物地点計測は株式会社CUBICの「遺構実測支援システム遺構くん」を利用し、トータルステーションにて行ったが、複数遺構を平行して作図する際には、手実測を併用した。

焼土は土壌を採集し、有機質遺物の回収を目的としてフローテーション法(浮遊物を0.425mmと2mmメッシュで、沈殿物を1mmメッシュの篩で選別)による選別作業を行った。一部の遺構覆土については炭化物の混入率を比較するため、覆土ごとに1ℓの土壌を採取し、1mmの水洗選別を行った。

出土遺物は、現場段階で遺跡名・グリッド(遺構名)・層位・遺物番号・日付をマジックでビニール袋に明記して取り上げた。取り上げに際しては土器片、剥片石器類・礫石器類に袋を分けた。

調査状況や遺構等の確認状況・平面・断面、遺物出土状況については図化作業と写真撮影によって記録した。使用したフィルムは6×7判リバーサル・モノクロ、35mm判リバーサルで、デジタルカメラを補助的に利用した。

### (4) 整理の方法

#### a 土器・石器

取り上げた遺物は①水洗・乾燥、②分類、③遺物カード作成、④遺物台帳作成、⑤注記の順で一次整理を行った。現地では①を完了し、それ以降の作業は発掘終了後に江別の整理作業所で行った。

石器は剥片・礫以外を抜き出し、1点につき1つの袋に入れて分離した。それらの袋ごとに遺物カードを作成し、調査区・遺構名・遺物番号・層位・分類名（器種名）・石質・点数を記入した。遺物番号は点取り遺物がある場合にはその番号を優先的に1番から付け、その後に剥片石器・礫石器に番号を付けた。これらのカード情報を基に台帳作成を行い、データについてはエクセルで入力を行った。

注記については、土器は約1 cm以上のものに、石器は遺構出土大型礫にポスターカラーで行い、クリアラッカーで上塗りした。注記の順番は遺跡名、調査区・遺構、層位、遺物番号の順番でそれぞれの間にはピリオドをつけている。具体的な注記の要領は以下のとおりである。

遺跡名：「HD」とした。

調査区・遺構名等：包含層出土遺物の場合はアルファベットと数字を連続させ、C22区の場合「C22」と記載し、遺構出土遺物の場合はアルファベットと数字の間にハイフン（-）を入れて「H-1」と記載した。

遺物番号：アラビア数字で表現した。

層位：基本層位にあるものはローマ数字で表現し、覆土や攪乱や床面の場合はカタカナや漢字で「フク」「カク」「床」と表現した。

以上の注記法に従い、C22区Ⅱ層出土の遺物は「C22. Ⅱ」、竪穴住居跡1床面出土の遺物番号3の遺物は「H-1. 床. 3」となる。

以上の一次整理作業後に土器の接合、石器・大型礫の接合（遺構ごとに主に折れ面接合）を行った。土器の接合は分類ごとに進め、接合作業の終了後、まとまった資料には接合個体番号を与え、接合カードと展開写真を撮影してファイルに綴じて管理した。これらの資料は全て接着・復元の前に粘土紐の積み上げ痕である接合痕を観察し、展開写真にその位置、断面形状を記入し、実測時に断面図に追加した。その後、接合個体番号をつけた資料から掲載遺物を選択し、実測、拓本、トレース、写真撮影などの図版作成に関する作業を行った。土器の掲載基準は、実測図は復元できた個体、拓影図は大きく接合したものを優先的に、文様構成の特徴的なものとした。石器は、器種ごとに特徴的なものを代表させて掲載した。実測図や拓影図を示した土器・石器などは写真図版にも載せ、掲載遺物一覧表に表示した。

遺構図については、「遺構実測支援システム遺構くん」にて現地調査で採取したデータ、手実測による図面ともイラストレーターで編集し、印刷原稿とした。

## b 遺物の収納

整理後の遺物は、報告書掲載資料と非掲載資料に分け、掲載資料は土器・石器ごとに遺構・包含層出土資料に分け、掲載番号順にコンテナに収納した。復元土器については大型のものはダンボールに、小型のものはコンテナに収納している。

非掲載資料は土器・石器に分け、それぞれ遺構・包含層出土資料に分け、遺構は全種別とも遺構毎に、包含層出土資料は、土器は分類ごと、発掘区ごとに分けて収納した。石器は、器種ごと、分類ごとに分けて収納した。

最終的にこれらのコンテナ・ダンボールに通し番号を付け、収納台帳を作成した。

## (5) 遺物の分類

### a 土器の分類

土器は（公財）北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期～擦文文化期に至

るまでⅠ～Ⅶ群に分類し、特徴的な文様などにより可能な破片等については細分類を行っている。

Ⅰ群 縄文早期に属するもの。本群は大きく二つに分類される。

a類：貝殻腹縁圧痕文・条痕文のある土器群

b類：縄文・撚糸文・絡条体圧痕文・貼付文のある土器群

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの

Ⅵ群 続縄文時代初頭から円形刺突文のあるもの

a類：続縄文時代初頭から後北C 1 式に相当する土器群

b類：後北C 2・D式を含む円形刺突文土器群

Ⅶ群 円形刺突文土器群以降の擦文文化期に相当するもの。杯をⅦ群 2 類、須恵器をⅦ群 3 類とした。

Ⅷ群 陶磁器

#### b 土製品等の分類

**紡錘車** 中央に孔のある扁平な円形の土製品

**土製品** 土製で、一次・二次的に成形された土器・紡錘車・焼成粘土塊以外のもの

**焼成粘土塊** 土器や土製品の作成時に副次的に作出され、焼成を受けたと見られる粘土の塊

#### c 石器類の分類

**石鏃** 素材を細かい加工により薄身にして、端部に尖頭部を作り出した 5 cm未満の石器

**石槍** 素材の両面を細かく加工して、尖頭部を作り出した 5 cm以上の石器

**両面調整石器** 素材の両面を粗く加工した石器

**つまみ付きナイフ** 素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器

**スクレイパー** 素材の縁辺に連続的な二次加工を施した石器

**石錐** 素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器

**楔形石器** 素材の両端に両極剥離による対向する剥離がある石器

**二次加工ある剥片** 素材に二次加工を施したもので、定形的石器に分類されない石器

**剥片** 石核・石器（ツール）から剥離されたもので、二次的な加工が施されていない石器

**石核** 目的剥片を剥離したと考えられる石器

**石斧** 打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器

**擦り切り残片** 擦り切り技法による溝状の痕跡のある破片

**砥石** 礫に幅広で浅い窪み状の擦り面のある石器

**たたき石** 礫に潰打痕が観察される石器

**すり石** 小型礫の縁辺や平坦面に擦り面がある石器

**台石** 扁平礫に打撃痕や擦り痕が観察される石器

**原石** 剥片石器の石材として利用される石で、人為的と考えられる剥離面のないもの

**礫** 剥片石器の石材として利用されない石で、剥離、敲打痕、潰打痕、擦り痕などが観察されないもの。

重量で小型 ( $w \leq 1,500\text{g}$ )、中型 ( $1,500 < w \leq 3,500\text{g}$ )、大型 ( $3,500 < w \leq 4,500\text{g}$ )、特大型 ( $w > 4,500\text{g}$ ) に(Ⅵ章 1 (3) a参照)、残存率で完形 (90%以上)、半完形 (50%~90%)、破片 (50%以下) に分けた。



## (6) 調査結果の概要

遺構は竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡2軒、土坑・土坑墓204基、小ピット1基、焼土47か所、灰集中2か所、土器集中3か所、集石2か所が検出された。

竪穴住居跡は二種類あり、一つはH-1・2・4の3軒で、直径2m程度の隅丸方形、推定深さ40～50cmで竈は無く、中央に炉跡がある。もう一つはH-3で、調査区内に半分程度検出されたのみだが、直径4m程度の隅丸方形、深さ50cmで中軸より偏った位置に南向きの竈がある。両者とも竪穴内部に柱穴は確認できなかったが、後者(H-3)には外柱穴が確認された。前者は擦文文化期の土坑や掘立柱建物跡が検出された調査区北側に、後者はそれらとは離れた調査区南東端に位置する。いずれの時期も擦文文化期前半とみられる。

掘立柱建物跡は2×3mと3×3mの四本柱で、擦文文化期のものとみられる。柱材は直径10cm程度で、先端が平坦である。

土坑・土坑墓は円形・楕円形・長方形・方形があり、円形・楕円形は続縄文時代後葉、長方形は擦文文化期前期が主体である。円形は156基で、直径80cm程度が主体であるが深さは推定で40～70cmと偏差が大きい。坑内には直径20cm程度の砂岩を主体とする転礫が多く検出されるものがあり、上部・中部・下部などさまざまであるが、坑底直上にあるものは非常に少ない。副葬品はほとんどないが、P-51からは土器2個体・錐形鉄製品が出土している。楕円形は15基ほどで、P-31は推定深さ60cm、四隅に柱穴が検出された。長方形は23基あり、長径120～180cm、短径80～100cmが主体で、長軸方向は北西-南東と北東-南西がある。副葬品は検出されていない。円形・楕円形のは調査区南半に分布し、西側の段丘縁辺に沿って高密度である。長方形のものは調査区北半に南西から北東に向かって列をなすように分布している。焼土は多くがⅡ層の上部から検出され、調査区北側のものは擦文文化期に、南側のものは続縄文後葉に形成されたと考えられる。

遺物は土器等が14,613点、石器等が8,402点、金属製品等が15点、その他が247点、合計23,277点出土した。土器はⅠ群b類が90点(0.62%)、Ⅲ類が71点(0.49%)、Ⅳ群が64点(0.44%)、Ⅵ群a類が18点(0.12%)、Ⅵ群b類が8,581点(59.0%)、Ⅶ群が5,353点(36.8%)、Ⅶ群2類が365点(2.5%)、Ⅶ群3類が7点(0.05%)、Ⅷ群が1点(0.007%)出土している。

60%を占めるⅥ群b類は北大Ⅰ式がほとんどで、円形刺突や微隆起線のない後北C2D式の最終段階の特徴を持ったものが最も古い。北大Ⅱ式は非常に少なく、縄文が無く、沈線のある「北大Ⅲ式」に相当するものも含まれる。Ⅶ群は擦文文化期前期に相当する横走沈線文が主体で、後期に相当する綾杉文が少量含まれる。須恵器(Ⅶ群3類)、陶磁器(Ⅷ群)がごく僅かに検出された。Ⅰ群b類は東釧路Ⅳ式主体でコッタロ、中茶路式が、Ⅲ群は萩ヶ岡式、柏木川式相当、Ⅳ群は余市式、Ⅵ群a類は続縄文時代初頭の土器が出土している。

石器は、石鏃(16点)・石槍(2点)・両面調整石器(6点)・つまみ付きナイフ(3点)・スクレイパー(124点)・石錐(1点)・楔形石器(63点)・二次加工ある剥片(50点)・剥片(3,052点)・石核(89点)・石斧(13点)・擦り切り残片(1点)・砥石(11点)・たたき石(16点)・すり石(8点)・台石(16点)・原石(4点)・礫(4,770点)・加工痕のある礫(1点)・有孔礫(1点)・垂飾(1点)・小玉(1点)・石製品(2点)が出土した。点数はスクレイパーが最も多く、特に円形が多い。次に石核が多く、遺跡内で石器製作が行われていたことを示している。楔形石器が続き、続縄文時代後半期から擦文期にかけての石器組成を反映している。(鈴木宏行)

表 I - 1 出土遺物一覧

種別	分類	遺構	包含層	総計	
土器ほか	土器	I b	11	79	90
		III		71	71
		IV	3	61	64
		VIa	5	13	18
		VIb	2,504	6,077	8,581
		VII	358	4,995	5,353
		VII2	31	334	365
		VII3	1	6	7
		VIII		1	1
		焼成粘土塊	37	22	59
	紡錘車		3	3	
	土製品	1		1	
小計		2,951	11,662	14,613	
石器ほか	石鏃	4	12	16	
	石槍		2	2	
	両面調整石器	1	5	6	
	つまみ付きナイフ	2	1	3	
	スクレイパー	34	90	124	
	石錐		1	1	
	楔形石器	17	46	63	
	二次加工ある剥片	12	38	50	
	石核	20	69	89	
	剥片	657	2,395	3,052	
	石斧	4	9	13	
	たたき石	6	10	16	
	すり石	1	7	8	
	台石	3	13	16	
	砥石	2	9	11	
	原石	1	3	4	
	礫	1,600	3,170	4,770	
	加工痕のある礫	1		1	
	有孔礫	1		1	
	軽石	18	133	151	
	擦り切り残片		1	1	
	垂飾		1	1	
	小玉	1		1	
石製品	1	1	2		
小計		2,386	6,016	8,402	
金属製品ほか	刀子片(茎側)	2	1	3	
	鉄製錐	2		2	
	鉄鍋片(丸湯口)		4	4	
	鉄鍋片		2	2	
	洪武通宝		1	1	
	鉄製品		2	2	
	非鉄金属製品	1		1	
小計		5	10	15	
その他	炭化物	131	4	135	
	樹皮痕跡	1		1	
	骨片	72	17	89	
	白色粘土	11	1	12	
	灰	2		2	
	高師小僧	3	1	4	
	石炭	1	3	4	
小計		221	26	247	
総計		5,563	17,714	23,277	

## II 遺跡の位置と周辺の環境

### 1 遺跡の位置と環境

幌内D遺跡のある長沼町は行政区では空知支庁の最南端、地質構造区分上、また、気候・植生・動物分布の境界線として北海道を東西に分ける石狩低地帯、別名札幌・苫小牧低地帯の東縁に位置する。町の東側には南北に馬追丘陵が縦走り、千歳市からさらに安平町に連続している。馬追丘陵は千島弧と東北日本弧の衝突によって形成された日高山脈の前縁をなすもので褶曲群により隆起した地形で日高山脈西縁断層帯（東斜面の逆断層）が丘陵に沿って走っている（小疇ほか編2003）。周辺の遺跡では千歳市キウス7遺跡（西田ほか1996）・キウス4遺跡（廣瀬ほか2000）などでこれらの断層と関連するとみられる地割れの痕跡が検出されている。

夕張岳に源流を發する夕張川は山間部を西流した後、馬追丘陵の東側に南北に広がる由仁安平低地に入り、北西に流れを変え、石狩低地帯に入ったところで西北西に流れ、江別市で石狩川に合流する。町内の直線的な現夕張川は1936年に完成した治水事業により切り替えられたもので、本来の流路（現「旧夕張川」）は、北長沼で大きく南西に流向を変え、北広島市と江別市の境界で千歳川に合流するものであった。その旧夕張川もさらに時代を遡ると松浦武四郎の安政四年東西蝦夷山川地図取調図にはフシコユウハリ（古夕張川）の記載があり、長沼町北十三号と北十四号のほぼ中点の旧夕張川から南に流れ、舞鶴周辺で千歳川に注いでいたことが推定されている（長沼町史編纂委員会1977）。

長沼町は明治の入植以来度重なる水害に悩まされており、夕張川の治水事業のほか、町内は治水・農業のために地形の改変が行われている。千歳川は舞鶴橋周辺から下流5.2kmの蛇行部について1937年に直線化の工事が完成した。北海道開発局は昭和22年長都総合農地開発事業を起工し、南十三号幹線排水路を新設し、本来馬追沼に注いでいた劍淵川を直線的に千歳川に接続し、これにより馬追沼やポンユウバリ沼が干拓され、両沼をつないでいたイカベツ川は廢川となった。また、馬追沼の南西に隣接する長都沼は千歳川と長都沼を分離させる「長都新水路」が1961年に通水し、その後の排水網の整備により湿地の地下水位が低下、1967年に沼の中央に開削された第14号幹線排水路が完成して開拓は完了した。これら一連の灌漑事業によって馬追沼と長都沼は消滅、千歳川・夕張川の水路も戦前に比べ大きく変容している。

長沼町は西側の石狩低地帯と東側の馬追丘陵によって地形的に特徴付けられるが、かつては丘陵の西側に沿うように古夕張川が南流し、標高300m以下の低い馬追丘陵から全長4km以下の小河川がほぼ1km間隔で下刻し、古夕張川に流入していたようである（図II-2）。

幌内D遺跡は町域の南端に位置し、馬追丘陵を水源として西流するホロナイ川が石狩低地帯に流れ込む右岸側に、明治29年の地形図では馬追沼に最も近接した段丘のやや張り出した縁に位置する（図I-1、図II-1・2）。当時、遺跡のある段丘の眼下には馬追沼が広がっていたことだろう。道教委作成の埋蔵文化財包蔵地調査カードには幌内D遺跡の100m程南東の段丘の縁に湧水が記録されている。平成19年には遺跡西側の隣接地で国営かんがい排水事業道央用水（三期）地区道央注水工に伴う南長沼用水西側地点の調査が行われ、続縄文時代後半～擦文文化期前半の遺物が出土し、段丘崖下の沖積地にも遺跡範囲が及ぶことが確認されている。それらは段丘上の本報告とほぼ同時期で、『幌内A遺跡』（北埋調報309）に掲載されている。



国土地理院発行数値地図50000（地図画像）「北海道Ⅳ」に陸地測量部明治29年製版の5万分の1地形図「長都」を合成して使用  
図Ⅱ-1 石狩低地帯周辺の遺跡

## 2 周辺の遺跡

長沼町は北海道の中央部に広がる石狩低地帯の東部に位置する。石狩低地帯周辺は遺跡が濃密に分布し、地形的に低平な段丘の広がる恵庭市から千歳市にかけては千歳川水系の支流に沿って、馬追丘陵が迫る東側は低地帯に沿った狭い段丘上に分布する特徴がある（図Ⅱ－1）。

長沼町内には58か所の埋蔵文化財包蔵地が登載され（表Ⅱ－1）、そのほかに境内に周堤墓の可能性のある窪みのある幌内神社が知られている（芝田2000）。中には縄文土器型式の標式遺跡であるタンネトウ遺跡や堂林遺跡、異形環状土器の出土した12区B遺跡、大洞A式期に相当する壺形土器の出土した幌内西村遺跡、後北C1式完形土器5点が副葬された墓坑の検出された北長沼遺跡など著名な遺跡がある。これらの遺跡の発見や調査は当地出身で北海道考古学研究の牽引者の一人である野村崇氏の尽力による功績が大きい。これら著名な遺跡の調査は1950年代後半～1960年代前半にかけて行われたが、その後は1981年に12区B遺跡など小規模なものは行われたが、規模の大きい緊急発掘調査は今回の南六号川左岸遺跡（北埋調報298）及びに幌内D遺跡が初めてである。

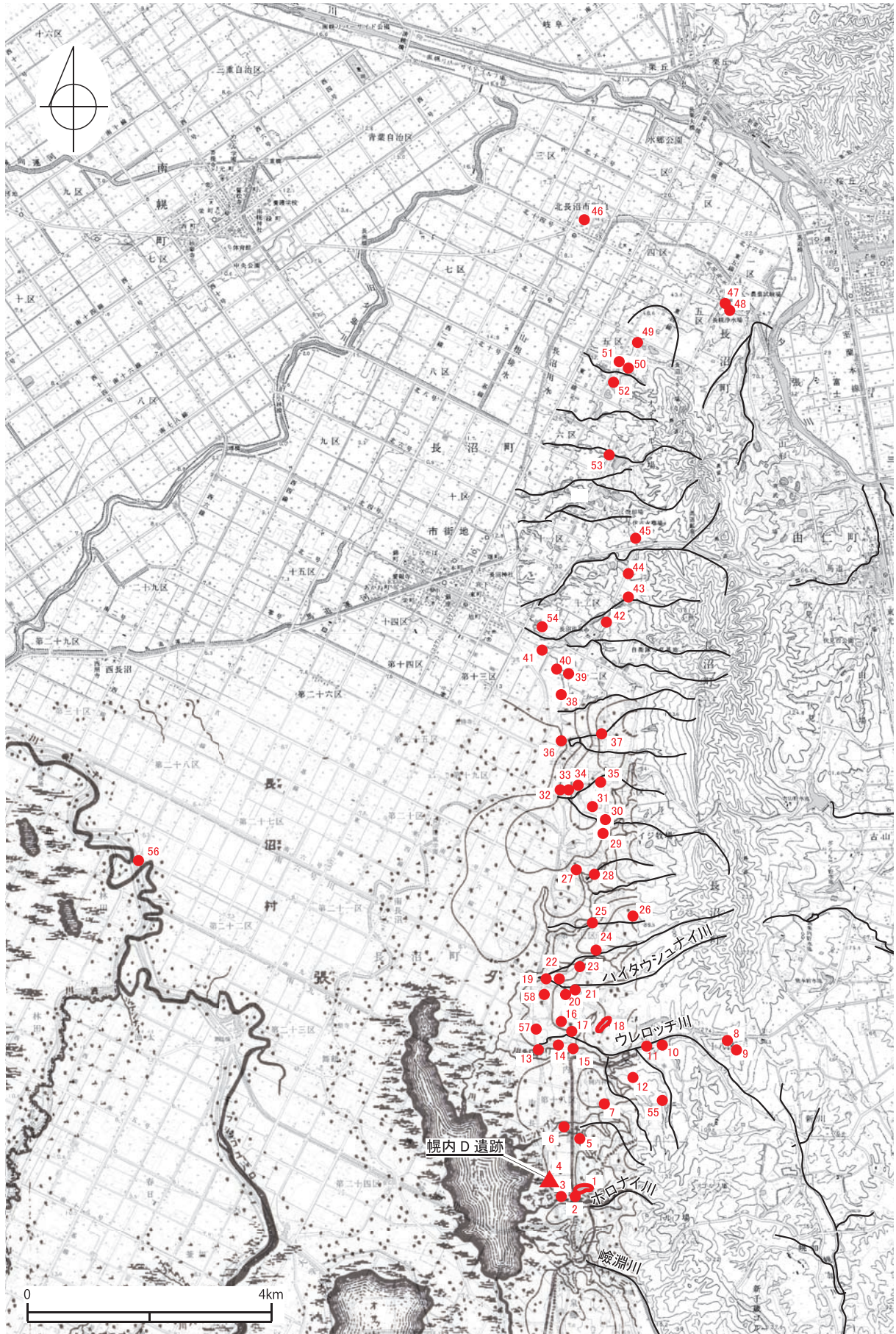
町内の遺跡は巨視的に見れば石狩低地帯の東縁、馬追丘陵の西裾の段丘上に南北に沿って立地し、その分布はキウス周堤墓群のある南方へと連続している。微視的に見ると馬追丘陵から石狩低地帯に向かって流下する多くの小河川や湧水などの周辺に立地している。

時期の判明している遺跡は37遺跡で、縄文時代中期（14遺跡）、後期（18遺跡）、晩期（13遺跡）が多く、その他は擦文文化期（5遺跡）、続縄文時代（3遺跡）、縄文時代早期（2遺跡）、縄文時代前期（1遺跡）、アイヌ文化期（1遺跡）である。時期別に分布を見ると、縄文早期（登載番号7・55）は町南部のウレロッチ川周辺に、縄文中期（登載番号1・3・6・10・12・14・24・31・36・42・43・48・54・58）、後期（登載番号1～3・6・11・14・16～18・21・28・31・32・39・40・43・55・58）、晩期（登載番号2・7・9・22・25・29・32・34・38・45・47・55・58）は南北ほぼ全域に分布している。続縄文時代（登載番号4・29・46）は南北に点々と、擦文文化期（登載番号1・4・14・15・17）はウレロッチ川周辺と剣淵川周辺に分布する。標高は15～25mが主体を占めるものの遺跡数の多い縄文時代中期～晩期は25～50mや50m以上の石狩低地帯からやや離れた馬追丘陵内部にも立地するものがある。

縄文時代早期ではタンネトウ遺跡B発掘区で東釧路Ⅲ式～東釧路Ⅳ式を含む「タンネトウE式」土器が出土している（図Ⅱ－4上段左）。縄文時代前期は静内中野式が幌内L遺跡、タンネトウA・B両地点から採集されている。縄文時代中期は幌内A・C・F・H・J・L、12区D、11区A、1区Bなどの遺跡で採集されているが詳細は不明である。縄文後期は幌内K・L・I遺跡で手稲式が、幌内堂林（図Ⅱ－3）、幌内B、16区B、12区A・B遺跡（図Ⅱ－4中段）などで堂林式が採集・出土している。縄文時代晩期はタンネトウ遺跡A発掘区（図Ⅱ－4上段右）で幣舞式～緑ヶ岡式に相当する「タンネトウL式」が、幌内西村遺跡（図Ⅱ－4下段左）では大洞A式相当の壺形土器が出土している。平成23年に本遺跡と同事業で調査を行った南六号川左岸遺跡では縄文時代晩期前半期を主体として、中期前半萩ヶ岡2式、中期後半北筒式、後期前葉余市式、後期中葉ウサクマイ式・手稲式が出土し、中期後半北筒式の竪穴住居跡が1軒検出されている（北埋調報298）。また、平成25年には導水管事業で幌内A遺跡が調査され、縄文時代晩期を主体とした遺構・遺物が出土している。（北埋調報309）

続縄文時代は北長沼遺跡（図Ⅱ－4下段右）で後北C1式完形土器5点、石器数点、人骨が出土した墓坑が検出され、幌内D遺跡の本報告分の調査で北大I式期とみられる墓坑が多数検出されている。平成19年には幌内D遺跡の段丘崖下の沖積地で後北C2-D式から前期擦文土器が出土している。

擦文文化期は幌内南遺跡で擦文土器とともに甕の胴部とみられる須恵器片や紡錘車が表面採集されている。また、幌内D遺跡では前半期とみられる墓坑や住居跡が検出され、後半期の土器も少量出土している。（鈴木宏行）



国土地理院発行数値地図50000（地図画像）「北海道Ⅳ」に陸地測量部明治29年製版の5万分の1地形図「長都」を合成して使用し、馬追丘陵の河川を加筆  
**図Ⅱ－2 長沼町の遺跡**

表II-1 長沼町の遺跡一覧

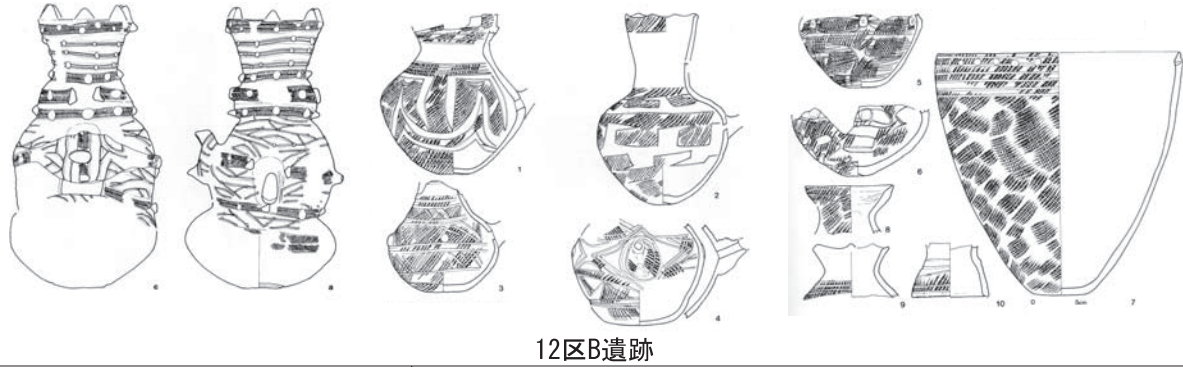
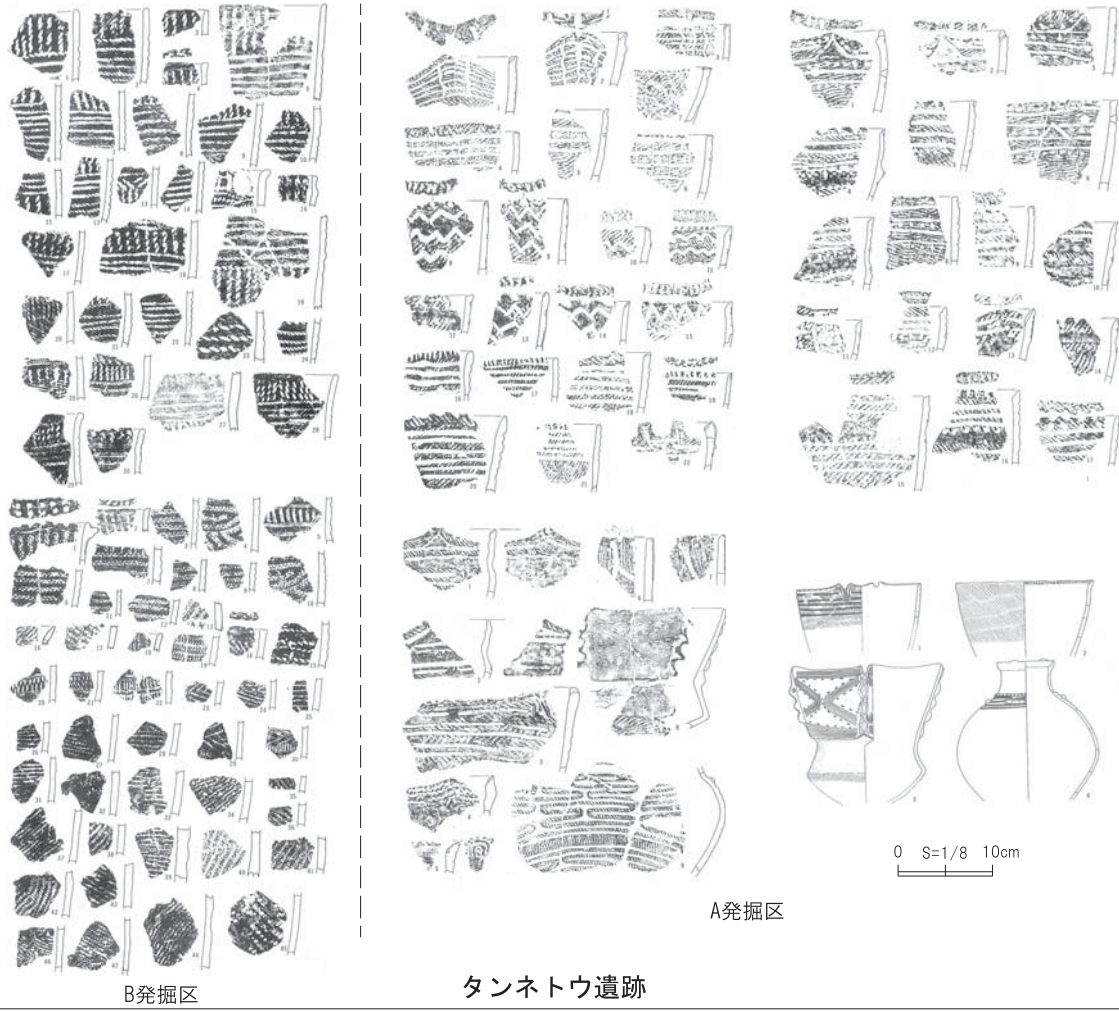
掲載番号	種別	名称	立地(標高:約)	時期	内容・文献
1	集落跡	幌内A遺跡	低位段丘(25m)	縄文中・後・晩期、擦文期	昭和元年調査、平成25年度調査(北理調報309)
2	遺物包含地	幌内B遺跡	低位段丘(15m)	縄文後期末・晩期	
3	遺物包含地	幌内C遺跡	低位段丘(25m)	縄文中・後期	
4	遺物包含地	幌内D遺跡	低位段丘(7~18m)	続縄文、擦文期	平成19(沖積地)(北理調報309)、23・24(段丘)年度調査(本報告)
5	遺物包含地	幌内E遺跡	低位段丘(35m)	縄文時代	
6	遺物包含地	幌内F遺跡	約20mの低位段丘(20m)	縄文中・後期	
7	遺物包含地	タンネトウ遺跡	中位段丘(40~68m)	縄文早期・晩期	昭和32・33・35年調査。野村(1977b)。タンネトウ-E・I式の標式遺跡
8	遺物包含地	幌内G遺跡	丘陵(90m)	不明	黒曜石片、拇指形搔器
9	墳墓	幌内西村遺跡	丘陵(90m)	縄文晩期	大洞A式期の大型壺。昭和35年調査
10	遺物包含地	幌内H遺跡	ウレロッチ川左岸の段丘(25m)	縄文中期	
11	遺物包含地	幌内I遺跡	ウレロッチ川左岸の段丘(25m)	縄文後期	
12	遺物包含地	幌内J遺跡	ウレロッチ川に注ぐ小沢の段丘(45m)	縄文中期	
13	遺物包含地	幌内K遺跡	ウレロッチ川左岸の段丘(18m)	不明	
14	遺物包含地	幌内L遺跡	ウレロッチ川左岸の低位段丘(18m)	縄文前・中・後期、擦文期	旧称ウレロッチ川左岸遺跡。昭和37年調査。手稲式多数採集
15	遺物包含地	幌内M遺跡	小沢の左岸段丘(18m)	縄文時代、擦文期	
16	遺物包含地	幌内N遺跡	ウレロッチ川に注ぐ小沢の左岸段丘(20m)	縄文後期	
17	遺物包含地	幌内南遺跡	ウレロッチ川に注ぐ小沢の右岸段丘(20m)	縄文後期、擦文期	幌内N遺跡の沢向い、須恵器・紡錘車
18	遺物包含地	幌内堂林遺跡	ウレロッチ川に注ぐ小沢の右岸段丘(40m)	縄文後期	昭和35年調査。堂林式の標式遺跡。野村・宇田川(1967)
19	遺物包含地	17区A遺跡	低位段丘先端部(13m)	アイヌ期	陶磁器
20	遺物包含地	17区B遺跡	低位段丘(23m)	縄文時代	
21	遺物包含地	17区C遺跡	舌状台地(25m)	縄文後期	
22	遺物包含地	17区D遺跡	舌状台地の先端(20m)	縄文晩期	
23	遺物包含地	17区E遺跡	低位段丘(25m)	縄文時代	
24	遺物包含地	17区F遺跡	舌状台地(35m)	縄文中期	
25	遺物包含地	17区G遺跡	低位段丘(30m)	縄文晩期	
26	遺物包含地	17区H遺跡	中位段丘(60m)	縄文時代	
27	遺物包含地	16区A遺跡	低位段丘先端部(30m)	不明	造田工事で消滅
28	遺物包含地	16区B遺跡	低位段丘(35m)	縄文後期	堂林式
29	遺物包含地	16区C遺跡	低位段丘(35m)	縄文晩期、続縄文時代	
30	遺物包含地	16区D遺跡	30m	縄文時代	
31	遺物包含地	16区E遺跡	段丘(30m)	縄文時代中・後期	
32	遺物包含地	16区F遺跡	低位段丘先端部(20m)	縄文後・晩期	
33	遺物包含地	16区G遺跡	低位段丘(20m)	縄文時代	
34	遺物包含地	16区H遺跡	低位段丘(25m)	縄文晩期	
35	遺物包含地	16区I遺跡	低位段丘(30m)	縄文時代	
36	遺物包含地	16区J遺跡	舌状の低位段丘(20m)	縄文中期	
37	遺物包含地	16区K遺跡	低位段丘(25m)	縄文時代	
38	遺物包含地	16区L遺跡	低位段丘先端部(20m)	縄文晩期	
39	遺物包含地	12区A遺跡	低位段丘(20m)	縄文後期	堂林式
40	遺物包含地	12区B遺跡	低位段丘(15~20m)	縄文後期	堂林式。1975年調査。異形環状土器出土(野村編1984)。
41	遺物包含地	12区C遺跡	富志戸川左岸の低位段丘(18m)	不明	昭和45年調査。
42	遺物包含地	12区D遺跡	中位段丘(55m)	縄文中期	
43	遺物包含地	11区A遺跡	中位段丘(70m)	縄文中・後期	
44	遺物包含地	11区B遺跡	中位段丘(70m)	縄文時代	
45	遺物包含地	11区C遺跡	中位段丘(60m)	縄文晩期	
46	遺物包含地	北長沼遺跡	低位段丘(25m)	続縄文前半期	昭和5年発見。堅穴式墳墓から後北C1期の完形土器5点、石器数点、人骨。
47	遺物包含地	1区A遺跡	低位段丘(35m)	縄文晩期	
48	遺物包含地	1区B遺跡	低位段丘(30m)	縄文中期	
49	遺物包含地	5区1遺跡	丘陵(65m)	縄文時代	
50	遺物包含地	5区2遺跡	丘陵(55m)	縄文時代	
51	遺物包含地	5区3遺跡	丘陵(50m)	縄文時代	
52	遺物包含地	5区4遺跡	丘陵(50m)	不明	石片
53	遺物包含地	6区1遺跡	丘陵(55m)	不明	石鏃・石斧・加工痕のある石片・石片
54	遺物包含地	12区E遺跡	低位段丘(20m)	縄文中期	
55	遺物包含地	ウレロッチ遺跡	ウレロッチ川に注ぐ小沢の段丘と丘陵斜面(70~80m)	縄文早・後・晩期	土器・石斧・石斧片・石鏃・方割石
56	遺物包含地	28区1遺跡	千歳川自然堤防(6~7m)	不明	
57	遺物包含地	ウレロッチ川右岸遺跡	ウレロッチ川右岸段丘(15m)	不明	土器・石器
58	遺物包含地	南六号川左岸遺跡	南六号川左岸低位段丘(20m)	縄文中・後・晩期	平成23年度調査(北理調報298)



幌内堂林遺跡

0 S=1/8 10cm

図II-3 長沼町内の遺跡(1)



図Ⅱ-4 長沼町内の遺跡(2)



## Ⅲ 遺 構

### 1 概 要

遺構は竪穴住居跡4軒(H-1~4)、掘立柱建物跡2軒(B-1・2)、土坑204基(P-1~204)、小ピット1基(SP-1)、焼土4か所(F-1~4)、灰集中2か所(AC-1・2)、土器集中3か所(PC-1~3)、集石2か所(SC-1・2)が検出された(図Ⅲ-1~3)。

周辺の地形は東から馬追丘陵が延び、石狩低地帯と接するところで段丘崖となって区分される。調査区は段丘が南西に張り出した場所にあたる。北大I式を主体とした続縄文時代後葉後半期の円形土坑はこの張り出しに高密度に分布している。調査区内の地形は南東から北西にかけて緩やかに傾斜し、長方形を呈する擦文文化期の土坑墓はJ21区の2基(P-5・11)を除いて、標高17.0mから17.2mのラインに沿うように南西から北西に並ぶように分布し、その外縁には焼土群が並ぶ。掘立柱建物跡は土坑墓列と焼土列の間に位置している。竈の無い住居跡は2軒(H-2・4)が土坑墓列の北東部、1軒(H-1)が南側に位置し、竈のある住居跡(H-3)は調査区南東端に位置する。ホロナイ川沿いに段丘崖を南東側に500mほど上ると幌内A遺跡があり、湧水の横に擦文文化期の住居跡の窪みが確認されており、集落は段丘崖に沿って南東側に続く可能性がある。

続縄文時代後葉後半期の円・楕円形の土坑墓は高密度で、切り合い関係が頻繁に認められるが、擦文文化期と考えられる遺構には切り合い関係がほとんどない。また、両時期の分布は排他的で、両時期の切り合う土坑は見られない。擦文文化期の遺構は、住居域・墓域・焼土を伴う行動域など場所の使い分けが認められる。擦文文化期の長方形の土坑墓は長軸方向がおおよそ北西-南東、北東-南西のものがあり、それらに分布の偏りは見られない。

### 2 竪穴住居跡

**竪穴住居跡1 (H-1)** (図Ⅲ-4、表Ⅲ-2、図版6)

**確認・調査:** 調査区ほぼ中央の標高17mの段丘上に位置する。耕作土を除去後、IV層で隅丸方形の黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用の十字ベルトを設定し、調査を行った。

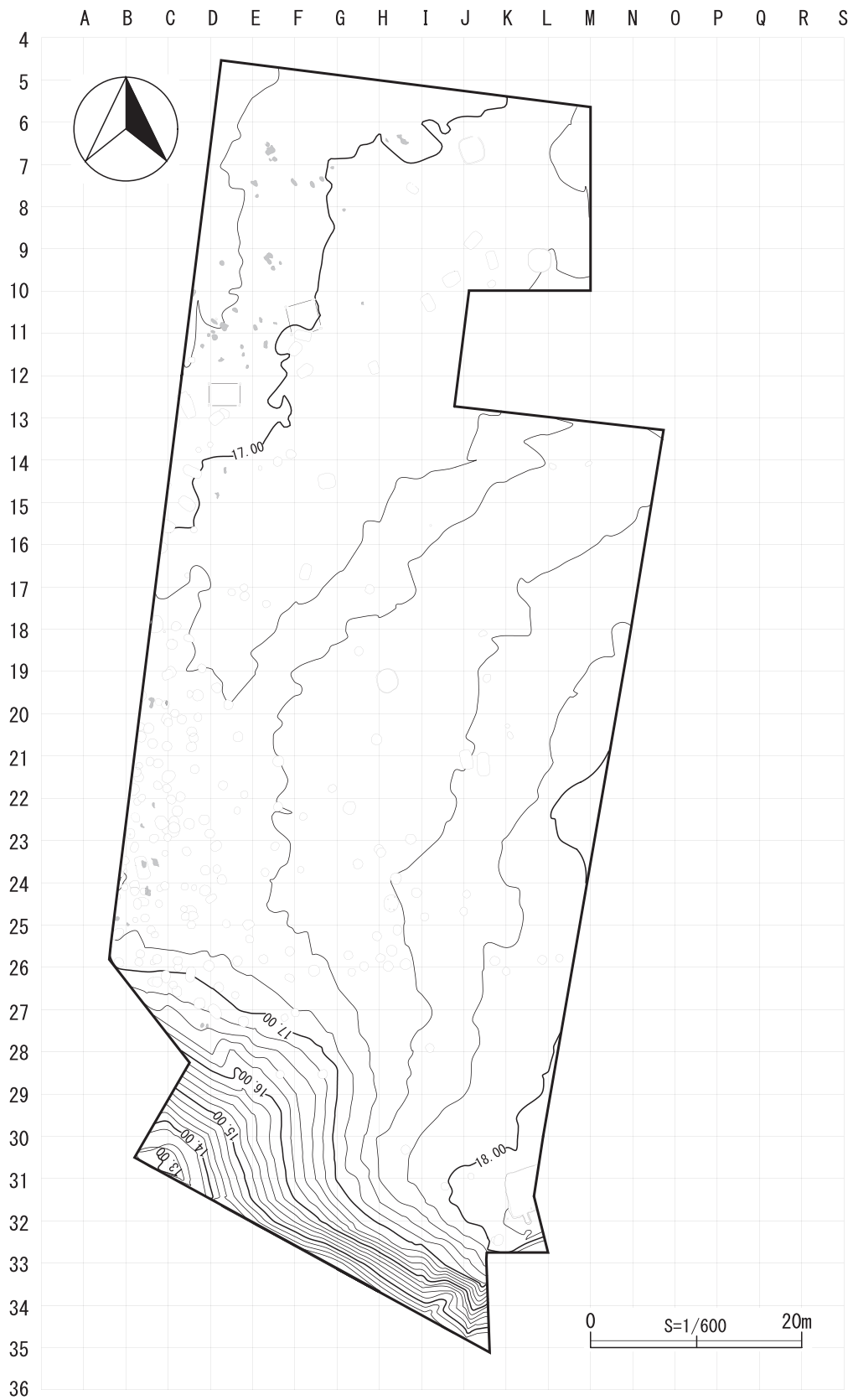
**土層:** 覆土は坑底や壁側に暗褐色土(覆土5)・黒褐色土(覆土4)が堆積し、その上位に南東側に暗褐色土(覆土3)、さらにその上位の北西側に黒褐色土(覆土2)が広く分布する。覆土最上位の中央には焼土(HF-1、覆土1)が検出された。覆土4からは南西部に大型の炭化材が出土し、焼失住居の可能性がある。

**床面・壁:** 床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

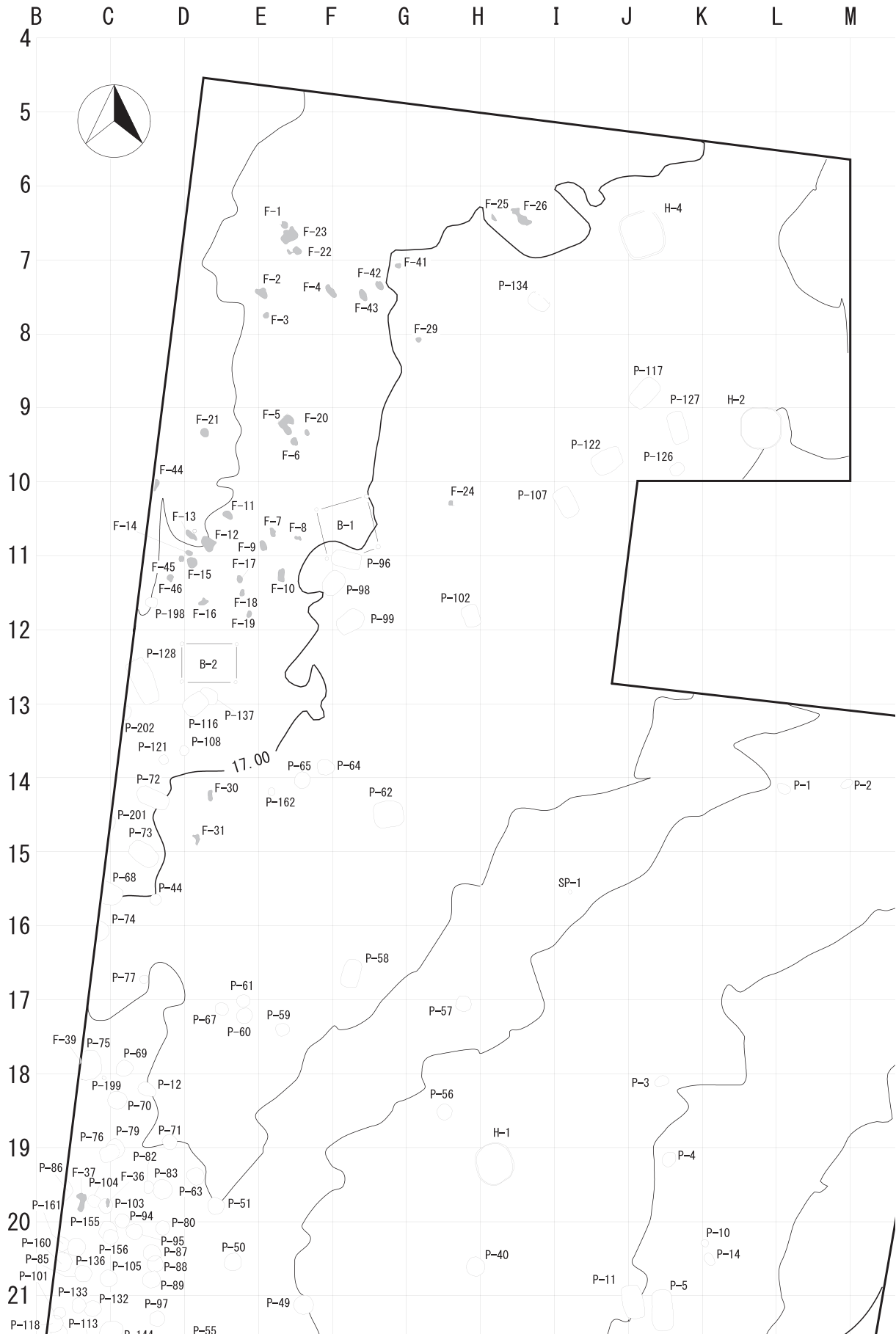
**付属遺構:** 柱穴は確認できず、焼土は床面では確認できなかった。

**遺物出土状況:** 出土遺物の総数は16点で、土器等が4点、石器等が6点、炭化物が6点である。覆土2からVI群b類土器2点(108など)、VII群土器2点(354など)、たたき石2点、剥片1点、楔形石器1点、覆土3から剥片1点、礫1点が出土した。たたき石(178)は接合し、棒状の原石の端部にたたき痕があり、上端の打撃で縦折れしている。構造材と考えられる2点の炭化物について樹種同定を行い、覆土2出土炭化物はハンノキ属ハンノキ亜属(HD-W1)、覆土4出土炭化物はトネリコ属(HD-W2)と判定された。

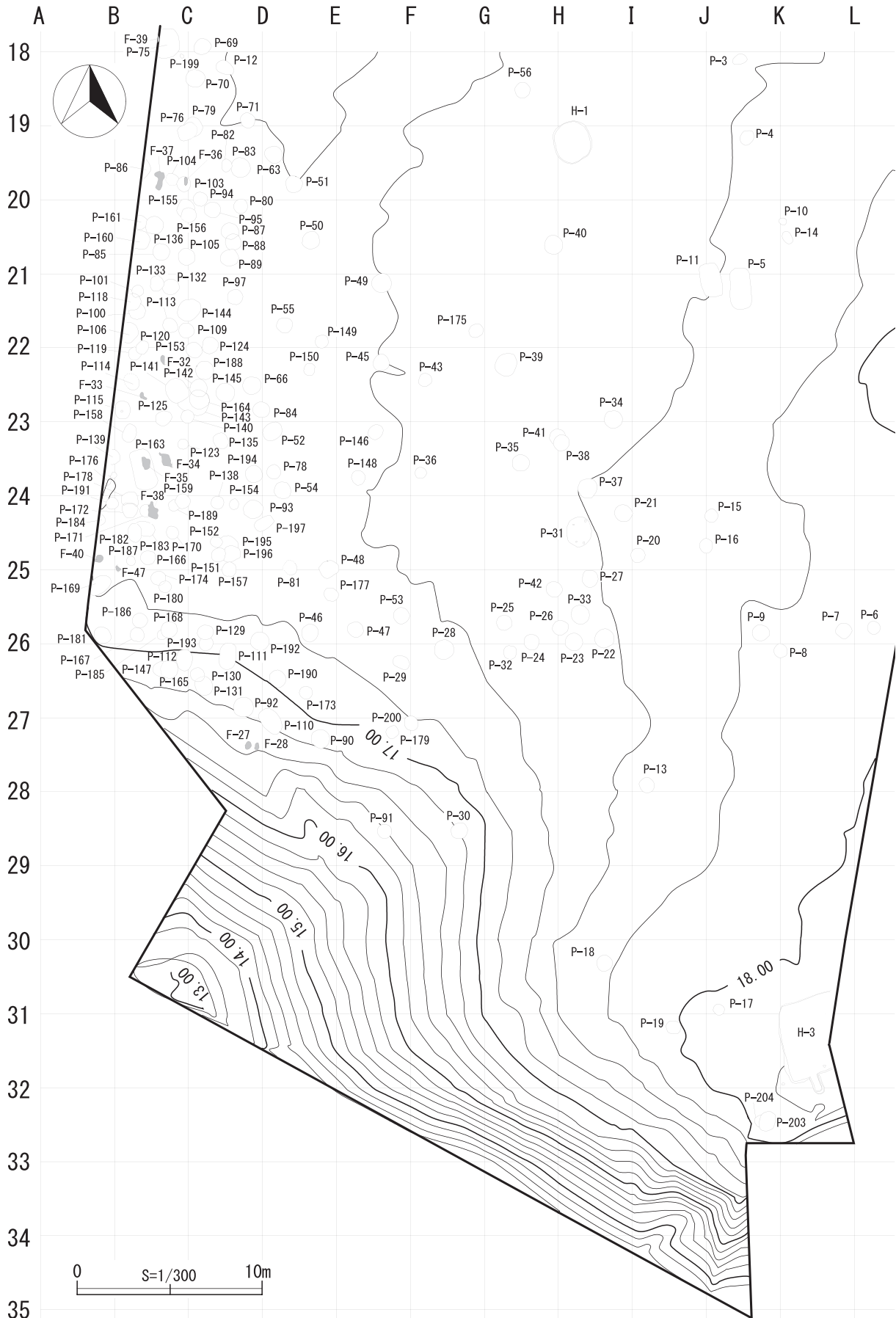
**時期:** HF-1出土の炭化物は $1,080 \pm 20$ yrBP(HD-D1)、覆土4出土の炭化物は $870 \pm 20$ (HD-D2)の年代測定値が得られている。この年代測定値と出土遺物から擦文文化期と考えられる。(鈴木宏行)



図Ⅲ-1 遺構位置図(1)



図III-2 遺構位置図(2)



図III-3 遺構位置図(3)

**竪穴住居跡 2 (H-2)** (図Ⅲ-4、表Ⅲ-2、図版7)

**確認・調査：**調査区北側の標高17m前後の段丘上の北西に緩やかに下る平坦面に位置する。耕作土除去後、Ⅳ層において暗褐色土を呈する一辺2m前後の隅丸方形の拡がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央で交差する試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層埋土とする竪穴住居と判断し、平面形・断面形確定後に竪穴内の調査を開始した。

**土層：**覆土は1層上半が流れ込み土、2層が壁際の流れ込み土。1層中位に被熱En-P・炭化材の拡がりが増積しているため、これより下半が屋根土の可能性もある覆土と考えられる。床面は硬質のEn-Pに達する直上に設けられている、構築面は不詳。また、屋根部材が炭化したと考えられる範囲は竪穴範囲の一部に拡がるので全焼した火災住居ではなく、住居の一部が焼けて建材の大半は腐朽し消失したと考えられる。

**床面・壁：**下端平面形は隅丸方形、床面は平坦。立ち上がりはやや角張り、壁は直線的に上方へたかあがる。

**付属遺構：**不整楕円形の地床炉(HF-1)、あまり強く被熱していない。床面に柱穴がないので外柱穴構造である。住居中央の30個の集石は被熱En-P・炭化材とほぼ同じ層準にあることから住居内にあったものではないと判断する。

**遺物出土状況：**1層からは内面に炭化物が遺存する内外面刷毛目の擦文深鉢胴部片2点・礫29点・原石1点が、床からは礫3点が出土した。構造材の可能性のある覆土1出土炭化物について樹種同定を行ったところ、コナラ属コナラ垂属コナラ節(HD-W3)と判定された。

**時期：**HF-1出土の炭化物からは $1,090 \pm 20$ yrBP (HD-D3)、覆土1出土の炭化物からは $880 \pm 20$  (HD-D4)の年代測定値が得られている。構造・出土土器・年代測定結果から、擦文前期または後期と推定される。(鈴木 信)

**竪穴住居跡 3 (H-3)** (図Ⅲ-5～8、表Ⅲ-2、図版8～10)

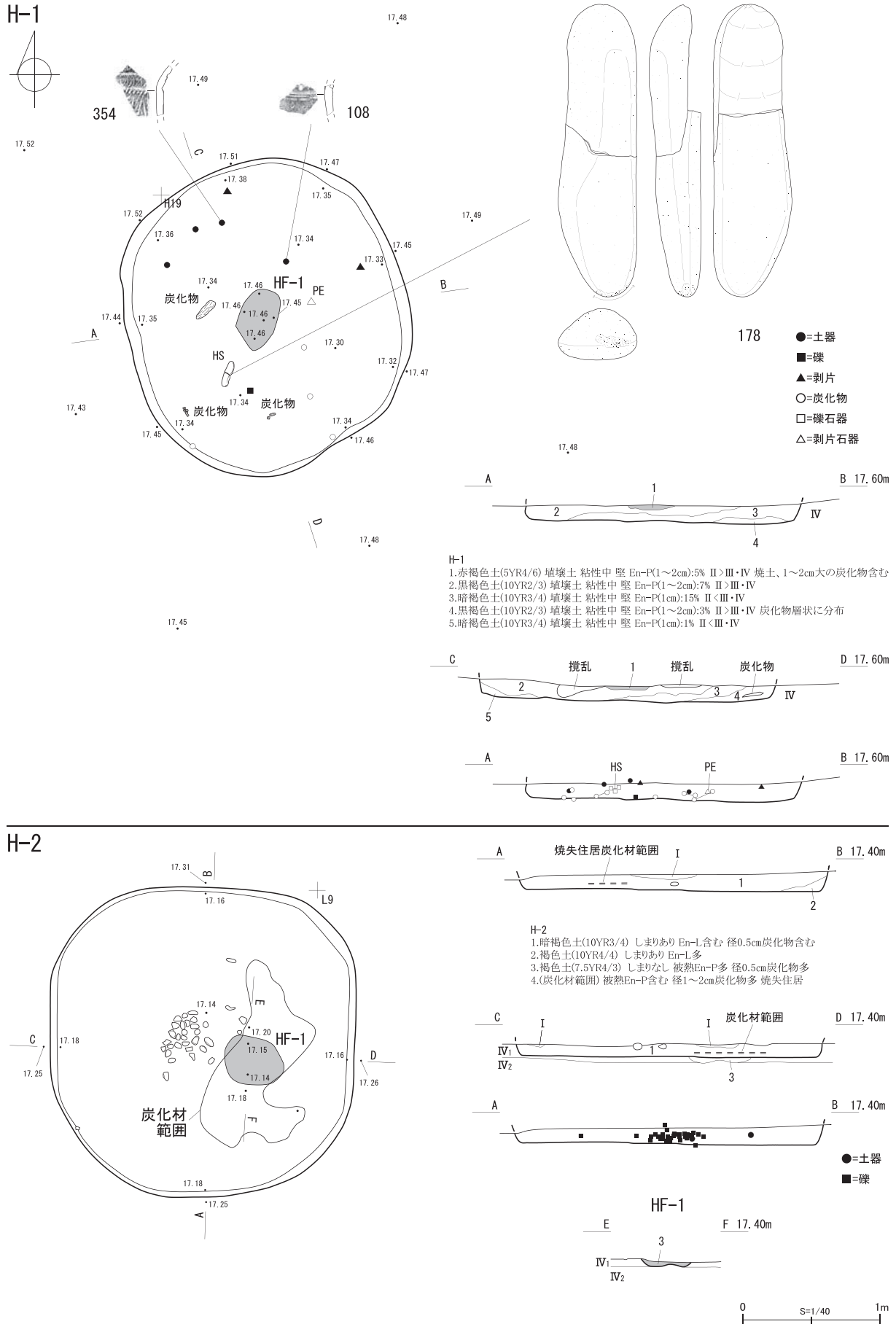
**確認・調査：**調査区南東端の標高18mの段丘縁辺部に位置する。平成23年度の調査時に北側の覆土を検出していた。平成24年度に南側を拡張し、Ta-a火山灰を除去し、Ⅱ層を掘り下げると南西側で住居の掘り上げ土とみられる暗褐色土(覆土1)が、南側で竈の煙出しとみられる白色粘土が確認できたため住居と認識して土層観察用のベルトを残して調査を進めた。北側は畑の耕作によって壊されていた。

**土層：**床面には汚れた暗褐色土(覆土8)が広がり、壁際には三角堆積とみられる暗褐色土(覆土9)がある。その上位に焼土(HF-1、覆土4～6)が住居内南側に広がり、Ⅱ層が堆積する。HF-1には大型の炭化物が伴っていることから焼失住居によるものと考えられる。

**床面・壁：**床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部は肩が崩れている。平面形は隅丸方形であると推定されるが、北側の壁は正確には不明である。南壁は東側の調査区外に延び、全体の形状から竈は南壁の西寄りに構築されている。

**付属遺構：**付属遺構は竈、HP-1・2がある。竈は南壁の西寄りに構築される。白色粘土は住居内の東側に偏っている。煙出し上部に白色粘土があることから、住居廃絶時に竈の袖の粘土が壊されて、詰められた可能性がある。竈は焚口から煙出しまで煙道の内面に白色粘土が貼られ、上壁が落ちて潰れた状態で検出された。HP-1は竈の東側に隣接している。細く浅い柱穴状のものである。周辺からは刀子片や土器片が出土している。HP-2は直径12cm程の外柱穴で、住居中央に向かって斜めに傾いている。いわゆるカリンバ型住居の柱穴である。住居の外側で竈の煙出しの西には小型の礫で構成される集石(SC-1)があり、住居と関連するものと考えられる。

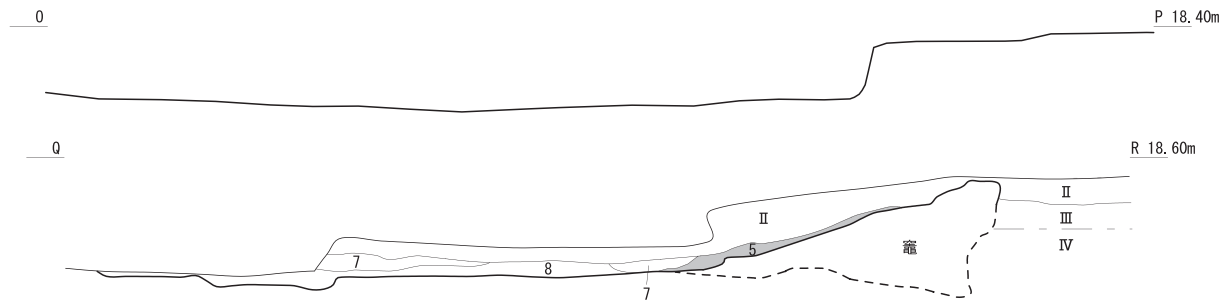
**遺物出土状況：**出土遺物の総数は55点で、土器等が51点、石器等が85点、刀子片が1点、高師小僧が



図Ⅲ-4 竪穴住居跡(1)H-1・2

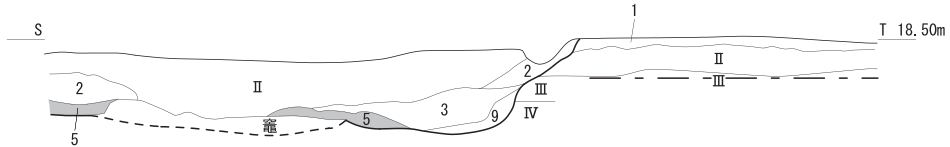


図Ⅲ-5 竪穴住居跡(2)H-3(1)



H-3

1. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):10% II<III・IV 掘り上げ土
2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):3% II>III・IV
3. 極暗赤褐色土(2.5YR2/2) 埴壤土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):2% II類似 焼土少量含む(密度低い)
4. 極暗赤褐色土(5YR2/4) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 HF-1の1層
5. 赤褐色土(5YR4/8) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II=III・IV HF-1の2層
6. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II=III・IV HF-1の3層
7. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):3% II>III・IV
8. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):3% II<III・IV
9. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 崩落土
10. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II>III・IV



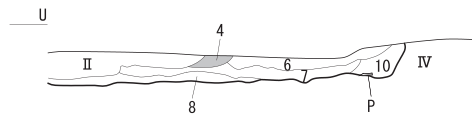
HP-1

V 18.30m



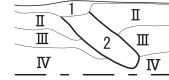
HP-1

1. 褐色土(10YR4/4) 壤土 粘性やや弱 堅 En-P(1cm):7% II=III・IV



HP-2

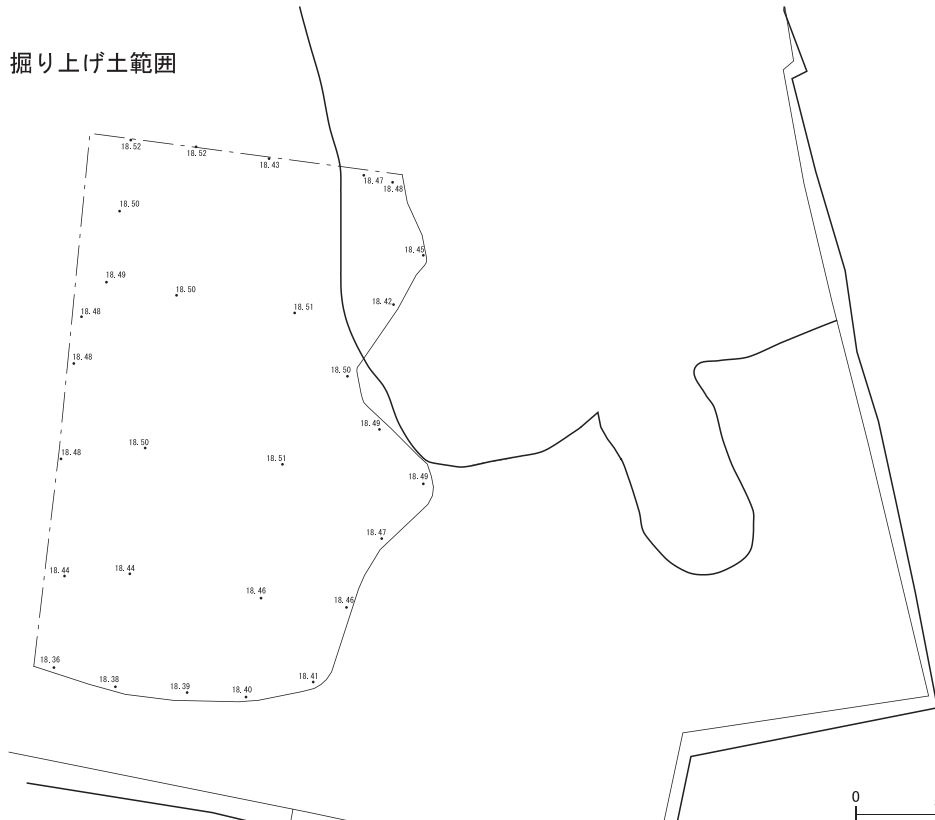
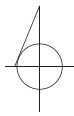
N 18.50m



HP-2

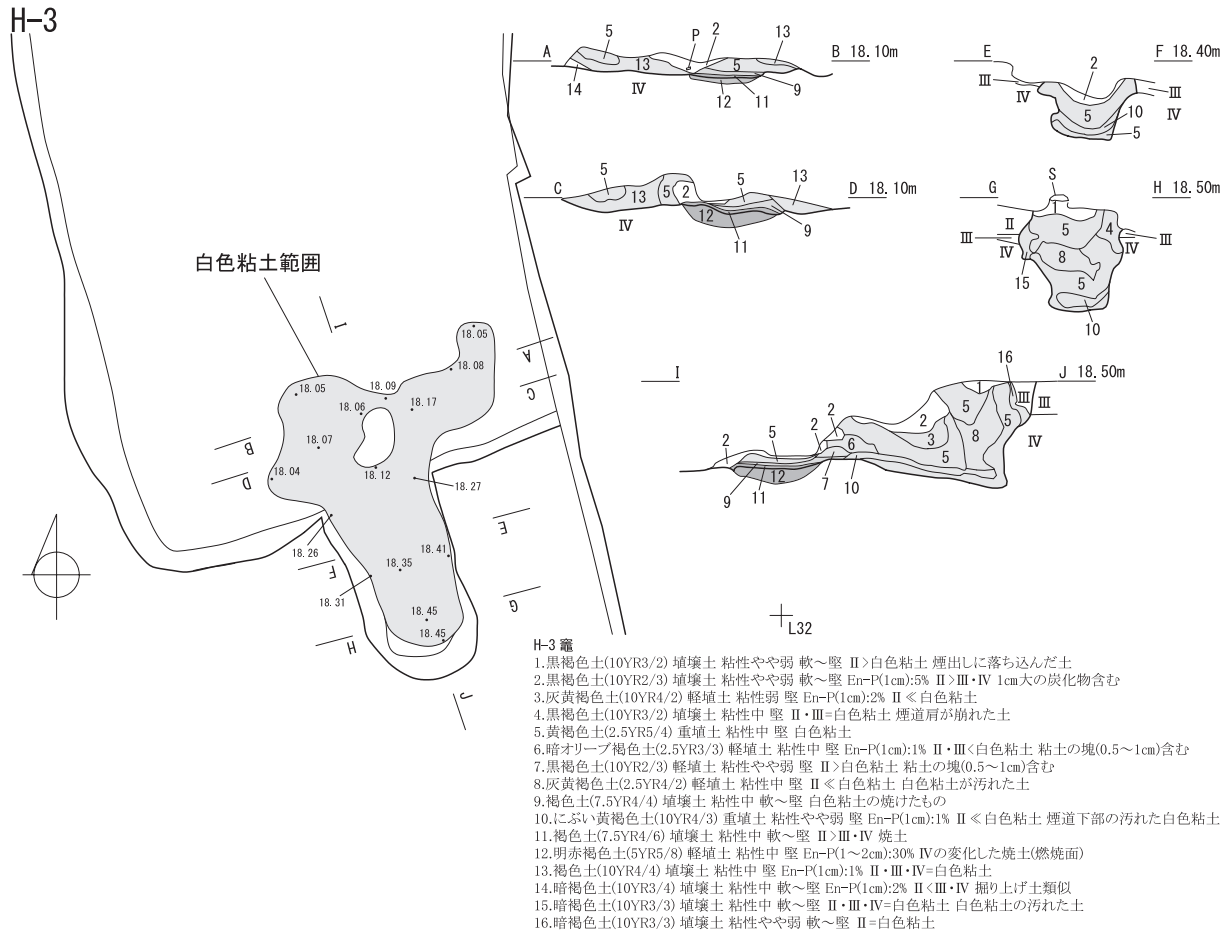
1. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):7% II<III・IV 掘り上げ土
2. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(2cm):2% II<III・IV

掘り上げ土範囲

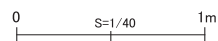
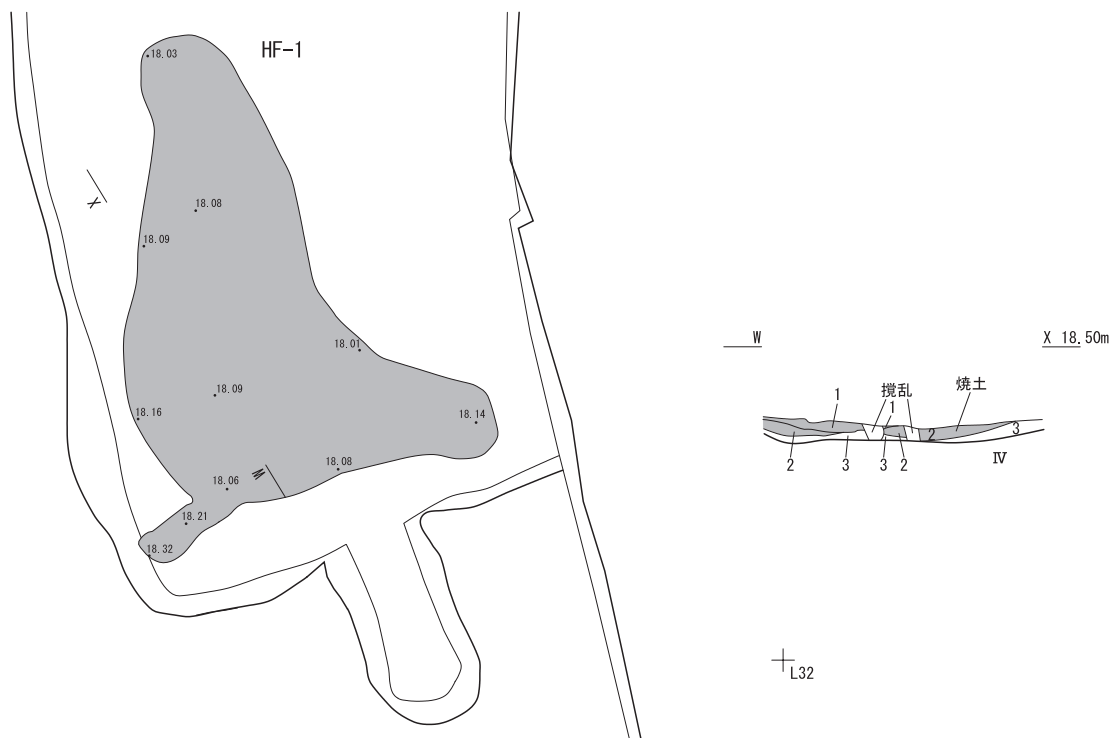


図III-6 竪穴住居跡(3)H-3(2)



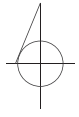


H-3 HF-1



図Ⅲ-7 竈穴住居跡(4)H-3(3)

H-3



図Ⅲ-8 竪穴住居跡(5)H-3(4)

3点、炭化物が27点である。土器等はⅥ群b類(189など)8点、Ⅶ群15点、焼成粘土塊26点、石器等はスクレイパー(62)1点、たたき石2点、原石1点、剥片5点、楔形石器1点、礫75点が出土した。刀子片(2)は茎部である。構造材の可能性のある5点の炭化物について樹種同定を行い、覆土3出土炭化物は広葉樹(若年枝)(HD-W5)・トネリコ属(HD-W7)、覆土7出土炭化物はトネリコ属(HD-W4)・コナラ属コナラ亜属コナラ節(HD-W6)、HF-1出土炭化物はトネリコ属(HD-W8)と判定された。

**時期：**HF-1出土の炭化物は $1,300\pm 30$ yrBP(HD-D5)、覆土3出土の炭化物は $1,150\pm 30$ (HD-D6)、覆土7出土の炭化物は $1,210\pm 20$ (HD-D7)の年代測定値が得られている。この年代測定値と遺物と住居の形態などから擦文前期と考えられる。(鈴木宏行)

#### 竪穴住居跡4(H-4)(図III-9、表III-2、図版11)

**確認・調査：**調査区北側の標高17m前後の段丘上の北北西に緩やかに下る平坦面に位置する。耕作土除去後、Ⅳ層において黒色土を呈する一辺2.2m前後の隅丸方形の拡がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央で交差する試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層埋土とする竪穴住居と判断し、平面形・断面形確定後に竪穴内の調査を開始した。

**土層：**覆土は1・3層が壁際の流れ込み土、2層は3層堆積後に形成された焼土。4層が屋根土の可能性もある覆土と考えられるが、炭化屋根部材は含まれていなかった。床面はやや軟質のEn-Lを10cmほど掘り込む、構築面はⅢ層よりも上位。

**床面・壁：**下端平面形は隅丸方形、床面は平坦。立ち上がりはやや角張り、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。

**付属遺構：**不整楕円形の地床炉(HF-1)、付近には被熱En-P・炭化材が一方に動いたように広がっていた。床面に柱穴がないので外柱穴構造である。

**遺物出土状況：**1層からは擦文土器片1点・礫11点・軽石1点、3層からは礫1点、4層上半からは擦文土器片(擦文前期)4点・擦文土器坏片(擦文後期)1点・礫11点・軽石1点、床からは礫1点、壁面からは多重横位沈線文の擦文頸部片1点出土した。

**時期：**HF-1出土の炭化物からは $1,070\pm 20$ yrBP(HD-D8)・ $1,060\pm 20$ (HD-D9)の年代測定値が得られている。構造・出土土器・年代測定結果から、擦文前期または後期。(鈴木 信)

### 3 掘立柱建物跡

#### 掘立柱建物跡1(B-1)(図III-10、表III-2、図版12)

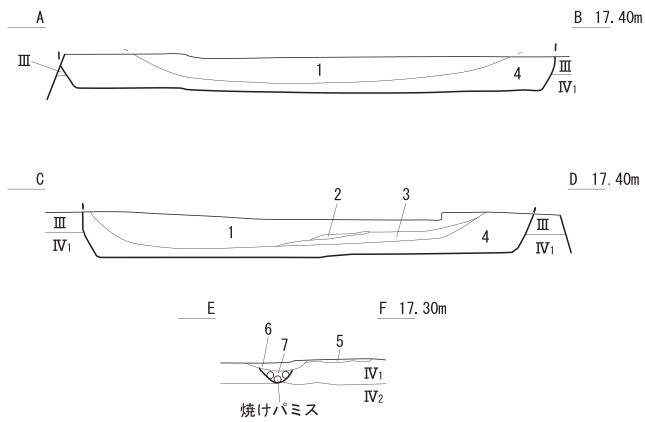
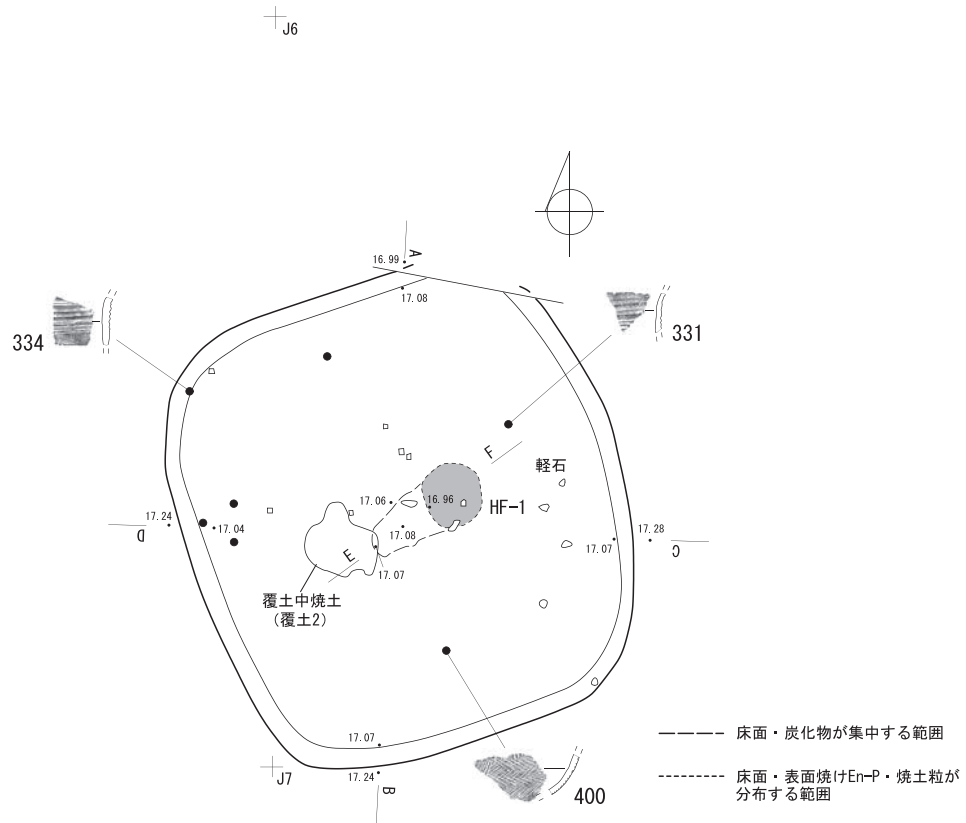
**確認・調査：**調査区北側の標高17mの段丘上の北西に緩やかに下る平坦面に位置する。BP-1・2は、Ⅲ層を深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で確認した。BP-3・4はⅣ層上面で確認したが指示が遅れて完掘に及び土層断面を記録できなかった。中ほど・下端の横断面は隅丸方形、縦断面は隅丸長方形。BP-3・4も同様な形態である。2層は柱と掘方の充填土と考えられる。また、3層の状況より抜柱されていなかったと推定される。一辺約2.8mの方形配置、垂直にEn-P層中まで穿たれる掘方、端面を持つ柱穴形、炉が伴わないことより、倉庫の可能性はある。

**時期：**検出層準・構造より、擦文期の可能性はある。(鈴木 信)

#### 掘立柱建物跡2(B-2)(図III-10、表III-2、図版12)

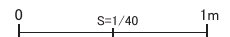
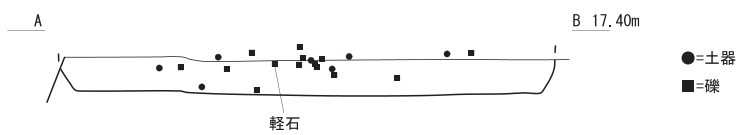
**確認・調査：**調査区北側の標高17m前後の段丘上の北西に緩やかに下る平坦面に位置する。BP-1・2は、Ⅲ層を深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で確認し、BP-3・4はⅣ層上面で確認した。BP-1・2の中ほどの横断面は楕円形、BP-3・4の中ほどの横断面は隅丸方形。BP-1下端の横

H-4

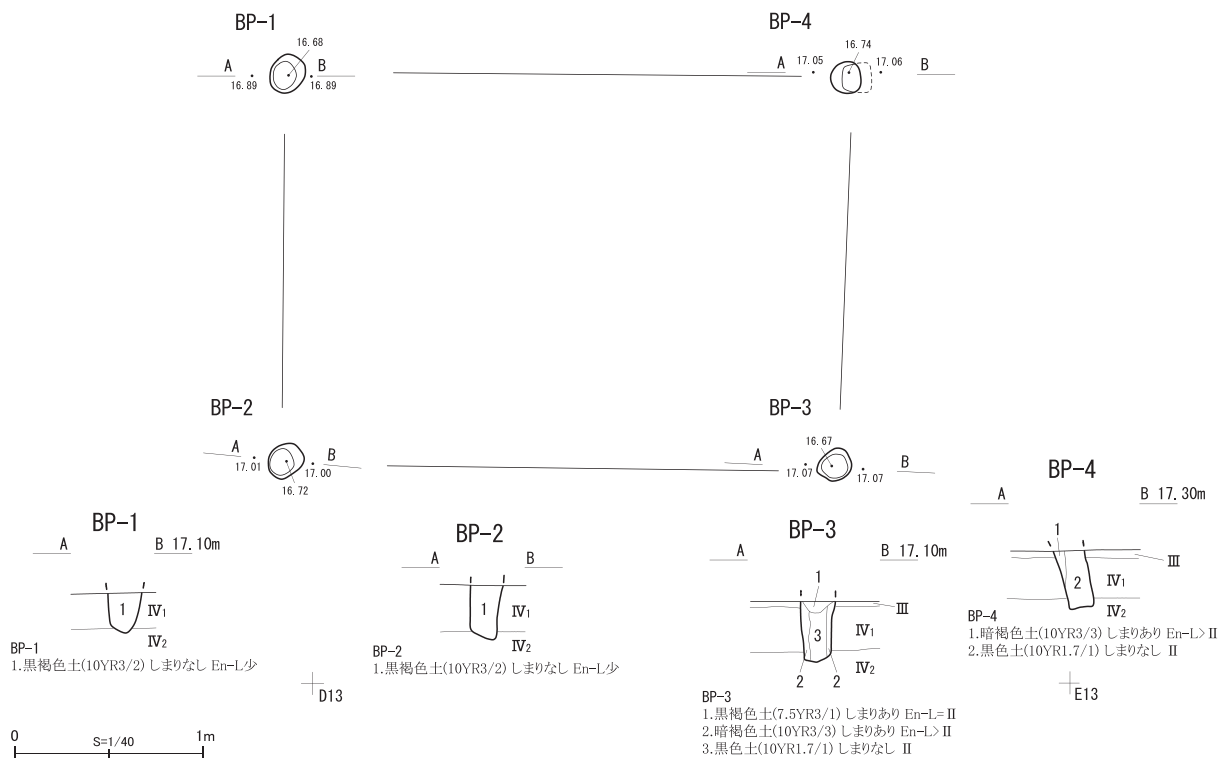
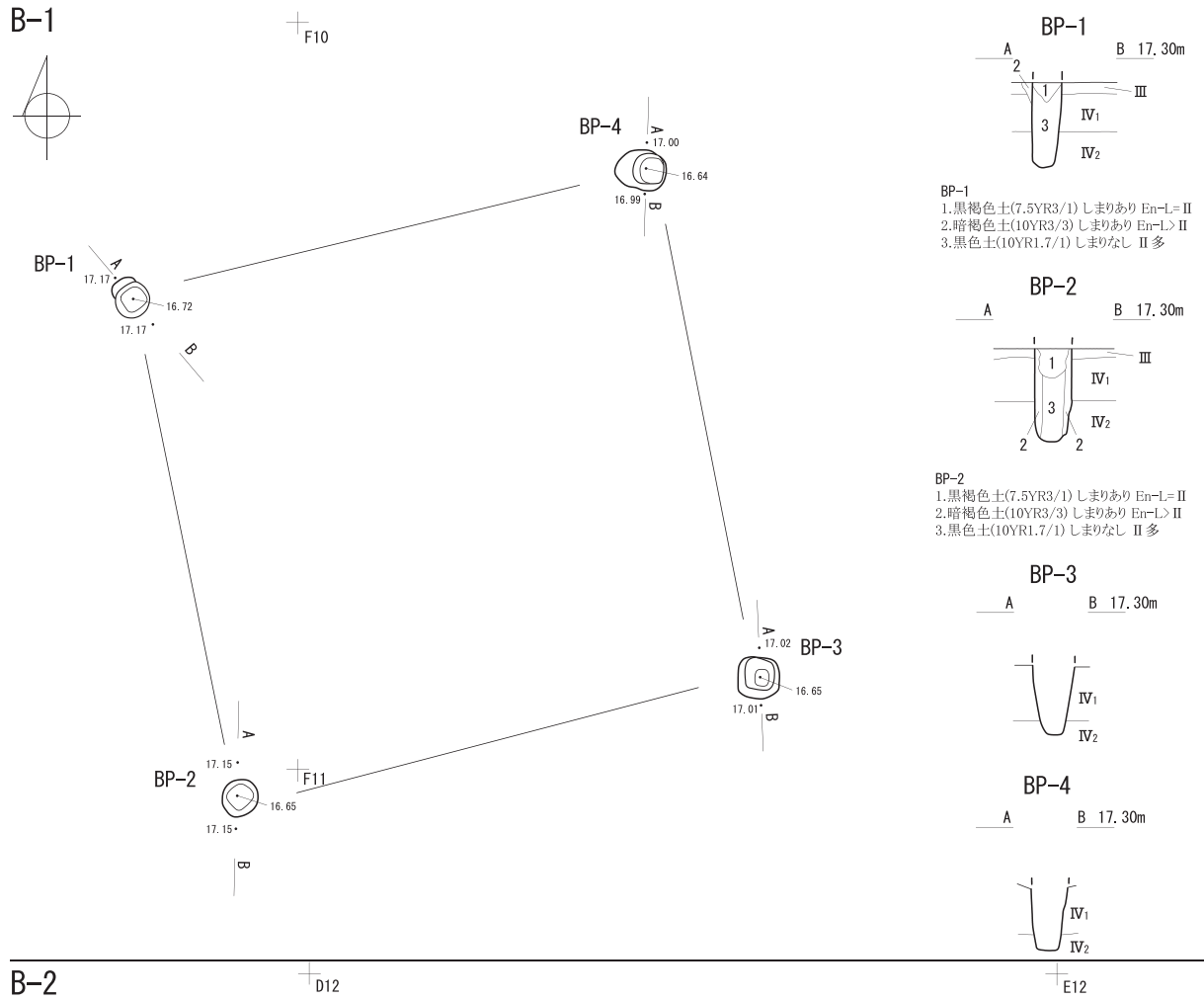


H-4

1. 黒色土(10YR1.7/1) しまりなし
2. 明赤褐色土(5YR5/6) しまりあり 焼土 炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2) しまりよし
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりなし 径1cm En-P少、En-L少
5. 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりなし 焼けバミスあり 径0.5cm炭化物含む
6. 赤褐色土(2.5YR4/6) しまりあり 焼けバミスあり 径0.25cm焼土粒含む
7. にぶい黄褐色土(10YR5/6) しまりあり 焼けバミスあり 根による攪乱?



図Ⅲ-9 竪穴住居跡(6)H-4



図Ⅲ-10 掘立柱建物跡B-1・2

断面は楕円形、BP-2～4の下端の横断面は隅丸方形。BP-1の縦断面は緩いU字形、BP-2～4の縦断面は隅丸長方形である。BP-3の2層・BP-4の1層は柱と掘方の充填土と考えられる。また、BP-3の3層の状況より抜柱されていなかったと推定される。約2.1m×約3.0mの方形配置、内倒れにEn-P層上面付近まで穿たれる掘方、端面を持つ柱穴形、炉が伴わないことより、倉庫ではない建物である。

**時期：**検出層準・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

## 4 土坑

### 土坑1 (P-1) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版12)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で楕円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。覆土は黒色土主体の層である。平面形は楕円形。底面は中央がゆるやかにくぼみ、壁は曲線的な立ち上がりである。遺物は出土していない。

**時期：**上位の層は削平され、また、遺物も出土していないため、不明であるが、本遺跡の主たる時期の続縄文時代後葉と推測する。(末光)

### 土坑2 (P-2) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版12・13)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で楕円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。覆土は黒色土主体で、En-a軽石が少量混じる。平面形は楕円形。底面、壁の立ち上がりともに曲線的である。遺物は出土していない。

**時期：**上位の層は削平され、また、遺物も出土していないため、不明であるが、本遺跡の主たる時期の続縄文時代後葉と推測する。(末光)

### 土坑3 (P-3) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版12・13)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で楕円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。覆土1・3層はEn-a軽石を少量含み、覆土2層は黒色土主体である。平面形は楕円形。底面は概して平坦で、壁はやや直立気味に立ち上がる。遺物は出土していない。

**時期：**上位の層は削平され、また、遺物も出土していないため不明であるが、本遺跡の主たる時期の続縄文時代後葉と推測する。(末光)

### 土坑4 (P-4) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版13)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で楕円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。主たる覆土は黒色土主体の覆土1層で、覆土2・3層は底面の壁際にみられる。平面形は円形。底面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器が1点出土した。

**時期：**出土土器と遺構の形状から続縄文時代後葉と推測する。(末光)

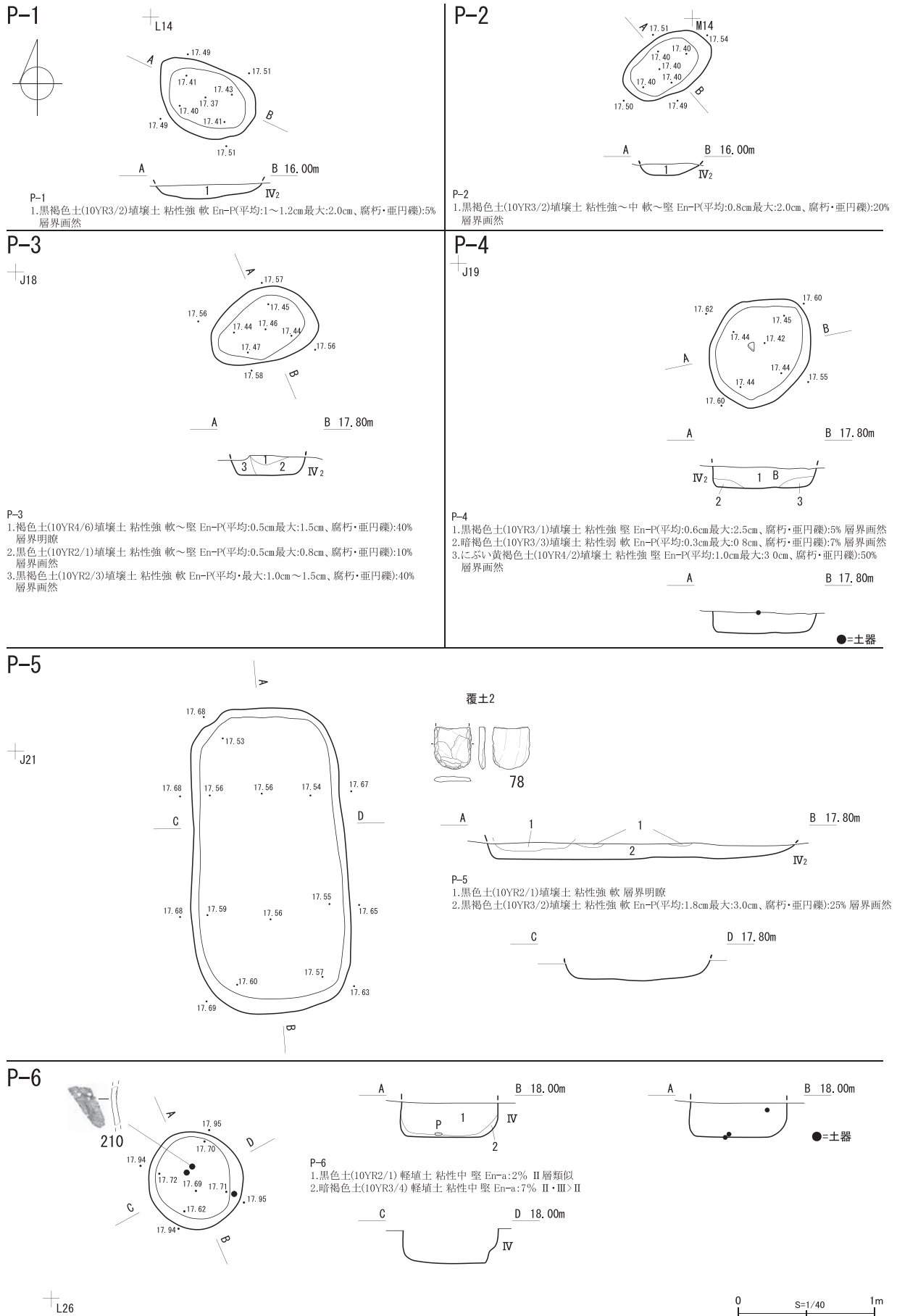
### 土坑5 (P-5) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版13)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で長方形の土がみられた。長軸方向に半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。規模から伸展葬の墓坑と考えられ、すぐ西側には同様なP-11があり、関連すると考える。上位の埋土1層は黒色土で、2層は黒褐色土で最下層である。平面形は隅丸長方形。底面は概して平坦で、壁は南側以外で直線的に立ち上がる。遺物は覆土1からⅠ群b類土器1点、覆土2からⅠ群b類土器1点、スクレイパー1点(78)、剥片1点が出土した。

**時期：**土器は混入と考えられ、遺構の形態から擦文文化期と考える。(末光)

### 土坑6 (P-6) (図Ⅲ-11、表Ⅲ-2、図版14)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。



図III-11 土坑・土坑墓(1)P-1~6

覆土は黒色土（覆土1）が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器6点（210など）、剥片1点、礫1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑7（P-7）（図Ⅲ-12、表Ⅲ-2、図版14）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色土（覆土2）が厚く堆積し、上部には黒色土（覆土1）が堆積する。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は礫のみで、特大型完形礫7点・半完形礫1点、大型半完形礫1点、中型完形礫3点・半完形礫2点の計14点が坑底やや上部から重なるように出土した。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑8（P-8）（図Ⅲ-12、表Ⅲ-2、図版14）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に暗褐色土（覆土2）、その上部に黒褐色土（覆土1）が堆積している。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅠ群b類土器1点が出土したのみである。

**時期：**遺物は縄文時代早期だが、遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑9（P-9）（図Ⅲ-12、表Ⅲ-2、図版14）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色土（覆土2・7）・黄褐色土（覆土4）・黒褐色土（覆土1・3・5・6）が薄くレンズ状に堆積し、En-Pは覆土2に多く含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1～3から剥片2点、小型礫1点が出土し、坑底付近からは小型礫14点が北東壁際で出土した。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑10（P-10）（図Ⅲ-12、表Ⅲ-2、図版15）

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で円形の土がみられた。半截したところ、礫が出土し、底面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。覆土1層は黒色土主体で、覆土2はⅣ層主体である。平面形は円形。底面・壁の立ち上がりは、曲線的である。遺物は覆土2から加工痕のある礫（195）、二次加工ある剥片1点、礫2点が出土した。

**時期：**出土遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と判断される。（末光）

#### 土坑11（P-11）（図Ⅲ-13、表Ⅲ-2、図版13・15）

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で長方形の土がみられた。長軸方向に半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。規模から伸展葬の墓坑と考えられ、すぐ東側には同様なP-5があり、関連すると考える。上位の埋土1・2層はEn-a軽石を含まないかわずかで、最下層の3層が比較的多く含む。平面形は隅丸長方形。底面は概して平坦で、壁の立ち上がりは直線的である。遺物は覆土2から剥片2点、覆土3からⅠ群b類土器1点が出土した。

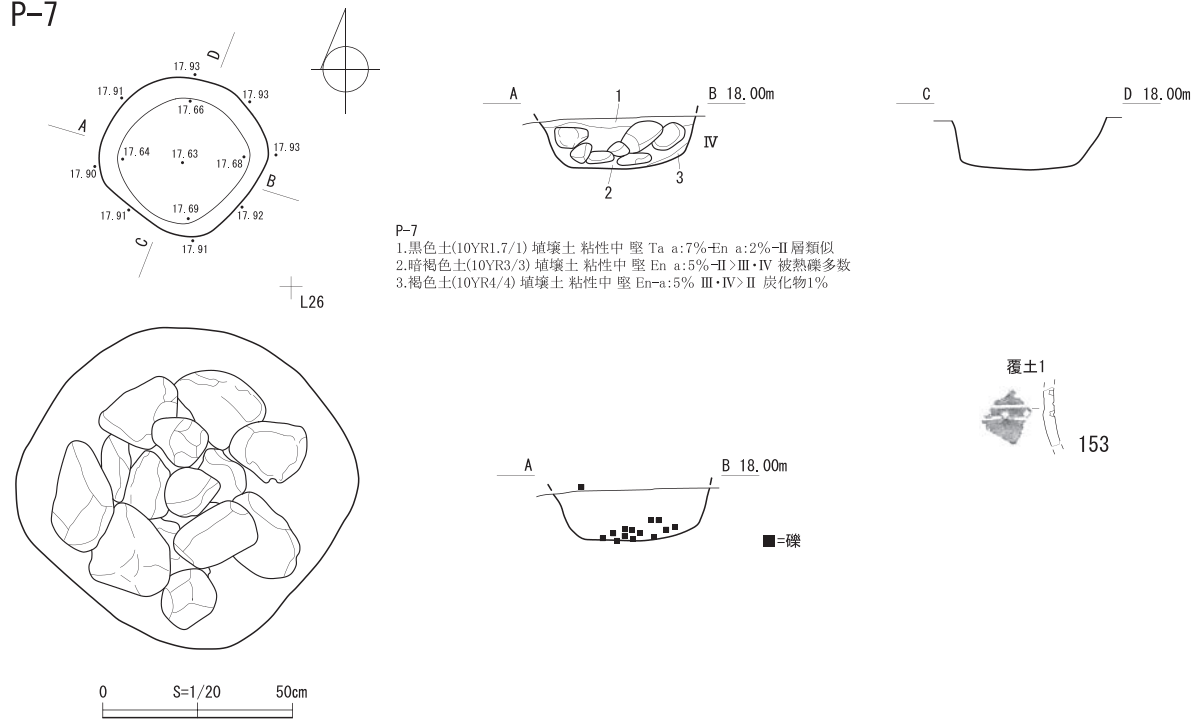
**時期：**土器は混入と考えられ、遺構の形態から擦文文化期と考える。（末光）

#### 土坑12（P-12）（図Ⅲ-13、表Ⅲ-2、図版15）

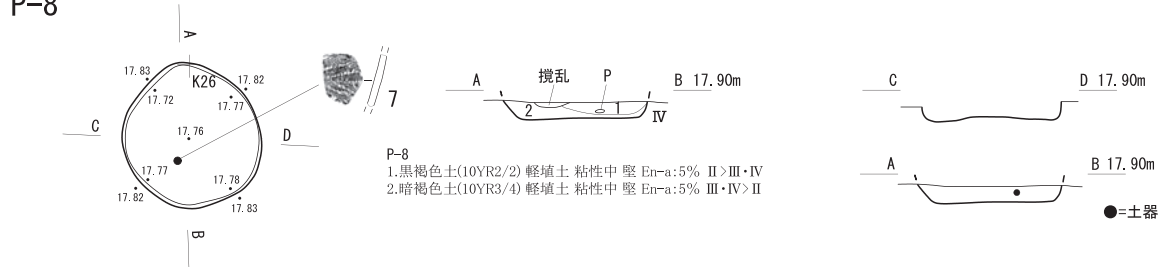
**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅲ層で礫の集中と楕円形の土がみられた。長軸方向に半截し、礫集中、底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。礫の集中があることから墓坑と考えられ、現場調査では、楕円形の1基の墓坑と考えたが、墓坑は円形のものが多いことや、礫集中の上位の礫が東側に偏っていること等から、東側に浅い1基が想定され、深い西側の墓坑を、東側のものが切っていると判断する。2基の重複であるが、埋土は黒褐色土層で分層できなかった。平面形は円形2基が重複している。底面は概して平坦で、壁の直線的に立ち上がりは直立気味である。また、断面図で、東側



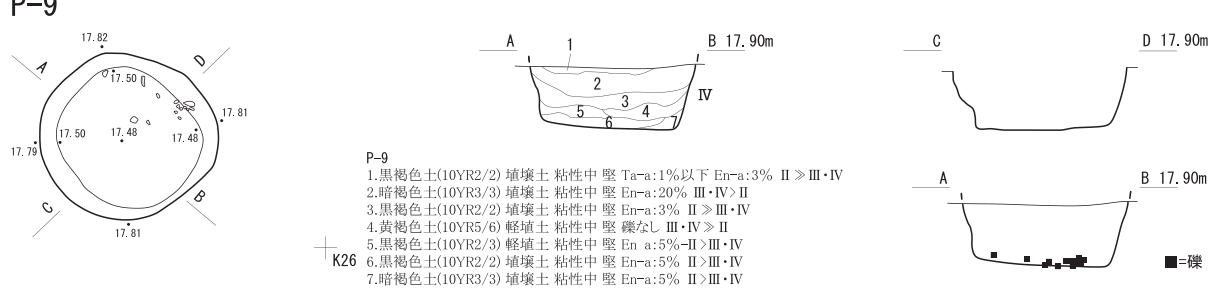
P-7



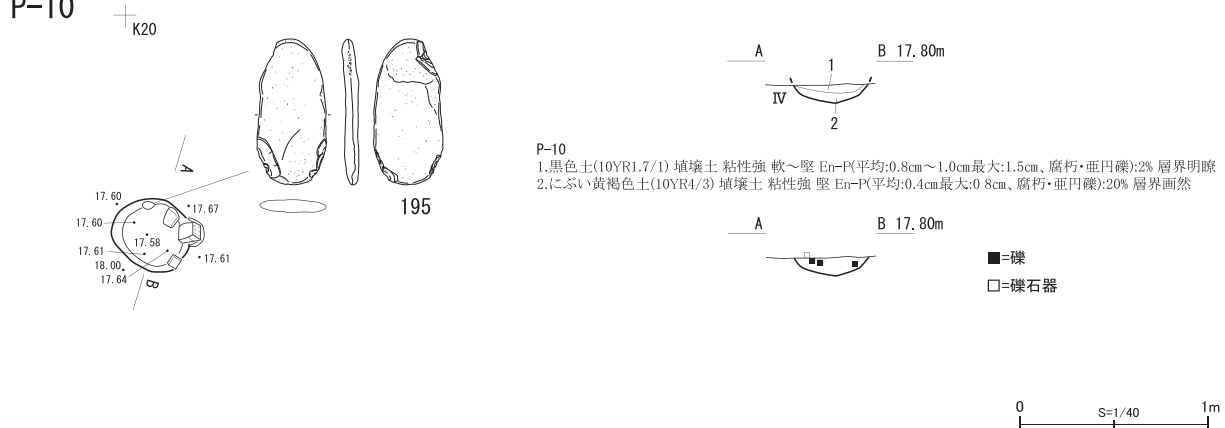
P-8



P-9

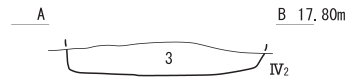
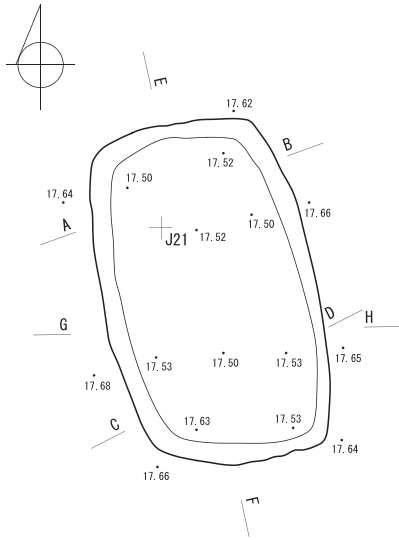


P-10

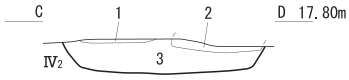


図III-12 土坑・土坑墓(2)P-7~10

P-11

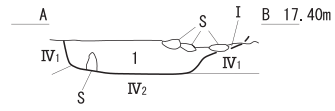
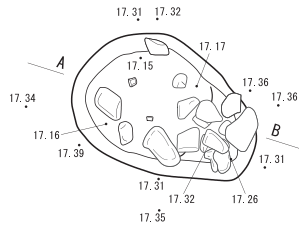


P-11  
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 埴壤土 粘性強 軟 層界明瞭  
 2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.8cm最大:1.5cm、腐朽・亜円礫):2% 層界明瞭  
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.4cm最大:1.8~2.0cm、腐朽・亜円礫):30% 層界面然



P-12

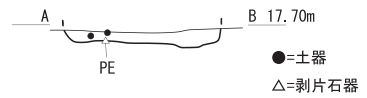
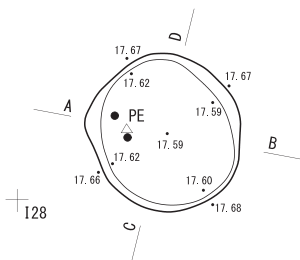
C18



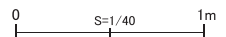
P-12  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性強 軟 Ta-a(平均:0.2cm、未風化・亜角礫):15% En-P(平均:0.5cm最大:2.0cm、腐朽・亜円礫):3% 層界面然



P-13



P-13  
 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 Ta-a:1%以下 En-a:7% II > III・IV  
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 輕埴土 粘性中 堅 En-a:5% II > III・IV



図III-13 土坑・土坑墓(3)P-11~13

の礫の下位付近が、新しい墓坑の坑底面と推測する。遺物は礫が大型完形1点、中型完形5点・半完形3点、小型半完形3点など、VI群b類土器8点、剥片1点が出土した。

**時期：**出土土器と遺構の構造から2基ともに墓坑で、続縄文時代後葉と考える。(末光)

#### 土坑13 (P-13) (図III-13、表III-2、図版15・16)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は壁際に暗褐色土(覆土2)が、その上位に黒色土(覆土1)が堆積する。坑底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類土器2点、楔形石器1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑14 (P-14) (図III-14、表III-2、図版16)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、IV層で楕円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。覆土は、上位の1層は赤色味を帯び、焼土の可能性を考える。覆土2・3層は黒褐色土主体である。平面形は楕円形。底面は南が若干低く、壁は開口気味に立ち上がる。遺物は剥片1点が出土した。

**時期：**上位の層は削平され、また、土器も出土していないため、不明であるが、本遺跡の主たる時期の続縄文時代後葉と推測する。(末光)

#### 土坑15 (P-15) (図III-14、表III-2、図版16)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、IV層で円形の土がみられた。半截したところ、礫集中、底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。形態や礫集中があることから墓坑と考える。上位の埋土1層のTa-a軽石は攪乱による混入と考えられる。平面形は円形。底面はゆるやかに中央がくぼみ、壁の立ち上がりは直立気味である。覆土上～中位で礫集中を確認し、覆土2からVI群a類土器1点が出土した。礫は特大型完形1点、大型完形1点、中型完形3点・半完形1点が含まれる。

**時期：**上位の層は削平されているが、出土遺物と遺構の構造から続縄文時代後葉と考える。(末光)

#### 土坑16 (P-16) (図III-14、表III-2、図版16)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、IV層で円形の土がみられた。半截したところ、礫集中、底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。形態や礫集中があることから墓坑と考える。埋土はEn-a軽石が混入する黒色土層である。平面形は円形。底面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。覆土中～下位で礫集中を確認し、覆土中からVI群b類土器3点が出土した。礫は大型半完形2点、中型完形3点・半完形1点が含まれる。

**時期：**上位の層は削平されているが、出土土器と遺構の構造から続縄文時代後葉と考える。(末光)

#### 土坑17 (P-17) (図III-14、表III-2、図版16・17)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は炭化物を含む黒褐色土(覆土1)のみである。坑底はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は白色粘土1点、炭化材3点、軽石1点、剥片2点、小型礫1点が出土している。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑18 (P-18) (図III-15、表III-2、図版17)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、IV層で円形の土がみられた。半截したところ、礫集中、底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。形態や礫集中があることから墓坑と考える。埋土は色調やEn-a軽石の混入量から五つに分けた。埋土1層は上位で、2・4層はIV層主体である。3層は本遺構の主体的な埋土で、5層は坑底面の壁際に部分的にみられる。平面形は円形。底面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。覆土下位付近で礫集中を確認した。埋土1・3から剥片が12点出土した。

礫は特大型完形1点、中型完形1点・半完形1点である。

**時期：**上位の層は削平され、土器も出土していないが、遺構の構造から続縄文時代後葉と考える。

(末光)

#### 土坑19 (P-19) (図Ⅲ-15、表Ⅲ-2、図版17)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、Ⅳ層で円形の土がみられた。半截したところ、礫集中、底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。形態や礫集中があることから墓坑と判断する。埋土はともにEn-a軽石を含有する黒色土層で、その量から二つに分けた。平面形は円形。底面は概して平坦で、壁の立ち上がりは直立気味である。覆土中～下位で礫集中を確認し、この礫集中の下位の坑底から黒曜石製のスクレイパー(67)、北大I式の口縁部破片(148)が出土した。そのほか、白色粘土、スクレイパー(47)、石核(145)や剥片が出土している。礫は特大型完形2点、大型完形5点・半完形1点、中型半完形2点が含まれる。

**時期：**出土した土器や遺構の構造から、続縄文時代後葉と考える。

(末光)

#### 土坑20 (P-20) (図Ⅲ-15、表Ⅲ-2、図版17)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に薄く褐色土(覆土2)が堆積し、その上位に黒色土(覆土1)が見られる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器2点、スクレイパー1点(53)、二次加工ある剥片1点、剥片2点、礫4点出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

#### 土坑21 (P-21) (図Ⅲ-16、表Ⅲ-2、図版17・18)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は最下部10cmに暗褐色土(覆土3)がほぼ水平に堆積し、その上位に逆円錐台状に15cm程度の黒色土(覆土2)が堆積し、その上面は皿状に落ち込み、円形に炭化物の混じる黒褐色土(覆土1)が堆積している。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は礫が多く、覆土2の上下から出土し、下部にはほぼ水平に小・大型礫が分布し、上部には中央に落ち込むように傾斜して中型礫が分布している。覆土2にはⅠ群b類土器(8)、Ⅵ群b類土器の底部(243)、石核(163)、「方割礫」素材のたたき石(173)などが出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

#### 土坑22 (P-22) (図Ⅲ-16、表Ⅲ-2、図版18)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に薄く暗褐色土(覆土4)があり、その上位に黒褐色土(覆土3)が厚く堆積し、暗褐色土(覆土2)がブロック状に混じる。全体的にEn-Pが混入し、覆土は掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は少なく、小型の礫片が覆土3から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

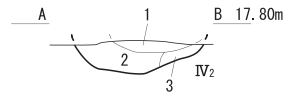
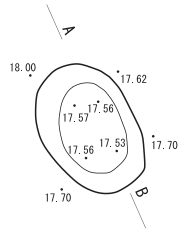
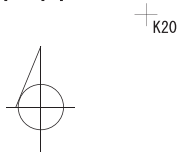
#### 土坑23 (P-23) (図Ⅲ-16、表Ⅲ-2、図版28)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の暗褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に暗褐色土(覆土3)、黄褐色土(覆土4)があり、その上位に黒褐色土(覆土2)が薄く、さらにその上位に暗褐色土(覆土1)が堆積している。全体的にEn-Pが混入し、覆土は掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。礫は小・中型が南東部の覆土2直上に中央に落ち込むように分布している。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

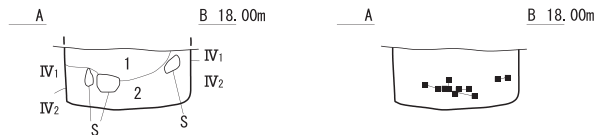
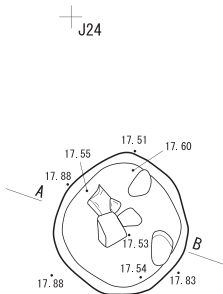
P-14



P-14

- 1. 明赤褐色土(5YR5/8) 埴壤土 粘性強 すこぶる堅 En-P(平均:1.0cm最大:2.0cm 腐朽・亜円礫):2% 層界明瞭 炭化物微量
- 2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.8cm最大:2.3cm、腐朽・亜円礫):5% 層界面然
- 3. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性強 すこぶる堅 En-P(平均:0.4cm、腐朽・亜円礫):2% 層界面然

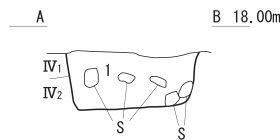
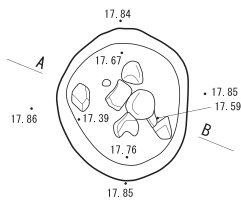
P-15



P-15

- 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性強 軟 Ta-a?(平均:0.2cm最大:0.4cm 未風化・亜角礫):15% En-P(平均:1.0cm最大:1.5cm、腐朽・亜円礫):3% 層界明瞭
- 2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.8~1.0cm最大:2.0cm、腐朽・亜円礫):10% 層界面然

P-16

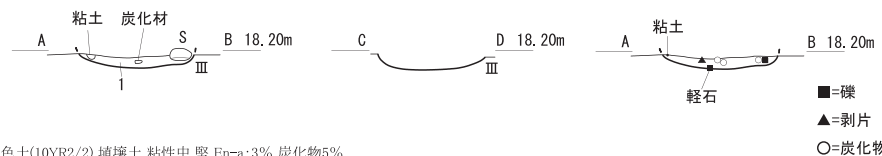
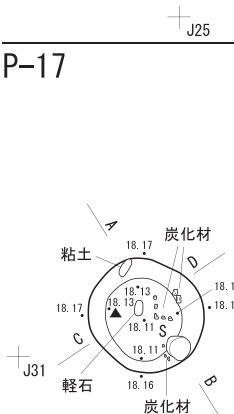


P-16

- 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.4cm最大:2.5cm、腐朽・亜円礫):15% 層界明瞭

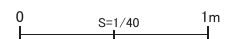


P-17



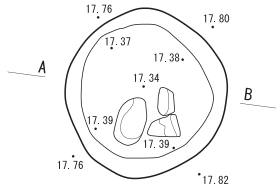
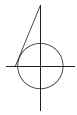
P-17

- 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中堅 En-a:3% 炭化物5%
- No.4. 灰白色土(2.5Y8/2) 重埴土 粘性強 堅 礫なし

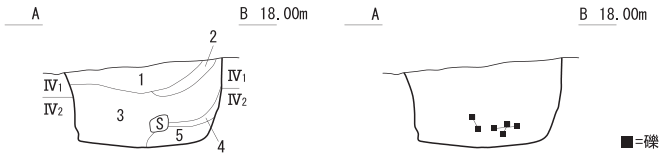


図III-14 土坑・土坑墓(4)P-14~17

P-18



+130

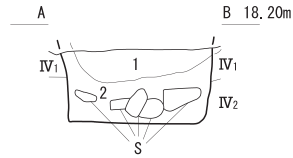
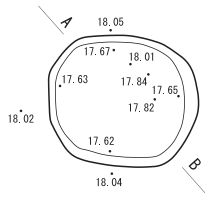


P-18

1. 黒色土(10YR1.7/1) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.2cm最大:3.0cm 腐朽・亜円礫):1% 層界明瞭
2. 暗褐色土(10YR3/3~3/4) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:1.2cm最大:2.0cm、腐朽・亜円礫):40% 層界明瞭
3. 黒褐色土(10YR3/2) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.8cm最大:2.5cm、腐朽・亜円礫):15% 層界明瞭~面然
4. 明黄褐色土(10YR6/6) 埴壤土 粘性強 軟~堅 En-P(平均:1.2cm最大:2.2cm、腐朽・亜円礫):25% 層界明瞭
5. 黒褐色土(10YR3/2) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:1.0cm最大:3.0cm、腐朽・亜円礫):1% 層界面然

P-19

+131



P-19

1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性強 軟 En-P(平均:0.2~0.3cm最大:0.5cm、腐朽・亜円礫):7% 層界明瞭
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性強 軟~堅 En-P(平均:1.0cm最大:1.3cm、腐朽・亜円礫):15% 層界面然



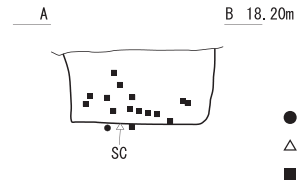
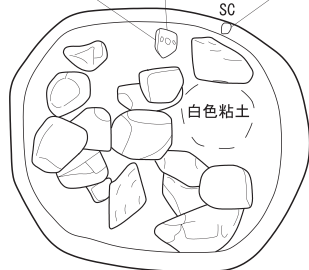
覆土2



覆土2

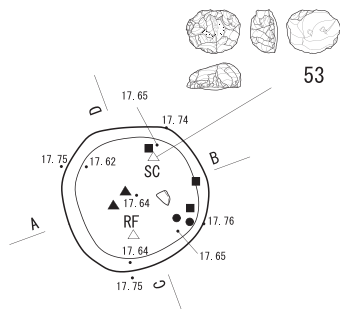


土器

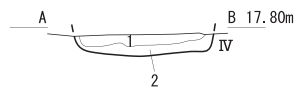


0 S=1/20 50cm

P-20



+125



P-20

1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):1% II類似
2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):5% III類似

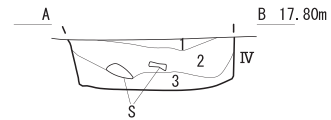
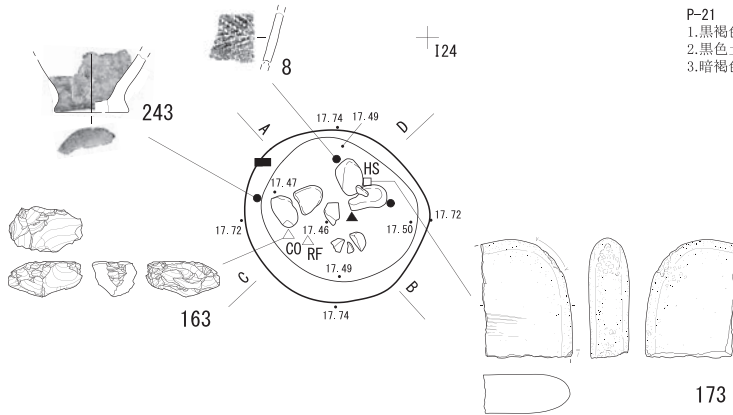
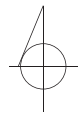


- =土器
- =礫
- ▲=剥片
- △=剥片石器

0 S=1/40 1m

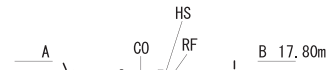
図III-15 土坑・土坑墓(5)P-18~20

P-21



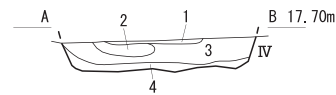
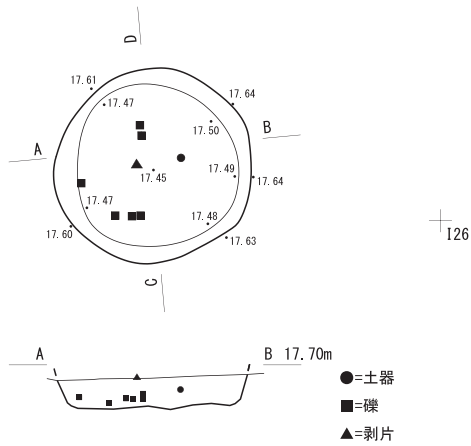
P-21

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II >> III・IV 1~2cm炭化物あり
2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性やや強 堅 En-P(1cm):3% II 類似
3. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性やや強 堅 En-P(1~3cm):7% II < III・IV



- =土器
- =礫
- ▲=剥片
- △=剥片石器
- =礫石器

P-22



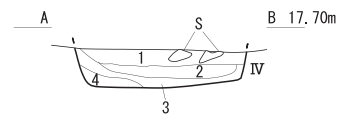
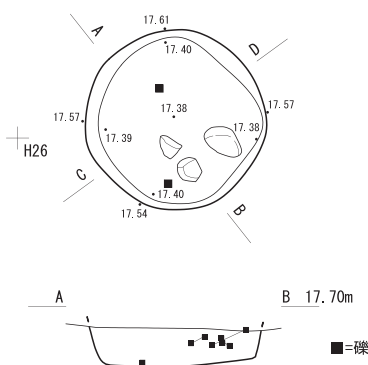
P-22

1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II 類似
2. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):30% II < III・IV
3. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II > III・IV
4. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II < III・IV



- =土器
- =礫
- ▲=剥片

P-23

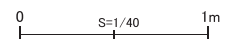


P-23

1. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):15% II < III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV 1mm程度の黄褐色粒含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):15% II < III・IV
4. 黄褐色土(10YR5/6) 埴土 粘性中 堅 En-P(2~3cm):40% IV 類似



- =礫



図III-16 土坑・土坑墓(6)P-21~23

**土坑24 (P-24)** (図Ⅲ-17、表Ⅲ-2、図版18)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3)が厚く堆積し、その上位に黒色土(覆土2)が薄く、さらに上位に黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土2には炭化物が少量混じる。覆土1・3にはEn-Pが混入し、掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、小型の礫片、Ⅵ群b類土器の底部片(231)が壁際の坑底付近から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑25 (P-25)** (図Ⅲ-17、表Ⅲ-2、図版18)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3)が10cm程堆積し、その上部に黒褐色土(覆土2)がブロック状に挟まり、黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは上部の覆土1には多く混入するが、下位の覆土3には少ない。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。礫は中型が多く、特大型が2点含まれ、それらは土坑南側、覆土3直上にほぼ水平に分布する。Ⅵ群b類底部破片(231)がほぼ同層位から出土し、P-24の底部片と接合している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑26 (P-26)** (図Ⅲ-17、表Ⅲ-2、図版19)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底縁部に暗褐色土(覆土3)、坑底から下部にかけて炭化物を含む黒色土(覆土2)が堆積し、その皿状に窪んだ上部に黒褐色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土1・3に含まれるが覆土2には少ない。坑底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、礫は覆土2の直上に小・中型が、覆土3の直上に小型が出土した。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑27 (P-27)** (図Ⅲ-17、表Ⅲ-2、図版19)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底ににぶい黄褐色土(覆土3)が薄く堆積し、その上位に炭化物を含む黒褐色土(覆土2)、さらにその上位に皿状に黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは全体に少ない。坑底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は北西壁際の覆土3から剥片が出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑28 (P-28)** (図Ⅲ-18、表Ⅲ-2、図版19)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底の一部の黒褐色土(覆土2)以外は黒色土(覆土1)である。En-Pは覆土1には少なく、炭化物は覆土1に含まれる。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、小型礫が坑底近くから出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

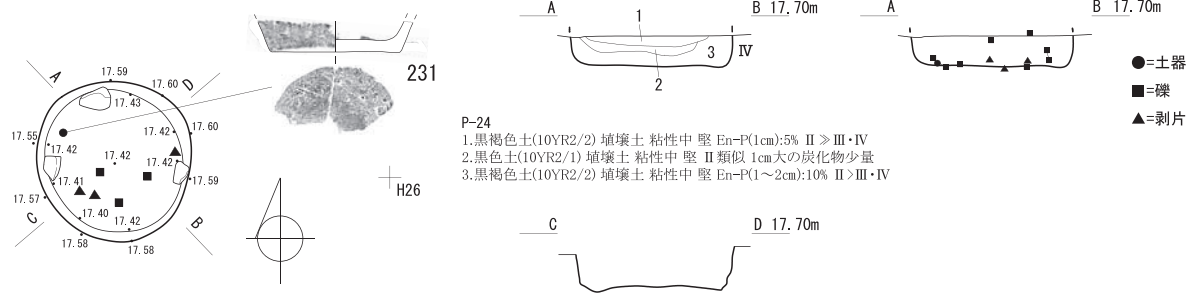
**土坑29 (P-29)** (図Ⅲ-18、表Ⅲ-2、図版19)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。非常に浅く、覆土は坑底に暗褐色土(覆土2)が薄く堆積し、その上部に黒色土(覆土1)が堆積している。En-Pは覆土2に多く、覆土1には少ない。坑底は南北方向にやや凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。遺物は礫が主体で、扁平な中型礫が覆土2上面の周縁部に分布している。

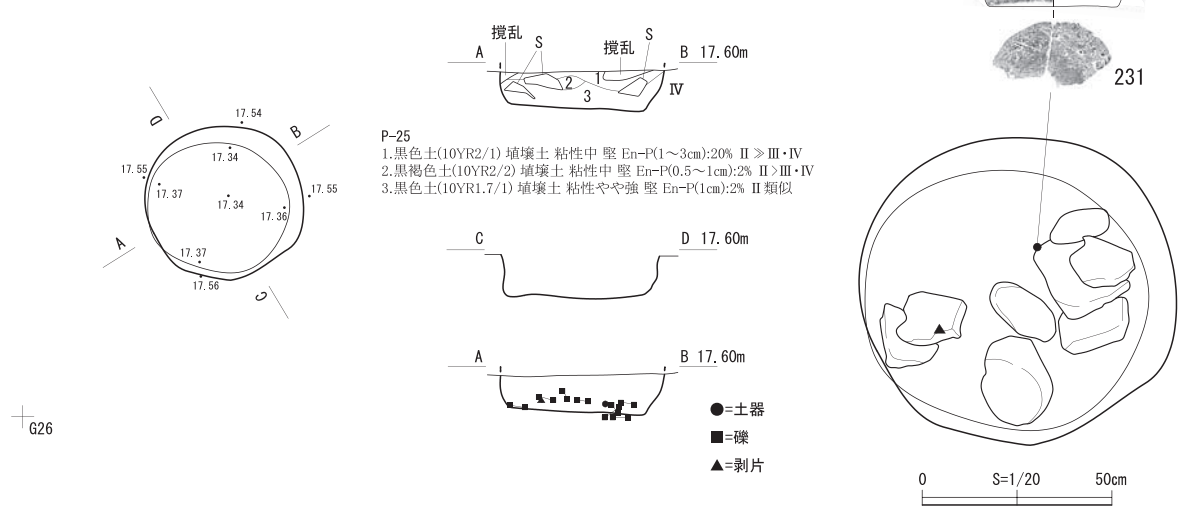
**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)



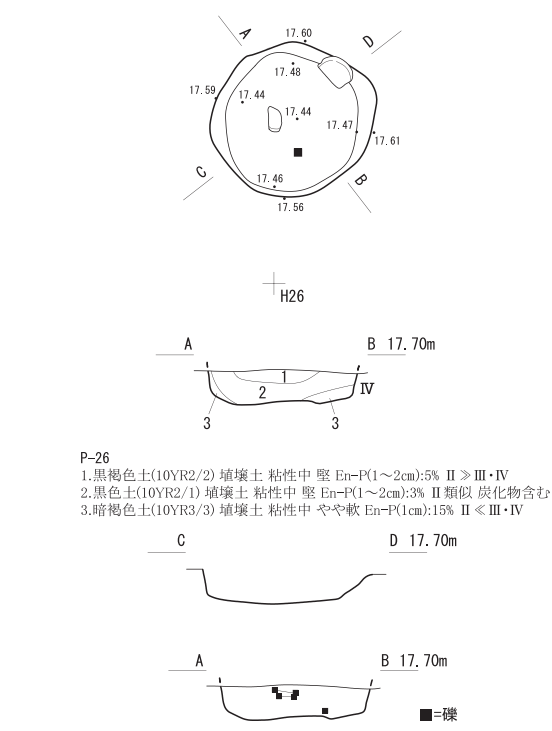
P-24



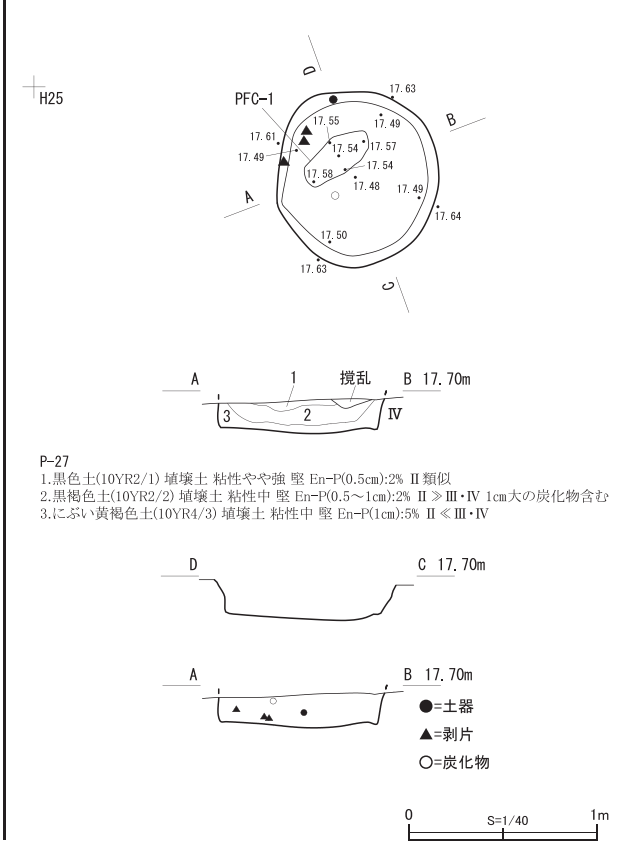
P-25



P-26



P-27



図III-17 土坑・土坑墓(7)P-24~27

**土坑30 (P-30)** (図Ⅲ-18、表Ⅲ-2、図版19・20)

**調査・特徴：**調査区南側の斜面上部で包含層を掘り下げたところ、Ⅱ層中で土器注口部(174)や小型礫が出土し、それらを残して掘り進めるとⅢ層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3)が堆積し、上部は斜面下部にあたる南西側に黒褐色土(覆土2)、中央から北西側に黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土2に多量に含まれ、覆土1には少ない。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は上下二層から出土し、上部は北側の縁に注口部(174)や底部(251)・小型礫が、下部は覆土3上部から中・大・特大型礫がほぼ水平に出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑31 (P-31)** (図Ⅲ-19、表Ⅲ-2、図版20)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、調査を行った。覆土は、坑底全体に厚く暗褐色土(覆土7)が堆積し、その上部には黒色土(覆土2・4)、黒褐色土(覆土1・3・5)が堆積する。南西側の覆土7上部には焼土(PF-1)とその周辺に炭化材が検出された。En-Pは全体的に多く含まれ、掘り上げ土と思われる。坑底はほぼ平坦で、壁は坑底から弧を描いて立ち上がる。平面形は幅広の小判形で、坑底の四隅にはやや内傾する柱穴がある。柱穴は直径10cm程で、先端部は丸～平坦で、覆土はしまりが弱い。柱穴があることから上屋構造のある土坑墓と考えられる。遺物はⅥ群b類土器6点などが出土し、それらは覆土上部に偏る。覆土下層出土炭化材(HD-W9)はコナラ属コナラ亜属コナラ節と判定された。

**時期：**焼土(PF-1)出土炭化材には $1,715 \pm 20$  (HD-D10)、覆土下層出土炭化材には $1,715 \pm 20$  (HD-D11)の年代測定値が得られている。年代測定値・出土遺物・遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑32 (P-32)** (図Ⅲ-19、表Ⅲ-2、図版20)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底縁部に褐色土(覆土3)、坑底全体に黒褐色土(覆土2)が堆積し、その上部に黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは全体に少量含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は礫のみで、中・大・特大型があり、覆土2上面でほぼ水平に全面から出土し、中央の1点はその上部に重なって検出された。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑33 (P-33)** (図Ⅲ-20、表Ⅲ-2、図版21)

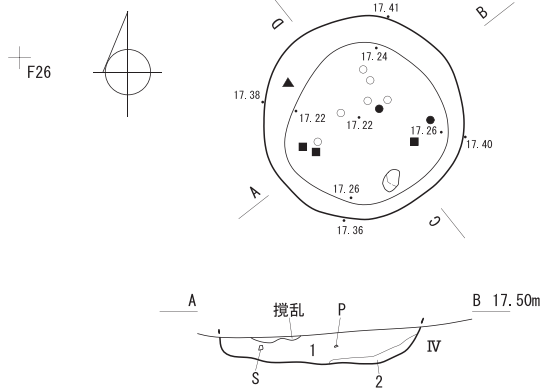
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の暗褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にやや厚く暗褐色土(覆土1)が堆積している。En-Pは覆土中に多量に含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は全て礫で、坑底から1cm程上位からほぼ水平に出土した。東側が密で、重なりが見られる。小～特大型まであり、大・特大型の比率が高い。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

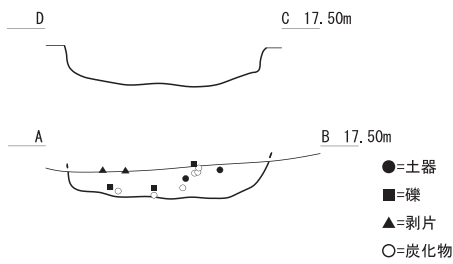
**土坑34 (P-34)** (図Ⅲ-20、表Ⅲ-2、図版21)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に厚く暗褐色土(覆土5)がほぼ水平に堆積し、その上位に片縁が斜めにそれ以外はほぼ水平に覆土2～4が堆積している。覆土にはEn-Pが多量に含まれ、掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は中型礫2点が覆土3の直上の中央寄りから出土し、混入と

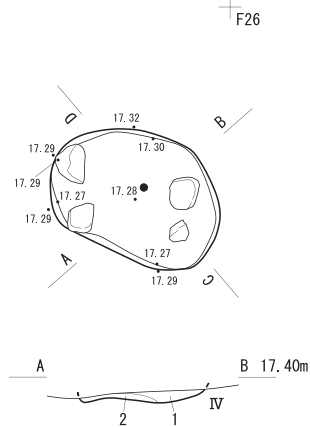
P-28



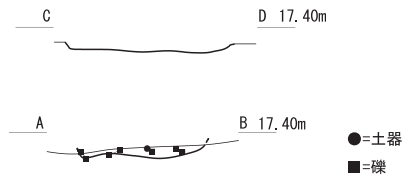
P-28  
 1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II 類似 1cm大の炭化物含む  
 2.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):15% II >> III・IV



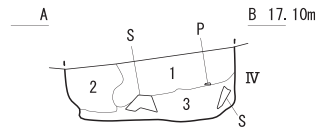
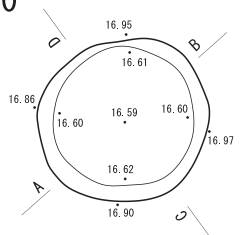
P-29



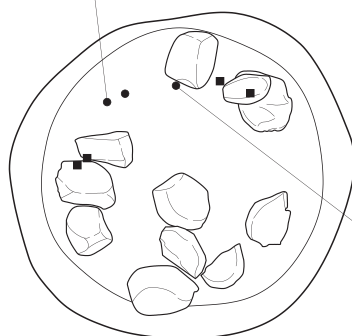
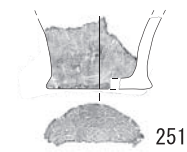
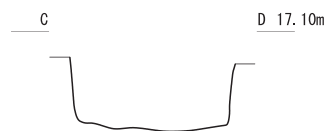
P-29  
 1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II 類似  
 2.暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II < III・IV



P-30



P-30  
 1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):1% II 類似  
 2.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1~2cm):20% II=III・IV  
 3.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1~2cm):5% II > III・IV



0 S=1/20 50cm

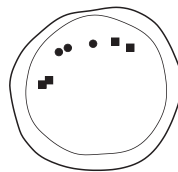
G29

覆土1

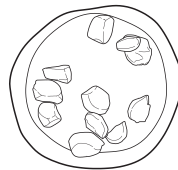
113

174

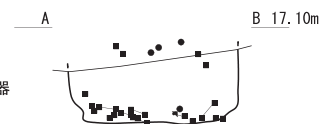
上部



下部



●=土器  
 ■=礫

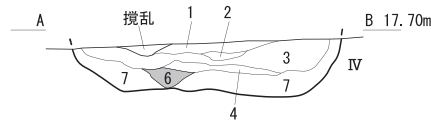
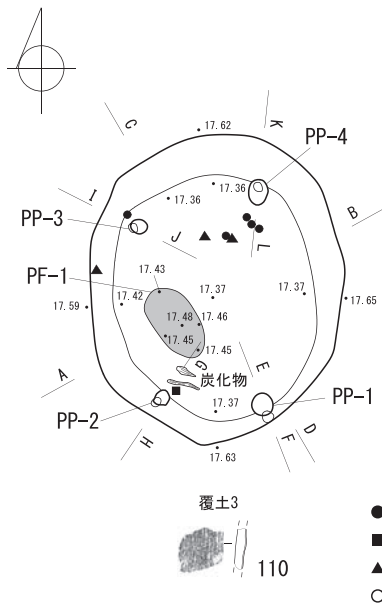


0 S=1/40 1m

図III-18 土坑・土坑墓(8)P-28~30

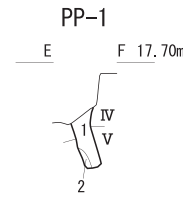
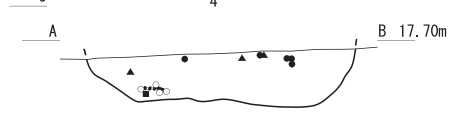
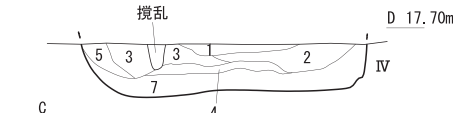
P-31

H24



P-31

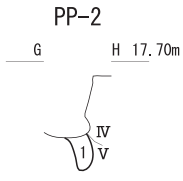
1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):3% II >> III・IV
2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):5% II 類似
3. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):7% II = III・IV
4. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性やや強 堅 En-P(1cm):3% II 類似
5. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II > III・IV
6. 赤褐色土(5YR4/8) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II < III・IV 焼土
7. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II < III・IV



HP-1

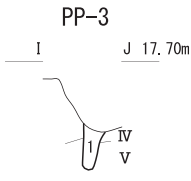
1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟 En-P(1cm):1% II > III・IV
2. 褐色土(10YR4/6) 砂壤土 粘性弱 軟 II < IV

H25



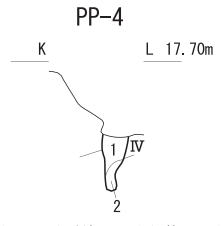
HP-2

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟 II > III・IV



HP-3

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟 II > III・IV

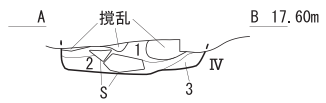
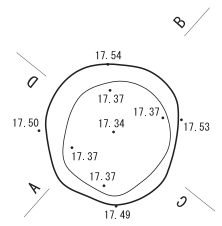


HP-4

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟 En-P(1cm):1% II > III・IV
2. 黄褐色土(10YR5/6) 砂壤土 粘性中 軟 II < IV

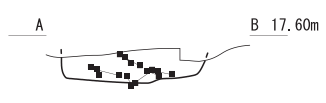
P-32

G26

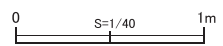


P-32

1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性やや強 堅 En-P(1cm):1% II 類似
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II > III・IV
3. 褐色土(10YR4/6) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II < III・IV

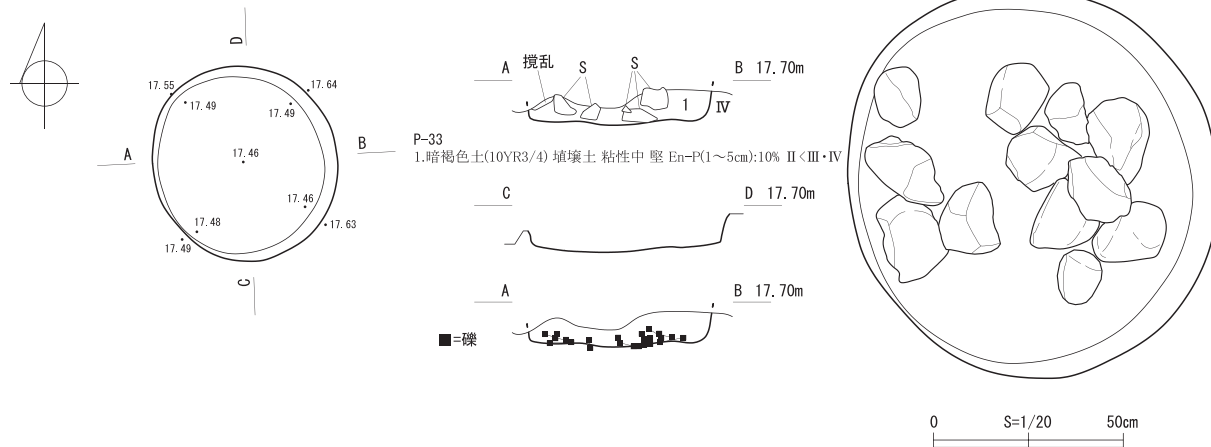


■=礫



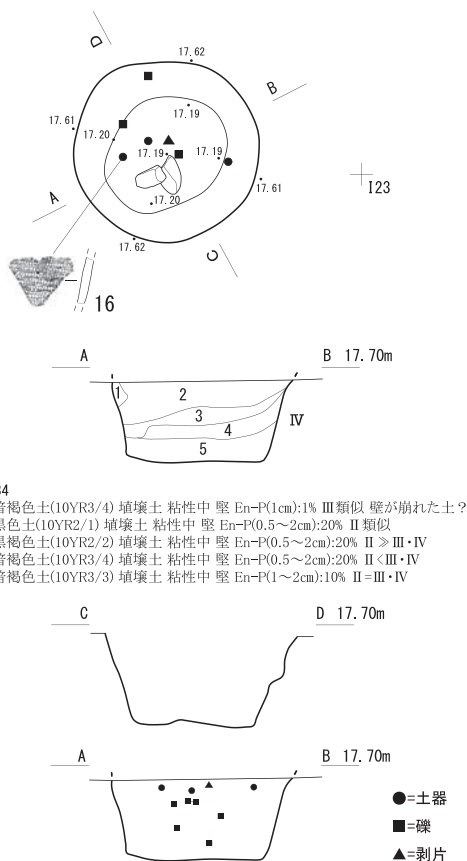
図III-19 土坑・土坑墓(9)P-31・32

P-33

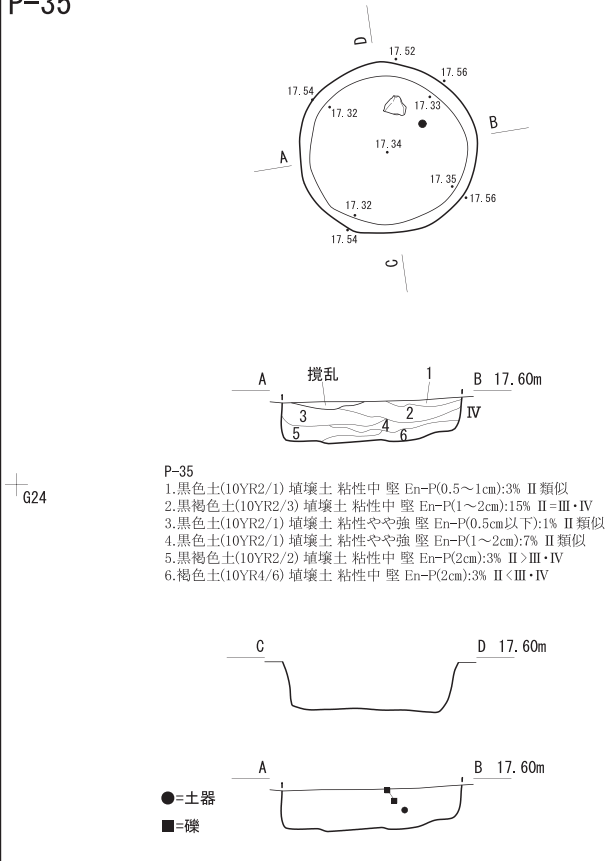


H26

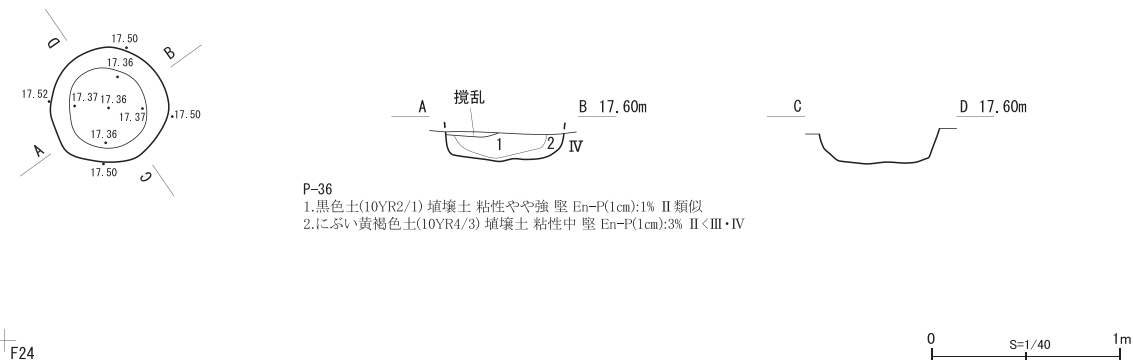
P-34



P-35



P-36



F24

図III-20 土坑・土坑墓(10)P-33~36

みられるⅥ群a類の土器片(16)が1点出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑35 (P-35)** (図Ⅲ-20、表Ⅲ-2、図版21)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は覆土1～6が薄く水平に堆積する。En-Pは覆土3を除いて多く含まれる。坑底は水平で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は小型礫片1点、Ⅵ群b類土器1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑36 (P-36)** (図Ⅲ-20、表Ⅲ-2、図版21)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底から側縁にかけて薄くにぶい黄褐色土(覆土2)が堆積し、上位にはEn-Pの少ない黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は緩やかに弧を描いて立ち上がる。遺物は出土していない。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑37 (P-37)** (図Ⅲ-21、表Ⅲ-2、図版22)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にほぼ水平に暗褐色土(覆土4)が堆積し、その上位には黒色土(覆土3)が斜めに堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1)が堆積している。En-Pは覆土全体に含まれ、覆土1・3には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器(167・286)、スクレイパー(85)・石核などが出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑38 (P-38)** (図Ⅲ-21、表Ⅲ-2、図版22)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で二つの円形が連結した黒色土の落ち込みを確認した。表面を精査したところ二つの土坑が切り合っていると判断し、長軸方向で半截した。断面を検討した結果、南東側にあたる本土坑が新しく、隣接する相対的に浅いP-41が古いと判断し、本土坑を先に調査を行った。覆土はほぼ全て水平に堆積し、坑底からいずれも黒褐色土の覆土6～2が順に堆積し、最上部に黒色土(覆土1)が堆積している。En-Pの混入度は覆土によって異なり、覆土2・3・5が多い。全体的に掘り上げ土と判断できる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は礫が多く、覆土6の坑底近くと上層に分けられる。坑底近くは中～特大型の完形品がほとんどで、北東側に偏在し、上層は破片～完形までの中型礫や砥石(193)が縁辺部から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

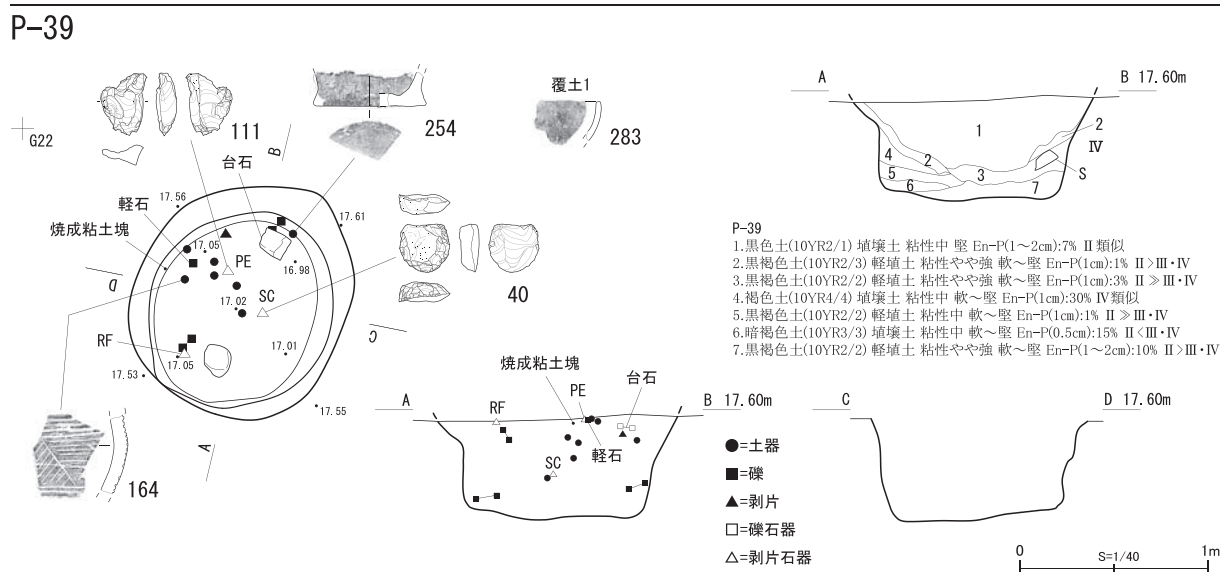
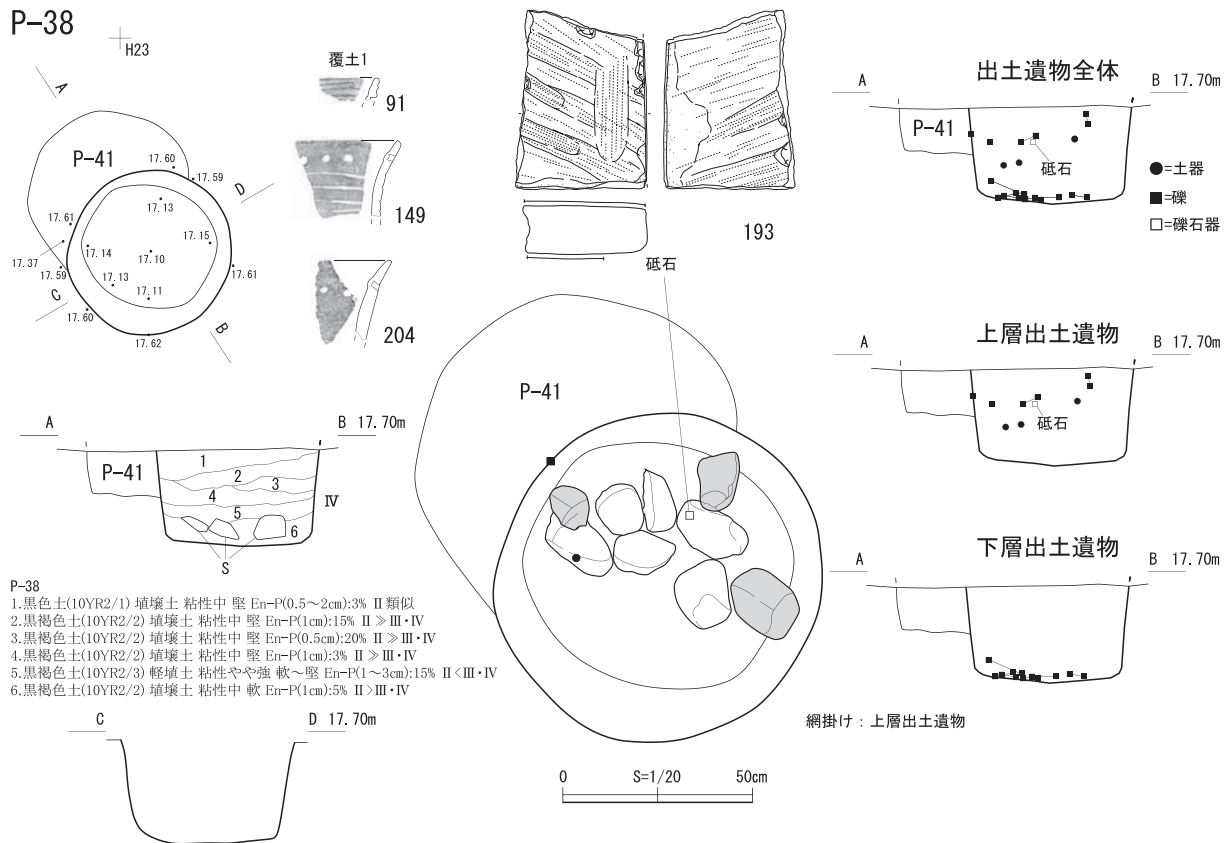
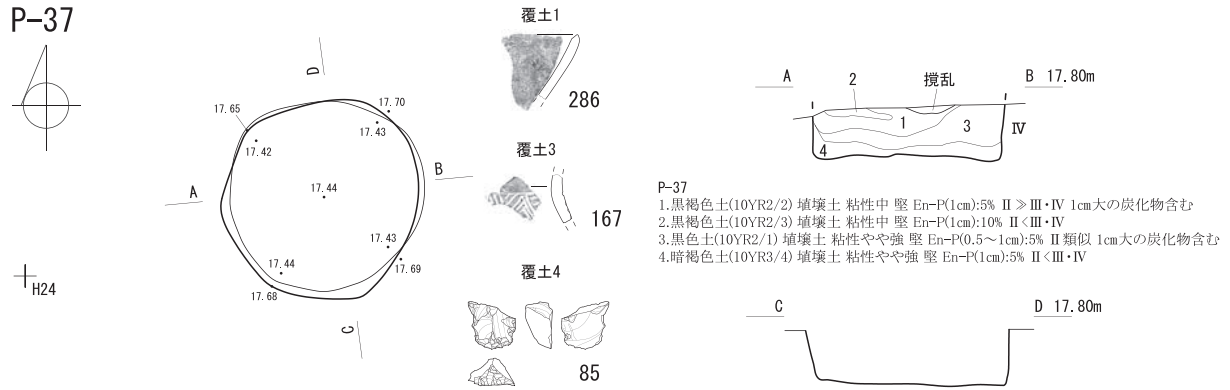
**土坑39 (P-39)** (図Ⅲ-21、表Ⅲ-2、図版22)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。長軸方向に半截し、調査を行った。覆土は、下部は褐色～黒褐色土の薄い層が周縁に落ち込み(覆土2～7)、上部は黒色土(覆土1)が厚く堆積する。En-Pは下部には多く、上層にはやや少ない。土坑縁辺が崩落した大きな窪みに黒色土が堆積したものと思われる。坑底は平坦で、壁は下部が垂直に立ち上がり、上部は崩落した個所が斜めに開く。遺物は覆土1を除き少なく、完形の特大型礫と中型の礫片が長軸の両端の坑底近くから出土している。流れ込みとみられる覆土1からはⅥ群b類のミニチュア杯(283)・底部(254)・胴部(164)、スクレイパー(40)、楔形石器(111)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑40 (P-40)** (図Ⅲ-22、表Ⅲ-2、図版23)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。



図III-21 土坑・土坑墓(11)P-37~39

覆土は下部に黒褐色土（覆土5）、褐色土（覆土4）が厚く堆積し、その上位に黒褐色土（覆土2）、黒色土（覆土1）が堆積している。En-Pは下位に多い。炭化物は上位の覆土1に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、中・大型の半完形礫が坑底近くから2点出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑41（P-41）**（図Ⅲ-22、表Ⅲ-2、図版22）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で二つの円形が連結した黒色土の落ち込みを確認した。表面を精査したところ二つの土坑が切り合っていると判断し、長軸方向で半截した。断面を検討した結果、南東側にあたるP-38が新しく、本土坑が古いと判断し、P-38の後に調査を行った。P-38が深く、本土坑は約半分のみが残存していた。覆土は坑底に黒褐色土（覆土2）、その上位に厚く黒色土（覆土1）が堆積している。En-Pは全体的に多く含まれ、掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器（114・143）などが覆土1から少量出土し、礫は小型の礫片のみである。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑42（P-42）**（図Ⅲ-22、表Ⅲ-2、図版23）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に暗褐色土（覆土3）が部分的に堆積し、その上位に厚く黒褐色土（覆土2）が堆積している。さらに最上位の中央の落ち込みに黒色土（覆土1）がある。En-Pは覆土1・2には少なく、覆土3には多く含まれ、炭化物は覆土1に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は小型の礫片のみで、ほとんどが覆土2中位からの出土である。礫は礫片同士が3個体（礫接合11~13）接合し、それらは散漫に分布している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑43（P-43）**（図Ⅲ-22、表Ⅲ-2、図版23）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みと礫の分布を確認した。半截し、調査を行った。坑底から5cm程が残存している状態で、覆土は黒褐色土（覆土1）のみである。En-Pはほとんど含まれない。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器1点、礫5点で、礫は中型の完形・半完形が4点、小型礫片が1点出土した。それらは全て、坑底から1cmほど上位からの検出である。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑44（P-44）**（図Ⅲ-23、表Ⅲ-2、図版23）

**調査・特徴：**Ⅱ層を調査中、Ⅲ層で礫や土器の集中域とその周辺の円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒色土（覆土1）のみで、En-Pを含まない。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土上部にⅥ群b類の土器片（182）が中央に落ち込むように、小・大型の礫片が縁辺部から出土した。そのほか、集合沈線のあるⅥ群b類土器片（72）・スクレイパー（90）・石核（147）、やや高い位置からⅥ群b類土器3点が出土している。

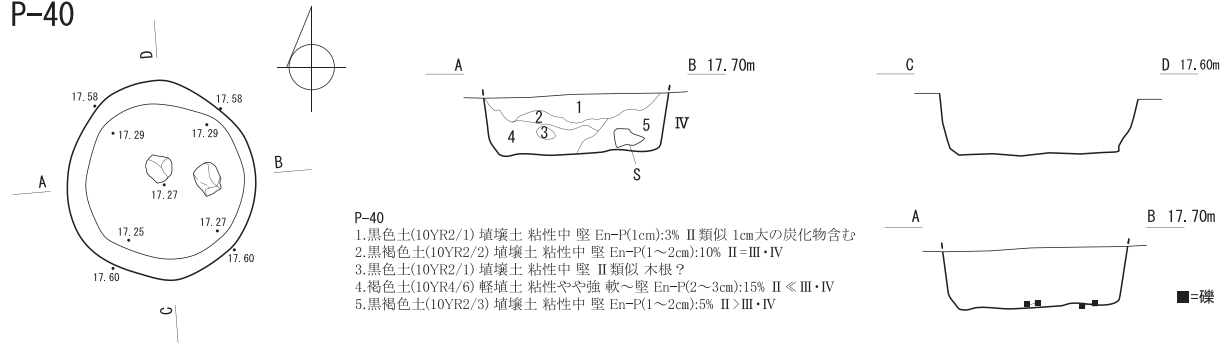
**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑45（P-45）**（図Ⅲ-23、表Ⅲ-2、図版24）

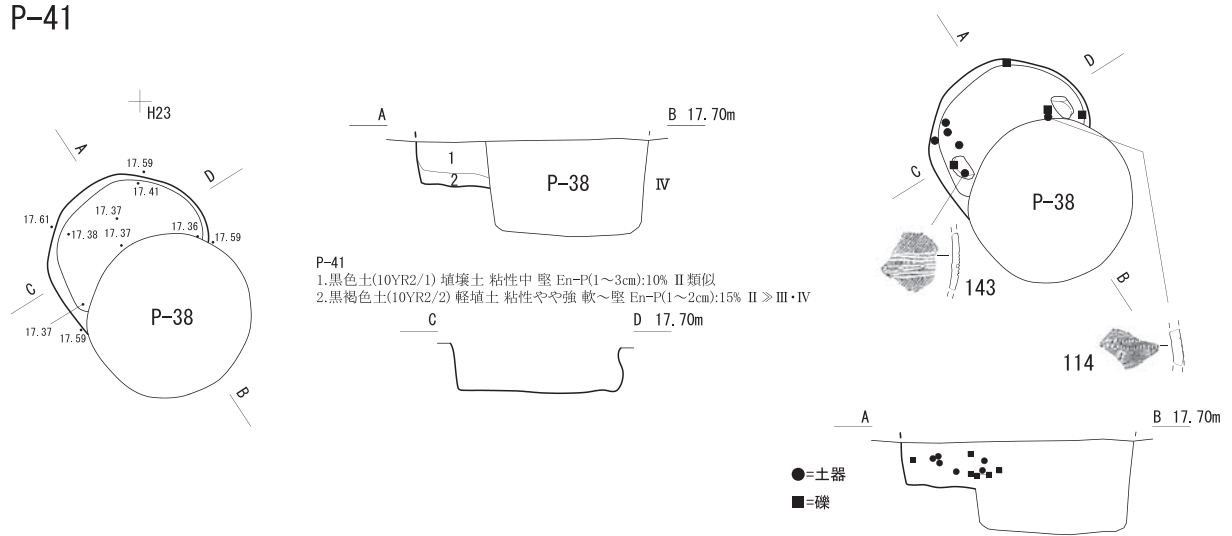
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色・黒褐色土が薄く堆積する。最下層の覆土5を除き、En-Pの混入度は低い。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は礫と土器片が出土し、土器はⅥ群b類の坏破片（288）などが、礫は中層（覆土3）、下層（覆土5）の二層に分かれ、坑底付近北縁で中型完形礫1点が出



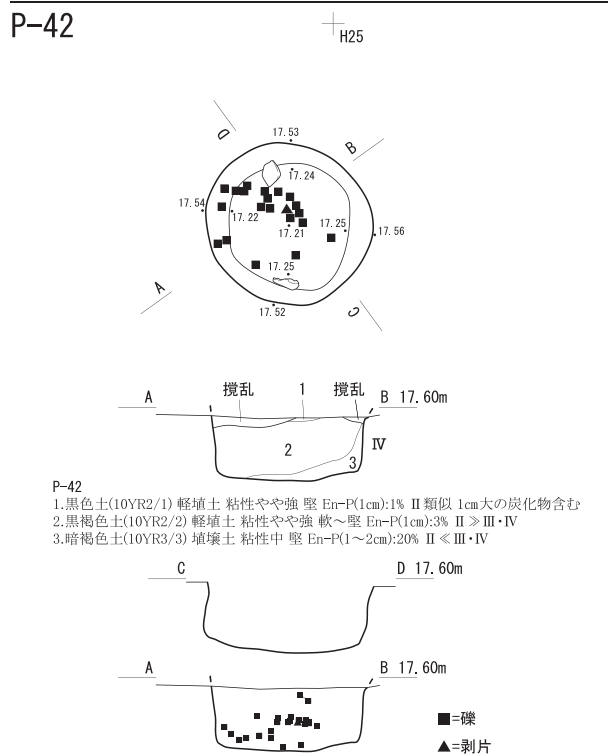
P-40



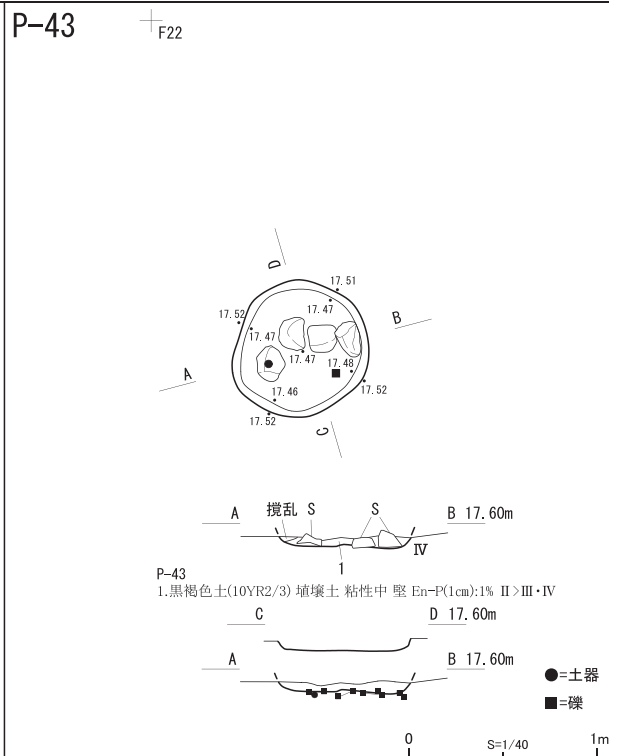
P-41



P-42



P-43



図III-22 土坑・土坑墓(12)P-40~43

土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑46 (P-46)** (図Ⅲ-23、表Ⅲ-2、図版24)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色土(覆土5)が坑底縁辺に堆積し、その上位にほぼ水平に黒褐色土(覆土4)が堆積し、その上に暗褐色土(覆土3)が斜めに、さらに黒褐色土(覆土2)が水平に、最上部の中央に黒色土(覆土1)が堆積している。En-Pは覆土1・3・5が多く、覆土2・4は少ない。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は中層(覆土2・3)と坑底より1~2cm上位の下層(覆土5)に分けられ、上層からは小型礫片が、下層からは小~特大型の完形・半完形礫や甕底部(235・239)が出土した。また、覆土1からはスクレイパー(60)や剥片が出土している。下層では10cmほど離れた礫の接合(礫接合5)がみられた。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑47 (P-47)** (図Ⅲ-24、表Ⅲ-2、図版24)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に褐色土(覆土2)がほぼ水平に堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1)が厚く堆積する。En-Pの混入度は高い。覆土1には炭化物が含まれる。坑底は水平で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、一部オーバーハングする。遺物は覆土1の主に下部から出土し、小型礫片が散漫に分布する。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑48 (P-48)** (図Ⅲ-24、表Ⅲ-2、図版24)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で楕円形の黒褐色土の落ち込みと礫集中を確認した。半截し、調査を行った。東側の半分は耕作による攪乱を受けていた。覆土は坑底から5cmほどが残存するのみで、En-Pがやや多く含まれる黒褐色土である。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は剥片1点を除き礫で、小・中型の完形・半完形品が坑底より1cm上位からまとまって出土した。隣接する礫2個体の接合(礫接合6・10)が確認された。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑49 (P-49)** (図Ⅲ-24、表Ⅲ-2、図版25)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底縁辺に暗褐色土(覆土3・4)が堆積し、その上位に黒色土(覆土2)、黒褐色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土1に多く、覆土2~4には少ない。覆土1には炭化物が含まれる。坑底はほぼ平坦で、壁は弧を描いてほぼ垂直に立ち上がる。遺物は小型礫片・Ⅵ群b類土器(19)が出土している。

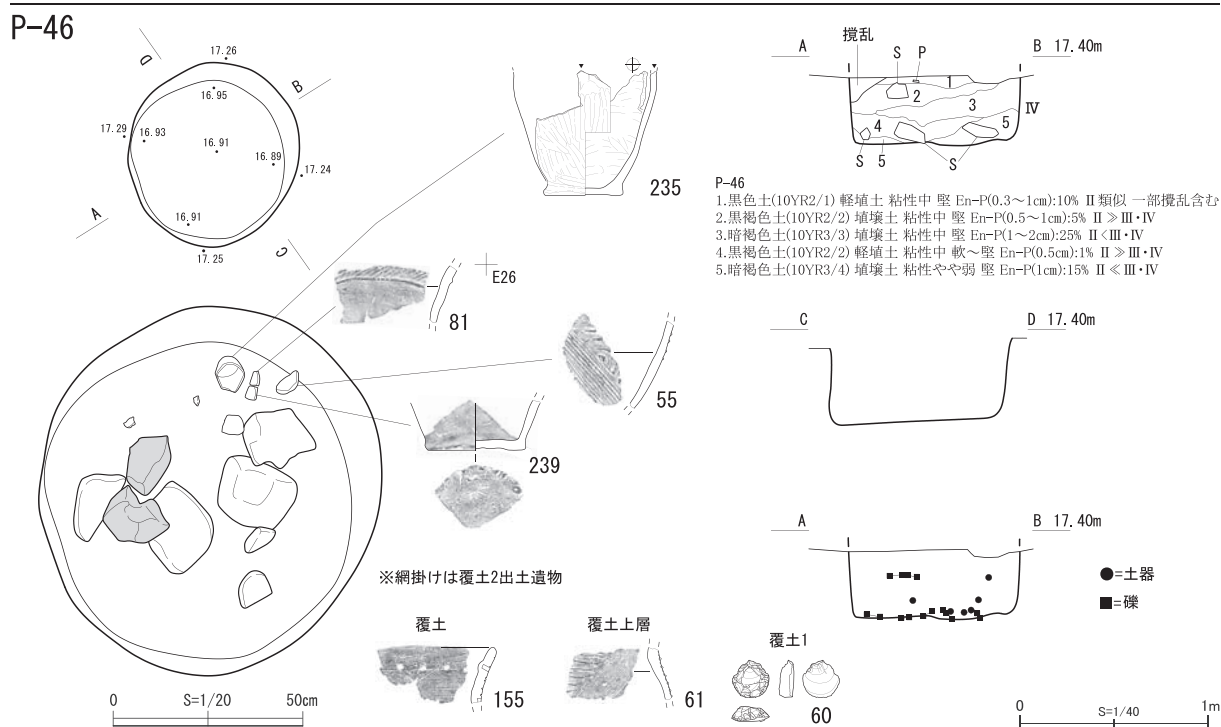
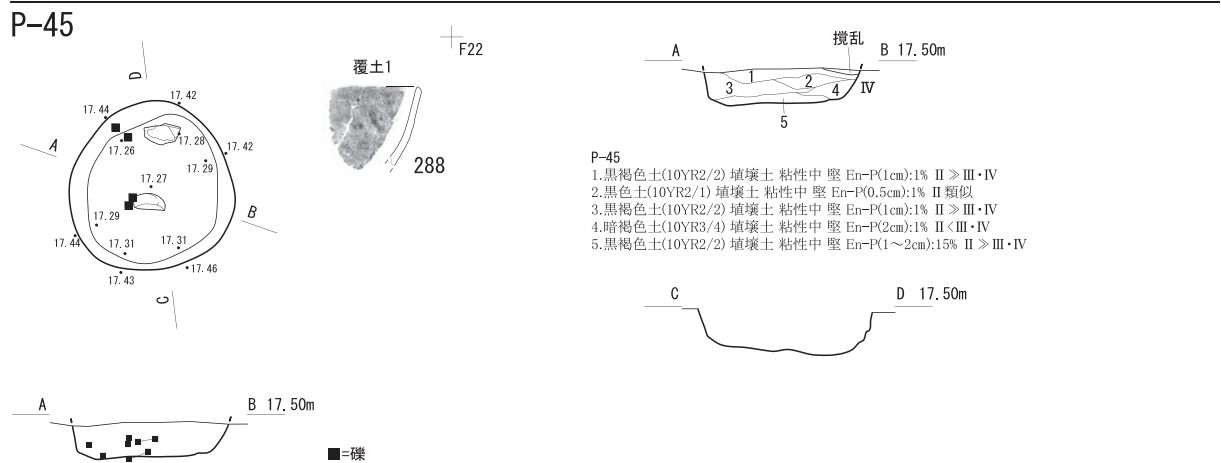
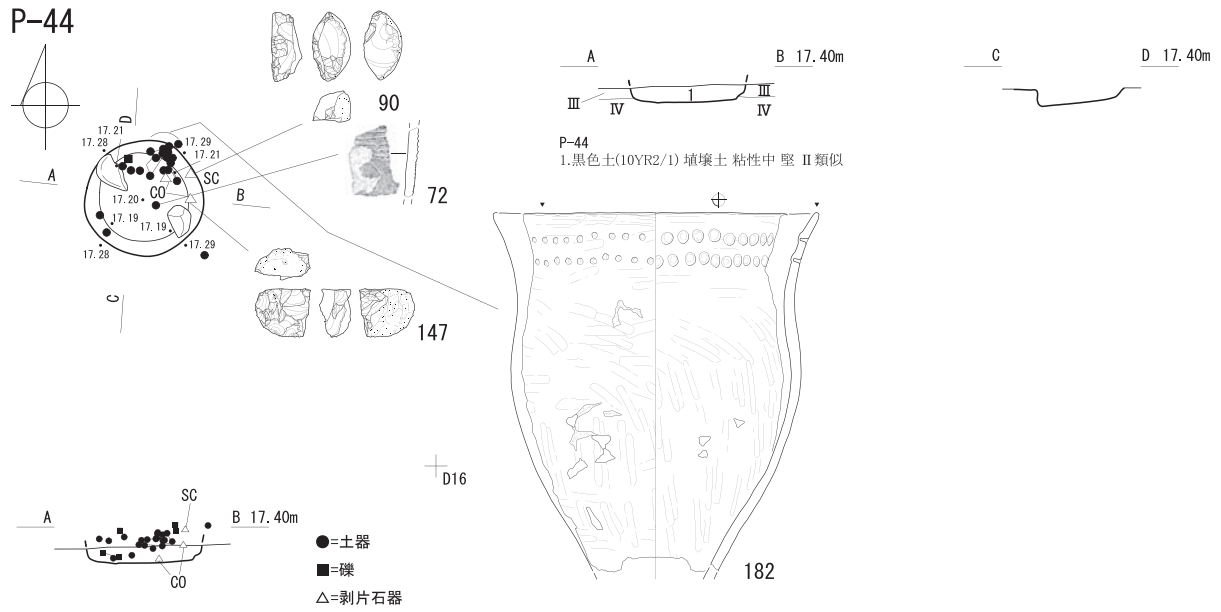
**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑50 (P-50)** (図Ⅲ-24、表Ⅲ-2、図版25)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に褐色土(覆土2)が皿状に堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1)が厚く堆積する。En-Pは覆土2に多く、炭化物は覆土1に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は1点を除き覆土1からの出土で、礫は小型の礫片と中型の完形・半完形である。そのほかⅥ群b類土器片(225)、楔形石器(124)などが出土している。

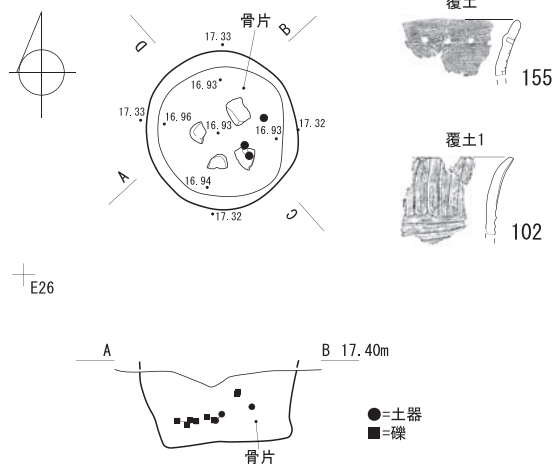
**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑51 (P-51)** (図Ⅲ-25、表Ⅲ-2、図版25)



図III-23 土坑・土坑墓(13)P-44~46

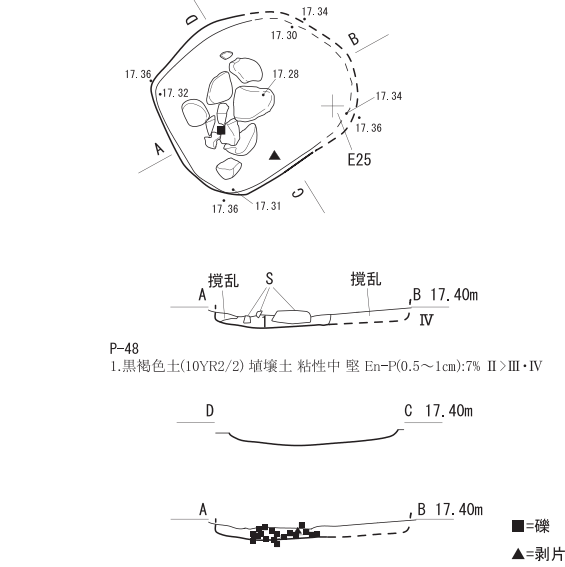
P-47



P-47

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~2cm):15% II >> III・IV 1cm大の炭化物含む  
2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):30% II << III・IV

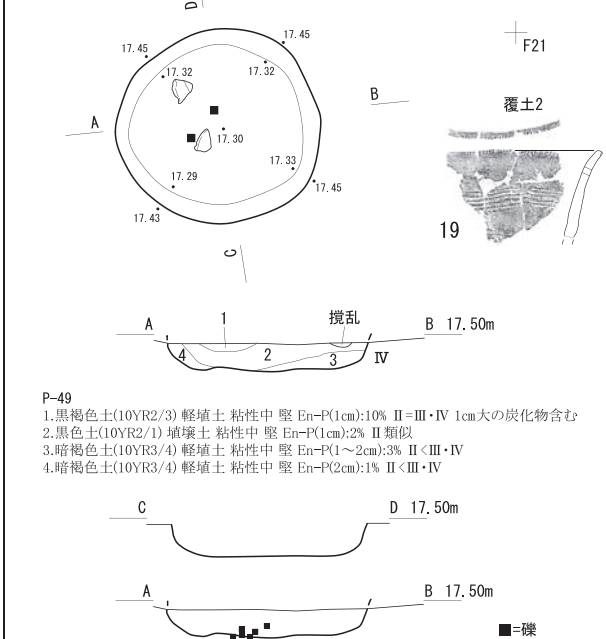
P-48



P-48

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):7% II > III・IV

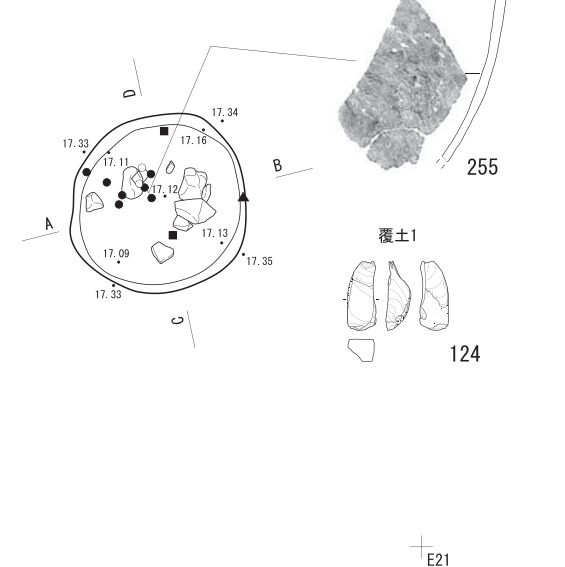
P-49



P-49

1. 黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(1cm):10% II = III・IV 1cm大の炭化物含む  
2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II 類似  
3. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):3% II < III・IV  
4. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(2cm):1% II < III・IV

P-50



P-50

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):3% II >> III・IV 1cm大の炭化物含む  
2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(2~3cm):20% II < III・IV

図III-24 土坑・土坑墓(14)P-47~50

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に皿状に暗褐色土（覆土3）が堆積し、その上位に皿状に黒色土（覆土2）が、さらに上部の落ち込みに黒褐色土（覆土1）が堆積する。最下層の覆土3にはEn-Pが多量に含まれるが、上位の覆土1・2には少ない。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土2と坑底に分けられ、覆土2には層の傾斜に沿って落ち込むように土器1個体（89）と刀子片（1）や楔形石器（123）・石核・炭化クルミ片・焼骨片が、坑底には底部を欠く土器1個体（88）、中型礫1点、楔形石器（118）が出土した。覆土2の土器（89）は半分程度の残存率で、欠損部は現代の耕作によって散逸して回収できなかったものと思われ、土坑の上部に副葬されたものと考えられる。坑底の個体（88）は口縁部の散乱状況などから横倒しや倒立などの単純な潰れ方ではないが坑底に副葬されたものと思われる。

**時期：**覆土2出土炭化クルミには1,610±15yrBP（HD-D12）の年代測定値が得られている。遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑52（P-52）（図III-25、表III-2、図版26）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に皿状に暗褐色土（覆土2）が堆積し、その上位に黒褐色土（覆土1）が堆積する。En-Pは全体的に多く含まれる。坑底は南西側が平坦で、北東部は軽く段になる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は全て覆土1からで、礫は中～特大型の完形が多く、小・中型の半完形・礫片とともに、覆土2の直上に皿状の傾斜に沿って重なって出土した。また、周辺の耕作による攪乱中からも多くの礫が出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑53（P-53）（図III-26、表III-2、図版26）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に皿状に褐色土（覆土4）が堆積し、その上位に黒褐色土と暗褐色土が堆積する。En-Pの混入率は高く、掘り上げ土と考えられる。坑底は平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。遺物は小型礫・VI群b類土器片（39・40・59・60）・スクレイパー（26）などが覆土3を主体として出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑54（P-54）（図III-26、表III-2、図版26）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にやや厚く暗褐色土（覆土2）が斜めに堆積し、その上位に黒褐色土（覆土1）が堆積する。En-Pは覆土2に多く含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は礫がほとんどで、中型の半完形品1点を除いて、小型の礫片・半完形である。礫は坑底から2cmほど上位に位置し、西側に集中する。また4個体の接合資料（礫接合16・17・19・20）があり、やや離れて接合するものがある。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

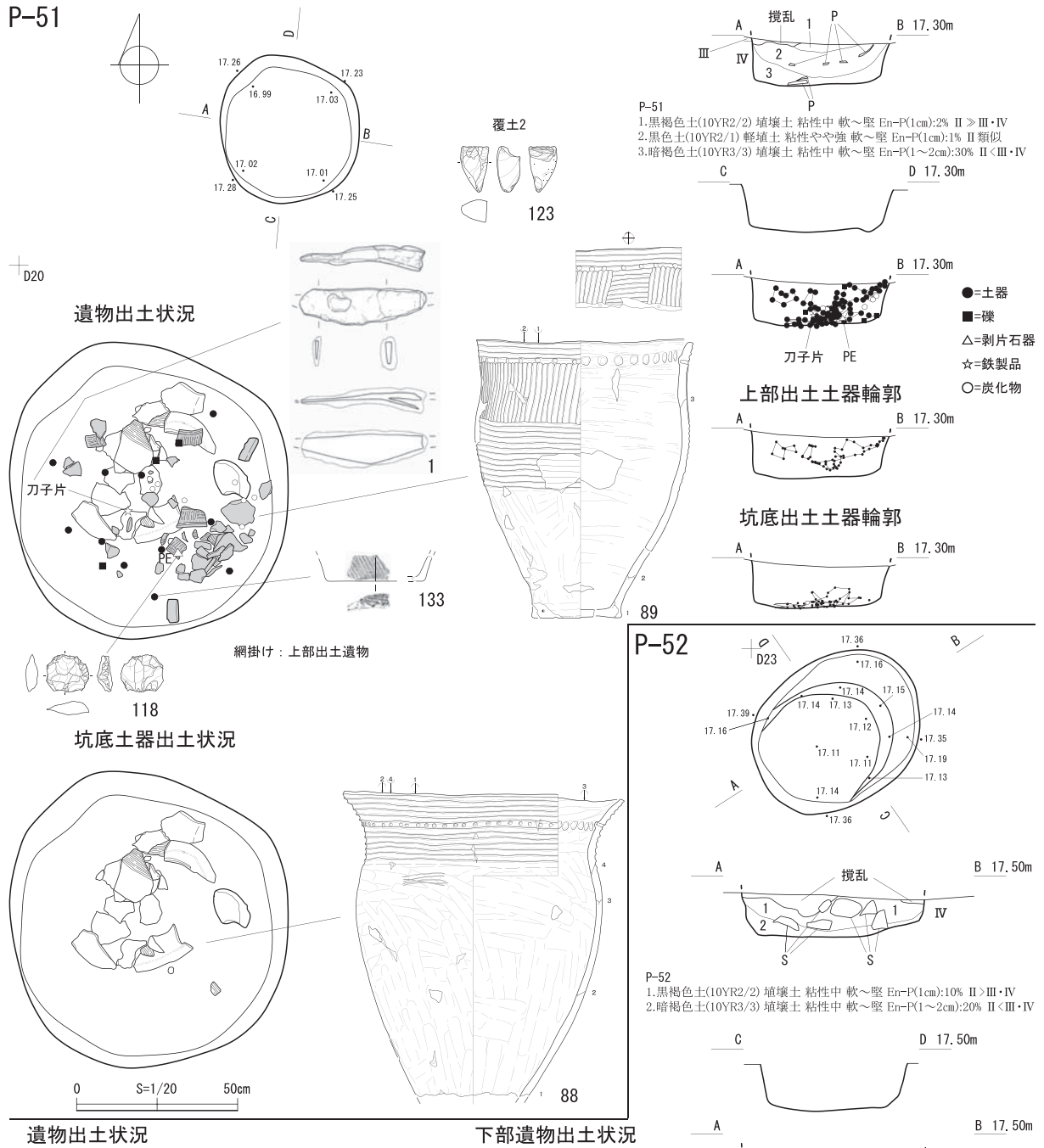
#### 土坑55（P-55）（図III-26、表III-2、図版26・27）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にEn-Pの混入しない黒褐色土（覆土1）と黒色土（覆土2）が堆積している。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は黒曜石剥片1点のみである。

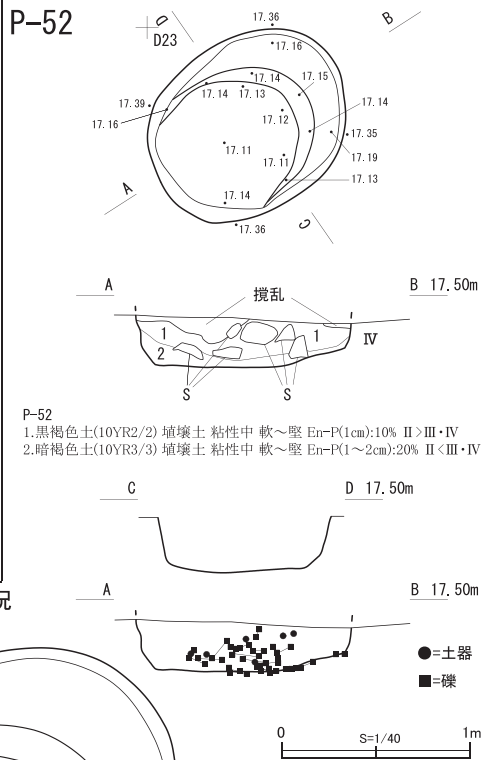
**時期：**遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑56（P-56）（図III-26、表III-2、図版27）

P-51

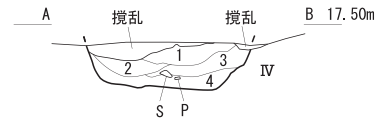
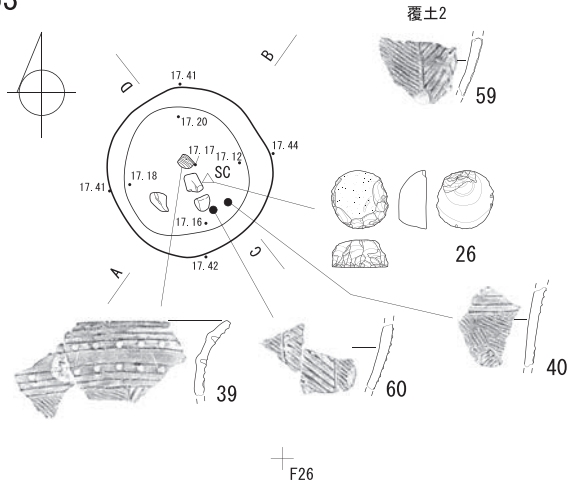


P-52



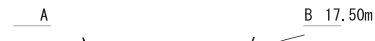
図III-25 土坑・土坑墓(15)P-51・52

P-53



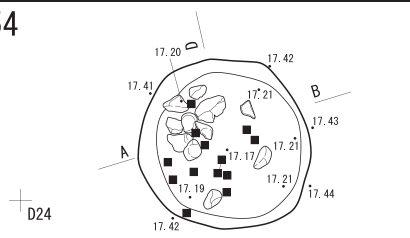
P-53

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):20% II > III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1~2cm):20% II > III・IV
3. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性やや弱 堅 En-P(1cm):7% II < III・IV
4. 褐色土(10YR4/6) 埴壤土 粘性やや弱 軟~堅 En-P(1~3cm):20% II < III・IV

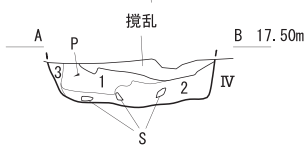


- =土器
- =磔
- △=剥片石器

P-54



D24



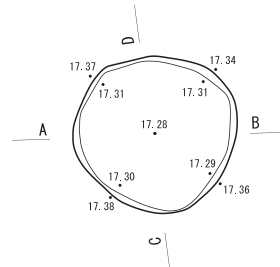
P-54

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):3% II > III・IV
2. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1~2cm):10% II = III・IV
3. 黄褐色土(10YR5/6) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):3% II < III・IV

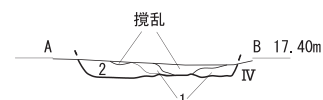


- =磔

P-55



D22

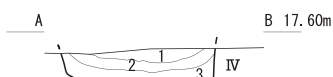
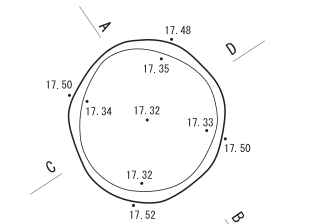


P-55

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV
2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 II 類似 1mm 大の砂粒含む



P-56



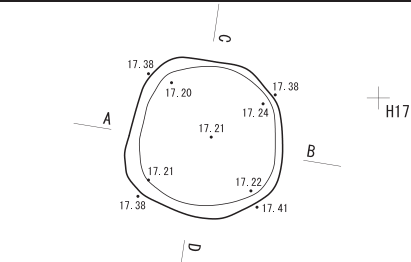
P-56

1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):3% II = III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):3% II > III・IV
3. 褐色土(10YR4/6) 軽埴土 粘性やや弱 堅 En-P(1~2cm):3% II < III・IV

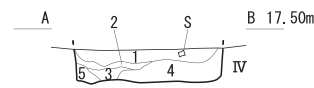


H19

P-57

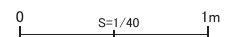


H17



P-57

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II > III・IV 5mm 大の炭化物、1mm 程度の黄褐色粒含む
2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):25% II < III・IV
3. 暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性やや弱 軟~堅 II = III・IV
4. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):25% II < III・IV
5. 黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II > III・IV



図III-26 土坑・土坑墓(16)P-53~57

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は全て皿状の堆積で、En-Pは全体的に少ない。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑57 (P-57)** (図Ⅲ-26、表Ⅲ-2、図版27)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に逆円錐台状に褐色土(覆土2・4)が堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土3・5は木根等による攪乱の可能性がある。覆土2・4はEn-Pを多量に含み、掘り上げ土とみられ、覆土1には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1から剥片、小型礫片が出土している。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑58 (P-58)** (図Ⅲ-27、表Ⅲ-2、図版27)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で長方形の黒褐色土の落ち込みを確認した。長軸方向で半截し、調査を行った。覆土は中央に暗褐色土(覆土2)が、両端に黒褐色土(覆土1)が堆積する。全体的にEn-Pの混入率が高い。覆土1には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺構の形状から土坑墓とみられる。遺物は少なく、覆土1にⅦ群土器が3点、覆土2にⅥ群b類土器が1点出土している。

**時期：**覆土1出土の炭化材に $1,230 \pm 15 \text{yrBP}$  (HD-D13)の年代測定値が得られている。年代測定値・出土遺物・遺構の形状から擦文文化期と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑59 (P-59)** (図Ⅲ-27、表Ⅲ-2、図版27・28)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土2)が、その上位に同じく黒褐色土(覆土1)が堆積する。En-Pの混入率は低い。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は、覆土1からⅥ群b類土器が1点のみ出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑60 (P-60)** (図Ⅲ-27、表Ⅲ-2、図版28)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3)、その上位に黒色土(覆土2)・褐色土(覆土1)がほぼレンズ状に堆積している。覆土1にはEn-Pが多量に含まれ、掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類土器が2点出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑61 (P-61)** (図Ⅲ-27、表Ⅲ-2、図版28)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は掘り上げ土とみられるEn-Pを多く含む褐色土が10cm程堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は礫のみで、中型の完形・半完形品が坑底から5cm程上位の覆土2層中から出土している。

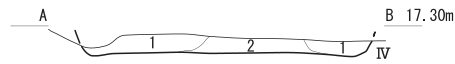
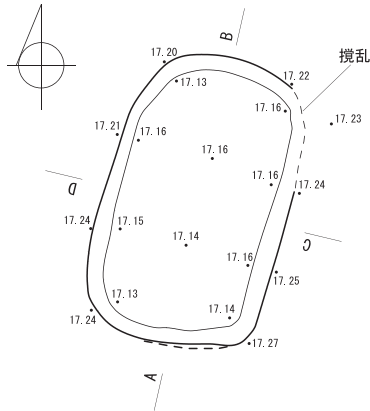
**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑62 (P-62)** (図Ⅲ-28、表Ⅲ-2、図版28)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で隅丸方形の黒色土の落ち込みを確認した。土層観察用の十字ベルトを残し、調査を行った。H-1・2・4と形状が類似するが、長径が2m以下と小型のため土坑



P-58



P-58

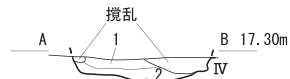
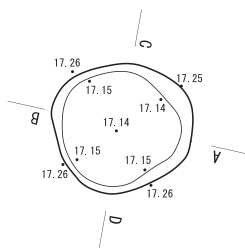
- 1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II>III・IV 1~2cmの炭化物含む
- 2. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):20% II=III・IV



F17

P-59

E17



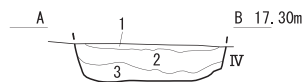
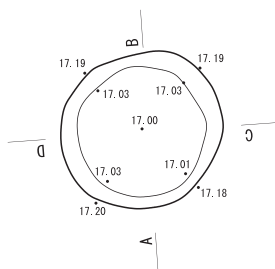
P-59

- 1. 黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II>>III・IV
- 2. 黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):1% II>>III・IV



P-60

E17



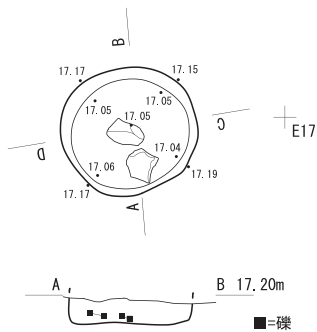
P-60

- 1. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):20% II<III・IV
- 2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II類似
- 3. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):5% II>>III・IV



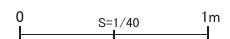
P-61

E17



P-61

- 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II>>III・IV
- 2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):7% II<<III・IV



図III-27 土坑・土坑墓(17)P-58~61

として扱った。覆土は南壁際に黒褐色土（覆土4）・暗褐色土（覆土5）が堆積するが、全体的には黒褐色土（覆土3）が厚く堆積し、その上位中央にⅡ層と同様の覆土1が堆積する。覆土2・3はEn-Pを多量に含み、掘り上げ土とみられ、覆土1は自然堆積層と考えられる。覆土2に大型の炭化材が出土したが、樹種は不明（HD-W10）である。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土3上部、遺構北寄りに礫やⅥ群b類土器6点・Ⅶ群土器8点（325・333・375など）が出土している。礫は小・中型片、小型完・半完形品が出土した。

**時期：**覆土2出土炭化材は1,310±15（HD-D14）の年代測定値が得られた。年代測定値・遺物・遺構の形状から擦文文化期と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑63（P-63）（図Ⅲ-28、表Ⅲ-2、図版29）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は三角堆積の黒褐色土（覆土3）の上に黒褐色土（覆土2）が皿状に落ち込み、その上位の窪みにⅡ層に類似した覆土1が堆積する。En-Pは覆土3に多量に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がるが坑口部は開く。遺物は覆土2の上面の落ち込み中央に中型の完・半完形礫があり、坑底にはスクレイパー2点（39・44）、石核1点（160）、剥片10点が出土した。また、坑底近くからⅥ群b類土器の底部2点（233・250）、覆土2から浅い円形刺突のある口縁部（207）が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑64（P-64）（図Ⅲ-29、表Ⅲ-2、図版29）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にEn-Pを多く含む暗褐色土（覆土3・4）が厚く堆積し、その上位に黒褐色土（覆土1・2）が堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は坑底近くに半完形中型礫とⅥ群b類の坏破片（285）が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑65（P-65）（図Ⅲ-29、表Ⅲ-2、図版29）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に褐色土（覆土1）が堆積し、その皿状の上部に黒褐色土（覆土2）が堆積する。En-Pは覆土1・2ともに多く掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。大・特大型の完・半完形礫、小・中型の礫片が窪んだ覆土2の上面に落ち込むように重なって出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑66（P-66）（図Ⅲ-29、表Ⅲ-2、図版29）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は東側に褐色土（覆土2）、西側に黒褐色土（覆土1）が堆積する。En-Pは覆土1・2とも比較的多く含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は中～特大型の完・半完形礫が覆土2の分布範囲である北東部の坑底付近からまとまって出土した。そのほか覆土1上部からⅥ群b類の底部片（229）が出土した。

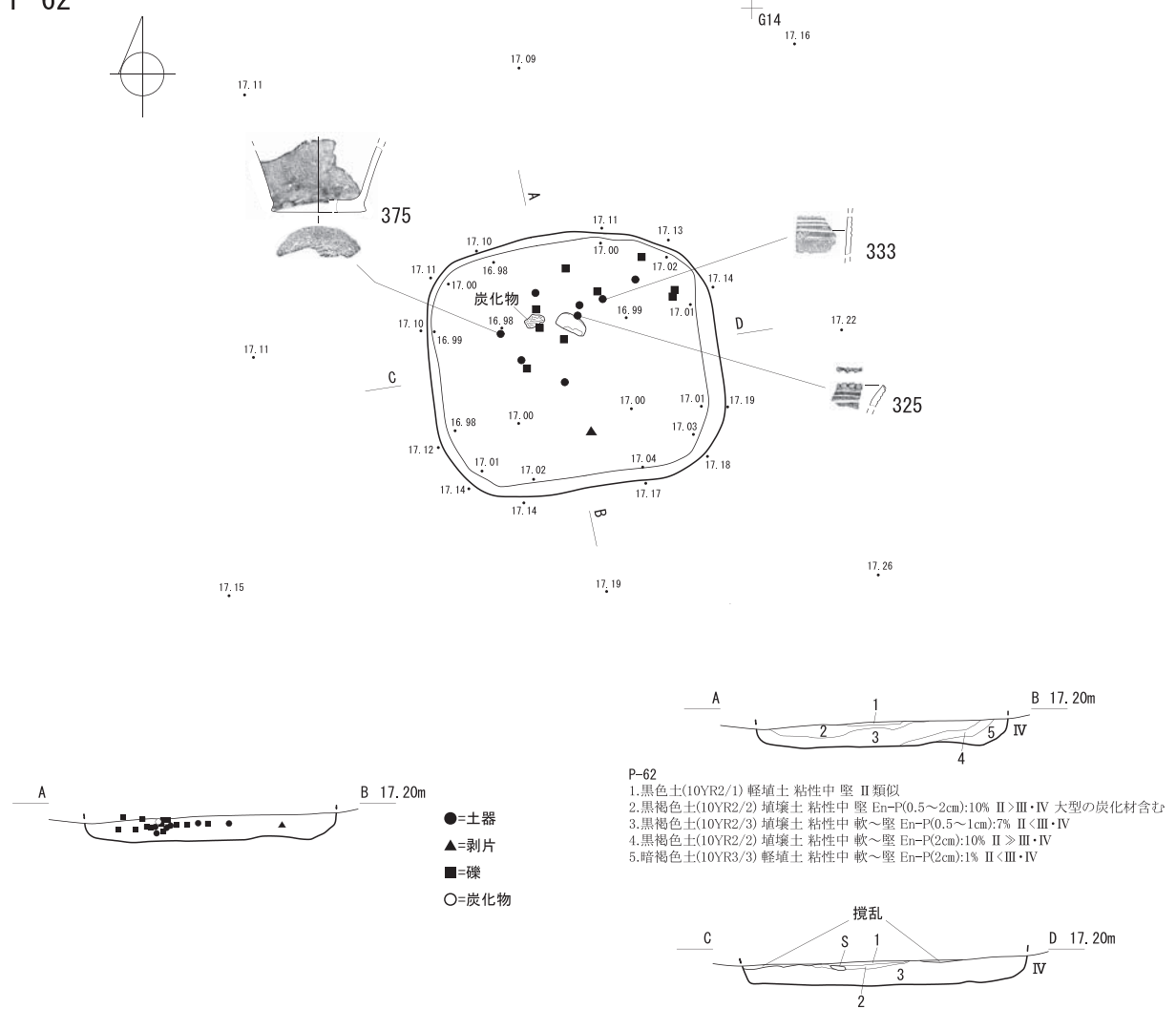
**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑67（P-67）（図Ⅲ-30、表Ⅲ-2、図版30）

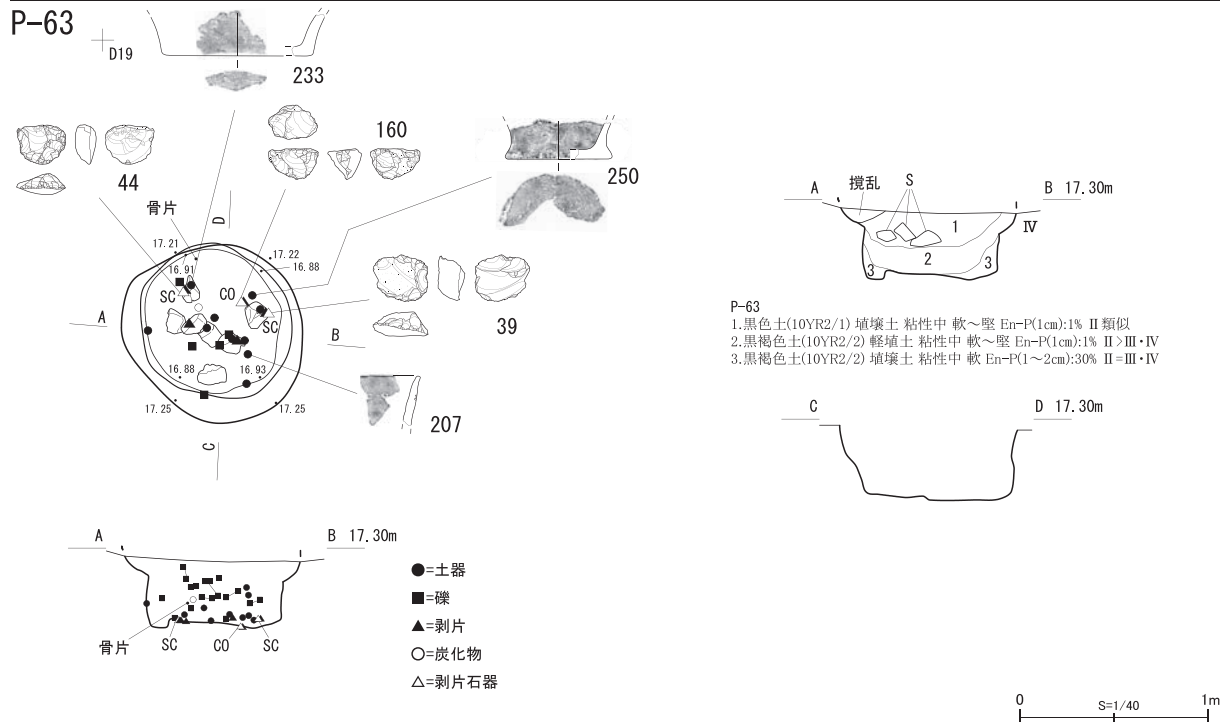
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に褐色土（覆土2）、その上位に黒褐色土（覆土1）が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1下部で小型礫片が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

P-62

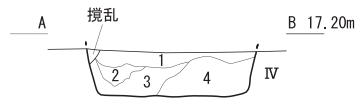
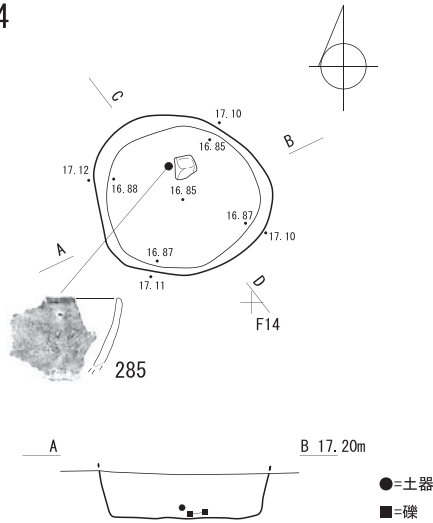


P-63



図III-28 土坑・土坑墓(18)P-62・63

P-64

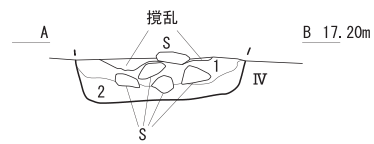
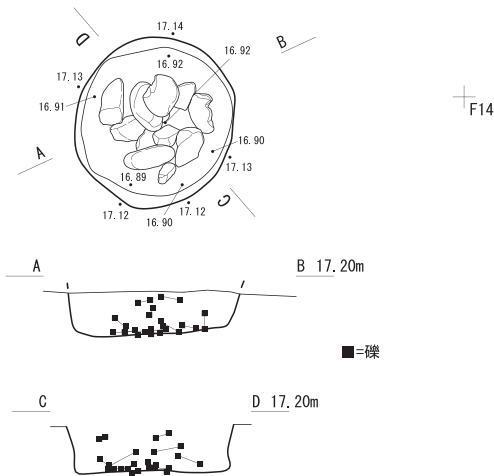


P-64

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):3% II >> III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II > III・IV
3. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1~2cm):30% II < III・IV
4. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1~2cm):5% II = III・IV



P-65

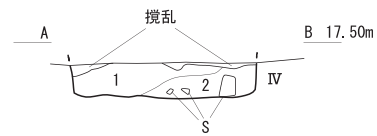
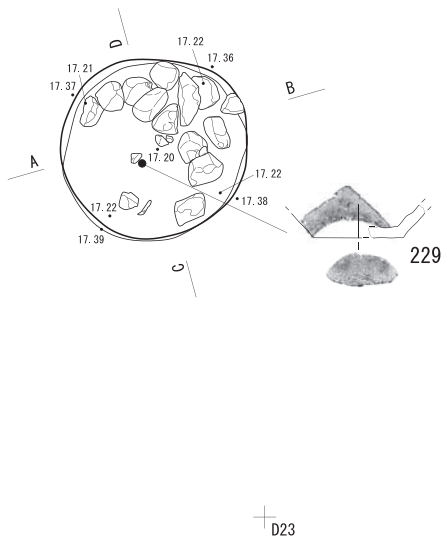


P-65

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):15% II > III・IV
2. 褐色土(10YR4/6) 軽埴土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):20% II < III・IV

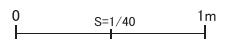
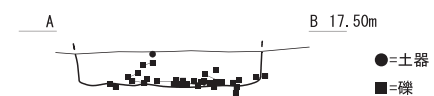


P-66



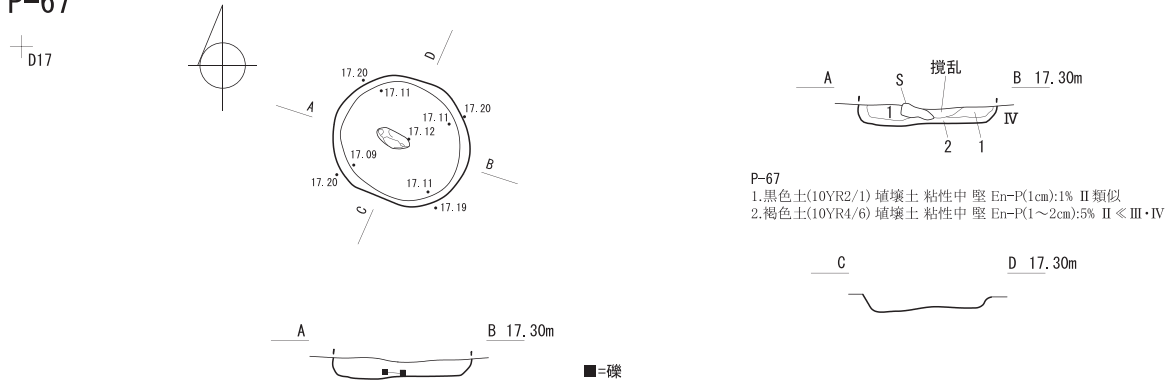
P-66

1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II > III・IV
2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):15% II < III・IV

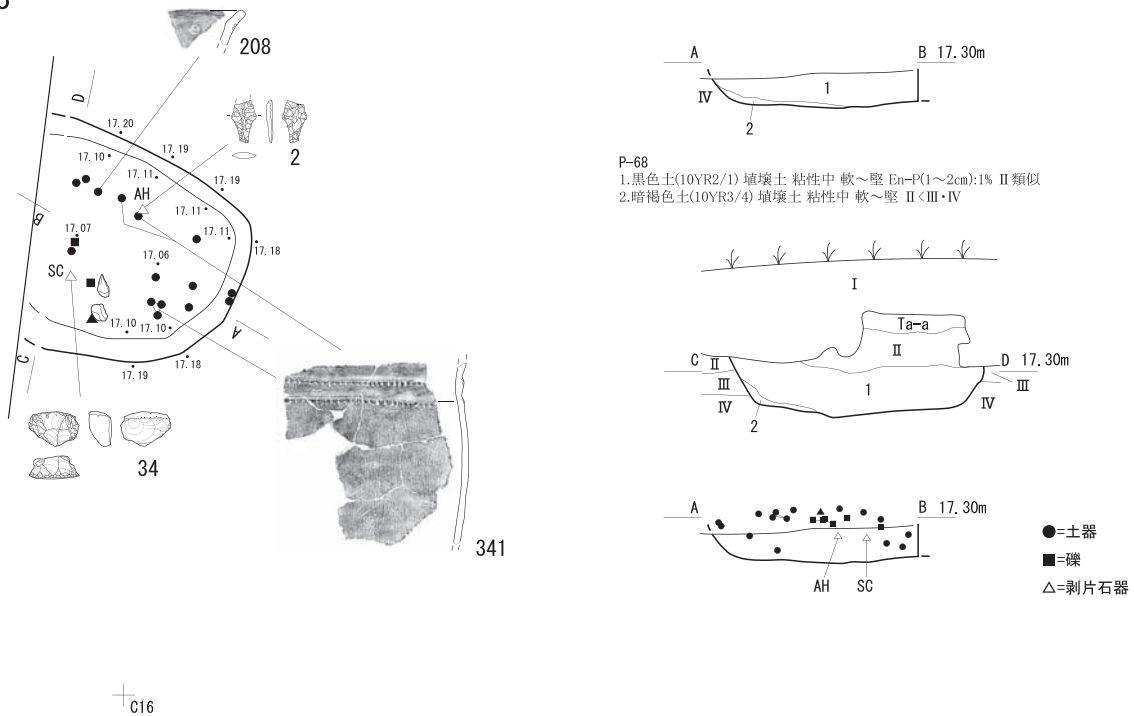


図III-29 土坑・土坑墓(19)P-64~66

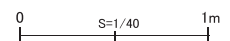
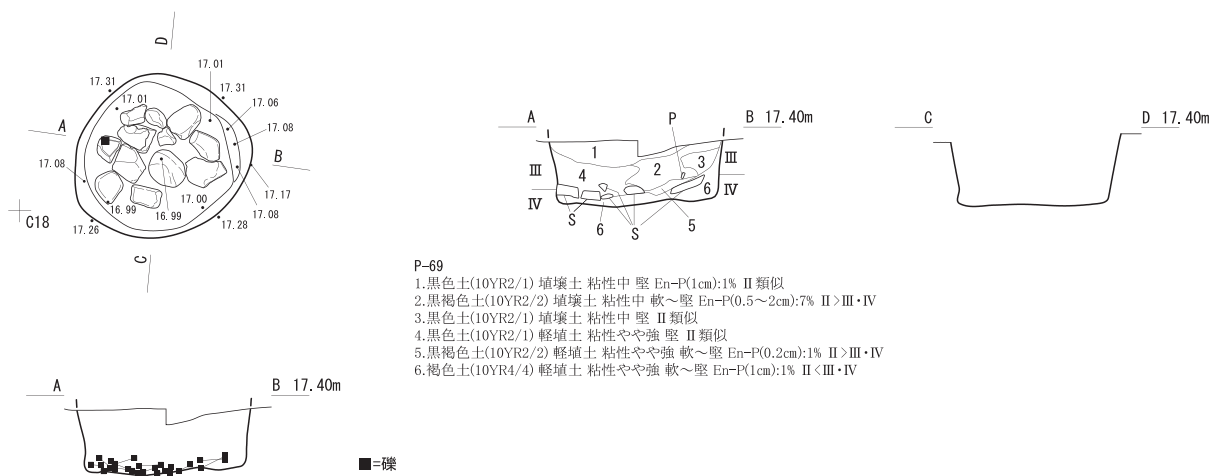
P-67



P-68



P-69



図III-30 土坑・土坑墓(20)P-67~69

**土坑68 (P-68)** (図Ⅲ-30、表Ⅲ-2、図版30)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に広がる長方形の黒色土の落ち込みを確認した。壁の断面を観察すると掘り込み面はⅡ層中である。長軸方向に半截し、調査を行った。覆土はⅡ層に類似した黒色土(覆土1)が厚く堆積し、坑底の縁辺部に一部薄く暗褐色土(覆土2)が堆積する。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土1上部が多く、Ⅶ群土器(341など)が主体である。中空工具による浅い刺突のあるⅥ群b類の口縁部(208)は覆土2から出土している。そのほか石鏃(2)が覆土2、スクレイパー(34)が覆土1から出土している。礫は小型礫片が覆土1から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から擦文文化期と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑69 (P-69)** (図Ⅲ-30、表Ⅲ-2、図版30)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に薄く褐色土(覆土6)があり、その上位に黒褐色土(覆土2・5)・黒色土(覆土3・4)がブロック状に堆積し、最上部にはⅡ層に類似した黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土2に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1・2からⅥ群b類土器8点が出土し、覆土6直上に沿って中～超大型の完・半完形礫が11点出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑70 (P-70)** (図Ⅲ-31、表Ⅲ-2、図版30・31)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底から壁にかけて暗褐色土(覆土3)が薄く堆積し、その上に黒褐色土(覆土2)、さらにその上位の中央にⅡ層に類似した黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土3に多く含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、小型の礫片・半完形礫が覆土2から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑71 (P-71)** (図Ⅲ-31、表Ⅲ-2、図版31)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底から壁にかけて暗褐色土(覆土4)があり、その上位に黒色土(覆土3)、暗褐色土(覆土2)、黒色土(覆土1)がレンズ状に堆積する。En-Pは覆土2・4に多く含まれる。坑底は北・西側が段状で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑72 (P-72)** (図Ⅲ-31、表Ⅲ-2、図版31)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で長方形の黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用の十字ベルトを設定し、調査を行った。覆土は坑底に薄く褐色土(覆土2)が広がり、その上位に黒褐色土(覆土1)が覆う。En-Pは覆土2に多く含まれる。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土1のみで、土器はⅥ群b類(216・244など)が4点、Ⅶ群が1点出土している。

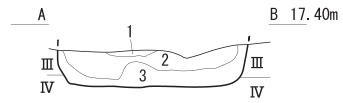
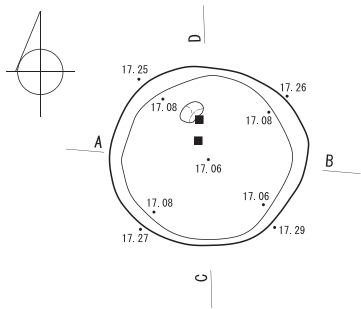
**時期：**ほぼ中央の覆土1出土の炭化材は1,470±20yrBP(HD-D15)の年代測定値が得られている。年代測定値・遺物・遺構の形状から擦文文化期と推定される。(鈴木宏行)

**土坑73 (P-73)** (図Ⅲ-32、表Ⅲ-2、図版31・32)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で長方形の黒色土の落ち込みを確認した。土層観察用の十字ベルトを設定し、調査を行った。覆土は暗褐色土(覆土3)が南西側に厚く堆積し、その上に黒褐色土(覆土2)が北東側に厚く、さらに皿状に窪んだ上面にⅡ層に類似した覆土1が堆積する。En-Pは覆土3に多く含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1・2を中心にⅥ

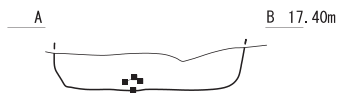
P-70

+C18



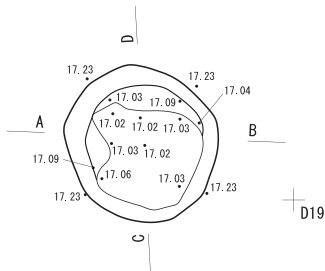
P-70

- 1. 黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性やや強 堅 En-P(1cm):1% II 類似
- 2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II > III・IV
- 3. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):10% II = III・IV

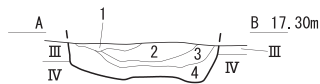


■=礫

P-71



+D19



P-71

- 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II 類似
- 2. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):15% II = III・IV
- 3. 黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性やや強 堅 En-P(1~2cm):2% II 類似
- 4. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):7% II = III・IV

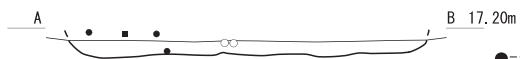
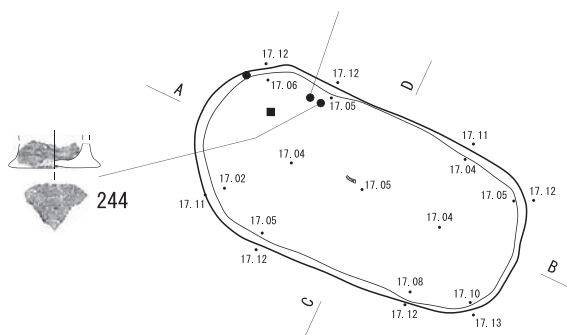


P-72

+C14

216

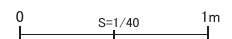
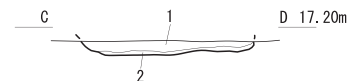
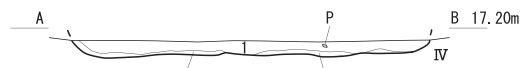
+D14



- =土器
- =礫
- =炭化物

P-72

- 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(0.5~1cm):5% II > III・IV 1cm以下の炭化物含む
- 2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):15% II < III・IV



図III-31 土坑・土坑墓(21)P-70~72

群b類 (151・226など)・Ⅶ群 (319・328・335など)・Ⅶ群3類 (411)、スクレイパー (88)、剥片、小型の完・半完形礫が出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から擦文文化期と推定される。(鈴木宏行)

**土坑74 (P-74)** (図Ⅲ-32、表Ⅲ-2、図版32)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に広がる半円形の黒色土の落ち込みを確認した。壁を土層観察に利用し、調査を行った。平面形は長方形に近い形状と思われる。覆土はⅡ層に類似した黒色土(覆土1)が厚く堆積し、その上面は軽く窪んでいる。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土1上面の窪みにⅦ群の坏(384)が、覆土1にⅦ群の甕の口縁部破片(313)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から擦文文化期と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑75 (P-75)** (図Ⅲ-33、表Ⅲ-2、図版32)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で不整形の黒色土の落ち込みを確認した。観察用の十字ベルトを設定し、調査を行った。覆土は黒色土(覆土1・2・5)が多く、褐色土(覆土3)・黒褐色土(覆土4)・焼土(PF-1・2)が挟まれ、覆土の直上には焼土(F-39)がある。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土1・2・5からⅥ群b類(111・202など)を主体に少量Ⅶ群が出土し、覆土1・5から礫片が出土している。そのほか、直上のⅡ層からスクレイパー(57)が出土した。炭化種実同定の結果、覆土2からキハダ、覆土5からオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から擦文文化期の可能性が考えられる。(鈴木宏行)

**土坑76 (P-76)** (図Ⅲ-33、表Ⅲ-2、図版32)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する黒色土の落ち込みを確認した。そのほぼ中央には灰集中2(AC-2)があり、その調査後に落ち込みの長軸方向と直交方向に土層観察用の十字のベルトを設定し、遺構の調査を行った。その結果二つの土坑が切り合うことが判明し、P-76・79とし、新しい本遺構の調査から進めた。覆土は暗褐色土(覆土3)・黒褐色土(覆土2)の上に黒色土(覆土1)がレンズ状に厚く堆積している。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。平面形は隅丸方形である。遺物は覆土1からⅥ群b類が16点、石核(134)、剥片、小型礫片が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑77 (P-77)** (図Ⅲ-33、表Ⅲ-2、図版33)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土・黒色土が互層状に堆積する。En-Pは覆土3下位に多く含まれる。坑底は皿状で、壁は斜めに立ち上がる。他の円形の土坑に比べ小型である。遺物はⅥ群b類が1点出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑78 (P-78)** (図Ⅲ-33、表Ⅲ-2、図版33)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみで厚く堆積する。En-Pは多量に含まれ掘り上げ土とみられる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、北西壁際の坑底付近で小型の完形礫・礫片が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

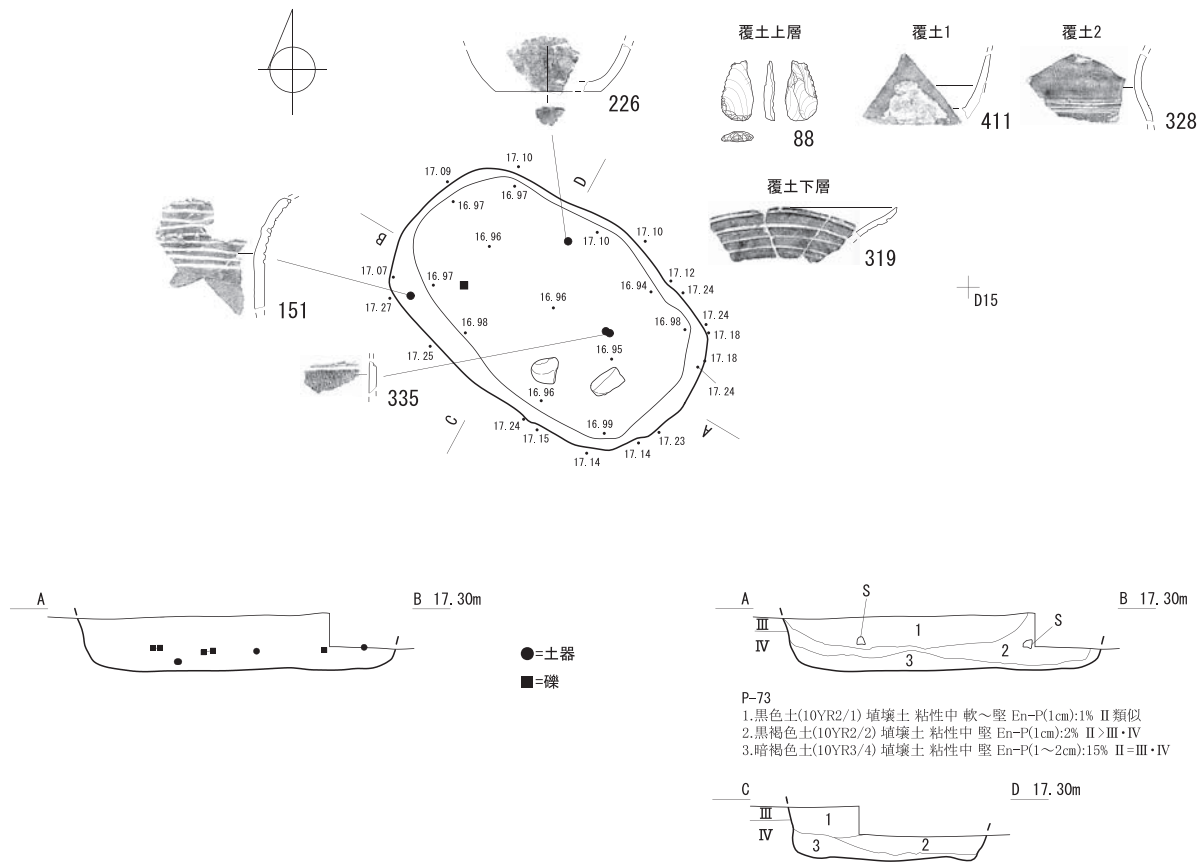
**土坑79 (P-79)** (図Ⅲ-34、表Ⅲ-2、図版33)

**調査・特徴：**P-76で記載したとおり、P-76の調査後に、調査を行った。覆土は南側を中心に黒色土(覆土2)が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器(162など)が20点出土し、中央坑底付近から中型の完・半完形礫が2点出土している。

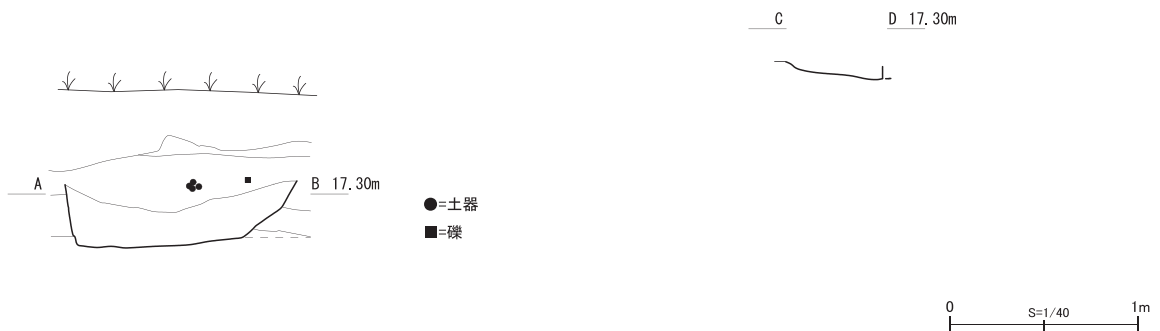
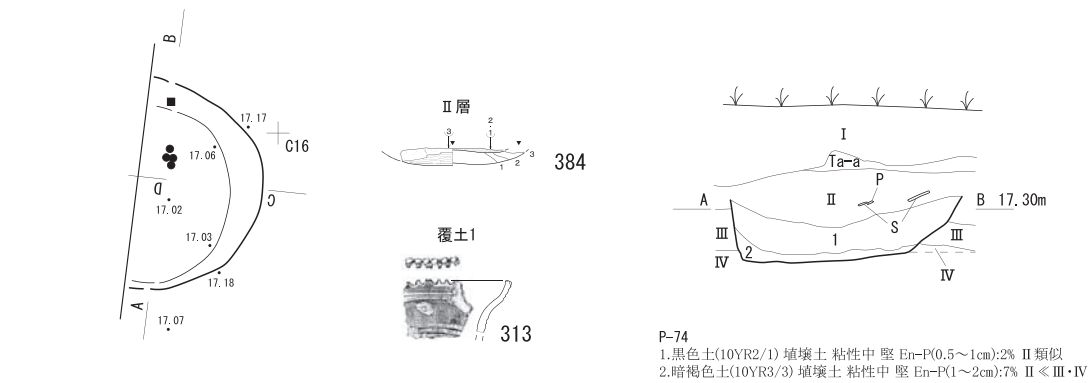
**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)



P-73

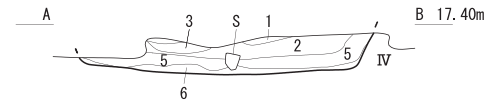
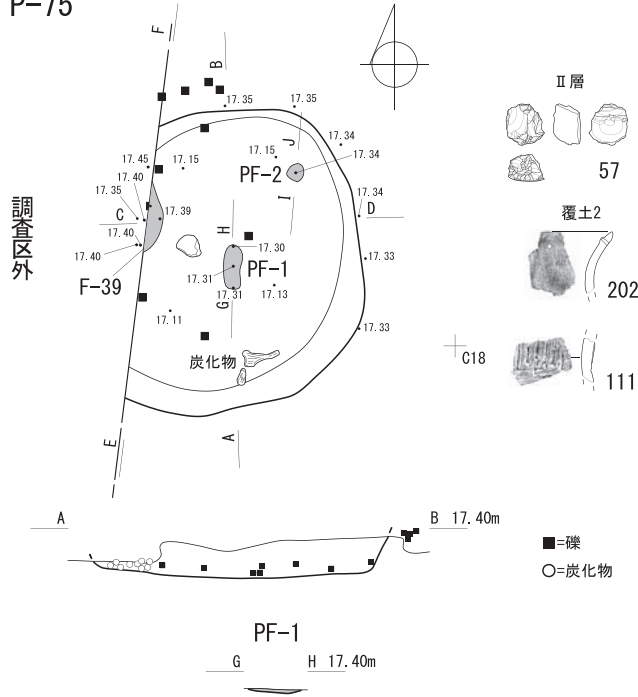


P-74

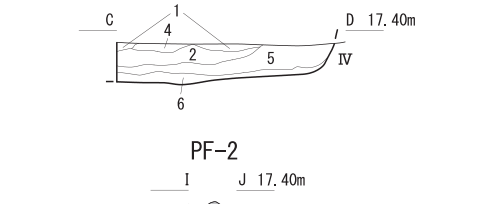
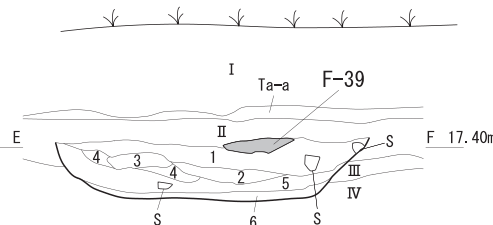


图III-32 土坑·土坑墓(22)P-73·74

P-75



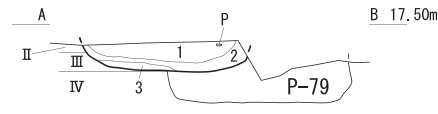
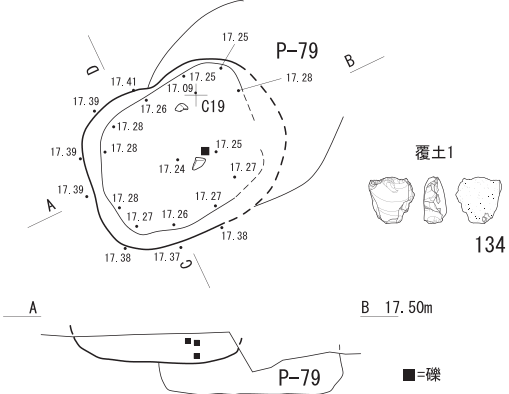
- P-75
- 1.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中 堅 II 類似
  - 2.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性やや強 堅 II 類似
  - 3.褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):3% II<III・IV 掘り上げ土?
  - 4.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II>III・IV 掘り上げ土? 覆土3より少ない
  - 5.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II 類似
  - 6.暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):5% II=III・IV



- PF-1
- 1.赤褐色土(5YR4/8) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II 層中、掘り上げ土上部、F-39の流れ込みか?

- PF-2
- 1.赤褐色土(5YR4/6) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II 層中、PF-1とほぼ同層位

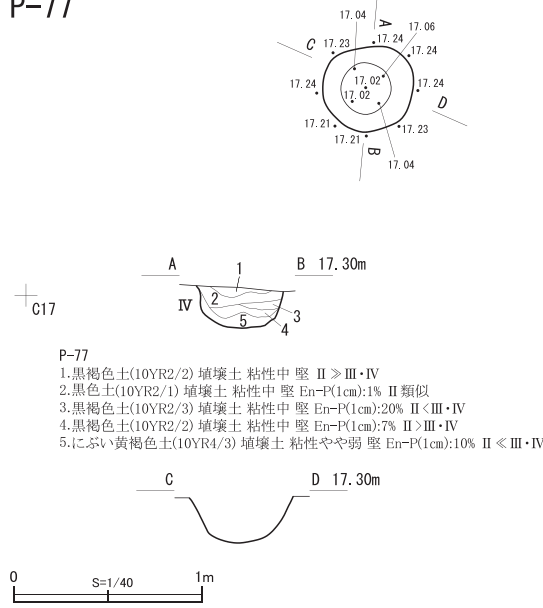
P-76



- P-76
- 1.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II 類似
  - 2.黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中 堅 II>III・IV
  - 3.暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II>III・IV

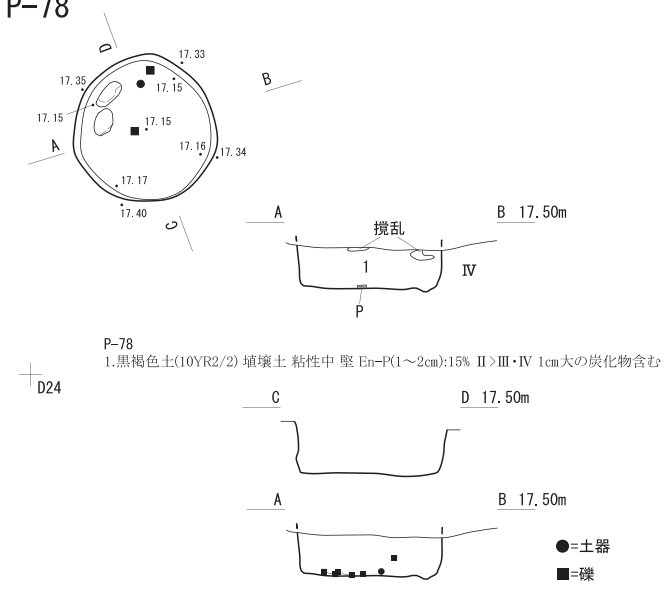


P-77



- P-77
- 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 II>III・IV
  - 2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II 類似
  - 3.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):20% II<III・IV
  - 4.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):7% II>III・IV
  - 5.にぶい黄褐色土(10YR4/3) 埴壤土 粘性やや弱 堅 En-P(1cm):10% II<III・IV

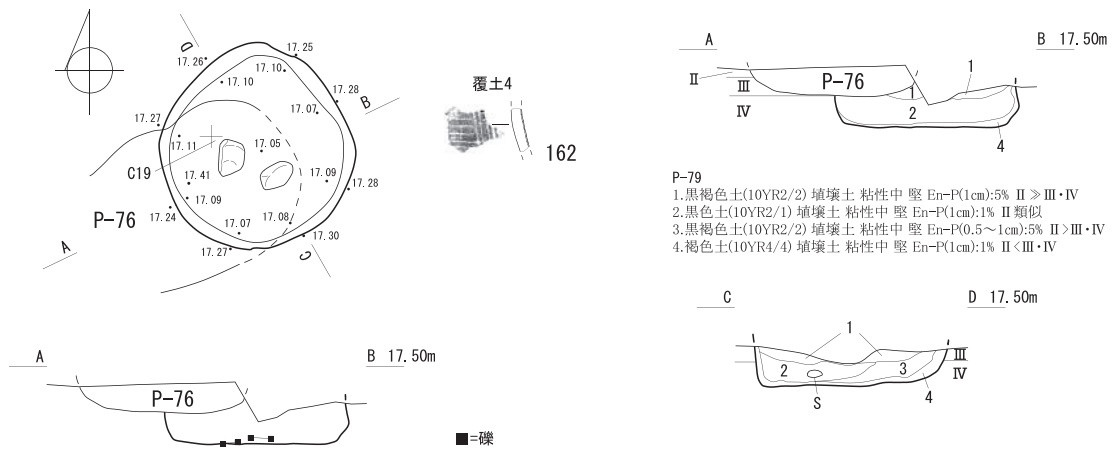
P-78



- P-78
- 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):15% II>III・IV 1cm大の炭化物含む

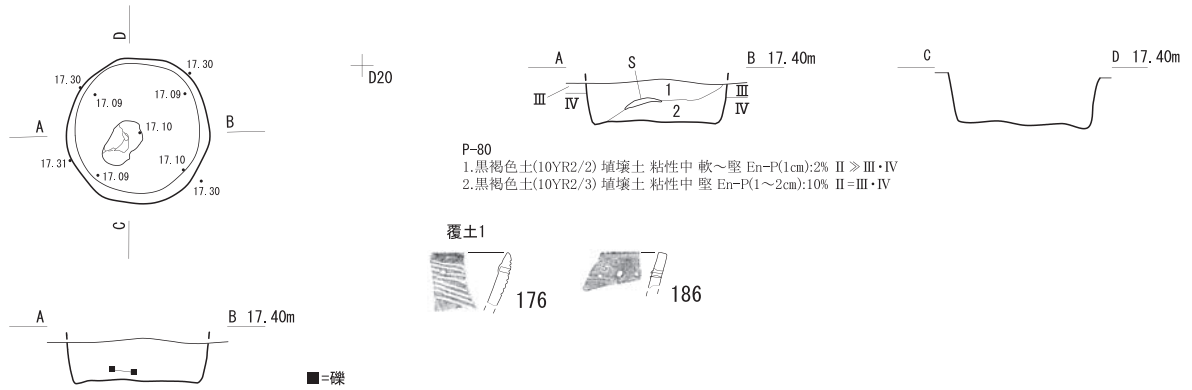
図III-33 土坑・土坑墓(23)P-75~78

P-79



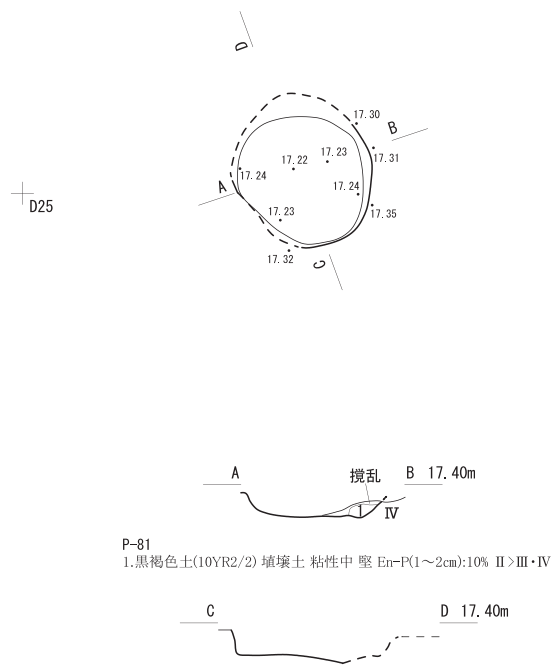
- P-79  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II > III・IV  
 2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II 類似  
 3. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):5% II > III・IV  
 4. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II < III・IV

P-80



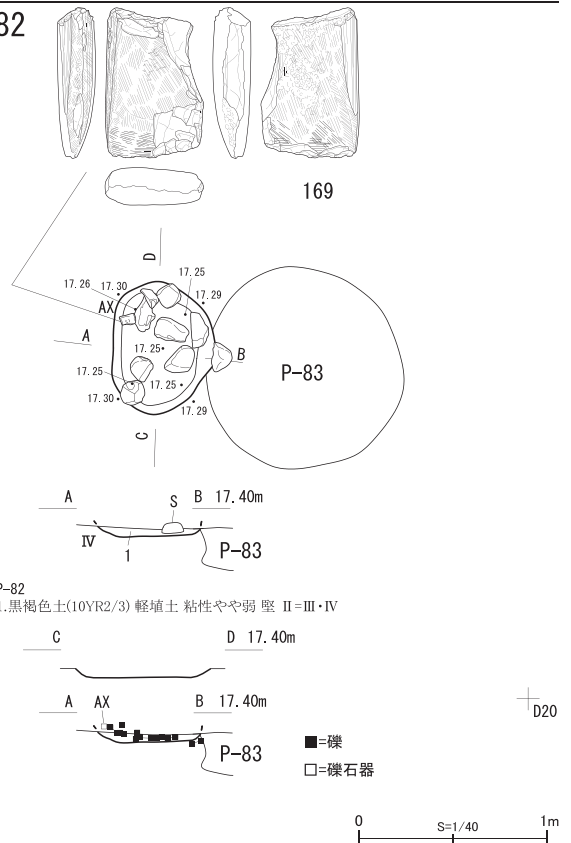
- P-80  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II > III・IV  
 2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):10% II=III・IV

P-81



- P-81  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):10% II > III・IV

P-82



- P-82  
 1. 黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性やや弱 堅 II=III・IV

図III-34 土坑・土坑墓(24)P-79~82

**土坑80 (P-80)** (図Ⅲ-34、表Ⅲ-2、図版33)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は東側下位にEn-Pを多く含む黒褐色土(覆土2)、西側上位にEn-Pの少ない黒褐色土(覆土1)が堆積し、特大型の礫片は中央南西寄りの覆土2直上から出土した。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類(176・186など)、剥片、礫が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑81 (P-81)** (図Ⅲ-34、表Ⅲ-2、図版34)

**調査・特徴：**Ⅳ層中での耕作痕の除去中に黄褐色土の下位から黒色土の落ち込みを確認した。一部に残る覆土を図化し、掘り下げた。周辺からは本遺構に関連するとみられる中型の完形礫と小型の礫片が出土した。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑82 (P-82)** (図Ⅲ-34、表Ⅲ-2、図版34)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で礫の集中と円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。隣接するP-83との長軸の南側覆土を掘り下げ、土層断面で本遺構が新しいことを確認し、調査を進めた。覆土は黒褐色土(覆土1)が坑底付近のみ残存している状況で、小・中型の完・半完形礫・礫片が坑底から出土した。また、石斧片(175)が礫に隣接して出土している。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。平面形は楕円形で、小型である。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑83 (P-83)** (図Ⅲ-35、表Ⅲ-2、図版34)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層でP-82と隣接する円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。P-82と同時に半截し、新旧の確認後、P-82を調査し、その後に調査を行った。覆土は下部に褐色土(覆土4)・黒褐色土(覆土3)が、上部には黒色土(覆土2)・黒褐色土(覆土1)がレンズ状に堆積する。En-Pは下部にやや多い。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土上部に多く、Ⅵ群b類土器が出土している。163は覆土4からの出土である。炭化種実同定の結果、覆土2からオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑84 (P-84)** (図Ⅲ-35、表Ⅲ-2、図版34)

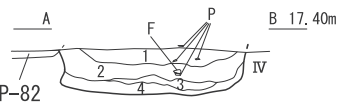
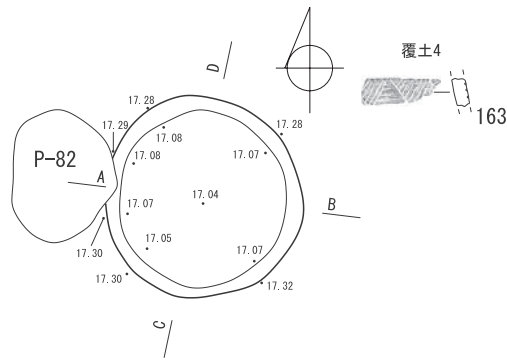
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は壁から坑底にかけて暗褐色土(覆土3)が、その上位に黒褐色土(覆土1・2)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は礫のみで、中型完形礫・小型礫片が覆土1下部に散漫に分布している。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑85 (P-85)** (図Ⅲ-35、表Ⅲ-2、図版34・35)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は壁際に暗褐色土(覆土4)が、坑底から壁にかけて黒色土(覆土2・3)が堆積し、その大きく窪む上面に黒褐色土(覆土1)が落ち込むように厚く堆積する。覆土1は炭化物を含み、その下位には焼骨片が分布する。骨片は破砕され非常に細かいが、全て哺乳綱でシカとみられ、シカ種子骨1点が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1がほとんどで土器はⅣ群3点、Ⅵ群b類27点が、石器は楔形石器1点、剥片7点、礫16点が出土した。礫は小型礫片、中型半完形礫が中層と坑底付近から出土している。

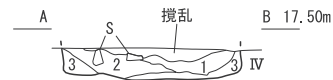
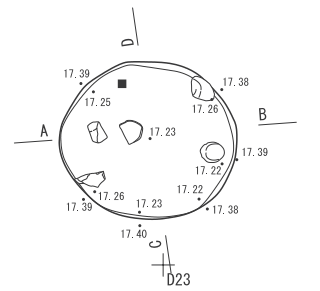
P-83



- P-83  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1cm):1% II >> III・IV  
 2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1cm):5% II 類似  
 3. 黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性やや弱 堅 En-P(1cm):10% II > III・IV  
 4. 褐色土(10YR4/4) 軽埴土 粘性やや弱 堅 En-P(1~2cm):10% II < III・IV



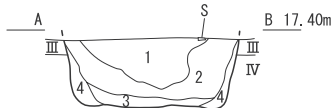
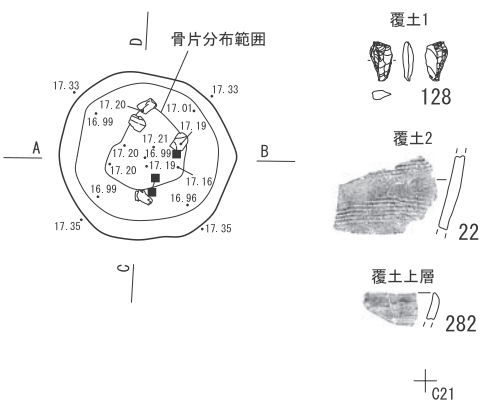
P-84



- P-84  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中堅 II > III・IV  
 2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1cm):1% II > III・IV  
 3. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1cm):2% II = III・IV



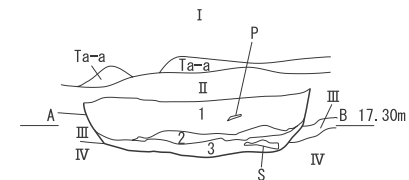
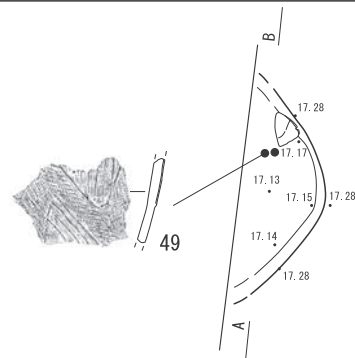
P-85



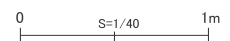
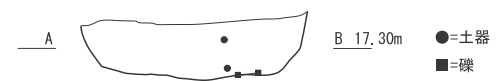
- P-85  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):2% II >> III・IV 0.5cm大の炭化物含む  
 2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II 類似  
 3. 黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中堅 II 類似  
 4. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性中軟 En-P(1cm):1% II < III・IV



P-86



- P-86  
 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II 類似  
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II >> III・IV  
 3. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 II 類似



図III-35 土坑・土坑墓(25)P-83~86

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑86 (P-86)** (図Ⅲ-35、表Ⅲ-2、図版35)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に延びる三角形の黒色土の落ち込みを確認した。調査区内の覆土を掘り下げ、調査を行った。覆土は黒色土(覆土3)、黒褐色土(覆土2)の上に黒色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。平面形状は長方形の一角と推定される。遺物は上層の覆土1からⅥ群b類土器9点(49など)、覆土3からⅦ群土器1点が出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から擦文文化期と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑87 (P-87)** (図Ⅲ-36、表Ⅲ-2、図版35)

**調査・特徴：**耕作土除去後、Ⅲ層中で3つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。北側からP-87~89とし、連結した3つの土坑の長軸の西側を半截し、土層の観察を行った。南側からP-87・88・89の順に形成されていることが判明したため、新しいものから順に調査を進めた。覆土は褐色土(覆土4)・黒褐色土(覆土2・3)が東西方向に斜めに堆積し、その上に黒褐色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土下位に多く含まれる。坑底は平坦で、壁際には浅い周溝が検出された。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部は開き気味である。遺物は少なく、粘土が覆土2から出土し、礫は坑底の南側で小型礫片・中型完形礫・大型半完形礫が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑88 (P-88)** (図Ⅲ-36、表Ⅲ-2、図版35)

**調査・特徴：**P-87で記載したとおりP-87・89とともに確認し、P-89の調査後、調査を行った。覆土は坑底に薄く黒褐色土(覆土2)が堆積し、その上位に暗褐色土(覆土1)がやや厚く堆積する。En-Pは覆土1に多めに混じる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類土器15点、剥片10点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑89 (P-89)** (図Ⅲ-36、表Ⅲ-2、図版35)

**調査・特徴：**P-87で記載したとおりP-87・88とともに確認し、P-88の調査後、調査を行った。覆土は坑底に暗褐色土(覆土2)が厚く堆積し、その窪んだ上面に黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土2に多く含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はほぼ中央覆土1の上部からⅥ群土器19点、剥片3点、小型礫片などが出土した。

**時期：**覆土1出土の炭化材に $1,665 \pm 20 \text{yrBP}$  (HD-D16)の年代測定値が得られている。この年代値と遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑90 (P-90)** (図Ⅲ-37、表Ⅲ-2、図版35・36)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土主体で、暗褐色土・褐色土がレンズ状に堆積する。En-Pは覆土1・6に多量に含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器18点(112・292など)、スクレイパー1点(64)、剥片6点、小型礫片などが7点出土した。

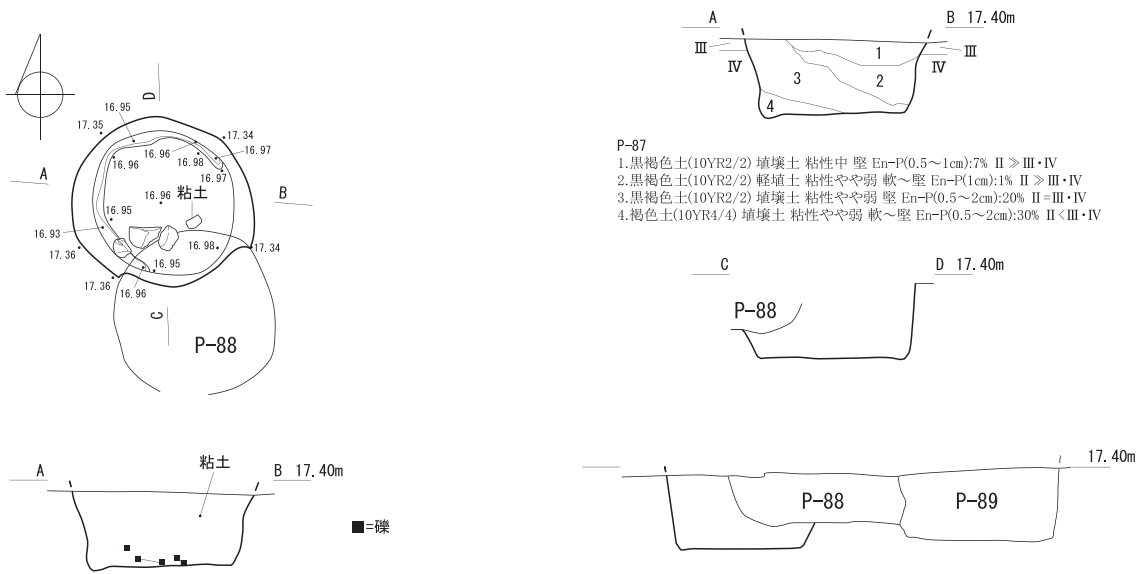
**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。 (菊池)

**土坑91 (P-91)** (図Ⅲ-37、表Ⅲ-2、図版36)

**調査・特徴：**Ⅱ層を掘り下げ中、Ⅱ層中で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒色土(覆土3)が厚く堆積し、その上部に暗褐色土(覆土2)が薄く落ち込み、さらに黒褐色土(覆土1)が厚く落ち込むように堆積する。炭化物は覆土2に少量含まれる。坑底は

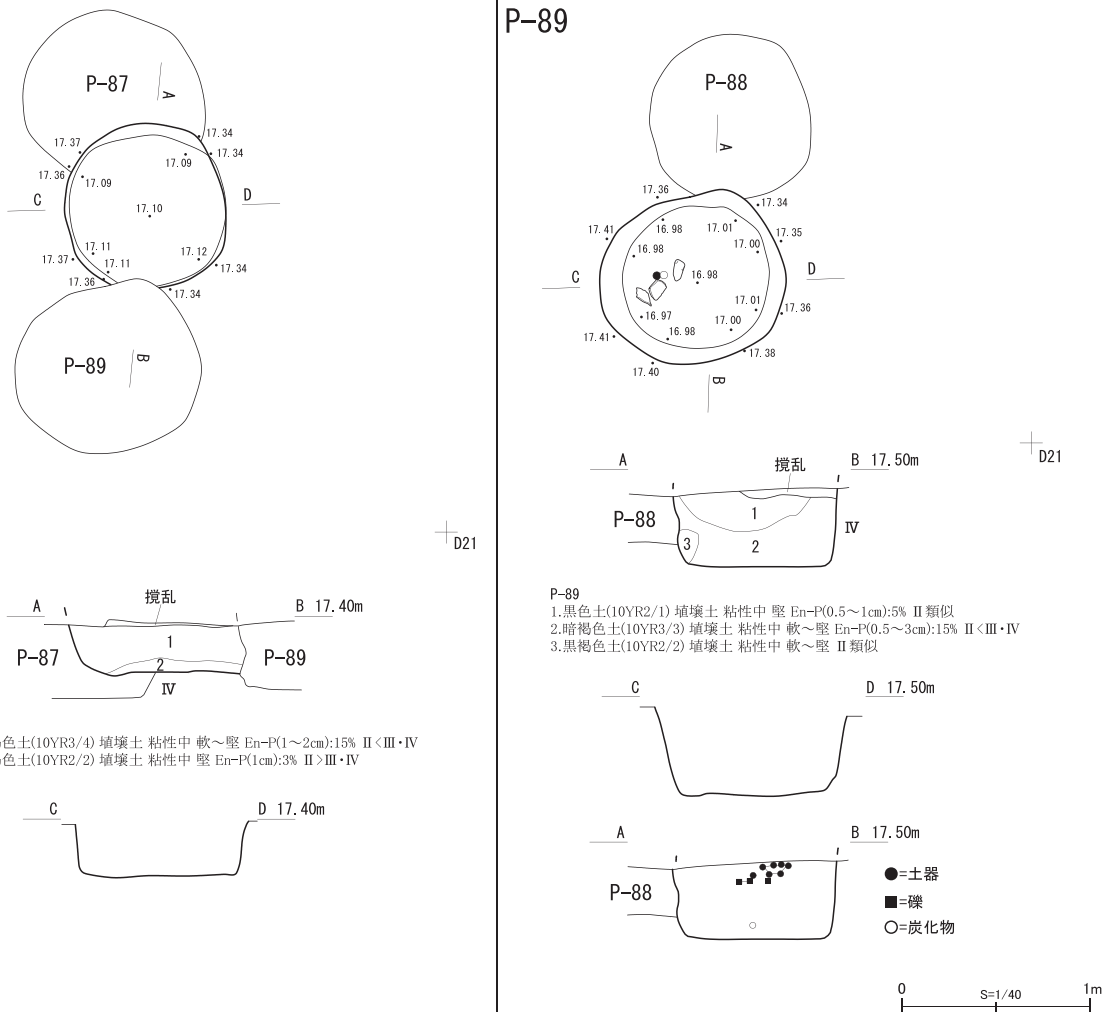
P-87

+D20



P-88

P-89



図III-36 土坑・土坑墓(26)P-87~89

平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1中心でⅥ群b類土器9点(60など)、剥片4点、中型完形礫1点を含む礫7点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑92 (P-92)** (図Ⅲ-37、表Ⅲ-2、図版36)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土はEn-Pを多量に含む黒褐色土のみで、坑底にやや厚く堆積する。炭化物は少量含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は坑底とその上位に分布し、坑底からⅥ群b類土器6点(47など)、中型完形礫1点・半完形礫1点、小型半完形礫1点を含む5点が出土し、覆土中からはⅥ群a類土器1点(17)、Ⅵ群b類土器9点(213・230など)、スクレイパー1点(68)、礫4点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑93 (P-93)** (図Ⅲ-38、表Ⅲ-2、図版36)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底周縁部に薄く褐色土(覆土2)が堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は非常に少なく、坑底付近から砥石(194)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑94 (P-94)** (図Ⅲ-38、表Ⅲ-2、図版36・37)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は小型礫片、半完形小型礫が坑底やや上位より南側に偏って出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑95 (P-95)** (図Ⅲ-38、表Ⅲ-2、図版37)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土はⅣ層をブロック状に含む黒褐色土(覆土1)が厚く堆積する。覆土1には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器3点(103など)、剥片が2点、礫1点のみである。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑96 (P-96)** (図Ⅲ-38、表Ⅲ-2、図版37)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.6mくらいの黒褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より軽石1点が出土した。下端平面形は一短辺が直線の変形小判形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L上半に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑97 (P-97)** (図Ⅲ-39、表Ⅲ-2、図版37)

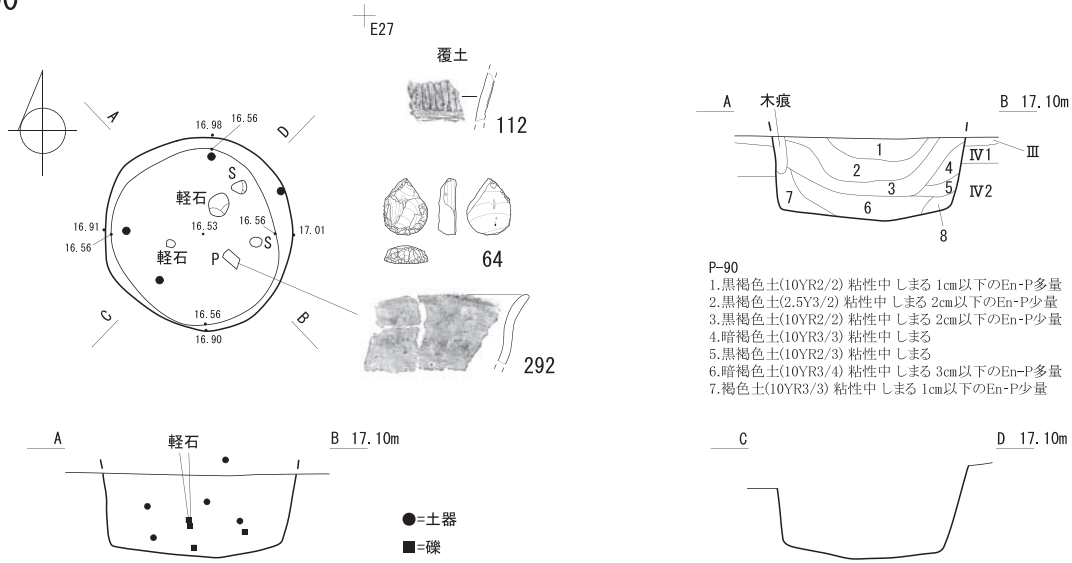
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土はほぼ黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は礫2点のみである。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

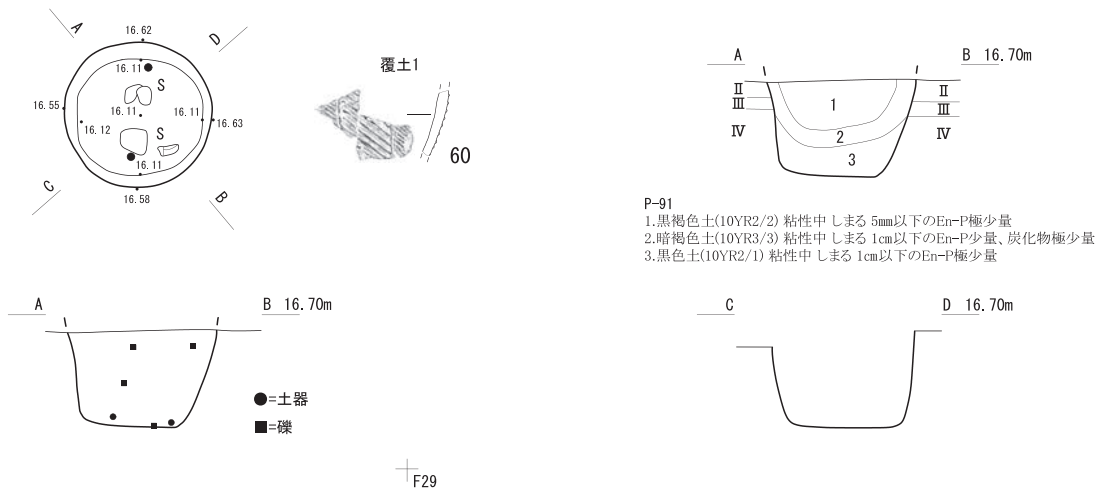
**土坑98 (P-98)** (図Ⅲ-39、表Ⅲ-2、図版38)



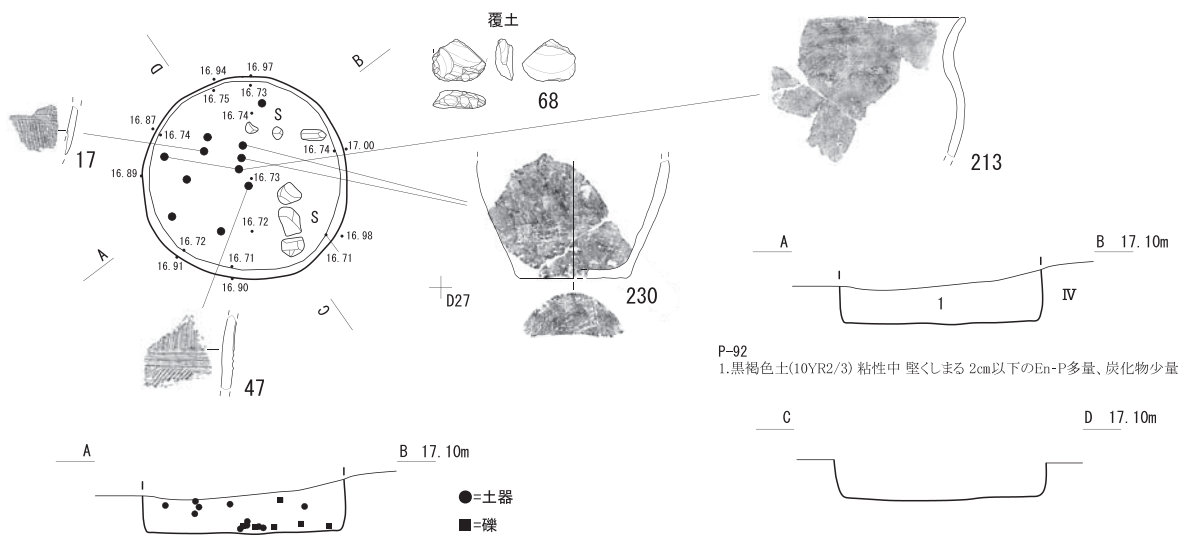
P-90



P-91



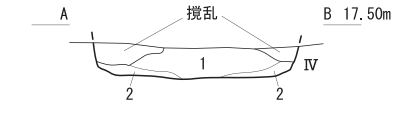
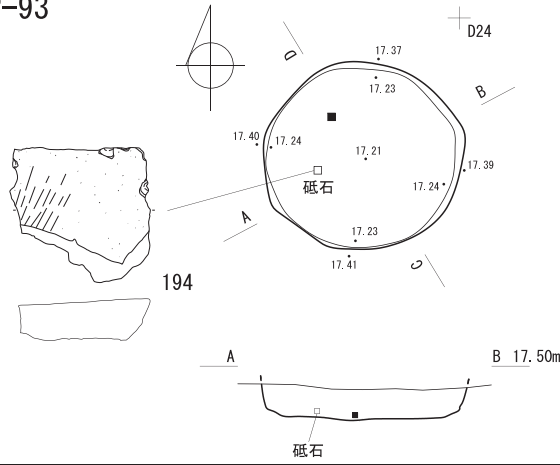
P-92



0 S=1/40 1m

図III-37 土坑・土坑墓(27)P-90~92

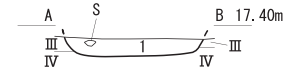
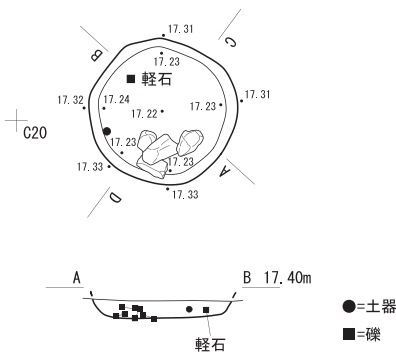
P-93



P-93  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):7% II>III・IV  
 2.褐色土(10YR4/4) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):10% II<III・IV



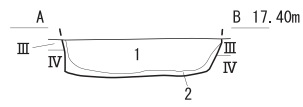
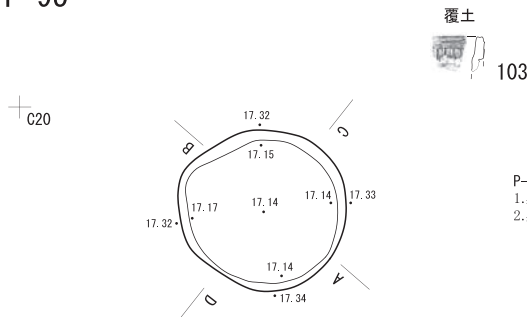
P-94



P-94  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):10% II>III・IV



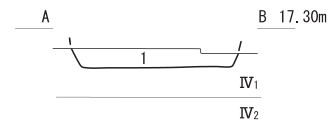
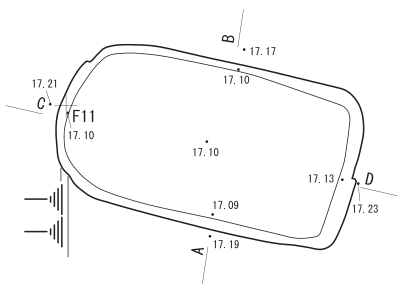
P-95



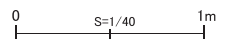
P-95  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):7% II>III・IV 1cm大の炭化物含む、IV層ブロック状に混じる  
 2.黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性やや弱 堅 En-P(1cm):3% II<III・IV



P-96



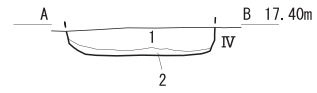
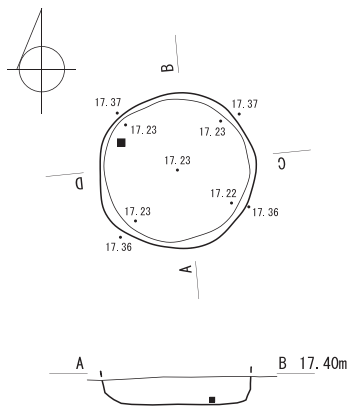
P-96  
 1.黒褐色土(7.5YR3/1) しまりあり 径1cm En-P少量、En-L少量



図III-38 土坑・土坑墓(28)P-93~96

P-97

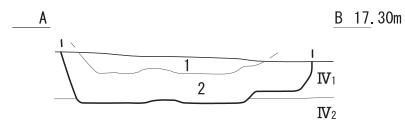
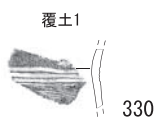
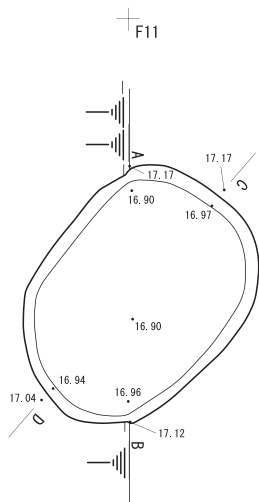
D21



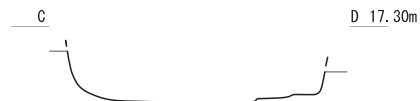
P-97  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中堅 II>III・IV  
 2. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中堅 II<III・IV



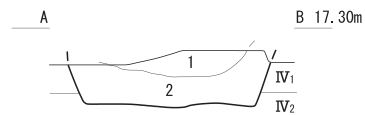
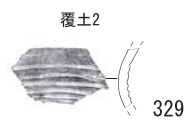
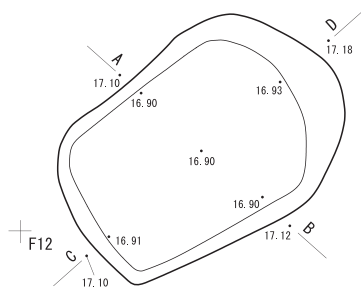
P-98



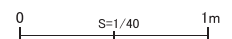
P-98  
 1. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなし 径0.5cm En-P少、径0.5cm炭化物多  
 2. 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 径1~2cm En-P多、En-L多



P-99



P-99  
 1. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなし 径1cm En-P少、炭化物少  
 2. 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 径1~2cm En-P多、En-L多



図III-39 土坑・土坑墓(29)P-97~99

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.5mくらいの黒褐～暗褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり長軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より擦文土器片4点・剥片2点、1層より擦文土器片1点・剥片2点が出土した。下端平面形は小判形、坑底面はわずかに段がある。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L上半に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑99 (P-99) (図Ⅲ-39、表Ⅲ-2、図版38)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.5mくらいの黒褐～暗褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より擦文土器片9点・礫2点、2層より続縄文後葉土器片1点・擦文土器片3点・礫1点が出土した。下端平面形は一短辺が直線の変形小判形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁はSection point A・B・D側が直線的に外上方に立ち上がり、Section point C側が内彎気味に外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L上半に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造、2層出土土器(多重横位沈線の擦文深鉢頸部)より、擦文前期の可能性がある。覆土1出土の炭化材からは $1,205 \pm 20$ yrBP (HD-D17)の年代測定値が得られている。(鈴木 信)

#### 土坑100 (P-100) (図Ⅲ-40、表Ⅲ-2、図版38・39)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で3つの円形が連結する黒色土の落ち込みを確認した。北側からP-101・118・100とし、連結した3つの土坑の長軸の東側を半截し、土層の観察を行った。南側からP-100・118・101の順に形成されていることが判明したため、新しいものから順に調査を進めた。P-100の覆土は黒色土(覆土1)が厚く堆積し、下部の褐色土(覆土2)には焼骨片が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は坑底付近から出土し、南東壁から白色粘土入りの片口土器(269)と小型半完形礫・中型完形礫が、中央南から樹皮が、東壁際の中型完形礫の下から樹皮痕が、その他、石核(140)、Ⅵ群b類土器片、剥片などが出土した。

**時期：**覆土1出土炭化材には $1,750 \pm 20$  (HD-D19)、覆土2出土樹皮には $1,565 \pm 20$  (HD-D18)の年代測定値が得られている。この年代値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

#### 土坑101 (P-101) (図Ⅲ-41、表Ⅲ-2、図版38・39)

**調査・特徴：**P-100で記載したとおりP-101・118とともに確認し、P-118の調査後、調査を行った。覆土は黒色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1の上部に落ち込むように出土し、Ⅵ群b類土器の底部が東壁付近で、礫は中型半完形・完形、大型半完形が中央から南にかけて出土した。鉄製錐(6)が礫の間から、Ⅵ群b類土器の183は礫の上部から出土した。

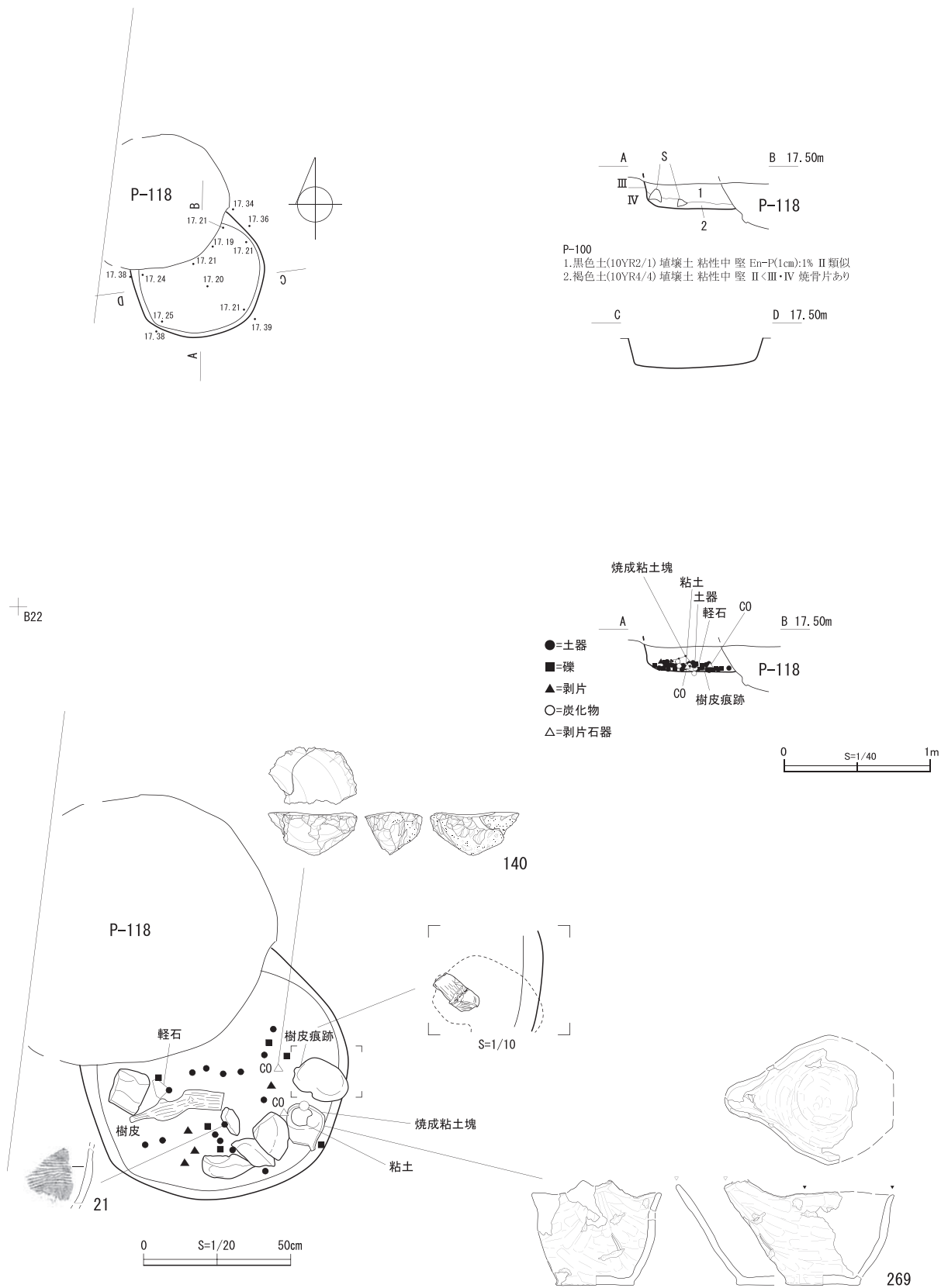
**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。

(鈴木宏行)

#### 土坑102 (P-102) (図Ⅲ-41、表Ⅲ-2、図版39)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.2mくらいの褐色を呈する隅丸長方形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L下半に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

P-100



図III-40 土坑・土坑墓(30)P-100

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑103 (P-103)** (図Ⅲ-41、表Ⅲ-2、図版39)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。それぞれP-103・104とし、両方の中軸の北側を半截し、P-103が新しいことを確認して先に調査を行った。また、周辺には風倒木痕が検出され、これら土坑の下位からも検出され、風倒木痕形成後に土坑が掘り込まれたことを確認した。覆土は薄い黒褐色土(覆土3)の上に、やや厚く黒色土(覆土2)が堆積し、その窪んだ上面に落ち込むように黒褐色土(覆土1)が堆積する。炭化物は覆土1に含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類2点、Ⅶ群2点、剥片1点が出土し、礫は覆土2から中型半完形・完形、大型半完形が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑104 (P-104)** (図Ⅲ-42、表Ⅲ-2、図版39)

**調査・特徴：**P-103で記述したようにP-103の調査後に調査を行った。覆土は下位に黒色・黒褐色土が堆積し、その上位に落ち込むように黒色土(覆土1)が堆積する。坑底はおおむね水平で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は出土していない。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑105 (P-105)** (図Ⅲ-42、表Ⅲ-2、図版39・40)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は薄い黒褐色土(覆土3)の上に黒色土(覆土2)が堆積し、その上面に落ち込むように黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土2には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1・2からⅥ群b類が5点出土し、片口部の119は覆土1、52は覆土2から出土している。礫は土坑中央では覆土3上面から大型完形・中型半完形が、北側は覆土1・2の高い位置から小型礫片が検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑106 (P-106)** (図Ⅲ-42、表Ⅲ-2、図版40)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に延びる円形の黒色土の落ち込みを確認した。東西方向に半截し、調査を行った。覆土は黒色・黒褐色土の薄い層がレンズ状に堆積し、上部の覆土1・2にはⅣ層がブロック状に含まれる。坑底は平坦で、壁は、坑底付近は垂直に立ち上がり、途中から坑口部にかけて開く。遺物は覆土上部を中心にⅥ群b類土器が出土し、礫は覆土2から壁に落ち込むように中型半完形・完形、大型完形が出土した。炭化種実同定の結果、覆土2・4・5からはオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

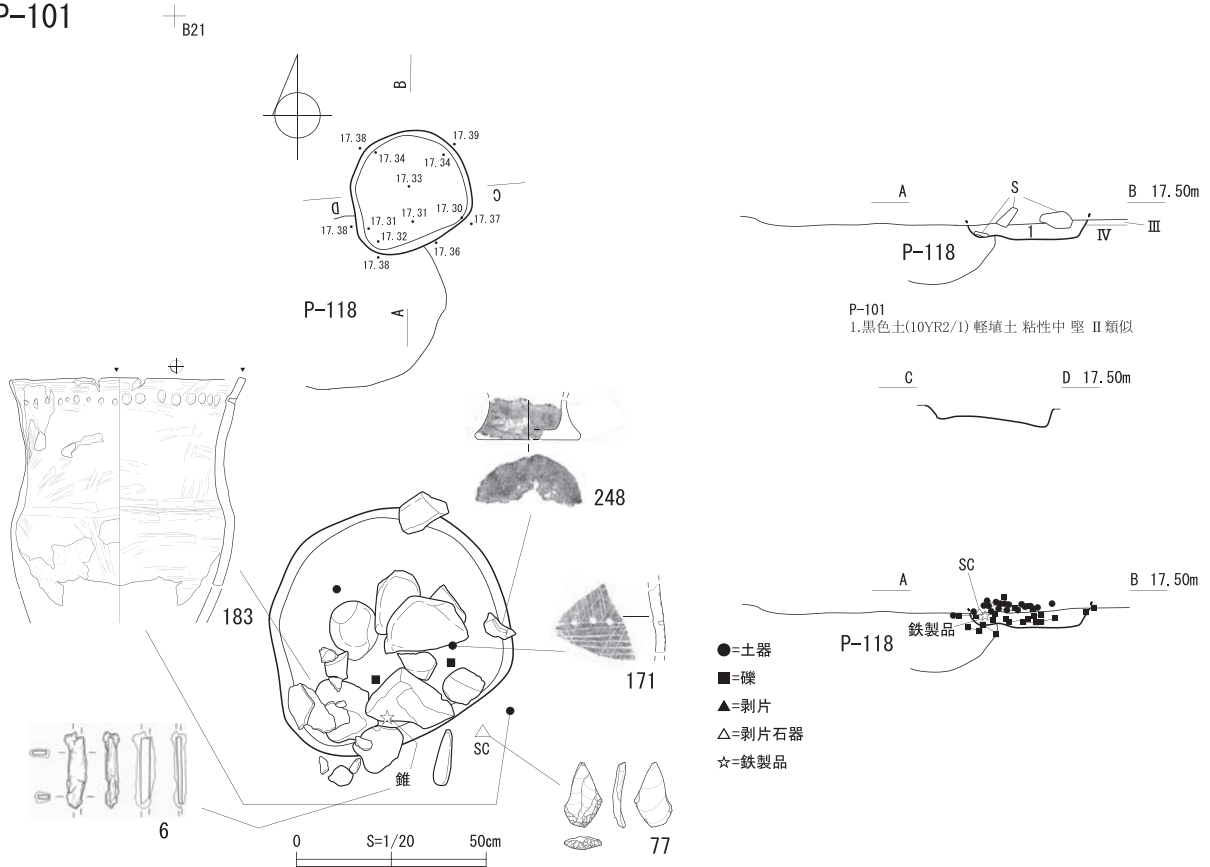
**土坑107 (P-107)** (図Ⅲ-43、表Ⅲ-2、図版40)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.6mくらいの黒褐～暗褐色を呈する隅丸長方形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり長軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より擦文土器片2点・礫3点、2層より礫1点が出土した。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

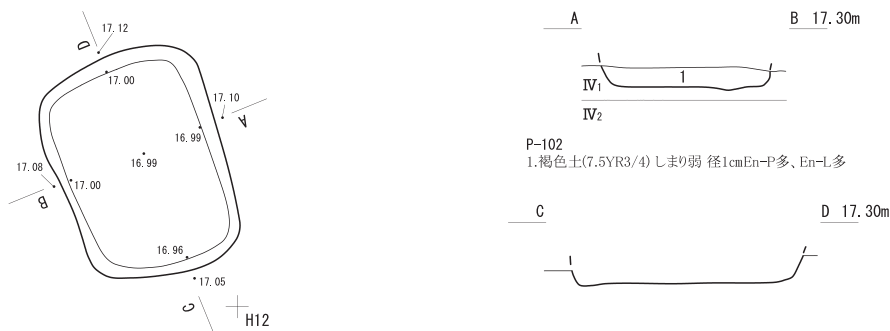
**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑108 (P-108)** (図Ⅲ-43、表Ⅲ-2、図版40)

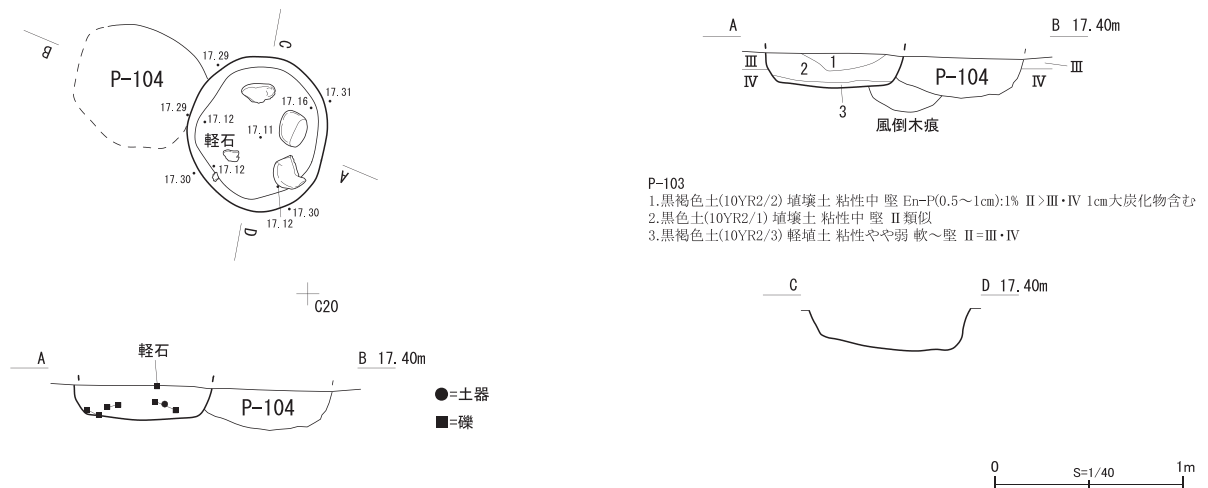
P-101



P-102

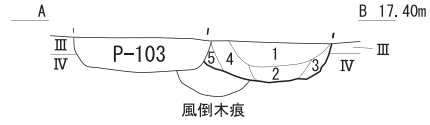
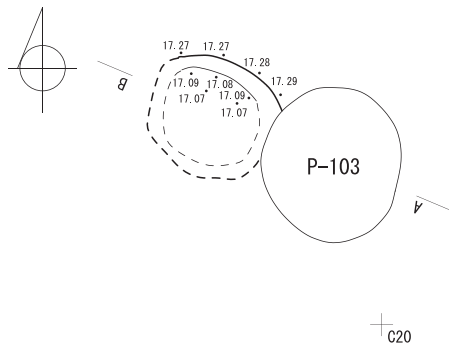


P-103



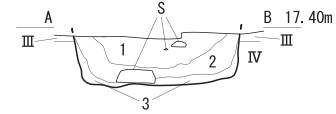
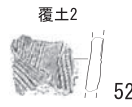
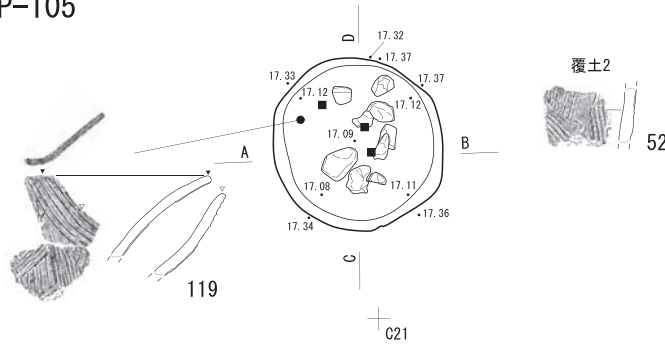
図III-41 土坑・土坑墓(31)P-101~103

P-104



- P-104
- 1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1~2cm):2% II類似
  - 2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中堅 II類似
  - 3.黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性中軟~堅 II>III・IV
  - 4.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性やや弱 軟~堅 II>III・IV
  - 5.黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性やや弱 軟~堅 II>III・IV

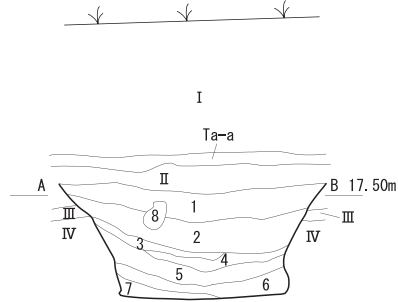
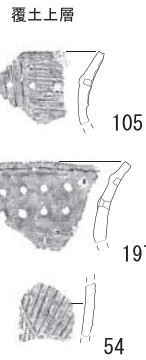
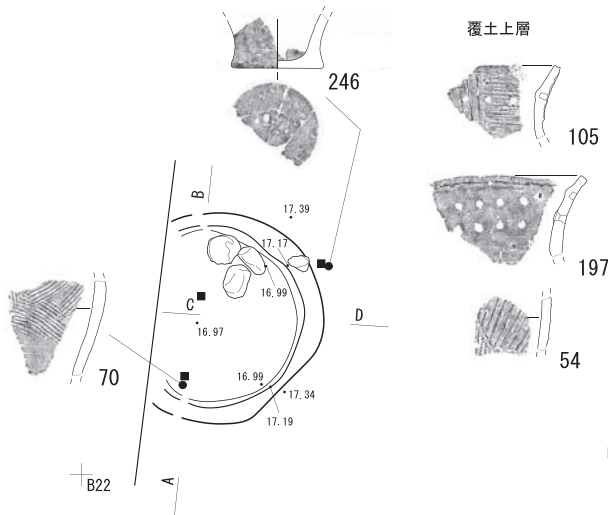
P-105



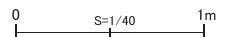
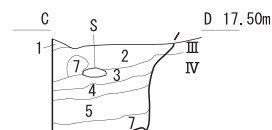
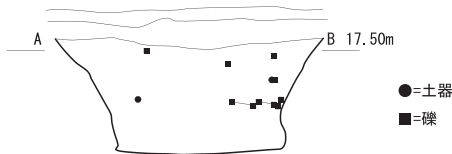
- P-105
- 1.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中堅 En-P(0.5~2cm):5% II>III・IV
  - 2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中堅 En-P(3cm):1% II類似 5mm大の炭化物含む
  - 3.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中堅 II=III・IV



P-106



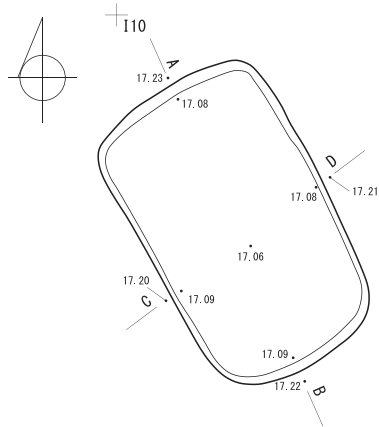
- P-106
- 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中堅 En-P(1cm):1% II>III・IV IV層ブロック状に含む
  - 2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(0.5~1cm):3% II類似 IV層ブロック状に含む
  - 3.黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II>III・IV
  - 4.黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):15% II>III・IV
  - 5.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):10% II>III・IV
  - 6.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中軟~堅 II類似
  - 7.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):10% II=III・IV
  - 8.褐色土(10YR4/6) 埴壤土 粘性中堅 IV類似



図III-42 土坑・土坑墓(32)P-104~106



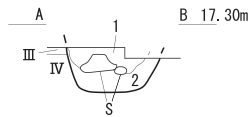
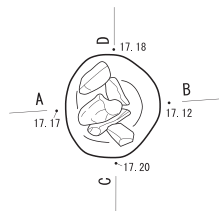
P-107



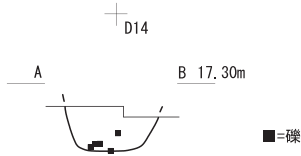
P-107  
 1.黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなし 径5cm炭化物多  
 2.暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 径1~1.5cm En-P多、En-L多



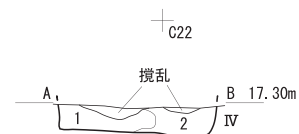
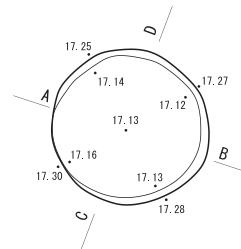
P-108



P-108  
 1.黒色土(10YR2/1) しまりなし  
 2.暗褐色土(10YR3/4) しまりなし En-L多+II



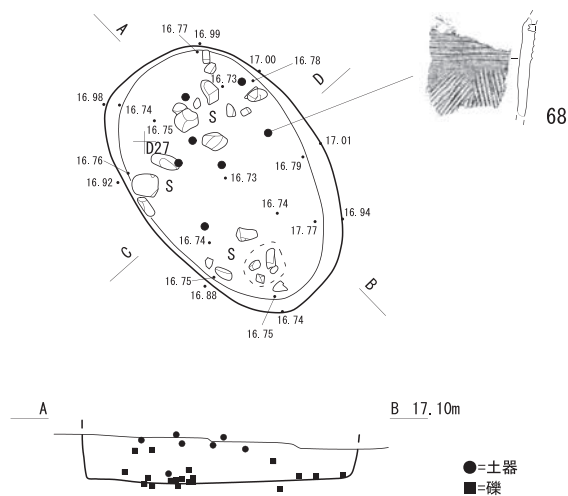
P-109



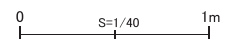
P-109  
 1.暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):15% II<III・IV  
 2.暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):7% II<III・IV



P-110



P-110  
 1.黒褐色土(10YR2/3) 粘性中 堅くしまる 2cm以下のEn-P多量、5mm以下の炭化物多量



図Ⅲ-43 土坑・土坑墓(33)P-107~110

**調査・特徴：**Ⅲ層を深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、P-121とほぼ同じ標高で、径0.5mくらいの黒褐～暗褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より擦文土器片1点・擦文土器坏片2点・礫2点、2層上面より礫5点（重量「小」の被熱砂岩亜角礫2個・重量「中」の被熱チャート亜角礫1個・重量「中」の被熱砂岩亜円礫1個・重量「大」の被熱砂岩亜円礫1個・重量「大」のチャート亜角礫1個など）が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はⅣ層中に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。屋根土（2層）上面に礫がのる上屋墓。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。（鈴木 信）

#### 土坑109 (P-109) (図Ⅲ-43、表Ⅲ-2、図版40・41)

**調査・特徴：**Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層上面で円形の暗褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色土が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器3点、礫3点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑110 (P-110) (図Ⅲ-43、表Ⅲ-2、図版41)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅲ層中で小判形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土はEn-P・炭化物を多量に含む黒褐色土が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は坑底と覆土上部に分けられ、坑底からは北半部を中心に中型半完形・礫片、小型完形・半完形など18点、覆土上部からはⅥ群b類土器13点（68など）、小型礫など16点が出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（菊池）

#### 土坑111 (P-111) (図Ⅲ-44、表Ⅲ-2、図版41)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で小判形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は南側の下部にEn-Pが多く含まれるオリーブ褐色土（覆土2）が堆積し、上部の全体に黒褐色土（覆土1）が堆積する。炭化物は覆土1に少量含まれる。坑底は南北で若干段があり、北側がやや高く、西側はやや低く両者とも平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器2点、礫14点（大型完形3点・半完形1点、中型完形2点・半完形4点を含む）で、礫は北東部、南西部に集中域があり、北東部は坑底より上位の覆土中、南西部は坑底から出土している。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（菊池）

#### 土坑112 (P-112) (図Ⅲ-44、表Ⅲ-2、図版41)

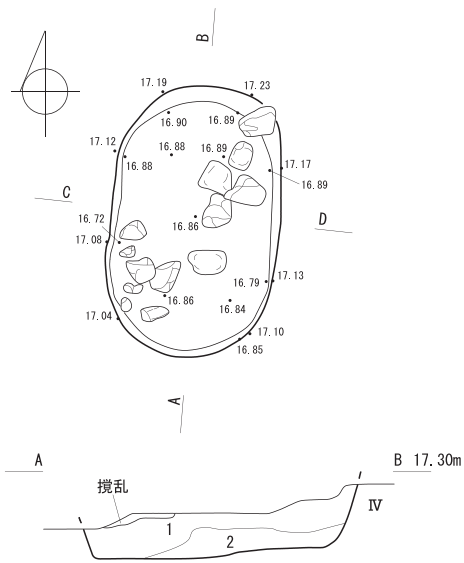
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅲ層中で小判形の褐色土の落ち込みを確認した。長軸で半截し、調査を行った。覆土は下部にEn-Pを多量に含む暗褐色土（覆土2）が厚く堆積し、その上位に褐色土（覆土1）が堆積する。坑底は南北方向の中央に段があり、南北とも平坦である。壁はやや斜めに立ち上がる。遺物は覆土中層主体で、Ⅵ群b類土器10点、剥片2点、礫10点（特大型完形礫1点を含む）が北側の覆土中層から出土している。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（菊池）

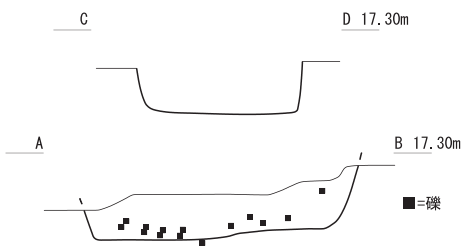
#### 土坑113 (P-113) (図Ⅲ-44、表Ⅲ-2、図版42)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は薄い暗褐色土（覆土2）の上に黒褐色土（覆土1）が堆積している。坑底は概ね平坦で、

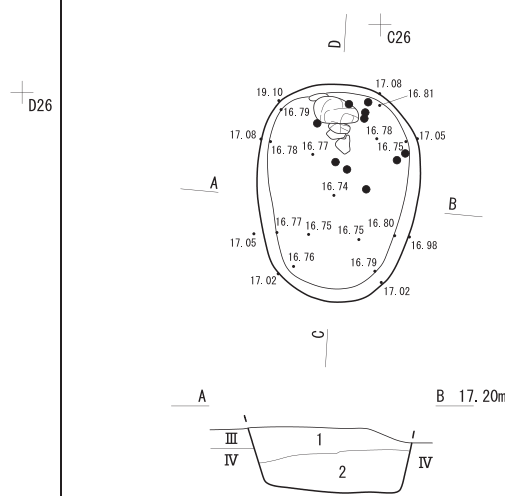
P-111



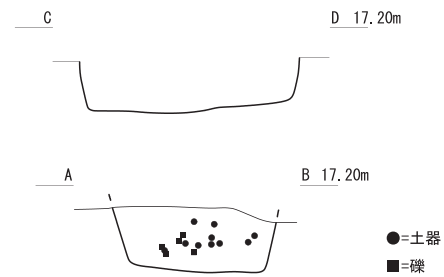
P-111  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 粘性中 しまる 2cm以下のEn-P少量、ローム粒多量、炭化物少量  
 2.オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性中 しまる 2cm以下のEn-P多量



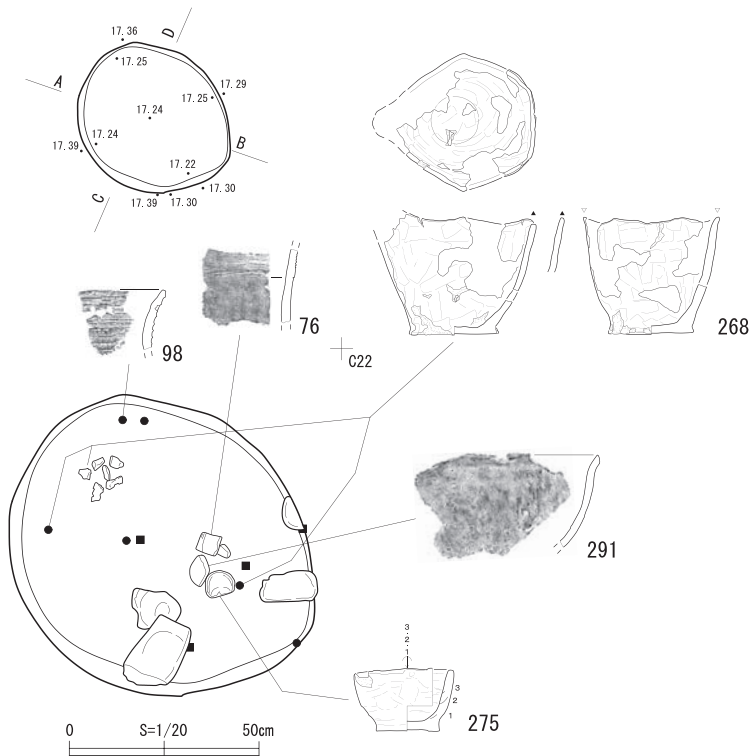
P-112



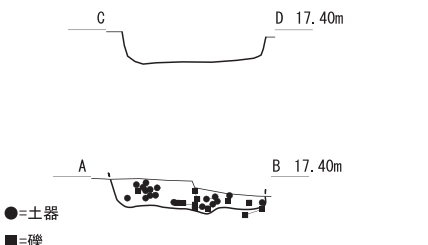
P-112  
 1.褐色土(10YR4/4) 粘性中 堅くしまる 2cm以下のEn-P少量  
 2.暗褐色土(10YR3/3) 粘性中 堅くしまる 2cm以下のEn-P多量



P-113



P-113  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):5% II>III・IV  
 2.暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II=III・IV



図III-44 土坑・土坑墓(34)P-111~113

壁は垂直に立ち上がる。遺物は片口土器（268）が北西部覆土1から、小型鉢（275）、鉢ないし片口破片（291）、大型半完形礫、小・中型礫片は南東部坑底付近から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑114（P-114）（図Ⅲ-45、表Ⅲ-2、図版42）

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ中、円形の黒色土の落ち込みを確認した。北側はⅡ層掘り下げ後であったため、Ⅲ層以下の調査である。半截し、調査を行った。覆土は均質な黒色土（覆土1）のみで、中層で中央に落ち込むように焼骨片が検出された。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は底部（247）ほかⅥ群b類土器が30点、坑底から有茎石鏃2点（3・4）、鉄製錐（4）、白色粘土2点が出土した。礫は北西の坑底付近から小型礫片が、南東の壁際には検出面から落ち込むように中型半完形礫が出土した。そのほか、種実同定の結果、覆土1からオニグルミ・キハダが検出された。焼骨片はシカの末節骨・種子骨・中節骨のほかシカとみられる碎片である。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑115（P-115）（図Ⅲ-45、表Ⅲ-2、図版42）

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土（覆土2）が厚く堆積し、中央には擦文期以降とみられる細い柱穴が見られる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器（293など）23点、楔形石器（106）、剥片、礫である。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### 土坑116（P-116）（図Ⅲ-45、表Ⅲ-2、図版43）

**調査・特徴：**Ⅲ層上面において、長軸2.0mくらいの黒褐・暗褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり長軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、P-137との新旧を確認し、新しいP-116が黒褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉後半期土器片3点・擦文土器坏片1点・剥片13点・礫7点（図示した1個は重量「中」の被熱砂岩垂円礫、ほかは500g以下の「小」）、2層より擦文土器片1点・被熱石核1点・礫1点が出土した。続縄文後葉土器片・重量「中」の被熱礫は切られたP-137に由来する。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がり角張る、壁は上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。（鈴木 信）

#### 土坑117（P-117）（図Ⅲ-46、表Ⅲ-2、図版43）

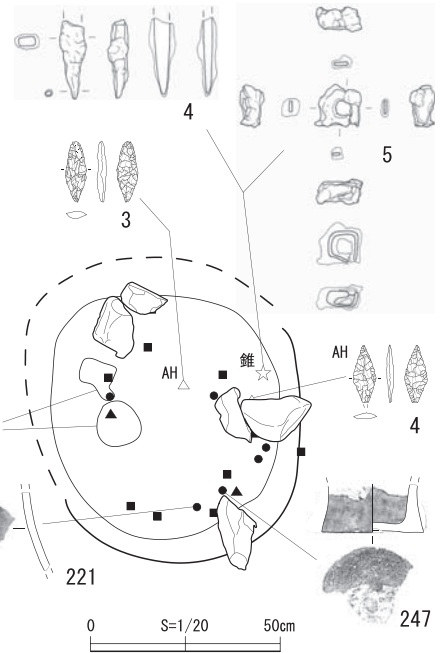
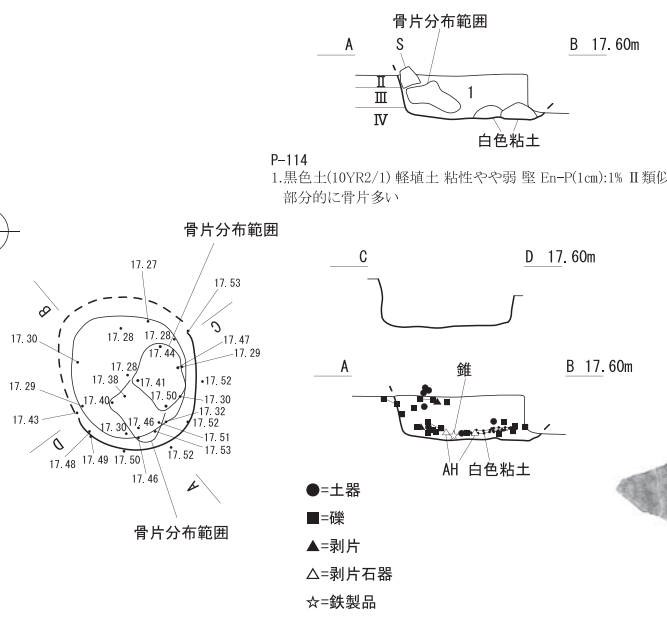
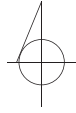
**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.8mくらいの黒褐色を呈する隅丸長方形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1～3層より擦文土器片26点・擦文土器坏片4点・礫4点が出土した。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P中に設けられる。Ⅰ層は心土破砕による攪乱、覆土は1～3層が流れ込み、4・5層が埋め戻し土で、4層は柳構造を支持する充填土。土層堆積から木槨墓と考えられる。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。覆土5下部出土炭化クルミからは1,210±15（HD-D20）の年代測定値が得られている。（鈴木 信）

#### 土坑118（P-118）（図Ⅲ-46、表Ⅲ-2、図版38・43）

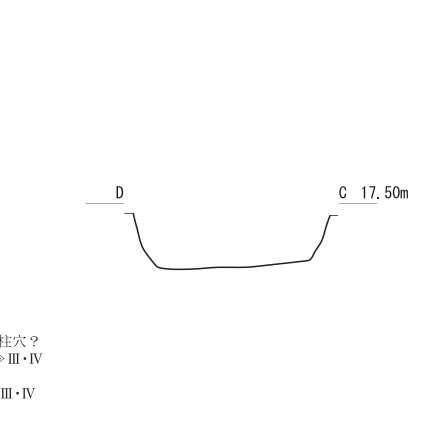
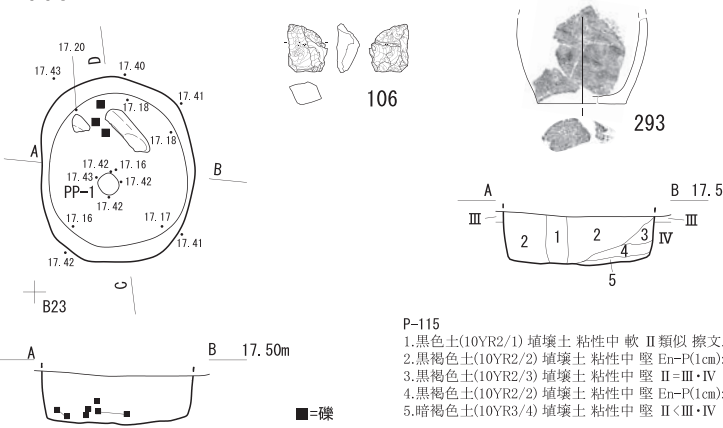
P-114

B22



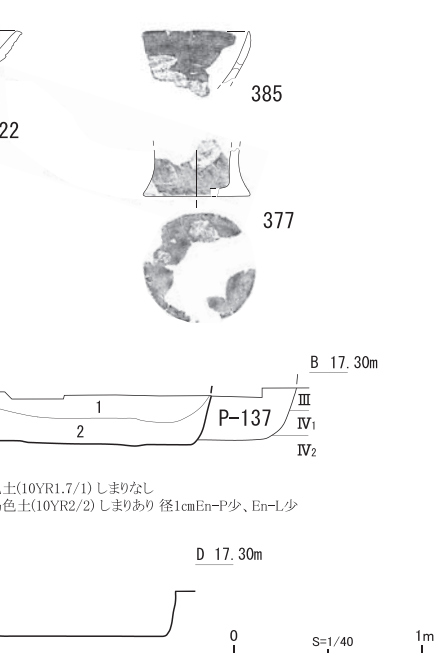
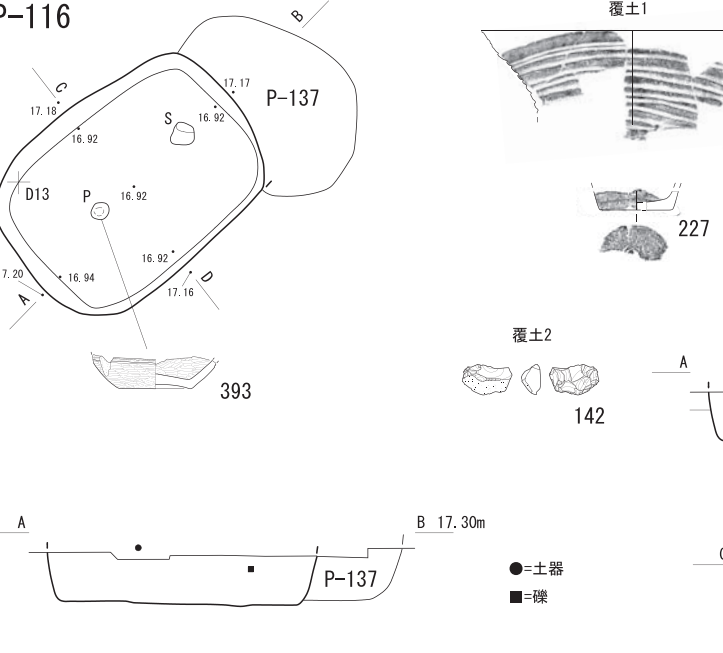
P-115

B23



P-116

B23



図III-45 土坑・土坑墓(35)P-114~116

**調査・特徴：**P-100で記載したとおりP-101・118とともに確認し、P-101の調査後、調査を行った。断面図は、P-100・101と合わせて図化したもの(A-B)が遺構の中軸から外れていたため、再度E-Fラインで取り直した。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3)、その上位に暗褐色土(覆土2)、さらにその上部の窪みに黒褐色土(覆土1)が落ち込むように堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土上部から下部にかけて出土し、礫は覆土2を中心に小型礫片・中型半完形・完形が遺構中央に落ち込むように出土した。土器はI群b類1点、VI群b類40点が出土している。出土層位は77が覆土1、146が覆土2、2・192が覆土3である。炭化種実同定の結果、覆土2・3でオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑119 (P-119) (図III-46、表III-2、図版43)

**調査・特徴：**II・III層掘り下げ後、IV層上面で2つの円形が連結する黒色土の落ち込みを確認した。両者の中軸から半截し、新しい遺構であるP-120の調査後、着手した。確認面から坑底まで浅く、覆土は黒色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。西壁際の坑底から中型半完形・完形礫が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑120 (P-120) (図III-47、表III-2、図版43)

**調査・特徴：**P-119で記載したとおりP-119とともに確認し、先行して調査を行った。確認面から坑底は浅く、覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はVI群b類土器6点、スクレイパー1点(56)、剥片1点、小型礫片1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑121 (P-121) (図III-47、表III-2、図版44)

**調査・特徴：**III層深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、P-108とほぼ同じ標高で、径0.5mくらいの黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、暗褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉土器片1点・礫3点、2層上面より礫3点(重量「中」の安山岩亜角礫1個・重量「大」の安山岩亜角礫1個・重量「大」の被熱砂岩亜角礫1個)が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。構築面はIII層より上位、坑底面はEn-L上半に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。屋根土(2層)上面に礫がのる上屋墓。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑122 (P-122) (図III-47、表III-2、図版44)

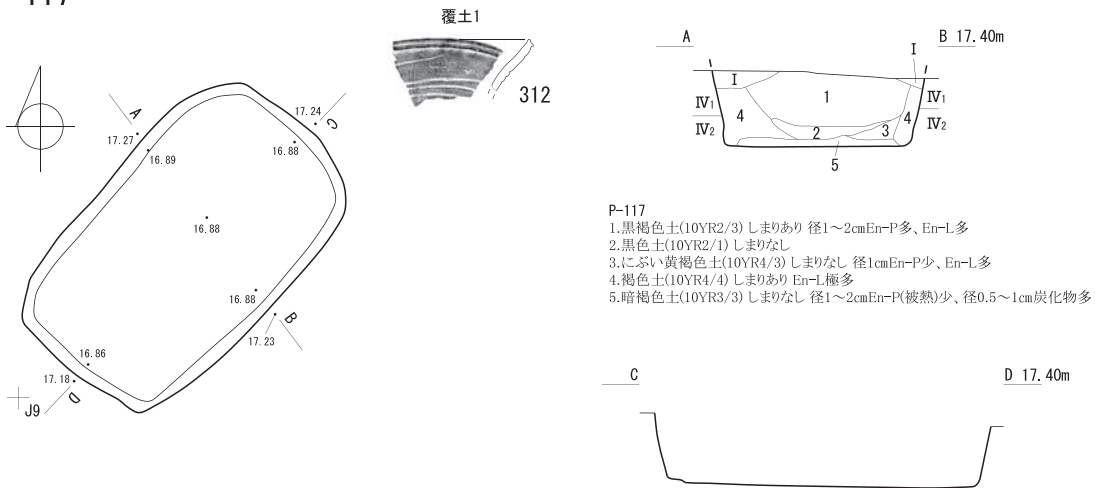
**調査・特徴：**IV層上面において長軸1.6mくらいの黒褐色を呈する長方形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1・2層より擦文土器片2点・擦文土器坏片1点・礫1点が出土した。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1～3層が流れ込み、4層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

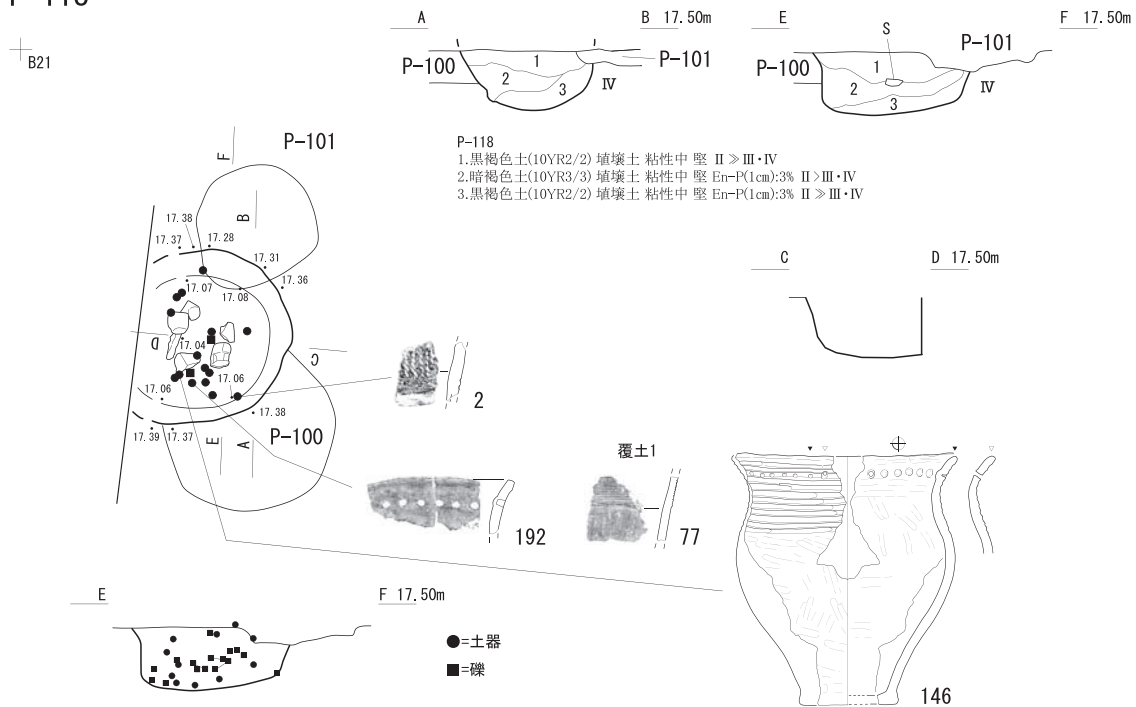
#### 土坑123 (P-123) (図III-47、表III-2、図版44)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。

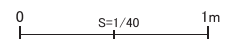
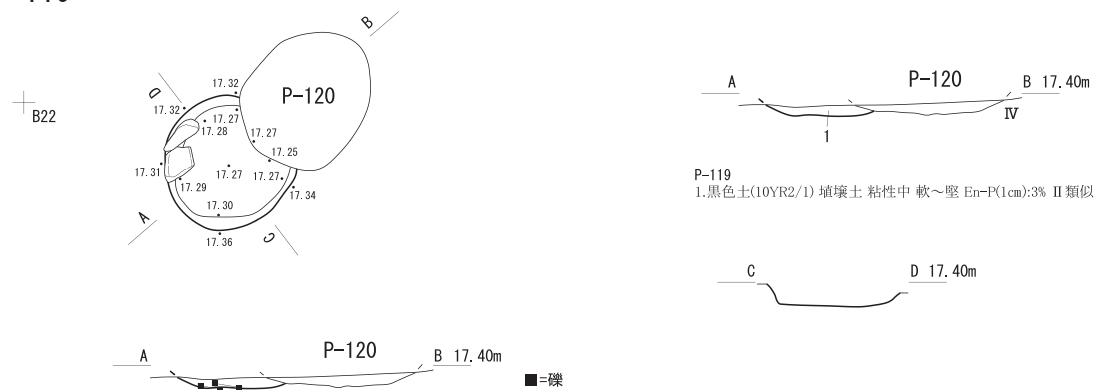
P-117



P-118

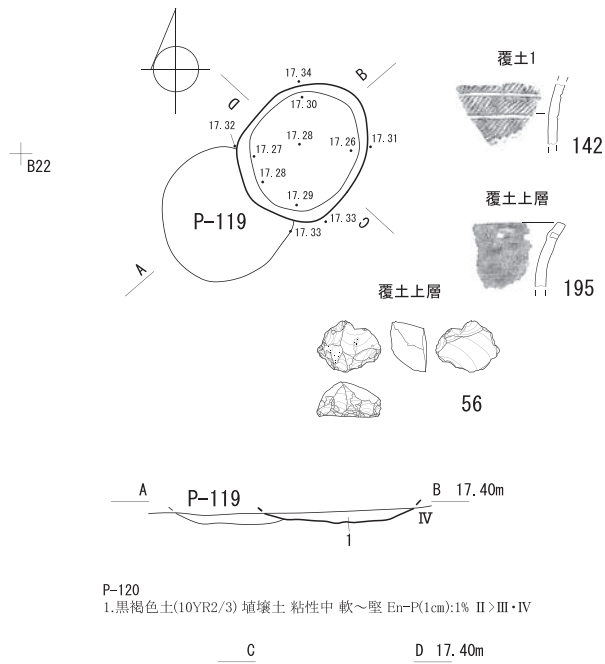


P-119

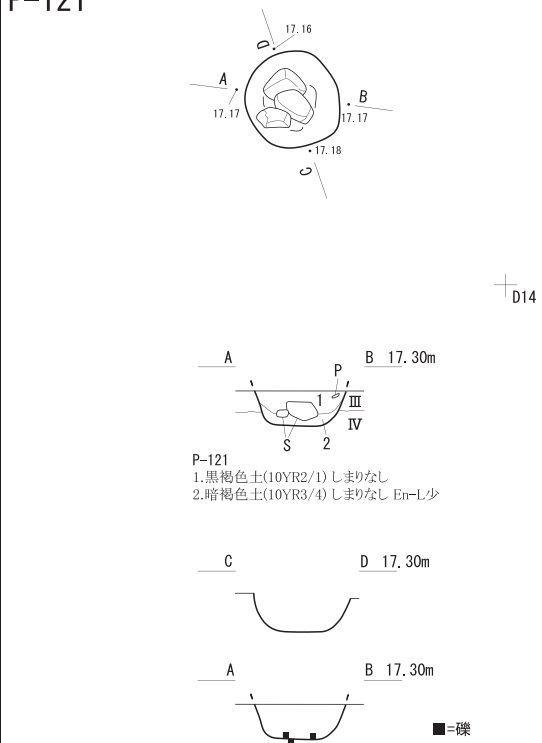


図III-46 土坑・土坑墓(36)P-117~119

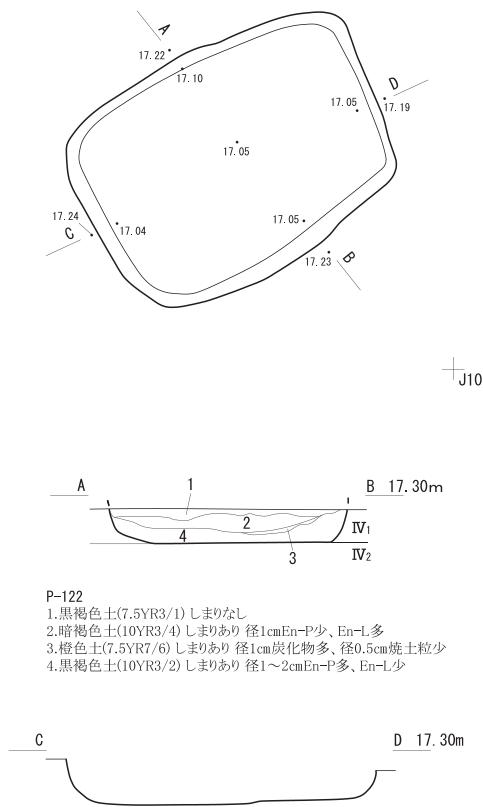
P-120



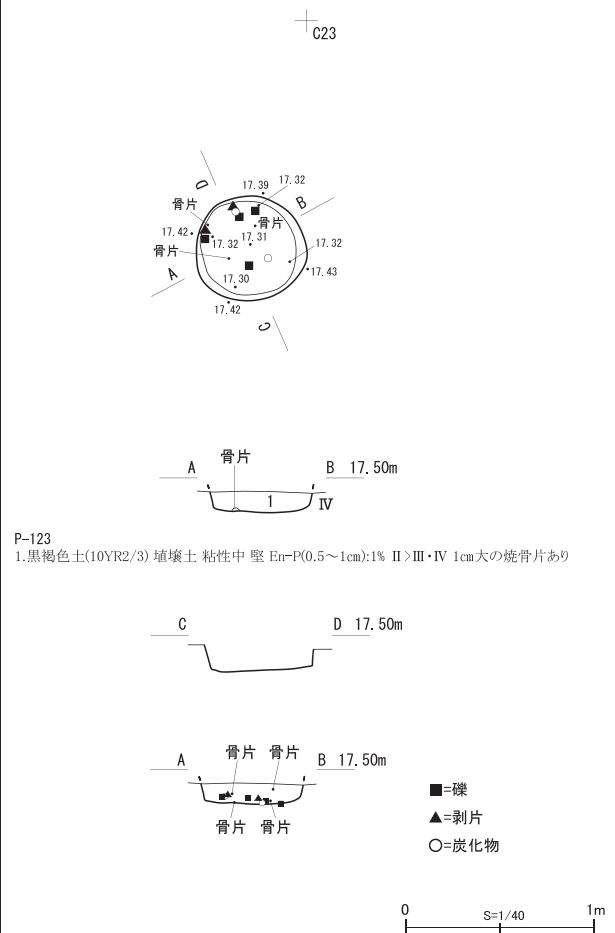
P-121



P-122



P-123



図III-47 土坑・土坑墓(37)P-120~123



覆土は焼骨片の混じる黒褐色土（覆土1）が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は剥片・礫が出土し、焼骨片はシカとみられる碎片である。

**時期：**坑底近くで出土した炭化物の年代測定の結果、 $1,620 \pm 15 \text{yrBP}$ （HD-D21）の測定値が得られている。年代測定値と遺構の形状から縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑124（P-124）**（図III-48、表III-2、図版44）

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は暗褐色（覆土3）・黒色土（覆土1・2）が堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅠ群b類土器1点、Ⅵ群b類土器7点（35など）、スクレイパー1点（83）、礫1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑125（P-125）**（図III-48、表III-2、図版45）

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は下半に暗褐色土（覆土2）、上半に黒色土（覆土1）が堆積し、大～小の完形・半完形・礫片36点が坑底から覆土1にかけて積み重なるように検出された。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。礫以外にはⅥ群b類土器7点、剥片13点、シカとみられる焼骨片が少量出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑126（P-126）**（図III-48、表III-2、図版45）

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸0.8mくらいの暗褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。（鈴木 信）

**土坑127（P-127）**（図III-49、表III-2、図版45）

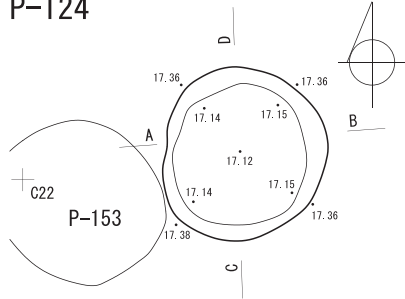
**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.7mくらいの黒褐色を呈する長方形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。Ⅰ層より擦文土器片5点・礫1点、1層中位から擦文土器片1点・たたき石1点・すり石1点が出土した。下端平面形は長方形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に外上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。Ⅰ層は心土破砕による攪乱の1層、覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、擦文期の可能性がある。（鈴木 信）

**土坑128（P-128）**（図III-49、表III-2、図版45）

**調査・特徴：**平成23年度にC12区包含層調査の途中で土器（土器集中3：PC-3と命名されたものを含めて）・台石などを取り上げている。平成24年度には、長軸2.5mくらいの黒褐色を呈する長方形の拡がりや堆積状況・下端・壁面確認のため、その長軸・短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より縄文後葉土器片5点・擦文土器片15点・台石1点・礫4点（平成23年度収集の段状横位沈線擦文甕はPC-3として別集計）、2層から縄文後葉後半期土器片3点・擦文土器片1点・剥片5点、坑底から礫1点が出土した。なお、土坑が接する調査区西側壁面には明黄灰白色未焼成粘土塊が2層上面にあった。また、PC-3の段状横位沈線擦文甕は坑口脇に位置した可能性が高く、底

P-124

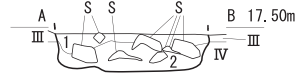
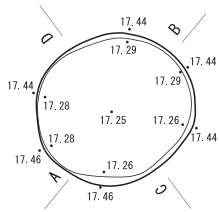


P-124

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):5% II > III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II > III・IV
3. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1~2cm):7% II = III・IV



P-125

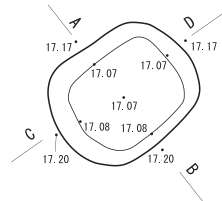


P-125

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II > III・IV 焼骨片多数含む
2. 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅 II < III・IV



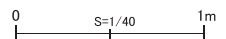
P-126



P-126

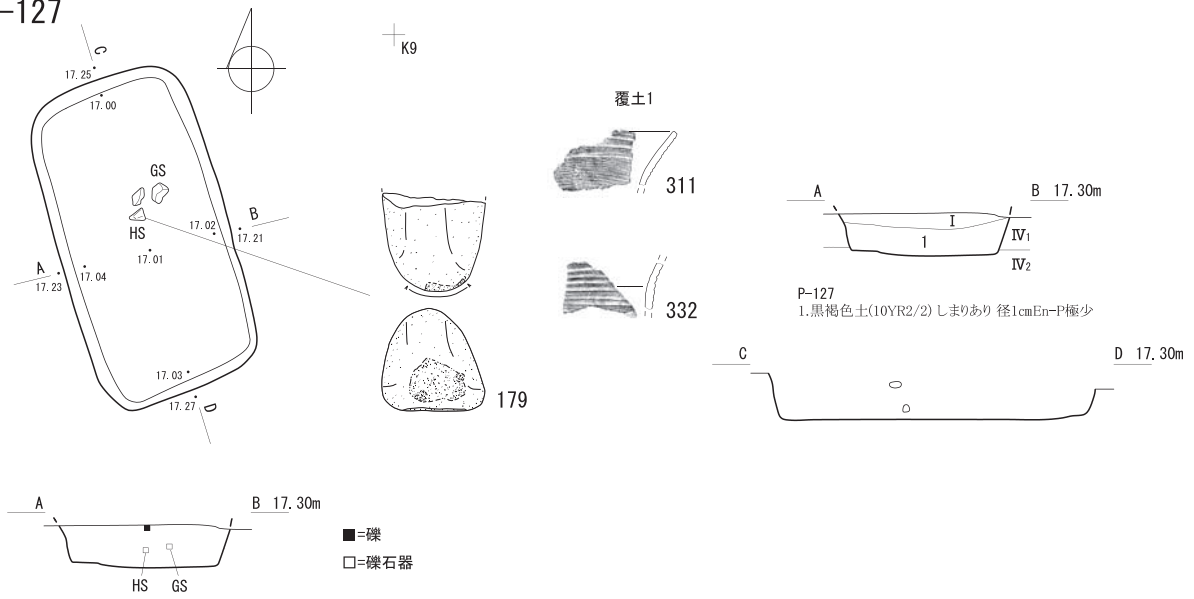
1. 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 径1~2cm En-P少、En-L多

K10

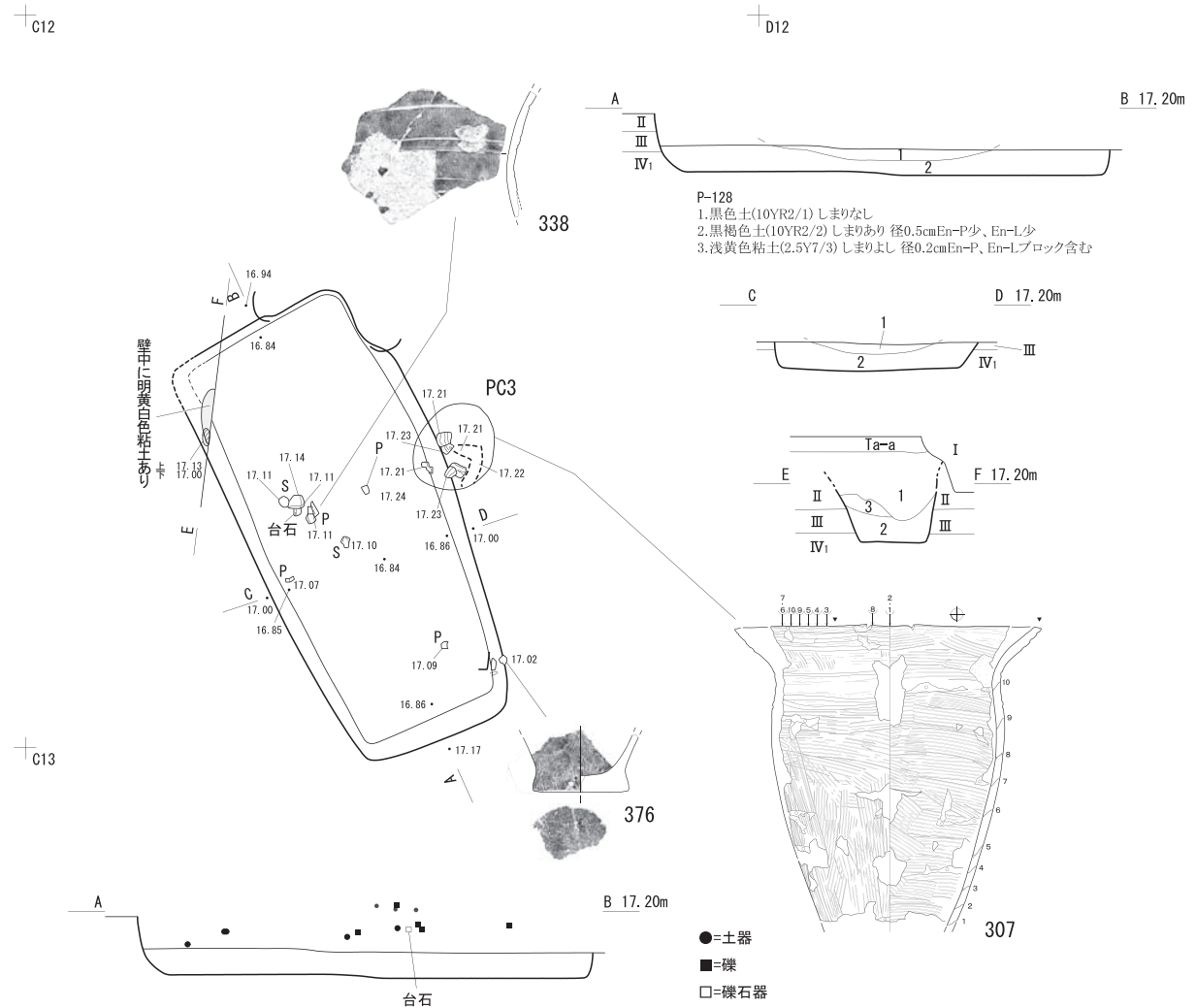


図III-48 土坑・土坑墓(38)P-124~126

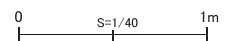
P-127



P-128



図III-49 土坑・土坑墓(39)P-127・128



部が欠失していることから供献されたものと考えられる。下端平面形は片短辺がやや長い長方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。土坑が接する調査区西側壁面において坑壁がⅡ層上面から-14cmの高さまでがたどれるので、構築面はⅡ層中位。坑底面はEn-L上半に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**供献土器より、擦文前期。 (鈴木 信)

**土坑129 (P-129)** (図Ⅲ-50、表Ⅲ-2、図版46)

**調査・特徴：**Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は縁辺に暗褐色土(覆土2)、その上位全体に黒褐色土(覆土1)が堆積する。坑底はほぼ平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器12点、小型完形礫1点が出土した。炭化樹種同定の結果、覆土1からオニグルミが検出されている。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。 (菊池)

**土坑130 (P-130)** (図Ⅲ-50、表Ⅲ-2、図版46)

**調査・特徴：**Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層中で2つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。両者の中軸で半截し、土坑130・131として新しいP-130を先行して調査した。覆土は黒褐色土のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は坑底からⅥ群b類土器4点、礫4点が出土した。礫は中型完形礫3点、小型半完形礫1点で、西側に偏って分布する。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。 (菊池)

**土坑131 (P-131)** (図Ⅲ-50、表Ⅲ-2、図版46)

**調査・特徴：**P-130で記載したとおり、P-130とともに確認し、P-130の調査後に着手した。覆土は南縁のEn-Pを多量に含む暗オリーブ褐色土(覆土2)を除いて厚く黒褐色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器17点(213・297など)、石核1点(141)、剥片36点、礫17点(特大型完形1点・半完形1点、大型半完形1点、中型完形1点・礫片1点を含む)、が中央部に落ち込むように出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。 (菊池)

**土坑132 (P-132)** (図Ⅲ-51、表Ⅲ-2、図版46)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。両者の中軸から半截し、新しい遺構であるP-133の調査後、着手した。覆土は下半に黒褐色土(覆土2)がやや厚く、その上面の窪みに黒褐色土(覆土1)が落ち込むように堆積するが両者の違いは少ない。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器が覆土1を中心に出土し、両面調整石器(16)、楔形石器(109)、剥片、礫が出土した。礫は特大型半完形、大型半完形・完形、中型完形礫が坑底近くとその上位から出土し、上位の中央の石材は青色チャートである。種実同定の結果、覆土1・2からオニグルミが検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

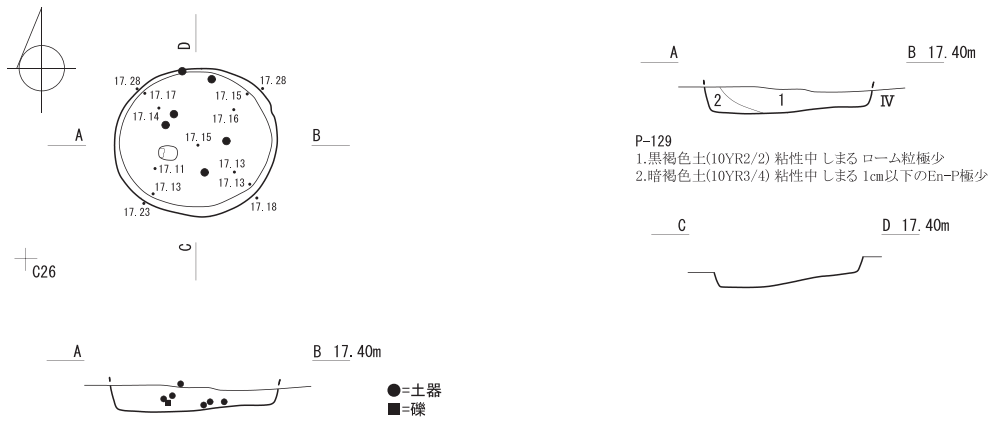
**土坑133 (P-133)** (図Ⅲ-51、表Ⅲ-2、図版46)

**調査・特徴：**P-132で記載したとおりP-132とともに確認し、先行して調査を行った。覆土は下部に厚く黒褐色土(覆土2)、その窪んだ上面に黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類土器が10点出土し、礫は坑底に積み重なるように特大型完形、大型完形・半完形、中型完形・半完形、中・小型礫片など26点が出土した。

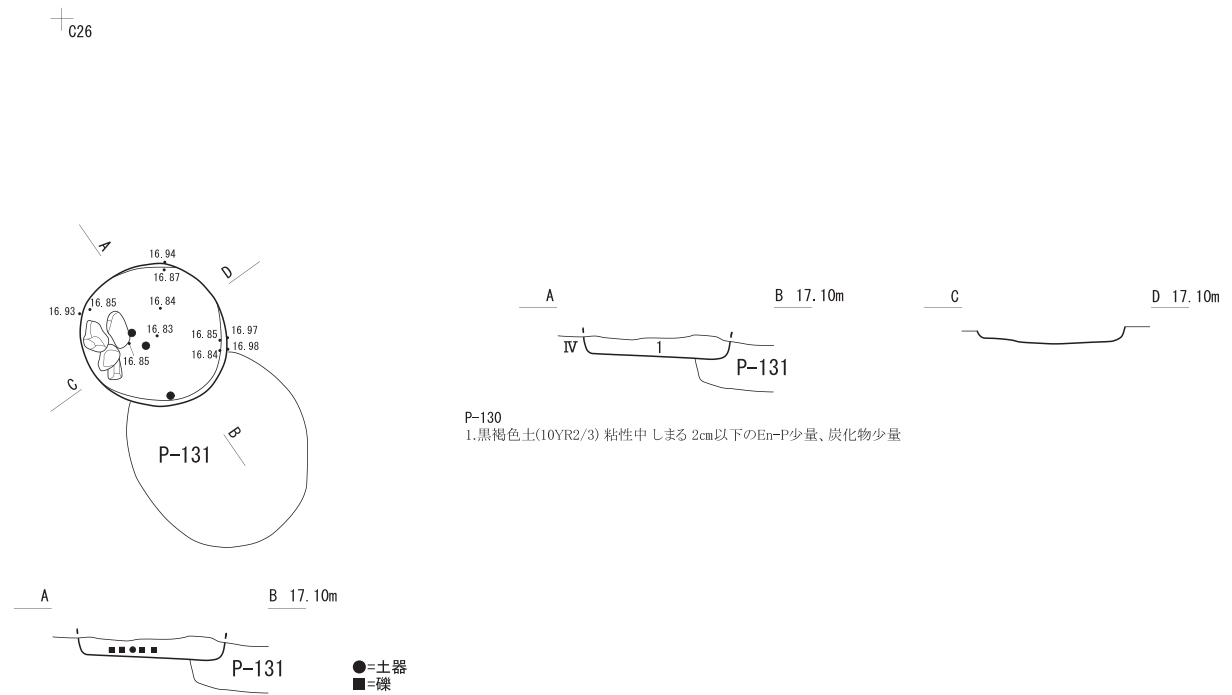
**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。 (鈴木宏行)

**土坑134 (P-134)** (図Ⅲ-52、表Ⅲ-2、図版47)

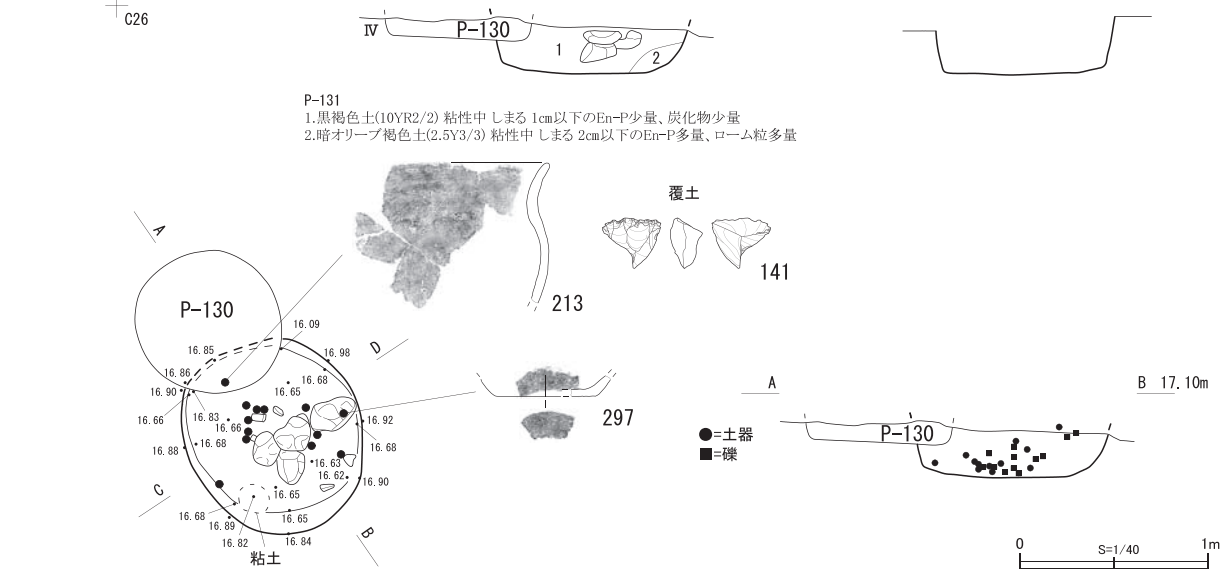
P-129



P-130

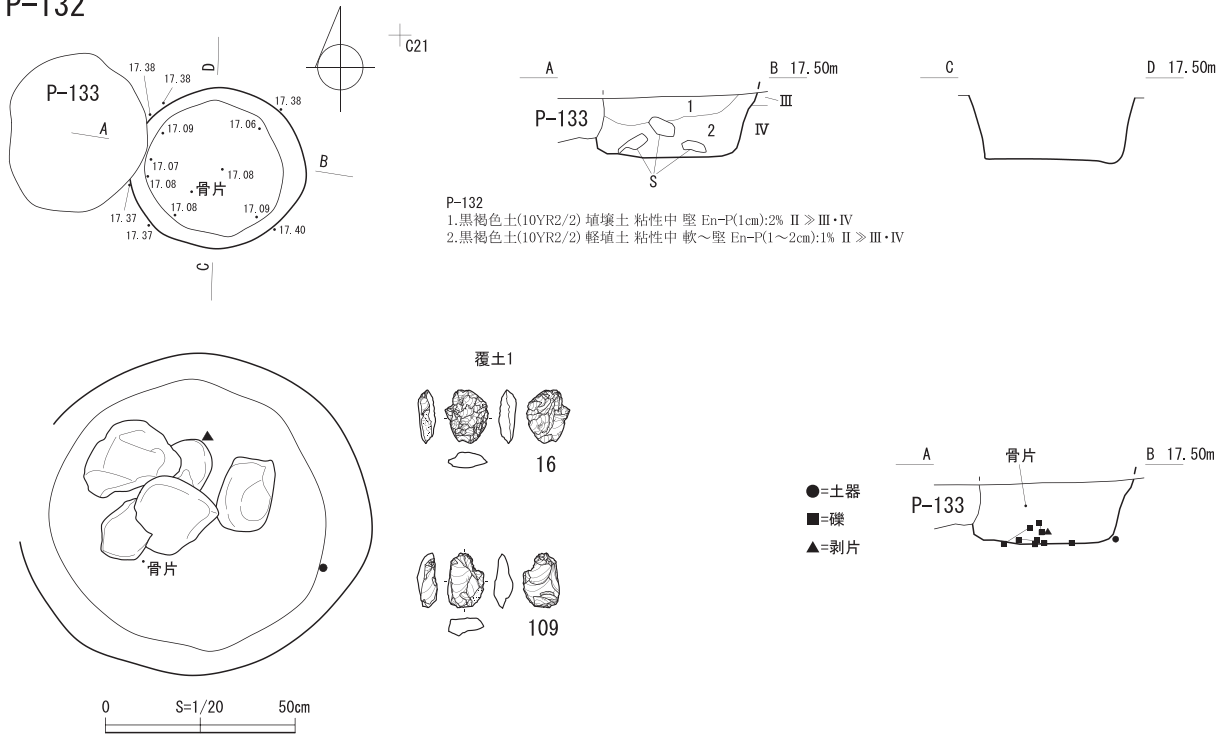


P-131

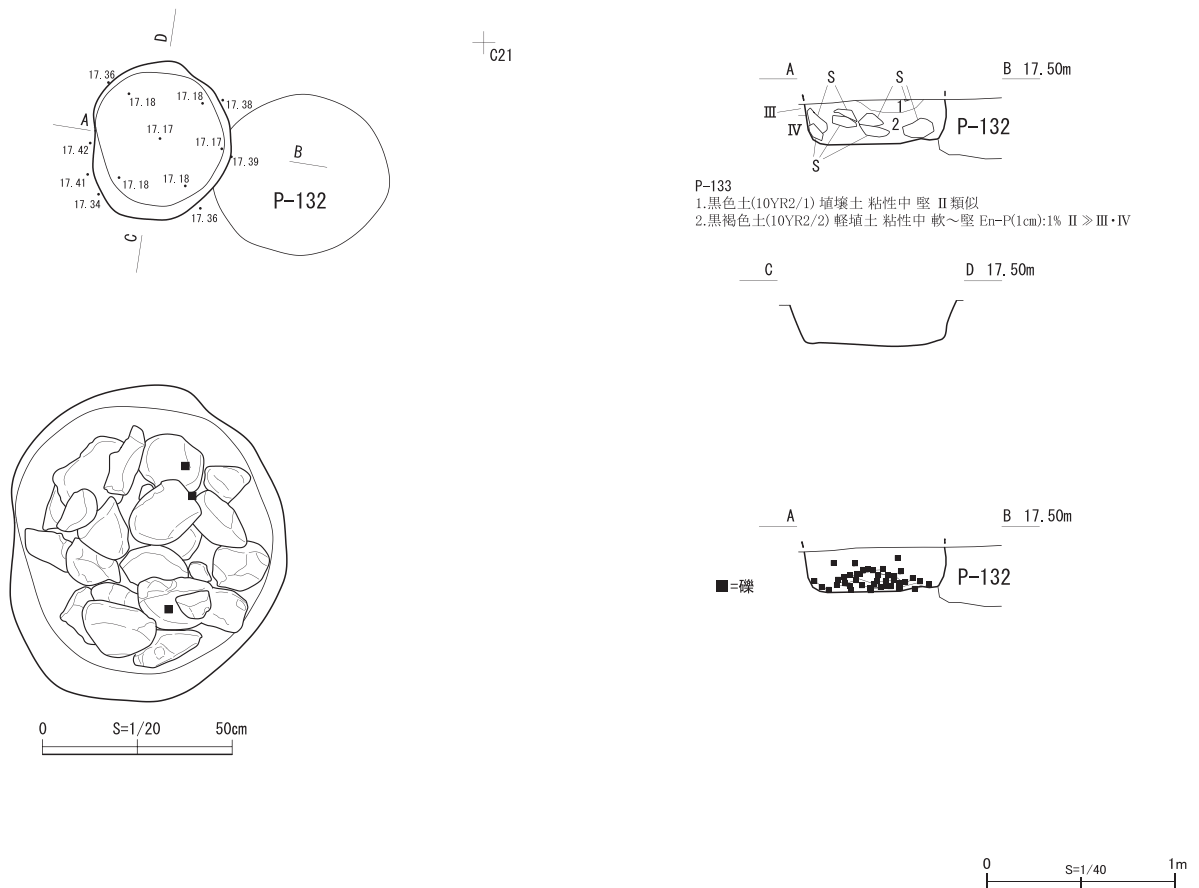


図III-50 土坑・土坑墓(40)P-129~131

P-132

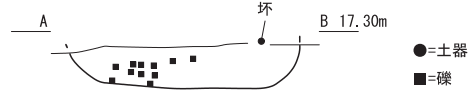
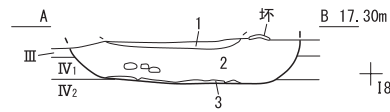
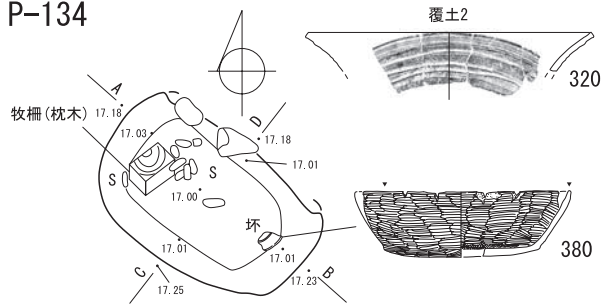


P-133



図III-51 土坑・土坑墓(41)P-132・133

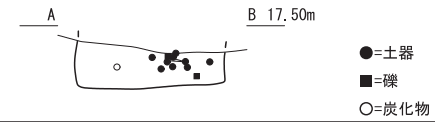
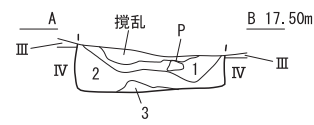
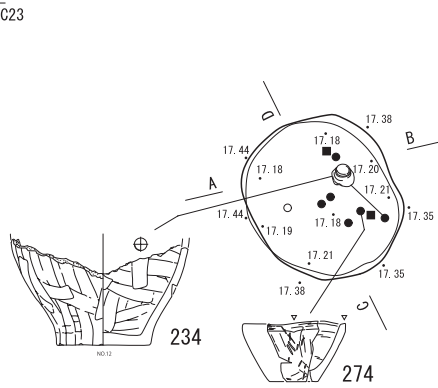
P-134



P-134

1. 黒色土(10YR1.7/1) しまりなし
2. 黒褐色土(10YR2/2) しまりあり 径0.5cm En-P少
3. (炭化物層) 径1cmの炭化物多

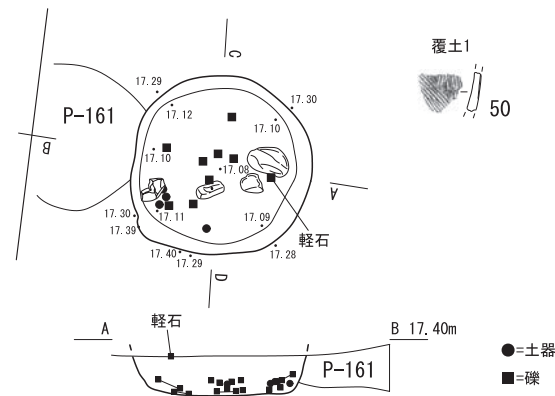
P-135



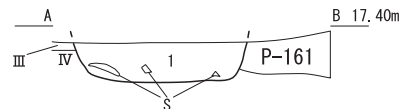
P-135

1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):3% II > III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):5% II = III・IV
3. 褐色土(10YR4/6) 軽埴土 粘性中 軟~堅 En-P(3cm):5% II < III・IV

P-136



●=土器  
■=礫

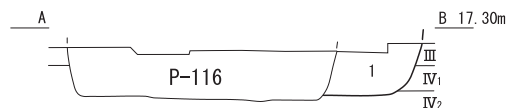
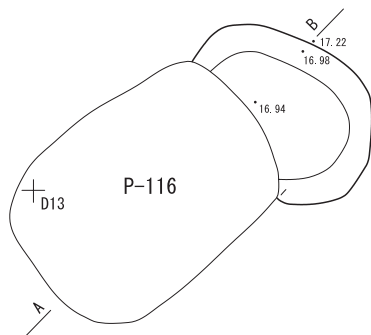


P-136

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):3% II > III・IV

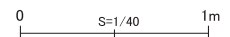


P-137



P-137

1. 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 径1.5cm En-P多、En-L多



図III-52 土坑・土坑墓(42)P-134~137

**調査・特徴：**Ⅲ層深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、長軸1.2mくらいの黒褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり短軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。2層より続縄文後葉土器片2点・擦文土器片13点・擦文土器坏片6点・剥片2点、礫13点が出土した。下端平面形は隅丸方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土、3層炭化物層。

**時期：**出土土器から、擦文前期と推定される。(鈴木 信)

#### 土坑135 (P-135) (図Ⅲ-52、表Ⅲ-2、図版47)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅲ層中で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土2)の上面が窪み、その上部に黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は遺構中央の覆土1からⅥ群b類土器の底部(234)や小型土器片(274)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑136 (P-136) (図Ⅲ-52、表Ⅲ-2、図版47)

**調査・特徴：**Ⅱ層除去後、Ⅲ層上面で2つの連結する円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。P-136・161とし、半截し、新しいP-136から調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみで、坑底付近から大型完形礫、小型完形・礫片が出土した。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は礫以外にⅥ群b類土器8点(50など)、Ⅶ群土器1点、剥片6点、軽石1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑137 (P-137) (図Ⅲ-52、表Ⅲ-2、図版43)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、深さ5cmを2回下げた包含層調査の途中、長軸2.0mくらいの黒褐・暗褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり長軸方向に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、P-116との新旧を確認し、古いP-137が暗褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、P-116調査後に坑内の調査を開始した。1層より続縄文後葉後半期土器片2点が出土した。下端平面形は小判形、坑底面は平坦。立ち上がりは彎曲、壁は直線的に外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**構造・切合い新P-116に含まれる続縄文土器片より、続縄文後葉である。(鈴木 信)

#### 土坑138 (P-138) (図Ⅲ-53、表Ⅲ-2、図版47)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。浅い土坑で、覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**時期：**遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑139 (P-139) (図Ⅲ-53、表Ⅲ-2、図版48)

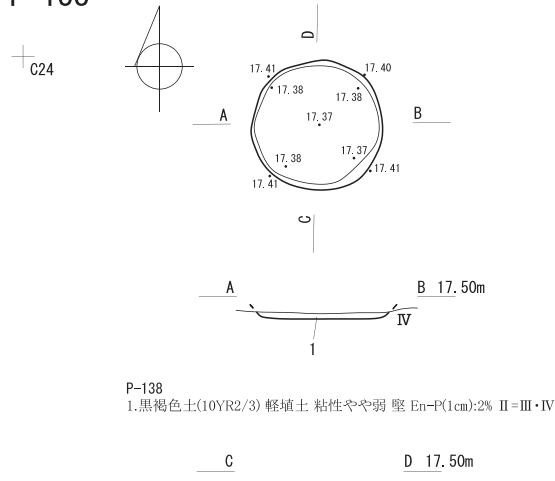
**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に延びる半円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。全体のほぼ半分である調査区側の覆土を掘り下げ、調査を行った。覆土は暗褐色土(覆土3)の上面が窪み、その上位に黒色土(覆土2)、さらにその上面の窪みに黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土1の上面はほぼ水平である。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、Ⅵ群b類土器4点、礫1点である。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

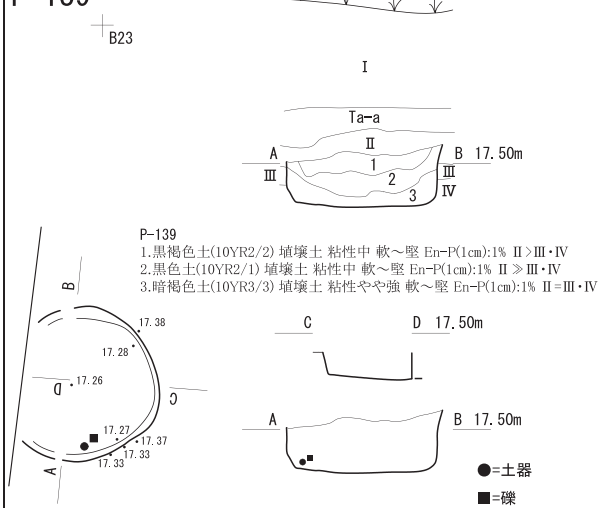
#### 土坑140 (P-140) (図Ⅲ-53、表Ⅲ-2、図版48)



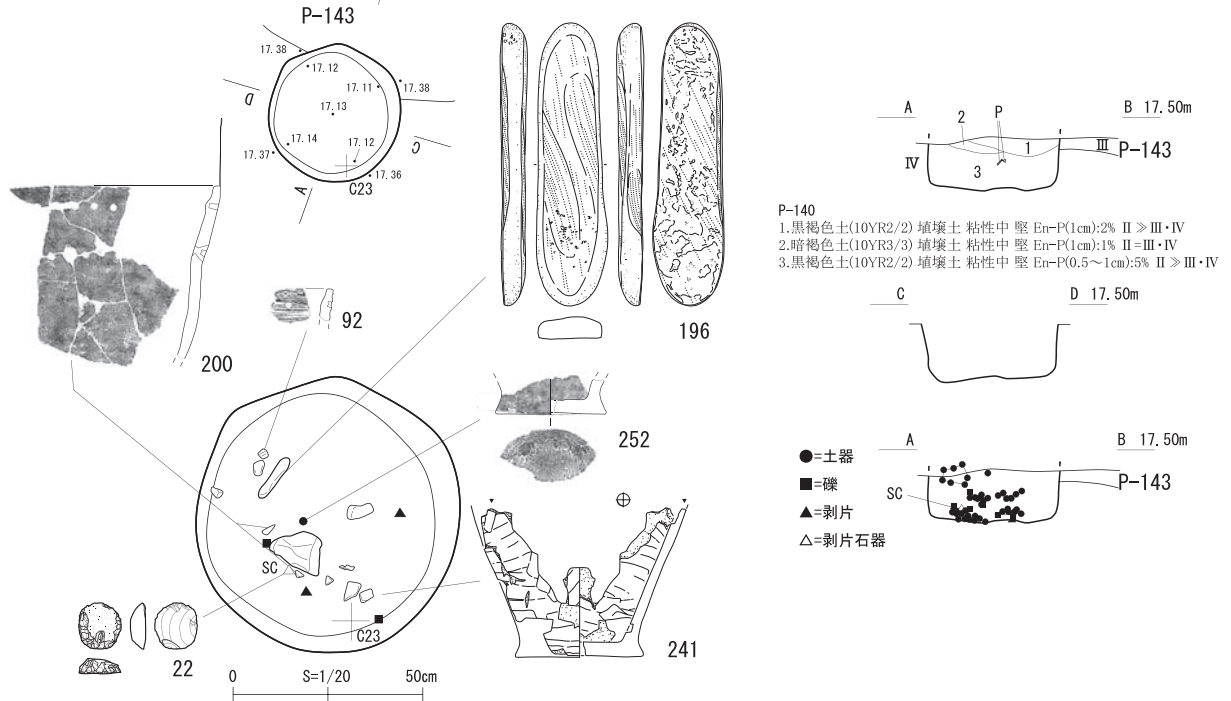
P-138



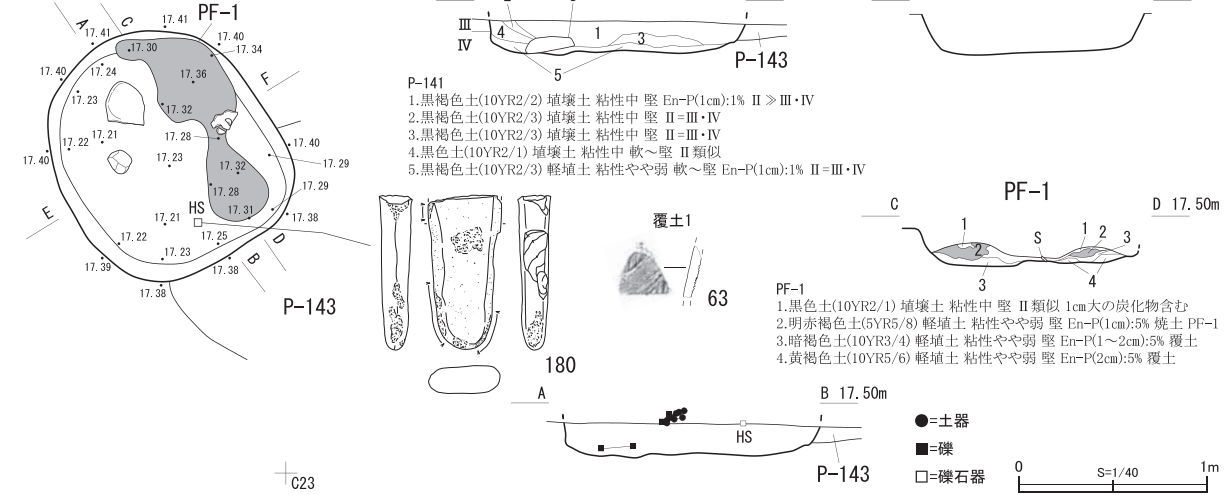
P-139



P-140



P-141



図III-53 土坑・土坑墓(43)P-138~141

**調査・特徴：**B22・23区周辺で、Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で複数の切り合う遺構が確認された。3方向にトレンチを設定し、土層を確認したところ、4つの遺構が切り合っていることが判明し、P-140～143として、新しいP-140・141・142を先行して調査した後、P-143、さらにそれらの調査後に検出されたP-164の調査を進めた。覆土は坑底に黒褐色土（覆土3）が厚く堆積し、その上位に暗褐色土（覆土2）、黒褐色土（覆土1）が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は坑底付近とⅢ層上面付近から出土し、坑底からは石製品（196）とその近くでⅥ群b類土器片（92）・土器底部（252）、スクレイパー（22）などが、Ⅲ層上面付近からはⅥ群b類土器底部（241）・口縁部破片（200）、小型礫片などが出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑141（P-141）**（図Ⅲ-53、表Ⅲ-2、図版48）

**調査・特徴：**P-140で記載したとおり、トレンチで本遺構がP-143より新しいことを確認し、半截し、調査を進めた。覆土は坑底に黒色土（覆土5）が薄く堆積し、その上部に遺構北東側に偏って焼土（PF-1）がやや厚く堆積している。その上位には厚く黒褐色土（覆土1）が堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。平面形は隅丸方形である。遺物は坑底出土の特大型半完形礫、短冊状のたたき石（180）を除き、上位の覆土1から出土し、Ⅵ群b類土器37点、剥片22点、礫4点である。

**時期：**焼土（PF-1）から採取された炭化物は、 $1,630 \pm 15 \text{yrBP}$ （HD-D22）の年代測定値が得られている。この年代値と出土遺物から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑142（P-142）**（図Ⅲ-54、表Ⅲ-2、図版48・49）

**調査・特徴：**P-140で記載したとおり、トレンチで本遺構がP-143より新しいことを確認し、半截して調査を進めた。覆土は黒色土（覆土1）のみで、坑底より上位からⅥ群b類土器（75・152・290など）、スクレイパー（86）、二次加工ある剥片、剥片、小型礫片が出土した。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑143（P-143）**（図Ⅲ-54、表Ⅲ-2、図版48・49）

**調査・特徴：**P-140で記載したとおり、トレンチで本遺構がP-140～142より古いことを確認し、それらの調査後に、半截し、調査を進めた。覆土は黒褐色土（覆土1）のみで、覆土上位からⅥ群b類土器、剥片、小型礫が出土した。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。平面形は隅丸方形に近い形状である。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミが検出されている。

**時期：**遺物から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑144（P-144）**（図Ⅲ-55、表Ⅲ-2、図版49）

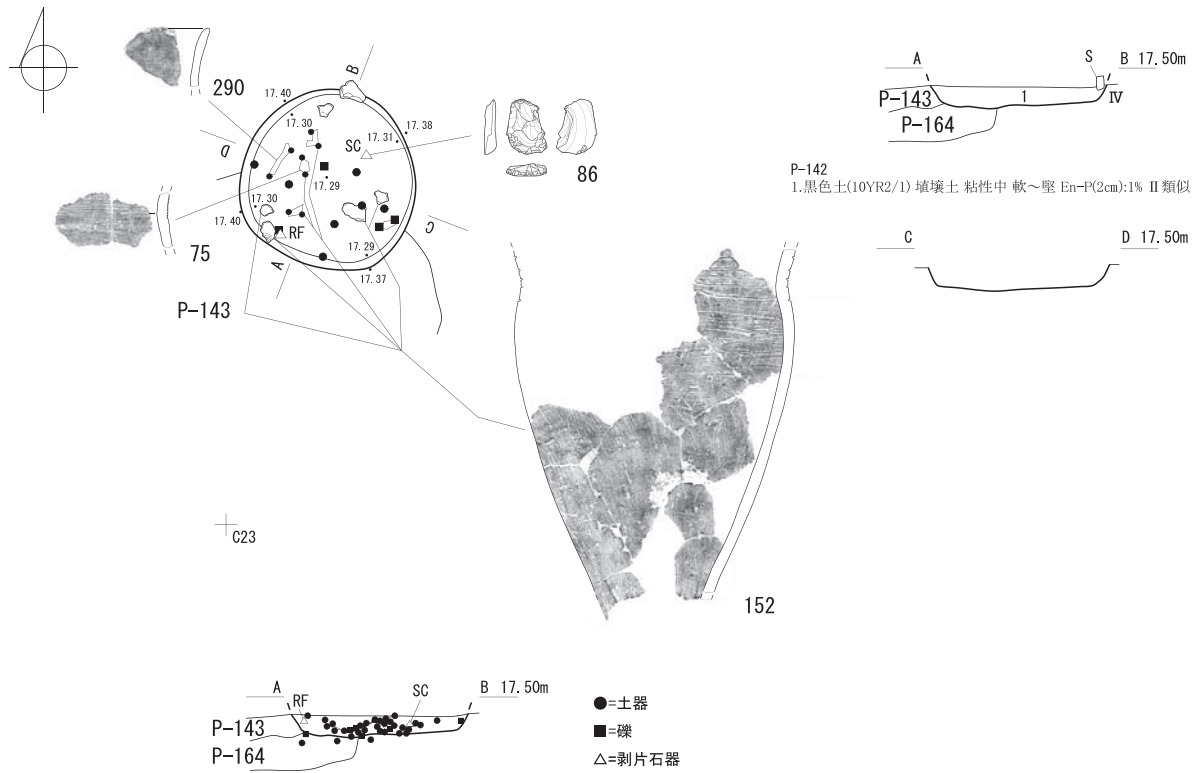
**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土が主体で、レンズ状の堆積である。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1・2・4・8でⅥ群b類土器が出土し、楔形石器（112）が覆土1、スクレイパー（73）が覆土7、石核（139）が覆土8から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

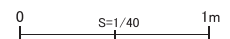
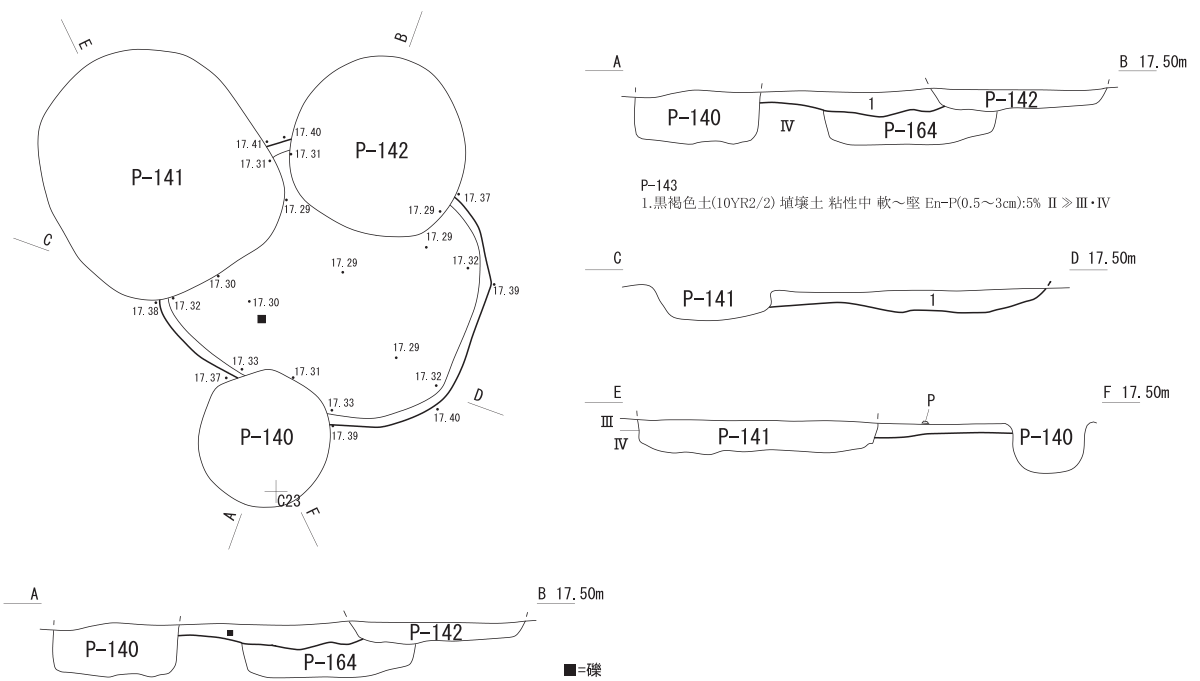
#### **土坑145（P-145）**（図Ⅲ-55、表Ⅲ-2、図版49）

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土（覆土2～4）がレンズ状に堆積し、その上部の窪みに黒色土（覆土1）が落ち込むように堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器が覆土3を中心に出土

P-142

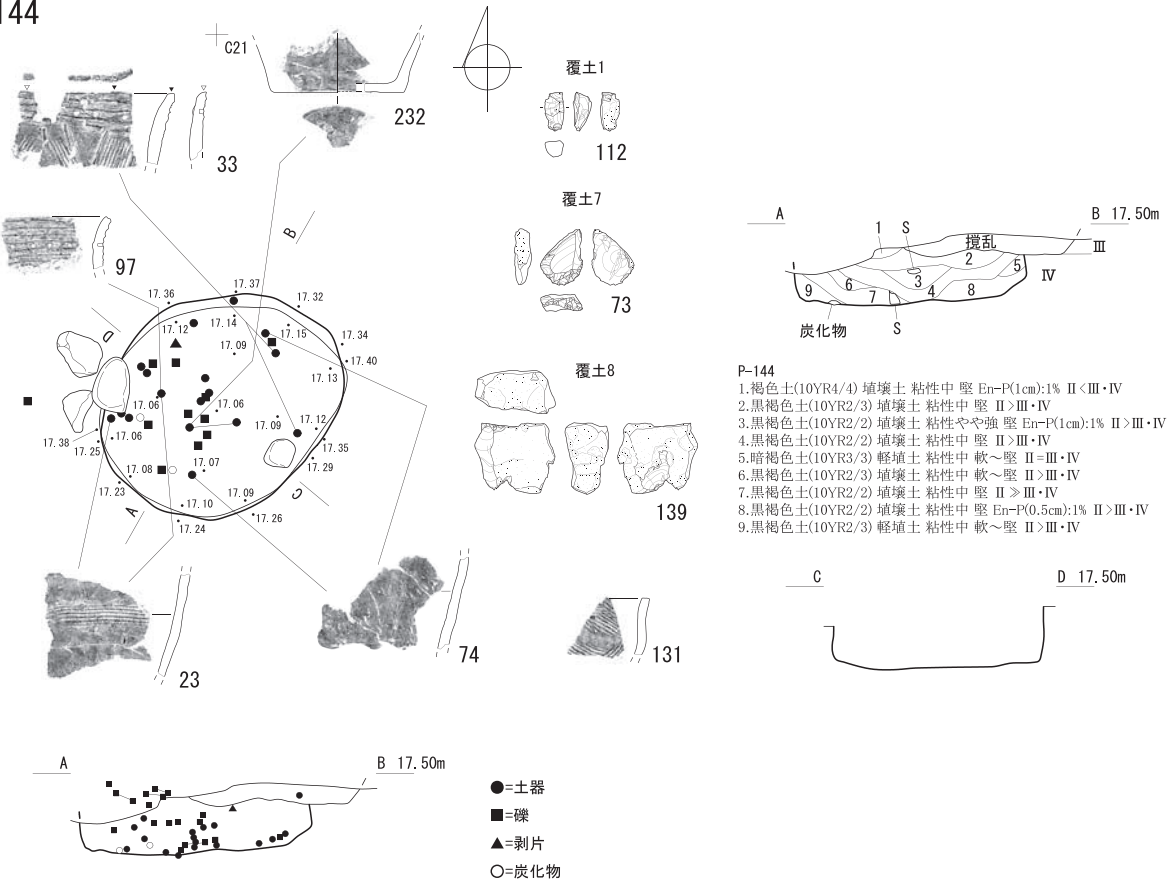


P-143



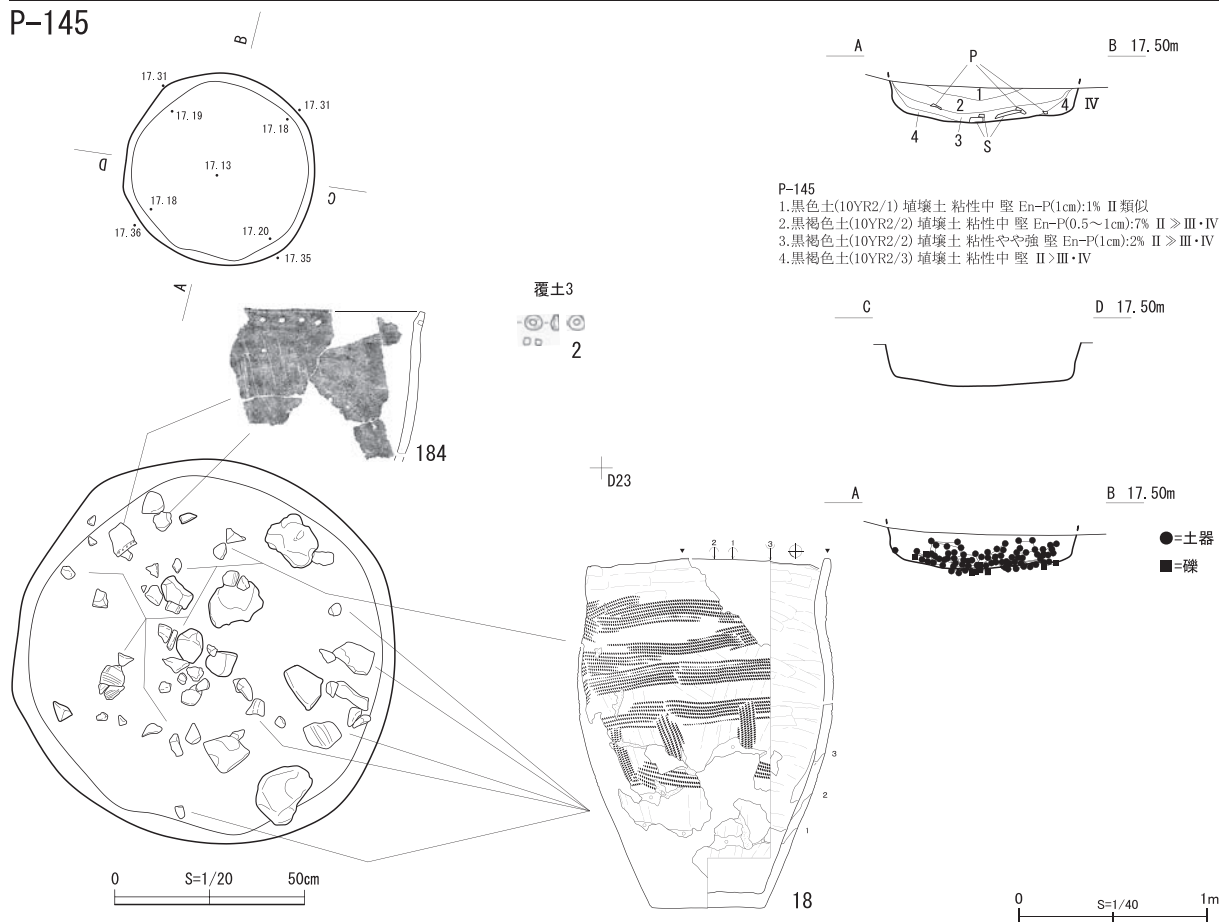
图III-54 土坑·土坑墓(44)P-142·143

P-144



- P-144
- 1.褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 Er-P(1cm):1% II < III・IV
  - 2.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV
  - 3.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性やや強 堅 Er-P(1cm):1% II > III・IV
  - 4.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV
  - 5.暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性中 軟~堅 II = III・IV
  - 6.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II > III・IV
  - 7.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV
  - 8.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 Er-P(0.5cm):1% II > III・IV
  - 9.黒褐色土(10YR2/3) 軽埴土 粘性中 軟~堅 II > III・IV

P-145



- P-145
- 1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 Er-P(1cm):1% II 類似
  - 2.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 Er-P(0.5~1cm):7% II > III・IV
  - 3.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性やや強 堅 Er-P(1cm):2% II > III・IV
  - 4.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 II > III・IV

図III-55 土坑・土坑墓(45)P-144・145

し、多くが18の破片で、遺構全体に散漫に分布している。18は本遺構以外にP-153覆土1、P-188覆土2出土の破片とも接合する。184は北西壁際から出土している。礫はこれらの土器片と混じって小型のものを中心に散漫に分布している。それ以外に、土壌の1mm篩別サンプルから直径4mmの滑石？製小玉(2)が回収された。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑146 (P-146) (図III-56、表III-2、図版49)

**調査・特徴：**IV層中での黒色土の掘り下げ調査の際に黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土の7割程度を掘り上げた後の確認であったため、残りの黒色土を半截し、調査を行った。覆土は暗褐色土(覆土3)の上に黒褐色土(覆土1・2)が堆積していた。炭化物は覆土2に含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。VI群b類土器のほか、中型礫片が北側の壁際から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑147 (P-147) (図III-56、表III-2、図版50)

**調査・特徴：**III層掘り下げ後、IV層上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。長軸で半截して掘り下げ、二つの遺構と認識し、古い方をP-147、新しい方を165として調査を行った。覆土は坑底にオリーブ褐色土(覆土2)が薄く堆積し、その上位に厚く黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土1・2ともにEn-Pが多量に含まれる。炭化物は覆土1に少量含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類土器6点(109など)、剥片3点、礫2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

#### 土坑148 (P-148) (図III-56、表III-2、図版50)

**調査・特徴：**IV層中での耕作痕の除去中にその下位から黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類土器19点(185・201・295など)、スクレイパー1点(37)、台石1点、小型礫5点が出土した。それ以外に、1mm篩別サンプルから直径3mmの滑石？製小玉1点が回収された。そのほか、シカとみられる多量の焼骨片が含まれ、コイ科腹椎破片が1点含まれていた。炭化樹種同定の結果、覆土1出土炭化物はコナラ属コナラ亜属コナラ節(HD-W11)と同定された。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミが検出された。

**時期：**覆土1出土の炭化木片の年代測定の結果、 $1,625 \pm 20 \text{yrBP}$  (HD-D23)の測定値が得られた。この測定値と遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑149 (P-149) (図III-57、表III-2、図版50)

**調査・特徴：**IV層中での耕作痕の除去中にその下位から黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土からVI群b類土器が2点(107など)、坑底付近の北西部で小型礫片・完形礫が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑150 (P-150) (図III-57、表III-2、図版50)

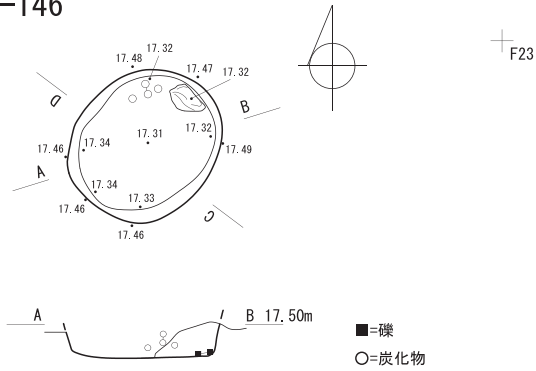
**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はVI群b類土器3点、小型礫片2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑151 (P-151) (図III-57、表III-2、図版51)

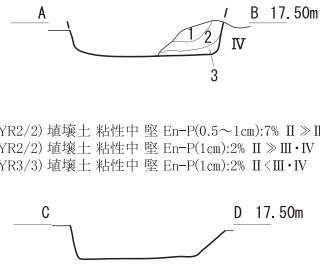
**調査・特徴：**耕作土を除去後、IV層で複数の遺構が切り合う黒褐～褐色土の落ち込みを確認した。隣

P-146

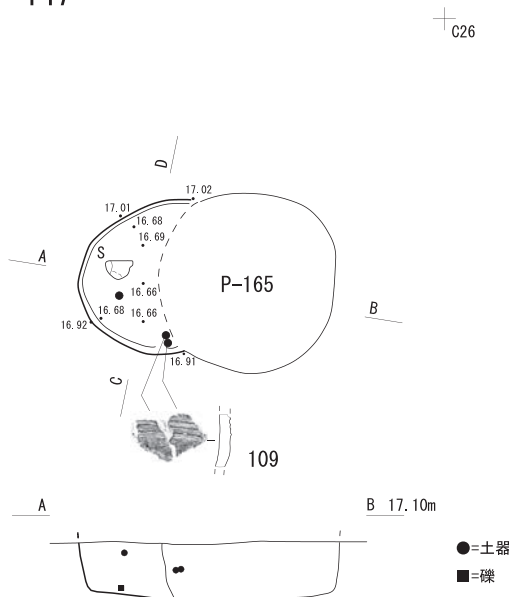


P-146

1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):7% II >> III・IV
2. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II >> III・IV 2cm大の炭化物含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):2% II < III・IV

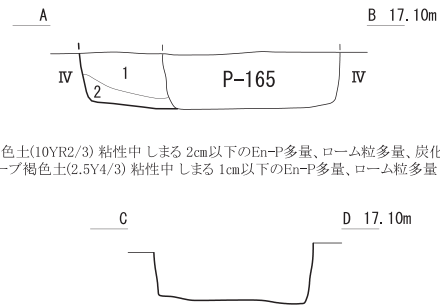


P-147

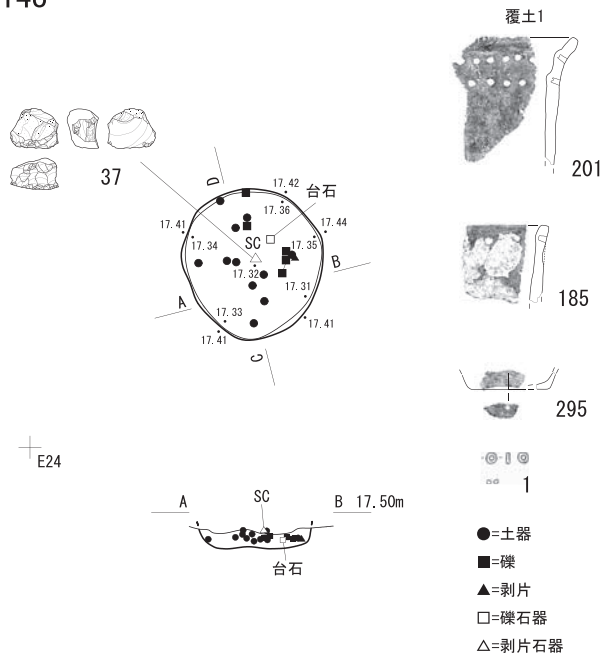


P-147

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性中 しまる 2cm以下のEn-P多量、ローム粒多量、炭化物少量
2. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P多量、ローム粒多量

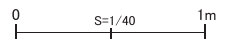
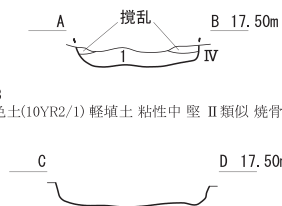


P-148



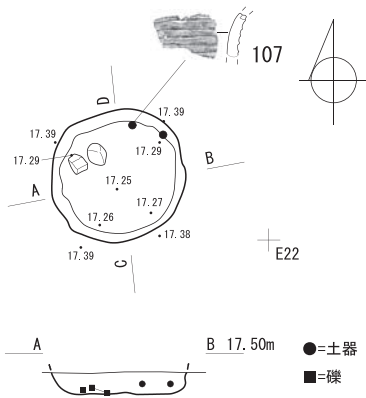
P-148

1. 黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性中 堅 II 類似 焼骨片多数含む



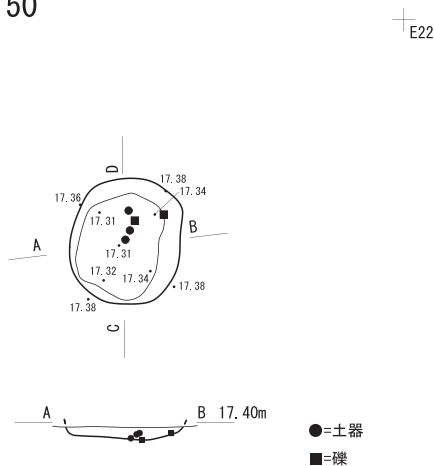
図III-56 土坑・土坑墓(46)P-146~148

P-149



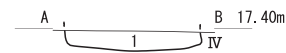
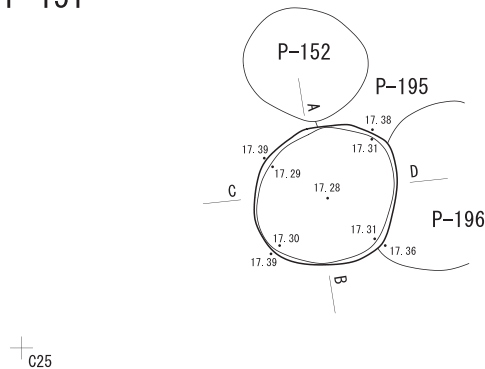
P-149  
 1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II 類似  
 2. 暗褐色土(10YR3/4) 軽埴土 粘性中 堅 II < III・IV

P-150



P-150  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):3% II >> III・IV

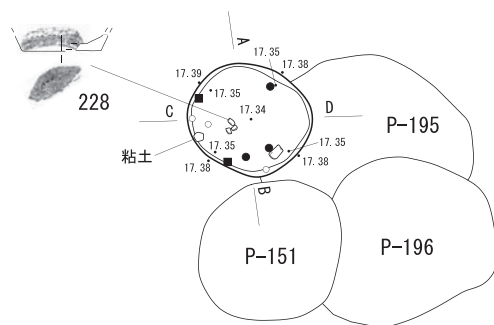
P-151



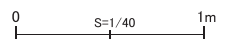
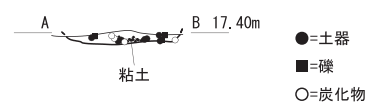
P-151  
 1. 褐色土(10YR4/4) 軽埴土 粘性中 堅 En-P(0.5~2cm):10% II < III・IV やや不均質な土



P-152



P-152  
 1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1cm):1% II > III・IV 1cm大の炭化物含む



図III-57 土坑・土坑墓(47)P-149~152

り合うP-152との中軸線の西側を半截し、調査を行った。覆土は褐色土（覆土1）のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は出土していない。

**時期：**遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑152 (P-152)** (図Ⅲ-57、表Ⅲ-2、図版51)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で複数の遺構が切り合う黒褐～褐色土の落ち込みを確認した。隣り合うP-151との中軸線の西側を半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土（覆土1）のみで、覆土1を中心にⅥ群b類土器（228など）、白色粘土、小型礫片が出土した。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。ほぼ中央に底部片、西側の壁際に白色粘土が分布する。

**時期：**坑底出土の炭化クルミには1,595±20yrBP（HD-D24）の年代測定値が得られた。この測定値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑153 (P-153)** (図Ⅲ-58、表Ⅲ-2、図版51)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土（覆土8）が薄く、その上位に黒褐色土（覆土5）が厚く堆積し、その窪んだ上面に黒褐色土（覆土1～4）がレンズ状に堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。土器は覆土1・2からⅥ群b類土器（42・71など）が、石器は覆土2からスクレイパー（93）、覆土1・2から剥片が、礫は覆土5上面（覆土4）から中型完形礫が出土し、下層からは礫1点のみである。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑154 (P-154)** (図Ⅲ-58、表Ⅲ-2、図版51)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土（覆土1）のみで、小型礫片が1点出土した。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑155 (P-155)** (図Ⅲ-58、表Ⅲ-2、図版51・52)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で不整形な黒褐色土の落ち込みを確認した。長軸に沿って半截したところ、風倒木痕とそれを切る2つの遺構が検出されたので、P-155・156とし、新しい本遺構から調査を行った。覆土は黒褐色土（覆土2）が厚く堆積し、シカとみられる焼骨片が含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。坑底には中・大・特大型の完形礫、小・中型半完形礫・礫片が分布し、Ⅵ群b類土器や剥片は坑底より5cmほど高い位置から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

**土坑156 (P-156)** (図Ⅲ-58、表Ⅲ-2、図版51・52)

**調査・特徴：**P-155で記載したとおりP-155調査後に調査を進めた。覆土は黒褐色土（覆土3）が厚く堆積し、その上面の窪みに黒色土（覆土2）、暗褐色土（覆土1）がレンズ状に堆積している。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器2点（29など）、小型礫4点のみである。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

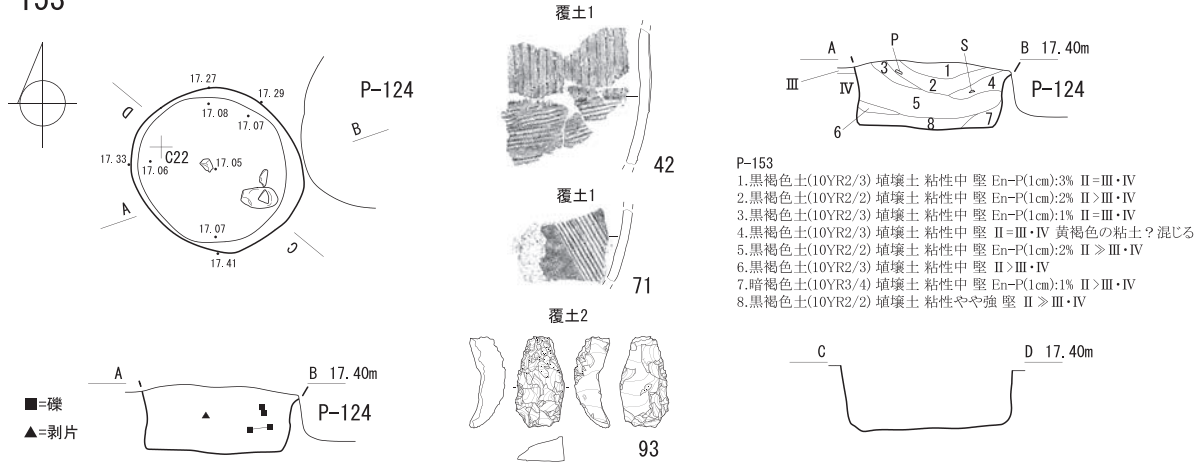
**土坑157 (P-157)** (図Ⅲ-59、表Ⅲ-2、図版52)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は下位に黒褐色土（覆土2）、上位に黒色土（覆土1）が落ち込むように堆積し、中・大・特大型の完形礫、小・中・大・特大型の半完形礫、小・中型の礫片など多くの礫が坑底近くから出土した。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。土器は覆土1・覆土3上面からⅥ群b類（224など）が出土している。炭化種実同定の結果、覆土2からオニグルミが検出されている。

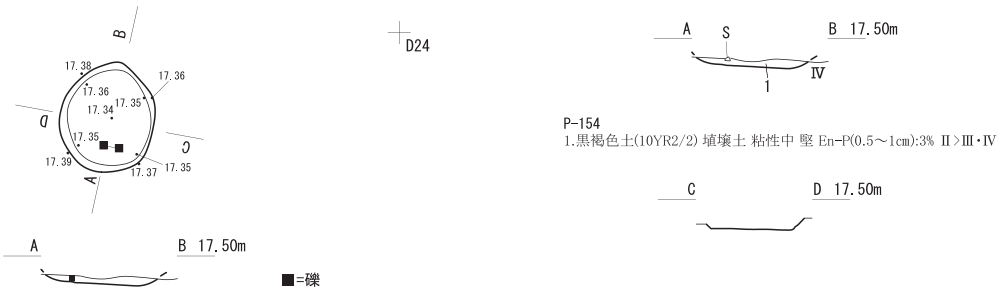
**時期：**隣接するP-196より新しい。遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）



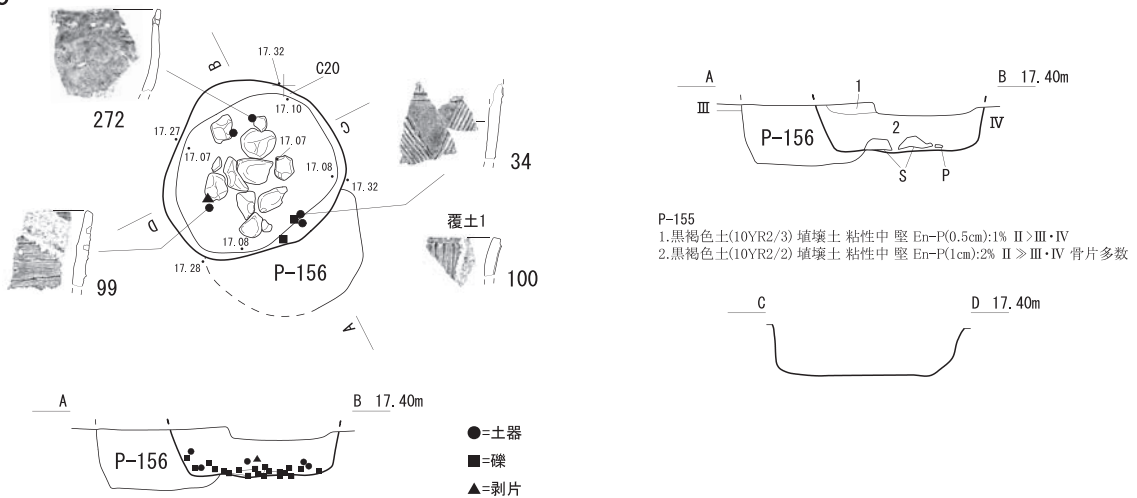
P-153



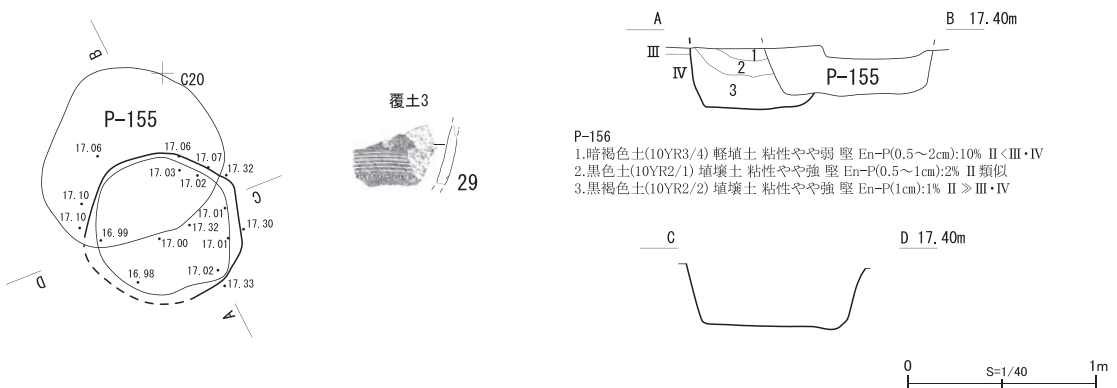
P-154



P-155



P-156



図III-58 土坑・土坑墓(48)P-153~156

**土坑158 (P-158)** (図Ⅲ-59、表Ⅲ-2、図版52)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。長軸方向で半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土2)が厚く堆積し、その上位の窪みに黒色土(覆土1)が堆積する。覆土1は炭化物・焼骨片を含む。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。Ⅵ群b類土器、剥片が覆土1から出土し、中型半完形礫・小型礫片は覆土2上面で出土している。

**時期：**覆土1出土の炭化木片は $1605 \pm 15$ yrBP (HD-D25)の年代測定値が得られている。この年代値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑159 (P-159)** (図Ⅲ-59、表Ⅲ-2、図版52)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する黒色土の落ち込みを確認した。それぞれP-159・189とし、長軸に沿って半截し、新しい本遺構から調査を行った。覆土は坑底に暗褐色土(覆土7)が薄く堆積し、その上位に大きく落ち込むように黒褐色土(覆土2)、黒色土(覆土1)が厚く堆積する。南側の上部には焼土(PF-1)が検出された。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器82点、石鏃1点(15)、スクレイパー2点(66・75)、楔形石器1点(107)、剥片40点、礫・礫片18点が覆土1・2から出土し、坑底から扁平な中型完形礫が1点出土した。土器には台付きとみられる坏(279)、121・287など小型のものが含まれる。覆土1・2、PF-1からはシカの種子骨・中手骨を含むシカとみられる焼骨片が出土した。炭化種実同定の結果、覆土1・PF-1からオニグルミが検出されている。

**時期：**焼土(PF-1)出土の炭化木片は $1,575 \pm 15$ yrBP (HD-D26)の年代測定値が得られている。この年代値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑160 (P-160)** (図Ⅲ-60、表Ⅲ-2、図版53)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に一部かかる円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は炭化物を含む褐色土(覆土7)・黒色土(覆土6)が坑底に薄く堆積し、その上位に黒褐色土(覆土1・4)、黒色土(覆土2)が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は坑底からややオーバーハング気味に立ち上がり、途中から開いて立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器、剥片のほとんどが覆土1から出土し、礫は覆土4から小型礫片が出土した。東壁近くの覆土1からは赤彩のある坏(277)が出土した。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミが検出され、樹種同定では覆土6出土の炭化材がコナラ属コナラ亜属コナラ節(HD-W12)と同定された。

**時期：**覆土6出土の炭化材は $1,700 \pm 20$ yrBP (HD-D27)の年代測定値が得られた。この年代値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

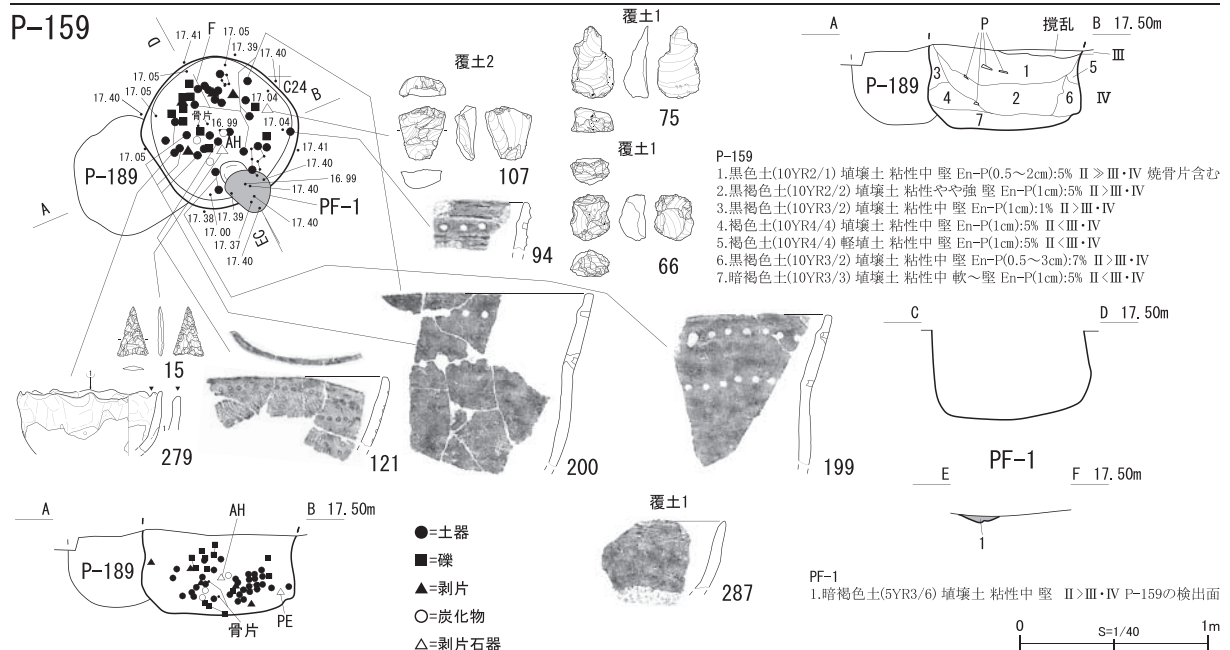
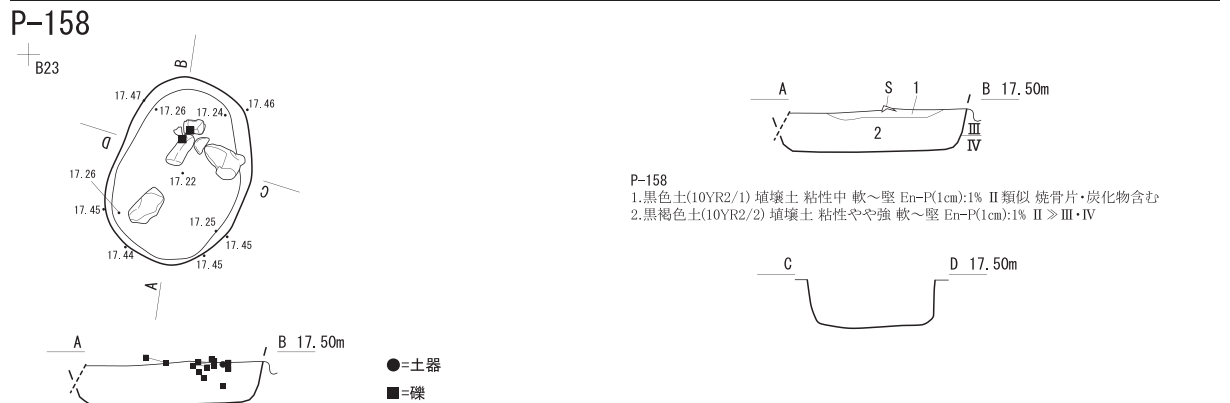
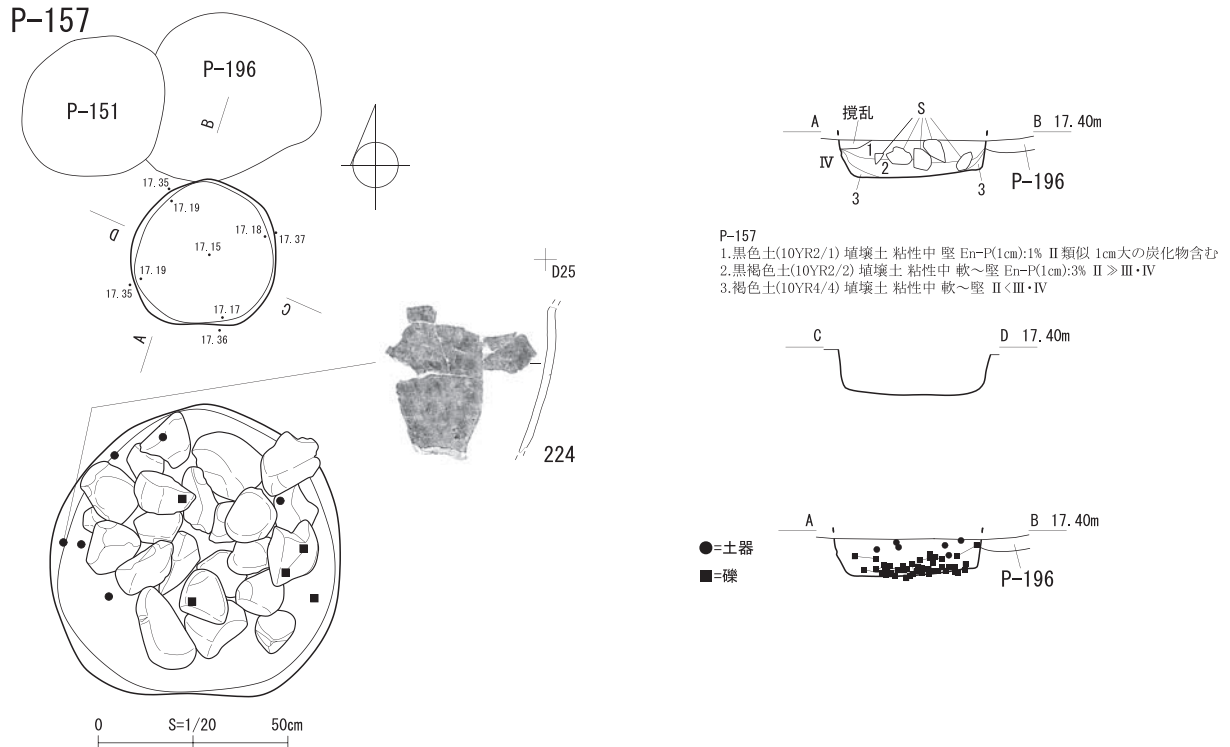
**土坑161 (P-161)** (図Ⅲ-60、表Ⅲ-2、図版53)

**調査・特徴：**P-136で記載したとおりP-136調査後に調査を進めた。覆土は黒褐色土(覆土3)、黒色土(覆土2)、黒褐色土(覆土1)がレンズ状に堆積する。坑底はおおむね平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器6点(211など)、剥片1点、小型礫片3点が覆土1~3から出土した。炭化樹種同定の結果、覆土1からオニグルミが検出されている。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

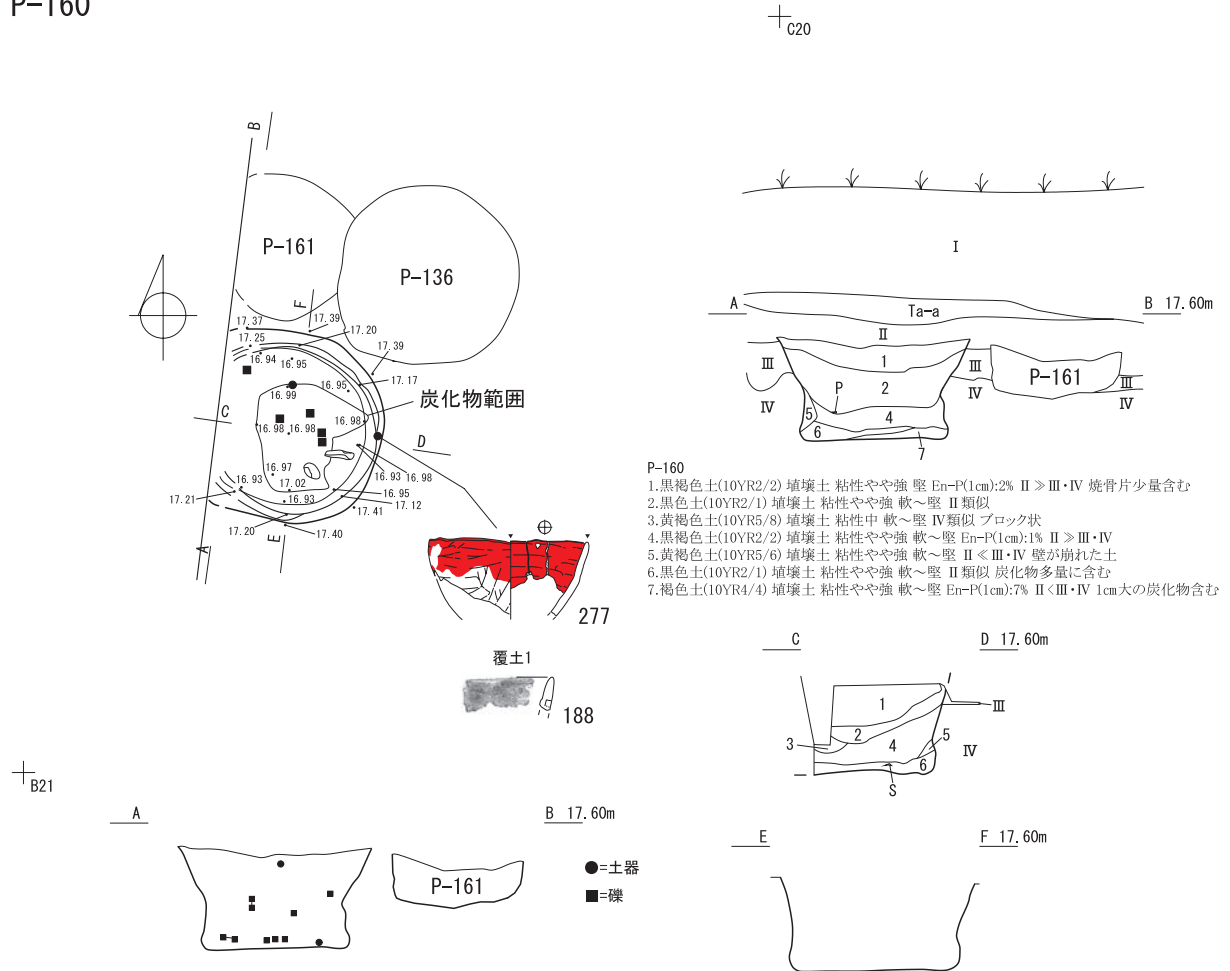
**土坑162 (P-162)** (図Ⅲ-60、表Ⅲ-2、図版53)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.4mくらいの黒色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉土器片1点・擦文土器片1点出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は直線

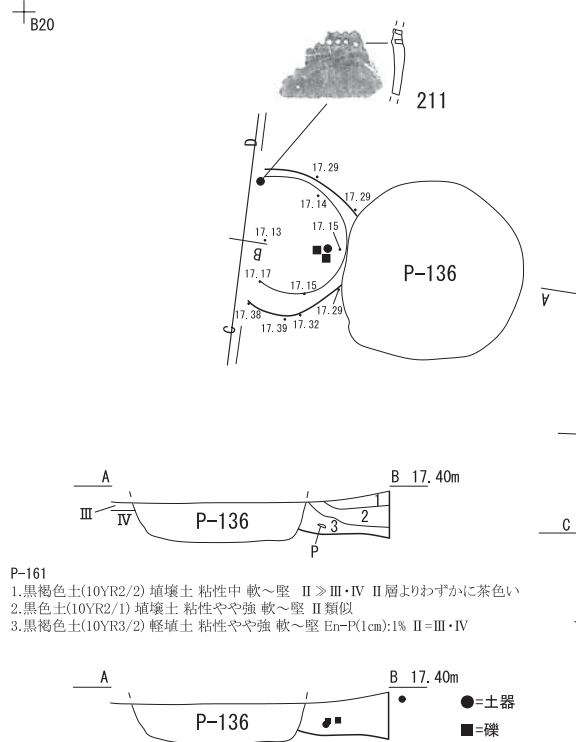


図III-59 土坑・土坑墓(49)P-157~159

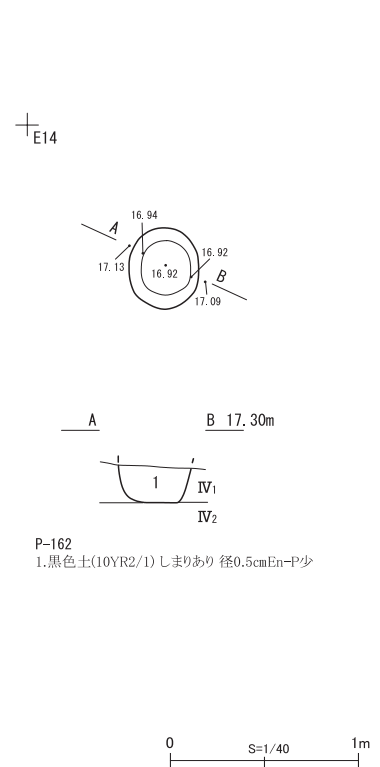
P-160



P-161



P-162



図Ⅲ-60 土坑・土坑墓(50)P-160～162

的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑163 (P-163)** (図III-61・62、表III-2、図版53・54)

**調査・特徴：**II・III層掘り下げ後、IV層上面で不整形の黒色～黒褐色土の落ち込みを確認した。トレンチ2本(A-B、C-D)を設定し、土層を確認したところ、長方形の一つの土坑と判明したため、十字ベルトを残して掘り下げた。覆土は南側には黒褐色土(覆土2)が厚く堆積し、その上位に北側には黒色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底より上位には焼土が広く分布し、炭化木片が北側の西壁内側、南側には南壁内側に壁に沿った方向で検出され、南側の中央には長軸方向に炭化材が検出された。また、南側にはイネ科の茎が2か所で検出された。遺物はほとんどが覆土1からで、VI群b類土器238点が出土し、微隆起線の無い甕(20・24・25)、微隆起線のある甕(44・56・90)や片口土器(117)、無文で円形刺突文のある甕(181)、刺突列で区切られた文様帯のある甕(31)や坏ないし片口土器(120・121)、小型鉢(276)などが出土した。石器はスクレイパー(27・95)、楔形石器(102・117)、石核(148・153)などが土器と混在して出土している。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。平面形は隅丸長方形である。覆土2出土炭化物はコナラ属コナラ亜属コナラ節(HD-W13)、サクラ属(HD-W14)と同定された。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミ・マメ類、覆土2からブドウ科の種子が検出された。

**時期：**覆土2出土の炭化植物遺体(タケ亜科)には1,595±15yrBP(HD-D28)、炭化材には1,570±20yrBP(HD-D29)の年代測定値が得られた。この年代値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑164 (P-164)** (図III-62、表III-2、図版54)

**調査・特徴：**P-140で記載したとおり、トレンチで本遺構がP-143より古いことを確認し、P-143調査後に、半截し、調査を進めた。覆土は坑底に黄褐色土(覆土3)・褐色土(覆土2)が堆積し、その窪んだ上面に黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類4点、礫1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑165 (P-165)** (図III-63、表III-2、図版50)

**調査・特徴：**P-147で記載したとおり、P-165と同時に調査を行った。覆土はEn-Pを多量に含む黒褐色土(覆土2)が厚く堆積し、上部の皿状の窪みに黒褐色土(覆土1)が堆積する。炭化物は覆土1・2ともに少量含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類土器9点(101・236など)、剥片1点、礫2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑166 (P-166)** (図III-63、表III-2、図版54)

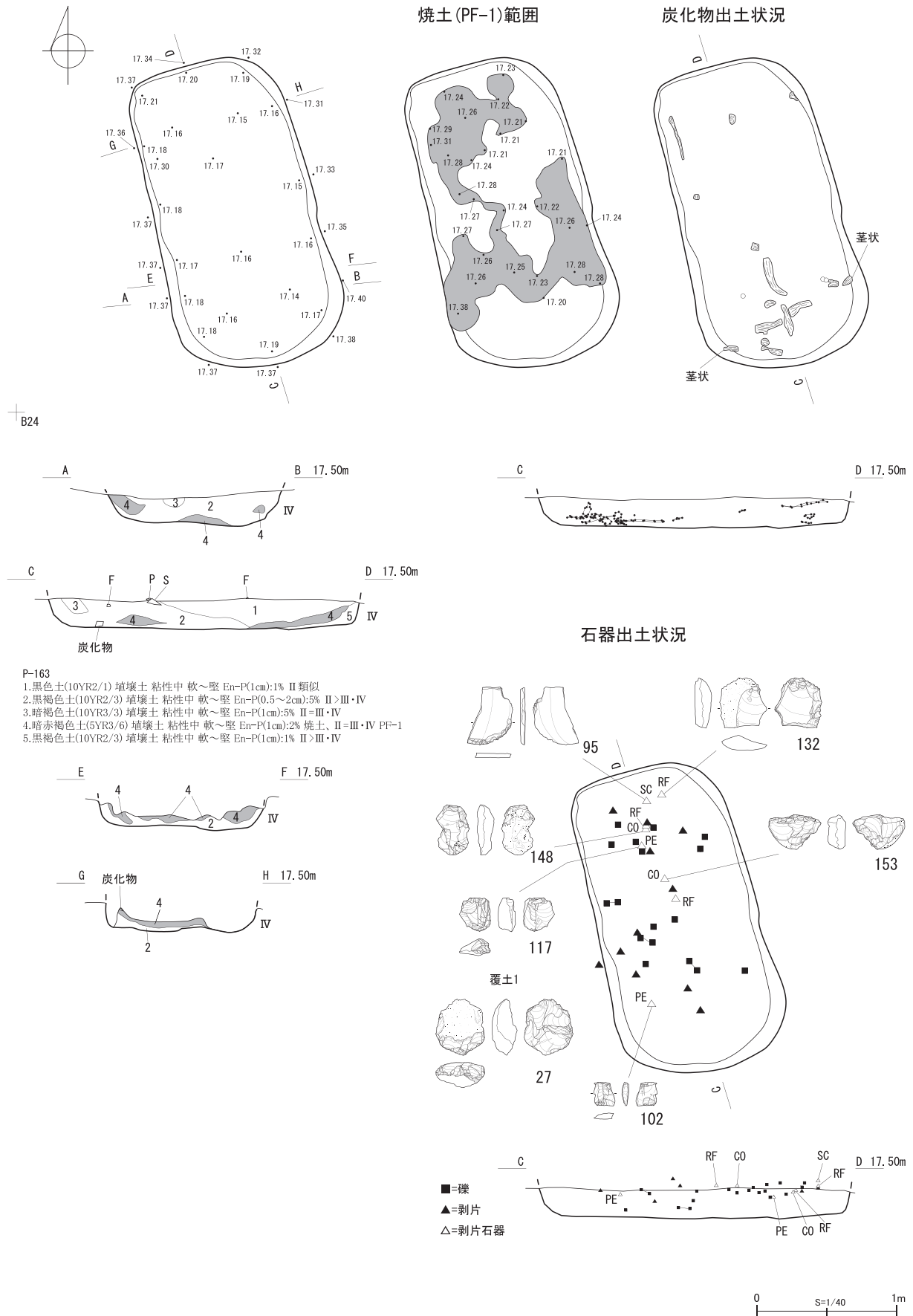
**調査・特徴：**III層掘り下げ後、IV層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土のみが厚く堆積する。坑底は、南北方向は平坦、東西方向はやや凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。遺物はほとんどが覆土中で、VI群b類土器15点(123など)、剥片6点、石斧1点(174)、礫7点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑167 (P-167)** (図III-63、表III-2、図版55)

**調査・特徴：**II層掘り下げ後、III層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3・4)が厚く堆積し、その上部の窪みに暗オリーブ褐色土(覆土

P-163

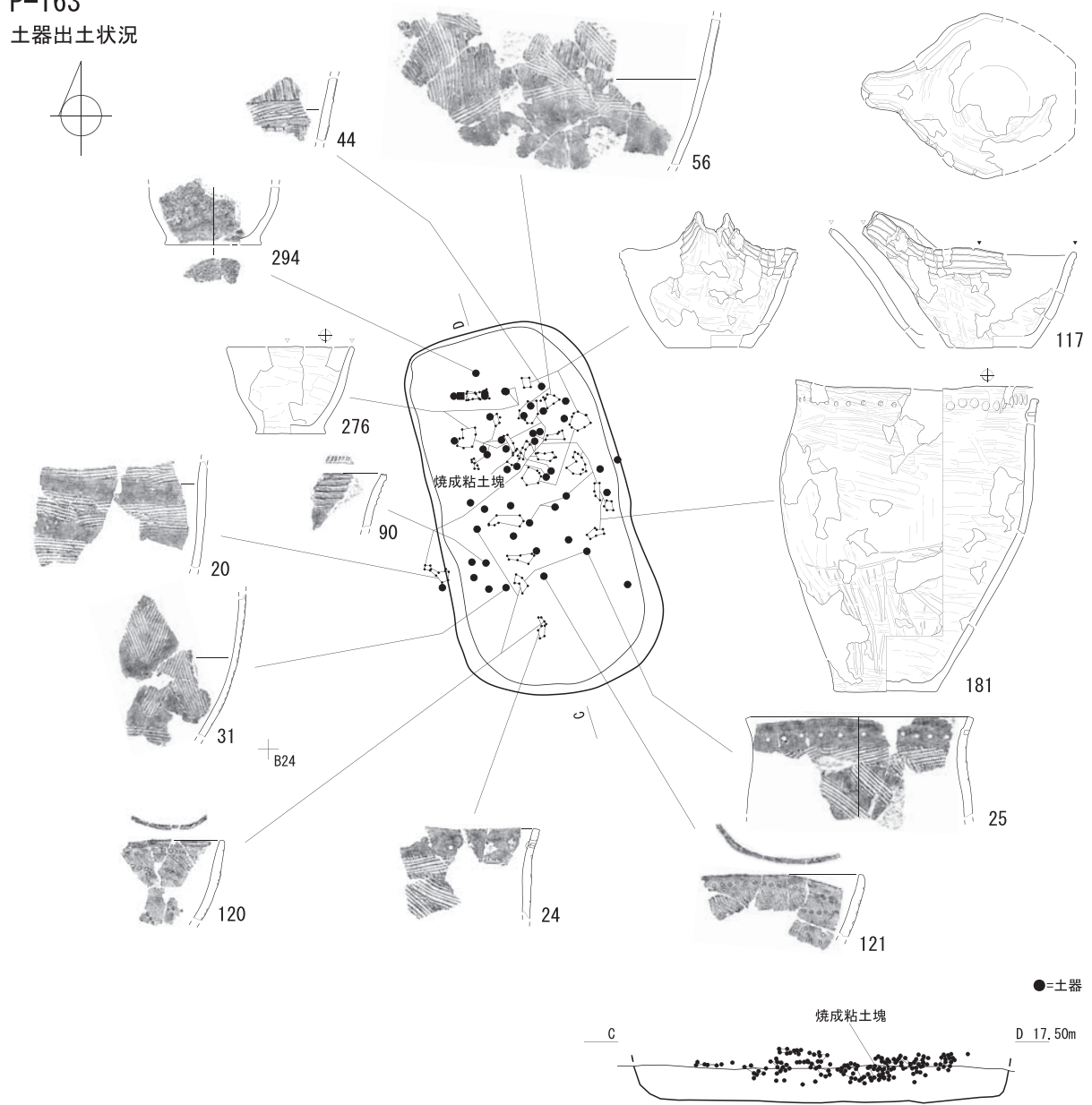


P-163

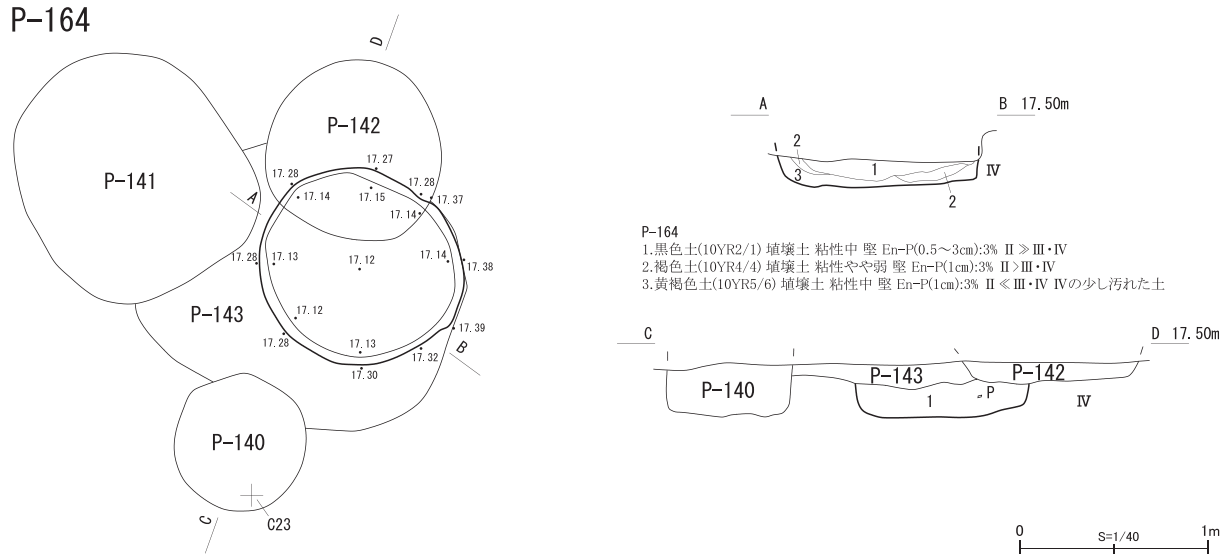
1. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II 類似
2. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(0.5~2cm):5% II > III・IV
3. 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):5% II = III・IV
4. 暗赤褐色土(5YR3/6) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% 焼土、II = III・IV PF=1
5. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II > III・IV

図III-61 土坑・土坑墓(51)P-163(1)

P-163  
土器出土状況

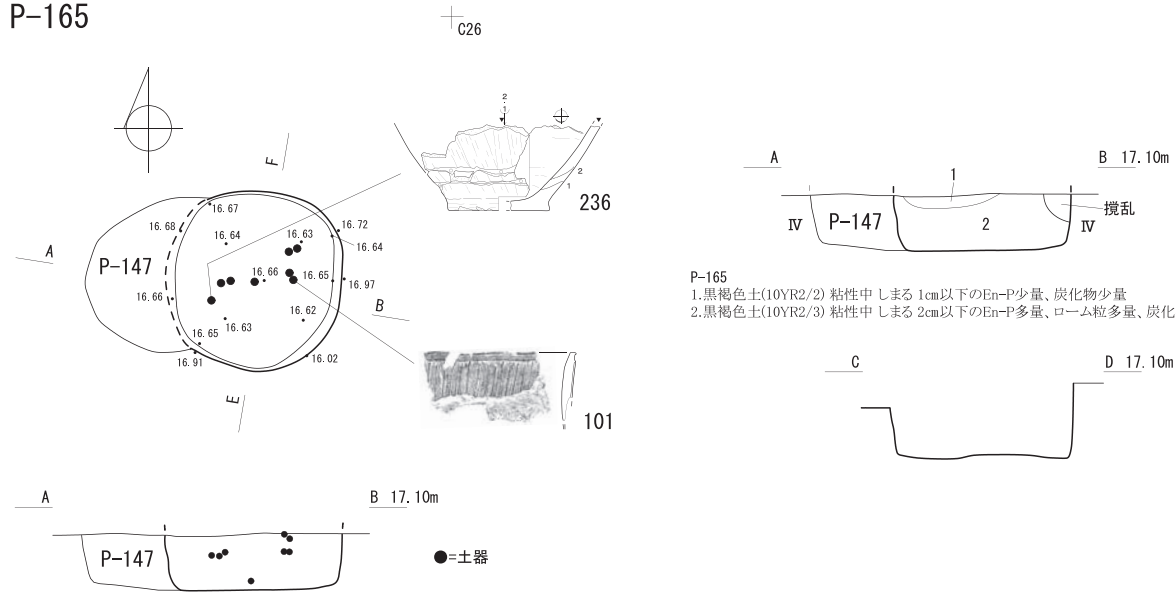


P-164

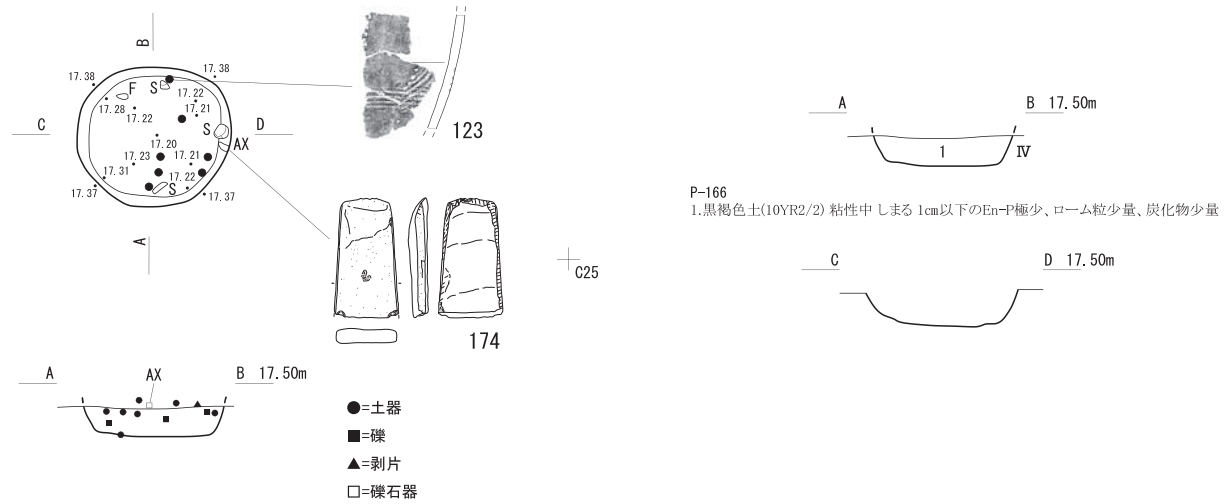


図III-62 土坑・土坑墓(52)P-163(2)・164

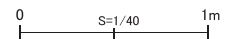
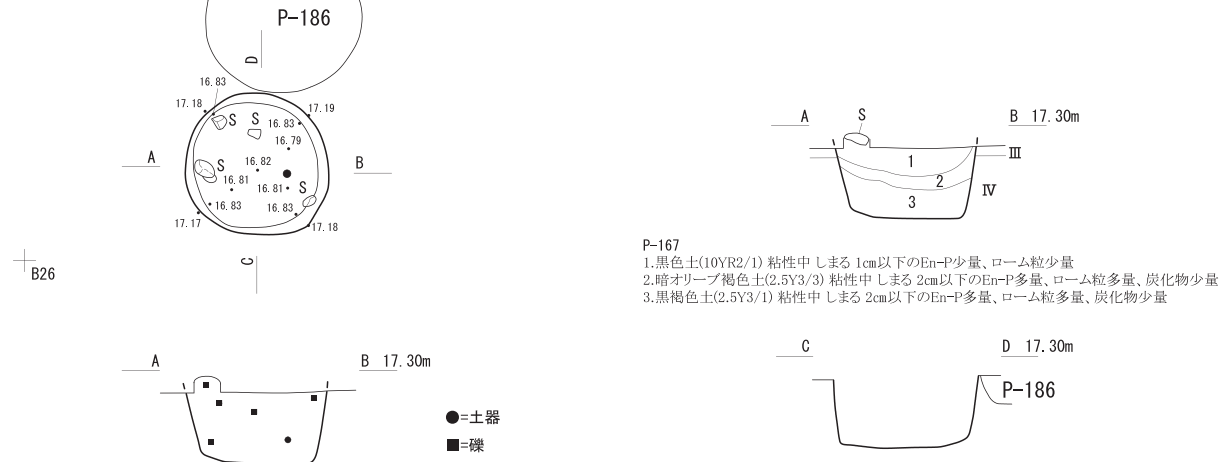
P-165



P-166



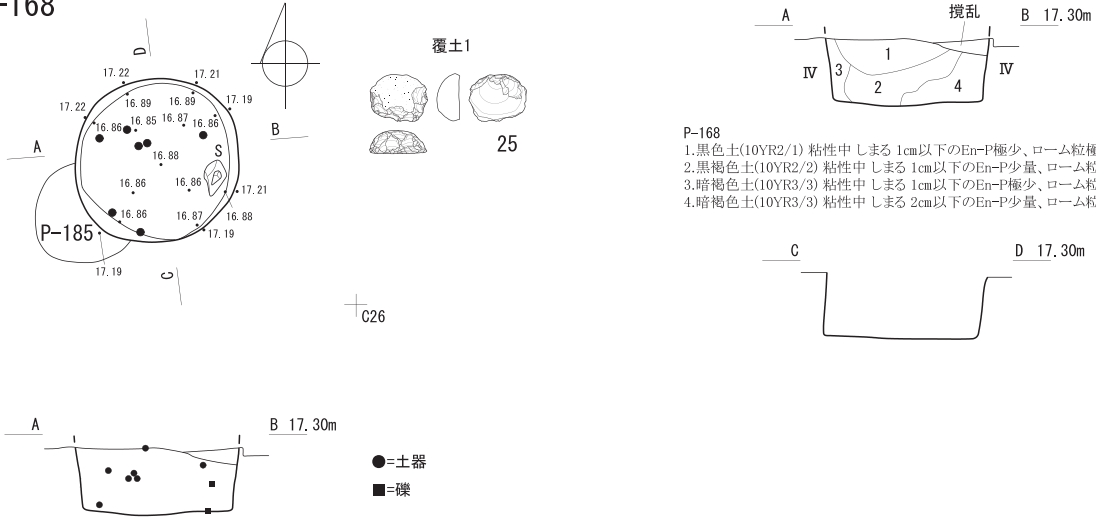
P-167



図III-63 土坑・土坑墓(53)P-165~167

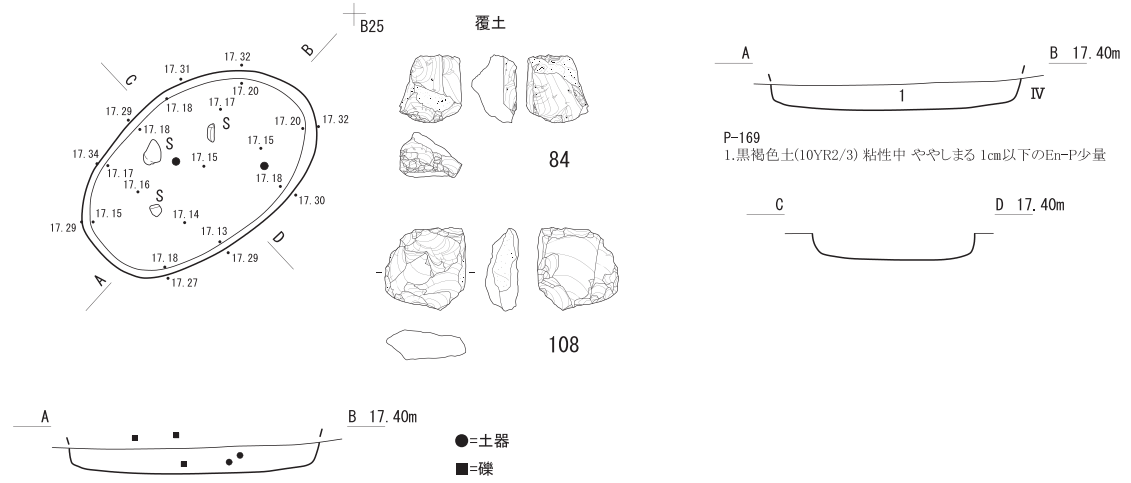


P-168



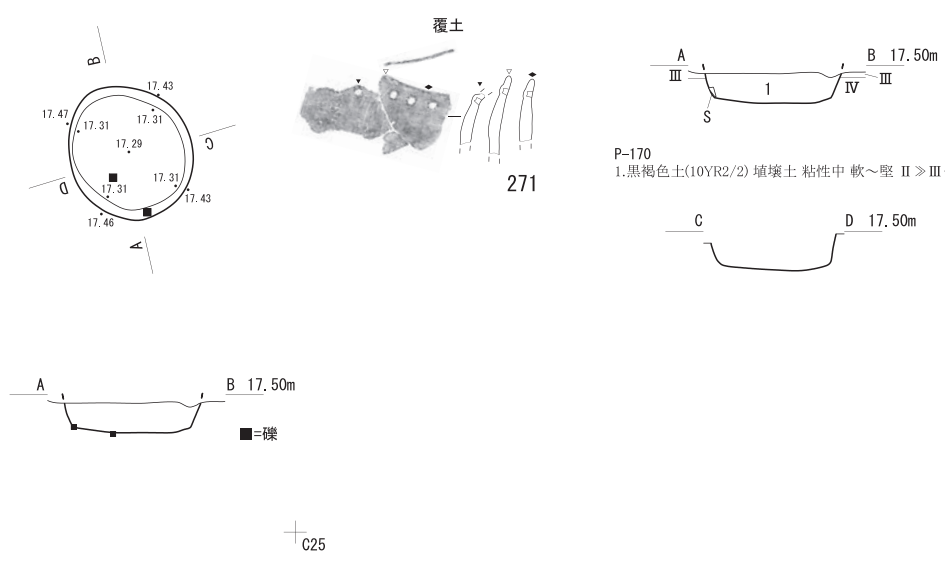
P-168  
 1.黒色土(10YR2/1) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P極少、ローム粒極少  
 2.黒褐色土(10YR2/2) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P少量、ローム粒極少  
 3.暗褐色土(10YR3/3) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P極少、ローム粒極少  
 4.暗褐色土(10YR3/3) 粘性中 しまる 2cm以下のEn-P少量、ローム粒極少

P-169



P-169  
 1.黒褐色土(10YR2/3) 粘性中 ややしまる 1cm以下のEn-P少量

P-170



P-170  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II>III・IV

図III-64 土坑・土坑墓(54)P-168~170

2)、黒色土(覆土1)が堆積する。En-Pは覆土2・3に多量に含まれる。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土中からⅥ群a類土器2点、Ⅵ群b類土器9点、剥片6点、小型礫片7点が出土した。炭化種実同定の結果、覆土3からアワーヒューキビ?が検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑168 (P-168)** (図Ⅲ-64、表Ⅲ-2、図版55)

**調査・特徴：**Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は下部に黒褐色土(覆土2)、暗褐色土(覆土3・4)が堆積し、その上部の窪みに黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土を中心にⅥ群a類土器11点、スクレイパー1点(25)、剥片6点、礫4点(中型礫片1点を含む)が出土した。坑底には中型礫片1点が東縁に分布する。炭化種実同定の結果、覆土1からオニグルミが検出された。本遺構は後に検出されたP-185より新しい。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑169 (P-169)** (図Ⅲ-64、表Ⅲ-2、図版55)

**調査・特徴：**Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層上面で小判形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色(覆土1)が全体に堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器4点、スクレイパー1点(84)、楔形石器1点(108)、二次加工ある剥片1点、剥片3点、小型礫片など礫5点が覆土から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑170 (P-170)** (図Ⅲ-64、表Ⅲ-2、図版55)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器が20点(271など)、剥片6点、楔形石器1点、小型礫片6点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑171 (P-171)** (図Ⅲ-65、表Ⅲ-2、図版56)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1・2)がレンズ状に堆積する。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類土器22点(32など)、楔形石器1点(129)、剥片5点、礫5点が出土した。土器は片口土器片(124・126)などが覆土1に落ち込むように出土し、中型礫片は西壁際の坑底付近から出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑172 (P-172)** (図Ⅲ-65、表Ⅲ-2、図版56)

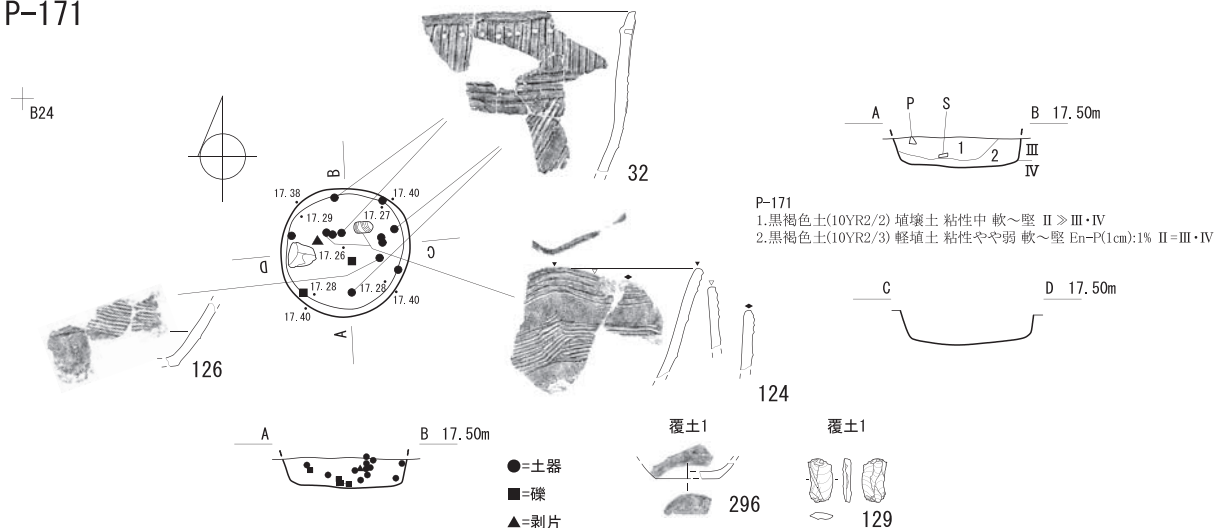
**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。それぞれP-172・178とし、長軸に沿って半截し、新しい本遺構から調査を行った。覆土は暗褐色土(覆土4)、黒褐色土(覆土2・3)、黒色土(覆土1)が斜めに堆積している。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は主に上層である覆土1・2から出土し、底部片(259)や片口土器片(271)、中型完形礫が覆土2から出土した。炭化種実同定の結果、覆土1・3・4からオニグルミが検出されている。

**時期：**遺物と遺構の形状から統縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

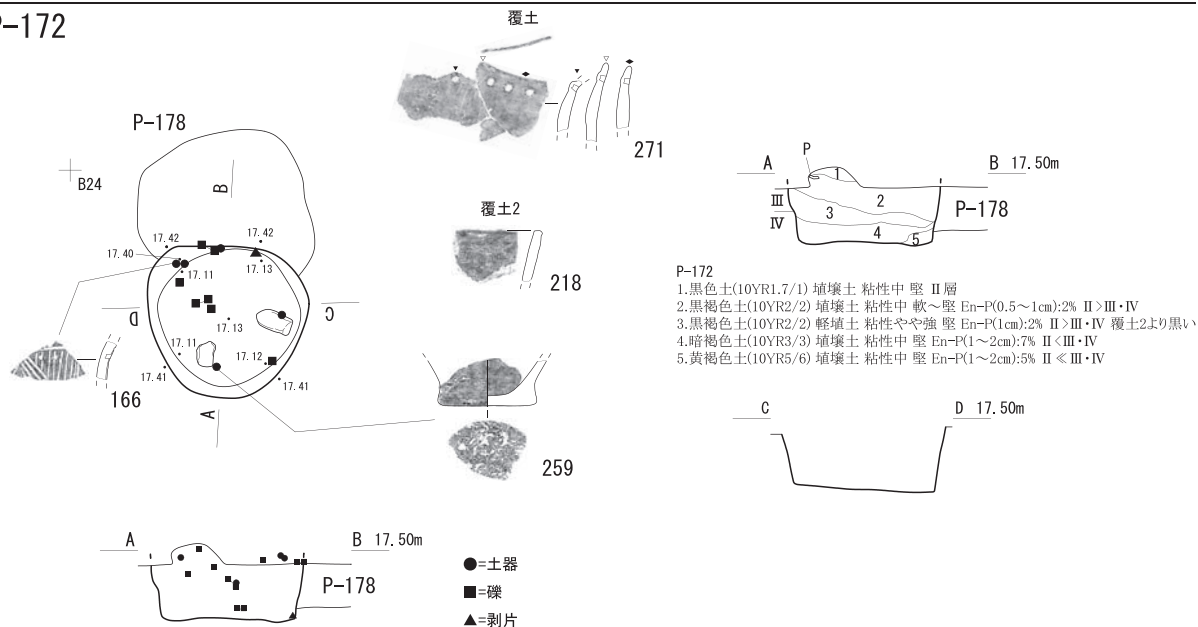
**土坑173 (P-173)** (図Ⅲ-65、表Ⅲ-2、図版56)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土

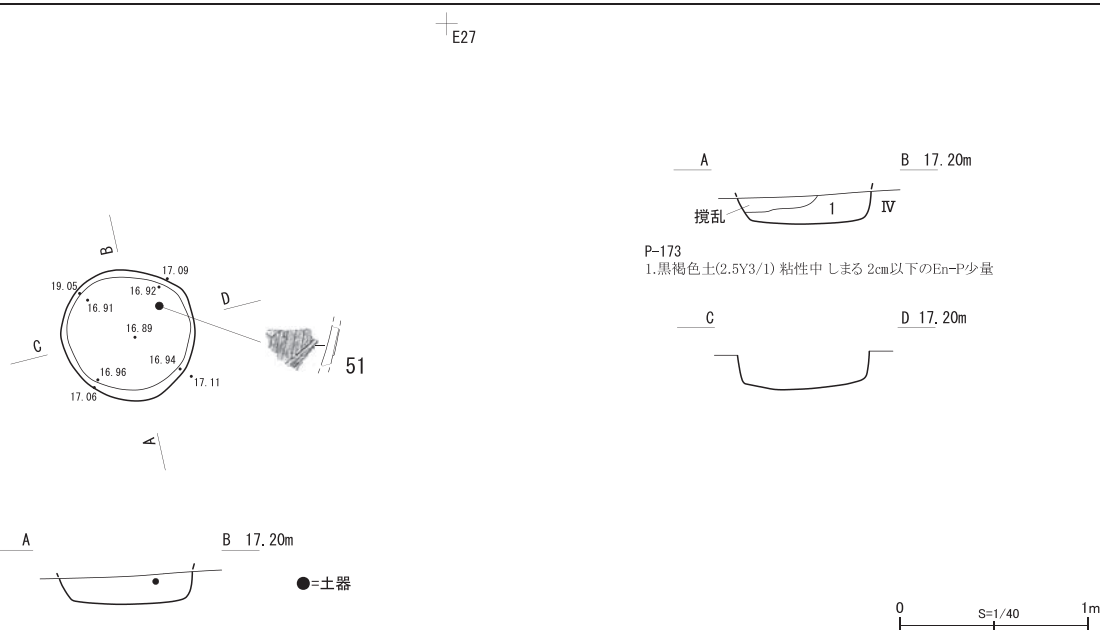
P-171



P-172



P-173



図III-65 土坑・土坑墓(55)P-171~173

からⅥ群b類土器1点(51)、礫1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑174 (P-174)** (図Ⅲ-66、表Ⅲ-2、図版56・57)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で2つの円形が連結する円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。中軸から半截し、P-174・180とし、新しいP-180の調査後に、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土と坑底から出土し、覆土からはⅥ群b類土器27点(28・96・191など)、スクレイパー1点(42)、剥片13点、礫6点、坑底からはⅥ群b類土器10点(38など)、礫2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑175 (P-175)** (図Ⅲ-66、表Ⅲ-2、図版57)

**調査・特徴：**Ⅳ層中での耕作痕の除去中にその下位から褐色土の落ち込みを確認した。覆土は炭化物を含む褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は大型半完形・完形礫、小型礫片が坑底の北・南西・東壁際から出土した。

**時期：**周辺の遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑176 (P-176)** (図Ⅲ-66、表Ⅲ-2、図版57)

**調査・特徴：**Ⅱ層掘り下げ後、Ⅲ層上面で調査区外に延びる円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。調査区内を掘り下げた。覆土は坑底に黒褐色土(覆土2)が厚く堆積し、上部の落ち込みに黒褐色土(覆土1)が堆積する。覆土1にはシカとみられる焼骨片が少量含まれる。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は覆土1からⅥ群b類土器12点(46・219など)、覆土2から剥片2点、礫2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑177 (P-177)** (図Ⅲ-67、表Ⅲ-2、図版57)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒褐色土(覆土1)のみで、坑底に中型半完形・完形礫が分布し、底部片(258)を含むⅥ群b類土器が坑底から3cmほど上位から出土した。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑178 (P-178)** (図Ⅲ-67、表Ⅲ-2、図版56)

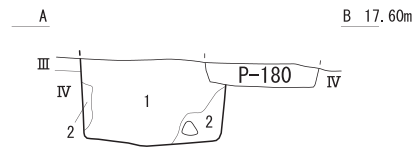
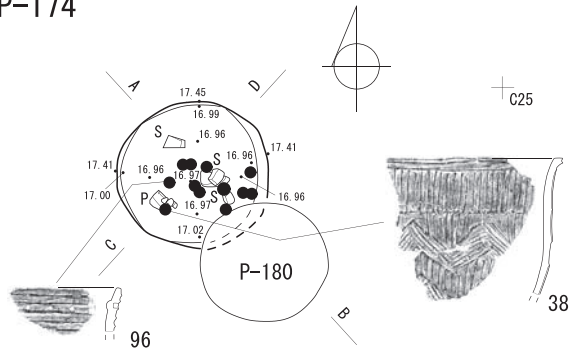
**調査・特徴：**P-172で記載したとおりP-172調査後に調査を進めた。覆土は暗褐色土(覆土3)、黒色土(覆土2)、黒褐色土(覆土1)がレンズ状に堆積する。覆土2には炭化物が含まれる。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は覆土1～3からⅥ群b類土器が33点、剥片12点、小・中型礫片が10点、覆土3からスクレイパー1点(21)、石斧1点(170)、覆土2(149)・覆土3(135・162)から石核が出土した。土器は注口部(115)、小型土器の口縁部(127)がある。炭化種実同定では覆土1・2からオニグルミが検出されている。

**時期：**覆土3出土の樹皮には $1,615 \pm 15 \text{yrBP}$  (HD-D30)の年代測定値が得られた。この測定値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

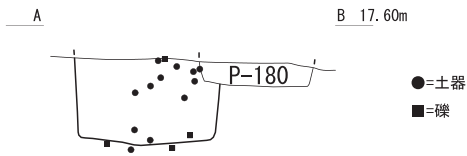
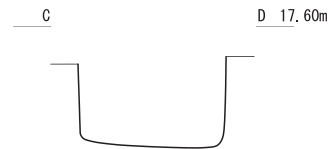
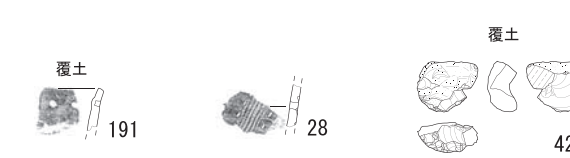
**土坑179 (P-179)** (図Ⅲ-67、表Ⅲ-2、図版57・58)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.8mくらいの黒色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉土器片1点・礫1点、坑底より礫5点(重量「小」安山岩亜角礫1個・重量「小」被熱砂岩亜角礫4個)が出土し

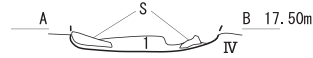
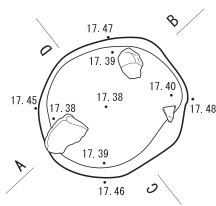
P-174



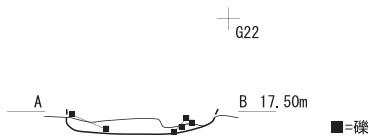
P-174  
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P少量、骨片多量、ローム粒少量、炭化物少量  
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P極少、ローム粒少量



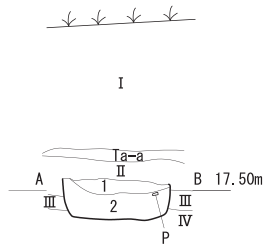
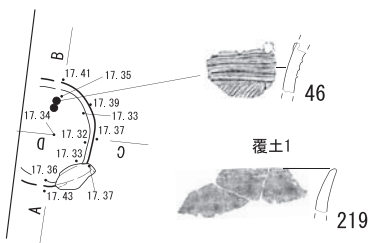
P-175



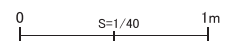
P-175  
 1. 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(1~2cm):10% II<III・IV 1cm大の炭化物含む



P-176

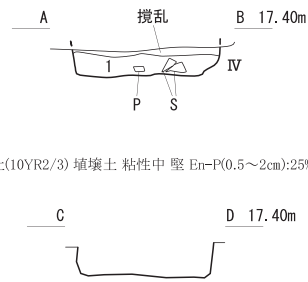
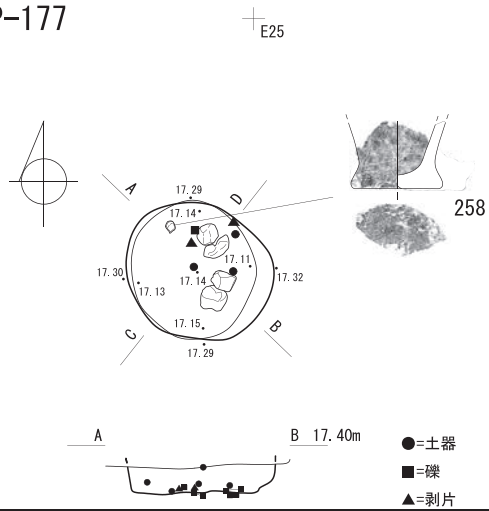


P-176  
 1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):1% II>III・IV 焼骨片含む  
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 軽埴土 粘性やや弱 軟~堅 II>>III・IV



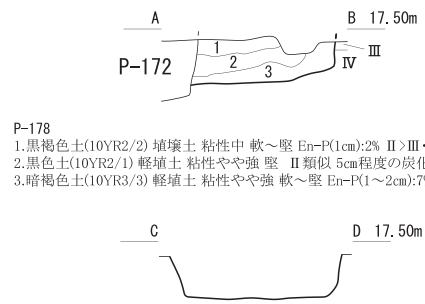
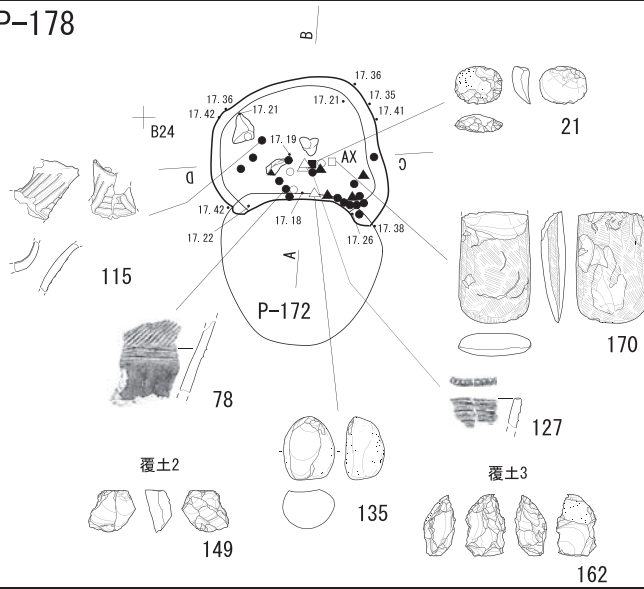
図III-66 土坑・土坑墓(56)P-174~176

P-177



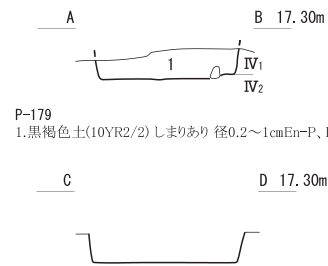
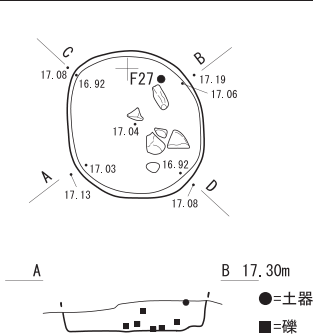
P-177  
1.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~2cm):25% II>III・IV

P-178



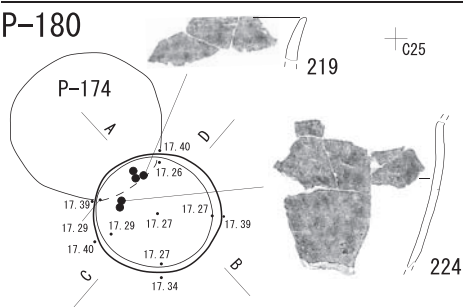
P-178  
1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II>III・IV  
2.黒色土(10YR2/1) 軽埴土 粘性やや強 堅 II 類似 5cm程度の炭化物含む  
3.暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1~2cm):7% II=III・IV

P-179

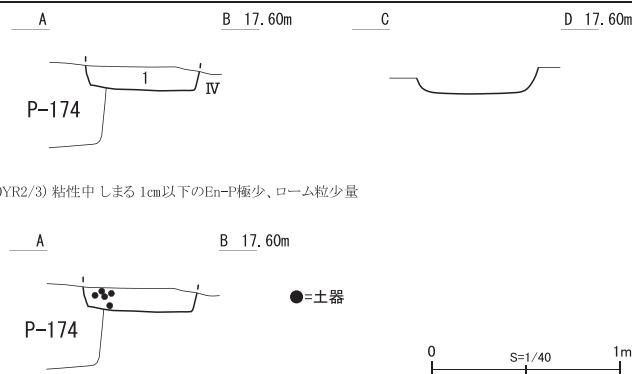


P-179  
1.黒褐色土(10YR2/2) しまりあり 径0.2~1cm En-P、En-L含む

P-180



P-180  
1.黒褐色土(10YR2/3) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P極少、ローム粒少量



図III-67 土坑・土坑墓(57)P-177~180

た。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P上面に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑180 (P-180)** (図III-67、表III-2、図版56・57)

**調査・特徴：**P-174で記載したとおり、P-174に先行して調査を行った。覆土は薄く、黒褐色土のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は北西部に偏り、覆土からVI群b類土器4点(219など)、坑底からVI群b類土器1点(224)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑181 (P-181)** (図III-68、表III-2、図版58)

**調査・特徴：**II層掘り下げ後、III層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底にEn-Pを多量に含む黒褐色土(覆土3)が厚く堆積し、中央に暗褐色土(覆土2)を薄く挟んで黒色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は、南側は垂直に、北側は段状に立ち上がる。遺物は覆土を中心にVI群b類土器34点(87・284)、剥片5点、石斧1点(171)、礫8点が出土した。炭化種実同定の結果、覆土3からアワーヒューキビ?が検出された。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑182 (P-182)** (図III-68、表III-2、図版58)

**調査・特徴：**III層掘り下げ後、IV層で2つの楕円形が連結する黒色土の落ち込みを確認した。両者の中軸から半截し、P-182・183として調査を行った。覆土は黒色土のみで厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。北西部の上部からは焼土(PF-1)が検出された。遺物は覆土中心にVI群b類土器28点(24・45・48・236など)、つまみ付きナイフ2点(20)、剥片2点、礫7点(特大型半完形1点、中型完形1点を含む)が出土した。焼土(PF-1)出土の焼骨片にはサケ目椎骨破片、脊椎動物門の破片が含まれている(骨試料2)。

**時期：**焼土(PF-1)出土の炭化物は $1,750 \pm 20 \text{yrBP}$  (HD-D31)の年代測定値が得られた。この測定値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑183 (P-183)** (図III-68、表III-2、図版58)

**調査・特徴：**P-182で記載したとおり、P-182と平行して調査を行った。覆土は黒褐色土のみである。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土中心にVI群b類土器24点、剥片4点、礫4点(中型完形1点を含む)が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑184 (P-184)** (図III-69、表III-2、図版58)

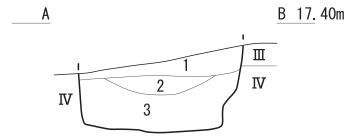
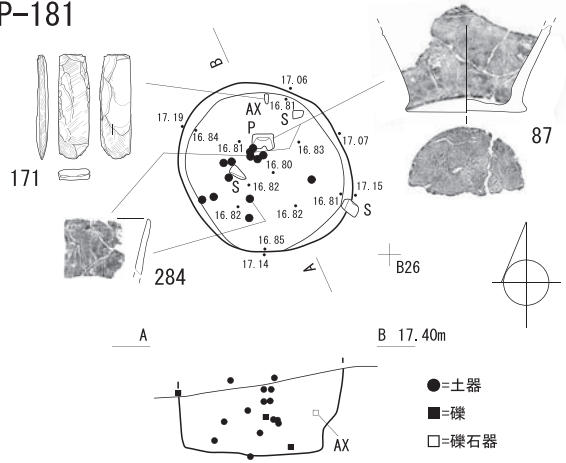
**調査・特徴：**II層掘り下げ後、III層上面で調査範囲外に延びる円形の黒色土の落ち込みを確認した。調査区内の半円の部分の調査を行った。覆土は坑底に黒褐色土(覆土3・4)がやや厚く堆積し、その窪んだ上面に黒色土(覆土2)が厚く堆積し、さらにその上部に黒褐色土(覆土1)が薄く被覆する。坑底は平坦で、壁は坑底から垂直に、上部は開いて立ち上がる。遺物は少量で、VI群b類土器1点(69)、たたき石1点(182)、二次加工ある剥片1点(133)、剥片1点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑185 (P-185)** (図III-69、表III-2、図版58)

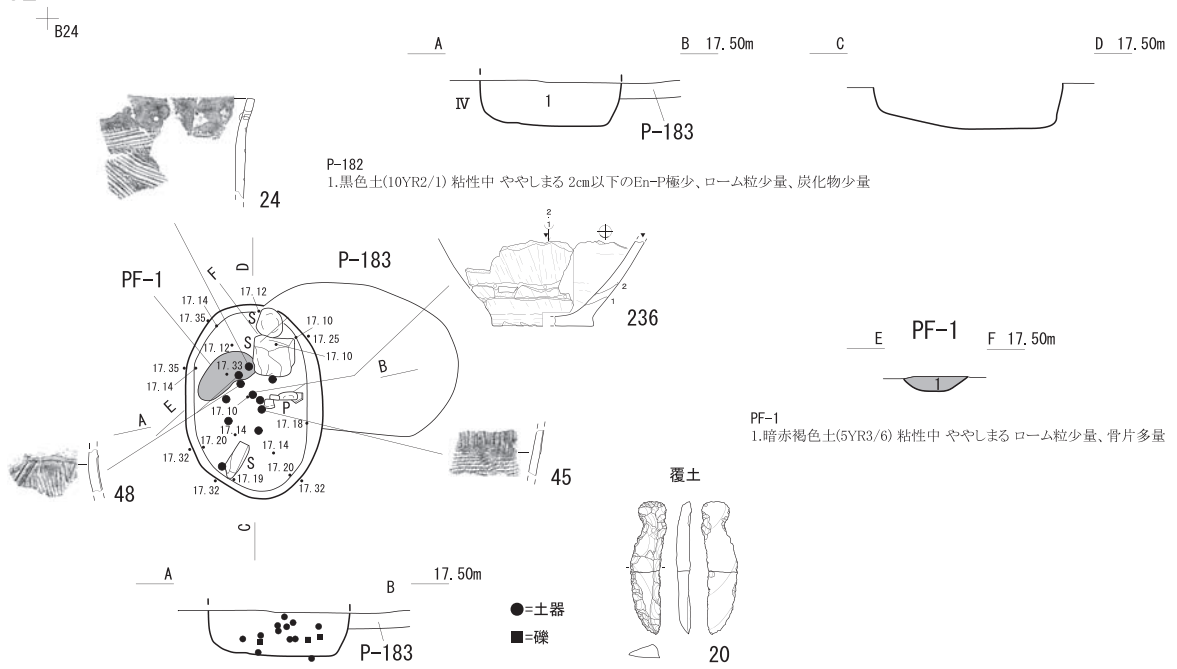
**調査・特徴：**P-168調査後、周辺を精査した際に、IV層中でP-168に切られる円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。中央にベルトを残し、調査を行った。覆土は黒褐色土のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はVI群b類土器1点が出土した。

P-181



P-181  
 1.黒色土(10YR2/1) 粘性中しまる 1cm以下のEn-P少量、ローム粒少量  
 2.暗褐色土(10YR3/4) 粘性中しまる 0.5cm以下のEn-P極少、ローム粒少量  
 3.黒褐色土(10YR2/2) 粘性中しまる 3cm以下のEn-P多量、ローム粒多量

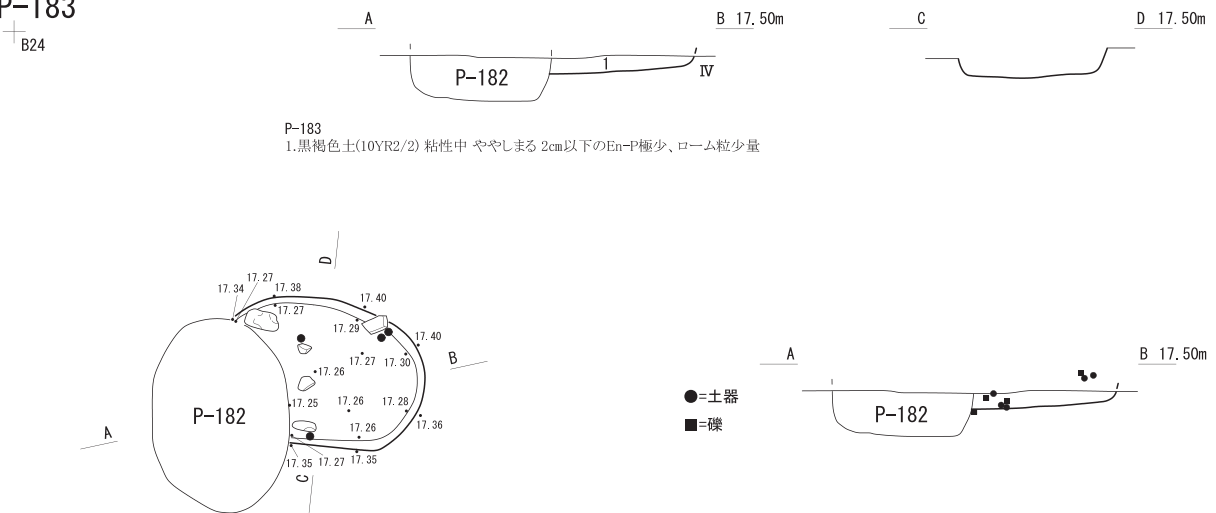
P-182



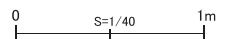
P-182  
 1.黒色土(10YR2/1) 粘性中 ややしまる 2cm以下のEn-P極少、ローム粒少量、炭化物少量

PF-1  
 1.暗赤褐色土(5YR3/6) 粘性中 ややしまる ローム粒少量、骨片多量

P-183



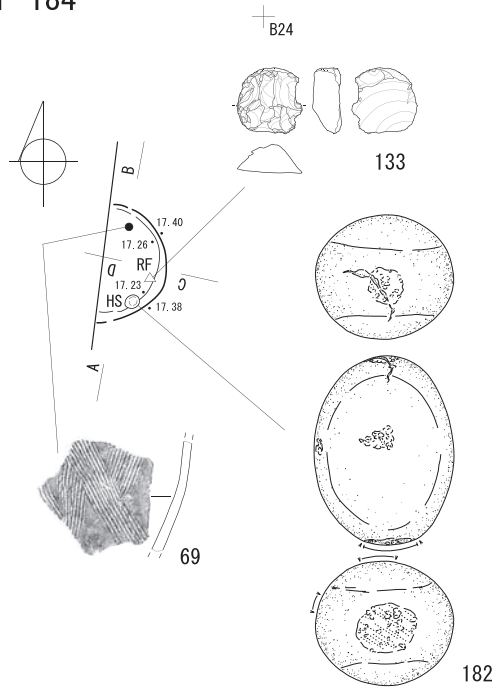
P-183  
 1.黒褐色土(10YR2/2) 粘性中 ややしまる 2cm以下のEn-P極少、ローム粒少量



図III-68 土坑・土坑墓(58)P-181~183

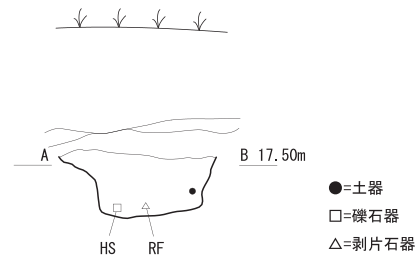
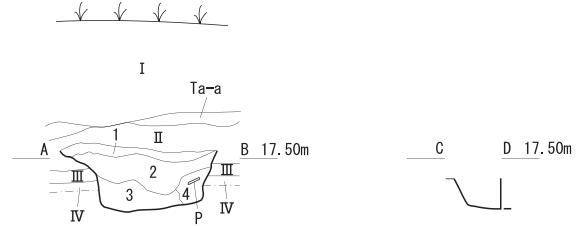


P-184

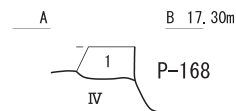
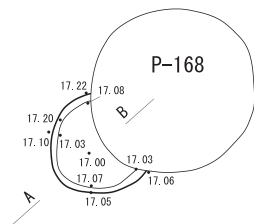


P-184

1. 黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II>III・IV 焼骨片含む
2. 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中 軟~堅 II類似
3. 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟~堅 En-P(0.5cm):2% II > III・IV 黒曜石有
4. 黒褐色土(10YR3/2) 軽埴土 粘性やや強 軟~堅 II>III・IV



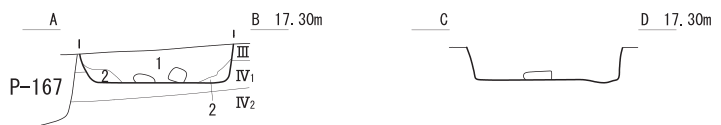
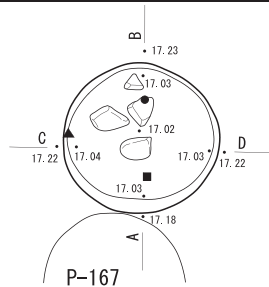
P-185



P-185

1. 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中 しまる 1cm以下のEn-P少量

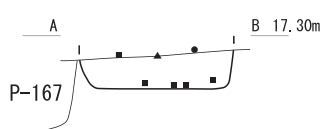
P-186



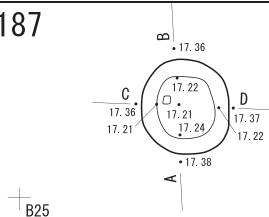
P-186

1. 黒褐色土(10YR2/2) しまりあり 径1cm En-P少, 焼骨片含む
2. 褐色土(10YR4/4) しまりあり 径0.5cm En-P少, En-L少

B26

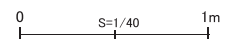
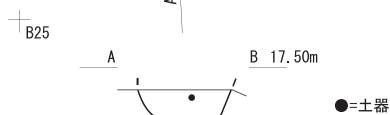


P-187



P-187

1. 黒色土(10YR1.7/1) しまりなし 径2mm En-L含む



図III-69 土坑・土坑墓(59)P-184~187

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**土坑186 (P-186)** (図Ⅲ-69、表Ⅲ-2、図版58・59)

**調査・特徴：**Ⅲ層深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、径0.8mくらいの黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉土器片3点・剥片3点、礫1点、坑底より礫5点(そのうち重量「中」の被熱砂岩垂角礫2個・重量「小」の被熱砂岩垂角礫2個、あと1個は500g以下の「小」)が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや角張る、壁は直線的に外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-L中に設けられる。覆土は1・2層が埋め戻し土。

**時期：**P-167覆土中位にこの遺構の掘り揚げ土が流入していることから、旧P-167→新P-186の関係がある。位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑187 (P-187)** (図Ⅲ-69、表Ⅲ-2、図版59)

**調査・特徴：**Ⅲ層深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、径0.5mくらいの黒色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より続縄文後葉土器片1点出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや丸みを帯びる、壁は直線的に外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-L中に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

**土坑188 (P-188)** (図Ⅲ-70、表Ⅲ-2、図版59)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅲ層上面で円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は坑底周縁部に褐色土(覆土3)が、その上位に暗褐色土(覆土2)がやや厚く堆積し、その上位の窪みに炭化物を含む黒褐色土(覆土1)が堆積する。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器が覆土1から6点(187など)、覆土2から6点(217など)、剥片が覆土1から1点、礫が覆土2から27点出土した。礫は特大型半完形・完形、大型半完形、中型半完形・完形、小型完形・半完形・礫片が土坑中央部で覆土3上面に積み重なるように検出された。

**時期：**覆土1出土の炭化物は $1,635 \pm 20 \text{yrBP}$  (HD-D32)の年代測定値が得られた。この測定値と遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑189 (P-189)** (図Ⅲ-70、表Ⅲ-2、図版52)

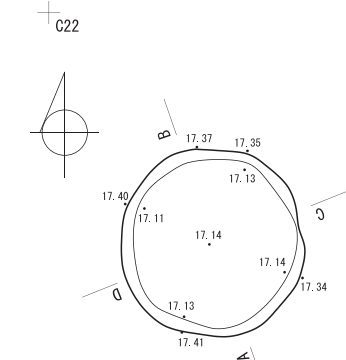
**調査・特徴：**P-159で記載したとおりP-159調査後に調査を進めた。覆土は黒色土(覆土4)、にぶい黄褐色土(覆土3)、黒色土(覆土2)、褐色土(覆土1)がレンズ状に堆積する。坑底はおおむね平坦で、壁は緩やかな弧を描いて垂直に立ち上がる。遺物は覆土1・2・4からⅥ群b類土器6点、剥片5点、小型礫4点出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**土坑190 (P-190)** (図Ⅲ-70、表Ⅲ-2、図版59)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.9mくらいの黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黄褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層上部より続縄文後葉土器片4点・礫2点(重量500g以下の「小」被熱安山岩垂角礫1個、重量500g以下の「小」被熱砂岩垂角礫1個)、1層下部より続縄文後葉後半期土器片4点(79・161など)・スクレイパー1点(54)・楔

P-188

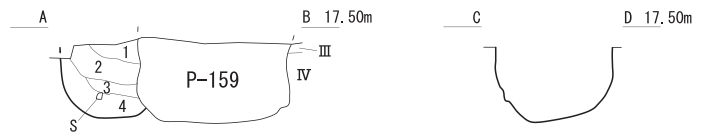
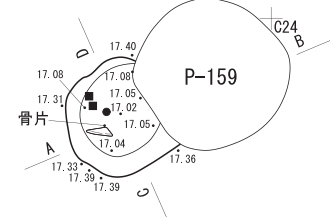


P-188

- 1.黒褐色土(10YR2/2) 壇壤土 粘性中 堅 En-P(0.5~1cm):2% II >> III・IV 0.5cm大の炭化物含む
- 2.暗褐色土(10YR3/3) 軽壇土 粘性中 堅 En-P(1~3cm):7% II=III・IV
- 3.褐色土(10YR4/4) 軽壇土 粘性中 堅 En-P(1cm):7% II < III・IV

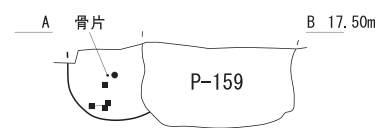


P-189

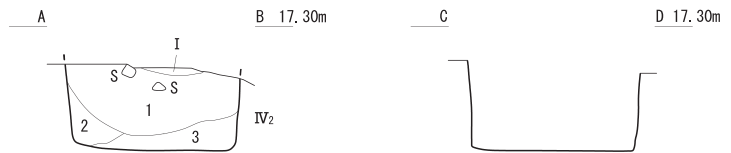
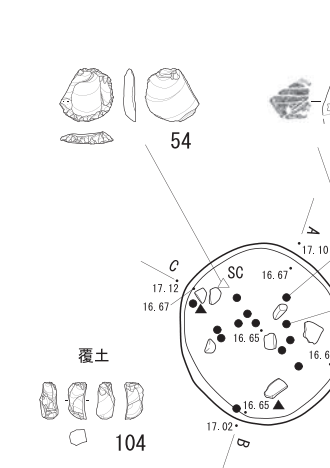


P-189

- 1.褐色土(10YR4/4) 壇壤土 粘性中 軟~堅 En-P(0.5cm):5% II < III・IV
- 2.黒色土(10YR2/1) 壇壤土 粘性中 軟~堅 En-P(1cm):2% II 類似
- 3.にぶい黄褐色土(10YR4/3) 軽壇土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):2% II < III・IV
- 4.黒色土(10YR2/1) 壇壤土 粘性やや強 軟~堅 En-P(1cm):3% II 類似

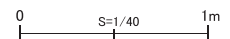
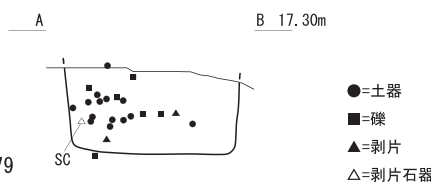
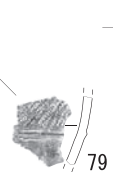


P-190



P-190

- 1.黒褐色土(10YR2/3) しまりあり 径0.5~1cm En-P, En-L含む 径0.2~0.5cmの炭化物少 遺物多
- 2.褐色土(10YR4/4) しまりあり 径1~1.5cm En-P多, En-L多
- 3.黄褐色土(10YR5/6) しまりなし 径1~2cm En-P, En-Lともに非常に多い



図III-70 土坑・土坑墓(60)P-188~190

形石器 1 点 (104) ・剥片 2 点 ・礫 5 点 (重量500g以下の「小」被熱安山岩亜角礫 3 個、重量500g以下の「小」被熱安山岩亜角礫 1 個、「小」被熱砂岩亜角礫 1 個) が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P中に設けられる。覆土は 1 層が流れ込み、2・3 層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑191 (P-191) (図Ⅲ-71、表Ⅲ-2、図版59・60)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から 3 cm下げ、深さ 5 cmを 2 回下げた包含層調査の途中、径0.6mくらいの黒色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黄褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1 層より続縄文後葉土器片20点・剥片 2 点 ・礫 3 点 (「中」砂岩亜角礫 1 個、重量500g以下の「小」砂岩亜角礫 1 個、重量500g以下の「小」泥岩亜角礫 1 個)、坑底から礫 1 点 (重量500g以下の「小」安山岩亜角礫 1 個) が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは丸みを帯びる、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面はⅡ層下半より上位、坑底面はEn-L上面に設けられる。覆土は 1 層が流れ込み、2 層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑192 (P-192) (図Ⅲ-71、表Ⅲ-2、図版60)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径1.0mくらいの黄褐色・黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。2 層より続縄文後葉土器片 8 点 ・剥片 1 点 が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P中に設けられる。覆土は 1・2 層が流れ込み、3 層が埋め戻し土。

**時期：**覆土中にP-111の掘り揚げ土が流入していることから、旧P-192→新P-111の関係がある。位置・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑193 (P-193) (図Ⅲ-71、表Ⅲ-2、図版60)

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において長軸1.1mくらいの黒褐色を呈する小判形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり長軸に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、鈍い黄褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1 層より続縄文後葉土器片 2 点 ・剥片 1 点 が出土した。下端平面形は長方形、坑底面は平坦。立ち上がりは丸みを帯びる、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P中に設けられる。覆土は 1・2 層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。墓坑を埋め戻し土で充填する所謂土坑墓。(鈴木 信)

#### 土坑194 (P-194) (図Ⅲ-71、表Ⅲ-2、図版60)

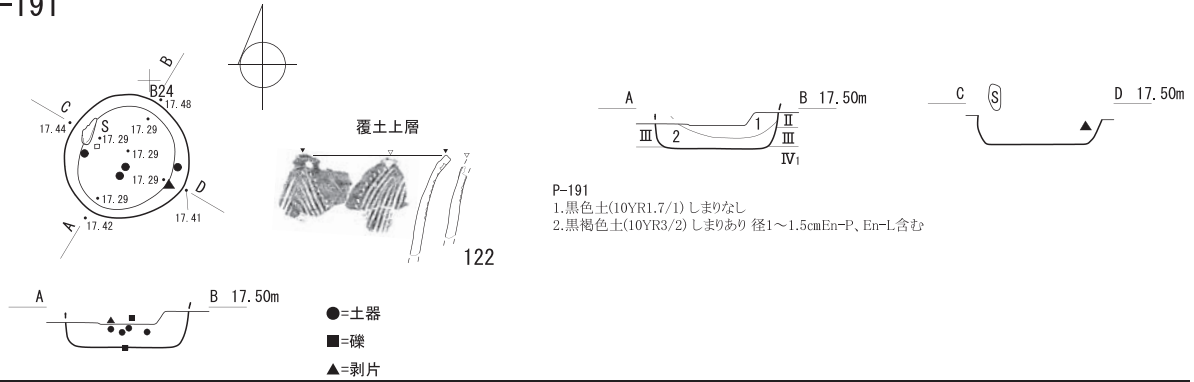
**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は黒色土のみである。坑底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はⅥ群b類土器70点、礫11点 が出土した。82は坑底・覆土中から出土した細かい破片が接合した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

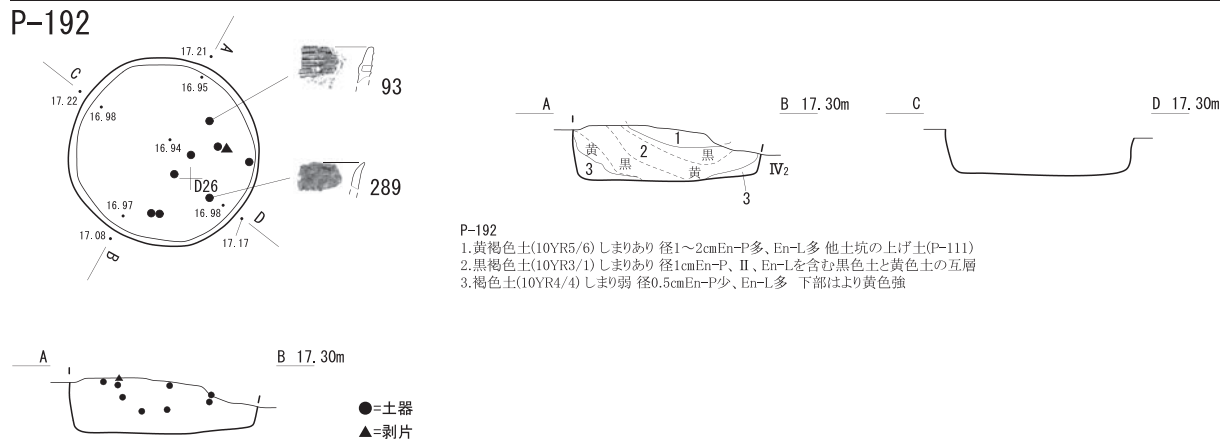
#### 土坑195 (P-195) (図Ⅲ-72、表Ⅲ-2、図版60・61)

**調査・特徴：**耕作土を除去後、Ⅳ層で複数の遺構が切り合う黒褐～褐色土の落ち込みを確認した。P

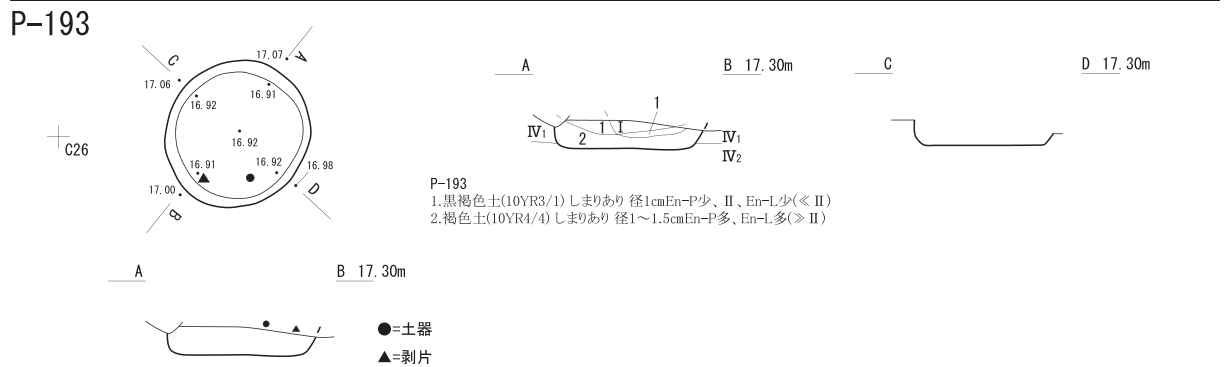
P-191



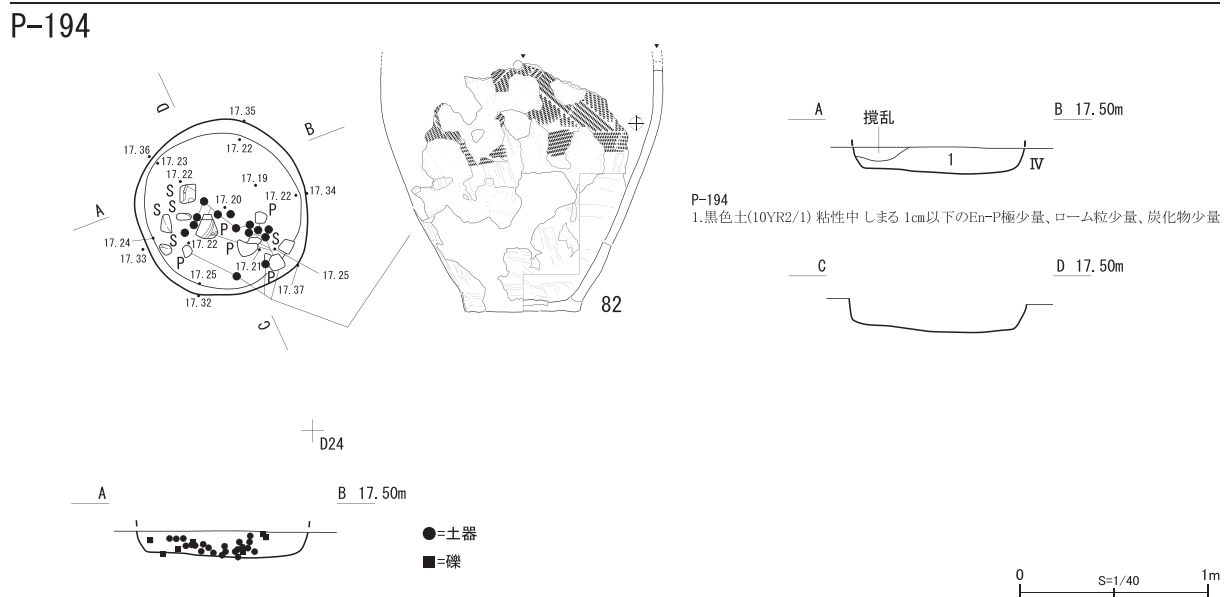
P-192



P-193



P-194



図III-71 土坑・土坑墓(61)P-191~194

ー195・196とし、それらの東側を半截し、新しいP-196の調査後、掘り下げた。坑底は浅く、覆土は黒褐色土（覆土1）のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はP-196出土破片と接合するⅥ群b類土器の底部（255）が出土した。

**時期：**P-151・152・196に切られ、それらより古い。遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑196（P-196）**（図Ⅲ-72、表Ⅲ-2、図版60・61）

**調査・特徴：**P-195で記載したとおり、P-195に先行して調査を行った。坑底は浅く、覆土は黒褐色土（覆土1）のみである。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はP-195出土破片と接合するⅥ群b類土器の底部（255）、剥片1点、小型礫3点が出土した。

**時期：**遺物P-151・157に切られ、P-195を切る。遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。（鈴木宏行）

#### **土坑197（P-197）**（図Ⅲ-72、表Ⅲ-2、図版61）

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.8mくらいの褐色～黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは角張る、壁は直線的に上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-P中に設けられる。覆土は1・2層が流れ込み、3層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。（鈴木 信）

#### **土坑198（P-198）**（図Ⅲ-72、表Ⅲ-2、図版61）

**調査・特徴：**Ⅲ層を深さ5cmを2回下げた包含層調査途中で、径0.7mくらいの黒色を呈する不整形円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、鈍い黄褐色土を最下層覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。下端平面形は不整形円形、坑底面は平坦。立ち上がりは丸みを帯びる、壁は内彎気味に外上方へたちあがる。構築面はⅢ層より上位、坑底面はEn-L中に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。（鈴木 信）

#### **土坑199（P-199）**（図Ⅲ-73、表Ⅲ-2、図版61）

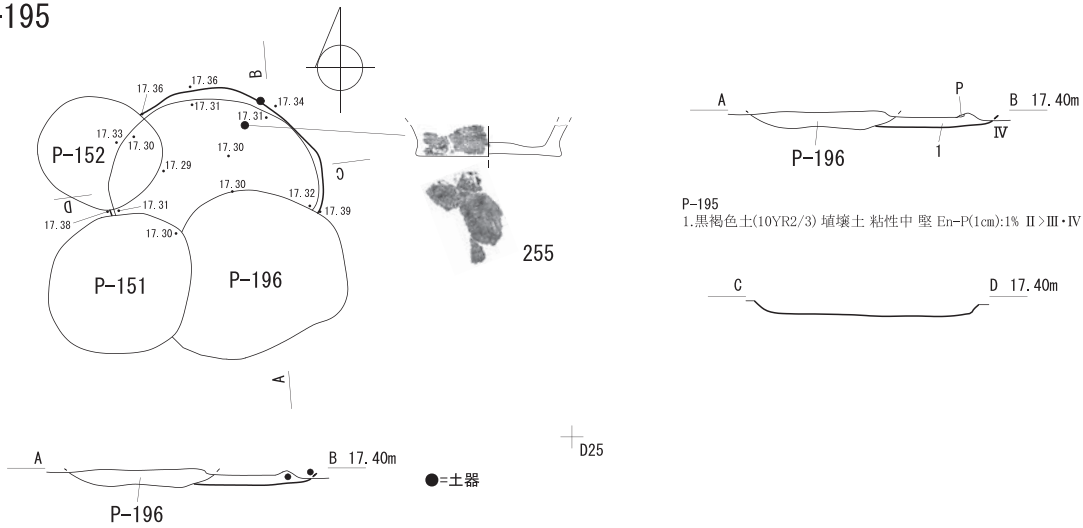
**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.2mくらいの黒褐色を呈する楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、黒褐色土を覆土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層～坑底より礫1点（重量4500～5000gの「特大」被熱砂岩垂角礫）が出土した。下端平面形は円形、坑底面は平坦。立ち上がりは丸みを帯びる、壁はに上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L中に設けられる。覆土は1層が埋め戻し土。

**時期：**位置・構造より、続縄文期の可能性がある。（鈴木 信）

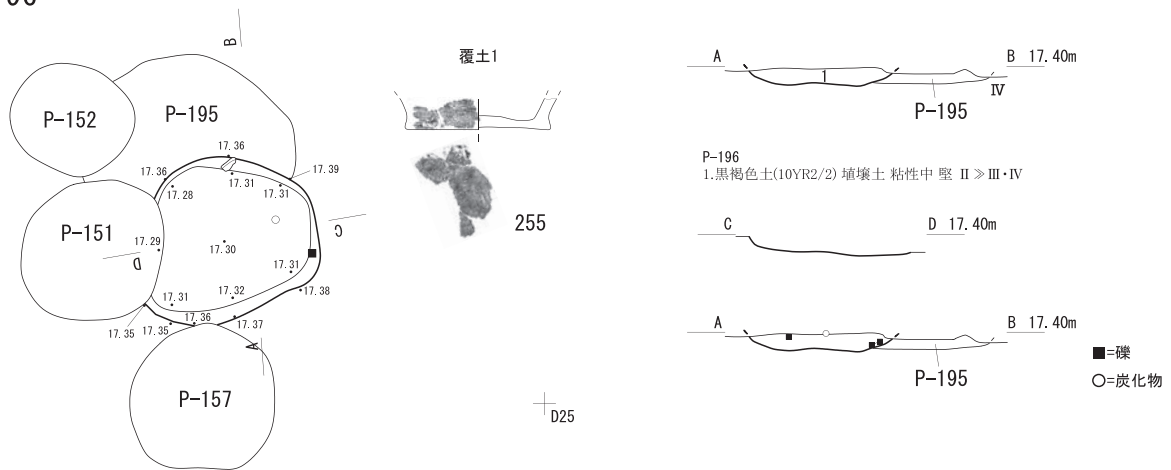
#### **土坑200（P-200）**（図Ⅲ-73、表Ⅲ-2、図版62）

**調査・特徴：**Ⅳ層上面において径0.7mくらいの褐色・黒褐色を呈する円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がり中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ、褐色土を覆土最下層とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内調査を開始した。1層より礫8点（重量「中」泥岩垂角礫1点、重量500～1000gの「小」安山岩垂角礫1点、重量500g以下の「小」被熱砂岩垂角礫2点、重量500g以下の「小」被熱安山岩垂角礫2点、重量500g以下の「小」安山岩垂角

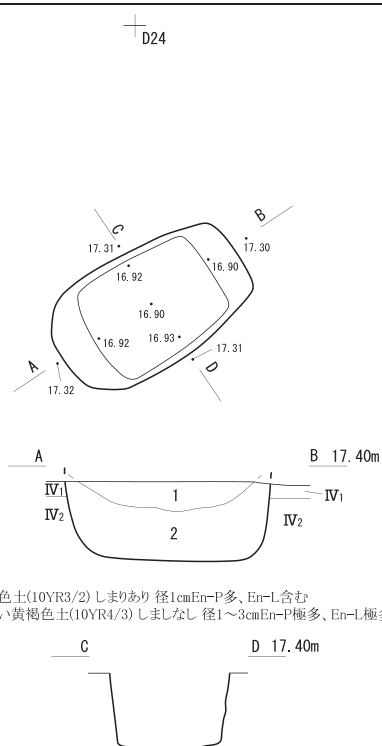
P-195



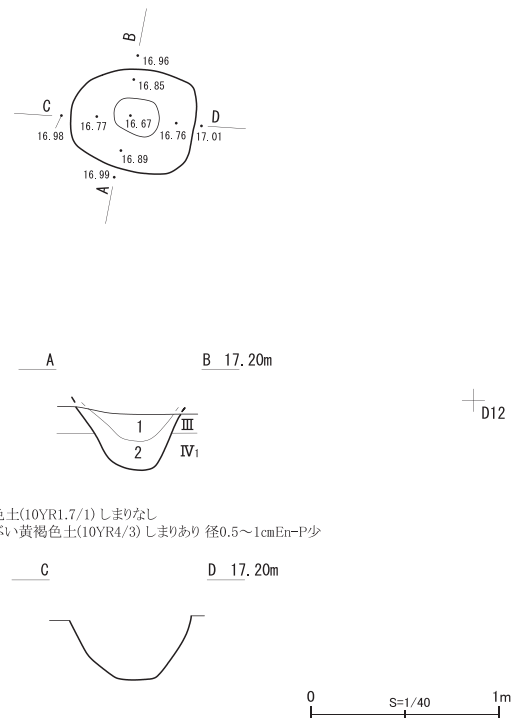
P-196



P-197

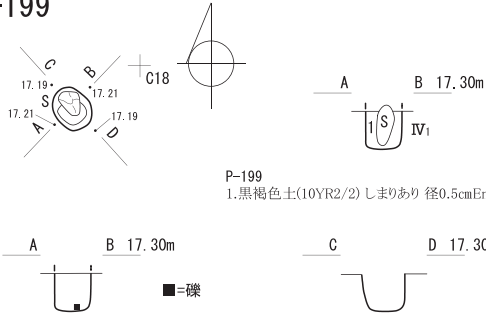


P-198



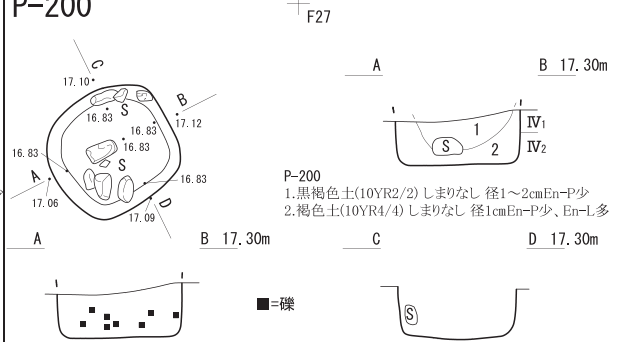
図III-72 土坑・土坑墓(62)P-195~198

P-199



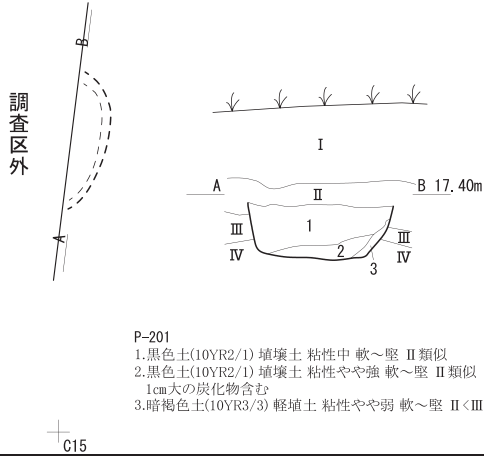
P-199  
1.黒褐色土(10YR2/2) しまりあり 径0.5cm En-P少、En-L少

P-200



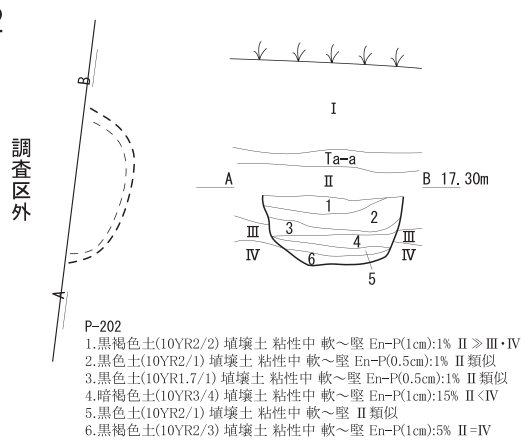
P-200  
1.黒褐色土(10YR2/2) しまりなし 径1~2cm En-P少  
2.褐色土(10YR4/4) しまりなし 径1cm En-P少、En-L多

P-201



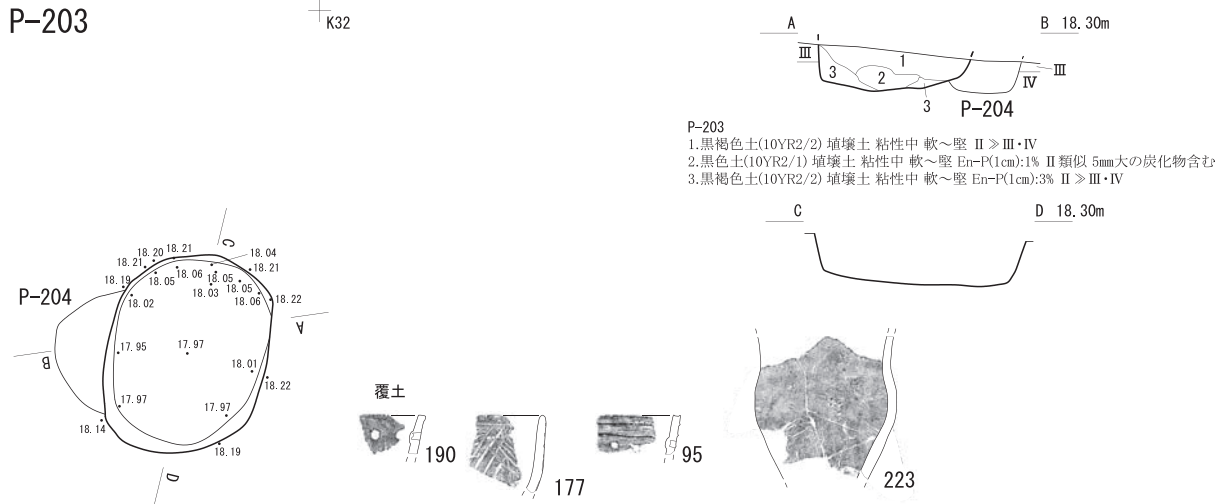
P-201  
1.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 II類似  
2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性やや強 軟~堅 II類似  
1cm大の炭化物含む  
3.暗褐色土(10YR3/3) 軽埴土 粘性やや弱 軟~堅 II<III・IV

P-202



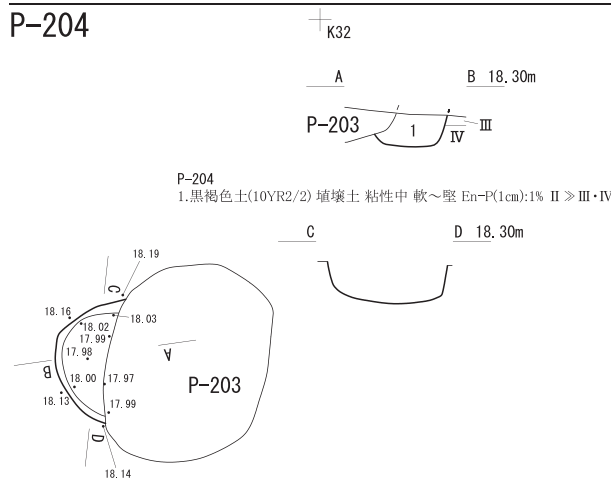
P-202  
1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II>>III・IV  
2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(0.5cm):1% II類似  
3.黒色土(10YR1.7/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(0.5cm):1% II類似  
4.暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):15% II<IV  
5.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 II類似  
6.黒褐色土(10YR2/3) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):5% II=IV

P-203



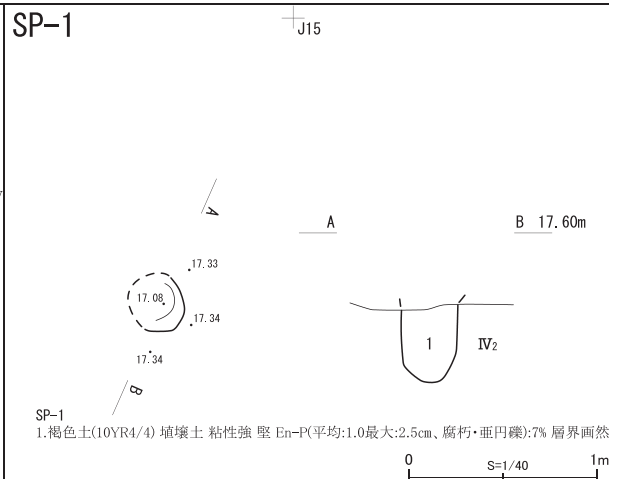
P-203  
1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中軟~堅 II>>III・IV  
2.黒色土(10YR2/1) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II類似 5mm大の炭化物含む  
3.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):3% II>>III・IV

P-204



P-204  
1.黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 粘性中軟~堅 En-P(1cm):1% II>>III・IV

SP-1



SP-1  
1.褐色土(10YR4/4) 埴壤土 粘性強 堅 En-P(平均):1.0最大:2.5cm、腐朽・亜円礫:7% 層界面然

図Ⅲ-73 土坑・土坑墓(63)P-199~204・小ピット SP-1



礫1点など)が出土した。下端平面形は隅丸方形、坑底面は平坦。立ち上がりはやや丸みを帯びる、壁は上方へたちあがる。構築面は不詳、坑底面はEn-L中に設けられる。覆土は1層が流れ込み、2層が埋め戻し土。

**時期：**構造・構造より、続縄文期の可能性がある。(鈴木 信)

#### 土坑201 (P-201) (図III-73、表III-2、図版62)

**調査・特徴：**調査終了後、西壁断面で本遺構を確認した。覆土は掘り下げ済みであるので、断面の観察のみ行った。覆土は北寄りの坑底に薄く黒色土(覆土2)が堆積し、その上部に黒色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。周辺の遺構から判断して長方形の遺構の角の部分であったと推測される。

**時期：**推定される遺構形状から擦文文化期と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑202 (P-202) (図III-73、表III-2、図版62)

**調査・特徴：**調査終了後、西壁断面で本遺構を確認した。覆土は掘り下げ済みであるので、断面の観察のみ行った。覆土は黒褐色土・暗褐色土・黒色土など6枚の覆土が薄く層状に堆積する。坑底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

**時期：**覆土の堆積状況から続縄文時代の可能性が考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑203 (P-203) (図III-73、表III-2、図版62)

**調査・特徴：**II層掘り下げ後、III層上面で2つの円形が連結する黒褐色土の落ち込みを確認した。P-203・204とし、中央にベルトを残し、調査を行った。覆土は下部に黒褐色土(覆土3)、黒色土(覆土2)が堆積し、上部に黒褐色土(覆土1)が厚く堆積する。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物はVI群b類土器が12点(95・177・190・223など)、剥片1点、小型礫10点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

#### 土坑204 (P-204) (図III-73、表III-2、図版62)

**調査・特徴：**P-203で記載したとおり、P-203の調査後に掘り下げた。覆土は黒褐色土(覆土1)のみである。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は小型礫2点が出土した。

**時期：**遺物と遺構の形状から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

## 5 小ピット

### 小ピット1 (SP-1) (図III-73、表III-2、図版12)

**調査・特徴：**遺構確認調査中、IV層で円形の土がみられた。半截し底面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。規模から柱穴と推測する。覆土は褐色土で、黒色土層の混入は少ない。平面形は円形。底面は曲線的で中央がくぼみ、壁は直立気味に立ち上がる。遺物は出土していない。

**時期：**上位の層は削平され、また、遺物も出土していないため不明であるが、本遺跡の主たる時期の続縄文時代後葉と推測する。(末光)

## 6 焼土

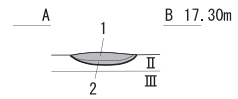
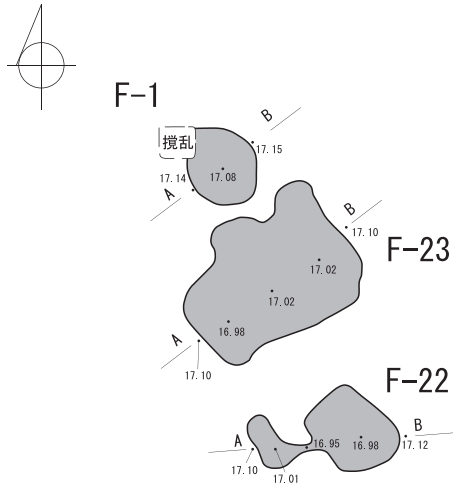
### 焼土1 (F-1) (図III-74、表III-2)

**調査・特徴：**II層上面から3cm下げ、深さ5cm下げた包含層調査を終えたところ、橙色の広がりを確認した。平面形は不整円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。

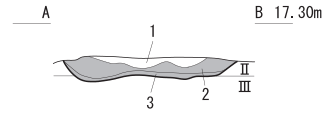
**時期：**検出層準・周囲の擦文土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

### 焼土2 (F-2) (図III-74、表III-2、図版62)

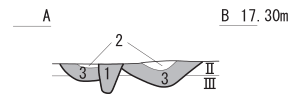
E6



F-1  
1. 橙色土(2.5YR6/8) しまりよし 炭化物多  
2. 橙色土(5YR6/6) しまりあり



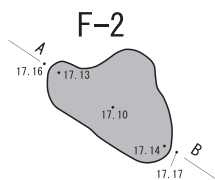
F-23  
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなし 焼土粒含む  
2. 橙色土(2.5YR6/8) しまりよし  
3. 橙色土(5YR6/6) しまりあり



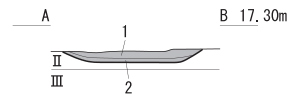
F-22  
1. 褐色土(7.5YR3/3) しまりなし 焼土粒含む  
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなし 炭化物多  
3. 橙色土(2.5YR6/8) しまりよし

E7

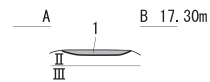
E7



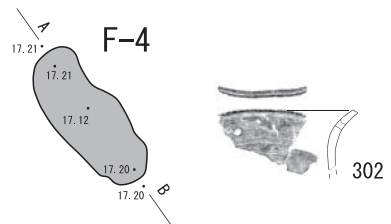
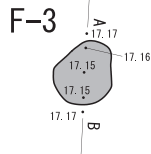
F7



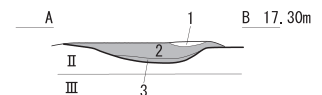
F-2  
1. 橙色土(2.5YR6/8) しまりよし 径2.5mmの炭化物多  
2. 橙色土(5YR6/6) しまりあり



F-3  
1. 橙色土(5YR6/6) しまりあり

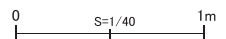


F8



F-4  
1. 黒褐色土(5YR3/1) しまりなし  
2. 橙色土(2.5YR6/8) しまりよし 径2mmの炭化物を含む  
3. 橙色土(5YR6/6) しまりあり

E8



図Ⅲ-74 焼土(1)F-1~4・22・23

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、深さ5cm下げた包含層調査を終えたところ、橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は中央がわずかに窪む皿形。被熱の強弱により2層になる。多重横走沈線の擦文甕口縁片・礫が出土した。炭化種実ブドウ属？が検出された。

**時期：**土器より、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土3 (F-3) (図Ⅲ-74、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-2とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整円形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土4 (F-4) (図Ⅲ-74、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は片端わずかに窪む半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土5 (F-5) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2、図版63)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土6 (F-6) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土7 (F-7) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器・擦文坏片・礫・有孔礫が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土8 (F-8) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、F-7とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は片端わずかに窪む半紡錘形。被熱の弱い1層。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土9 (F-9) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

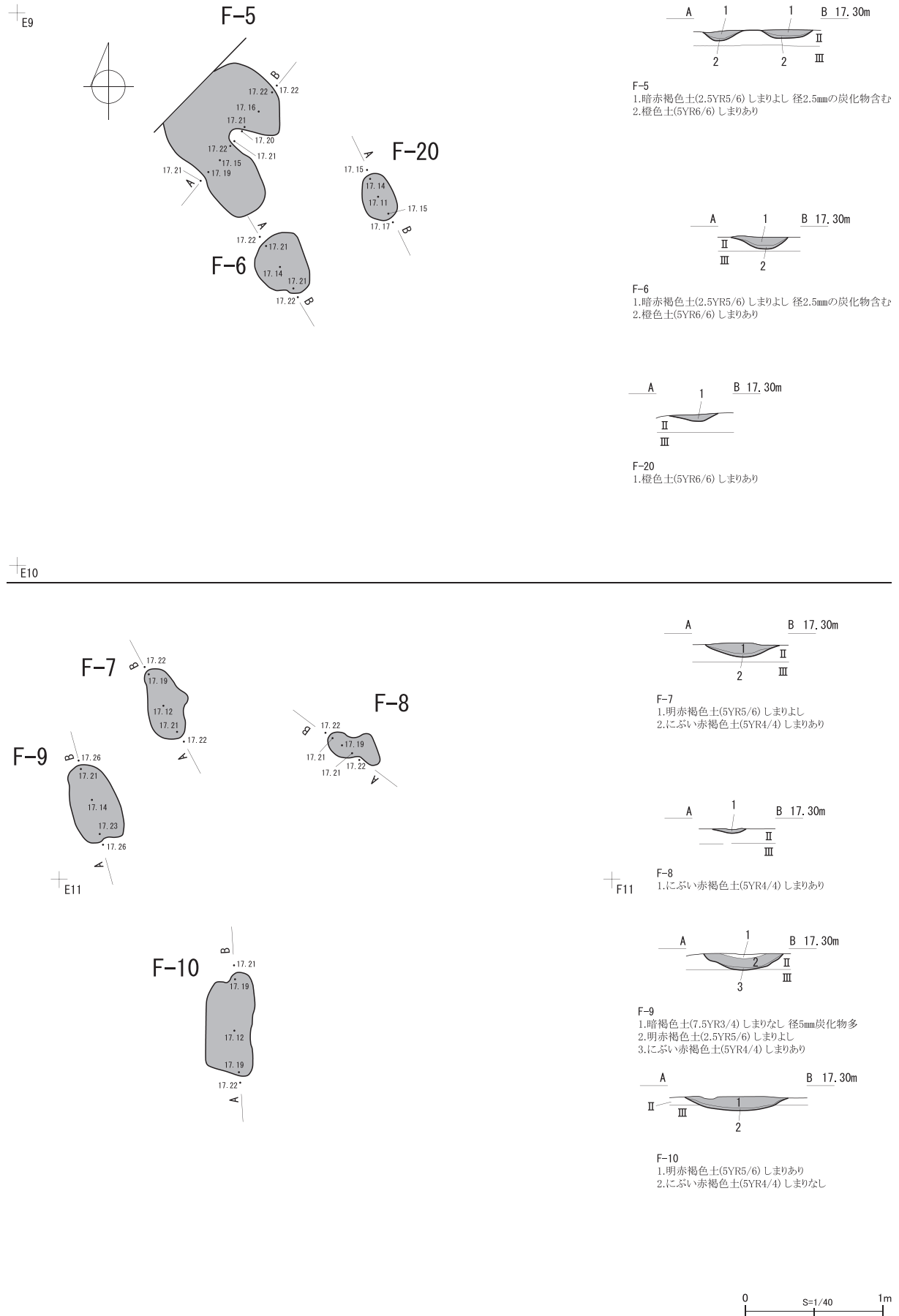
**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は中央が窪む皿形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器片・礫が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

#### 焼土10 (F-10) (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は小判形に近い、断面は半紡錘形。被熱の弱い2層。続縄文後葉土器片・擦文土器片・礫が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)



図Ⅲ-75 焼土(2)F-5~10・20

**焼土11 (F-11)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。続縄文後葉土器片・擦文土器片・礫・剥片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土12 (F-12)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面で橙色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。続縄文後葉土器片・擦文土器片・礫・剥片が出土した。炭化種実マメ類が検出された。

**時期：**検出層準から、アイヌ期と推定される。(鈴木 信)

**焼土13 (F-13)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面で橙色の広がりや灰色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形と円形、断面はともに半紡錘形。灰色の広がりや灰の集中、橙色の広がりや焼土で被熱の弱い1層。

**時期：**検出層準から、アイヌ期と推定される。(鈴木 信)

**焼土14 (F-14)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、橙色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。擦文土器片・焼成粘土塊・礫・剥片が出土した。サケ目椎骨破片・硬骨魚綱破片が少量(骨試料3)、炭化種実キハダが検出された。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土15 (F-15)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、橙色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。続縄文後葉土器片・擦文土器片・焼成粘土塊・礫・剥片が出土した。コイ科第1椎骨破片・腹椎破片・尾椎ほぼ完形、サケ科椎骨、哺乳綱不明破片など(骨試料4~7)、炭化種実オニグルミが検出された。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。炭化物からは625±15yrBP(HD-D33)の年代測定値が得られた。(鈴木 信)

**焼土16 (F-16)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。横走沈線の擦文深鉢口縁片・礫が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文前期と推定される。(鈴木 信)

**焼土17 (F-17)** (図III-76、表III-2、図版63)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。横走沈線の擦文深鉢口縁片・剥片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文前期と推定される。(鈴木 信)

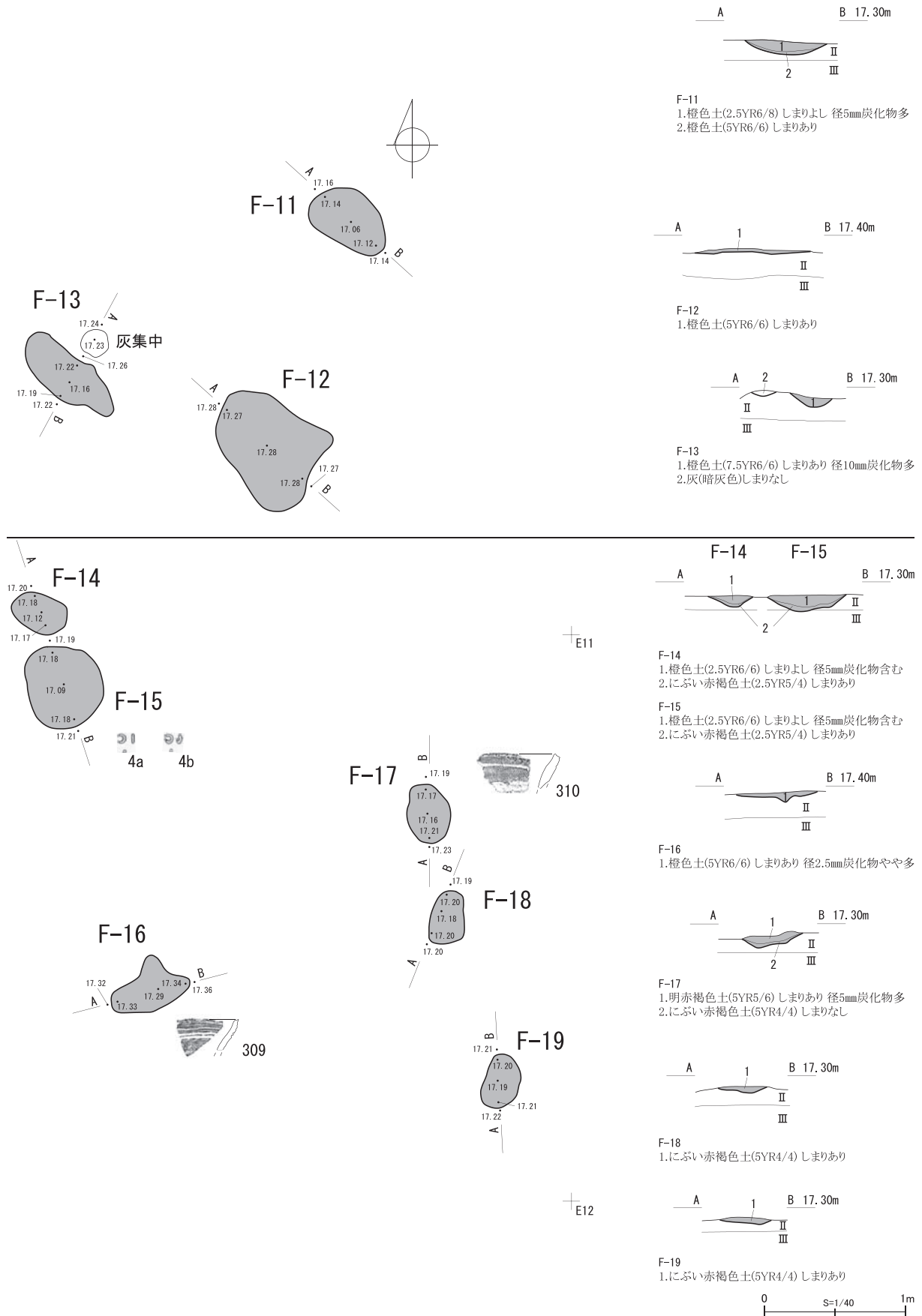
**焼土18 (F-18)** (図III-76、表III-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、鈍い赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整楕円形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。剥片が出土し、付近から擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土19 (F-19)** (図III-76、表III-2)

D10



図Ⅲ-76 焼土(3)F-11~19

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、鈍い赤褐色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。続縄文後葉土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、続縄文後葉と推定される。(鈴木 信)

**焼土20 (F-20)** (図Ⅲ-75、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-2とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土21 (F-21)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、橙色の広がりを確認した。平面形は円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。礫・剥片が出土し付近から擦文土器片が出土した。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土22 (F-22)** (図Ⅲ-74、表Ⅲ-2、図版63)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-22とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は中央部が窪んで皿形。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土23 (F-23)** (図Ⅲ-74、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-1より若干低い標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は中央部が窪んで皿形。被熱の強弱により2層になる。炭化材はコナラ属コナラ亜属コナラ節(HD-W15)と同定された。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。炭化物からは $2,195 \pm 15\text{yrBP}$  (HD-D34)の年代測定値が得られた。(鈴木 信)

**焼土24 (F-24)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅲ層上面で、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。

**時期：**検出層準から、続縄文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土25 (F-25)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅲ層上面で、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の弱い1層。続縄文後葉土器片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、続縄文後葉と推定される。(鈴木 信)

**焼土26 (F-26)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅲ層上面のF-25とほぼ同じ標高で、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。

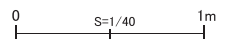
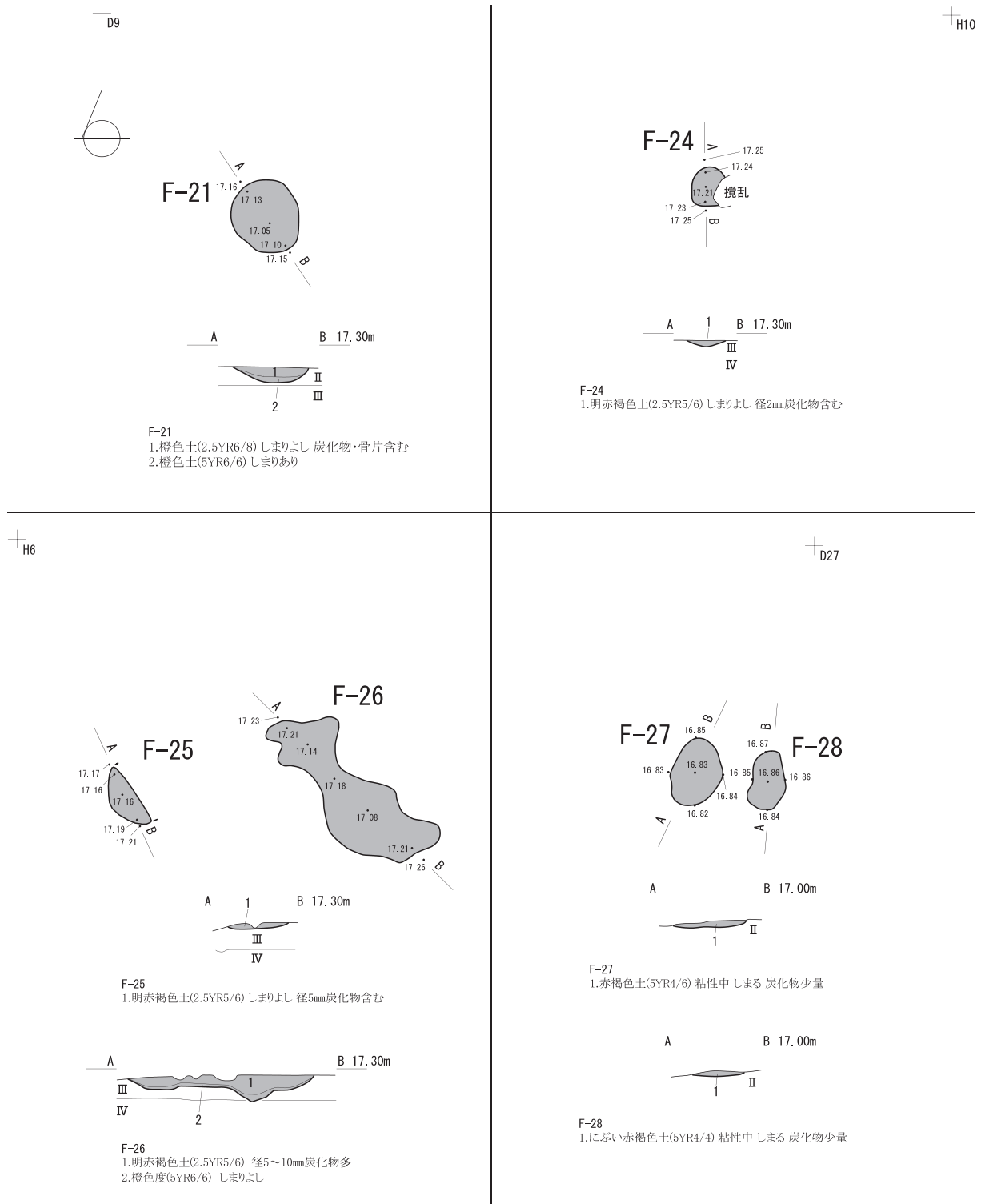
**時期：**検出層準から、続縄文期と推定される。炭化物からは $1,740 \pm 15\text{yrBP}$  (HD-D35)の年代測定値が得られた。(鈴木 信)

**焼土27 (F-27)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2、図版63)

**調査・特徴：**C27区のⅡ層中で、F-28と並んで検出した。平面形は不整形楕円形、断面は薄い。炭化物を少量含む。

**時期：**層位と周辺の遺物から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土28 (F-28)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2、図版63)



図III-77 焼土(4)F-21・24~29



**調査・特徴：**C27区のⅡ層中で、F-27と並んで検出した。平面形は不整楕円形、断面は薄い。炭化物を少量含む。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土29 (F-29)** (図Ⅲ-77、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-41~43とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は円形、断面は半紡錘形。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土30 (F-30)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅲ層上面で、橙色の広がりを確認した。平面形は小判形に近い、断面は半紡錘形。

**時期：**この遺構付近はⅡ層が薄い、検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土31 (F-31)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅲ層上面で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。

**時期：**この遺構付近はⅡ層が薄い、検出層準から、擦文期の可能性がある。(鈴木 信)

**焼土32 (F-32)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**B22区のⅡ層中で、F-33に近接した位置で検出した。平面形は楕円形、断面は薄い。哺乳綱の焼骨片が少量出土した。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土33 (F-33)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**B22区のⅡ層中で、F-32に近接した位置で検出した。平面形は不整形、断面は皿状で、骨片・炭化物が少量混じる1層と混じらない2層に分けられる。シカとみられる焼骨片が少量出土した。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土34 (F-34)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2、図版64)

**調査・特徴：**B23区のⅡ層中で、F-35と並んで検出した。平面形は不整形で、断面は中央が厚く、骨片・炭化物が少量混じる1・2層と混じらない3層に分けられる。サケ科椎骨破片、哺乳綱不明破片などが出土した(骨試料8)。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土35 (F-35)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2、図版64)

**調査・特徴：**B23区のⅡ層中で、F-34と並んで検出した。平面形は不整な長方形で、断面は中央が厚く、骨片・炭化物が多量に混じる1層と少量混じる2層に分けられる。焼骨片はシカ中節骨・種子骨を含むシカとみられるもので、炭化物の一部はオニグルミ片と同定された。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土36 (F-36)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**B19区のⅡ層中で、F-37と並んで検出した。平面形は紡錘形で、断面は皿状である。シカとみられる焼骨片が少量出土した。

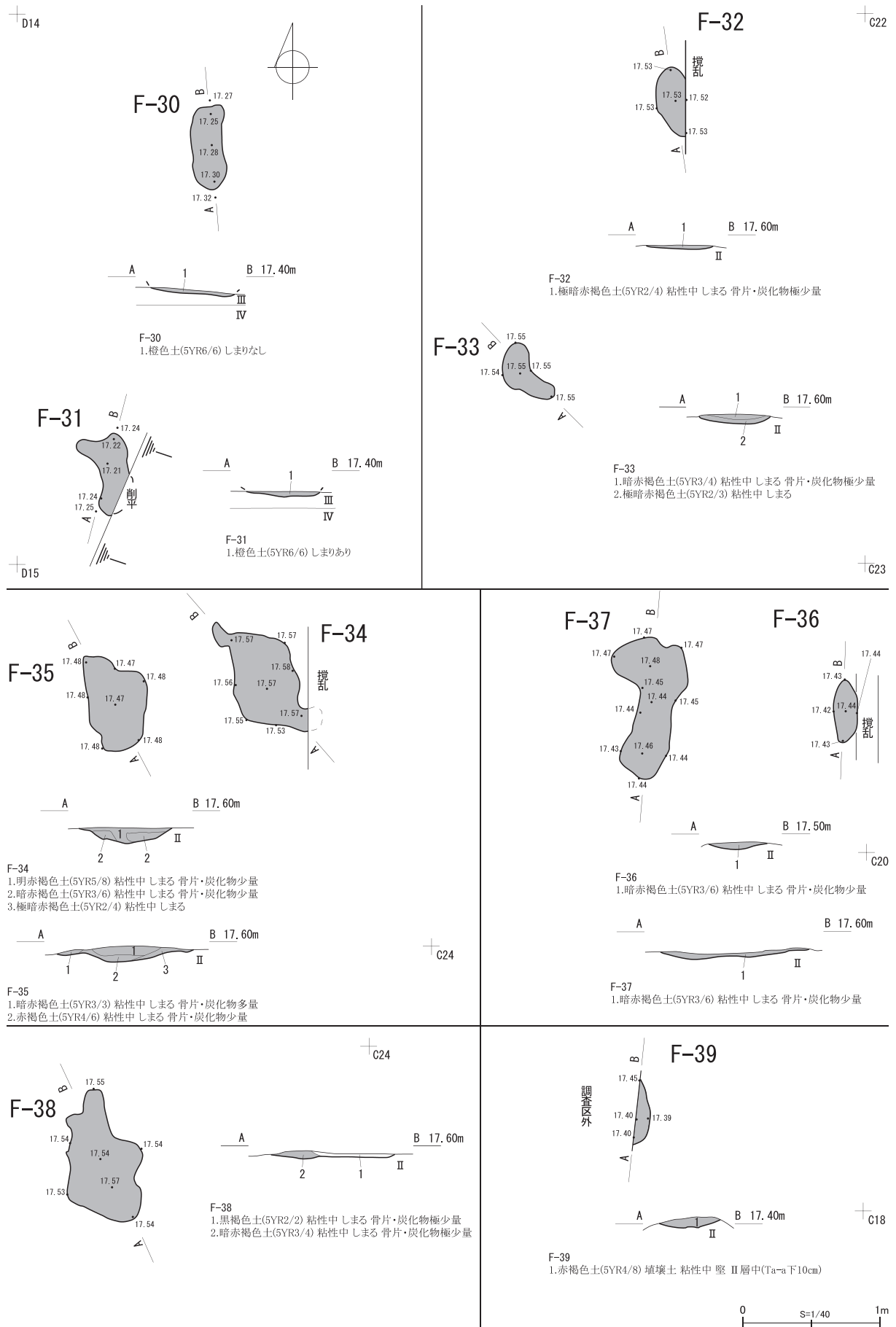
**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土37 (F-37)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**B19区のⅡ層中で、F-36と並んで検出した。平面形は細長い形状で、断面は薄い。シカとみられる焼骨片が少量出土した。

**時期：**層位と周辺の遺物から統縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土38 (F-38)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)



図Ⅲ-78 焼土(5)F-30~39

**調査・特徴：**B23区のⅡ層中で検出された。平面形は不整形で、断面は南側が厚い。シカとみられる焼骨片が少量出土した。

**時期：**層位と周辺の遺物から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土39 (F-39)** (図Ⅲ-78、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**調査区の壁際で、Ⅱ層中、Ta-aの10cm程度下位から検出された。

**時期：**層位と周辺の遺物から続縄文時代後葉と考えられる。(鈴木宏行)

**焼土40 (F-40)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**A24区のⅡ層中で、F-47と近接して検出された。平面形は不整形で、断面は皿状である。シカの種子骨を含め、シカとみられる焼骨片が少量出土した。

**時期：**層位と周辺の遺物から続縄文時代後葉と考えられる。(菊池)

**焼土41 (F-41)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-29・42・43とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土42 (F-42)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-29・41・43とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は中央部が窪んで皿形。被熱の強弱により2層になる。礫が出土した。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土43 (F-43)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2、図版64)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査を終え、F-29・41・42とほぼ同じ標高で、橙色の広がりを確認した。平面形は楕円形、断面は半紡錘形。被熱の強弱により2層になる。続縄文後葉土器片・擦文土器片・剥片が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土44 (F-44)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、赤褐色の広がりを確認した。平面形は小判形、断面は半紡錘形。続縄文後葉土器片・擦文土器片・軽石が出土した。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土45 (F-45)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、F-46とほぼ同じ標高で、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。続縄文後葉土器片・擦文土器片が出土した。サケ科椎骨破片などが出土し(骨試料9)、炭化種実ブドウ属、オニグルミが検出された。

**時期：**検出層準・出土土器から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

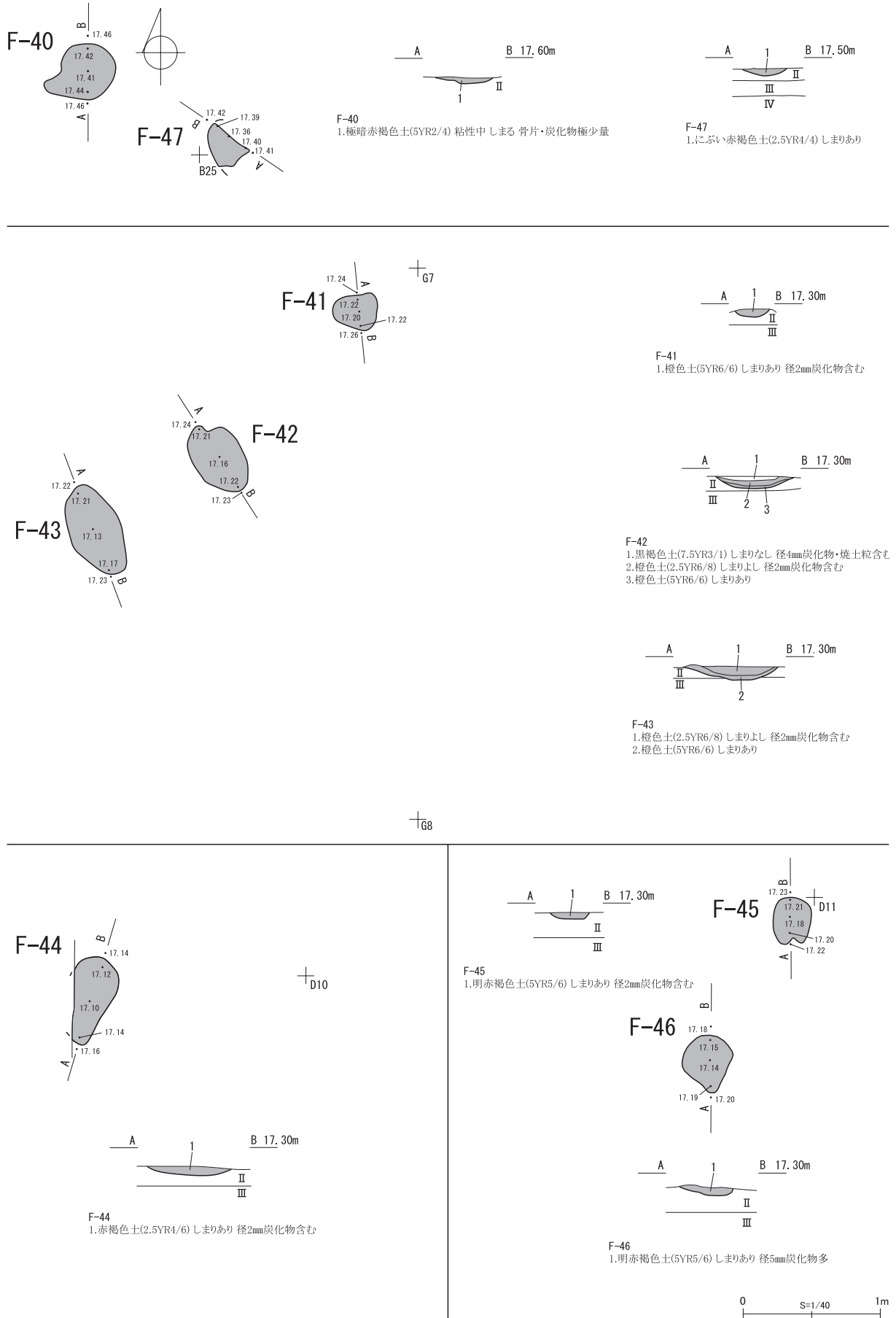
**焼土46 (F-46)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、5cm下げた包含層調査の途中、F-45とほぼ同じ標高で、明赤褐色の広がりを確認した。平面形は不整形、断面は半紡錘形。礫が出土した。

**時期：**検出層準から、擦文期と推定される。(鈴木 信)

**焼土47 (F-47)** (図Ⅲ-79、表Ⅲ-2)

**調査・特徴：**Ⅱ層上面から3cm下げ、深さ5cmを2回下げた包含層調査の途中、集石2とほぼ同じ標高で、鈍い赤褐色の広がりを確認した。平面形は不明、断面は半紡錘形。



図Ⅲ-79 焼土(6)F-40~47

時期：検出層準から、続縄文期と推定される。

(鈴木 信)

## 7 灰集中

**灰集中1 (AC-1)** (図III-80、表III-2、図版65)

調査・特徴：調査区壁際のII層中、Ta-a火山灰の3cmほど下位で検出された。周辺にシカとみられる焼骨片が少量出土した。

時期：検出層位から擦文文化期の可能性がある。

(鈴木宏行)

**灰集中2 (AC-2)** (図III-80、表III-2、図版65)

調査・特徴：B19区のII層中、P-76の上位で検出された。

時期：検出層位から擦文文化期の可能性がある。

(鈴木宏行)

## 8 土器集中

**土器集中1 (PC-1)** (図III-80、表III-2、図版64)

調査・特徴：包含層調査中、黒色土層で土器破片のまとまりがみられ、記録して取り上げた。出土した場所をトレンチ調査したが、下位に遺構はみられなかった。擦文土器(361)、土製品(300)が出土した。

時期：出土遺物から続縄文時代後葉および擦文文化期である。

(末光)

**土器集中2 (PC-2)** (図III-80、表III-2、図版65)

調査・特徴：23年度の包含層調査中、黒色土層で土器破片のまとまりがみられ、記録して取り上げた。北大II式土器(135)が出土した。

時期：出土遺物から、続縄文時代後葉である。

(末光)

**土器集中3 (PC-3)** (図III-80、表III-2、図版64)

調査・特徴：包含層調査中、黒色土層で土器破片のまとまりがみられ、記録して取り上げた。平成24年度の調査で、西側の下位にP-128を確認し、坑口部の土器集中と判断する。擦文土器(307)が出土した。

時期：出土遺物とP-128の時期から、擦文文化期である。

(末光)

## 9 集石

**集石1 (SC-1)** (図III-80、表III-2)

調査・特徴：H-3の南側で検出された。小型礫24点が出土し、II層上部での検出であり、H-3に関連するものと考えられる。

時期：周辺の遺構などから擦文文化期と考えられる。

(鈴木宏行)

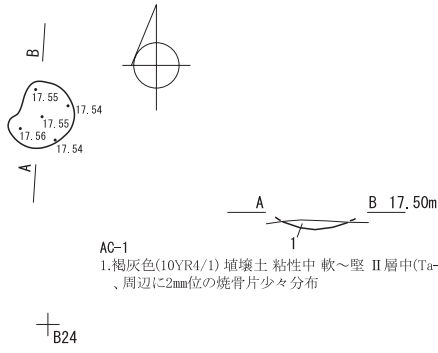
**集石2 (SC-2)** (図III-80、表III-2)

調査・特徴：II層上面から3cm下げ、深さ5cmを2回下げた包含層調査の途中、F-47とほぼ同じ標高で検出した。Section point A付近の礫以外は水平に置かれていた。砂岩亜円礫3個・チャート亜円礫1個・被熱安山岩亜角礫1個。上屋墓の屋根土上面におかれる礫か。

時期：検出層準から、続縄文期と推定される。

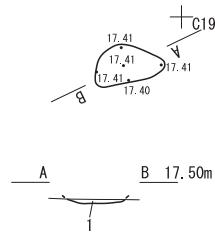
(鈴木 信)

AC-1



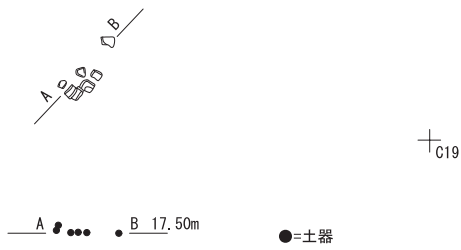
AC-1  
1. 褐灰色(10YR4/1) 埴壤土 粘性中 軟～堅 II層中(Ta-aの3cm下位)、  
周辺に2mm位の焼骨片少々分布

AC-2

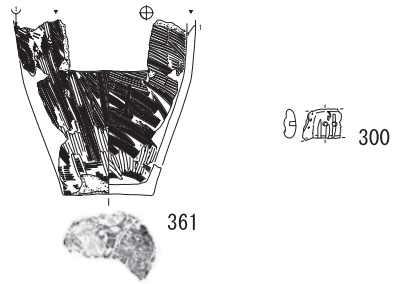


AC-2  
1. オリーブ褐色(2.5YR4/6) 軽埴土 粘性やや弱 堅 II層中、P-76覆土上部、炭化物少々

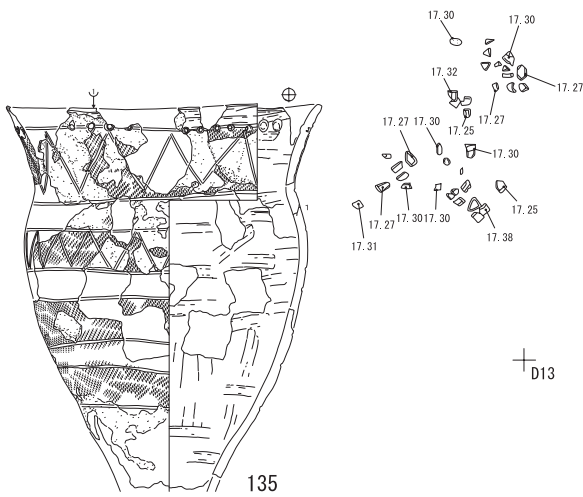
PC-1



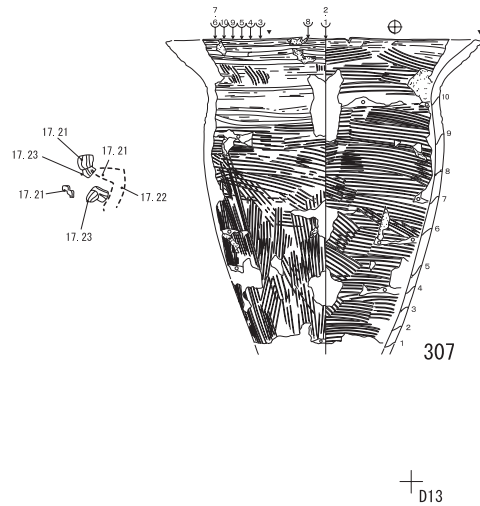
●=土器



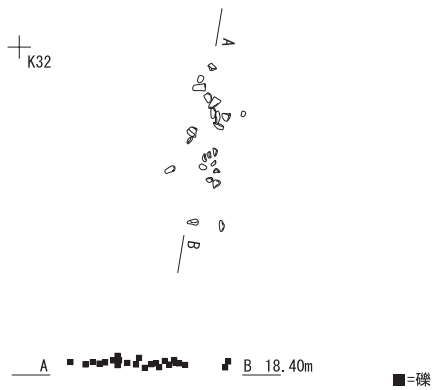
PC-2



PC-3

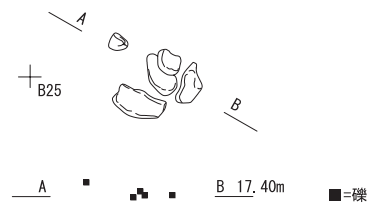


SC-1

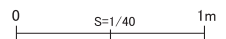


■=礫

SC-2



■=礫



図Ⅲ-80 灰集中AC-1・2、土器集中PC-1～3、集石SC-1・2

表III-1 遺構一覽

遺構名	位置(発掘区)	検出層位	構築面	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考 (旧<新)
					長軸	短軸	長軸	短軸				
H-1	G19、H18・19	IV層中	—	隅丸方形	2.34	2.04	2.16	1.88	0.13	N-15° -W	擦文	
H-2	K9、L9	IV層中	—	隅丸方形	2.24	2.18	2.17	2.10	0.15	N-0.4° -E	擦文	
H-3	J31、K30~32	II層中	II層中	方形	(4.13)	—	4.07	—	0.44	N-12° -W	擦文前期	
H-4	I6、J6	III層上面	—	隅丸方形	2.49	2.33	2.31	2.12	0.24	N-21° -W	擦文	
B-1	E10・11、F10・11	III層上面	—	方形	3.08	3.02	—	—	—	N-11° -W	擦文	
B-2	C12、D12	III層上面	—	長方形	3.10	2.22	—	—	—	N-2° -E	擦文	
P-1	L14	IV層中	—	楕円形	0.77	0.50	0.57	0.40	0.10	N-64° -W	続縄文後葉?	
P-2	L14、M14	IV層中	—	楕円形	0.64	0.42	0.47	0.32	0.08	N-50° -E	続縄文後葉?	
P-3	J18	IV層中	—	楕円形	0.80	0.54	0.63	0.42	0.15	N-77° -E	続縄文後葉?	
P-4	J19	IV層中	—	円形	0.85	0.70	0.73	0.58	0.16	—	続縄文後葉	
P-5	J20・21	IV層中	—	長方形	2.20	1.16	2.02	1.05	0.12	N-0.8° -W	擦文	
P-6	L25	IV層中	—	円形	0.72	0.70	0.60	0.55	0.25	—	続縄文後葉	
P-7	K25	IV層中	—	円形	0.81	0.81	0.65	0.61	0.27	—	続縄文後葉	
P-8	J26、K26	IV層中	—	円形	0.78	0.73	0.74	0.70	0.09	—	続縄文後葉	
P-9	J25	IV層中	—	円形	0.90	0.86	0.73	0.66	0.74	—	続縄文後葉	
P-10	J20、K20	IV層中	—	円形	0.41	0.37	0.33	0.31	0.10	—	続縄文後葉	
P-11	J20・21	IV層中	—	長方形	1.83	1.13	1.65	0.96	0.18	N-12° -W	擦文	
P-12	C18	III層上面	—	円形2基	1.01	0.68	0.83	0.54	0.18	N-67° -W	続縄文後葉	
P-13	I27・28	IV層中	—	円形	0.83	0.77	0.79	0.65	0.09	—	続縄文後葉	
P-14	K20	IV層中	—	楕円形	0.72	0.49	0.48	0.34	0.18	N-33° -W	続縄文後葉	
P-15	I24、J24	IV層中	—	円形	0.71	0.69	0.60	0.59	0.32	—	続縄文後葉	
P-16	I24、J24	IV層中	—	円形	0.78	0.71	0.64	0.57	0.31	—	続縄文後葉	
P-17	J30・31	IV層中	—	円形	0.62	0.57	0.41	0.40	0.06	—	続縄文後葉	
P-18	H30	IV層中	—	円形	0.85	0.84	0.70	0.68	0.44	—	続縄文後葉	
P-19	I31	IV層中	—	円形	0.80	0.78	0.72	0.66	0.40	—	続縄文後葉	
P-20	H24・I24	IV層中	—	円形	0.77	0.76	0.63	0.62	0.11	—	続縄文後葉	
P-21	H24	IV層中	—	円形	0.97	0.90	0.79	0.71	0.27	—	続縄文後葉	
P-22	H25・26	IV層中	—	円形	1.04	1.03	0.86	0.85	0.16	—	続縄文後葉	
P-23	H25・26	IV層中	—	円形	0.95	0.92	0.82	0.78	0.20	—	続縄文後葉	
P-24	G25・26	IV層中	—	円形	0.87	0.84	0.78	0.71	0.17	—	続縄文後葉	
P-25	G25	IV層中	—	円形	0.82	0.81	0.74	0.71	0.22	—	続縄文後葉	
P-26	G25、H25	IV層中	—	円形	0.81	0.80	0.71	0.70	0.18	—	続縄文後葉	
P-27	H25	IV層中	—	円形	0.94	0.87	0.80	0.78	0.18	—	続縄文後葉	
P-28	F25・26	IV層中	—	円形	1.07	1.02	0.81	0.78	0.18	—	続縄文後葉	
P-29	E26	IV層中	—	楕円形	0.94	0.66	0.90	0.63	0.06	N-65° -W	続縄文後葉	
P-30	F28	III層上面	—	円形	0.91	0.86	0.75	0.74	0.36	—	続縄文後葉	
P-31	H24	IV層中	—	小判形	1.62	1.35	1.30	1.06	0.30	N-3° -W	続縄文後葉	
P-32	G26	IV層中	—	円形	0.76	0.74	0.60	0.55	0.18	—	続縄文後葉	
P-33	H25	IV層中	—	円形	1.03	0.98	0.94	0.88	0.16	—	続縄文後葉	
P-34	H22・23	IV層中	—	円形	0.98	0.97	0.68	0.57	0.43	—	続縄文後葉	
P-35	G23	IV層中	—	円形	0.94	0.91	0.83	0.79	0.22	—	続縄文後葉	
P-36	F23	IV層中	—	円形	0.63	0.61	0.42	0.44	0.15	—	続縄文後葉	
P-37	H23・24	IV層中	—	円形	1.06	1.05	1.03	0.99	0.30	—	続縄文後葉	
P-38	G23、H23	IV層中	—	円形	0.87	0.85	0.70	0.66	0.51	—	続縄文後葉	>P-41
P-39	G22	IV層中	—	円形	1.27	1.11	0.90	0.84	0.55	—	続縄文後葉	
P-40	G20、H20	IV層中	—	円形	1.06	0.99	0.83	0.82	0.31	—	続縄文後葉	
P-41	G23、H23	IV層中	—	円形	0.86	—	0.77	—	0.24	—	続縄文後葉	<P-38
P-42	G25、H25	IV層中	—	円形	0.87	0.83	0.69	0.66	0.33	—	続縄文後葉	
P-43	F22	IV層中	—	円形	0.73	0.72	0.65	0.63	0.07	—	続縄文後葉	
P-44	C15	III層上面	—	円形	0.62	0.61	0.48	0.47	0.09	—	続縄文後葉	
P-45	E22	IV層中	—	円形	0.89	0.86	0.73	0.70	0.18	—	続縄文後葉	
P-46	D25	IV層中	—	円形	0.93	0.92	0.81	0.78	0.37	—	続縄文後葉	
P-47	E25	IV層中	—	円形	0.89	0.80	0.69	0.68	0.40	—	続縄文後葉	
P-48	D24・25、E24・25	IV層中	—	楕円形	(1.04)	0.88	(0.99)	0.80	0.07	N-65° -E	続縄文後葉	
P-49	E21	IV層中	—	円形	1.07	1.04	0.92	0.84	0.15	—	続縄文後葉	
P-50	D20	IV層中	—	円形	0.95	0.91	0.85	0.83	0.25	—	続縄文後葉	
P-51	D19	IV層中	—	円形	0.93	0.91	0.83	0.79	0.27	—	続縄文後葉	
P-52	D23	IV層中	—	楕円形	1.13	0.91	1.02	0.80	0.26	N-44° -E	続縄文後葉	
P-53	E25	IV層中	—	円形	0.86	0.84	0.70	0.66	0.25	—	続縄文後葉	
P-54	D23・24	IV層中	—	円形	0.94	0.89	0.79	0.76	0.25	—	続縄文後葉	
P-55	D21	IV層中	—	円形	0.83	0.83	0.78	0.76	0.08	—	続縄文後葉	
P-56	G18	IV層中	—	円形	0.85	0.82	0.77	0.74	0.18	—	続縄文後葉	
P-57	G16・17	IV層中	—	円形	0.85	0.81	0.73	0.71	0.18	—	続縄文後葉	
P-58	F16	IV層中	—	長方形	1.59	0.97	1.39	0.79	0.10	N-15° -E	擦文	
P-59	E17	IV層中	—	円形	0.75	0.70	0.63	0.61	0.12	—	続縄文後葉	
P-60	D17	IV層中	—	円形	0.86	0.81	0.69	0.67	0.20	—	続縄文後葉	
P-61	D16・17	IV層中	—	円形	0.70	0.69	0.60	0.58	0.14	—	続縄文後葉	
P-62	F14	IV層中	—	隅丸方形	1.60	1.42	1.46	1.30	0.14	N-80° -E	擦文	

長沼町 幌内D遺跡

遺構名	位置(発掘区)	検出層位	構築面	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考 (旧<新)
					長軸	短軸	長軸	短軸				
P-63	D19	IV層中	—	円形	0.96	0.88	0.76	0.70	0.36	—	続縄文後葉	
P-64	E13、F13	IV層中	—	円形	0.94	0.87	0.78	0.78	0.24	—	続縄文後葉	
P-65	E13・14	IV層中	—	円形	0.89	0.84	0.80	0.79	0.23	—	続縄文後葉	
P-66	C22	IV層中	—	円形	1.00	0.96	0.98	0.93	0.19	—	続縄文後葉	
P-67	D17	IV層中	—	円形	0.74	0.66	0.64	0.59	0.11	—	続縄文後葉	
P-68	B15、C15	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	長方形?	—	1.18	—	0.96	0.25	N-66° -W	擦文	
P-69	C17・18	Ⅲ層上面	—	円形	0.88	0.86	0.78	0.75	0.35	—	続縄文後葉	
P-70	B18、C18	Ⅲ層上面	—	円形	0.99	0.96	0.87	0.85	0.20	—	続縄文後葉	
P-71	C18・19	Ⅲ層中	—	円形	0.85	0.78	0.55	0.45	0.20	—	続縄文後葉	
P-72	C14	IV層中	—	長方形	1.84	0.92	1.75	0.87	0.09	N-65° -W	擦文	
P-73	C14・15	Ⅲ層上面	—	長方形	1.72	1.10	1.57	0.99	0.30	N-49° -W	擦文	
P-74	B15・16	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	長方形?	—	(1.12)	—	(0.94)	0.33	N-84° -W	擦文	
P-75	B17・18	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	隅丸方形?	1.67	—	1.34	—	0.30	N-7° -W	擦文?	
P-76	B18・19、C18・19	Ⅱ層中	—	長方形	(1.07)	0.83	(0.87)	0.72	0.16	N-68° -E	続縄文後葉	<P-79
P-77	C16	IV層中	—	円形	0.48	0.48	0.27	0.26	0.21	—	続縄文後葉	
P-78	D23	IV層中	—	円形	0.78	0.76	0.72	0.69	0.22	—	続縄文後葉	
P-79	B18・19、C18・19	IV層中	—	円形	1.06	1.00	0.93	0.90	0.21	—	続縄文後葉	
P-80	C19・20	IV層中	—	円形	0.78	0.76	0.70	0.67	0.23	—	続縄文後葉	
P-81	D24・25	IV層中	—	円形	(0.82)	(0.69)	0.68	0.65	0.08	—	続縄文後葉	
P-82	C19	IV層中	—	楕円形	0.70	0.55	0.58	0.40	0.05	N-3° -E	続縄文後葉	
P-83	C19	IV層中	—	円形	1.07	1.03	0.91	0.89	0.25	—	続縄文後葉	
P-84	C22、D22	IV層中	—	円形	0.91	0.86	0.87	0.81	0.17	—	続縄文後葉	
P-85	B20	Ⅲ層上面	—	円形	0.93	0.89	0.75	0.74	0.37	—	続縄文後葉	
P-86	B19	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	(長)方形?	—	—	—	—	0.30	N-38° -W	擦文	
P-87	C20	Ⅲ層中	—	円形	0.98	0.90	0.82	0.74	0.42	—	続縄文後葉	
P-88	C20	IV層上面	—	円形	0.88	0.84	0.83	0.79	0.30	—	続縄文後葉	
P-89	C20	IV層上面	—	円形	1.00	0.88	0.78	0.77	0.41	—	続縄文後葉	
P-90	D27	Ⅲ層上面	—	円形	1.02	0.99	0.94	0.88	0.44	—	続縄文後葉	
P-91	E28	Ⅱ層中	—	円形	0.78	0.77	0.69	0.63	0.51	—	続縄文後葉	
P-92	C26	IV層中	—	円形	1.08	1.08	1.00	1.01	0.26	—	続縄文後葉	
P-93	C24	IV層中	—	円形	1.02	1.01	0.97	0.97	0.17	—	続縄文後葉	
P-94	C19・20	Ⅲ層上面	—	円形	0.78	0.78	0.68	0.67	0.09	—	続縄文後葉	
P-95	C20	Ⅲ層上面	—	円形	0.90	0.84	0.83	0.76	0.20	—	続縄文後葉	
P-96	E10・11、F10・11	IV層上面	—	長方形	1.62	0.88	1.47	0.79	0.10	N-76° -W	擦文	
P-97	C21	IV層中	—	円形	0.83	0.83	0.77	0.76	0.14	—	続縄文後葉	
P-98	E11、F11	IV層上面	—	長方形	1.40	1.04	1.27	0.91	0.27	N-36° -E	擦文	
P-99	F11・12	IV層上面	—	長方形	1.57	1.08	1.24	0.90	0.29	N-64° -E	擦文前期	
P-100	B21	Ⅲ層上面	—	円形	0.90	—	0.84	—	0.17	—	続縄文後葉	<P-118
P-101	B21	Ⅲ層上面	—	円形	0.69	0.65	0.63	0.59	0.09	—	続縄文後葉	
P-102	G11	IV層中	—	長方形	1.21	0.87	1.07	0.76	0.12	N-16° -W	擦文	
P-103	B19、C19	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	0.74	0.68	0.65	0.18	—	続縄文後葉	>P-104
P-104	B19	Ⅲ層上面	—	円形	(0.69)	(0.63)	(0.52)	(0.48)	0.21	—	続縄文後葉	<P-103
P-105	B20、C20	Ⅲ層上面	—	円形	0.93	0.89	0.83	0.77	0.28	—	続縄文後葉	
P-106	B21	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	1.11	—	0.85	—	0.56	—	続縄文後葉	
P-107	H10、I10	IV層中	—	長方形	1.66	0.99	1.55	0.92	0.15	N-26° -W	擦文	
P-108	C13、D13	Ⅲ層上面	—	円形	0.54	0.50	0.34	0.33	0.24	—	続縄文後葉	
P-109	B21、C21	IV層上面	—	円形	0.83	0.82	0.78	0.75	0.15	—	続縄文後葉	
P-110	C26・27、D26・27	Ⅲ層上面	—	小判形	1.50	0.99	1.40	0.88	0.22	N-37° -W	続縄文後葉	
P-111	C26	IV層中	—	小判形	1.44	0.90	1.32	0.81	0.25	N-7° -E	続縄文後葉	
P-112	B26、C26	Ⅲ層中	—	小判形	1.15	0.86	1.04	0.73	0.34	N-0.7° -E	続縄文後葉	
P-113	B21	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	0.76	0.78	0.67	0.15	—	続縄文後葉	
P-114	B22	Ⅱ層中	—	円形	(0.84)	(0.72)	0.67	0.61	0.24	—	続縄文後葉	
P-115	B22	Ⅲ層上面	—	円形	0.98	0.81	0.81	0.72	0.26	—	続縄文後葉	
P-116	C12・13、D12・13	Ⅲ層上面	—	長方形	1.41	1.02	1.25	0.88	0.27	N-47° -E	擦文	>P-137
P-117	J8・9	IV層中	—	長方形	1.79	1.08	1.66	0.96	0.40	N-43° -E	擦文	
P-118	B21	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	0.92	—	0.70	—	0.42	—	続縄文後葉	>P-100
P-119	B22	IV層上面	—	円形	0.71	0.68	0.60	0.59	0.06	—	続縄文後葉	
P-120	B21・22	IV層上面	—	円形	0.77	0.62	0.64	0.55	0.06	—	続縄文後葉	
P-121	C13	Ⅲ層上面	—	円形	0.52	0.48	0.29	0.29	0.18	—	続縄文後葉	
P-122	I9	IV層中	—	長方形	1.65	1.24	1.52	1.08	0.18	N-59° -E	擦文	
P-123	B23	IV層中	—	円形	0.58	0.57	0.54	0.49	0.11	—	続縄文後葉	
P-124	C21・22	Ⅲ層上面	—	円形	0.91	0.89	0.73	0.71	0.24	—	続縄文後葉	
P-125	B22・23	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	0.81	0.81	0.77	0.20	—	続縄文後葉	
P-126	J9	IV層中	—	長方形	0.78	0.64	0.58	0.48	0.13	N-48° -E	擦文	
P-127	J9	IV層中	—	長方形	1.72	0.91	1.59	0.80	0.23	N-15° -W	擦文	
P-128	C12・13	Ⅱ層中	Ⅱ層中	長方形	2.49	1.17	2.32	1.00	0.35	N-26° -W	擦文前期	
P-129	C25	IV層上面	—	円形	0.85	0.82	0.76	0.75	0.14	—	続縄文後葉	



遺構名	位置(発掘区)	検出層位	構築面	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考 (旧<新)
					長軸	短軸	長軸	短軸				
P-130	C26	Ⅳ層上面	—	円形	0.77	0.75	0.75	0.74	0.12	—	続縄文後葉	>P-131
P-131	C26	Ⅳ層上面	—	円形	(1.04)	0.96	(0.90)	0.89	0.25	—	続縄文後葉	<P-130
P-132	B21	Ⅲ層上面	—	円形	(0.92)	0.85	0.73	0.69	0.32	—	続縄文後葉	<P-133
P-133	B21	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	0.77	0.71	0.70	0.23	—	続縄文後葉	>P-132
P-134	H7	Ⅲ層上面	—	長方形	1.21	(0.80)	0.87	0.49	0.24	N-49° -W	擦文前期	
P-135	C23	Ⅲ層中	—	円形	0.88	0.76	0.83	0.74	0.24	—	続縄文後葉	
P-136	B20	Ⅲ層上面	—	円形	0.95	0.94	0.83	0.82	0.21	—	続縄文後葉	
P-137	D12・13	Ⅲ層上面	—	長方形	1.00	0.82	0.73	0.54	0.27	N-69° -E	続縄文後葉	<P-116
P-138	C24	Ⅳ層中	—	円形	0.69	0.69	0.65	0.63	0.03	—	続縄文後葉	
P-139	A23、B23	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	0.80	—	0.70	—	0.29	—	続縄文後葉	
P-140	B22・23、C22・23	Ⅲ層上面	—	円形	0.71	0.69	0.62	0.60	0.28	—	続縄文後葉	>P-143
P-141	B22、C22	Ⅲ層上面	—	方形	1.30	1.14	1.18	0.99	0.18	N-34° -W	続縄文後葉	>P-143
P-142	C22	Ⅲ層上面	—	円形	0.94	0.93	0.86	0.85	0.12	—	続縄文後葉	>P-143
P-143	B22、C22	Ⅲ層上面	—	方形	(1.72)	(1.43)	(1.57)	(1.34)	0.13	N-63° -W	続縄文後葉	<P-140・141・142
P-144	B21、C21	Ⅲ層上面	—	円形	1.28	1.11	1.21	1.07	0.35	—	続縄文後葉	
P-145	C22	Ⅳ層中	—	円形	1.01	1.00	0.93	0.91	0.19	—	続縄文後葉	
P-146	E23	Ⅳ層中	—	円形	0.85	0.73	0.77	0.61	0.18	—	続縄文後葉	
P-147	B26	Ⅳ層上面	—	円形	—	0.78	—	0.72	0.29	—	続縄文後葉	<P-165
P-148	E23	Ⅳ層中	—	円形	0.79	0.73	0.75	0.71	0.09	—	続縄文後葉	
P-149	D21	Ⅳ層中	—	円形	0.71	0.69	0.61	0.58	0.12	—	続縄文後葉	
P-150	D22	Ⅳ層中	—	円形	0.68	0.59	0.53	0.43	0.07	—	続縄文後葉	
P-151	C24	Ⅳ層中	—	円形	0.78	0.74	0.75	0.69	0.11	—	続縄文後葉	
P-152	C24	Ⅳ層中	—	円形	0.64	0.57	0.59	0.51	0.07	—	続縄文後葉	
P-153	B21・22、C21・22	Ⅲ層上面	—	円形	0.89	0.81	0.80	0.75	0.36	—	続縄文後葉	
P-154	C24	Ⅳ層中	—	円形	0.59	0.50	0.51	0.45	0.05	—	続縄文後葉	
P-155	B19・20、C20	Ⅲ層上面	—	円形	0.99	0.88	0.91	0.76	0.25	—	続縄文後葉	>P-156
P-156	B20、C20	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	(0.78)	0.77	0.70	0.32	—	続縄文後葉	<P-155
P-157	C24・25	Ⅳ層中	—	円形	0.78	0.77	0.73	0.73	0.20	—	続縄文後葉	>P-196
P-158	B23	Ⅲ層上面	—	楕円形	0.97	0.70	0.89	0.63	0.23	N-22° -E	続縄文後葉	
P-159	B23・24、C24	Ⅲ層上面	—	円形	0.79	0.75	0.72	0.70	0.44	—	続縄文後葉	>P-189
P-160	B20	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	(1.10)	1.00	(0.95)	0.80	0.54	—	続縄文後葉	
P-161	B20	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	0.74	—	0.58	—	0.24	—	続縄文後葉	<P-136
P-162	E14	Ⅳ層中	—	円形	0.43	0.37	0.29	0.26	0.19	—	続縄文後葉	
P-163	B23	Ⅳ層上面	—	長方形	2.21	1.15	2.13	1.06	0.22	N-12° -E	続縄文後葉	
P-164	C22	P-143坑底	—	円形	1.06	1.04	0.99	0.93	0.15	—	続縄文後葉	
P-165	B26	Ⅳ層上面	—	円形	0.95	(0.93)	0.92	(0.83)	0.30	—	続縄文後葉	>P-147
P-166	B24	Ⅳ層上面	—	円形	0.81	0.74	0.68	0.64	0.15	—	続縄文後葉	
P-167	B25	Ⅲ層上面	—	円形	0.77	0.76	0.67	0.65	0.38	—	続縄文後葉	<P-186
P-168	B25	Ⅳ層上面	—	円形	0.92	0.87	0.79	0.79	0.35	—	続縄文後葉	>P-185
P-169	A25	Ⅳ層上面	—	小判形	1.36	0.86	1.26	0.79	0.14	N-53° -E	続縄文後葉	
P-170	B24	Ⅲ層上面	—	円形	0.73	0.65	0.63	0.57	0.16	—	続縄文後葉	
P-171	B24	Ⅲ層上面	—	円形	0.71	0.69	0.64	0.60	0.16	—	続縄文後葉	
P-172	B24	Ⅲ層上面	—	円形	0.86	0.83	0.71	0.70	0.39	—	続縄文後葉	>P-178
P-173	D26	Ⅳ層中	—	円形	0.71	0.70	0.64	0.62	0.14	—	続縄文後葉	
P-174	B25	Ⅲ層上面	—	円形	0.81	0.79	0.73	0.73	0.46	—	続縄文後葉	<P-180
P-175	F21	Ⅳ層中	—	円形	0.79	0.75	0.68	0.61	0.08	—	続縄文後葉	
P-176	A23、B23	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	0.56	—	0.48	—	0.22	—	続縄文後葉	
P-177	D25、E25	Ⅳ層中	—	円形	0.80	0.71	0.69	0.66	0.15	—	続縄文後葉	
P-178	B23・24	Ⅲ層上面	—	円形	0.90	(0.84)	0.78	(0.74)	0.39	—	続縄文後葉	<P-172
P-179	F26・27、P26・27	Ⅳ層中	—	円形	0.78	0.72	0.72	0.68	0.16	—	続縄文後葉	
P-180	B25	Ⅲ層上面	—	円形	0.67	0.65	0.61	0.59	0.13	—	続縄文後葉	>P-174
P-181	A25	Ⅲ層上面	—	円形	0.95	0.84	0.85	0.76	0.41	—	続縄文後葉	
P-182	B24	Ⅳ層上面	—	小判形	1.03	0.72	0.95	0.60	0.24	N-5° -W	続縄文後葉	>P-183
P-183	B24	Ⅳ層上面	—	小判形	(1.13)	0.78	(1.04)	0.70	0.09	N-84° -W	続縄文後葉	<P-182
P-184	A24	Ⅲ層上面	Ⅱ層中	円形	—	—	—	—	0.34	—	続縄文後葉	
P-185	B25	Ⅳ層上面	—	円形	(0.54)	0.53	(0.48)	0.46	0.17	—	続縄文後葉	<P-168
P-186	B25	Ⅲ層上面	—	円形	0.82	0.79	0.75	0.70	0.20	—	続縄文後葉	>P-167
P-187	B24	Ⅲ層上面	—	円形	0.52	0.48	0.35	0.30	0.16	—	続縄文後葉	
P-188	C22	Ⅳ層中	—	円形	1.02	0.99	0.88	0.87	0.30	—	続縄文後葉	
P-189	B24	Ⅲ層上面	—	円形	0.62	(0.60)	0.46	(0.45)	0.40	—	続縄文後葉	<P-159
P-190	D26	Ⅳ層中	—	円形	0.93	0.88	0.86	0.80	0.45	—	続縄文後葉	
P-191	A24、B24	Ⅱ層中	—	円形	0.66	0.64	0.55	0.50	0.19	—	続縄文後葉	
P-192	C25・26、D25・26	Ⅳ層中	—	円形	1.00	0.99	0.93	0.93	0.29	—	続縄文後葉	
P-193	C25・26	Ⅳ層中	—	円形	0.78	0.75	0.67	0.66	0.15	—	続縄文後葉	
P-194	C23	Ⅳ層中	—	円形	0.92	0.89	0.83	0.80	0.14	—	続縄文後葉	
P-195	C24	Ⅳ層中	—	円形	—	—	1.07	—	0.06	—	続縄文後葉	<P-151・152・196
P-196	C24	Ⅳ層中	—	円形	0.94	0.93	0.84	0.80	0.10	—	続縄文後葉	
P-197	C24、D24	Ⅳ層中	—	長方形	1.07	0.63	0.72	0.55	0.42	N-55° -E	続縄文後葉	

長沼町 幌内D遺跡

遺構名	位置(発掘区)	検出層位	構築面	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考 (旧<新)
					長軸	短軸	長軸	短軸				
P-198	C11	Ⅲ層上面	—	円形	1.31	1.31	0.24	0.19	0.29	—	続縄文後葉	
P-199	B18	Ⅳ層上面	—	円形	0.23	0.19	0.13	0.13	0.20	—	続縄文後葉	
P-200	E27	Ⅳ層中	—	方形	0.67	0.63	0.53	0.50	0.28	N-54° -E	続縄文後葉	
P-201	C14	Ⅱ層中	Ⅱ層中	不明	—	—	—	—	0.29	—	擦文?	
P-202	C13	Ⅱ層中	Ⅱ層中	不明	—	—	—	—	0.37	—	続縄文?	
P-203	J32	Ⅲ層上面	—	方形	1.06	0.85	0.98	0.79	0.23	N-9° -E	続縄文?	>P-204
P-204	J32	Ⅲ層上面	—	円形	—	—	—	—	0.17	—	続縄文	<P-203
SP-1	I15	Ⅳ層中	—	円形	(0.33)	(0.28)	0.16	(0.22)	0.40	N-32° -W	続縄文?	
F-1	E6	Ⅱ層中	—	—	0.45	0.37	—	—	0.07	N-52° -W	擦文	
F-2	D7、E7	Ⅱ層中	—	—	0.77	0.49	—	—	0.07	N-55° -W	擦文	
F-3	E7	Ⅱ層中	—	—	0.34	0.30	—	—	0.03	N-55° -E	擦文	
F-4	E7、F7	Ⅱ層中	—	—	0.82	0.35	—	—	0.11	N-42° -W	擦文	
F-5	E9	Ⅱ層中	—	—	0.93	0.81	—	—	0.07	N-40° -W	擦文	
F-6	E9	Ⅱ層中	—	—	0.45	0.36	—	—	0.08	N-43° -W	擦文	
F-7	E10	Ⅱ層中	—	—	0.52	0.30	—	—	0.10	N-10° -W	擦文	
F-8	E10	Ⅱ層中	—	—	0.35	0.14	—	—	0.03	N-87° -W	擦文	
F-9	E10	Ⅱ層中	—	—	0.57	0.34	—	—	0.11	N-15° -W	擦文	
F-10	E11	Ⅱ層中	—	—	0.71	0.33	—	—	0.10	N-0.9° -E	擦文	
F-11	D10	Ⅱ層中	—	—	0.59	0.38	—	—	0.09	N-61° -W	擦文	
F-12	D10	Ⅱ層中	—	—	0.90	0.59	—	—	0.03	N-35° -W	アイヌ期	
F-13	D10	Ⅱ層中	—	—	0.79	0.30	—	—	0.07	N-48° -W	アイヌ期	
F-14	D10	Ⅱ層中	—	—	0.40	0.26	—	—	0.08	N-66° -W	擦文	
F-15	D11	Ⅱ層中	—	—	0.59	0.54	—	—	0.11	N-21° -W	擦文	
F-16	D11	Ⅱ層中	—	—	0.57	0.33	—	—	0.07	N-73° -W	擦文前期	
F-17	D11	Ⅱ層中	—	—	0.42	0.31	—	—	0.08	N-9° -W	擦文前期	
F-18	D11	Ⅱ層中	—	—	0.38	0.24	—	—	0.04	N-10° -E	擦文	
F-19	D11	Ⅱ層中	—	—	0.38	0.24	—	—	0.04	N-19° -E	続縄文後葉	
F-20	E9	Ⅱ層中	—	—	0.35	0.23	—	—	0.05	N-25° -W	擦文	
F-21	D9	Ⅱ層中	—	—	0.50	0.44	—	—	0.10	N-32° -W	擦文	
F-22	E6	Ⅱ層中	—	—	0.94	0.67	—	—	0.13	N-61° -E	擦文	
F-23	E6	Ⅱ層中	—	—	0.80	0.45	—	—	0.15	N-87° -W	擦文	
F-24	G10	Ⅱ層中	—	—	0.26	(0.17)	—	—	0.96	N-0.4-E	続縄文	
F-25	H6	Ⅱ層中	—	—	0.42	0.18	—	—	0.04	N-34° -W	続縄文後葉	
F-26	H6	Ⅱ層中	—	—	1.24	0.49	—	—	0.18	N-43° -W	続縄文後葉	
F-27	C27	Ⅱ層中	—	—	0.45	0.32	—	—	0.05	N-27° -E	続縄文後葉	
F-28	C27	Ⅱ層中	—	—	0.39	0.21	—	—	0.04	N-3° -E	続縄文後葉	
F-29	G8	Ⅱ層中	—	—	0.29	0.28	—	—	0.06	N-47° -E	擦文	
F-30	D14	Ⅱ層中	—	—	0.60	0.22	—	—	0.03	N-6° -W	擦文	
F-31	D14	Ⅱ層中	—	—	(0.55)	0.21	—	—	0.04	N-8° -W	擦文	
F-32	B22	Ⅱ層中	—	—	0.48	—	—	—	0.03	N-3° -W	続縄文後葉	
F-33	B22	Ⅱ層中	—	—	0.44	0.15	—	—	0.07	N-57° -W	続縄文後葉	
F-34	B23	Ⅱ層中	—	—	1.05	0.52	—	—	0.11	N-46° -W	続縄文後葉	
F-35	B23	Ⅱ層中	—	—	0.67	0.43	—	—	0.11	N-12° -W	続縄文後葉	
F-36	B19	Ⅱ層中	—	—	0.46	0.17	—	—	0.05	N-1° -E	続縄文後葉	
F-37	B19	Ⅱ層中	—	—	0.98	0.28	—	—	0.04	N-11° -W	続縄文後葉	
F-38	B24	Ⅱ層中	—	—	0.99	0.53	—	—	0.06	N-14° -W	続縄文後葉	
F-39	B17	Ⅱ層中	—	—	0.31	—	—	—	0.08	N-6° -E	続縄文後葉	
F-40	A24	Ⅱ層中	—	—	0.43	0.39	—	—	0.04	N-29° -E	続縄文後葉	
F-41	F7	Ⅱ層中	—	—	0.32	0.27	—	—	0.06	N-83° -W	擦文	
F-42	F7	Ⅱ層中	—	—	0.56	0.36	—	—	0.09	N-34° -W	擦文	
F-43	F7	Ⅱ層中	—	—	0.69	0.38	—	—	0.10	N-26° -W	擦文	
F-44	C9・10	Ⅱ層中	—	—	(0.61)	(0.34)	—	—	0.07	N-32° -E	擦文	
F-45	C11	Ⅱ層中	—	—	0.34	0.27	—	—	0.05	N-8° -E	擦文	
F-46	C11	Ⅱ層中	—	—	0.35	0.34	—	—	0.06	N-41° -E	擦文	
F-47	B24・25	Ⅱ層中	—	—	—	—	—	—	0.05	N-21° -W	続縄文	
AC-1	A23、B23	Ⅱ層中	—	—	0.37	0.21	—	—	0.02	N-77° -E	擦文?	
AC-2	B19	Ⅱ層中	—	—	0.36	0.31	—	—	0.05	N-61° -E	擦文?	
PC-1	B18	Ⅱ層中	—	—	0.43	0.23	—	—	—	N-43° -E	続縄文～擦文前期	
PC-2	C12、D12	Ⅱ層中	—	—	0.51	0.42	—	—	—	N-36° -E	続縄文後葉	
PC-3	C12	Ⅱ層中	—	—	1.17	0.85	—	—	—	N-13° -E	擦文前期	
SC-1	K32	Ⅱ層中	—	—	0.93	0.47	—	—	—	N-3° -W	擦文	
SC-2	B25	Ⅱ層中	—	—	0.65	0.54	—	—	—	N-60° -W	続縄文	











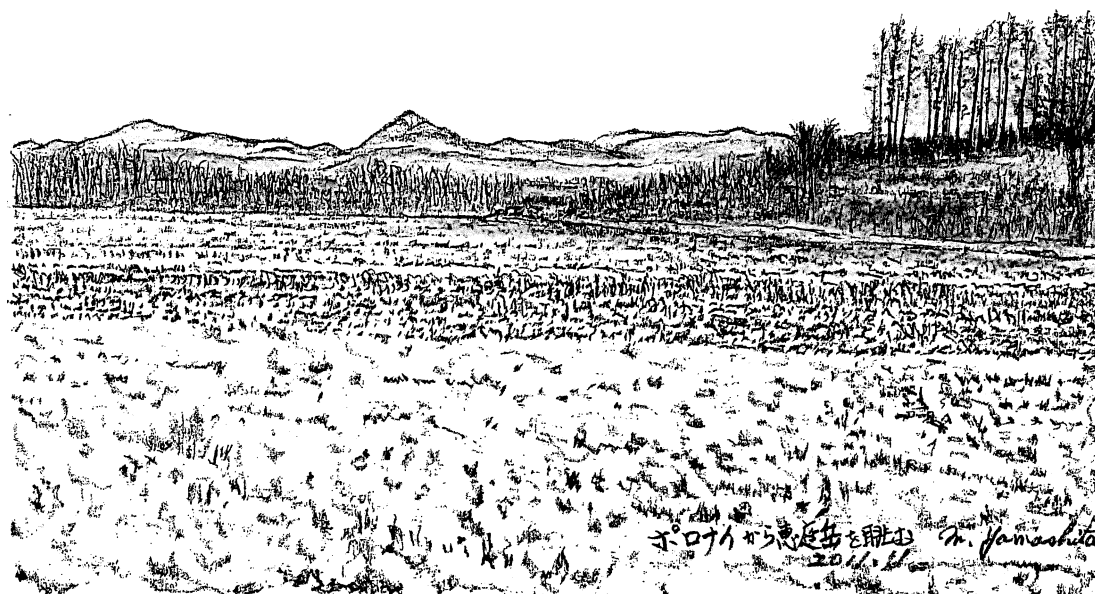












## IV 遺構・包含層出土の遺物

### 1 概要 (図IV-1~5、表III-2、IV-7)

遺構出土遺物は5,563点、包含層出土遺物は17,714点、全体で23,277点である。調査区の大半は畑地で、包含層であるⅡ層は耕作の及んでいない調査区西側と南側の段丘縁辺部のみ残存していた(図I-4)。遺構に伴う遺物は大型礫があるが、それ以外に明確に副葬されたものは少なく、遺構覆土から出土した遺物も埋め戻しや自然流入に伴うものがほとんどであることから遺構・包含層出土資料を分けずに本章で報告することとする。

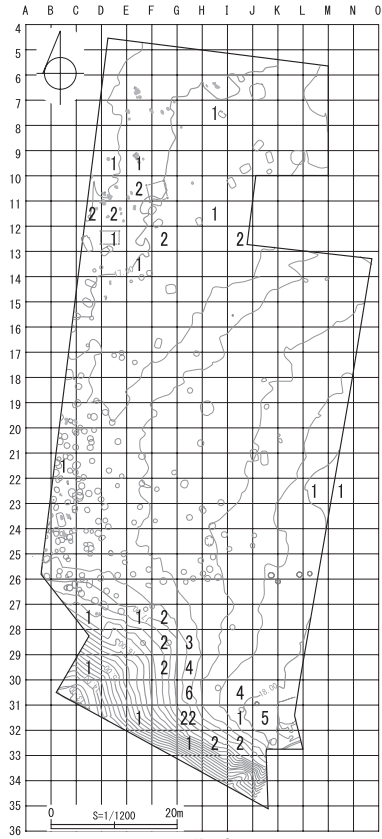
土器の破片点数は遺構・包含層合わせて、縄文時代早期後半期(Ⅰ群b類)90点、中期(Ⅲ群)71点、後期(Ⅳ群)64点、続縄文時代前葉(Ⅵ群a類)18点、後葉後半期(Ⅵ群b類)8,581点、擦文文化期(Ⅶ群・Ⅶ群2類)5,725点、須恵器(Ⅶ群3類)7点、陶磁器Ⅶ群が1点の計14,550点である。最も多いのはⅥ群b類で59%、次にⅦ群(2・3類含む)が39%で、両者で98%を占める。包含層の分布をみると、Ⅵ群b類は12ラインより南側に、Ⅶ群(2・3類を含む)は15ラインより北側に分布の中心があり、それらは各時期の遺構の分布と対応している。紡錘車は調査区南側から出土し、続縄文時代後葉後半期とみられる。そのほか、Ⅰ群b類とⅢ群は南側斜面部と北側の2か所に分布し、Ⅳ群とⅥ群a類は南側斜面部に偏在する。

石器は、石鏃・石槍・両面調整石器・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石錐・楔形石器・二次加工ある剥片・石核・石斧・たたき石・すり石・台石・砥石・小玉・垂飾・石製品・原石が出土している。特に小型の円形のスクレイパーと楔形石器が多く、当該期の石器組成を反映している。また、小型の石核も多く、原石で持ち込まれ、剥片剥離が行われたものと思われる。剥片石器のほとんどが黒曜石製である。最も点数の多い剥片は土器の分布同様、概ね17ラインを境に南北に分布の中心が分離でき、北側が擦文文化期、南側が続縄文時代後葉後半期に相当する可能性があり、他の器種についても概ね分布と時期が対応しそうである。

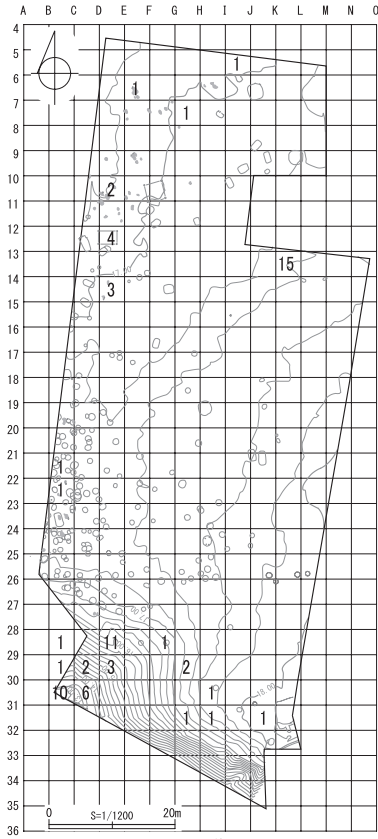
石鏃・石槍・つまみ付きナイフは続縄文時代後葉後半期・擦文文化期には欠落する器種であり(高倉2008)、縄文時代に製作されたと思われるものが少量出土している。石鏃はほぼ全域に散漫に、石槍・つまみ付きナイフは南側に偏在する。スクレイパー・楔形石器・両面調整石器・二次加工ある剥片・石核は続縄文時代後半期・擦文文化期に相当するもので南北から出土し、北側が擦文期、南側が続縄文時代後半期に相当すると思われる。すり石・石斧・たたき石・台石・砥石などの礫石器類は南北に散漫に分布する。礫は剥片に次いで多量に出土し、包含層残存の全域から出土しているが土器や剥片同様、高密度の分布域が南北に分かれる。玉類は石製がP-145(C22区)、P-148(E23区)から、ガラス製がF-15(D11区)から出土している。

鉄製品は続縄文時代後半期のP-51(D19区)から刀子片、P-114(B22区)から錐、P-101(B21区)から茎部状のもの、擦文文化期のH-3(K31区)から刀子片が、包含層からはアイヌ文化期の鉄鍋が出土した。製品以外では、F-15(D11区)・F-19(D11区)から擦文文化期の鍛造剥片とみられるものが少量フローテーションにて回収されている。

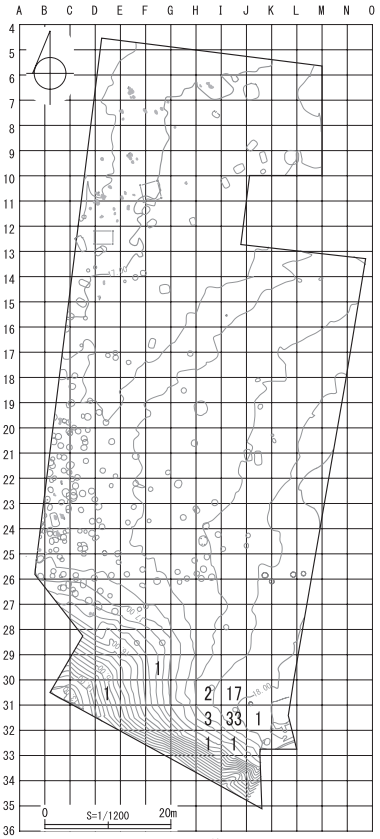
そのほか、自然遺物は炭化物や動物遺存体(骨片)が出土し、動物遺存体(骨片)は目視によって取り上げたものは続縄文時代後半期の遺構集中域に分布する。フローテーションでは擦文期とみられる北側の焼土と続縄文期の南側の遺構覆土から回収されている。いずれもシカとみられる破碎した焼骨片が大多数を占め、擦文期の焼土資料には少量のサケ科椎骨などの魚骨が含まれる。(鈴木宏行)



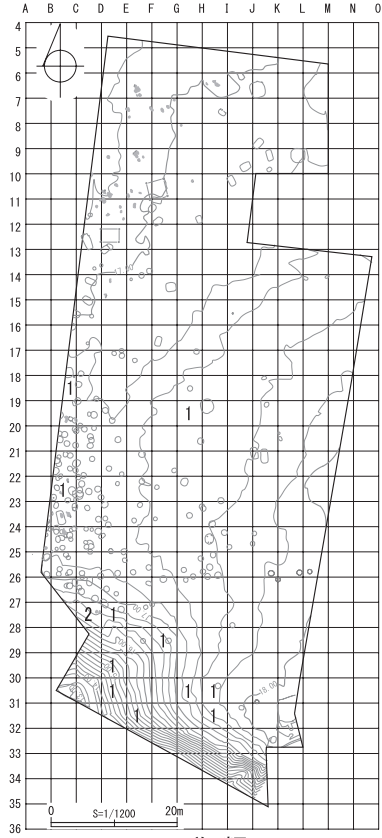
I 群b類



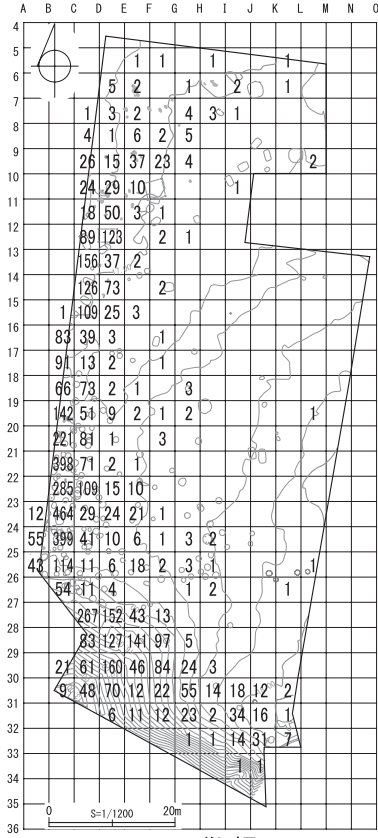
III群



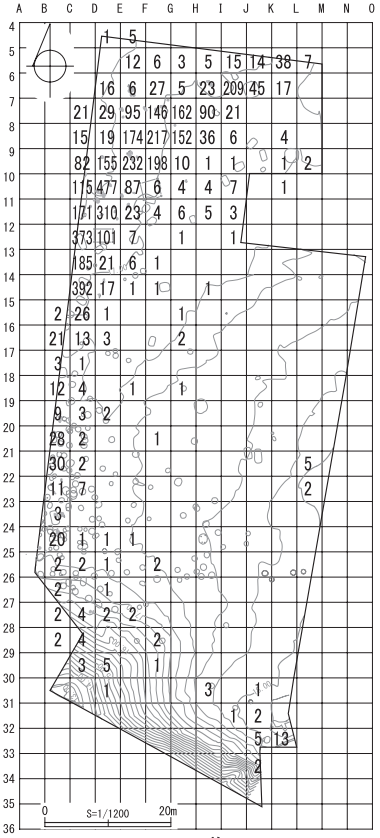
IV群



VI 群a類

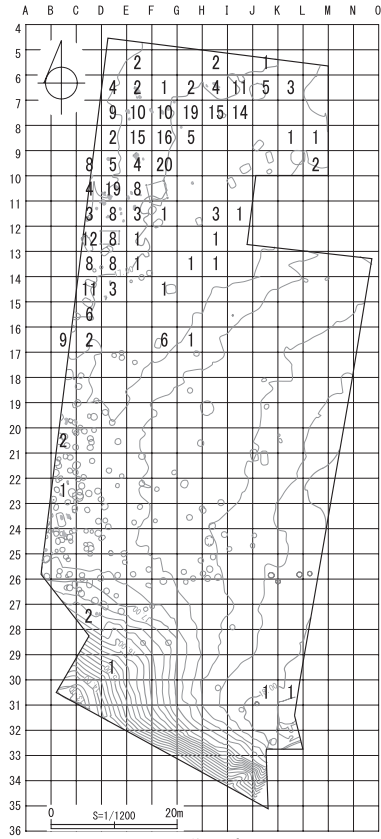


VI 群b類

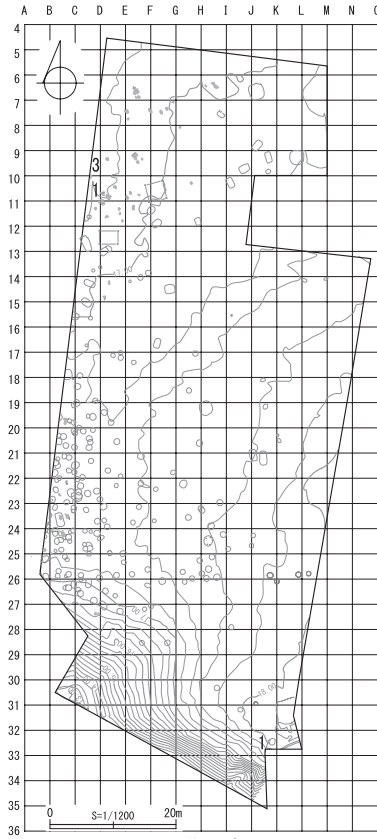


VII群

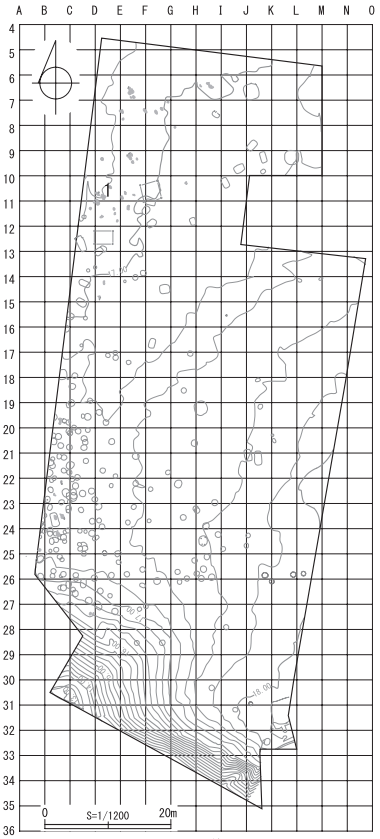
図IV-1 包含層出土土器分布(1)



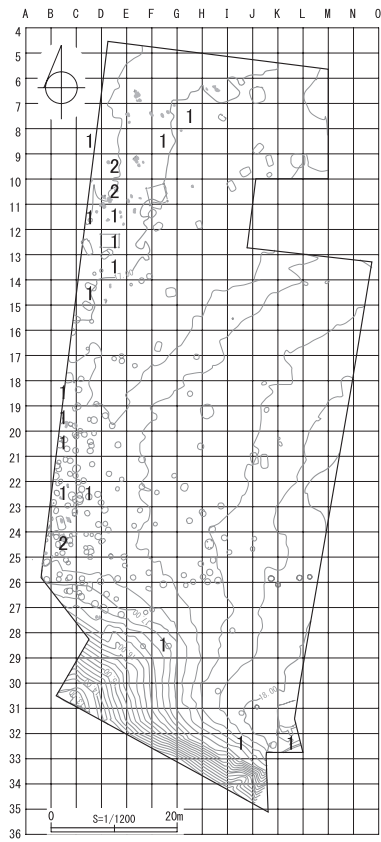
VII群 2類



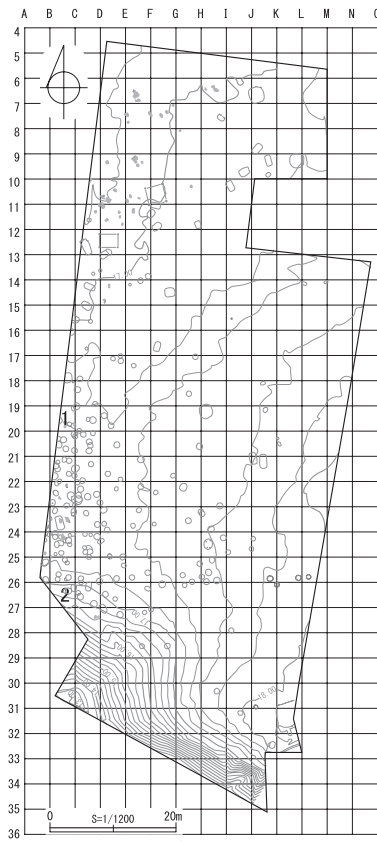
VII群 3類



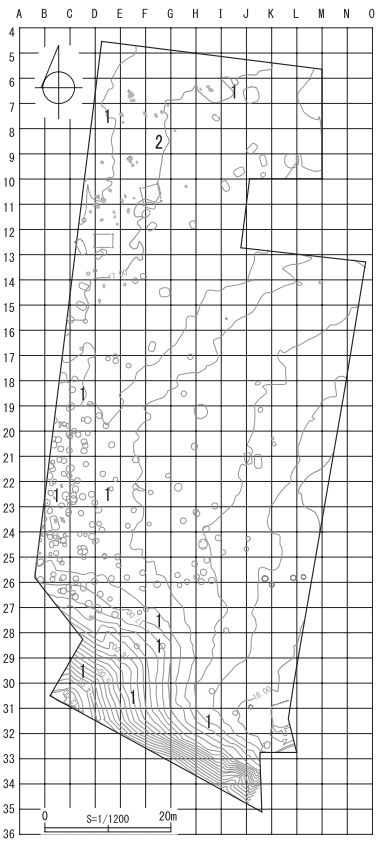
VIII群



焼成粘土塊

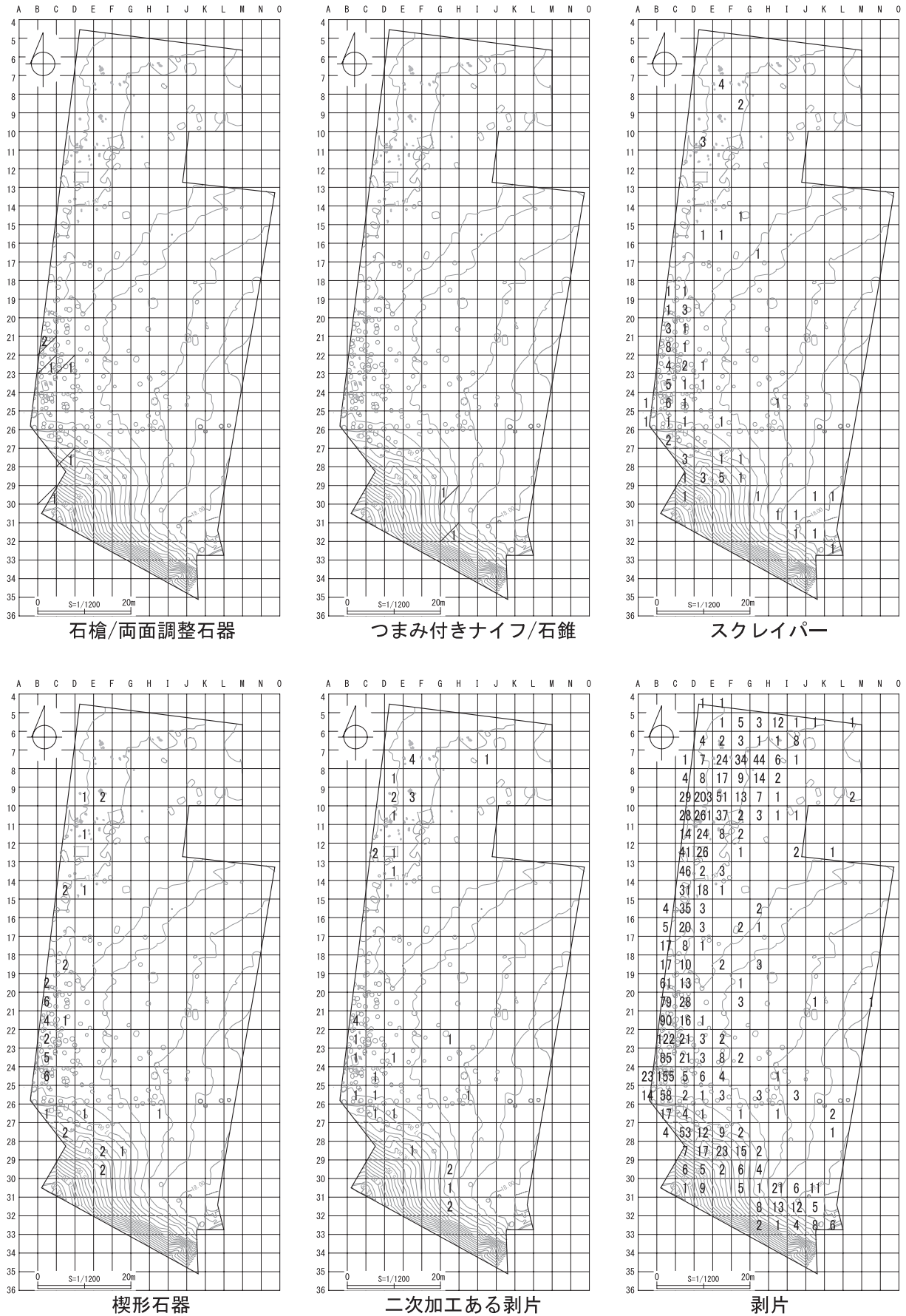


紡錘車



石鏃

図IV-2 包含層出土土器(2)・石器分布(1)

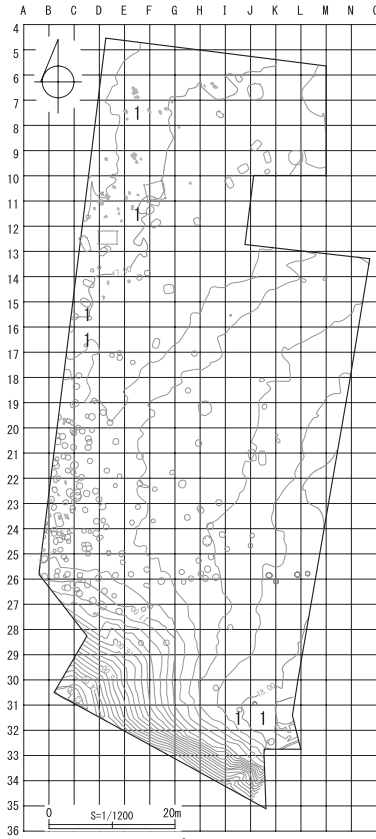


図IV-3 包含層出土石器分布(2)

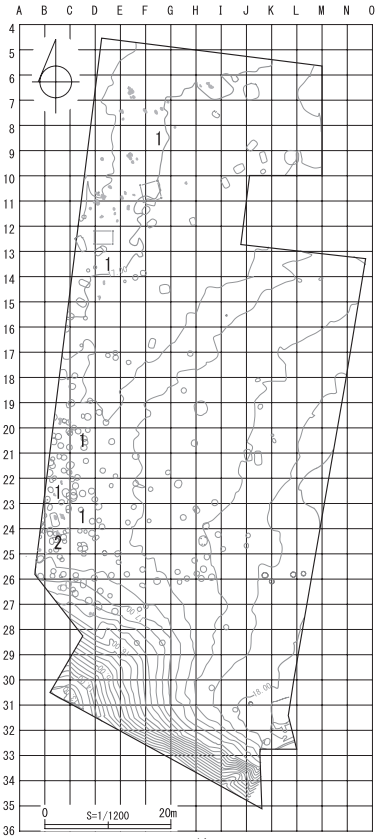




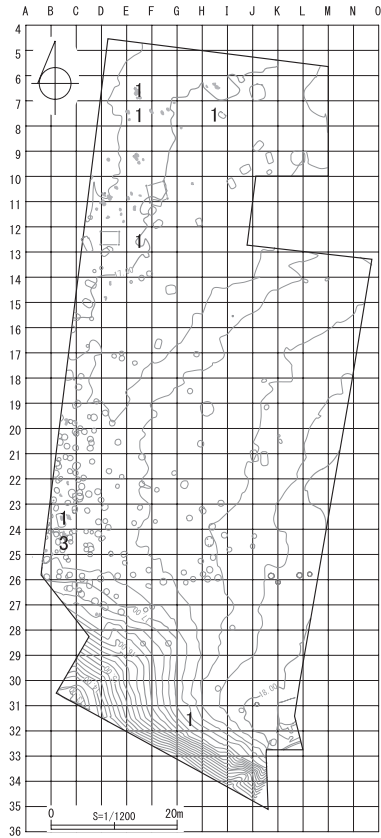
石核



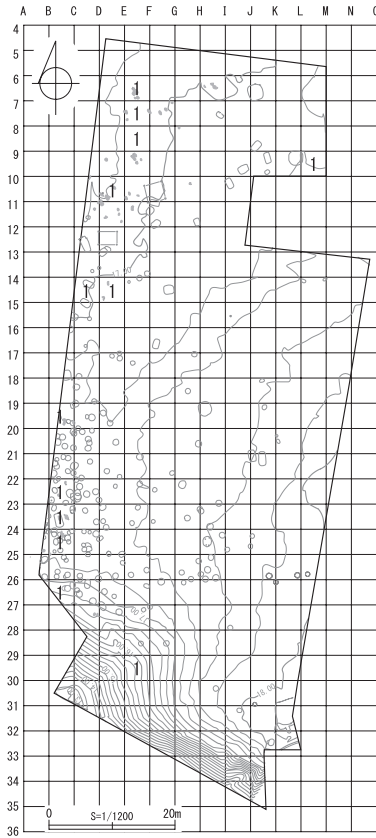
すり石



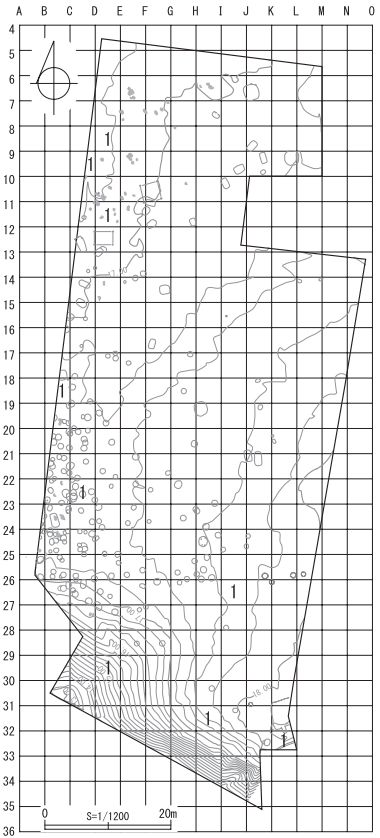
石斧



たたき石

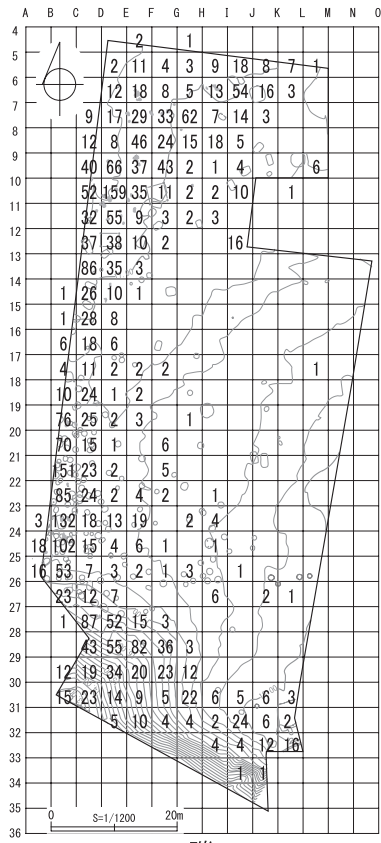


台石

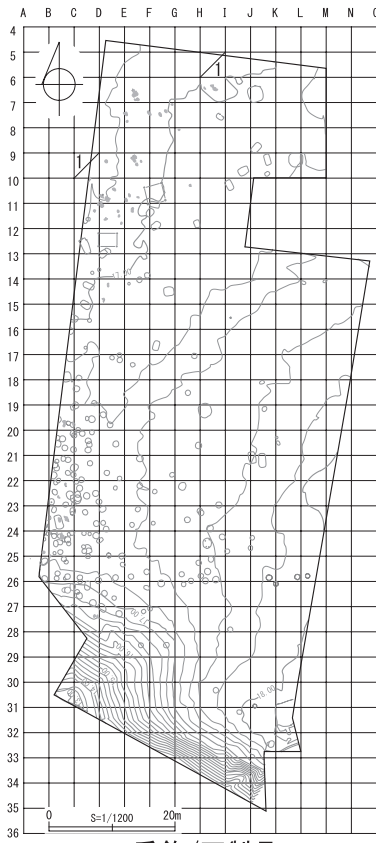


砥石

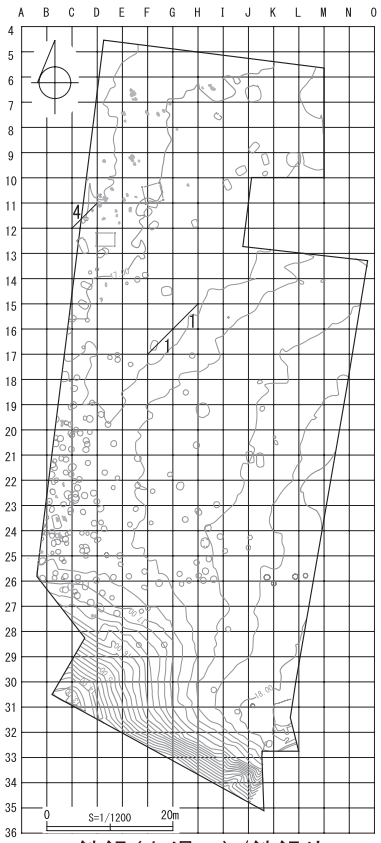
図IV-4 包含層出土石器分布(3)



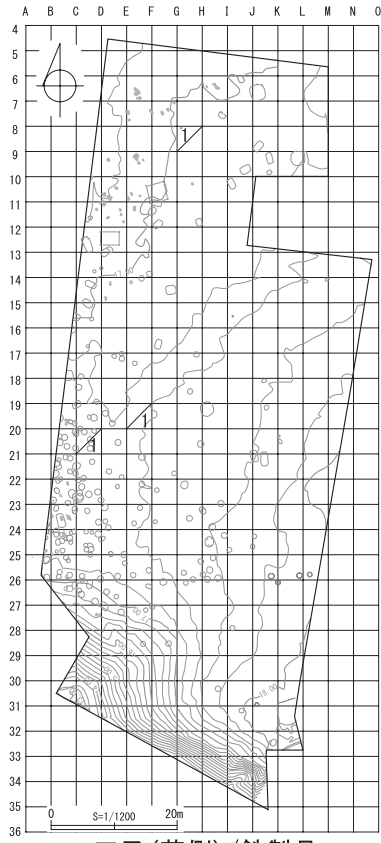
礫



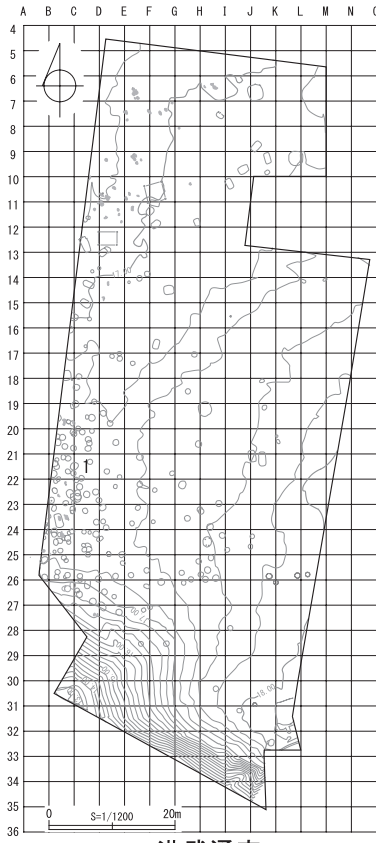
垂飾/石製品



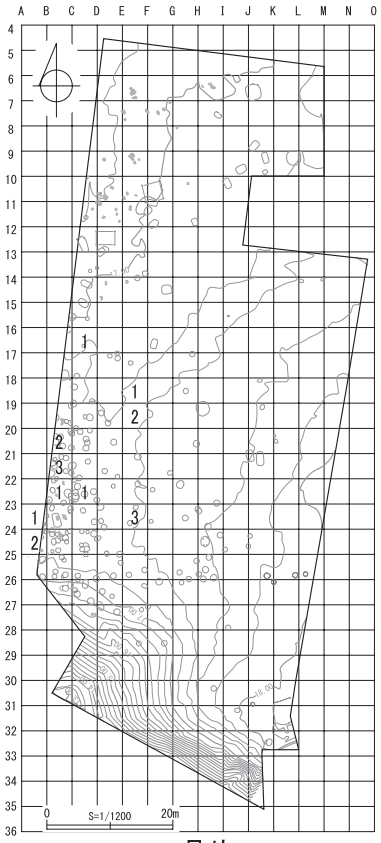
鉄鍋(丸湯口)/鉄鍋片



刀子(茎側)/鉄製品



洪武通宝



骨片

図IV-5 包含層出土石器(4)・金属製品・骨片分布

## 2 土器・土製品

### I 群b類 (図IV-6-1~10、図版76)

1・2はコッタロ式、3は中茶路式とみられるもの。4~10は東釧路Ⅳ式。4~6は口縁部で、波状である。薄く調整された口唇部に沿って縄端圧痕が列状に施される。

### Ⅲ群a類 (図IV-6-11~13、図版76)

11は縦位の貼付上に縄の圧痕が施され、萩ヶ岡Ⅰ式に相当する。12は横位の貼付状に刺突列があり、柏木川式相当とみられる。13は結束第1種羽状縄文が施文される。

### Ⅳ群 (図IV-6-14、図版76)

14は余市式で、タガ状の貼付帯がある。内面は剥落している。

### Ⅵ群a類 (図IV-6-15~17、図版76)

15~17は続縄文時代前葉のもので、15・16は横位の、17は横位と縦位の縄文が施文される。口縁部である15には山形の突起があり、平坦な口唇部には棒状工具によるキザミが施される。17の下部には外傾接合面が確認できる。

### Ⅵ群b類 (図IV-6-18~図IV-21~300、図版66~73、76~82)

18~25は後北C<sub>2</sub>・D式終末期に相当するもので、横位の帯縄文が複数列施文され、18は最下段に縦位の帯縄文が連結し、23の上部にも縦位の帯縄文がある。18は底径がやや大きく、直線的に斜めに立ち上がり、胴上部で内湾し、頸部が軽くくびれて口縁部はやや外反する。口唇部断面は角形で、円形刺突は見られない。内傾接合である。19は口縁部破片で、口唇部外側にキザミが施される。24・25は同一個体で円形刺突文があり、上部の横位の帯縄文から斜位に帯縄文が施文され、キザミ列によって縁取られる。これらはくびれが少なく、口縁部が短い傾向がある。

26~133は微隆起線文や帯縄文などの特徴をもつ北大Ⅰ式に相当するもの。26~31は帯縄文が斜格子状に施文され、キザミ列で縁取られるもの。帯縄文以外は無文である。26は底部から直線的に斜めに立ち上がり、胴上部で内湾し、軽くくびれて、口縁部はやや外反する。口縁部には微隆起線が6条横環し、微隆起線間に円形刺突が施文される。胴下部は横位の帯縄文により胴部文様帯が区画される。内傾接合である。27は26とほぼ同様な形状である。口縁部は縦位の微隆起線が約5mm間隔で施され、その下位には3条の微隆起線が横環する。円形刺突は縦位の微隆起線間に2本おきに施文される。32~36は胴部の斜格子状の帯縄文が微隆起線によって縁取られる。32・33は頸部がほとんどくびれず、口縁部はほぼ直立する。33の口縁部は角があり、上面観は四ないし五角形を呈する可能性がある。

37~60は胴部に斜位・横位・鋸歯状に施文される帯縄文や斜行縄文を微隆起で縁取り、その内側に平行な微隆起線群が充填されるもので、61~64は帯縄文に代わり、櫛歯状工具による集合沈線が施文される。微隆起線群は方向を変えて組み合わせられるもの(53・55・57~59)がある。37・38の口縁部には縦位の、39・41には横位の微隆起線が施文され、38には円形刺突がない。37の円形刺突には粘土が入り込んでいることから、円形刺突後、口縁部に薄く粘土が塗布され、微隆起線を整形した後に、再度円形刺突をすることはなかったようである。39は円形刺突が2段施文され、口縁部は比較的長く大きく外反する。LR斜行縄文が施文され、北大Ⅱ式の特徴を併せ持つ。42~45は横走する帯縄文と縦位の微隆起線が組み合う。56の下部は横走する帯縄文によって文様帯が区切られる。

65～71は胴部が縄文のみで、微隆起線・刺突列による縁取りのないもの。主に斜位のRL帯縄文により菱形などの文様が描かれるが、67はLR斜行縄文で、口縁部はやや長く、大きく外反し、北大Ⅱ式の特徴を併せ持つ。65は胴部がやや膨らみ、頸部は軽くくびれて口縁部は外反する。口縁部には縦位の微隆起線があり、円形刺突は部分的に施される。

72～77は櫛歯状工具による集合沈線が帯縄文風に施文され、縁取りのないもの。78～81は胴下部の破片で、縄文施文部が微隆起によって区切られる。全てLR斜行縄文で、北大Ⅱ式との中間的な特徴をもつ。82～87は底部を含むもので、胴部文様帯を区切る横位の帯縄文があり、その上位に斜位・縦位の帯縄文が施文される。底面は比較的広く、底角の張り出しは弱いものが多い。

88・89は微隆起線文のみで、縄文の見られないもの。88は底部のみ欠損する。底部から直線的に斜めに立ち上がり、比較的強くくびれて、口縁部は直線的に大きく外反する。口縁部から頸部にかけて横位の微隆起線があり、頸部上部に円形刺突が横環する。胴上部には細かい工具による線描が残る。内傾接合である。89は底部がやや張り出し、胴下部は直線的に斜めに立ち上がり、胴上部で内湾し、軽くくびれて、口縁部はやや外反する。口縁部に横位、頸部に縦位、胴上部に横位の微隆起線文が施文され、頸部には1か所横位の微隆起線が施文される部分がある。円形刺突は口縁部の横位微隆起線の最下部に施される。内傾接合で、底角は粘土を貼り付けて整形している。88・89はP-51出土で、88は坑底、89は中～上位の覆土から出土した。

90～106は微隆起線文のみの口縁部破片で、90～99は横位、100・101・104は縦位、102・103・105・106は縦横が複合するもので、105は同一段で、その他は多段で複合する。90は口唇部にキザミがある。円形刺突文は90・100～102にはなく、2段の99を除いて1段で、すべて微隆起線間に施文される。直線的にわずかに外反するものが多く、97・98・102・105・106のように外反するものもある。107～112は微隆起線のみ頸部破片で、107～109は横位、110～112は縦位である。113は横走沈線の頸部文様帯と横位RL帯縄文の胴部文様帯を微隆起線が区切る。114は胴上部破片で横位の帯縄文の下位に2列の刺突列があり、その下位に斜位の微隆起線がある。

115・116・118は注口土器の注口部破片で、3点とも注口部の側面に横位の微隆起線があり、115・118は下面にも横位の微隆起線が施され、118の胴部には横位の帯縄文が施文される。

117は片口土器で、口縁部に5条の微隆起線が巡る。底部は円形であるが、口縁部は片口部以外の右側面中央に1か所屈曲部があり、また、無文片口土器の上面観に五角形が多いことから五角形に推定している。

119～133は片口・注口土器・鉢の破片とみられるもので、119～131は口縁部とその同一個体破片、126・132・133は底部破片である。119・124・128・129は低平な波状で、その頂部で屈曲し、口縁部には3～5条の微隆起線が施文される。微隆起線文の下位は、119は微隆起線で縁取られた斜位の帯縄文とその間に微隆起線群が充填され、124は微隆起線で縁取られた帯縄文とその間に無文帯があり、128・129は縦位・斜位の微隆起線で区画された間を斜行の微隆起線群が充填される。120・121は微隆起線がなく、刺突列によって縁どられたRL斜行縄文が横・斜位に施文される。これらの口縁部は屈曲するものが多いことから注口・片口土器は上面観が五角形ないし四角形が多かったと思われる。127の口唇部には植物の茎状の中空工具による刺突がある。122・123は同一個体で、口縁部には円形刺突列があり、胴部には刺突列で縁取られた鋸歯状の帯縄文があり、胴下部は横位の帯縄文で区画される。130は山形の帯縄文が、131はRL縄文が斜格子状に施文される。底部である126・132・133は底角の張り出しがほとんど見られない。126・132には微隆起線で縁取られた横位の帯縄文と底部無文帯があり、133には斜位の帯縄文が底角まで施文される。

134～145は沈線文とLR斜行縄文で特徴づけられる北大Ⅱ式に相当するもの。134は頸部がくびれて口縁部が外反する器形で、口唇下部と胴上部には円形刺突列が施文され、その間と下位に上下を変えた三角形を連続的に配置している。口縁部の三角文の中には円形刺突が2個並ぶものや横位の沈線が描かれるものがある。口唇部には細い工具による刺突列がある。縄文は三角文のない部分はLR斜行縄文で、連続する三角形の間はその軸に沿って斜めに原体を回転させるため、縄の向きは水平ないし垂直である。施文順は①LR斜行縄文②三角形間の斜位のLR縄文③沈線である。135は底部から斜めに立ち上がり、胴上部で内湾し、頸部がくびれて口縁部が外反する器形で、口縁部に幅6cm程、胴部に幅3cm程の3段のいずれも沈線で区画されたLR斜行縄文の施文帯がある。口縁部と胴部1段目の縄文帯には鋸歯状の沈線が描かれ、口縁部縄文帯の上位の区画の沈線上には円形刺突列が巡る。内傾接合である。136は口縁部に無文帯があり、頸部から胴部にかけてLR斜行縄文が施文される。頸部には円形刺突列が巡る。137は口縁部に4条の沈線があり、やや広い1・2本間に円形刺突が施される。平行沈線から下がる沈線間に縄文が施文される。138は口縁部に無文帯があり、沈線で区画された下部にLR斜行縄文が施文される。139～141は鋸歯状の沈線を描き、その間を斜位または横位の沈線で充填している。139は連続三角文下部に円形刺突が施文される。142・143はLR斜行縄文に平行沈線が施され、144は頸部にLR縄文と平行沈線が施文され、胴部は無文である。145は片口部で、LR斜行縄文に平行沈線が描かれる。北大Ⅱ式に相当するものは北大Ⅰ式に比べ頸部のくびれが強く、口縁部は長く、外反する。

146～180は沈線のみのもので「北大Ⅲ式」に相当するもの。ただし、口縁部や胴部片の中には縄文を伴う北大Ⅱ式に相当するものが含まれる可能性がある。146は胴部が強く膨らみ、頸部が強くくびれ、口縁はやや強く外反する。底角の張り出しはやや強い。先端が幅4mmのほぼ平坦な工具を使い、口縁部・頸部に平行沈線が施文される。沈線間は幅が狭く、微隆起線に類似する。口縁部の沈線上には円形刺突が巡る。147は底部が厚く、底角はやや張り出し、胴部は球形に近い。胴上部に横走沈線が施文される。148～154は口縁部ないし頸部破片で、複数の横走沈線が施される。148は先の丸い細い工具で密に沈線が描かれる。円形刺突は148・149には1列、150・151・153には2列、154には浅いものが3列施文される。155は横走沈線に斜位の沈線が上書きされる。156～171は鋸歯状の沈線が描かれるもの。156は2本1単位、157は櫛歯状工具による集合沈線で、158はやや幅広の工具によって鋸歯文が描かれ、間を横位の沈線で充填する。159は鋸歯状の沈線施文後、逆三角形内に縦位の沈線が充填される。160は口縁部にキザミ列とその上に円形刺突が施され、その下位に斜位の沈線が施文される。161～165は鋸歯状の沈線の間横位・斜位の沈線が充填される。164・165は上下の数条の横走沈線によって区画された範囲に連続三角文が施文される。168・169は数本の沈線を単位に鋸歯状の沈線が施文され、間に縦位・横位の沈線が充填される。170は複数の沈線単位で菱形の文様が多段に施文される。171は円形刺突列の下部に横走沈線が描かれ、2本1単位の鋸歯状沈線が上書きされる。円形刺突の上部には斜格子状に沈線が施文される。172は頸部に縦位の鋸歯状沈線文が描かれ、それは幅広のヘラ状工具によるもので非常に浅く、ヘラナデのようである。173は2本単位の縦の沈線で区画され、刺突が充填されるものと縦のミガキにより調整されるものが交互に見られる。また、一部縦のハケメが認められ、内面は横ミガキが見られる。「北大Ⅲ式」に相当する甕は胴部が張り出すものが多く、強くくびれ、口縁部は外反する傾向がある。

174～178は注口・片口土器・鉢の破片である。174は注口部で、その先端と口縁部には刺突列が見られる。沈線は注口部、口縁部に複数列横環し、注口部の付け根から斜め、下部に向けて横位に施文される。175・176は口唇部が尖り気味で、口縁部に平行沈線が施され、その下部に部分的に縦位の沈

線が施文される。177・178は数本単位の沈線が鋸歯状に描かれる。179・180はミニチュア土器で口縁部には平行沈線が、胴上部には複数の沈線によって鋸歯状に施文される。180は内傾接合である。

181～297は無文の土器で、胴部・底部については北大Ⅰ・Ⅱ式の破片も含まれている可能性がある。181～261は甕の復元個体・破片で、184～211は円形刺突のある口縁部・頸部片である。181は底部の片側が潰れているため器体が傾いている。底角の張り出しのない底部から斜めに立ち上がり、胴上部でやや内傾し、頸部が少しくびれて短い口縁部がわずかに外反する。円形刺突はくびれた頸部の上部に施文される。内外面ともに全面的に横方向のナデ調整が行われるが、胴下部の外面には、横ナデ後に、縦方向に線状の痕跡が残る調整が施される。また、内底面には指頭痕が残る。182は頸部がくびれ、やや長い口縁部が外反する。円形刺突は口縁部に二段施文される。鱗翅目幼虫の糞とみられる圧痕が4か所確認され（Ⅴ章6）、多くの糞が何らかの脈絡で粘土に混入している。183の胴部は膨らみがあり、段によって区別された緩くくびれた長い頸部から延びる口縁部は直線的に外反する。円形刺突は口唇部下に1段施文される。184～201は厚手の口縁部である。184～196・198は円形刺突が1段、197・199～201は2段施文される。184～194・196・199・200は口縁部の外反が緩い。1段より2段の方が口縁部の長い傾向がある。202～209は薄手の口縁部で、外反が強いものが多い。円形刺突は浅いものが含まれ、ミガキ調整のあるものがある。210は頸部に浅い円形刺突が、211は屈曲する頸部に2列の円形刺突が施される。

212～220は円形刺突の無い口縁部片である。212～215は口縁部が強く外反し、212は胴部の張り出しが強い。215は壺の可能性もある。217の口唇部断面は内外面の調整により溝状を呈する。

221～225は頸部から胴部片である。222・223は胴上部が強く内湾し、222は頸部との境が段になる。

226～261は底部片である。226～233は底角がほとんど張り出さないもので、234～239は底角がやや張り出すもの。236は内傾接合である。240～261は底角が強く張り出し、256～261は内面において底面と側面が角をもたないで緩やかに立ち上がる。底角が張り出さないものは張り出すものに比べ、底が薄く、底径が大きい傾向がある。

262は鉢で、底部から斜めに立ち上がり、胴上部で緩やかに内湾して、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部には円形刺突が1列施文される。外面は縦方向のナデ調整後、口縁部は横ナデが行われ、内面には横方向のナデ調整が施される。

263～266は注口土器の破片で、263・264は小型の、265は長く先端が開く注口部。266は注口部脇の破片で、口縁部は注口部で山形に盛り上がる。267～270は片口土器に関するもの。267は円形の底面から斜めに立ち上がり、口縁部は五角形である。角部は低い山形で片口の向かい側には2個1単位の山形突起が付く。口唇部は外傾する。268は底角が張り出す円形の底面から斜めに立ち上がり、胴中部で緩やかに内湾し、口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部は五角形で、角部は低平な山形である。269は円形の底面から斜めに立ち上がり、胴中部で内湾し、角部では口縁部が外反する。片口部は斜めにせり出す。右側面に角があり、本遺跡出土の片口土器に五角形が多いことから五角形に推定している。内底面には指頭痕が残る。270は片口脇の破片である。271・272は片口ないし注口土器の破片で、口縁部は角部に相当する。口縁部下に1列の円形刺突が巡る。

273～276・278は小型鉢・浅鉢。底部から斜めにほぼ直線的に立ち上がるものが多く、278の底角は張り出す。275・278は内傾接合である。277・279～281は坏である。277は内外面が赤彩される。279・280の口縁部は小波状で、断面は尖る。279は内傾接合である。280は台付き。281はくびれて口縁部が外反する器形で、内面に赤彩が見られる。282～297は小型鉢・浅鉢・坏である。282～288は口縁部が内湾ないし直線的なもので、289～292は外反するもの。両者とも口唇部は尖るものが多い。293～297

は底部で、293・295～297は底角の張り出しがなく、294は底角が張り出す。

298・299は紡錘車で、文様はなく、平坦な円盤の中央に孔のある簡単な作りである。298は厚さ5mmで薄い。300は土製品で断面円形の刻みと円形刺突が見られる。

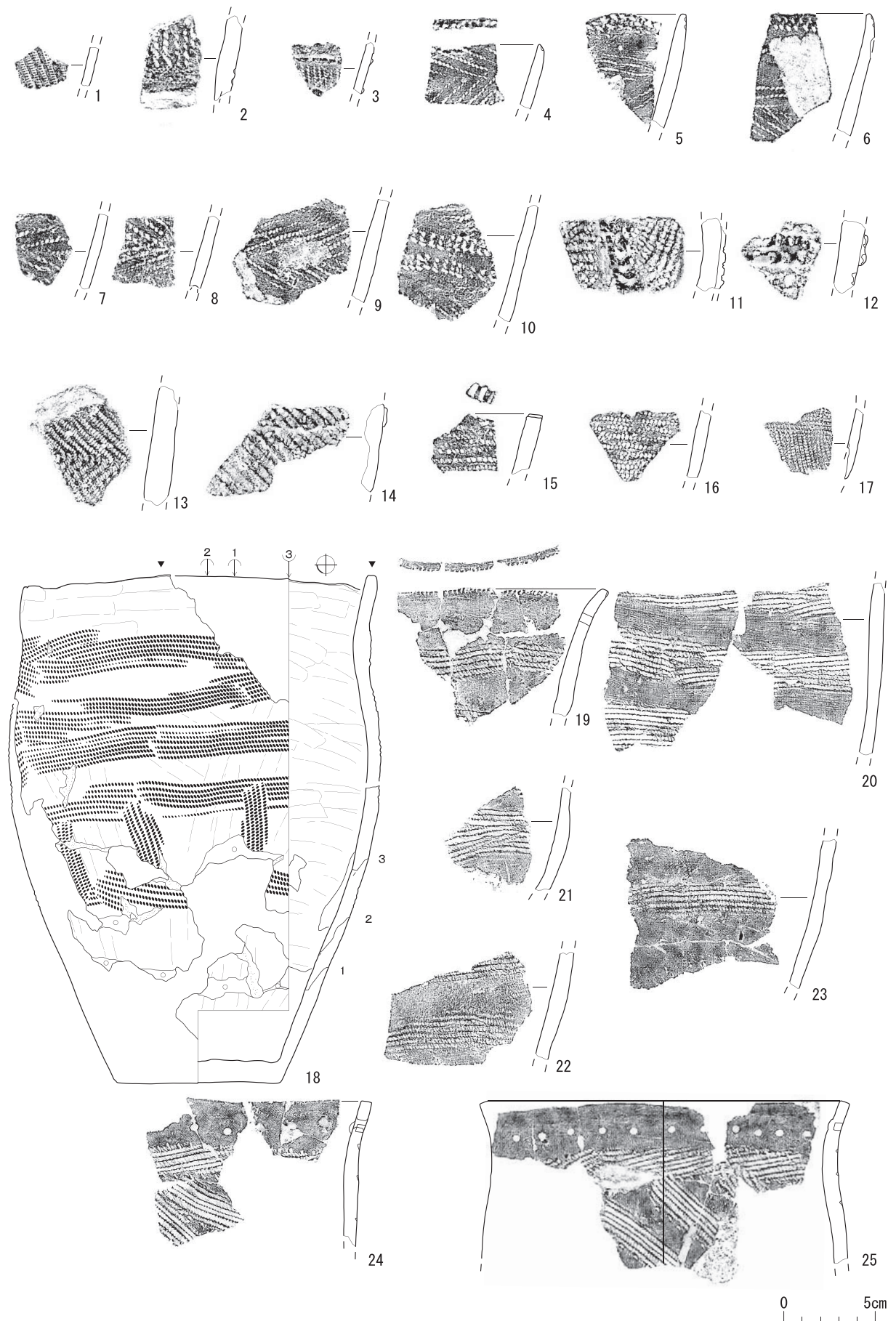
#### VII群 (図IV-22-301～図IV-27-412・414、図版83～85)

301～378は甕である。301～304は無文のもの。301・302は口縁部で外反する。302の口唇部は内外面の横ナデ調整により粘土が盛り上がり、溝状である。301・304は胴部と頸部の間に沈線のある段がある。305～307・309～316は複数の沈線が口縁部と頸部の2段に施文される。沈線は棒状の工具の先端を利用したものと断面が斜めに段状になるものがある。口縁部は大きく外反するが口唇部近くでわずかに内湾する。305の底部は底角が張り出し、内面は胴部から底部に滑らかに移行する。幅1cm程度の粘土紐を積み上げ、内傾の接合面が残る。サワシバ近似種果実と同定された種子圧痕が検出された(V章6)。306の口唇部内外面の角には10か所程度を単位としたキザミ列が12単位施される。306・307には幅1cm強の粘土紐を積み上げた内傾接合が確認できる。308・317～323には口縁部全体に沈線が連続的に施文され、317～320はその間隔が広い。308の口唇部外面には4か所棒状工具の丸い側面を押しつけたようなキザミがあり、325～327にも同様なキザミがある。328～338は頸部・胴部片で、328～330は沈線が2段に分かれるもの、331～338は沈線が連続するもので、338は間隔が広い。339～341は沈線間ないし段上に刺突列のあるもの。339は口縁部で、口唇外面にキザミがあり、口縁部下の沈線間に刺突列が施文される。340～342は頸部の沈線間と胴部との境目の段上に刺突列がある。343は頸部に横走沈線の上に二又の工具を用いた刺突列によって三角形が描かれる。344～346は斜格子状の、347は斜めの沈線が頸部から口縁部に描かれるもので、345～347はその下部が段状で、346・347は刺突列が施される。

348～360は矢羽根状・鋸歯状の沈線や刺突列・貼り付けなどがあるもので、後期に相当するもの。348は胴部が直線的に立ち上がり、口縁部は外屈して内湾する。口縁部には矢羽根状のキザミが施され、胴部には下部に沈線で区画された中に横位の綾杉文を描き、その上部に縦位の沈線を配置した後、鋸歯状の沈線を施文し、三角形の中にさらに斜めに沈線を施文している。349～351は同一個体で文様帯のある胴上部は直線的に立ち上がり、口縁部は直線的に外反する。口縁部は沈線間に綾杉文が描かれ、胴部は下部に馬蹄形の貼り付けが1列添付される。横位の沈線(二本一単位の間)に刺突列がある)で区画された内部に斜行沈線と鋸歯状沈線が交互に描かれる。352・353は口縁部破片で綾杉文がある。354は口縁下部から胴上部破片で、鋸歯状の沈線が施文される。355～357は縦の貼り付けがあるもので、貼り付け上にはキザミがあり、356・357には貼り付け部以外に交差する沈線が描かれる。355は口縁部で、貼り付け部以外は無文である。358は胴部文様帯の下部に横位の貼り付けがあり、馬蹄形風な押捺がなされる。貼り付けの剥がれた部分には下書きと見られる沈線がある。貼り付けの上位には縦横に綾杉状の沈線が描かれる。359には斜行沈線、360には綾杉状の沈線が施文される。

361～378は胴下部から底部にかけての破片である。361・364～366は底角の張り出しがないもの、362・363・367～377は底角が張り出すもの、378は底部縁辺が上げ底状になるものである。376は底が厚く、内面は側面から底面にかけて滑らかである。377は張り出しが特に強い。

379～400は坏である。379～393は無文で、底部はほぼ平坦で沈線によって段をなして斜めに立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。384は内傾接合、392・393は凹底である。394～400は綾杉文ないしそれに類する沈線の描かれるもので、口縁部である394～396の沈線で区画された上部は無文帯で、外反する。401～409は台のある底部で、408の高台には鋸歯状の透かしがある。409には馬蹄形の押捺

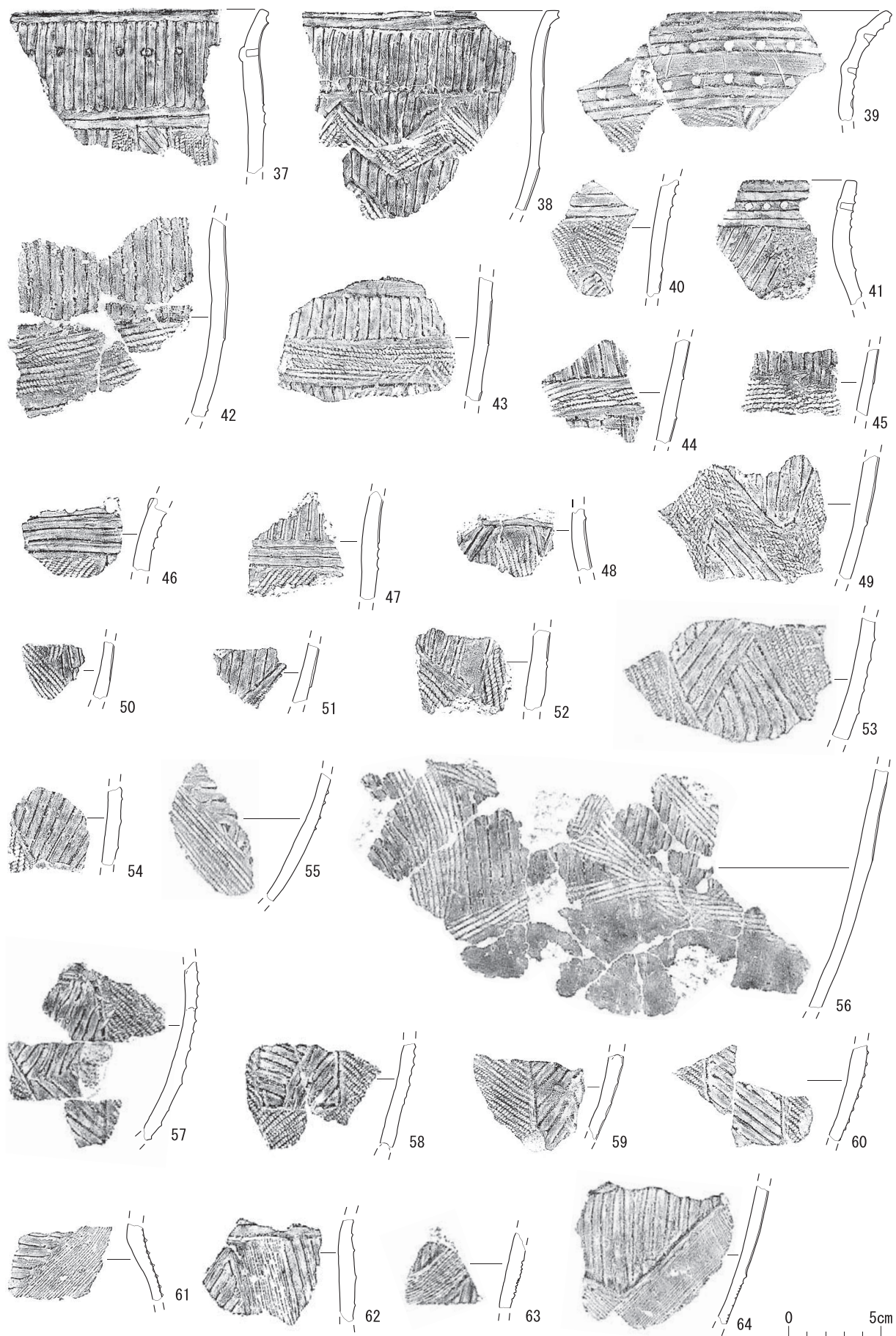


図IV-6 遺構・包含層出土土器(1)

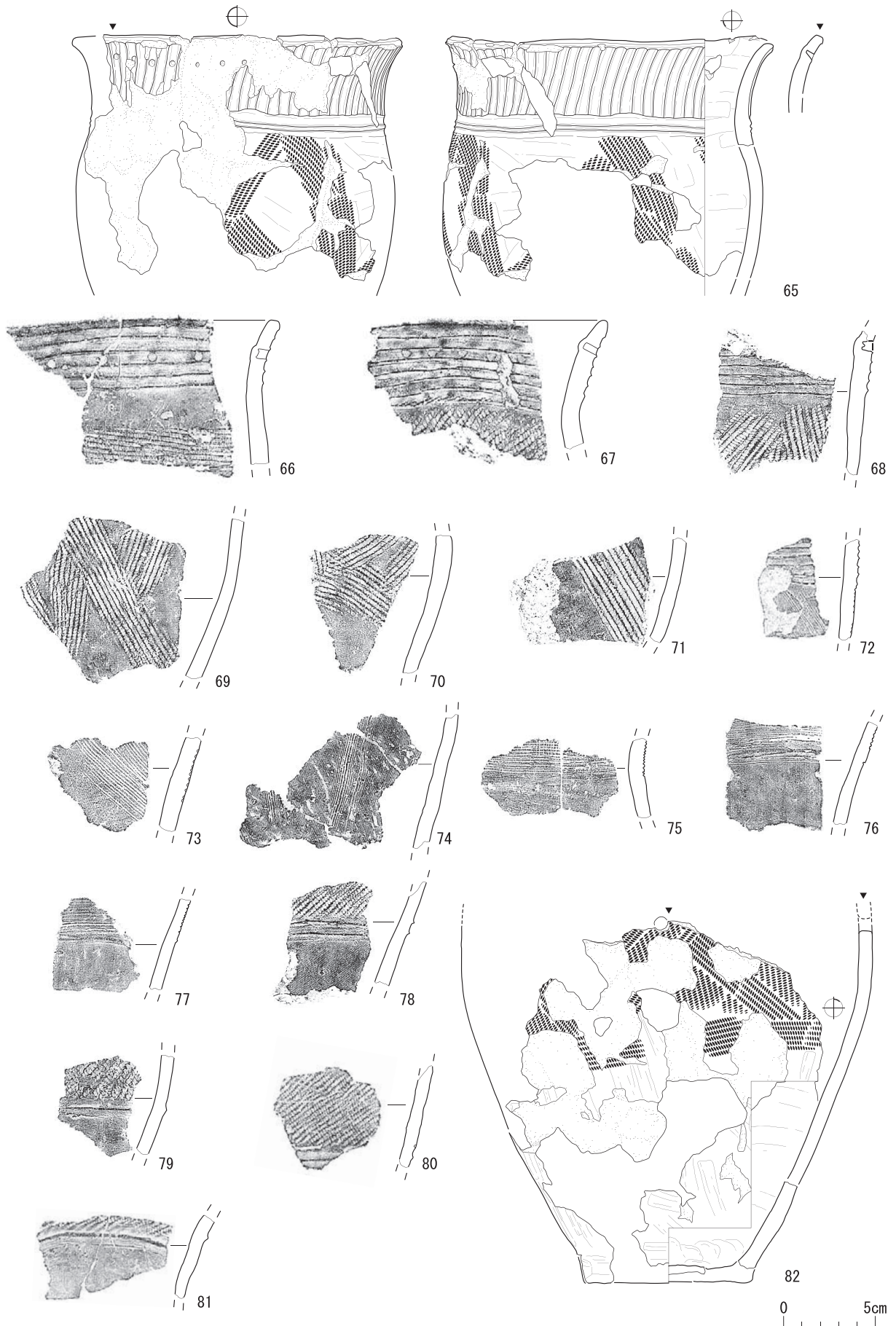




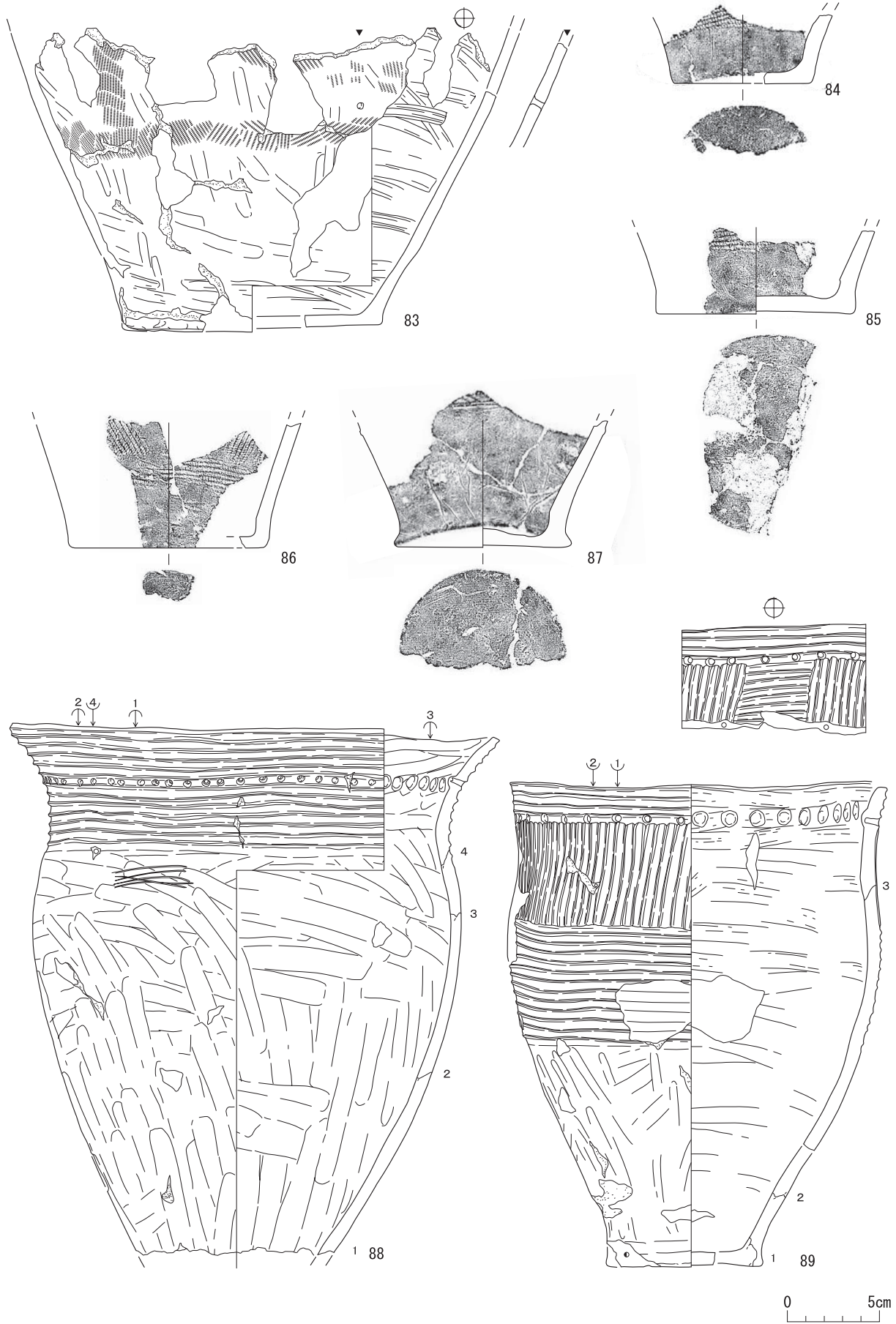
図IV-7 遺構・包含層出土土器(2)



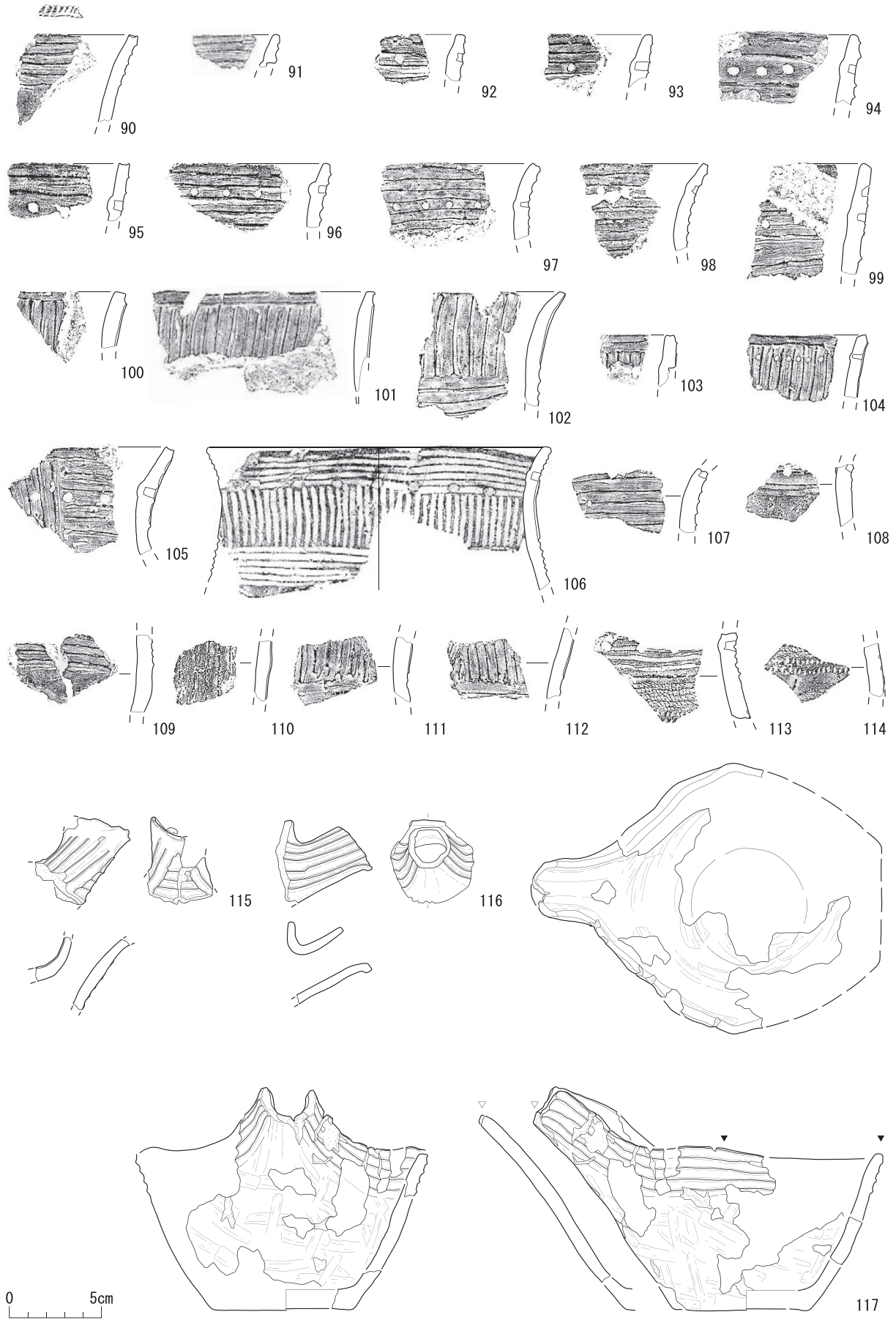
図IV-8 遺構・包含層出土土器(3)



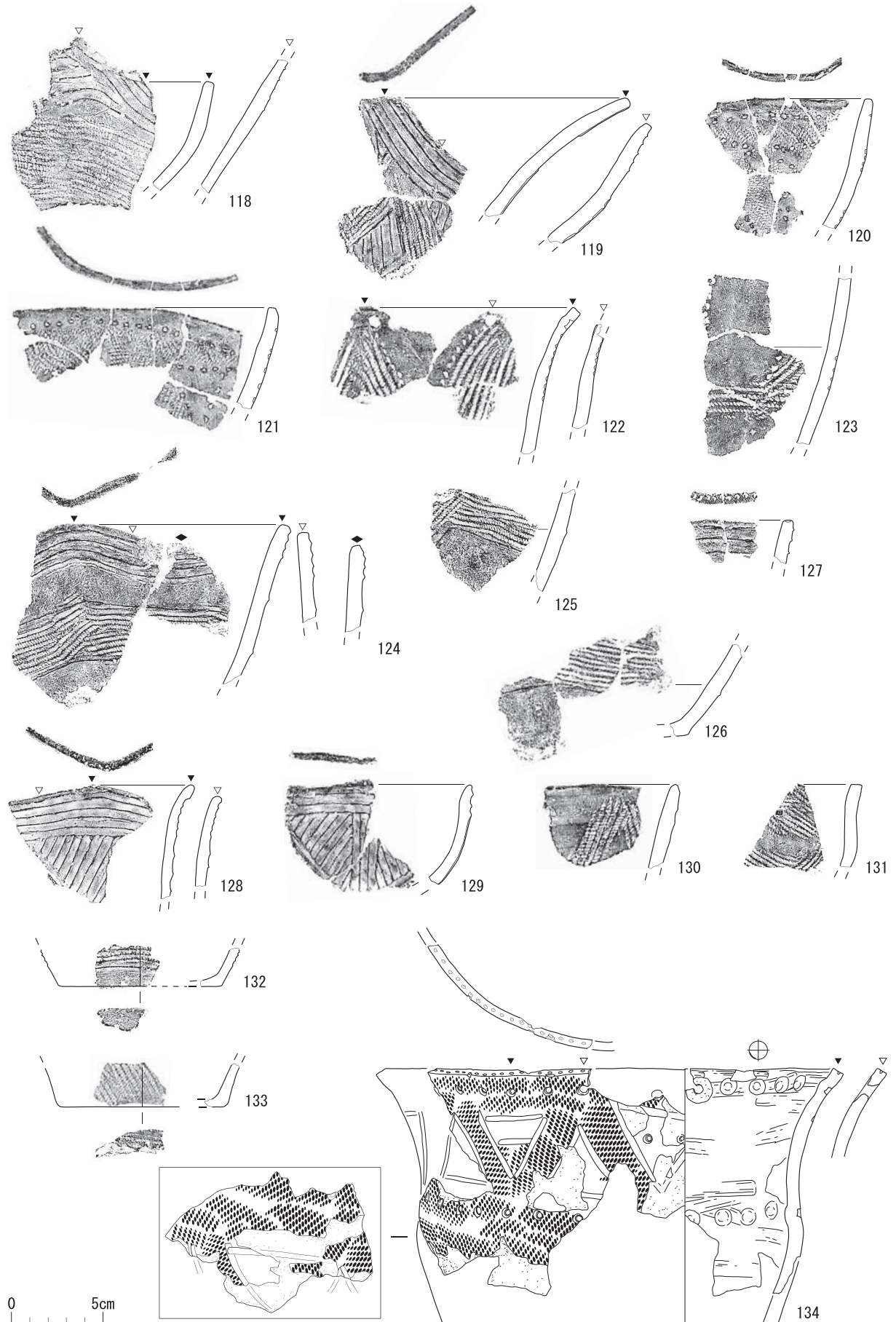
図IV-9 遺構・包含層出土土器(4)



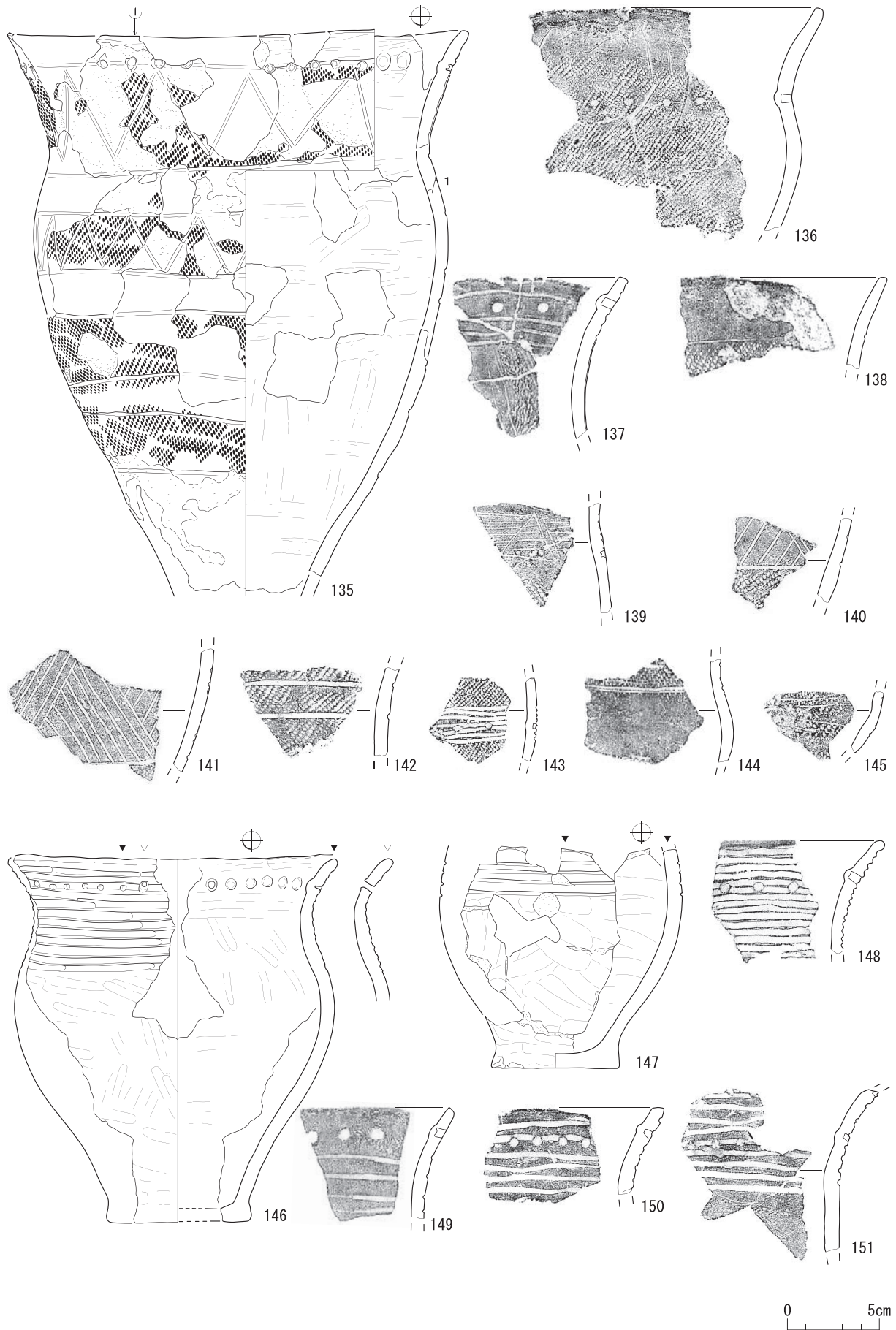
図IV-10 遺構・包含層出土土器(5)



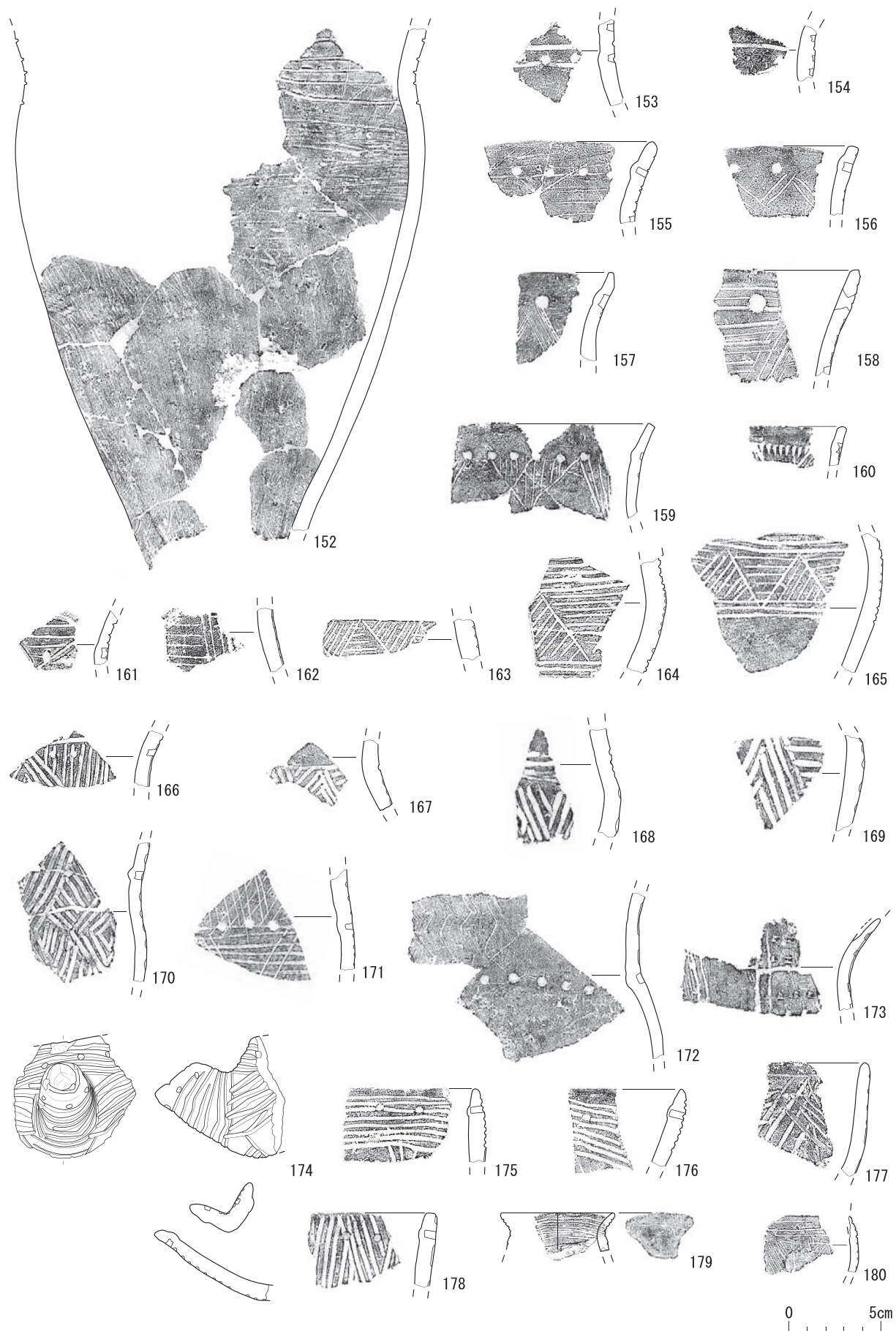
図IV-11 遺構・包含層出土土器(6)



图IV-12 遺構・包含層出土土器(7)

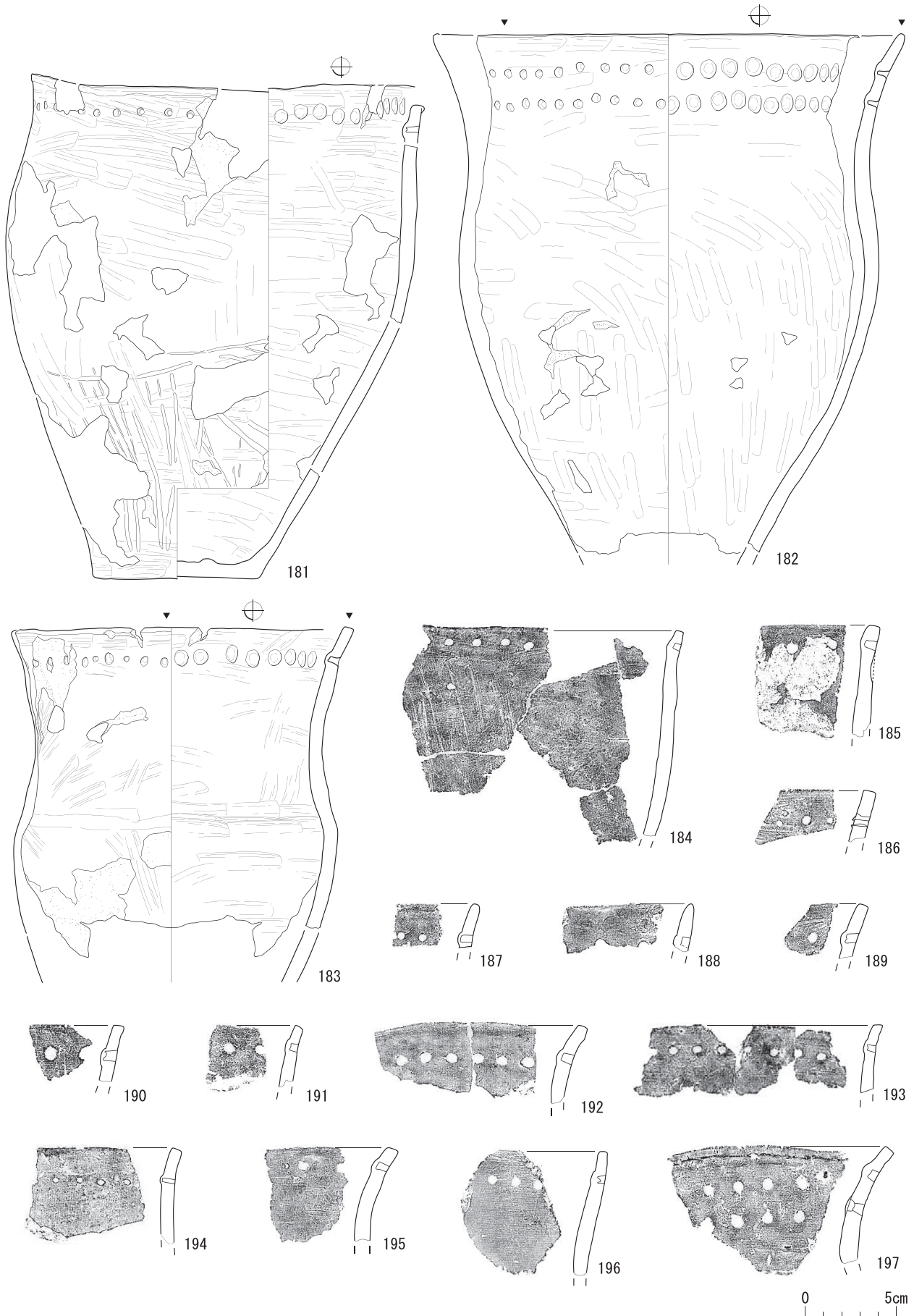


図IV-13 遺構・包含層出土土器(8)

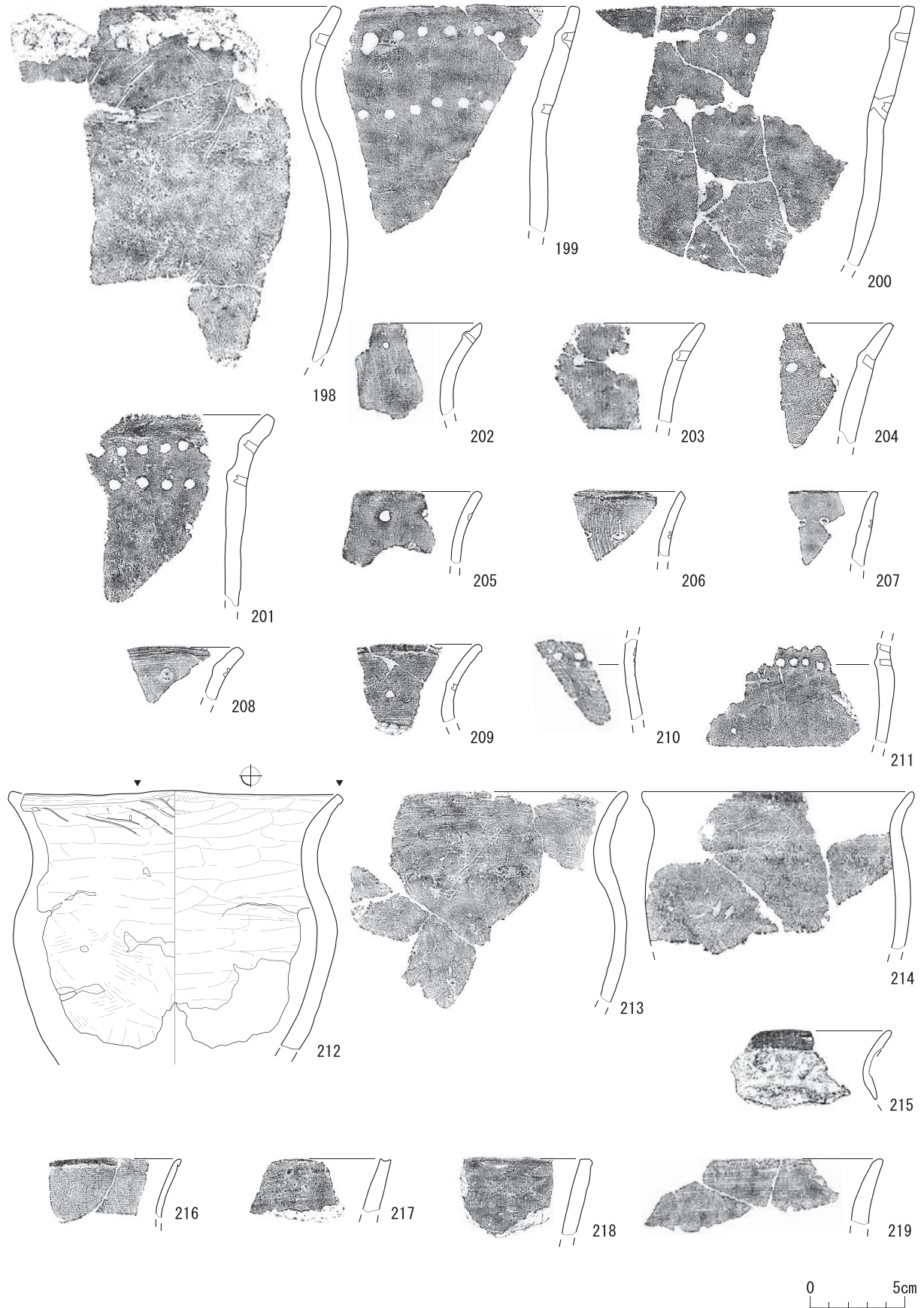


図IV-14 遺構・包含層出土土器(9)

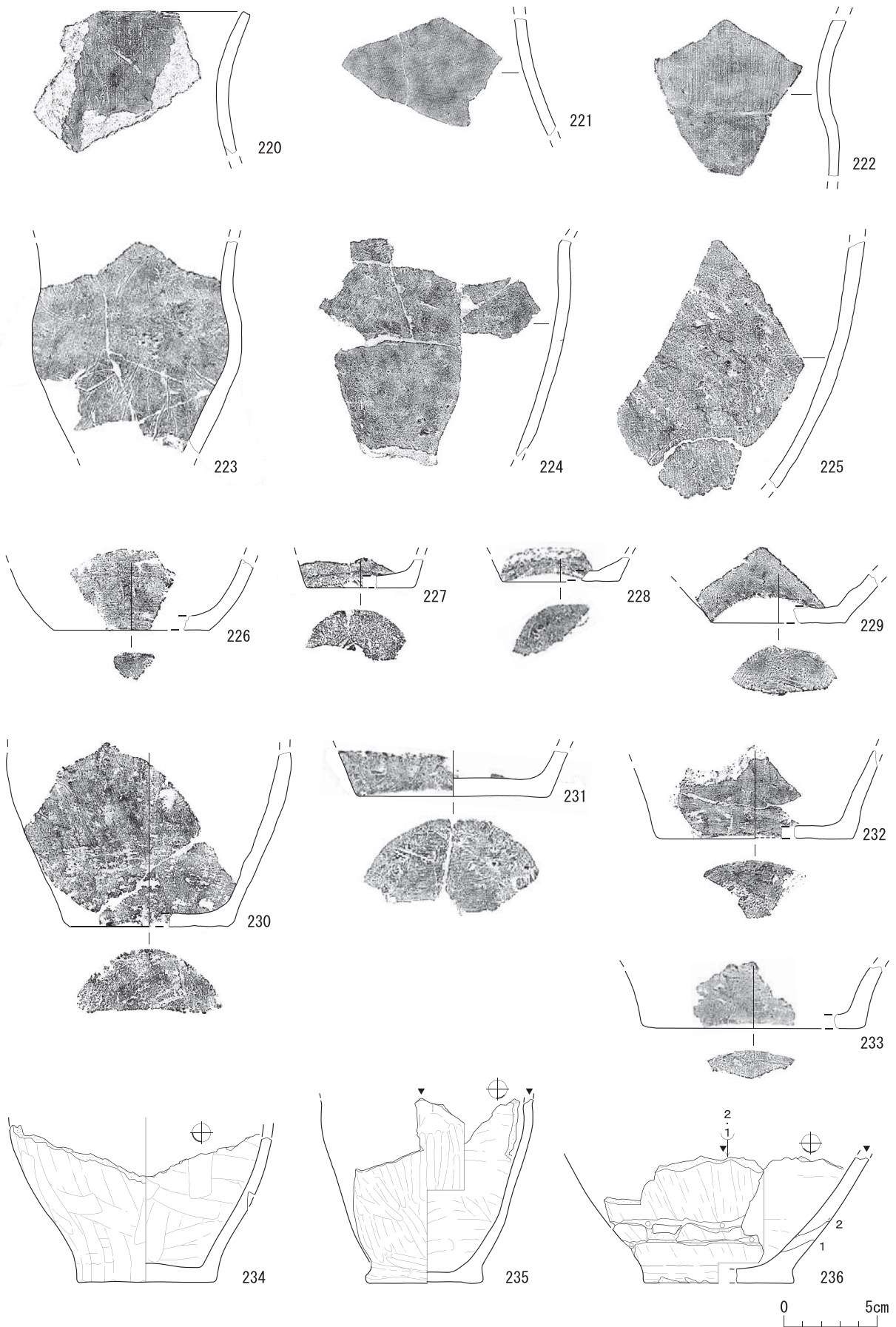




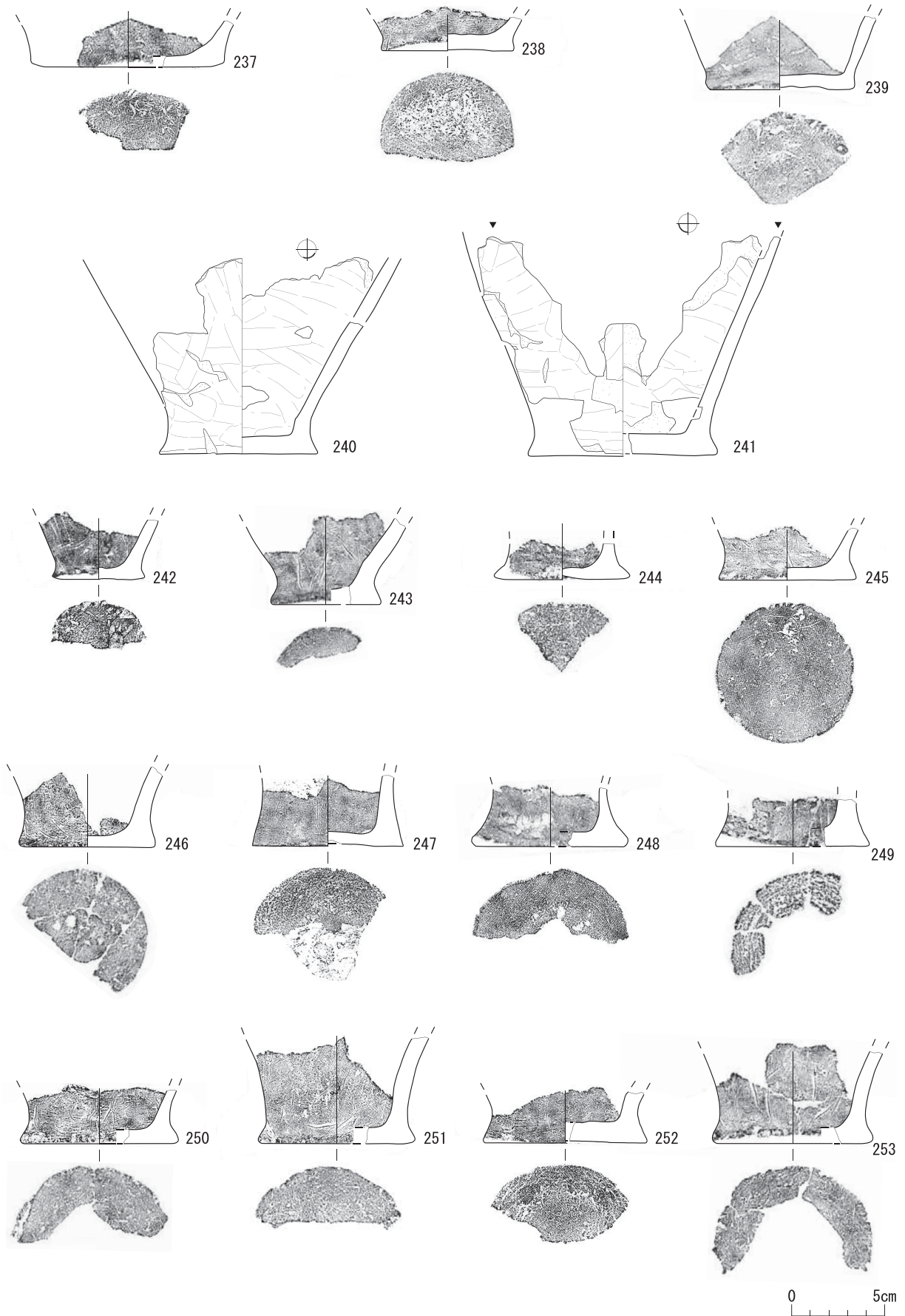
図IV-15 遺構・包含層出土土器(10)



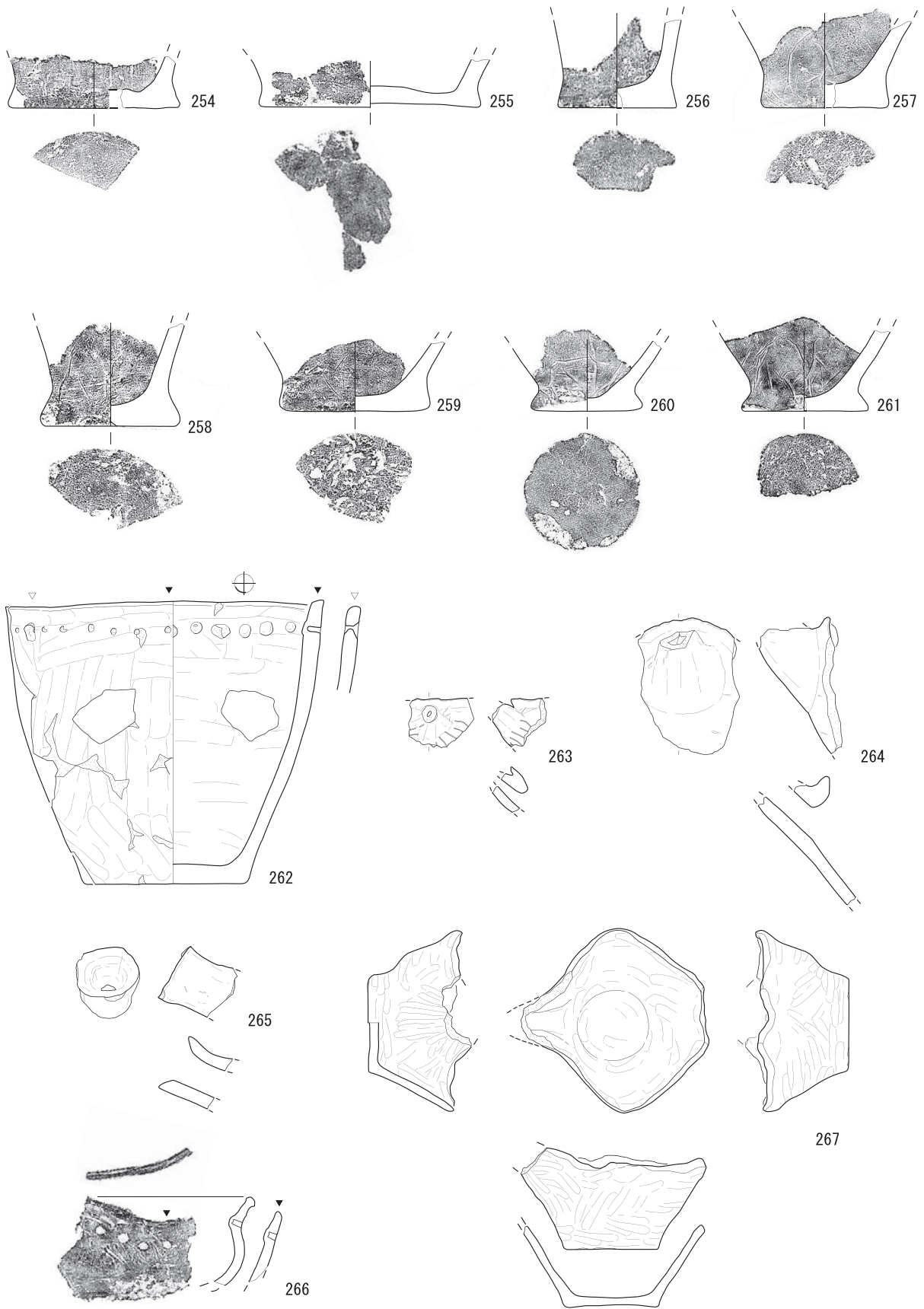
図IV-16 遺構・包含層出土土器(11)



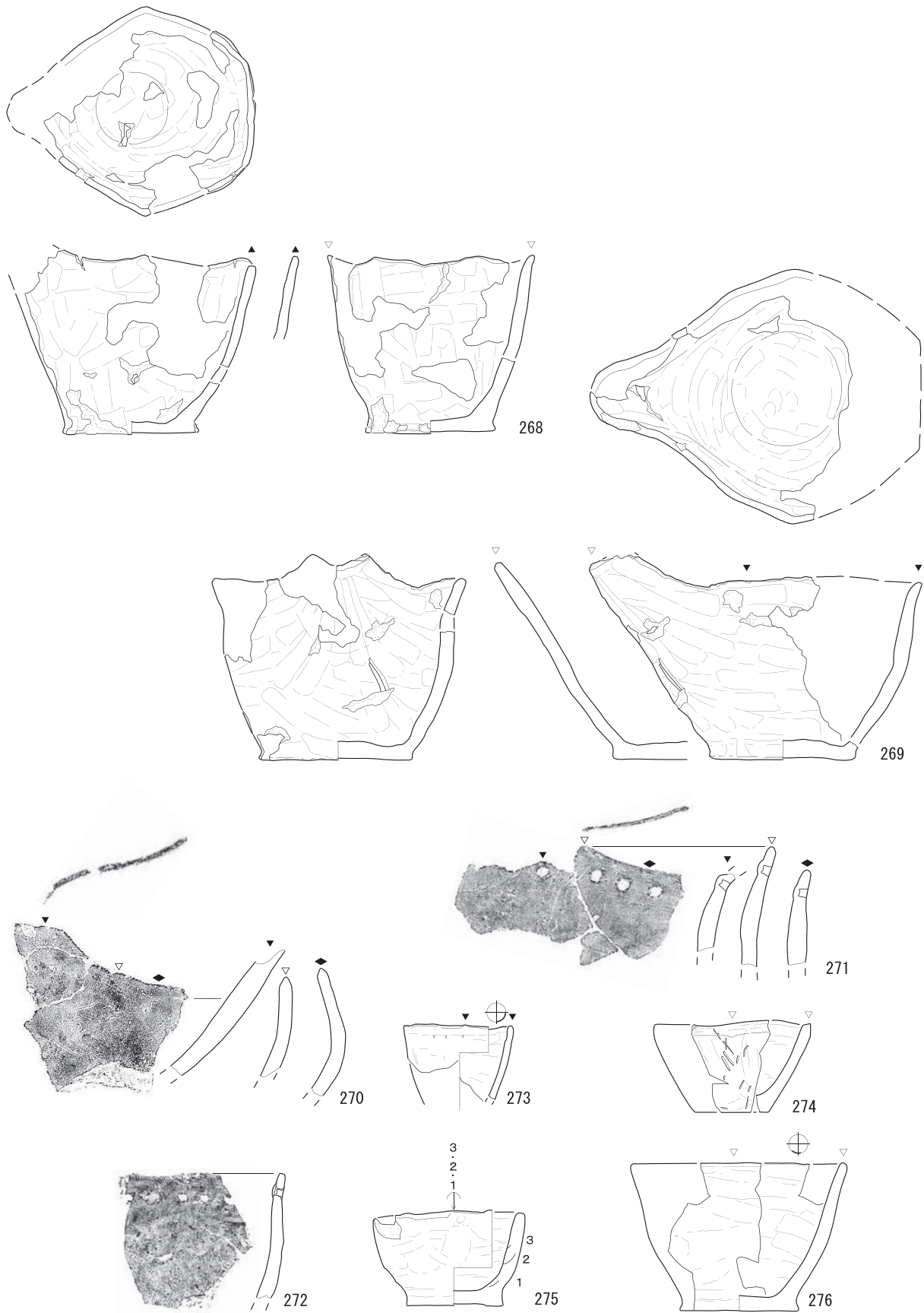
図IV-17 遺構・包含層出土土器(12)



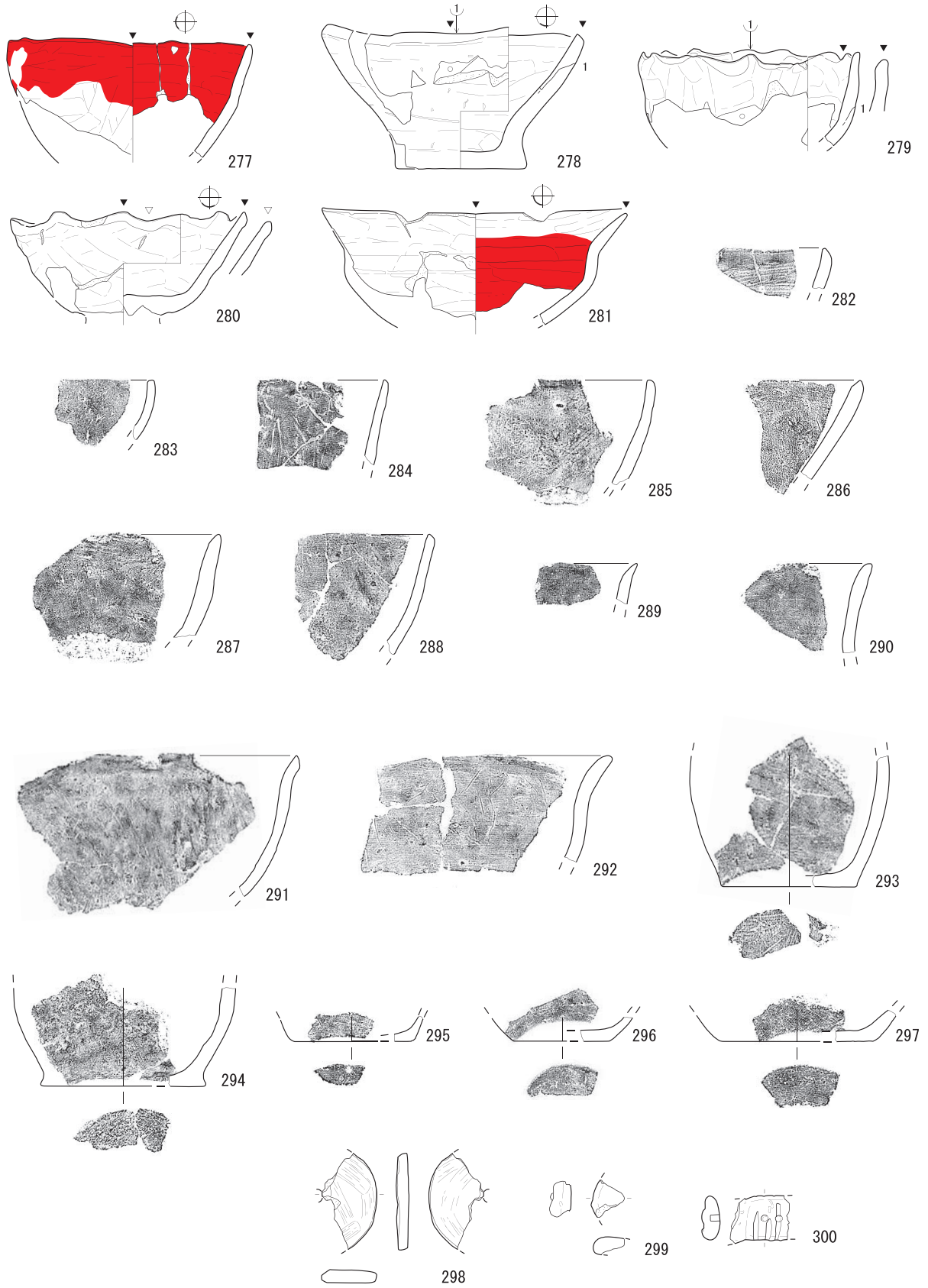
図IV-18 遺構・包含層出土土器(13)



図IV-19 遺構・包含層出土土器(14)

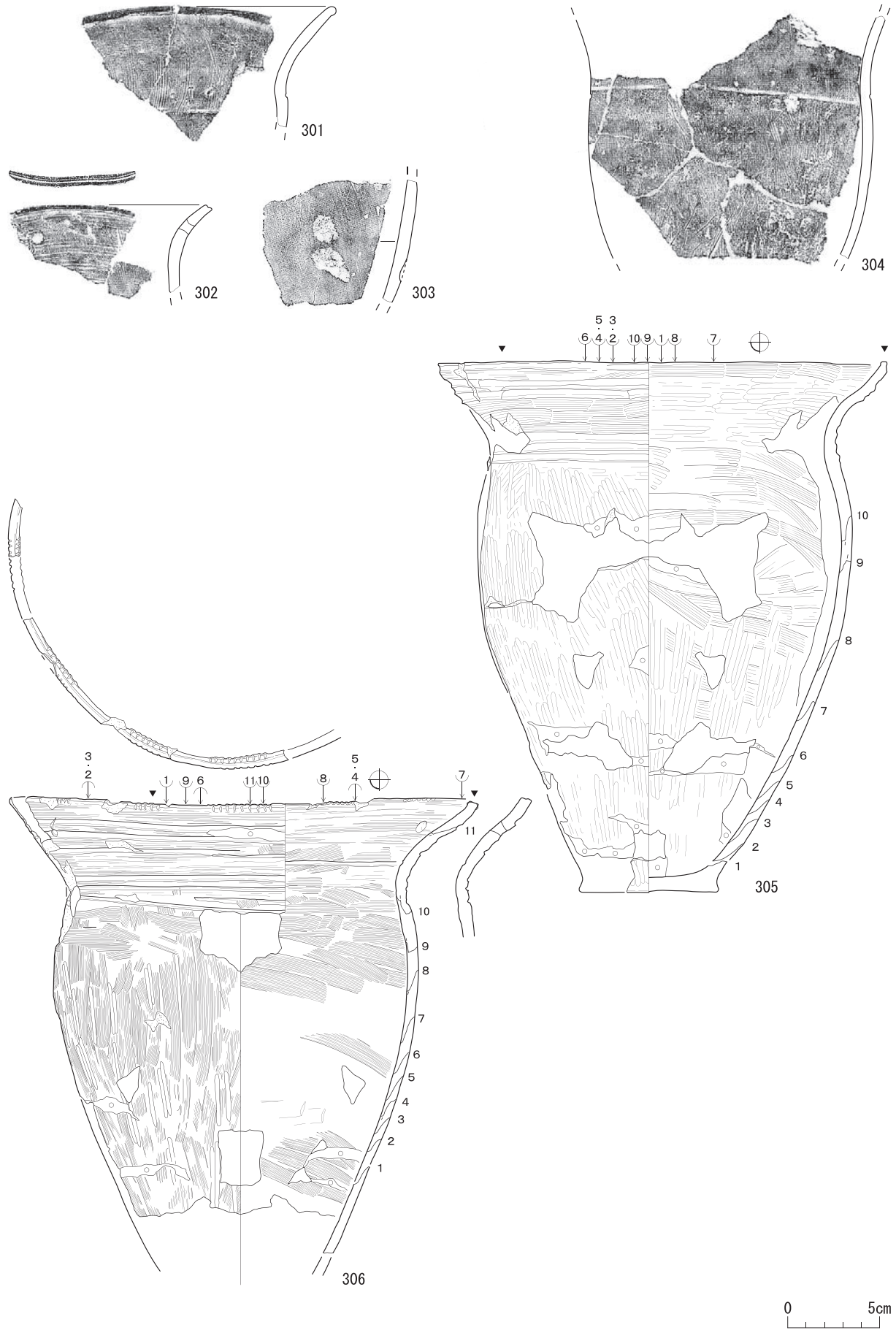


図IV-20 遺構・包含層出土土器(15)



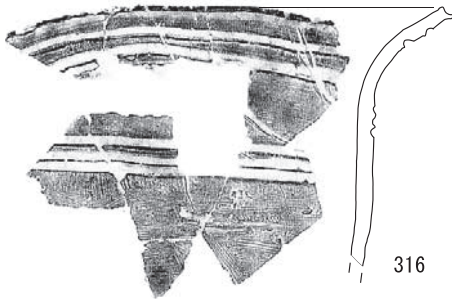
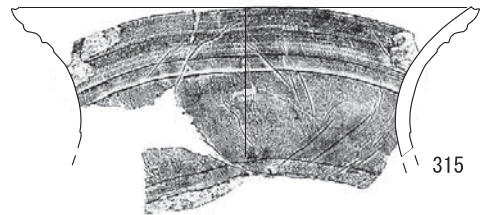
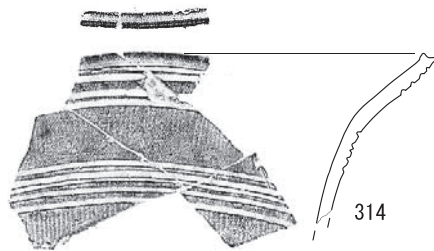
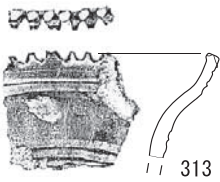
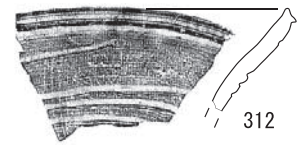
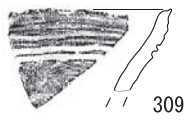
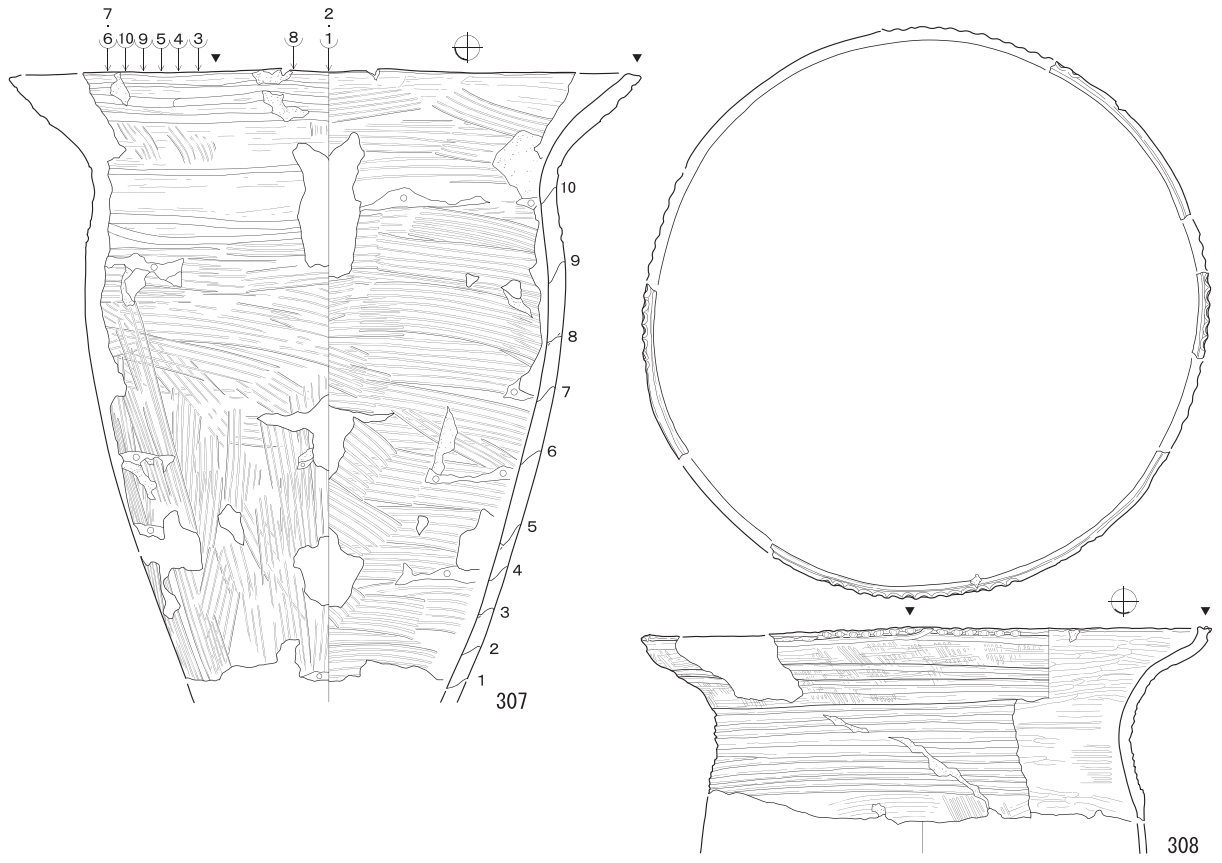
0 5cm

図IV-21 遺構・包含層出土土器(16)



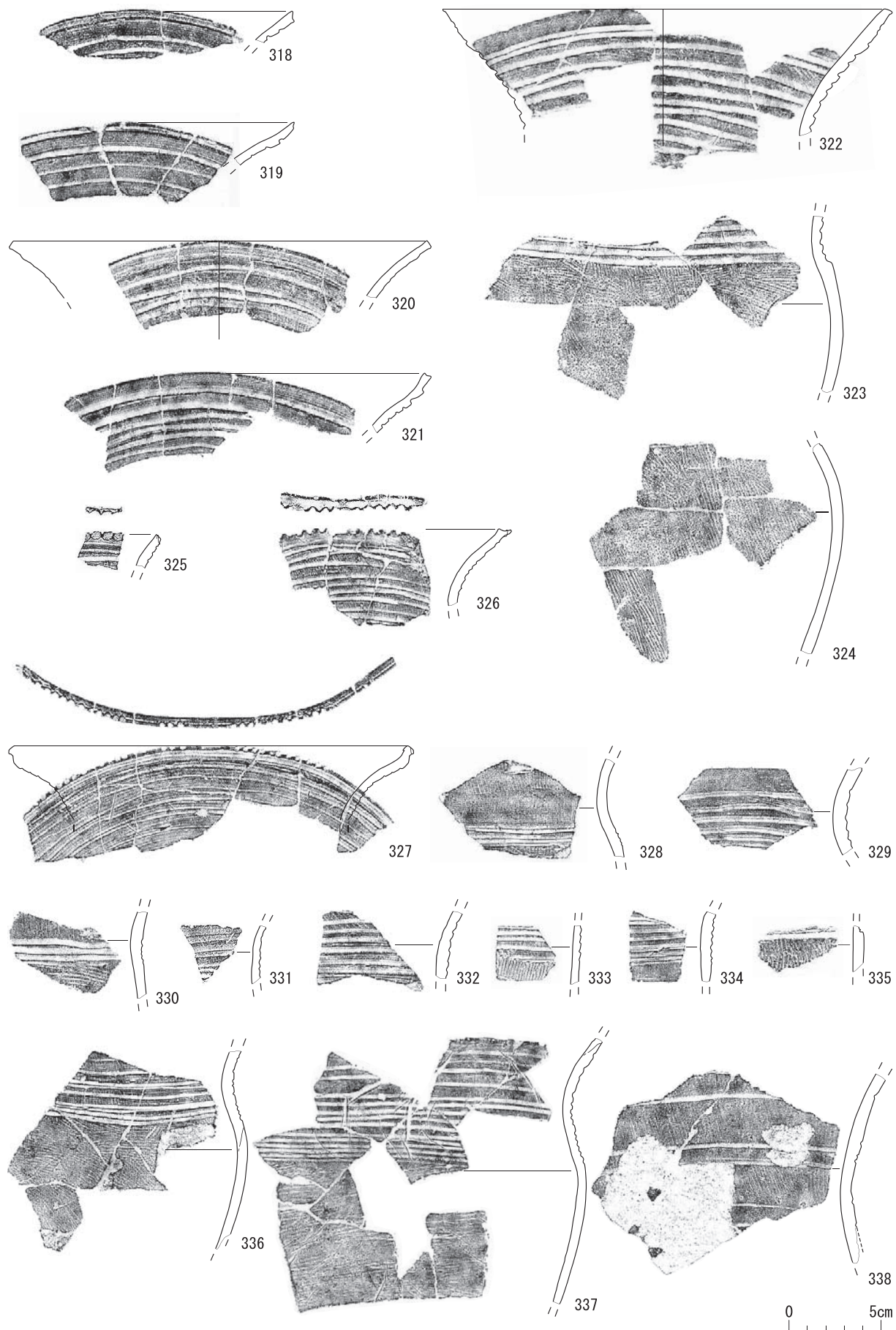
図IV-22 遺構・包含層出土土器(17)



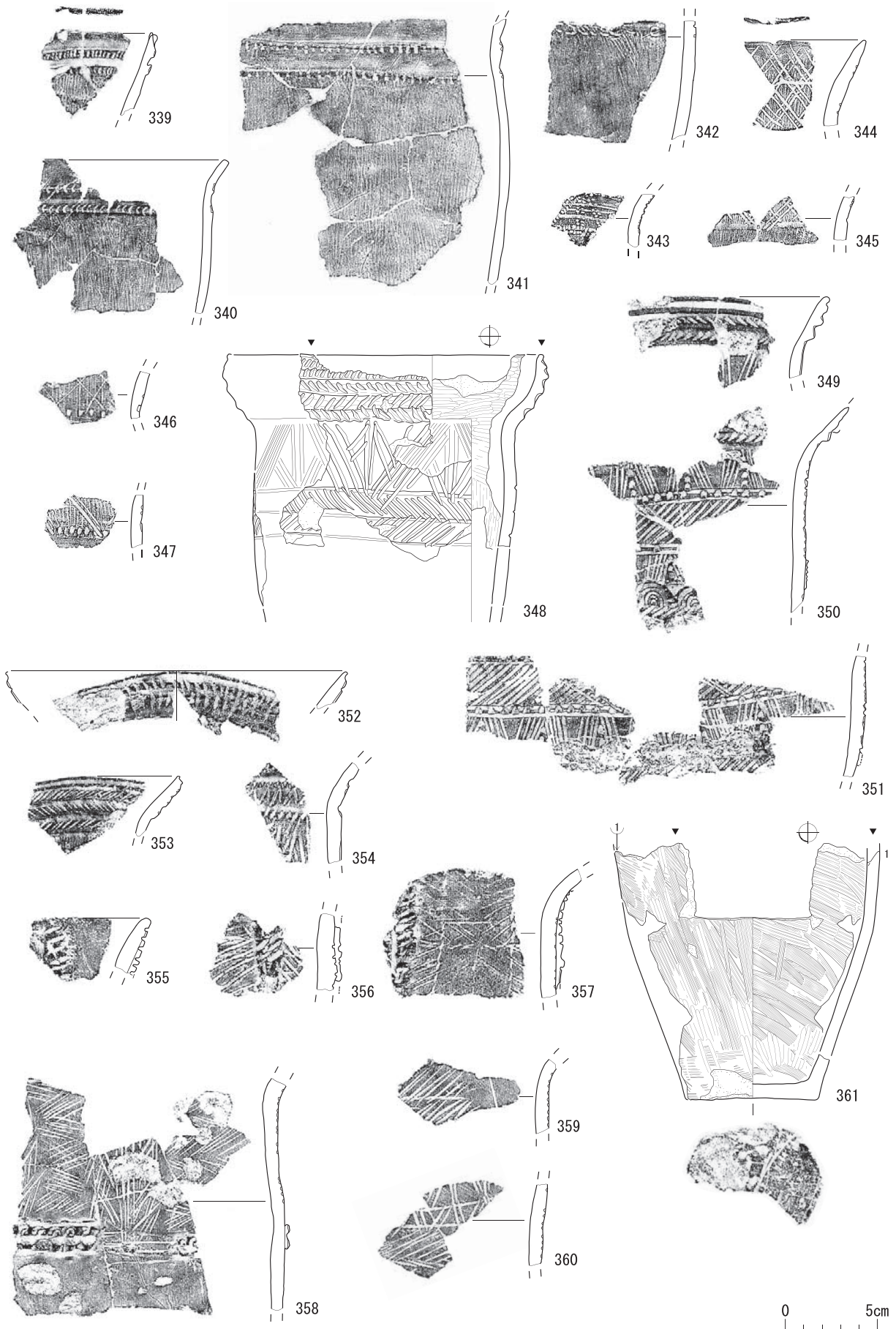


0 5cm

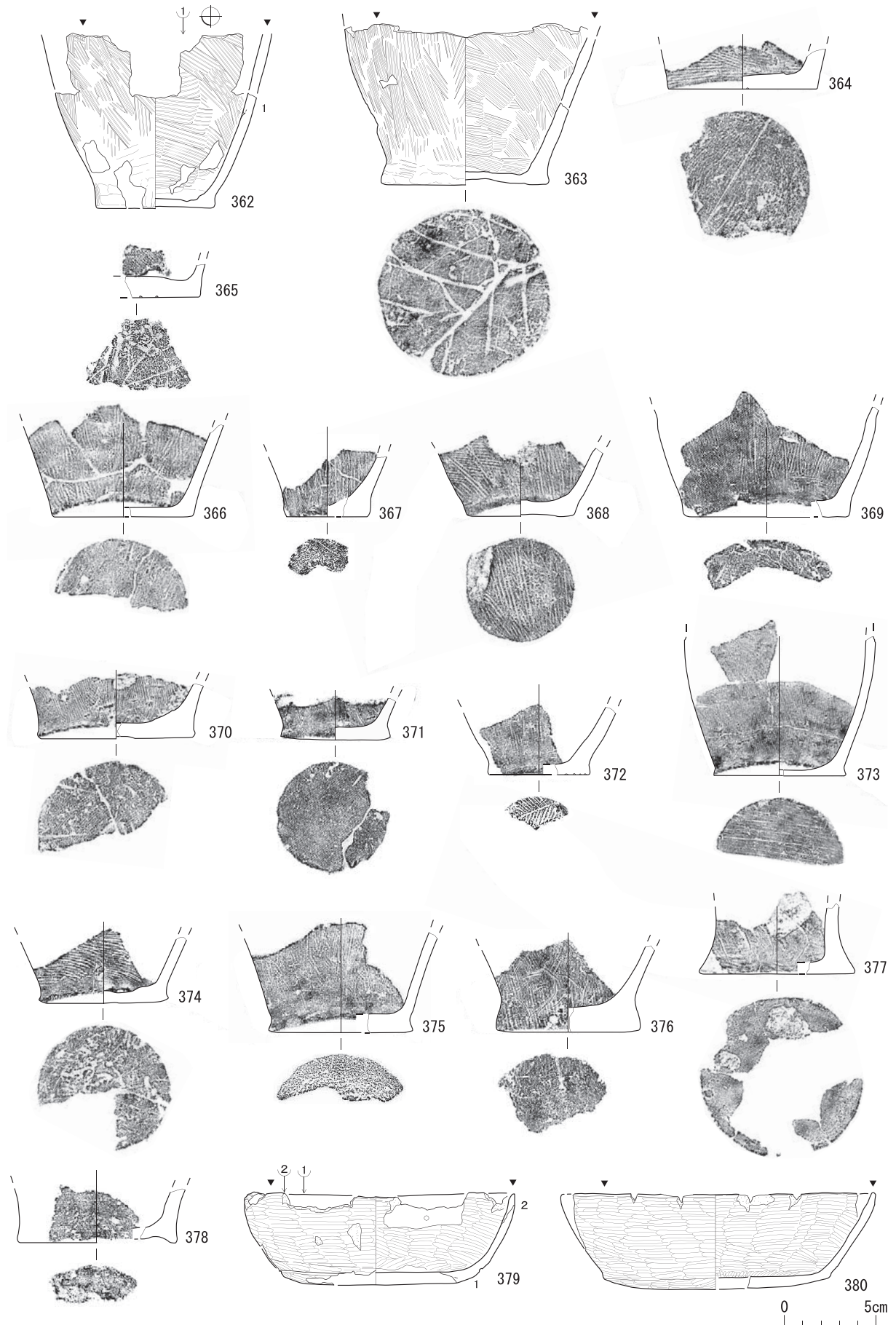
図IV-23 遺構・包含層出土土器(18)



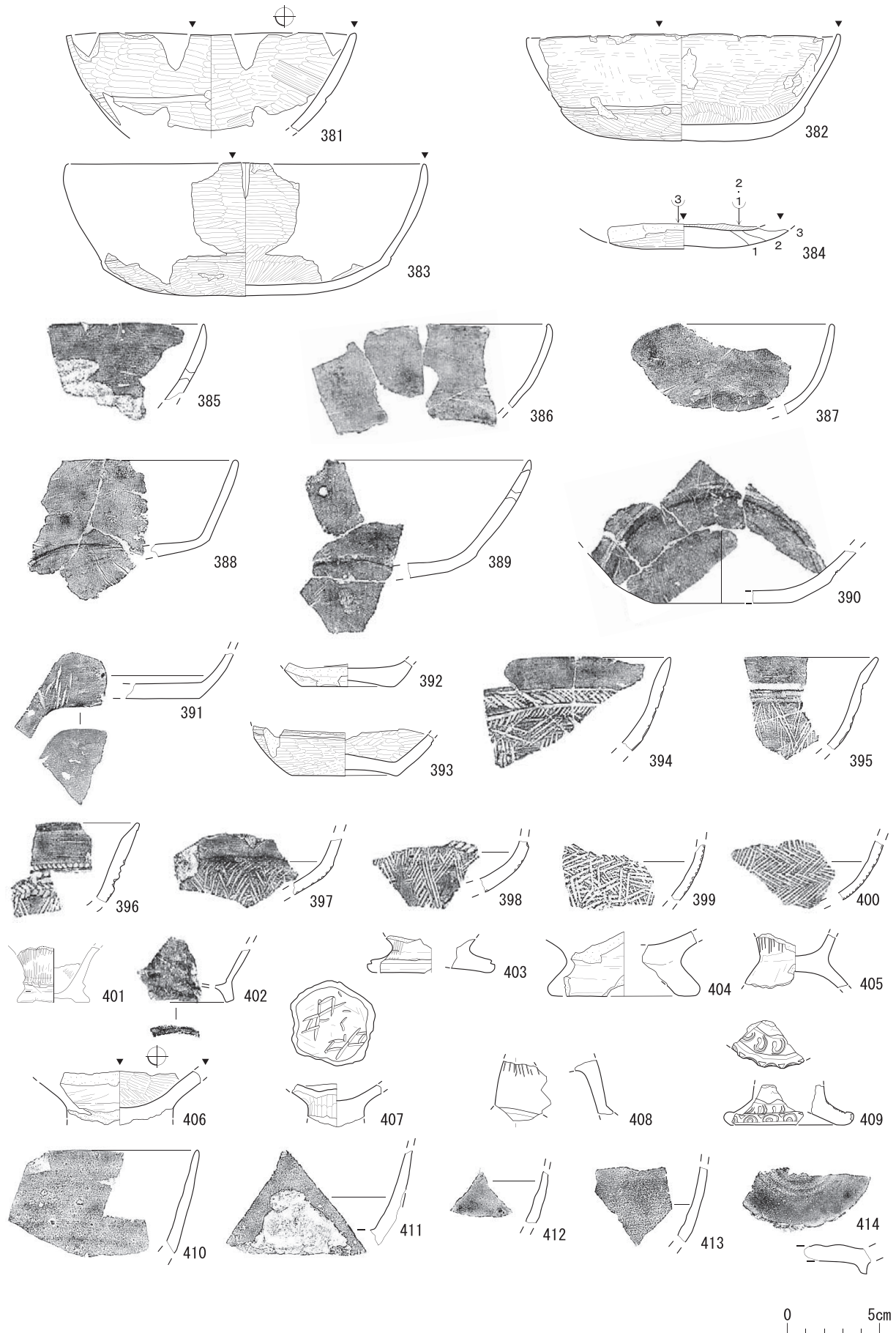
図IV-24 遺構・包含層出土土器(19)



図IV-25 遺構・包含層出土土器(20)



図IV-26 遺構・包含層出土土器(21)



図IV-27 遺構・包含層出土土器(22)

がある。410～412・414は須恵器。410～414は坏で、414には低い高台が付く。

### VIII群 (図IV-27-413、図版85)

413は陶磁器である。

(鈴木宏行)

## 3 石器・石製品

### 石鏃 (図IV-28-1～15、図版86)

16点 (遺構4点、包含層12点) 出土し、全て黒曜石製である。15点を図示した。

1～15は全て黒曜石製。1～7は有茎で、1・2は側縁が内湾する明瞭な茎部が作出され、3～7の茎部は三角形である。5の側縁・正面中央・裏面中央には研磨による磨滅が見られる。8～15は無茎で、8はやや幅が狭く、15は側縁がわずかに内湾する。8・9・12は裏面に素材面が残る。黒曜石産地分析の結果 (V章3)、4は白滝2 (HD-X5) と判定された。

### 両面調整石器 (図IV-28-16、図版86)

6点 (遺構1点、包含層5点) 出土し、黒曜石製5点、泥岩製1点である。1点を図示した。16は黒曜石製で、右側縁は円形に近く、直線的な左側縁には原礫面が残る。

### 石槍 (図IV-28-17・18、図版86)

2点 (包含層2点) 出土し、黒曜石製である。2点を図示した。17は木葉形の比較的整った形状である。18はやや粗い加工で覆われ、上部は欠損している。

### つまみ付きナイフ (図IV-28-19・20、図版86)

3点 (遺構2点、包含層1点) 出土している。全て頁岩製である。2点を図示した。19・20は頁岩製である。両者とも縦形で、右側縁に急角度の加工が施され、19の左側縁は平坦な加工である。19の裏面右側縁には正面の加工の打面として微細な加工が施される。

### スクレイパー (図IV-28-21～図IV-31-96、図版86・87)

124点 (遺構34点、包含層90点) 出土し、黒曜石製124点、頁岩製1点、片岩製1点である。76点を図示した。21～68は周縁加工の円形ないしそれに準じる形態のもの。21～35には転礫面が残り、21～27は素材背面が加工面を除いて原礫面で覆われ、28～32は部分的に覆われる。裏面に残る素材腹面は平坦でリングが密集する特徴が多くに観察されることから小型の球形に近い転礫を両極剥離によって分割した素材が利用されている。

33～35はフリーレイキングによって剥離された素材で、33・34は打面に転礫面が、35は背面の一部に転礫面が残る。転礫を利用したものは両極剥離によるものが多く、フリーレイキングによるものが少ないことから転礫は両極剥離による剥片剥離が主体的で、分割後はフリーレイキングが行われたものと考えられる。27は分割され、腹面側で剥片剥離が行われた後、スクレイパーの加工が施される。刃部は素材の先端部に作出されるものが多いが、側縁を利用する場合もある。

36～56には角礫面が残り、36～43は素材背面が原礫面で覆われるもので、44～50は素材打面に原礫面が残るもの、51～56は素材背面の一部に原礫面が残るものである。原礫面が背面を覆うものを含め、フリーレイキングによる素材が多いことから角礫にはフリーレイキングによる剥片剥離が主体的に行われ、形状によっては両極剥離が行われたものと思われる。

57～68には原礫面が残存せず、素材は剥離の進行した段階の石核から剥離されたものである。礫面が残存するものに比べ量は少なく、原石の大きさが小さいため原礫面の残存する素材が少なかったと考えられる。これら素材は、フリーレイキングのものも多く、角礫主体と思われる。

転礫面・角礫面残存の比率は角礫がやや多く、石材の利用比率を示しているとみられる。

69・70は表裏両面に刃部のあるものである。刃部は反対の縁辺に位置し、背面側に作出後、腹面に作出される。71～78は縦長のものでやや不定形な素材も含まれる。78は片岩製で、横長剥片の側縁に刃部が作出される。79・80は刃部が素材背面の打面側にあるもので、79は素材先端側が厚く、刃部作出に適さなかったとみられる。81～86は不定形なもので素材の側縁に刃部のあるもの。87～89は素材の腹面側に刃部が作出される。90～95は円形～縦長の素材長辺に加工が行われるもの。96は素材の末端部に内湾する加工が行われる。

黒曜石産地分析の結果、転礫面の残る25 (HD-X12)、26 (HD-X10) は「上土幌」、角礫面の残る39 (HD-X3)、40 (HD-X9)、43 (HD-X13)、47 (HD-X1) は「赤井川」、原礫面の無い69 (HD-X14) は「白滝」と判定された。転礫は上土幌産、角礫は赤井川産で、転礫は小型で球形に近い形状であることから十勝川の中・下流域で、角礫は赤井川周辺で採集されたものと思われる。

#### 石錐 (図IV-31-97、図版87)

1点 (包含層1点) 出土し、黒曜石製である。1点図示した。97は両面調整素材の端部に尖頭状の鋭い刃部が作出されている。

#### 楔形石器 (図IV-31-98～図IV-32-131、図版87)

63点 (遺構17点、包含層46点) 出土し、全て黒曜石である。34点を図示した。98～107はフリーフレイキングで剥離された非両極剥片 (素材腹面が残存する) を素材としたもので、98～101には転礫面が残る。108～114は両極剥離の特徴である平坦な腹面が残る両極剥片を素材としたもので、108～111には転礫面が、112～114には角礫面が残る。115～120はスクレイパーを素材として両極剥離したものの。115・116は縦方向に二分され、117～120は表面が剥落している。116は素材打面に角礫面が残る。いずれもスクレイパーの刃部が残存し、スクレイパーとして機能した後に両極剥離が行われたものとみられる。121～125は両極剥離によって分割された石核を素材としたもので、全て転礫面が残る。126はフリーフレイキングの石核素材で、角礫面が残る。127～134は全面が剥離面で覆われ、素材不明なもの。

黒曜石産地分析の結果、102 (HD-X7) は「白滝1」、108 (HD-X8) は「赤井川」、109 (HD-X6)、118 (HD-X2) は「上土幌」と判定された。

#### 二次加工ある剥片 (図IV-32-132・133、図版87)

50点 (遺構12点、包含層38点) 出土している。全て黒曜石製である。2点を図示した。132・133は転礫面が残る、132は腹面に、133は背面にやや粗い加工が施される。

#### 剥片

3,052点 (遺構657点、包含層2,395点) 出土している。黒曜石2,954点、片岩21点、緑色泥岩16点、砂岩5点、チャート3点、頁岩7点、めのう4点、安山岩16点、凝灰岩2点、泥岩24点である。黒曜石製が圧倒的に多く、石核や剥片石器の比率と一致する。大型剥片は含まれず、遺跡に搬入された小型原石や剥片や石核から剥離されたものと思われる。

#### 石核 (図IV-32-134～図IV-33-168、図版87・88)

89点 (遺構20点、包含層69点) 出土している。黒曜石製87点、チャート製1点、泥岩製1点である。35点を図示した。134～140は裏面に原礫面が残る、単一の作業面で主に単設打面から剥離が行われるもので、作業面は平坦で、高さに比べ幅広である。134～139は原礫面打面、140・141は単剥離面打面である。134～137・140には転礫面、138・139には角礫面が残る。140はやや大型の原石から剥離された剥片素材である。

142～148は裏面に原礫面が残り、主に単一の作業面で求心状の剥離が行われるもの。142～144には転礫面、145～148には角礫面が残る。

149～155は表裏両面で求心状の剥離が行われるもので、円盤状を呈する。149～151・153・155には転礫面が残る。

156～159は単設の単剥離打面から剥離が行われ、作業面が石核全周を巡るもの。打角は90度に近く、円柱から舟形の形状を呈する。157・158には角礫面、159には転礫面が残る。

160～163は156～159と同様の特徴を持ち、打面が複剥離打面のもの。160～162は角礫面が残る。

164～168は打面と作業面の転移が頻繁で、複数の作業面があり、立体的なもの。168には転礫面、165・166には角礫面が残る。

石核からはいずれもスクレイパーの素材となるような小型の剥片が剥離されている。

黒曜石産地分析の結果、135 (HD-X21)は「不明」、136 (HD-X24)・137 (HD-X23)・138 (HD-X25)、139 (HD-X19)・145 (HD-X15)・147 (HD-X17)・153 (HD-X20)・158 (HD-X28)・159 (HD-X27)・163 (HD-X16)は「赤井川」、160 (HD-X18)は「赤井川?」、140 (HD-X4)・155 (HD-X26)・168 (HD-X29)は「上土幌」、149 (HD-X22)は「白滝1」、167 (HD-X30)は「所山」と判定された。

#### 石斧 (図Ⅳ-34-169～175、図版88)

13点(遺構4点、包含層9点)出土し、緑色泥岩製6点、片岩製5点、泥岩製2点である。7点を図示した。169・172・173は緑色泥岩、170・174は泥岩、171・175は片岩製である。169～172はほぼ全面に研磨の見られるもので、169・170は刃部側、172・173は基部側の破片、171は小型の完形品である。169には擦り切り痕が残り、刃部・右側縁・上部折れ面には研磨面を切る剥離がある。173は周縁部が敲打によって整形される。174・175は部分的に研磨されるもので、174は縁辺のみ、175は刃部のみ調整される。

#### 擦切残片 (図Ⅳ-34-176、図版88)

1点(包含層1点)出土し、ロジン岩製である。1点を図示した。176は右側縁の両面に擦り切り痕があり、切断されている。両面に原礫面を残すが、広い範囲に擦痕がある。

#### たたき石 (図Ⅳ-35-177～182、図版88)

16点(遺構6点、包含層10点)出土し、砂岩製10点、安山岩製2点、角閃岩製1点、泥岩製3点である。6点を図示した。177～179は断面三角形に近い棒状の素材で、177～179の端部には敲打痕がある。177は側縁に敲打痕と横方向の擦痕があり、178は上端部の敲打によって縦折れが生じている。180は扁平な短冊状の素材で端部側縁に敲打痕がある。181は「方割石」と呼ばれる扁平な礫を分割した素材で、角に敲打痕がある。182は楕円体の素材で、両端部と正面中央に敲打痕がある。

#### すり石 (図Ⅳ-36-183～186、図版88・89)

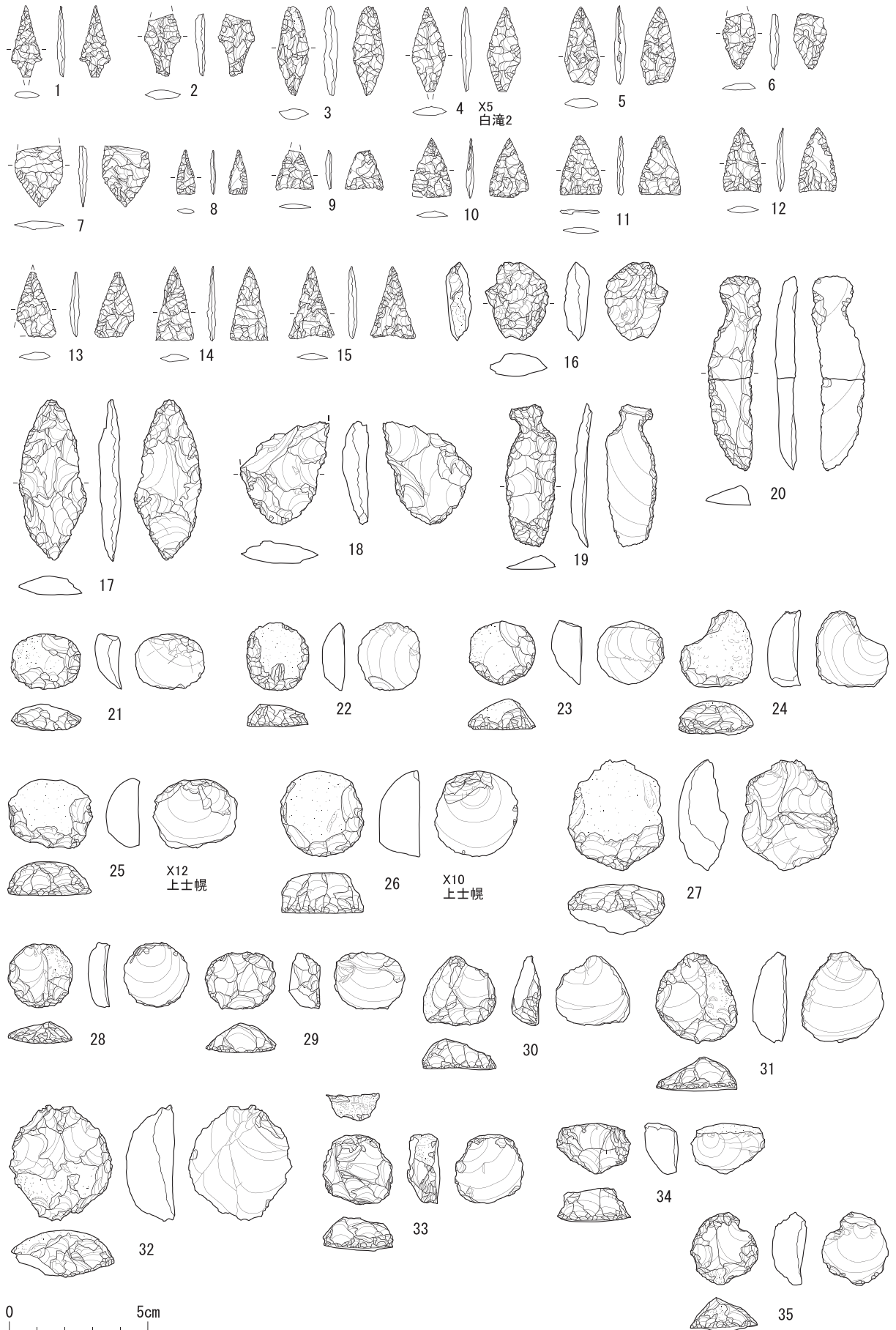
8点(遺構1点、包含層7点)出土し、砂岩製1点、安山岩製6点、粗粒玄武岩製1点である。4点を図示した。183は断面が菱形に近い素材の稜線に幅の狭い研磨面が形成される。184～186は平面形が円形に近い扁平な素材の平坦な面に研磨面のあるもので、185の縁辺、186の正面の一部・裏面には敲打痕がある。

#### 台石 (図Ⅳ-36-187～図Ⅳ-37-189、図版89)

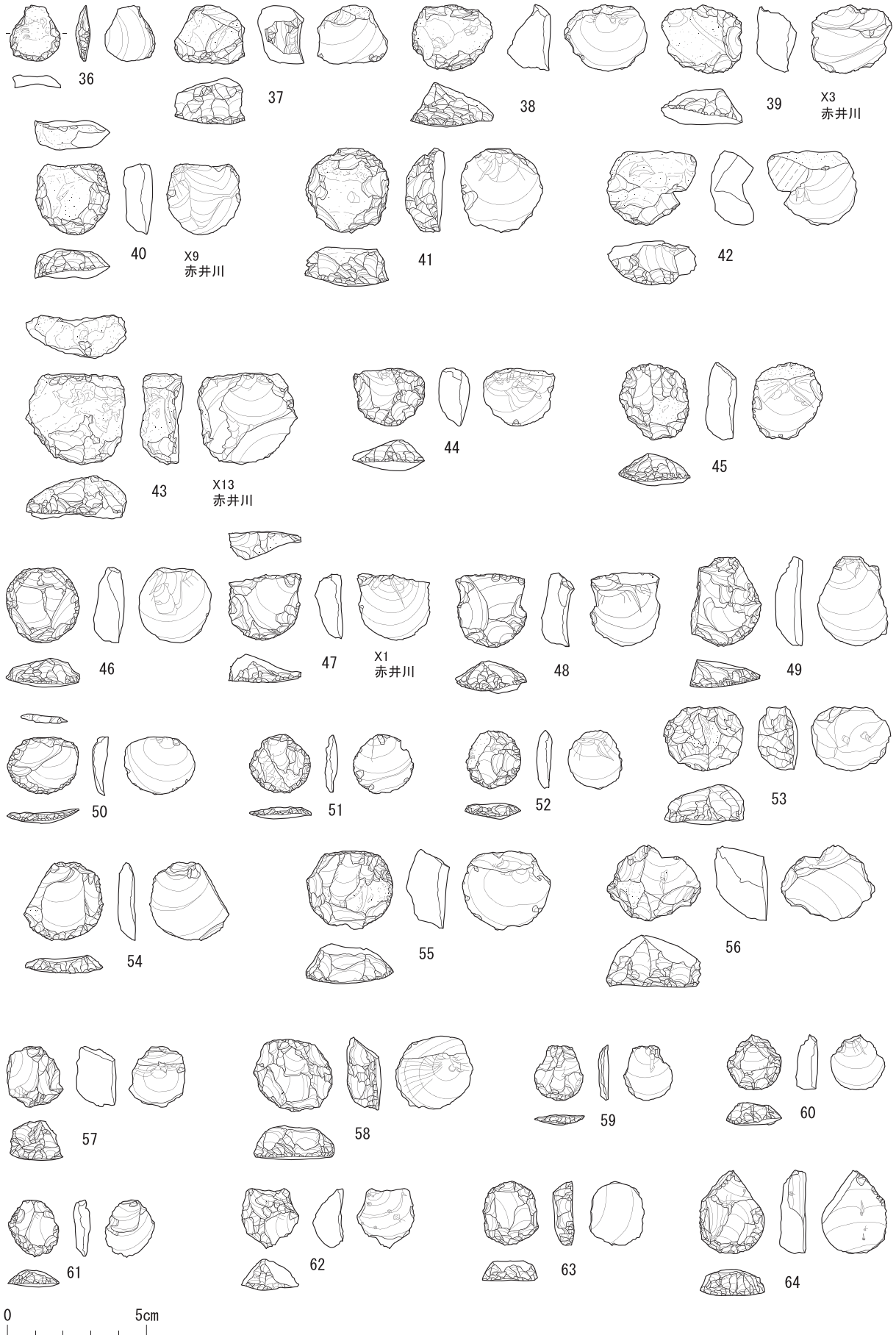
16点(遺構3点、包含層13点)出土し、砂岩製13点、安山岩製3点である。3点を図示した。187・188は薄手の、189は厚手の素材が利用され、平坦な表面には擦痕があり、188の正面中央、189の側縁には敲打痕がある。

#### 砥石 (図Ⅳ-37-190～194、図版89)

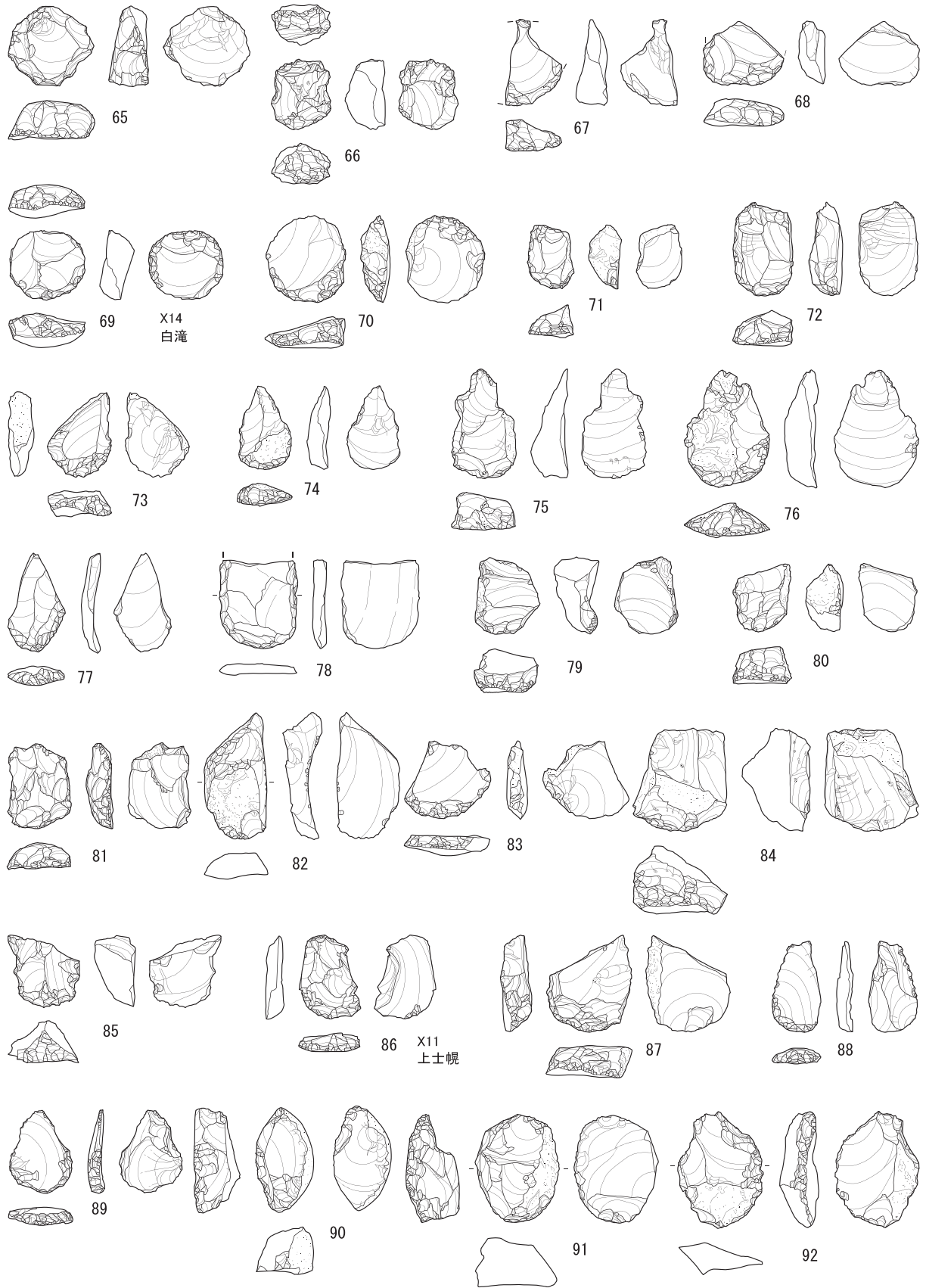




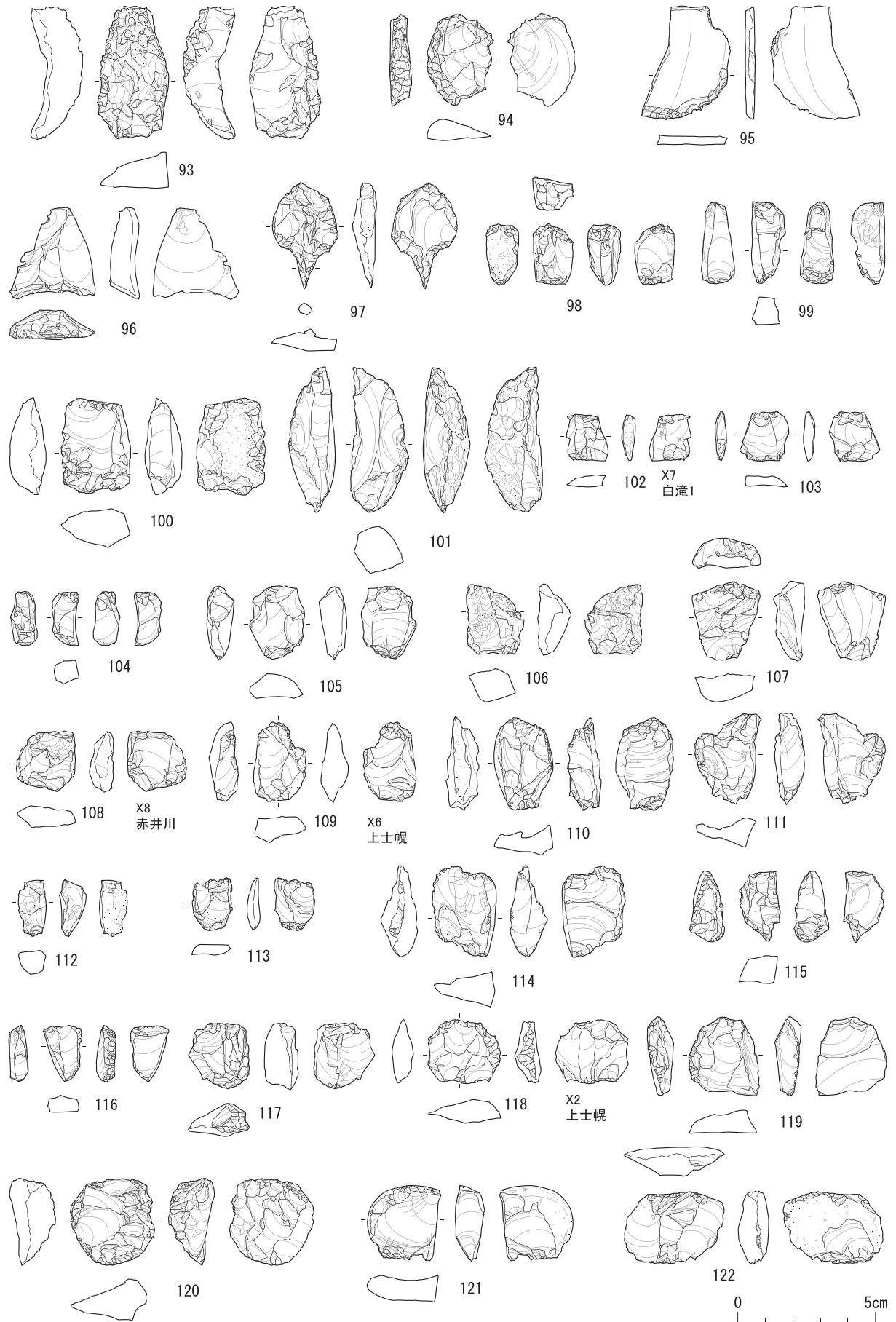
図IV-28 遺構・包含層出土石器(1)



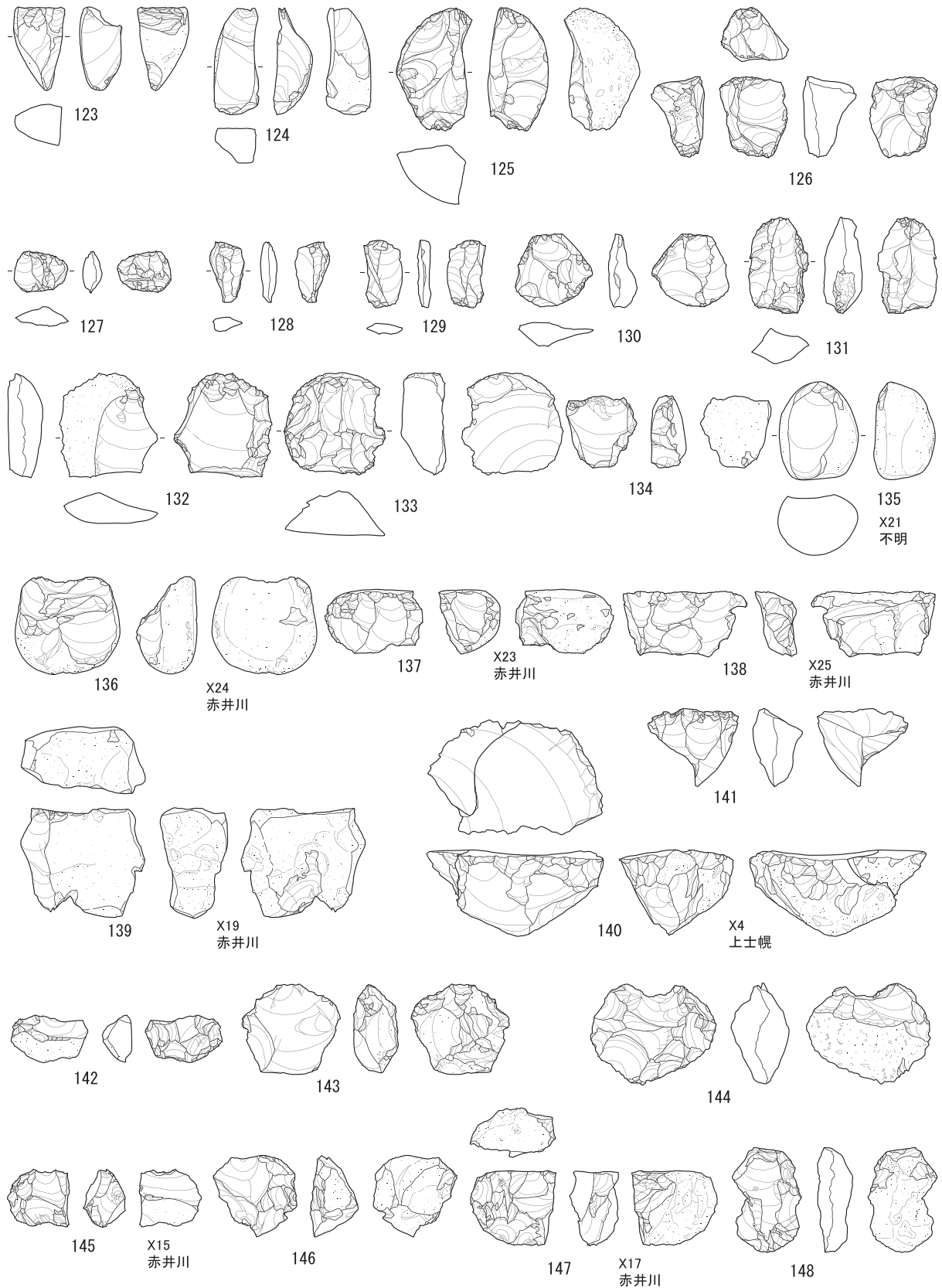
図IV-29 遺構・包含層出土石器(2)



図IV-30 遺構・包含層出土石器(3)

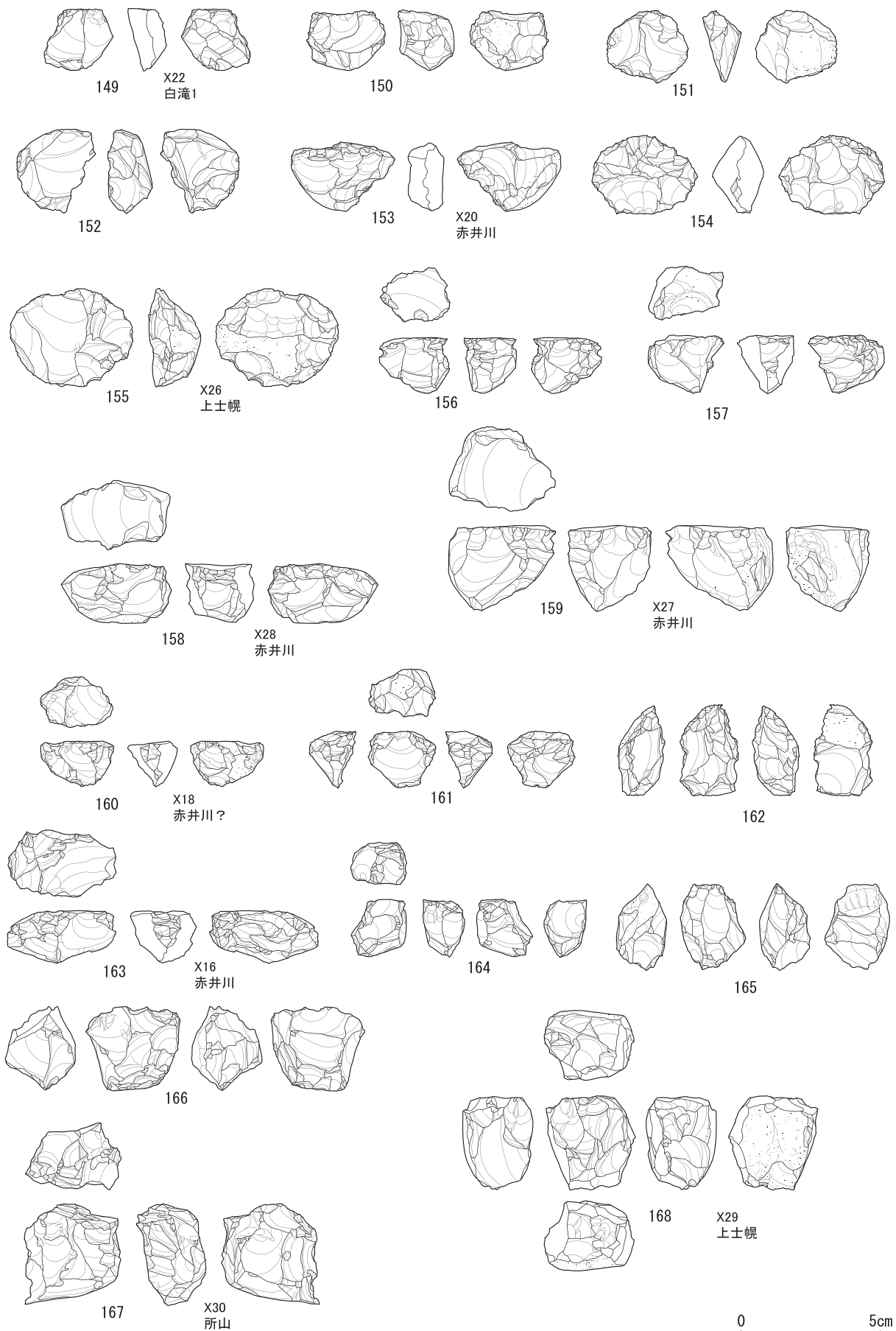


図IV-31 遺構・包含層出土石器(4)



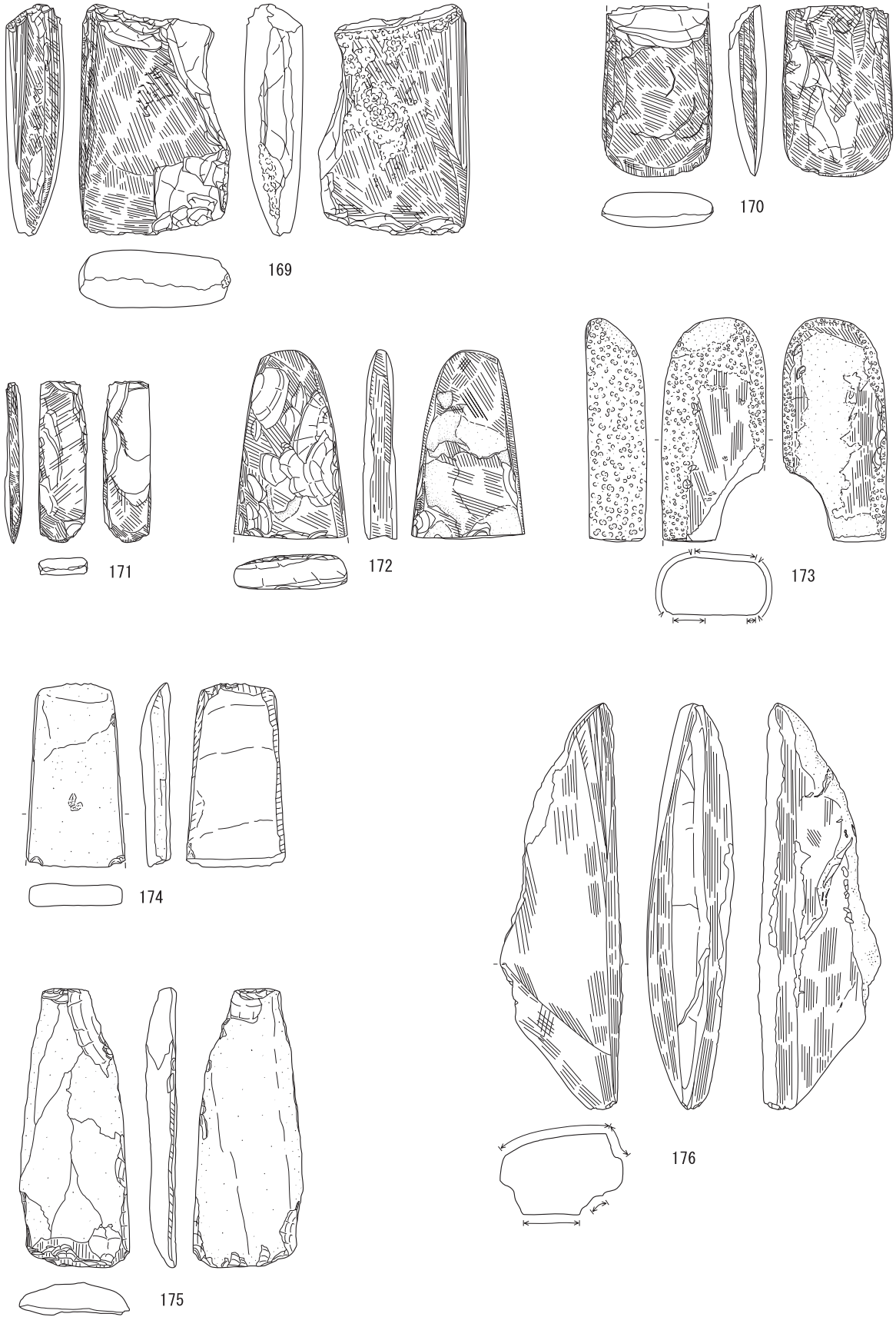
0 5cm

図IV-32 遺構・包含層出土石器(5)



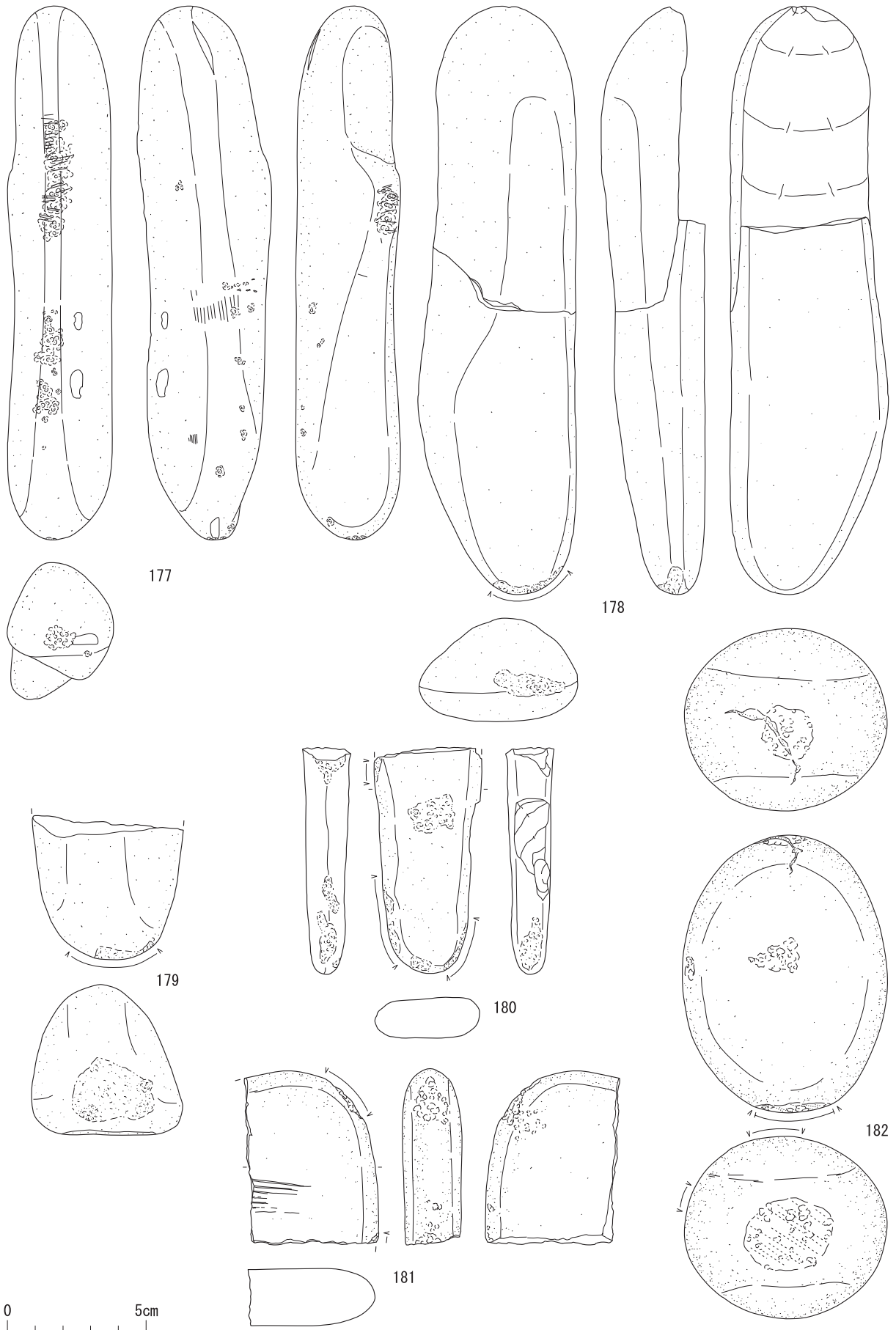
0 5cm

図IV-33 遺構・包含層出土石器(6)



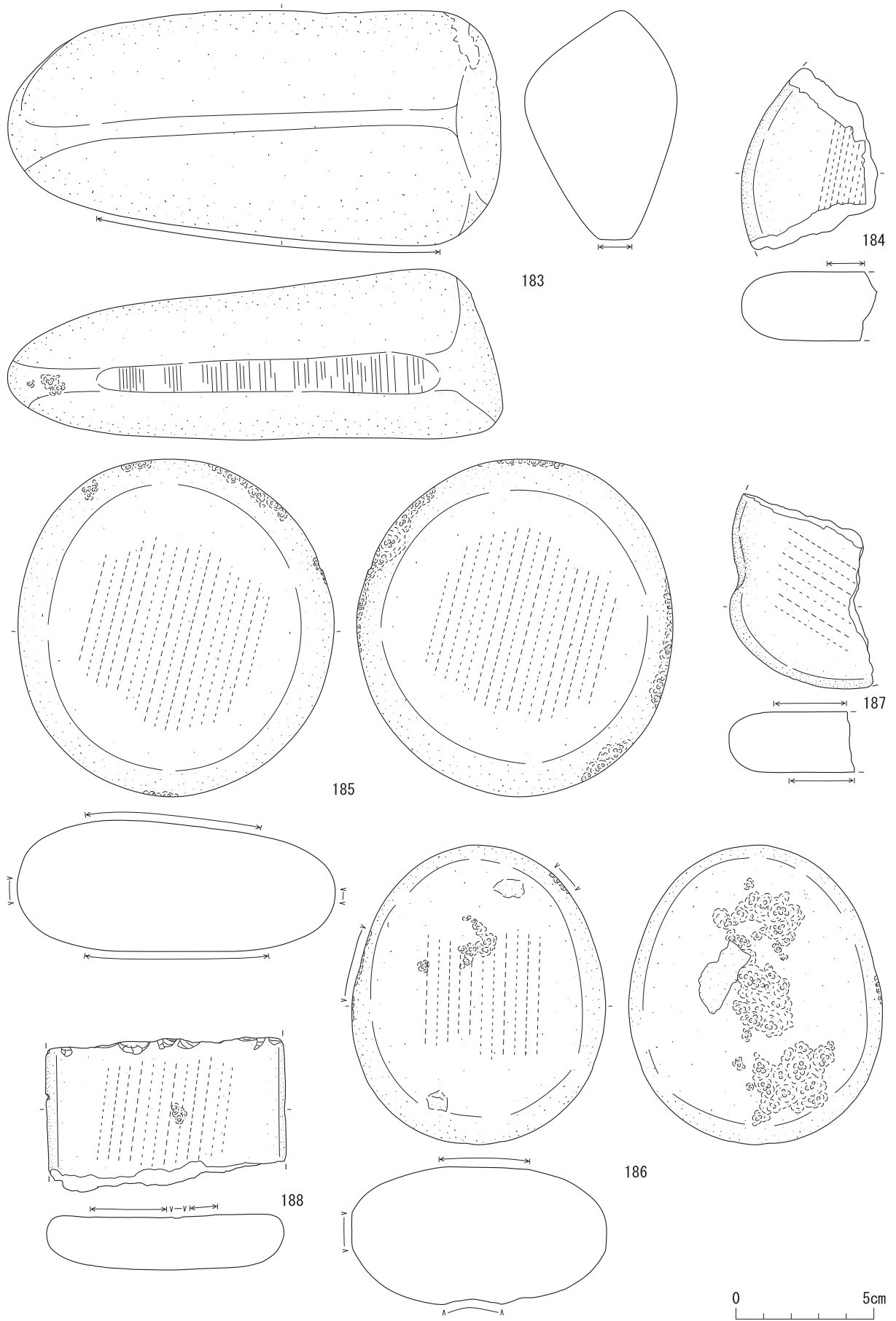
0 5cm

図IV-34 遺構・包含層出土石器(7)



図IV-35 遺構・包含層出土石器(8)





図IV-36 遺構・包含層出土石器(9)



図IV-37 遺構・包含層出土石器(10)

12点（遺構3点、包含層9点）出土し、砂岩製9点、安山岩製2点である。5点を図示した。190・193は粒度のやや粗い砂岩製で、190の正面は窪んだ研磨面があり、両面と上部の折れ面に敲打痕が残る。193は表面が滑らかである。191・192は粒度の細かい砂岩製で、192の正面には幅の狭い、深い溝があり、幅の狭い鋭利なものを研磨したものと思われる。194は安山岩製で、研磨面は浅い。

#### 加工痕のある礫（図IV-37-195、図版89）

1点（遺構1点）出土している。1点を図示した。195は扁平な泥岩製で、四隅に敲打による剥離が見られる。

#### 石製品（図IV-37-196、図版89）

2点（遺構1点、包含層1点）出土し、砂岩製1点、泥岩製1点である。1点を図示した。196は砂岩製で、ほぼ全面に擦痕がある。整った形状であるため石製品とした。

#### 有孔礫

1点（遺構1点）出土し、軽石製である。中央に孔のある自然礫である。

#### 礫

4,769点（遺構1,599点、包含層3,170点）出土している。被熱しているものが多く、破片が多い。砂岩2,558点（54%）、泥岩1,047点（22%）、安山岩659点（14%）、チャート322点（7%）が主要な石材である。  
（鈴木宏行）

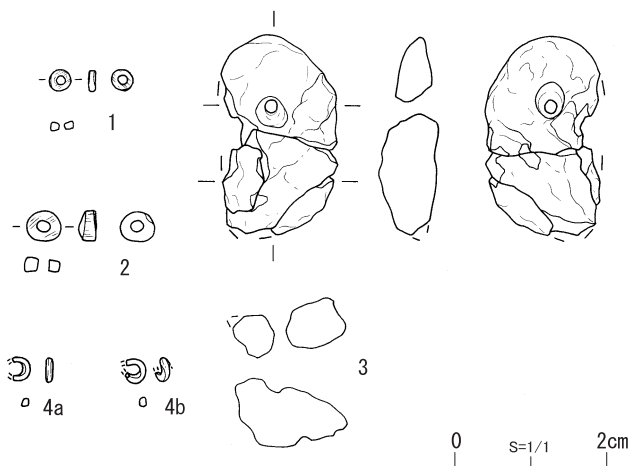
## 4 玉類（図IV-38-1～4、図版90）

1は暗オリーブ灰色を呈する外径3mmの滑石？製小玉、表裏面が平行する扁平な円筒形。表裏面はわずかにすり鉢状、径1mmの孔は表裏面に対して直交する筒状に穿たれる。表裏面・側面には微細な研磨痕がある。P-148埋土最下層の土壌水洗によって採取した、副葬品である。続縄文期後葉後半（古墳時代中期並行）。

2は明オリーブ灰色を呈し黒斑がある外径4mmの滑石？製小玉、表裏面が平行しない扁平な円筒形、表裏面のうち片面はやや鉢状、径1.5mmの孔はすり鉢状の面に対して直交する筒状に穿たれる。表裏面・側面には微細な研磨痕があり、1に比べて表裏面の研磨痕が粗い。P-145埋土最下層の土壌水洗によって採取した、副葬品である。続縄文期後葉後半（古墳時代中期並行）。

3は暗赤褐色を呈する琥珀製垂飾、周縁口は径4.0～5.0mm×3.50～4.0mmの楕円形、内口は径1.5×2.0mmの楕円形の孔は表裏面に対して両面すり鉢状に穿たれる。全面が風化面。出土位置から擦文期の可能性がある。

4は淡青色を呈するガラス玉片、表面は被熱による変色・剥離がみられ、綴り孔側の一部が2片に別れて残存する。残存形態より巻き付け法による製作と考えられる。F-15の土壌水洗によって採取した。出土位置から擦文期の可能性がある。  
（鈴木 信）



図IV-38 遺構・包含層出土玉類

## 5 金属製品 (図Ⅳ-39-1~7、図版90)

1は切先・茎尻が欠失する刀子、平棟・平造、区はない、茎側が錆化による膨張剥れがある。使減りなのか残存する刃部はかなり短い、残存長3.8cm・残存刃長2.1cm・元幅0.9cm・棟幅0.2cm。P-51埋土最下層の3層より出土した、副葬品である。続縄文期後葉（古墳時代中期並行）。2は刀子茎、刃部が欠失する、区はない。残存長9.4cm・茎幅0.3cm。H-3竈左袖付近より出土した。擦文期前葉（奈良時代並行）。3は切先・茎尻が欠失する刀子、平棟・平造、区はない。茎には錆化の影響により柄木（素木）の一部が遺存している、残存長6.5cm・残存刃長4.0cm・元幅0.8cm・棟幅0.2cm。出土位置から擦文期の可能性がある。

4は基部側が欠失する錐で5が付着していた。先端断面は長方形、基部断面は扁平な長方形、残存長2.1cm・基部断面における幅0.5cm・基部断面における厚さ0.3cm。P-114埋土層下部より出土した、副葬品である。続縄文期後葉後半（古墳時代中期並行）。5は4に付着して出土したので断面方形の柄につく口金（責金）とおもわれる。厚さ0.1cmの帯状薄板。P-114埋土層下部より出土した、副葬品である。続縄文期後葉後半（古墳時代中期並行）。6は有茎鉄鏃の茎の可能性もある不明鉄製品、幅0.3cm・厚さ0.1cmの帯状薄板。P-101埋土層下部より出土した、副葬品である。続縄文期後葉後半（古墳時代中期並行）。7は丸湯口内耳鉄鍋の底部～胴部下半片。底部はやや皿状の彎曲、湯口中央がやや窪んでいる。底面からの立上りは明瞭で稜線が認められる。推定底径22.7cm。出土層位から近世アイヌ文化期。8は洪武通宝、面背ともかなりの磨耗がみられ、背の縁は磨滅している、1368年初鑄。出土層位からアイヌ文化期。 (鈴木 信)

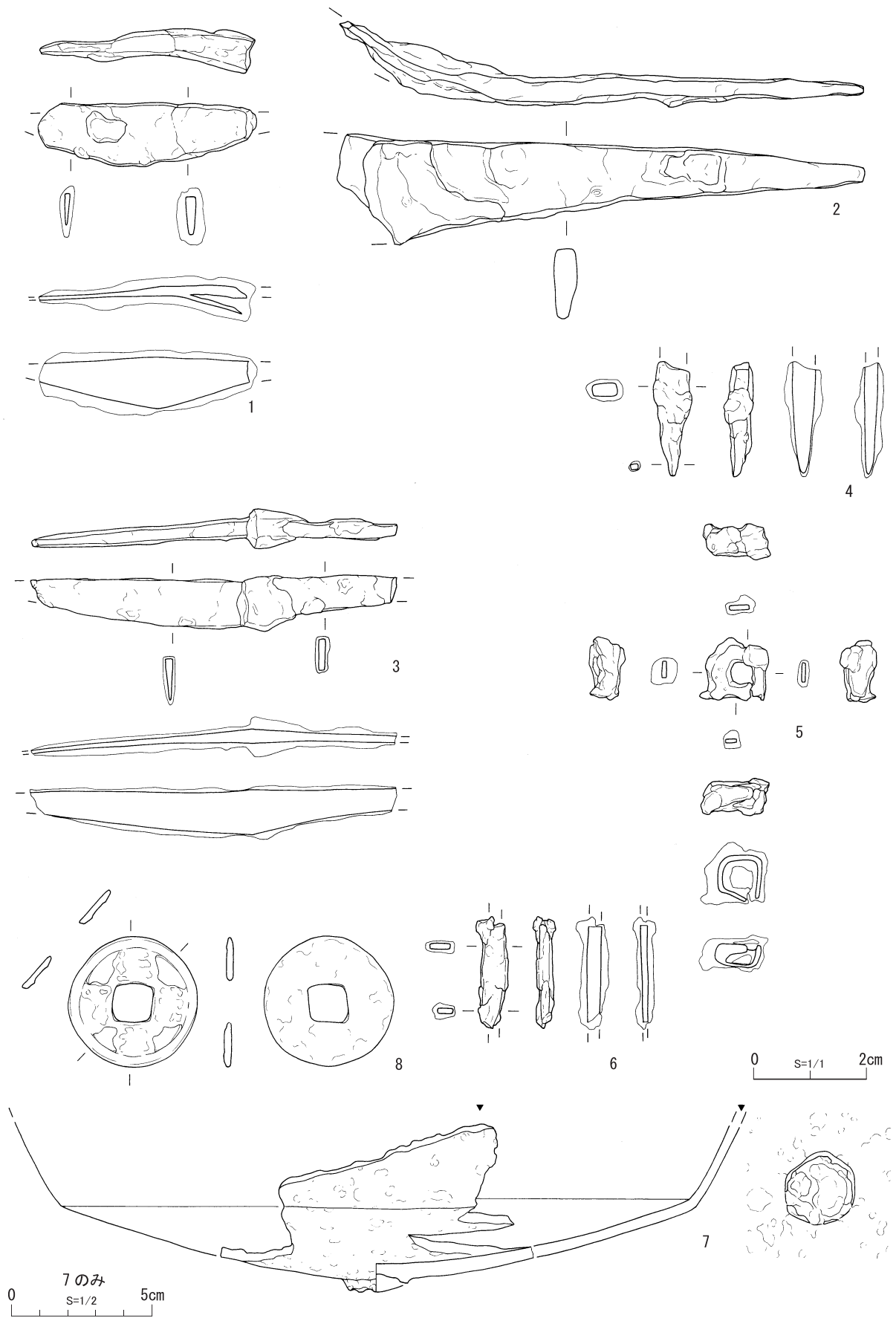
## 6 動物遺存体

動物遺存体は遺構覆土、包含層から出土している(表Ⅳ-1~3、Ⅳ章4)。回収方法は3種類で、フローテーション選別（浮遊物0.425mm、残渣1mm）、1mm篩による水洗選別、目視による取り上げである。フローテーション法は焼土・灰集中を、水洗選別は各遺構の覆土を抽出したものと炭化物・骨片が多く含まれるものを対象とした。

各方法で回収された動物遺存体は魚骨がごく少量含まれ、それらについては同定を分析会社に依頼し、Ⅴ章4で結果が得られている。

魚骨を除く多数は哺乳綱とみられ、被熱により白色化し、そのほとんどが破碎している。同定可能なものは全てシカの四肢骨の小骨のみであることから哺乳綱の細片もシカであると予想される。魚骨はコイ科の椎骨、サケ目の椎骨が数点出土している。全体では哺乳綱が847.03g(99.8%)、魚骨が1.29g(0.2%)で、シカとみられる哺乳綱の比率が圧倒的に高い。骨は全て被熱による色調の変化や破碎が認められ、被熱が残存比率に寄与していることが予想される。時期・地域は異なるが、釧路町天寧1遺跡では哺乳綱は被熱率が高く、魚骨は被熱率が低く、被熱骨の比率と全体の比率は異なる傾向がある（北埋調報274）。被熱骨は調理方法や儀式的な取扱いなど生業の比率とは異なる比率で残される可能性がある。そのため、本遺跡の比率が獲得時の比率を表しているかは今後、貝塚のような生の骨が残存している条件の遺跡で検討する必要がある。

5g以上出土した遺構は、P-85覆土1(16.91g)、P-114覆土1(103.55g)、P-125覆土1(8.52g)、P-148覆土1(450.15g)、P-159覆土1(18.5g)、P-159覆土2(14.56g)、P-174覆土(23.49g)、F-35(33.48g)、F-37(5.69g)である。これらの土坑(P)は全て続縄文後葉後半期で、坑底付近にあるもの(P-148)と土坑中層にあるもの(P-85・114・125・159・174)がある。他の土坑は1g以下がほとんどであり、土坑の埋め戻しの際に故意に混入された可能性がある。P-182PF



図IV-39 遺構・包含層出土金属製品

－1からはサケ目の椎骨などの魚骨が出土している。

焼土（F-35・37）は続縄文後葉後半期で、その他の焼土は土坑同様1g以下がほとんどである。F-35・37は続縄文後葉後半期の土坑集中域に位置し、前述の一部土坑に関連する動物遺存体の存在などから葬送儀礼などとの関連が想定される。また、土坑と異なり、出土量が少ないながらも魚骨が主体となるもの（F-14・15・45）があり、これらは擦文期であり、続縄文期とは異なった脈絡で形成された可能性がある。包含層はA23・24、B20～22区にやや多く出土し、動物遺存体の多く出土した土坑の分布に対応し、両者の関連が想定される。（鈴木宏行）

## 7 フローテーション・水洗選別によって回収された微細遺物

フローテーションは焼土・灰の中の有機質遺物を回収することを目的として行った。土壌は各焼土などの半分～全部を採集し、それら全資料に対してフローテーションを行ったが、時間的な制約からF-1～46は概ね全体を、それ以外の資料については10%～半数程度の選別を行った。そのため、各遺構に含まれる微細遺物の全体量は復元困難であるが、土量に対する微細遺物の比率は検討可能である。

水洗選別は2つの目的で行った。一つは骨片・炭化材が多量に含まれる土壌からのそれらの回収で、もう一つは、遺構覆土に含まれる炭化材の量的な評価をするために土壌体積あたりの炭化物量を計量することである。前者は骨片・炭化物が多量に含まれる土壌を、後者は原則遺構全覆土1ℓを対象とした。後者のサンプリングは調査途中から行っているため、P-74以前は無く、それ以降も1ℓ未満のものや取り忘れなどもあり、全て行ってはいない。

フローテーション結果は表Ⅳ-4・5、水洗選別結果は表Ⅳ-6に示す。但し、炭化種子についてはⅤ章5表1を参照する。動物遺存体については前項で述べたので、本項では動物遺存体を除く遺物について述べる。

炭化種子はオニグルミ、キハダ、ブドウ属、ヒエ？、マメ類が検出された。オニグルミは細片であるがP-75・83・106・111・114・118・129・132・143・148・157・159・160・161・163・168・172・178、F-15・35・45と比較的多くの遺構で検出され、焼土より土坑で検出率が高い。細片でも1mm以上のものが多く、水洗選別で多く検出されている。キハダはP-75・114、F-14、ブドウ属はP-163、F-45、ブドウ属？はF-2、ヒエ？はP-167・181でそれぞれ少量検出された。

炭化材は浮遊物ではH-1 HF-1、H-3 HF-1、F-23・25で10g以上出土した。水洗選別（表Ⅳ-6）では1ℓあたりの炭化物重量はほとんどが2g以下であるが、P-85覆土1（3.62g）、P-89覆土1（3.95g）、P-117覆土5（30.69g）、P-158覆土1（3.80g）、P-160覆土6（7.34g）、P-178覆土3（5.03g）は3g以上で、P-117覆土5は特に多い。炭化材の量と動物遺存体の量には相関がみられない。

動物遺存体・炭化種子・炭化材以外の遺物は土器・剥片（細片）が少量含まれる。それら以外には鉄片・鍛造剥片？がF-15・19・40から、鉄片？がP-89覆土1・P-148覆土1から出土している。また、石製玉がP-148覆土1、ガラス玉がF-15から出土したが、これらは直径2mm以下で、目視による取り上げでは回収が困難であったと思われる。（鈴木宏行）



表Ⅳ-2 遺構出土手取り動物遺存体一覧

遺構名	層位	遺物番号	網	小分類	部位名	LR	状態	色調	点数	重量(g)
P-47	覆土1下部	7	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.11
P-51	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.14
P-63	覆土2	20	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.25
P-80	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.65
P-86	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.91
P-88	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.44
P-100	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.26
P-100	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.35
P-106	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.28
P-113	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.49
P-114	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		4.59
P-115	覆土1		哺乳綱	シカ	種子骨	不明	完形	wh	1	0.62
P-115	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.07
P-115	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.42
P-119	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.21
P-120	覆土上層		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.91
P-123	覆土1	8・9	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.88
P-123	坑底	10・11	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.20
P-125	坑底	27・28・32	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.42
P-132	覆土1	1	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.66
P-133	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.26
P-140	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.16
P-141	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.68
P-142	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.72
P-144	覆土1上層		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.01
P-144	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.31
P-144	覆土8		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.20
P-158	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.46
P-159	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		16.04
P-159	覆土2	18・19-1	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.55
P-159	覆土2	19-2	哺乳綱	シカ	種子骨	不明	完形	wh	1	0.37
P-159	覆土2		哺乳綱	シカ	中節骨	不明	prox	wh	1	0.59
P-159	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		11.05
P-160	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.03
P-163	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.55
P-166	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.25
P-169	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.37
P-170	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.75
P-174	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		23.49
P-176	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.25
P-178	覆土2		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.40
P-180	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.38
P-181	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		3.13
P-184	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.20
P-186	覆土		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		3.56
P-189	覆土2	1	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		3.37
P-189	覆土4		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.82
P-191	覆土上層		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		2.38
P-192	覆土上層		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.35
P-不明	覆土1		哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		5.85
総計									3	112.39

表Ⅳ-3 包含層出土手取り動物遺存体一覧

調査区	層位	網	細分類	部位名	LR	状態	色	点数	重量(g)	
A23	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		1.04	
A24	II	哺乳綱	シカ	中節骨	不明	-	wh	1	1.52	
A24	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		3.29	
B20	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		3.47	
B21	II	哺乳綱	シカ	橈側手根骨	R	完形	wh	1	2.79	
B21	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		8.38	
B22	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.93	
C16	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.31	
C22	II	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		0.10	
E18	I	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		5.14	
E19	I	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		34.66	
E23	I	哺乳綱	シカ	種子骨	不明	完形	wh	1	0.43	
E23	I	哺乳綱	目不明	不明	不明	-	wh		40.30	
総計									3	102.36



表IV-4 フローテーション(浮遊物)回収遺物一覧\*動物遺存体・炭化種子除く

遺構	層位	試料番号	土壌(乾燥)		炭化材
			重量(kg)	体積(ℓ)	重量(g)
H-1・HF-1	焼土	77	1.8	3.0	7.08
H-1・HF-1	焼土	117	1.2	2.1	12.30
H-2・HF-1	焼土	83	0.4	0.5	1.33
H-3・HF-1	焼土	3	0.7	1.4	2.58
H-3・HF-1	焼土	34	1.2	2.4	6.96
H-3・HF-1	焼土	65	2.9	5.0	14.46
H-3・竈火床	焼土	111	1.3	1.7	0.04
H-3・竈火床	焼土	112	0.9	1.2	0.02
H-3・竈火床	焼土	113	0.9	1.3	0.01
H-3・煙出し最下部覆土10	焼土	131	0.8	0.7	0.01
H-4・HF-1	焼土	80	1.3	2.4	0.81
P-31・PF-1	焼土	70	1.4	2.2	2.46
P-31・PF-2	焼土	90	0.3	0.4	0.04
P-75・PF-1	焼土	92	0.2	0.2	0.49
P-75・PF-2	焼土	91	0.1	0.1	0.01
P-99	覆土1	84	0.3	0.5	1.17
P-141・PF-1	焼土	75	1.7	3.0	0.77
P-141・PF-1	焼土	78	1.6	2.8	0.75
P-159・PF-1	焼土	89	0.7	1.2	1.59
P-163・PF-1(A)	焼土	105	2.2	3.1	1.65
P-163・PF-1(B)	焼土	96	1.6	2.2	0.19
P-182・PF-1	焼土	88	1.0	1.8	0.26
F-1	焼土	2	1.7	2.5	0.60
F-2	焼土	44	1.9	3.2	0.93
F-2	焼土	45	1.7	2.8	0.39
F-2	焼土	24	1.4	2.1	0.08
F-2	焼土	25	3.1	3.5	1.02
F-3	焼土	26	0.9	1.5	0.47
F-4	焼土	7	1.9	3.0	0.55
F-5	焼土	17	2.1	3.1	0.50
F-5	焼土	18	1.5	2.3	0.18
F-5	焼土	19	2.0	2.9	2.67
F-6	焼土	66	3.3	5.0	0.90
F-7	焼土	9	2.1	3.3	0.07
F-8	焼土	27	0.7	1.2	0.18
F-9	焼土	61	2.6	3.8	0.39
F-10	焼土	29	2.3	3.6	0.36
F-10	焼土	30	2.2	3.2	0.73
F-11	焼土	31	2.3	3.3	0.48
F-12	焼土	38	3.1	4.1	0.69
F-12	焼土	39	4.6	6.8	2.52
F-13	焼土	48	2.9	4.5	0.76
F-14	焼土	50	2.6	3.9	2.41
F-15	焼土	35	1.9	3.1	2.42
F-15	焼土	36	2.0	3.3	1.27
F-15	焼土	37	3.3	5.1	1.13
F-16	焼土	28	1.8	2.7	6.44
F-17	焼土	32	1.8	2.6	0.43
F-18	焼土	12	1.6	2.3	0.52
F-19	焼土	13	1.6	2.5	0.20
F-20	焼土	6	0.6	1.0	0.48
F-21	焼土	60	3.0	4.6	1.03
F-22	焼土	52	3.0	3.9	3.76
F-23	焼土	63	3.0	4.8	10.51
F-25	焼土	14	2.0	3.0	0.79
F-26	焼土	58	2.8	4.2	15.44
F-27	焼土	47	2.4	3.7	0.61
F-28・C-27	焼土	5	0.9	1.4	0.16
F-29	焼土	21	0.7	1.3	0.17
F-30	焼土	54	2.9	4.4	0.63
F-31	焼土	43	2.3	3.9	0.67
F-32	焼土	81	0.6	0.8	0.11
F-33	焼土	10	1.3	1.9	0.16
F-34	焼土	55	3.0	3.8	0.66
F-35	焼土	41	3.0	4.6	2.19
F-35	焼土	42	1.6	2.6	1.01
F-36	焼土	72	1.0	1.5	0.19
F-37	焼土	76	2.3	3.6	0.30
F-38	焼土	40	2.3	3.8	0.66
F-39	焼土	4	0.2	0.4	0.02
F-40	焼土	16	1.8	3.0	1.15
F-41	焼土	15	1.0	1.5	0.34
F-42	焼土	20	1.6	2.7	1.14
F-43	焼土	22	2.0	3.1	2.23
F-43	焼土	23	1.6	2.7	1.30
F-44	焼土	33	1.7	2.8	0.17
F-45	焼土	11	1.3	2.0	0.49
F-46	焼土	1	1.5	2.6	1.13
灰集中1(AC-1)	灰	115	1.4	2.1	0.10
灰集中2(AC-2)	灰	119	0.3	0.5	0.26
総計			61.3	93.6	66.17

表IV-5 フローテーション(残渣)回収遺物一覧\*動物遺存体・炭化種子除く

遺構	層位	試料番号	土壌(乾燥)		炭化材	土器	焼成粘土塊	剥片(黒曜石)	剥片(頁岩)	鉄片	鍛造剥片?	ガラス玉
			重量(kg)	体積(ℓ)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)
H-1・HF-1	焼土	77	1.8	3.0	0.13	0.68(2点)	-	-	-	-	-	-
H-1・HF-1	焼土	117	1.2	2.1	0.09	-	-	-	-	-	-	-
H-2・HF-1	焼土	83	0.4	0.5	0.05	-	-	-	-	-	-	-
H-3・HF-1	焼土	3	0.7	1.4	0.21	-	-	-	-	-	-	-
H-3・HF-1	焼土	34	1.2	2.4	0.52	-	-	-	-	-	-	-
H-3・HF-1	焼土	65	2.9	5.0	0.83	-	0.01(1点)	-	-	-	-	-
H-3・竈火床	焼土	111	1.3	1.7	0.01	-	-	-	-	-	-	-
H-3・竈火床	焼土	112	0.9	1.2	0.01	-	-	-	-	-	-	-
H-3・竈火床	焼土	113	0.9	1.3	0.04	-	-	-	-	-	-	-
H-3・煙出し最下部覆土10	焼土	131	0.8	0.7	0.01	-	-	-	-	-	-	-
H-4・HF-1	焼土	80	1.3	2.4	0.20	-	-	-	-	-	-	-
P-31・PF-1	焼土	70	1.4	2.2	0.20	-	-	-	-	-	-	-
P-31・PF-2	焼土	90	0.3	0.4	0.01	-	-	-	-	-	-	-
P-75・PF-1	焼土	92	0.2	0.2	0.02	-	-	-	-	-	-	-
P-75・PF-2	焼土	91	0.1	0.1	0.01	-	-	-	-	-	-	-
P-99	覆土1	84	0.3	0.5	0.11	18.19(209点)	-	-	-	-	-	-

長沼町 幌内D遺跡

遺構	層位	試料番号	土壌(乾燥)		炭化材 重量(g)	土器 重量(g)	焼成粘土塊 重量(g)	剥片(黒曜石) 重量(g)	剥片(頁岩) 重量(g)	鉄片 重量(g)	鍛造剥片? 重量(g)	ガラス玉 重量(g)
			重量(kg)	体積(ℓ)								
P-141・PF-1	焼土	75	1.7	3.0	0.03	-	-	-	-	-	-	-
P-141・PF-1	焼土	78	1.6	2.8	0.01	-	-	-	-	-	-	-
P-159・PF-1	焼土	89	0.7	1.2	0.22	2.01(1点)	-	0.05(4点)	-	-	-	-
P-163・PF-1(A)	焼土	105	2.2	3.1	0.23	-	-	0.03(8点)	-	-	-	-
P-163・PF-1(B)	焼土	96	1.6	2.2	0.15	-	-	0.04(9点)	-	-	-	-
P-182・PF-1	焼土	88	1.0	1.8	0.03	0.43(2点)	-	0.32(7点)	-	-	-	-
F-1	焼土	2	1.7	2.5	1.46	0.15(3点)	-	0.02(2点)	-	-	-	-
F-2	焼土	44	1.9	3.2	0.25	-	-	0.01(3点)	-	-	-	-
F-2	焼土	45	1.7	2.8	0.08	-	-	0.01(5点)	-	-	-	-
F-2	焼土	24	1.4	2.1	0.03	-	-	0.01(1点)	-	-	-	-
F-2	焼土	25	3.1	3.5	0.05	-	-	0.01(2点)	-	-	-	-
F-3	焼土	26	0.9	1.5	0.67	0.09(1点)	-	0.1(8点)	-	-	-	-
F-4	焼土	7	1.9	3.0	1.12	1.94(5点)	-	0.05(8点)	-	-	-	-
F-5	焼土	17	2.1	3.1	0.43	-	-	-	-	-	-	-
F-5	焼土	18	1.5	2.3	0.25	0.9(1点)	-	0.01(1点)	-	-	-	-
F-5	焼土	19	2.0	2.9	0.04	0.53(3点)	-	-	-	-	-	-
F-6	焼土	66	3.3	5.0	0.11	0.95(3点)	-	0.01(2点)	-	-	-	-
F-7	焼土	9	2.1	3.3	0.04	1.38(1点)	-	0.04(12点)	-	-	-	-
F-8	焼土	27	0.7	1.2	0.01	-	-	-	-	-	-	-
F-9	焼土	61	2.6	3.8	0.55	0.17(1点)	-	0.08(8点)	-	-	-	-
F-10	焼土	29	2.3	3.6	1.59	-	-	0.59(39点)	-	-	-	-
F-10	焼土	30	2.2	3.2	0.97	-	-	0.2(35点)	-	-	-	-
F-11	焼土	31	2.3	3.3	0.11	1.93(7点)	-	0.39(11点)	-	-	-	-
F-12	焼土	38	3.1	4.1	0.34	0.37(1点)	-	0.04(4点)	-	-	-	-
F-12	焼土	39	4.6	6.8	0.27	0.77(1点)	-	0.01(5点)	-	-	-	-
F-13	焼土	48	2.9	4.5	0.05	-	-	0.01(3点)	-	-	-	-
F-14	焼土	50	2.6	3.9	0.60	-	-	0.04(11点)	-	-	-	-
F-15	焼土	35	1.9	3.1	0.12	0.46(1点)	-	0.01(3点)	-	0.02(3点)	0.01(1点)	-
F-15	焼土	36	2.0	3.3	0.69	1.32(8点)	-	0.13(4点)	-	-	-	-
F-15	焼土	37	3.3	5.1	0.06	7.31(9点)	-	0.04(13点)	-	0.01(1点)	-	-
F-16	焼土	28	1.8	2.7	0.44	-	-	-	-	-	-	-
F-17	焼土	32	1.8	2.6	0.06	0.06(1点)	-	0.01(2点)	-	-	-	-
F-18	焼土	12	1.6	2.3	0.08	-	-	-	-	-	-	-
F-19	焼土	13	1.6	2.5	0.03	-	-	0.01(1点)	-	0.03(6点)	-	-
F-20	焼土	6	0.6	1.0	0.12	-	0.18(1点)	-	-	-	-	-
F-21	焼土	60	3.0	4.6	0.13	-	-	0.09(22点)	-	-	-	-
F-22	焼土	52	3.0	3.9	0.52	-	-	0.01(1点)	-	-	-	-
F-23	焼土	63	3.0	4.8	4.95	-	-	-	-	-	-	-
F-25	焼土	14	2.00	3.0	0.06	-	-	0.01(1点)	-	-	-	-
F-26	焼土	58	2.8	4.2	3.63	2.35(6点)	-	-	-	-	-	-
F-27	焼土	47	2.4	3.7	0.09	0.77(2点)	-	0.72(46点)	-	-	-	-
F-28	焼土	5	0.9	1.4	0.04	-	-	0.07(16点)	-	-	-	-
F-29	焼土	21	0.7	1.3	0.01	-	-	-	-	-	-	-
F-30	焼土	54	2.9	4.4	0.50	-	-	-	-	-	-	-
F-31	焼土	43	2.3	3.9	0.19	-	-	0.01(1点)	-	-	-	-
F-32	焼土	81	0.6	0.8	0.02	-	-	0.04(5点)	-	-	-	-
F-33	焼土	10	1.3	1.9	0.01	0.08(1点)	-	0.18(23点)	-	-	-	-
F-34	焼土	55	3.0	3.8	0.02	-	-	0.32(41点)	0.01(1点)	-	-	-
F-35	焼土	41	3.0	4.6	0.33	8.83(11点)	-	0.63(27点)	-	-	-	-
F-35	焼土	42	1.6	2.6	0.11	2.72(5点)	-	0.29(36点)	-	-	-	-
F-36	焼土	72	1.0	1.5	0.07	-	-	0.09(13点)	-	-	-	-
F-37	焼土	76	2.3	3.6	0.06	-	-	0.15(15点)	0.01(1点)	-	-	-
F-38	焼土	40	2.3	3.8	0.10	1.12(3点)	-	0.17(21点)	-	-	-	-
F-39	焼土	4	0.2	0.4	0.04	-	-	0.01(2点)	-	-	-	-
F-40	焼土	16	1.8	3.0	0.43	0.51(3点)	-	0.05(13点)	-	0.01(1点)	-	-
F-41	焼土	15	1.0	1.5	1.33	-	-	-	-	-	-	-
F-42	焼土	20	1.6	2.7	0.08	-	-	-	-	-	-	-
F-43	焼土	22	2.0	3.1	3.56	-	-	0.46(13点)	-	-	-	-
F-43	焼土	23	1.6	2.7	1.05	-	-	0.26(20点)	-	-	-	-
F-44	焼土	33	1.7	2.8	0.08	0.35(2点)	-	0.01(2点)	-	-	-	-
F-45	焼土	11	1.3	2.0	0.26	0.7(1点)	-	0.03(8点)	-	-	-	-
F-46	焼土	1	1.5	2.6	0.24	0.36(3点)	-	0.01(1点)	-	-	-	-
AC-1	灰	115	1.4	2.1	0.04	-	-	0.04(7点)	-	-	-	-
AC-2	灰	119	0.3	0.5	0.01	-	-	0.01(2点)	-	-	-	-
総計			138.5	212.6	31.70	57.43 (297点)	0.00	5.94(548点)	0.02(2点)	0.01(1点)	0.06(10点)	0.01(1点)

表IV-6 水洗選別(1mm)回収遺物一覧\*動物遺存体・炭化種子除く

遺構	層位	水洗 番号	土壌(乾燥)		炭化材		土器	剥片(黒曜石)	鉄片?	玉
			重量(kg)	体積(ℓ)	重量(g)	重量(g/ℓ)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)
P-27・FC-1	覆土2	106	0.41	0.55	0.42	0.76	-	6.51(15点)	-	-
P-75	覆土2	1	0.50	1.00	0.70	0.70	-	-	-	-
P-75	覆土5	38	0.51	1.00	0.30	0.30	0.12(1点)	0.01(2点)	-	-
P-83	覆土1	8	0.50	1.00	0.93	0.93	-	0.01(1点)	-	-
P-83	覆土2	9	0.50	1.00	0.38	0.38	0.2(1点)	0.01(2点)	-	-
P-83	覆土4	20	0.57	1.00	0.26	0.26	-	0.01(1点)	-	-
P-85	覆土1	118	0.38	0.60	2.17	3.62	0.4(1点)	0.23(5点)	-	-
P-87	覆土1	41	0.47	0.95	0.51	0.54	0.01(1点)	0.01(1点)	-	-
P-87	覆土2	91	0.46	0.85	0.13	0.15	-	-	-	-
P-87	覆土3	100	0.50	0.90	0.07	0.08	-	-	-	-
P-88	覆土1	28	0.52	1.00	0.45	0.45	-	0.01(1点)	-	-
P-88	覆土2	27	0.48	1.00	0.60	0.60	-	0.01(1点)	-	-
P-89	覆土1	25	0.41	0.80	3.16	3.95	-	0.06(2点)	0.01(1点)	-
P-89	覆土2	16	0.38	0.80	0.24	0.30	-	-	-	-
P-100	覆土1	61	0.40	0.80	0.42	0.53	1.94(1点)	0.01(2点)	-	-
P-100	覆土2	45	0.37	0.80	0.29	0.36	-	0.09(5点)	-	-
P-105	覆土1	23	0.56	1.00	0.58	0.58	-	-	-	-
P-105	覆土2	33	0.46	1.00	0.20	0.20	-	-	-	-
P-106	覆土2	4	0.50	1.00	0.33	0.33	-	-	-	-
P-106	覆土4	7	0.44	0.80	0.17	0.21	-	0.05(6点)	-	-
P-106	覆土5	10	0.50	1.00	0.35	0.35	-	0.02(2点)	-	-
P-111	覆土1	11	0.40	0.80	0.14	0.18	-	0.01(2点)	-	-
P-111	覆土2	19	0.50	0.90	0.07	0.08	-	-	-	-
P-114	覆土1	26	0.46	1.00	0.53	0.53	1.13(2点)	0.02(4点)	-	-
P-114	覆土1	109	0.64	1.10	0.55	0.50	-	0.15(25点)	-	-
P-114	覆土1	111	1.22	1.70	1.37	0.81	-	0.67(47点)	-	-
P-115	覆土2	30	0.51	1.00	1.24	1.24	-	0.01(2点)	-	-
P-117	覆土1	18	0.46	0.95	0.04	0.04	-	-	-	-
P-117	覆土5	14	0.48	1.00	30.69	30.69	-	-	-	-
P-118	覆土1	42	0.40	0.80	0.94	1.18	0.52(2点)	-	-	-
P-118	覆土2	37	0.42	0.85	0.57	0.67	-	0.02(3点)	-	-
P-118	覆土3	40	0.42	0.90	0.45	0.50	2.49(2点)	0.03(5点)	-	-
P-123	覆土1	5	0.50	1.00	1.04	1.04	0.33(1点)	0.26(5点)	-	-
P-125	覆土1	21	0.45	0.80	0.58	0.73	3.09(4点)	0.04(5点)	-	-
P-125	覆土2	29	0.44	0.80	0.11	0.14	-	-	-	-
P-129	覆土1	15	0.44	0.80	0.29	0.36	-	0.01(1点)	-	-
P-130	覆土1	3	0.50	1.00	0.39	0.39	-	-	-	-
P-131	覆土1	24	0.45	0.80	0.37	0.46	-	0.01(2点)	-	-
P-132	覆土1	48	0.43	0.80	0.73	0.91	-	0.03(3点)	-	-
P-132	覆土2	84	0.45	0.80	0.20	0.25	-	-	-	-
P-133	覆土1	87	0.54	0.80	0.24	0.30	1.34(1点)	0.01(1点)	-	-
P-133	覆土2	34	0.48	1.00	0.18	0.18	0.33(1点)	-	-	-
P-135	覆土1	2	0.38	0.70	0.34	0.49	-	-	-	-
P-135	覆土2	6	0.30	0.75	0.11	0.15	-	-	-	-
P-136	覆土1	89	0.54	1.00	0.80	0.80	0.48(1点)	0.01(2点)	-	-
P-140	覆土1	86	0.44	0.80	0.52	0.65	-	0.01(4点)	-	-
P-140	覆土3	43	0.44	1.00	0.68	0.68	-	-	-	-
P-141	覆土2	58	0.36	0.60	0.07	0.12	-	0.01(2点)	-	-
P-143	覆土1	76	0.39	0.70	0.40	0.57	0.07(2点)	-	-	-
P-144	覆土2	57	0.42	0.70	0.19	0.27	-	0.01(1点)	-	-
P-144	覆土4	62	0.40	0.75	0.07	0.09	-	-	-	-
P-144	覆土8	63	0.40	0.70	0.11	0.16	-	-	-	-
P-145	覆土3	12	0.50	1.00	0.20	0.20	0.85(9点)	-	-	-
P-145	覆土1	13	0.50	1.00	0.17	0.17	-	-	-	-
P-145	覆土2	17	0.44	0.90	0.42	0.47	-	-	-	-
P-148	覆土1	22	0.35	0.65	7.75	11.92	-	0.5(1点)	-	-
P-148	覆土1	64	0.62	1.00	1.18	1.18	0.43(1点)	0.01(2点)	-	-
P-148	覆土1	110	1.60	2.60	4.27	1.64	-	0.22(21点)	-	-
P-148	覆土1	112	3.48	4.40	3.02	0.69	-	0.02(16点)	-	-

長沼町 幌内D遺跡

遺構	層位	水洗 番号	土壌(乾燥)		炭化材		土器	剥片(黒曜石)	鉄片?	玉
			重量(kg)	体積(ℓ)	重量(g)	重量(g/ℓ)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)
P-148	覆土1	113	1.95	2.70	4.38	1.62	1.22(5点)	1.35(17点)	-	-
P-148	覆土1	114	1.63	2.40	3.09	1.29	0.39(1点)	0.07(11点)	-	-
P-148	覆土1	115	1.61	2.70	3.01	1.11	2.96(9点)	0.86(25点)	0.01(1点)	0.01(1点)
P-148	覆土1	116	1.96	3.10	1.60	0.52		-0.01(3点)	-	-
P-148	覆土1	117	2.28	4.00	2.03	0.51		-0.05(7点)	-	-
P-153	覆土1	97	0.53	1.10	0.71	0.65		-0.02(2点)	-	-
P-153	覆土2	96	0.54	1.00	1.84	1.84	0.31(1点)	0.03(5点)	-	-
P-153	覆土5	39	0.52	1.00	0.91	0.91		-0.01(3点)	-	-
P-153	覆土8	98	0.54	0.90	1.09	1.21		-0.01(1点)	-	-
P-155	覆土2	44	0.50	1.00	0.65	0.65	0.14(1点)	0.01(3点)	-	-
P-157	覆土1	49	0.41	0.80	0.29	0.36		-	-	-
P-157	覆土2	80	0.37	0.70	0.05	0.07		-	-	-
P-158	覆土1	59	0.36	0.80	3.04	3.80	0.39(2点)	0.02(5点)	-	-
P-158	覆土2	53	0.35	0.70	0.52	0.74		-	-	-
P-159	覆土1	52	0.40	0.80	0.97	1.21		-0.03(9点)	-	-
P-159	覆土2	55	0.38	0.70	0.49	0.70		-0.13(8点)	-	-
P-159	覆土7	68	0.40	0.60	0.18	0.30		-	-	-
P-160	覆土1	92	0.58	0.90	1.56	1.73		-0.03(12点)	-	-
P-160	覆土2	93	0.57	1.00	0.54	0.54	3.03(2点)		-	-
P-160	覆土4	36	0.49	1.00	0.12	0.12		-0.03(1点)	-	-
P-160	覆土6	108	1.10	1.90	10.49	5.52	0.76(8点)	0.01(1点)	-	-
P-160	覆土6	105	0.28	0.60	7.86	13.10		-	-	-
P-161	覆土1	50	0.40	0.80	0.58	0.73		-	-	-
P-161	覆土2	77	0.40	0.80	0.77	0.96		-0.01(2点)	-	-
P-163	覆土1	102	0.60	0.80	0.65	0.81	3.79(2点)	0.01(6点)	-	-
P-163	覆土2	103	0.44	0.80	0.17	0.21		-0.01(1点)	-	-
P-164	覆土1	70	0.46	0.80	0.57	0.71		-	-	-
P-165	Ⅱ層	95	0.57	1.00	0.59	0.59		-0.01(1点)	-	-
P-166	覆土1	66	0.52	1.00	0.38	0.38		-0.02(2点)	-	-
P-167	覆土1	85	0.46	0.90	1.32	1.47	0.48(1点)	0.01(2点)	-	-
P-167	覆土3	101	0.45	0.70	0.33	0.47		-0.01(1点)	-	-
P-168	Ⅱ層	88	0.52	0.90	0.24	0.27		-	-	-
P-168	覆土1	94	0.46	0.80	0.94	1.18		-0.01(1点)	-	-
P-169	覆土1	31	0.47	1.00	0.06	0.06		-0.02(1点)	-	-
P-170	覆土1	83	0.41	0.70	1.39	1.99		-0.01(3点)	-	-
P-171	覆土1	90	0.43	0.70	0.47	0.67		-0.01(2点)	-	-
P-172	覆土1	82	0.39	0.80	0.65	0.81	0.68(1点)	0.1(3点)	-	-
P-172	覆土2	71	0.38	0.70	0.32	0.46		-0.11(2点)	-	-
P-172	覆土3	73	0.44	0.85	0.55	0.65		-0.13(7点)	-	-
P-172	覆土4	74	0.48	0.90	0.29	0.32		-0.01(1点)	-	-
P-173	覆土1	99	0.57	1.00	0.33	0.33		-0.04(4点)	-	-
P-174	覆土1	32	0.46	0.90	0.75	0.83		-0.03(2点)	-	-
P-177	覆土1	67	0.56	1.00	0.44	0.44		-0.01(2点)	-	-
P-178	覆土1	69	0.49	0.90	0.34	0.38	1.59(4点)	0.05(2点)	-	-
P-178	覆土2	51	0.43	0.90	0.18	0.20		-	-	-
P-178	覆土3	79	0.47	0.80	4.02	5.03		-0.01(2点)	-	-
P-181	覆土3	56	0.52	1.00	0.52	0.52	0.15(1点)	0.01(4点)	-	-
P-183	覆土1	35	0.40	0.80	0.11	0.14		-0.06(3点)	-	-
P-188	覆土1	75	0.49	0.95	0.76	0.80		-0.01(1点)	-	-
P-188	覆土2	81	0.49	0.90	0.20	0.22		-	-	-
P-188	覆土3	46	0.45	0.80	0.16	0.20		-	-	-
P-190	覆土1	47	0.40	0.95	0.86	0.91		-0.01(1点)	-	-
P-190	覆土3	78	0.60	1.00	0.07	0.07		-	-	-
P-192	覆土1	65	0.60	1.00	0.40	0.40		-0.02(4点)	-	-
P-192	覆土2	60	0.54	1.00	0.54	0.54		-0.18(7点)	-	-
P-194	覆土1	104	0.54	1.00	0.36	0.36	1.1(4点)	0.01(7点)	-	-
P-197	覆土1	72	0.57	1.00	0.33	0.33		-	-	-
P-197	覆土2	54	0.51	1.00	0.19	0.19		-	-	-
総計			67.1	120.0	139.9	-	30.59(73点)	12.69(387点)	0.02(2点)	0.01(1点)

表IV-7 遺構・包含層出土遺物一覧

種別	分類	石材	層位					遺構	総計		
			I	II	III	攪乱	風倒				
土器ほか	土器	I b	10	65	4				11	90	
		III	1	54	16				4	71	
		IV	1	60					3	64	
		VIa	1	12					5	18	
		VIb	742	5,325	2	2	1	5	2,504	8,581	
		VII	400	4,574	2	19			358	5,353	
		VII2	42	289		3			31	365	
		VII3	1	5					1	7	
		VIII	1	1					1	1	
	焼成粘土塊			22					37	59	
紡錘車			3						3		
土製品								1	1		
小計			1,198	10,410	24	24	1	5	2,951	14,613	
石器ほか	石鏃	黒曜石	3	9					4	16	
		黒曜石		2						2	
	石槍	黒曜石		4					1	5	
		泥岩	1							1	
	両面調整石器	眞岩			1				2	3	
		黒曜石	21	69					32	122	
	つまみ付きナイフ	片岩							1	1	
		眞岩							1	1	
	スクレイパー	黒曜石		1						1	
		黒曜石								1	
	石錐	黒曜石		1						1	
		黒曜石	5	41					17	63	
	楔形石器	黒曜石	10	26					12	50	
		黒曜石	8	59			1	1	20	87	
	二次加工ある剥片	チャート		1						1	
		泥岩		1						1	
	石核	黒曜石	295	2,012	10	7			630	2,954	
		緑色泥岩	2	10					4	16	
		片岩	2	10					9	21	
		砂岩			2				3	5	
		チャート		2					1	3	
		眞岩	3	4					7	7	
		めのう	1	2					1	4	
		安山岩		9					7	16	
		凝灰岩	1	1					2	2	
		泥岩	2	19		1			2	24	
		緑色泥岩		5					1	6	
		片岩	2	2					1	5	
	石斧	泥岩		2					2	2	
		砂岩		5					4	10	
	たたき石	安山岩		1				1	1	2	
		角閃岩		1					1	1	
		泥岩		2					1	3	
	すり石	砂岩		1					1	1	
		安山岩		3	1			1	1	6	
	台石	粗粒玄武岩		1					1	1	
		砂岩	4	6					3	13	
	砥石	安山岩	1	2					1	3	
		砂岩	1	7					1	9	
	原石	安山岩				1			1	2	
		緑色泥岩		1					1	2	
	礫	コハク		2						2	
		緑色泥岩		1						1	
		片岩	1	24					18	43	
		砂岩	267	1,302	3	8		2	976	2,558	
		チャート	28	159		1			134	322	
		めのう		2					2	4	
		安山岩	67	322		4			266	659	
		花崗岩	1	4					3	8	
		凝灰岩	14	37	1				3	55	
		泥岩	124	742	2	3		1	175	1,047	
		流紋岩	5	19					10	34	
		ラピリスストーン		1						1	
		玄武岩	1	1					1	3	
		閃緑岩		2						2	
		粗粒玄武岩		1					2	3	
		粘板岩		1						1	
		斑れい岩	1	1						1	
	礫岩	7	11					10	28		
	加工痕のある礫	泥岩							1	1	
		凝石							1	1	
	有孔礫								1		
	軽石								1		
	擦り切り残片	ロジン岩	10	122	1				18	151	
	垂飾	コハク	1							1	
	小玉		1						1	1	
	石製品	蛇紋岩							1	1	
		砂岩							1	1	
	小計			890	5,072	22	26	1	5	2,386	8,402
	金属製品ほか	刀子片(茎側)			1					2	3
		鉄製錐								2	2
		鉄鍋片(丸湯口)	4							4	4
		鉄鍋片	2							2	2
洪武通宝		1							1	1	
鉄製品		2							2	2	
小計			9	1					1	1	
その他	炭化物	1	3						5	15	
	樹皮痕跡								1	1	
	骨片	6	11						72	89	
	白色粘土		1						11	12	
	灰								2	2	
	高師小僧			1					3	4	
	石炭		3						1	4	
小計			7	19				221	247		
総計			2,104	15,502	46	50	2	10	5,563	23,277	

表Ⅳ-8 遺構・包含層出土掲載土器一覽

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-6	76	1		D11	Ⅱ⑥		1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	2	P-118		覆土3	18	1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	3		E9	Ⅱ		1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	4		I30	Ⅱ		1	I b	深鉢	口縁					
IV-6	76	5		G29	Ⅱ		1	I b	深鉢	口縁					
IV-6	76	6		F29	Ⅱ		1	I b	深鉢	口縁					
IV-6	76	7	P-8		覆土1	1	1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	8	P-21		覆土2	3	1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	9		G29	Ⅱ		2	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	10		F29	Ⅱ		1	I b	深鉢	胴部					
IV-6	76	11		C30	Ⅱ		1	Ⅲ	深鉢	胴部					
IV-6	76	12		D29	Ⅱ		1	Ⅲ	深鉢	胴部					
IV-6	76	13		H30	Ⅱ		1	Ⅲ	深鉢	胴部					
IV-6	76	14		I31	Ⅱ		3	Ⅳ	深鉢	胴部					
IV-6	76	15		H31	Ⅱ		1	Ⅵa	深鉢	口縁					
IV-6	76	16	P-34		覆土2	6	1	Ⅵa	深鉢	胴部					
IV-6	76	17	P-92		覆土	9	1	Ⅵa	深鉢	胴部					
IV-6	66-1	18	P-145		覆土1		1	Ⅵb	甕	口縁～底部	(19.6)	(27.8)	(8.9)		
			P-145		覆土3		3							8	
			P-145		覆土3	4-1	14							14	
			P-145		覆土3		5							9	
			P-145		覆土3		6							5	
			P-145		覆土3		7							12	
			P-145		覆土3		8							4	
			P-145		覆土3		9							5	
			P-145		覆土3		10							5	
			P-145		覆土3		11							2	
			P-145		覆土3		12							1	
			P-145		覆土3		13							2	
			P-153		覆土1									1	
			P-188		覆土2		1							3	
		B24	Ⅱ		1										
		C22	Ⅱ		2										
IV-6	76	19	P-49		覆土2		9	Ⅵb	甕	口縁					
IV-6	76	20	P-163		覆土1	31	1	Ⅵb	甕	胴部					
			B23	Ⅱ		3									
IV-6	76	21	P-100		覆土2	33	1	Ⅵb	甕	胴部					
IV-6	76	22	P-85		覆土2		1	Ⅵb	甕	胴部					
IV-6	76	23	P-144		覆土2	29	1	Ⅵb	甕	胴部					
			P-144		覆土4	7	1								
			P-144		覆土4		1								
IV-6	76	24	P-163		覆土2	71	1	Ⅵb	甕	口縁					
			P-182		覆土	7	1								
			P-182		覆土		1								
			B23	Ⅱ		2									
		B24	Ⅱ		1										
IV-6	76	25	P-163		覆土2	69	1	Ⅵb	甕	口縁	(20.2)	[8.9]			
			P-163		覆土2	77	3								
			B23	Ⅱ		2									
			B24	Ⅱ		2									
		表採			1										
IV-7	66-2	26	D28		Ⅱ		4	Ⅵb	甕	口縁～胴部	(25.0)	[29.3]			
			D28		Ⅱ上面		2								
			D29		Ⅱ		7								
			D29		Ⅱ上面		2								
			P-91		覆土1		1								
			D29		Ⅱ		5								
			E28		Ⅱ		2								
			F28		Ⅱ		1								
			F29		Ⅱ		1								
G30		Ⅰ		1											
G30		Ⅱ		2											
IV-7	66-3	27	P-141		覆土1	3	9	Ⅵb	甕	口縁～胴部	(26.8)	[19.4]			
			P-163		覆土1	7	1								
			P-163		覆土1	50	1								
			P-163		覆土1	61	1								
			P-163		覆土1		2								
			P-39		覆土1	1	1								
			P-89		覆土1	1	3								
			P-89		覆土上層		4								

IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
			P-90		覆土		5	3						
			P-163		覆土1		29	1						補修孔7
				B21	II			1						
				C20	II			1						
				B24	I			1						
				C27	II			2						補修孔8
IV-7	76	28	P-174		覆土			1	VIb	甕or片口	胴部			
IV-7	76	29	P-156		覆土3			1	VIb	甕	胴部			
IV-7	76	30		D28	II			1	VIb	甕	胴部			
				D29	II			1						
IV-7	76	31	P-163		覆土1		84	1	VIb	甕	胴部			
			P-163		覆土2		76	1						
				B23	II			2						
IV-7	76	32	P-144		覆土8		27	1	VIb	甕	口縁			
			P-159		覆土2		20	1						
			P-171		覆土1		3	1						
			P-171		覆土1		5	1						
			P-171		覆土1		6	1						
			P-171		覆土1		8	1						
				B24	II			2						
IV-7	76	33	P-144		覆土2			1	VIb	甕	口縁			
			P-144		覆土8		19	1						
			P-144		覆土8		20	1						
				B21	II			1						
IV-7	76	34	P-155		覆土1			2	VIb	甕	胴部			
			P-155		覆土2		3	1						
IV-7	76	35	P-124		覆土1			1	VIb	甕	胴部			
				B22	II			1						
IV-7	76	36		C23	II			2	VIb	甕	胴部			
IV-8	76	37		B16	II			1	VIb	甕	口縁			
IV-8	77	38	P-174		坑底		16	6	VIb	甕	口縁			
IV-8	77	39	P-53		覆土3		7	1	VIb	甕	口縁			
				C28	II			1						
IV-8	77	40	P-53		覆土3		5	1	VIb	甕	頸部			
IV-8	77	41		B20	II			1	VIb	甕	口縁			
IV-8	77	42	P-153		覆土1			2	VIb	甕	胴部			
			P-153		覆土2			4						
IV-8	77	43		B23	II			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	44	P-163		覆土1		8	1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	45	P-182		覆土		2	1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	46	P-176		覆土1		3	1	VIb	甕	頸部			
IV-8	77	47	P-92		坑底		5	1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	48	P-182		覆土		5	1	VIb	甕	胴部			
			P-182		覆土		6	1						
IV-8	77	49	P-86		覆土1		1	1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	50	P-136		覆土1			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	51	P-173		覆土		1	1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	52	P-105		覆土2			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	53		B21	II			2	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	54	P-106		覆土上層			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	55	P-46		覆土3		3	1	VIb	甕	胴部			
			P-125		覆土1			1						
IV-8	77	56	P-140		覆土3下層		8	1	VIb	甕	胴部			
			P-163		覆土1		6	12						
			P-163		覆土1		7	5						
IV-8	77	57		C20	I			1	VIb	甕	胴部			
				D27	II			2						
IV-8	77	58		C28	I			1	VIb	甕	胴部下			
				E28	II			1						
IV-8	77	59	P-53		覆土2			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	60	P-53		覆土3		4	1	VIb	甕	胴部			
			P-91		覆土1			1						
IV-8	77	61	P-46		覆土上層			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	62		C27	II上面			1	VIb	甕	胴部			
				C28	II			1						
IV-8	77	63	P-141		覆土1			1	VIb	甕	胴部			
IV-8	77	64		B23	II			1	VIb	甕	胴部			
				D27	I			4						
IV-9	66-4	65		D27	II			12	VIb	甕	口縁～胴部	(17.9)	[13.3]	
				D27	II上面			2						
				D28	II上面			1						

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-9	77	66		E30	II		1	VIb	甕	口縁					
				G30	II		1								
IV-9	77	67		D27	I		1	VIb	甕	口縁					
IV-9	77	68	P-110		覆土		5	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	69	P-184		覆土3		3	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	70	P-106		覆土3		8	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	71	P-153		覆土1		1	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	72	P-44		覆土1		11	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	73	P-52		覆土2		1	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	74		P-144	覆土8		18	VIb	甕	胴部					
				P-144	覆土8		22								1
				P-144	覆土8										1
IV-9	78	75		P-142	覆土1		6	VIb	甕	頸部					
				C22	II										1
IV-9	78	76	P-113		覆土1		10	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	77	P-118		覆土1		1	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	78	P-178		覆土1		3	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	79	P-190		覆土1		7	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	80		C14	II		2	VIb	甕	胴部					
IV-9	78	81	P-46		覆土3		5	VIb	甕	胴部					
IV-9	66-5	82		P-194	覆土1		1	VIb	甕	胴部～底部	[22.4]	[19.7]	(9.2)		
				P-194	覆土		2								2
				P-194	覆土		3								1
				P-194	覆土		4								5
				P-194	覆土		5								4
				P-194	覆土		6								2
				P-194	覆土		8								1
				P-194	覆土		14								1
				P-194	覆土		15								1
				P-194	覆土		16								1
				P-194	覆土		17								2
				P-194	覆土		18								2
				P-194	坑底		19								9
				P-194	坑底		20								2
				P-194	坑底		21								1
P-194	坑底		22	1											
P-194	坑底		24	1											
P-194	坑底		25	1											
P-194	坑底		28	4											
IV-10	67-1	83		D27	II		3	VIb	甕	胴部～底部	[27.6]	[16.5]	(14.1)	圧痕12 補修孔4	
				D28	II		8								
				D28	II 上面		26								
				D29	II		12								
IV-10	78	84		C27	II		2	VIb	甕	底部	-	[3.7]	(7.4)		
IV-10	78	85		D30	II		5	VIb	甕	底部	-	[4.4]	(10.6)		
IV-10	78	86		D30	II		3	VIb	甕	底部	-	[6.8]	(10.6)		
IV-10	67-2	87		P-181	覆土		11	VIb	甕	底部	-	[6.8]	(9.8)		
				P-181	覆土		16								1
IV-10	67-4	88		P-51	坑底直上		22	VIb	甕	口縁～胴部	26.6	[29.0]	-		
				P-51	坑底直上		23								16
				P-51	坑底直上		24								37
				P-51	坑底直上		25								1
				P-51	坑底直上		26								4
IV-10	67-5	89		P-51	覆土1		2	VIb	甕	口縁～底部	(20.5)	26.3	(8.5)		
				P-51	覆土2		3								43
				P-51	覆土2		4-1								7
				P-51	覆土2		5								1
				P-51	覆土2		6								3
				P-51	覆土2		7								1
				P-51	覆土2										1
				P-51	坑底直上		24								1
P-51	坑底直上		26	1											
IV-11	78	90	P-163		覆土1		43	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	91	P-38		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	92	P-140		覆土3下層		8	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	93	P-192		覆土		9	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	94	P-159		覆土6		36	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	95	P-203		覆土		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	96	P-174		覆土		8	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	97	P-144		覆土2		29	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	98	P-113		覆土1		6	VIb	甕	口縁					



IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
			P-113		覆土1		1								
IV-11	78	99	P-155		覆土2	7	2	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	100	P-155		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	101	P-165		覆土	5	1	VIb	甕	口縁					
					B25	II									1
					B26	II									1
IV-11	78	102	P-47		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
					E24	I									1
IV-11	78	103	P-95		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	104		B19	II		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	105	P-106		覆土上層		1	VIb	甕	口縁					
IV-11	78	106		J32	II		2	VIb	甕	口縁	(18.7)	[7.8]	-		
IV-11	78	107	P-149		覆土1	2	1	VIb	甕	頸部					
IV-11	78	108	H-1		覆土2	5	1	VIb	甕	頸部					
IV-11	78	109	P-147		覆土	2	1	VIb	甕	胴部					
					P-147	覆土	3								1
IV-11	78	110	P-31		覆土3		1	VIb	甕	胴部					
IV-11	78	111	P-75		覆土2		1	VIb	甕	頸部					
IV-11	78	112	P-90		覆土		1	VIb	甕	頸部					
IV-11	78	113	P-30		覆土1		1	VIb	甕	頸部					
IV-11	78	114	P-41		覆土1	8	1	VIb	甕	胴部					
					P-178	覆土1	6								1
IV-11	78	115			C22	II		VIb	注口	注口部					
					C27	II									1
IV-11	67-3	117	P-163		覆土1	1	18	VIb	片口	口縁～底部	(19.0)	(12.1)	(7.6)		
					覆土1	60	1								
					覆土1		7								
					覆土1	16	8								
IV-12	78	118		B24	II		1	VIb	注口	口縁～胴部					
IV-12	78	119	P-105		覆土1	1	1	VIb	片口	片口部					
					C20	II									1
IV-12	78	120	P-163		覆土1	34	1	VIb	片口or鉢	口縁					
					覆土2	72	1								
					覆土2	77	1								
					B23	II									2
					表採		1							圧痕16	
IV-12	78	121	P-159		覆土1	1	1	VIb	片口or鉢	口縁					
					P-163	覆土2	78								1
					B23	I									2
					B24	II		2							
IV-12	79	122	P-191		覆土上層		1	VIb	片口	口縁					
					B26	II									1
					C27	II		1							
IV-12	79	123	P-166		覆土	4	1	VIb	片口	胴部					
					B24	II									2
IV-12	79	124	P-171		覆土1	1	1	VIb	片口	口縁～胴部					
					P-171	覆土1	2								1
IV-12	79	125		B24	II		1	VIb	片口	胴部					
IV-12	79	126	P-171		覆土1	12	1	VIb	片口	底部					
					B24	II									2
					B24	II上面		1							
IV-12	79	127	P-178		覆土3	26	1	VIb	片口or鉢	口縁					
					B24	II									1
IV-12	79	128		B23	II		1	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-12	79	129		C15	II		2	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-12	79	130		D13	I		1	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-12	79	131	P-144		覆土8		1	VIb	片口or鉢	口縁～胴部					
IV-12	79	132		B23	II		1	VIb	片口or鉢	底部	-	[2.1]	(8.9)		
IV-12	79	133	P-51		覆土2	18	1	VIb	片口or鉢	底部	-	[2.3]	(9.3)		
IV-12	68-1	134	P-128		覆土1		1	VIb	甕	口縁～胴部	(25.4)	[12.4]			
					覆土2	1	1								
					C12	II									1
					C13	II③									2
					C13	II④									13
					C13	II⑤									2
					C13	II③		2							
					C13	II④		5							
			PC-2		II	2	9								
			PC-2		II	3	10								
			PC-2		II	4	2								
			PC-2		II	5	2								

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-13	68-4	135	PC-2		II		6	6	VIb	甕	口縁～胴部	(25.0)	[30.8]		
			PC-2		II		7	17							
			C11	II③			1								
			C12	II			9								
			D12	I			1								
			D12	II			23								
			D12	II①			12								
			D12	II②			5								
			D12	II上面			2								
IV-13	79	136			B19	II		4	VIb	甕	口縁～胴部				
IV-13	79	137			I31	II		4	VIb	甕	口縁				
IV-13	79	138			D30	II		1	VIb	甕	口縁				
IV-13	79	139			B21	I		2	VIb	甕	頸部				
IV-13	79	140			B24	II		1	VIb	甕	胴部				
IV-13	79	141			B25	II		1	VIb	甕	胴部				
IV-13	79	142	P-120		覆土1		2	VIb	甕	頸部					
IV-13	79	143	P-41		覆土1	1	1	VIb	甕	胴部					
IV-13	79	144			表採		1	VIb	甕	頸部					
IV-13	79	145			F29	II		1	VIb	片口	片口部				
IV-13	68-2	146	P-118		覆土2		3	1	VIb	甕	口縁～底部	(17.9)	20.1	(7.9)	補修孔1
			B20	II		1									
			B21	II		1									
			P-118	覆土3		1									
			B20	II		4									
IV-13	68-3	147	C21		I		4	VIb	甕	胴部～底部	-	[12]	(7.0)		
			C21	II		7									
IV-13	79	148	P-19		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
			P-19	覆土2	16	1									
IV-13	79	149	P-38		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-13	79	150			C21	I		1	VIb	甕	口縁				
IV-13	79	151	P-73		覆土2	4	1	VIb	甕	頸部					
			E28	II		1									
			E31	II		1									
IV-14	79	152	P-76		覆土1		1	VIb	甕	頸部～胴部下部	-	[27.2]			
			P-142	覆土1	1	1									
			P-142	覆土1	2	1									
			P-142	覆土1	6	1									
			P-142	覆土1	7	1									
			P-142	覆土1	8	1									
			P-142	覆土1	14	1									
			P-142	覆土1	16	5									
				B22	II		1								
	C22	II		1											
IV-14	79	153	P-7		覆土1		1	VIb	甕	頸部					
IV-14	79	154			C12	II		1	VIb	甕	頸部				
IV-14	80	155	P-46		覆土		1	VIb	甕	口縁					
			P-47	覆土1下部	3	1									
IV-14	80	156			B20	II		1	VIb	甕	口縁				
IV-14	80	157			D27	II		1	VIb	甕	口縁				
IV-14	80	158			B26	II		1	VIb	甕	口縁				補修孔18
IV-14	80	159	C14		II		1	VIb	甕	口縁					
			D13	II		2									
IV-14	80	160			D27	I		1	VIb	甕	口縁				
IV-14	80	161	P-190		覆土1	9	1	VIb	甕	頸部					
IV-14	80	162	P-79		覆土4		1	VIb	甕	頸部					
IV-14	80	163	P-83		覆土4		1	VIb	甕	胴部					
IV-14	80	164	P-39		覆土1	9	1	VIb	甕	胴部					
			P-39	覆土1	12	1									
IV-14	80	165			D19	I		1	VIb	甕	胴部				
IV-14	80	166	P-172		覆土2	5	1	VIb	甕	頸部					
IV-14	80	167	P-37		覆土3		1	VIb	甕	頸部					
IV-14	80	168			C8	II⑧		1	VIb	甕	頸部				
IV-14	80	169			F9	II④		1	VIb	甕	胴部				
IV-14	80	170			D29	II		3	VIb	甕	頸部				
IV-14	80	171	P-101		覆土1	22	1	VIb	甕	胴部					
IV-14	80	172	D23		I		1	VIb	甕	頸部					
			E23	I		1									
IV-14	80	173	C9		I		1	VIb	甕	頸部					
			C9	II④		2									
IV-14	80	174	P-30		覆土1・4	4	1	VIb	注口	注口部					
IV-14	80	175			B18	II		1	VIb	片口or鉢	口縁				

IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-14	80	176	P-80		覆土1		1	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-14	80	177	P-203		覆土		1	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-14	80	178		F28	II		1	VIb	片口or鉢	口縁					
IV-14	80	179		B24	II		1	VIb	ミニチュア(甕)	口縁	(6.2)	[2.0]	-		
IV-14	80	180		B24	II		1	VIb	ミニチュア(甕)	胴部					
IV-15	68-5	181	P-163		覆土1		4	VIb	甕	口縁～底部	(21.6)	(27.7)	9.1		
			P-163		覆土1		6							1	
			P-163		覆土1		11							1	
			P-163		覆土1		19							1	
			P-163		覆土2		20							2	
			P-163		覆土1		21							5	
			P-163		覆土1		22							2	
			P-163		覆土1		24							2	
			P-163		覆土1		25							1	
			P-163		覆土1		31							1	
			P-163		覆土1		37							1	
			P-163		覆土1		38							1	
			P-163		覆土1		45							1	
			P-163		覆土1		46							1	
			P-163		覆土1		48							2	
			P-163		覆土1		50							1	
			P-163		覆土1		52							2	
			P-163		覆土1		80							1	
			P-163		覆土1		93							1	
			P-163		覆土1		94							1	
			P-163		覆土1		95							1	
			P-163		覆土1		96							1	
			P-163		覆土1		98-1							3	
P-163		覆土1		99	1										
P-163		覆土1			2										
			B23	II			23								
IV-15	69-1	182	P-44		覆土1		10	VIb	甕	口縁～胴部	(25.9)	[28.5]	-	圧痕3	
				C27	II		1								
				表採			2								
IV-15	69-2	183	P-101		覆土1		1	VIb	甕	口縁～胴部	(18.8)	[18]	-		
			P-101		覆土1		7								2
				B21	II										7
IV-15	80	184	P-145		覆土3		1	VIb	甕	口縁～胴部					
			P-145		覆土3		2								2
IV-15	80	185	P-148		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-15	80	186	P-80		覆土1		1	VIb	甕or鉢	口縁				補修孔11	
IV-15	80	187	P-188		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-15	80	188	P-160		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-15	80	189	H-3		カマド覆土2		1	VIb	甕or鉢	口縁					
IV-15	80	190	P-203		覆土		1	VIb	甕or鉢	口縁					
IV-15	80	191	P-174		覆土		1	VIb	甕or鉢	口縁					
IV-15	80	192	P-118		覆土3		20	VIb	甕	口縁					
				E28	II										1
IV-15	80	193		C19	II		3	VIb	甕or鉢	口縁					
IV-15	80	194		B25	II		1	VIb	甕or鉢	口縁					
IV-15	80	195	P-120		覆土上層		1	VIb	甕	口縁					
IV-15	80	196		B20	II		1	VIb	甕	口縁					
IV-15	80	197	P-106		覆土上層		1	VIb	甕	口縁				補修孔12	
IV-16	80	198		F28	II		2	VIb	甕	口縁～胴部					
				G28	I										2
IV-16	80	199	P-159		覆土2		15	VIb	甕	口縁～胴部					
IV-16	81	200	P-140		覆土3上層		4	VIb	甕	口縁～胴部					
			P-140		覆土3下層		11								1
			P-159		覆土2		16								1
			P-159		覆土2		20								1
			P-159		覆土2		23								1
			P-159		覆土2		28								1
			P-159		覆土2		30								1
			P-159		覆土2		35								1
			P-159		覆土2		40								1
			P-159		覆土2		41								1
			B23	II			1								
IV-16	81	201	P-148		覆土1		1	VIb	甕	口縁					
IV-16	81	202	P-75		覆土2		1	VIb	甕	口縁					
IV-16	81	203		F31	II		2	VIb	甕	口縁					
IV-16	81	204	P-38		覆土1		1	VIb	甕	口縁					

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-16	81	205		C13	II③		1	VIb	甕	口縁				
IV-16	81	206		D11	II上面③		1	VIb	甕	口縁				
IV-16	81	207	P-63		覆土2	11	2	VIb	甕	口縁				
IV-16	81	208	P-68		覆土2	17	1	VIb	甕	口縁				
IV-16	81	209		D29	II		2	VIb	甕	口縁				
				D29	II上面		1							
IV-16	81	210	P-6		覆土2	2	1	VIb	甕	頸部				赤彩
IV-16	81	211	P-161		覆土2	1	1	VIb	甕	胴部				
IV-16	69-3	212		B24	II		7	VIb	甕	口縁～胴部	(17.7)	[14]	-	
					覆土	10	1							
					覆土		1							
IV-16	81	213	P-92		坑底	4	1	VIb	甕	口縁～胴部				
			P-131		覆土	1	1							
			P-131		覆土		1							
IV-16	81	214		D23	I		2	VIb	甕	口縁～胴部	(14.4)	[8.2]	-	
				E23	I		2							
IV-16	81	215		C16	II		1	VIb	甕or壺	口縁				
IV-16	81	216	P-72		覆土1	5	1	VIb	甕	口縁				
				C14	II		1							
IV-16	81	217	P-188		覆土2	2	1	VIb	甕	口縁				
IV-16	81	218	P-172		覆土2		1	VIb	甕or鉢	口縁				
IV-16	81	219	P-176		覆土1		2	VIb	甕	口縁				
			P-180		覆土	2	1							
IV-17	81	220		C14	II		1	VIb	甕	口縁				
IV-17	81	221	P-114		覆土1	2	2	VIb	甕	胴部				
IV-17	81	222		C10	II⑤		1	VIb	甕	頸部				
					覆土		1							
IV-17	81	223	P-203		覆土		1	VIb	甕	頸部～胴部	-	[11.3]	-	
				H30	II		3							
					表採		1							
IV-17	81	224	P-157		覆土3上面	3	1	VIb	甕	頸部～胴部				
			P-180		坑底	5	1							
				B25	II		4							
IV-17	81	225	P-50		覆土1下層	8	1	VIb	甕	胴部				
			P-50		覆土1下層	9	1							
IV-17	81	226	P-73		覆土2	5	1	VIb	甕	底部	-	[3.9]	(8.4)	
IV-17	81	227	P-116		覆土上層		2	VIb	甕	底部	-	[1.5]	(5.8)	
IV-17	81	228	P-152		覆土1	1	1	VIb	甕or鉢or片口	底部	-	[1.2]	(5.8)	
IV-17	81	229	P-66		覆土1	1	1	VIb	甕	底部	-	[2.6]	(7.2)	
IV-17	69-4	230	P-92		坑底	2	1	VIb	甕	胴部～底部	-	[9.3]	(8.6)	圧痕41
			P-92		坑底	3	1							
IV-17	81	231	P-24		覆土3	8	1	VIb	甕	底部	-	[2.4]	(10.2)	圧痕36
			P-25		覆土1	7	1							
IV-17	81	232	P-144		覆土4	9	1	VIb	甕	底部	-	[4.7]	(10.4)	
			P-144		覆土8	24	2							
IV-17	81	233	P-63		覆土2	18	1	VIb	甕	底部	-	[3.3]	(12.0)	
IV-17	69-5	234	P-135		覆土1	3	1	VIb	甕	胴部～底部	-	[8.5]	(7.4)	圧痕8～10
			P-135		覆土1	4	4							
			P-135		覆土2	6	1							
IV-17	70-1	235	P-46		覆土3	11	3	VIb	甕	胴部～底部	-	[9.9]	6.1	
IV-17	70-2	236	P-165		覆土	1	1	VIb	甕	底部	-	[6.8]	8.1	
			P-182		覆土	1	8							
			P-182		覆土	4	1							
				B25	II		2							
IV-18	81	237		F29	I		1	VIb	甕	底部	-	[2.4]	(10.3)	
IV-18	81	238		B25	II		1	VIb	甕	底部	-	[1.9]	(7.1)	
IV-18	81	239	P-46		覆土3	6	1	VIb	甕	底部	-	[3.9]	(7.8)	
IV-18	70-3	240		G31	II		13	VIb	甕	胴部～底部	-	[10.5]	8.5	圧痕15
				G31	II上面		1							
IV-18	70-4	241	P-140		覆土3上層	1	38	VIb	甕	胴部～底部	-	[11.7]	(10.2)	
			P-140		覆土1		3							
IV-18	81	242		D13	II		1	VIb	甕	底部	-	[3.2]	(5.0)	
IV-18	82	243	P-21		覆土2	18	1	VIb	甕	底部	-	[4.6]	(5.9)	
IV-18	82	244	P-72		覆土1	1	1	VIb	甕	底部	-	[1.9]	(7.2)	
IV-18	82	245		F31	II		1	VIb	甕	底部	-	[2.8]	(7.4)	
IV-18	82	246	P-106		覆土1	7-1	5	VIb	甕	底部	-	[4.3]	(7.2)	
IV-18	82	247	P-114		覆土1	1	1	VIb	甕	底部	-	[3.8]	(8.0)	
IV-18	82	248	P-101		覆土1	6	1	VIb	甕	底部	-	[3.2]	(8.0)	
IV-18	82	249		B22	II		3	VIb	甕	底部	-	[2.5]	(8.2)	
				C22	II		1							
IV-18	82	250	P-63			21	2	VIb	甕	底部	-	[2.7]	(8.4)	
IV-18	70-5	251	P-30		覆土1	3	1	VIb	甕	底部	-	[5.7]	(8.4)	圧痕37

IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-18	82	252	P-140		覆土3下層	16	1	VIb	甕	底部	-	[2.6]	(8.8)	
IV-18	70-6	253		F29	II		5	VIb	甕	底部	-	[4.8]	(8.6)	
IV-19	82	254	P-39		覆土1	13	1	VIb	甕	底部	-	[2.6]	(8.9)	
IV-19	82	255	P-195		覆土1	2	2	VIb	甕	底部	-	[2.4]	(11.4)	
IV-19	82	256	P-196		覆土1		2							
IV-19	82	257		D29	II上面		1	VIb	甕	底部	-	[4.6]	(6.2)	
IV-19	82	257		B24	II上面		1	VIb	甕	底部	-	[4.5]	(6.6)	
IV-19	71-1	258	P-177		覆土1	2	1	VIb	甕	底部	-	[5.3]	(7.0)	
IV-19	82	259	P-172		覆土2	2	1	VIb	甕	底部	-	[3.5]	(7.9)	
IV-19	82	260		C10	II⑥		1	VIb	甕	底部	-	[3.6]	5.8	
IV-19	82	261		B22	II		1	VIb	甕	底部	-	[4.2]	(6.4)	
IV-19	71-2	262		B16	I		2	VIb	鉢	口縁～底部	(16.1)	14.8	(8.5)	補修孔6
IV-19	82	263		B17	II		16							
IV-19	82	263		C22	I		1	VIb	注口	注口部				
IV-19	82	264		D29	II		1	VIb	注口	注口部				
IV-19	82	265		D30	II		1	VIb	注口	注口部				
IV-19	82	266		C15	I		1	VIb	注口	口縁				圧痕48～50
IV-19	71-3	267		C27	II		1	VIb	片口	口縁～底部	(9.7)	(5.3)	5.0	
IV-20	71-4	268	P-113		覆土1	7-1	8	VIb	片口	口縁～底部	[12.1]	[9.7]	(7.1)	
			P-113		覆土1	8	1							
			P-113		覆土1	13	1							
			P-113		覆土1		7							
				B21	II		4							
				B22	II		1							
IV-20	71-5	269	P-100		覆土2	2-1	14	VIb	片口	口縁～底部	(17.4)	[10.7]	8.0	
IV-20	82	270		B26	II		2	VIb	片口	口縁				
				E27	II		1							
IV-20	82	271	P-170		覆土		1	VIb	片口	口縁				
			P-172		覆土2		1							
				B24	II		1							
IV-20	82	272	P-155		覆土1		1	VIb	片口or鉢	口縁～胴部				
			P-155		覆土2	4	1							
IV-20	71-6	273		B21	II		1	VIb	鉢	口縁～胴部	(5.5)	[3.9]		
				C22	II		3							
IV-20	72-1	274	P-135		覆土	7	4	VIb	鉢	口縁～底部	(8.2)	4.8	(3.8)	
IV-20	72-2	275	P-113		覆土1	11	1	VIb	鉢	口縁～底部	8.0	5.0	5.1	
				B21	II		1							
IV-20	72-3	276	P-163		覆土1	48	3	VIb	鉢	口縁～底部	(11.3)	7.7	(6.2)	
			P-163		覆土1	87	1							
IV-21	72-4	277	P-160		覆土1	1	1	VIb	坏	口縁～胴部	(12.7)	[6.6]		圧痕11
			P-160		覆土1		1							
				B20	II		2							
				C10	II⑥		1							
				D10	II		3							
IV-21	72-5	278		D10	II⑤		1	VIb	鉢	口縁～底部	(13.7)	7.5	(6.9)	圧痕30
				D10	II⑦		2							
				D10	II⑨		1							
				D11	II⑥		1							
				D10	II⑦		1							
				E10	II		2							
IV-21	72-6	279	P-159		覆土1		2	VIb	鉢	坏	(11.5)	[5.0]		
			P-159		覆土2	4	1							
			P-159		覆土2		5							
				B24	II		2							
IV-21	73-1	280		F29	II		8	VIb	台付坏	口縁～胴部	(12.9)	[5.4]	-	
IV-21	73-2	281		B24	II		5	VIb	坏	口縁～胴部	(15.9)	[6.1]	-	
IV-21	82	282	P-85		覆土上層		2	VIb	坏or片口	口縁				
IV-21	82	283	P-39		覆土1		1	VIb	ミニチュア坏?	口縁				
IV-21	82	284	P-181		覆土	3	1	VIb	鉢	口縁～胴部				
			P-181		覆土	8	1							
			P-181		覆土		2							
IV-21	82	285	P-64		覆土4	1	1	VIb	鉢	口縁～胴部				
IV-21	82	286	P-37		覆土1		1	VIb	坏	口縁				
IV-21	82	287	P-159		覆土1		1	VIb	坏or鉢or片口	口縁～胴部				
IV-21	82	288	P-45		覆土1		5	VIb	坏	口縁～胴部				
IV-21	82	289	P-192		覆土	3	1	VIb	坏or鉢or片口	口縁				
IV-21	82	290	P-142		覆土1	5	1	VIb	鉢or片口	口縁				圧痕42
IV-21	82	291	P-113		覆土1	12	2	VIb	鉢or片口	口縁～胴部				
IV-21	82	292	P-90		覆土	5	4	VIb	鉢or片口	口縁				
IV-21	82	293	P-115		覆土1		1	VIb	片口or鉢	底部		[6.9]	(7.0)	
			P-115		覆土2		3							

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-21	82	294	P-163		覆土1	63	2	VIb	片口or鉢	底部	-	[5.2]	(8.5)	
IV-21	82	295	P-148		覆土1		1	VIb	片口or鉢	底部	-	[1.3]	(6.2)	水113
IV-21	82	296	P-171		覆土1		1	VIb	坏or鉢	底部	-	[1.3]	(5.0)	
IV-21	82	297	P-131		覆土	23	1	VIb	坏or鉢	底部	-	[1.6]	(8.0)	
IV-21	82	298		B26	II		2	VIb	紡錘車					
IV-21	82	299		B19	II		1	VIb	紡錘車					
IV-21	82	300	PC-1		II		1	VIb	土製品					
IV-22	83	301		C12	II		2	VII	甕	口縁				
IV-22	83	302	F-4		II		2	VII	甕	口縁				補修孔19
IV-22	83	303		I7	II		1	VII	甕	胴部				海綿骨針
IV-22	83	304		C11	II⑥		1	VII	甕	頸部～胴部	-	[13.2]	-	圧痕55
				C12	II		5							圧痕19、22～26
				D10	II		25							
				D10	II⑤		3							
				D10	II⑥		1							
				D10	II⑦		15							圧痕17、18、20a20b、21
IV-22	73-3	305		D10	II上面		2	VII	甕	口縁～底部	(24.4)	29.0	(7.6)	
				D11	II上面②		1							
				D11	II上面④		1							
				D11	II上面③		1							圧痕27
				E11	I		1							圧痕28
				D10	II		1							
				D10	II上面		2							
				D11	II		41							補修孔9
				D11	II⑤		2							
				D11	II上面①		3							
				D11	II上面②		4							
				D11	II上面③		5							
				E8	II⑤		1							
				E8	II⑨		1							
IV-22	73-4	306		E10	II②		1	VII	甕	口縁～胴部	(25.5)	[24.9]	-	
				E11	I		2							
				I10	I		1							
				D9	II④		1							
				D10	II		1							
				D11	II上面③		2							補修孔10
				E9	II③		1							
				F9	I		1							
				F9	II②		3							
				F9	II④		1							
IV-23	73-5	307	PC-3		II	1	42	VII	甕	口縁～胴部	(25.1)	[24.2]	-	
				C12	II		17							
				PC-3	II	1	13							
				C12	II		1							
IV-23	74-1	308		I6	II②		2	VII	甕	口縁部	(22.6)	[7.8]	-	
				I6	II上面		14							
				H8	II②		1							
				I7	II上面①		1							
				I6	II上面		1							
IV-23	83	309	F-16		II		1	VII	甕	口縁				
IV-23	83	310	F-17		II		1	VII	甕	口縁				
IV-23	83	311	P-127		覆土上層		1	VII	甕	口縁				
IV-23	83	312	P-117		覆土1		1	VII	甕	口縁				
IV-23	83	313	P-74		覆土1		1	VII	甕	口縁				
				C9	II		1							
IV-23	83	314		D10	I		1	VII	甕	口縁				
				D10	II		1							
				D11	II上面③		1							
IV-23	83	315		C12	II		5	VII	甕	口縁	(18.5)	[5.9]	-	
				G7	II②		2							
				G8	II②		4							
				G8	II③		1							
IV-23	83	316		G8	II上面		1	VII	甕	口縁～胴部				
				H7	II②		1							
				H7	II上面		1							
				H8	II③		1							
IV-23	83	317		C14	II		27	VII	甕	口縁～胴部	(22.4)	[12.0]	-	
				D14	II		1							
IV-24	83	318		G8	II		1	VII	甕	口縁				
				G9	II		1							
				P-73	覆土下層		1							

IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-24	83	319		C14	II		1	VII	甕	口縁				
				C15	II		1							
IV-24	83	320	P-134		覆土上層		2	VII	甕	口縁	(22.9)	[3.0]		圧痕54
				H6	II③		2							
IV-24	83	321		F8	II②		1	VII	甕	口縁				
				G8	II上面		1							
				G9	I		2							
				G9	II		3							
IV-24	83	322	P-116		覆土上層		1	VII	甕	口縁	(24.4)	[6.8]		
				C12	II		1							
				C13	II③		1							
				C14	II		1							
				D12	II		1							
IV-24	84	323		C12	II		1	VII	甕	頸部～胴部				
				C13	II②		1							
IV-24	84	324		C13	II③		2	VII	甕	胴部				
				C12	II		2							
				D13	II⑤		1							
IV-24	84	325	P-62		覆土3		5	VII	甕	口縁				
				E8	II②		4							
IV-24	84	326		E8	II③		1	VII	甕	口縁				
				E8	II上面①		1							
IV-24	84	327		E8	II④		1	VII	甕	口縁	(22.0)	[4.2]		
				F8	II②		1							
				F8	II③		1							
				F8	II上面		1							
				F9	II②		1							
				F9	II③		1							
				G8	II		1							
				G8	II②		1							
				G8	II③		1							
IV-24	84	328	P-73		覆土2		1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	329	P-99		覆土下層		1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	330	P-98		覆土上層		1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	331	H-4		1層	7	1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	332	P-127		覆土上層		1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	333	P-62		覆土3	17	1	VII	甕	胴部				
IV-24	84	334	H-4		壁面	21	1	VII	甕	頸部				
IV-24	84	335	P-73		覆土2	6-2	1	VII	甕	胴部				
				C11	II②		2							
				C11	II③		1							
				C11	II⑦		2							
IV-24	84	336		C11	II⑧		1	VII	甕	頸部～胴部				
				I5	II		1							
				K5	II		6							
				K5	II②		1							
IV-24	84	337		K6	II		1	VII	甕	頸部～胴部				圧痕59
				K6	II②		1							
				K6	II②		2							
IV-24	84	338	P-128	L5	I		1	VII	甕	頸部				圧痕60
				L5	II②		2							
IV-24	84	339			覆土1	8	3	VII	甕	頸部				圧痕61
				C10	II		2							
IV-25	84	340		C10	II⑤		1	VII	甕	口縁				
				C14	II		7							
IV-25	84	341	P-68		覆土1	5	1	VII	甕	頸部～胴部				圧痕52・53
					覆土1	6	1							
					覆土2	7	4							
				C15	II		1							
IV-25	84	342		I10	I		1	VII	甕	胴部				圧痕58
IV-25	84	343		C12	II		1	VII	甕	頸部				
IV-25	84	344		C11	II⑦		3	VII	甕	口縁				
IV-25	84	345		E10	II②		1	VII	甕	頸部				
				E11	I		1							
IV-25	84	346		C25	II		1	VII	甕	頸部				
IV-25	84	347		D24	II		1	VII	甕	頸部				
				E7	II②		1							
				E8	I		3							
				E8	II②		1							
				E8	II上面①		2							
				E9	II②		1							

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-25	74-5	348		E9	II③		1	VII	甕	口縁～胴部	(17.7)	[13.7]			
				F9	I		1								
				C10	I 上面		1								
				D10	II 上面		1								
				E8	II③		1								
				E9	I		1								
				E9	II④		1								
				F8	II②		2								
		F8	II 上面		1										
IV-25	84	349		E9	II②		1	VII	甕	口縁					
		E9	II③		1										
		F8	II 上面		1										
IV-25	84	350		F8	II 上面		4	VII	甕	頸部					
		F9	II②		1										
IV-25	84	351		F7	II 上面①		1	VII	甕	胴部					
				F8	II②		2								
				F9	I		1								
				F9	II②		2								
				F9	II④		1								
				F9	II 上面①		1								
IV-25	84	352		C12	II		1	VII	甕	口縁	(18.5)	[2.0]			補修孔20
				C13	II①		1								
				D9	II②		1								
				D9	II③		1								
IV-25	84	353		B23	II		1	VII	甕	口縁					
IV-25	85	354	H-1		覆土2	6	1	VII	甕	頸部					
IV-25	85	355		E9	II②		1	VII	甕	口縁					
IV-25	85	356		D9	II 上面		1	VII	甕	頸部					
IV-25	85	357		D6	II		1	VII	甕	頸部					
IV-25	85	358		F7	II		5	VII	甕	頸部～胴部					
				H7	II 上面		2								
				表採			1								
IV-25	85	359		E27	I		1	VII	甕	頸部					
IV-25	85	360		D29	II		1	VII	甕	頸部					
				F28	II		1								
IV-25	74-6	361	PC-1		II		6	VII	甕	胴部～底部	-	[13.9]	(7.2)		
		B18	II		1										
IV-26	74-7	362		G7	II②		4	VII	甕	胴部～底部	-	[9.6]	6.5		
				G7	II③		3								
				G7	II④		6								
				G7	II⑤		2								
				G7	II 上面①		1								
				H7	II②		3								
				H7	II 上面		2								
				I6	II 上面		1								
IV-26	74-2	363		I6	II③		1	VII	甕	胴部～底部	-	[8.8]	9.2		圧痕31
				J6	II②		8								
IV-26	85	364		C12	II		1	VII	甕	底部	-	[2.2]	(8.2)		圧痕32
IV-26	85	365		D12	II		1	VII	甕	底部					
IV-26	74-3	366		I5	II		1	VII	甕	底部	-	[5.0]	(7.6)		
				I6	II②		1								
				I6	II③		1								
				I6	II 上面		3								
IV-26	85	367		B18	II		2	VII	甕	底部	-	[3.2]	(4.4)		
IV-26	85	368		E9	II③		1	VII	甕	底部	-	[3.7]	(5.8)		
IV-26	74-4	369		C14	II		1	VII	甕	底部	-	[6.0]	(9.0)		
IV-26	85	370		C8	II②		1	VII	甕	底部	-	[2.9]	(8.4)		
				C8	II③		1								
IV-26	85	371		C12	II		2	VII	甕	底部	-	[2.2]	6.0		圧痕56
IV-26	85	372		D30	II		1	VII	甕	底部	-	[3.7]	(5.6)		
				C13	II②		1								
IV-26	75-1	373		C13	II③		1	VII	甕	胴部～底部	-	[7.6]	(7.3)		
				C14	II		2								
IV-26	85	374		B16	II		2	VII	甕	底部	-	[3.6]	(7.1)		
IV-26	75-2	375	P-62		覆土3	11	1	VII	甕	底部	-	[5.5]	(7.9)		
IV-26	85	376	P-128		覆土2	1	1	VII	甕	底部	-	[4.7]	(7.8)		
IV-26	75-3	377		P-116	覆土上層		2	VII	甕	底部	-	[3.8]	(8.5)		
				P-116	覆土下層		2								
				C12	II		1								
				C13	II③		1								
		C13	II⑤		1										



## IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-26	85	378		H30	II		1	VII	甕	底部	-	[2.9]	(8.6)	
				F8	II②		2							
				G6	II②		1							
				G7	II		1							
IV-26	75-4	379		G7	II③		1	VII2	坏	口縁～底部	(14.8)	5.1	(5.3)	
				H6	II③		1							
				H7	II②		2							圧痕33
				H7	II上面		4							
IV-26	75-5	380	P-134		覆土2上部	1	6	VII2	坏	口縁～底部	(17.2)	5.3	(12.3)	
				C9	II③		1							
IV-27	85	381		D8	I		1	VII2	坏	口縁～胴部	(15.8)	[5.3]	-	
				E6	II		1							
				E8	II④		3							
				F8	II②		2							
IV-27	75-6	382		F8	II⑤		1	VII2	坏	口縁～底部	(17.0)	5.8	(9.6)	
				F9	II③		2							
				F9	II④		4							
				I6	II②		2							
IV-27	75-7	383		I7	II④		4	VII2	坏	口縁～底部	(19.8)	(7.2)	(15.6)	
				I7	II⑤		1							
				P-74	II	4	1							
IV-27	85	384	P-74		II	5	2	VII2	坏	底部	-	[1.4]	7.0	
				P-74	II		1							圧痕34
IV-27	85	385	P-116		覆土上層		1	VII2	坏	口縁～胴部				
				I6	II		1							
IV-27	85	386		I6	II上面		1	VII2	坏	口縁～胴部				
				I7	II③		1							
				I7	II④		2							
IV-27	85	387		J30	II		1	VII2	坏	口縁～胴部				
IV-27	85	388		F16	I		5	VII2	坏	口縁～底部				
IV-27	85	389		D10	II		1	VII2	坏	口縁～胴部				
				D10	II⑦		2							圧痕62・補修孔21
				E7	II上面①		1							
IV-27	85]	390		E8	II②		2	VII2	坏	胴部～底部	-	[2.8]	(7.2)	
				E8	II④		1							
				E8	II上面①		1							
IV-27	85	391		K30	I		1	VII2	坏	底部				
IV-27	85	392		H6	II③		1	VII	坏	底部	-	[1.4]	5.0	
IV-27	75-8	393	P-116		覆土上層	1	1	VII2	坏	底部	-	[2.7]	5.8	
				C12	II		2							
IV-27	85	394		D10	II		1	VII2	坏	口縁～胴部				
				D11	II上面②		1							
IV-27	85	395		H6	II③		1	VII2	坏	口縁～胴部				
				H7	II上面		1							
IV-27	85	396		D12	II		1	VII2	坏	口縁				
				E11	I		1							
IV-27	85	397		D11	II上面①		1	VII2	坏	胴部				
IV-27	85	398		E9	II④		1	VII2	坏	胴部				
IV-27	85	399		G16	I		1	VII2	坏	胴部				
IV-27	85	400	H-4		4層	2	1	VII2	坏	胴部				
IV-27	85	401		C14	II		2	VII	台付鉢	台部	-	[3.0]	3.9	
IV-27	85	402		C12	II		1	VII	坏	底部				
IV-27	85	403		C28	II		1	VII	坏	高台	-	[1.9]	(6.3)	
IV-27	85	404		表採			1	VII	坏	台部	-	[3.5]	(7.8)	
IV-27	85	405		D10	I		1	VII	坏	台部	-	[2.9]	-	
IV-27	85	406		F7	II		2	VII2	坏	高台	-	[3.3]	-	
IV-27	85	407		D10	II⑤		1	VII	坏	高台	-	[2.3]	-	
IV-27	85	408		D9	II③		1	VIb	坏	高台	-	[3.3]	-	
IV-27	85	409		I8	I		1	VII	坏	高台	-	[2.2]	(6.4)	
IV-27	85	410		C9	II		2	VII3	坏	口縁～胴部				
				C9	II上層		1							
IV-27	85	411	P-73		覆土1		1	VII3	坏	胴部				
IV-27	85	412		J32	II上面		1	VII3	坏	胴部				
IV-27	85	413		D10	II		1	VII	坏	胴部				
IV-27	85	414		表採			1	VII3	台付坏	台部				

表Ⅳ-9 遺構・包含層出土掲載石器一覧

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
IV-28	86	1	石鏃		C29	I	1	[26]	11	3	0.6	黒曜石	
IV-28	86	2	石鏃	P-068		覆土2	16	[23]	13	4	0.9	黒曜石	
IV-28	86	3	石鏃	P-114		坑底	21	32	12	5	1.4	黒曜石	
IV-28	86	4	石鏃	P-114		坑底直上	25	[31]	12	3	1.0	黒曜石	HD-X5
IV-28	86	5	石鏃		F8	II 2回目	1	28	13	4	1.3	黒曜石	
IV-28	86	6	石鏃		D22	I	2	[20]	12	3	0.7	黒曜石	
IV-28	86	7	石鏃		F27	I	1	[22]	18	3	1.1	黒曜石	
IV-28	86	8	石鏃		E30	II 上面	1	16	7	2	0.2	黒曜石	
IV-28	86	9	石鏃		F8	II 5回目	1	[14]	14	2	0.3	黒曜石	
IV-28	86	10	石鏃		C18	II	4	21	14	3	0.6	黒曜石	
IV-28	86	11	石鏃		F28	II	1	21	15	2	0.7	黒曜石	
IV-28	86	12	石鏃		D7	II 上面	1	23	14	3	0.8	黒曜石	
IV-28	86	13	石鏃		B22	II	2	[23]	[13]	3	0.9	黒曜石	
IV-28	86	14	石鏃		I6	II	1	27	14	3	0.7	黒曜石	
IV-28	86	15	石鏃	P-159		覆土2	14	26	17	3	0.8	黒曜石	
IV-28	86	16	両面調整石器	P-132		覆土1	10	28	23	9	4.8	黒曜石	
IV-28	86	17	石槍		B21	II	1	58	24	7	9.1	黒曜石	
IV-28	86	18	石槍		B21	II	2	37	32	9	7.9	黒曜石	
IV-28	86	19	つまみ付きナイフ		G29	III	5	52	18	5	4.8	頁岩	
IV-28	86	20	つまみ付きナイフ	P-182		覆土	16	70	16	7	8.2	頁岩	
IV-28	86	21	スクレイパー	P-178		覆土3	28-1	20	25	9	4.5	黒曜石	
IV-28	86	22	スクレイパー	P-140		覆土3下層	9	25	22	8	4.8	黒曜石	
IV-28	86	23	スクレイパー		B24	II	12	23	19	11	5.7	黒曜石	
IV-28	86	24	スクレイパー		C18	II	1	28	27	11	8.9	黒曜石	
IV-28	86	25	スクレイパー	P-168		覆土	10	25	31	12	10.8	黒曜石	HD-X12
IV-28	86	26	スクレイパー	P-053		覆土3	6	31	30	15	15.5	黒曜石	HD-X10
IV-28	86	27	スクレイパー	P-163		覆土1	125	40	35	18	20.7	黒曜石	
IV-28	86	28	スクレイパー		C19	II	1	23	24	7	4.0	黒曜石	
IV-28	86	29	スクレイパー		F28	II	2	20	25	11	5.3	黒曜石	
IV-28	86	30	スクレイパー		C22	II	3	25	26	1	5.8	黒曜石	
IV-28	86	31	スクレイパー		C22	II	4	33	29	12	11.1	黒曜石	
IV-28	86	32	スクレイパー		B24	II	4	41	38	22	22.7	黒曜石	
IV-28	86	33	スクレイパー		D15	II	1	25	25	17	8.8	黒曜石	
IV-28	86	34	スクレイパー	P-068		覆土1	20	19	27	12	6.0	黒曜石	
IV-28	86	35	スクレイパー		B26	II	3	26	24	12	6.4	黒曜石	
IV-29	86	36	スクレイパー		J31	II	3	20	18	5	1.8	黒曜石	
IV-29	86	37	スクレイパー	P-148		覆土1	1	21	25	17	9.9	黒曜石	
IV-29	86	38	スクレイパー		I30	II	1	24	29	15	8.8	黒曜石	
IV-29	86	39	スクレイパー	P-063		坑底直上	28-1	24	29	13	8.4	黒曜石	HD-X3
IV-29	86	40	スクレイパー	P-039		覆土1	15	26	27	11	7.6	黒曜石	HD-X9
IV-29	86	41	スクレイパー		B23	II	2	31	30	13	14.5	黒曜石	
IV-29	86	42	スクレイパー	P-174		覆土	17	27	32	16	9.8	黒曜石	
IV-29	86	43	スクレイパー		E7	II 上面①	1	33	36	15	19.2	黒曜石	HD-X13
IV-29	86	44	スクレイパー	P-063		坑底直上	25-1	21	26	11	5.1	黒曜石	
IV-29	86	45	スクレイパー		C27	II	4	27	25	12	7.6	黒曜石	
IV-29	86	46	スクレイパー		A24	II	1	27	26	11	7.5	黒曜石	
IV-29	86	47	スクレイパー	P-019		覆土2	21	23	26	9	5.0	黒曜石	HD-X1
IV-29	86	48	スクレイパー		B23	II	5	26	26	1	7.0	黒曜石	
IV-29	86	49	スクレイパー		E28	II 上面	3	32	25	9	7.3	黒曜石	
IV-29	86	50	スクレイパー		B20	II	5	20	26	4	2.1	黒曜石	
IV-29	86	51	スクレイパー		B21	II	9	21	22	4	1.9	黒曜石	
IV-29	86	52	スクレイパー		E28	II 上面	2	21	20	6	2.5	黒曜石	
IV-29	86	53	スクレイパー	P-020		覆土1	2	23	29	15	9.7	黒曜石	
IV-29	86	54	スクレイパー	P-190		覆土1	15	28	28	6	5.1	黒曜石	
IV-29	86	55	スクレイパー		H30	II	2	28	31	13	12.0	黒曜石	
IV-29	86	56	スクレイパー	P-120		覆土上層	1	27	34	19	14.1	黒曜石	

## IV 遺構・包含層出土の遺物

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
IV-29	86	57	スクレイパー	P-075		II層	13	22	20	14	5.6	黒曜石	
IV-29	86	58	スクレイパー		C28	II	1	26	28	12	10.6	黒曜石	
IV-29	86	59	スクレイパー		B22	II	1	20	18	4	1.3	黒曜石	
IV-29	86	60	スクレイパー	P-046		覆土1	15	20	20	8	3.0	黒曜石	
IV-29	86	61	スクレイパー		B26	II	1	20	18	6	2.0	黒曜石	
IV-29	86	62	スクレイパー	H-3		カマド覆土13	47	22	21	11	3.5	黒曜石	
IV-29	86	63	スクレイパー		B24	II	5	23	20	7	4.3	黒曜石	
IV-29	86	64	スクレイパー	P-090		覆土	10	30	23	10	6.4	黒曜石	
IV-30	86	65	スクレイパー		C19	II	3	28	30	14	11.4	黒曜石	
IV-30	86	66	スクレイパー	P-159		覆土1	46	25	21	14	7.0	黒曜石	
IV-30	86	67	スクレイパー	P-019		覆土2(BY)	17	30	20	10	4.8	黒曜石	
IV-30	86	68	スクレイパー	P-092		覆土	18	22	28	10	5.4	黒曜石	
IV-30	86	69	スクレイパー		E7	II	4	24	26	10	7.2	黒曜石	HD-X14
IV-30	86	70	スクレイパー		C27	II上面	3	30	28	11	8.0	黒曜石	
IV-30	86	71	スクレイパー		B24	II	6	22	16	11	3.6	黒曜石	
IV-30	86	72	スクレイパー		B20	II	9	23	21	12	8.7	黒曜石	
IV-30	86	73	スクレイパー	P-144		覆土7	37	30	22	9	4.9	黒曜石	
IV-30	86	74	スクレイパー		B21	II	7	29	19	7	3.6	黒曜石	
IV-30	86	75	スクレイパー	P-159		覆土1	47	38	23	13	8.5	黒曜石	
IV-30	86	76	スクレイパー		B21	II	10	41	30	11	10.5	黒曜石	
IV-30	86	77	スクレイパー	P-101		覆土1	8	35	20	7	2.7	黒曜石	
IV-30	86	78	スクレイパー	P-005		覆土2(BY)	1	31	28	5	5.9	片岩	
IV-30	86	79	スクレイパー		B19	II	1	37	22	15	6.8	黒曜石	
IV-30	86	80	スクレイパー		B21	II	6	24	20	13	6.2	黒曜石	
IV-30	86	81	スクレイパー		B24	II	1	30	22	9	6.1	黒曜石	
IV-30	86	82	スクレイパー		B23	II	3	44	22	14	11.0	黒曜石	
IV-30	86	83	スクレイパー	P-124		覆土1	1	27	30	7	5.3	黒曜石	
IV-30	86	84	スクレイパー	P-169		覆土	6	36	33	24	22.8	黒曜石	
IV-30	86	85	スクレイパー	P-037		覆土4	1	25	25	15	6.6	黒曜石	
IV-30	87	86	スクレイパー	P-142		覆土1	13	29	22	7	3.4	黒曜石	HD-X11
IV-30	87	87	スクレイパー		A25	II	1	34	29	9	11.3	黒曜石	
IV-30	87	88	スクレイパー	P-073		覆土上層	7	32	17	6	2.6	黒曜石	
IV-30	87	89	スクレイパー		C25	II	1	29	22	5	2.9	黒曜石	
IV-30	87	90	スクレイパー	P-044		覆土1	9	21	37	17	11.6	黒曜石	
IV-30	87	91	スクレイパー		F8	II上面	4	33	30	14	20.0	黒曜石	
IV-30	87	92	スクレイパー		B21	II	8	31	30	9	12.7	黒曜石	
IV-31	87	93	スクレイパー	P-153		覆土2	5	48	26	19	17.7	黒曜石	
IV-31	87	94	スクレイパー		B22	II	4	33	14	8	6.2	黒曜石	
IV-31	87	95	スクレイパー	P-163		覆土1	64	41	32	4	5.7	頁岩	
IV-31	87	96	スクレイパー		E7	II4回目	3	33	31	1	7.3	黒曜石	
IV-31	87	97	石錐		G31	II	2	38	24	8	6.1	黒曜石	
IV-31	87	98	楔形石器		C14	II	2	22	15	12	4.5	黒曜石	
IV-31	87	99	楔形石器		B20	II	10	19	12	12	4.7	黒曜石	
IV-31	87	100	楔形石器		B21	II	14	35	25	13	12.1	黒曜石	
IV-31	87	101	楔形石器		E28	II	7	53	21	17	15.6	黒曜石	
IV-31	87	102	楔形石器	P-163		覆土2	74	17	15	5	1.2	黒曜石	HD-X7
IV-31	87	103	楔形石器		D11	II上面	1	18	18	4	1.3	黒曜石	
IV-31	87	104	楔形石器	P-190		覆土	24	19	10	9	2.1	黒曜石	
IV-31	87	105	楔形石器		B20	II	8	27	20	9	5.1	黒曜石	
IV-31	87	106	楔形石器	P-115		覆土	6	26	21	12	4.8	黒曜石	
IV-31	87	107	楔形石器	P-159		覆土2	31	29	25	11	6.4	黒曜石	
IV-31	87	108	楔形石器	P-169		覆土	8	22	22	9	4.0	黒曜石	HD-X8
IV-31	87	109	楔形石器	P-132		覆土1	9	29	19	11	5.6	黒曜石	HD-X6
IV-31	87	110	楔形石器		B23	II	7	34	22	12	7.0	黒曜石	
IV-31	87	111	楔形石器	P-039		覆土1	1	33	25	11	5.2	黒曜石	
IV-31	87	112	楔形石器	P-144		覆土1上層	38	21	10	10	1.8	黒曜石	
IV-31	87	113	楔形石器		E28	II	1	19	25	5	1.2	黒曜石	

長沼町 幌内D遺跡

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
IV-31	87	114	楔形石器		B21	II	12	33	23	9	7.4	黒曜石	
IV-31	87	115	楔形石器		B21	II	5	26	15	13	4.4	黒曜石	
IV-31	87	116	楔形石器		B23	II	6	20	14	7	2.1	黒曜石	
IV-31	87	117	楔形石器	P-163		覆土1	91	24	22	12	5.5	黒曜石	
IV-31	87	118	楔形石器	P-051		坑底直上	21	23	26	8	4.6	黒曜石	HD-X2
IV-31	87	119	楔形石器		B24	II	3	29	26	9	6.1	黒曜石	
IV-31	87	120	楔形石器		B20	II	11	31	31	15	12.7	黒曜石	
IV-31	87	121	楔形石器		B19	II	2	27	27	10	8.4	黒曜石	
IV-31	87	122	楔形石器		B19	II	3	27	36	11	9.8	黒曜石	
IV-32	87	123	楔形石器	P-051		覆土2	27	28	18	15	6.4	黒曜石	
IV-32	87	124	楔形石器	P-050		覆土1	19	36	15	14	7.5	黒曜石	
IV-32	87	125	楔形石器		B22	II	7	42	26	21	20.6	黒曜石	
IV-32	87	126	楔形石器		C21	I	2	28	23	13	8.6	黒曜石	
IV-32	87	127	楔形石器		B23	II	8	14	18	6	1.4	黒曜石	
IV-32	87	128	楔形石器	P-085		覆土1	7	21	12	6	1.1	黒曜石	
IV-32	87	129	楔形石器	P-171		覆土1	18	23	13	5	1.1	黒曜石	
IV-32	87	130	楔形石器		C18	II	2	25	27	9	4.6	黒曜石	
IV-32	87	131	楔形石器		C27	II	1	33	20	13	7.4	黒曜石	
IV-32	87	132	二次加工ある剥片	P-163		覆土1	65	36	34	12	12.9	黒曜石	
IV-32	87	133	二次加工ある剥片	P-184		覆土3	2	35	35	14	18.6	黒曜石	
IV-32	87	134	石核	P-076		覆土1	4	25	24	12	7.6	黒曜石	
IV-32	87	135	石核	P-178		覆土3	23	34	27	20	25.8	黒曜石	HD-X21
IV-32	87	136	石核		F9	II 2回目	1	33	36	21	27.4	黒曜石	HD-X24
IV-32	87	137	石核		A25	II	2	22	33	21	16.2	黒曜石	HD-X23
IV-32	87	138	石核		B21	II	19	22	13	12	11.3	黒曜石	HD-X25
IV-32	87	139	石核	P-144		覆土8	36	38	43	23	37.1	黒曜石	HD-X19
IV-32	87	140	石核	P-100		覆土2	3	29	62	40	56.8	黒曜石	HD-X4
IV-32				P-100		覆土2	5						
IV-32	87	141	石核	P-131		覆土	26	[27]	[31]	[17]	6.9	黒曜石	
IV-32	87	142	石核	P-116		覆土下層	3	16	26	10	3.6	黒曜石	
IV-32	87	143	石核		B20	II	14	31	33	15	13.6	黒曜石	
IV-32	87	144	石核		I32	II	1	34	43	20	19.6	黒曜石	
IV-32	87	145	石核	P-019		覆土2(BY)	18	20	22	14	4.8	黒曜石	HD-X15
IV-32	87	146	石核		B23	II	11	28	28	16	8.5	黒曜石	
IV-32	87	147	石核	P-044		覆土1	5	26	29	17	10.9	黒曜石	HD-X17
IV-32	87	148	石核	P-163		覆土1	58-1	36	24	12	7.2	黒曜石	
IV-33	87	149	石核	P-178		覆土2	34	22	25	11	5.6	黒曜石	HD-X22
IV-33	87	150	石核		D11	II 上面1回目	3	21	28	19	12.5	黒曜石	
IV-33	87	151	石核		E7	II 2回目	10	26	29	14	7.3	黒曜石	
IV-33	87	152	石核		C27	II	7	30	28	21	11.3	黒曜石	
IV-33	87	153	石核	P-163		覆土1	13	25	37	13	9.5	黒曜石	HD-X20
IV-33	87	154	石核		G5	II	1	28	38	19	16.3	黒曜石	
IV-33	88	155	石核		B24	II	13	35	44	19	22.4	黒曜石	HD-X26
IV-33	88	156	石核		C11	II 5回目	1	20	25	19	9.2	黒曜石	
IV-33	88	157	石核		D11	II 上面4回目	4	21	28	20	7.9	黒曜石	
IV-33	88	158	石核		E9	II 4回目	6	21	40	30	22.8	黒曜石	HD-X28
IV-33	88	159	石核		E7	II 2回目	12	31	38	20	34.6	黒曜石	HD-X27
IV-33	88	160	石核	P-063		坑底直上	29-1	16	26	18	5.6	黒曜石	HD-X18
IV-33	88	161	石核		C11	II 6回目	2	20	24	21	6.8	黒曜石	
IV-33	88	162	石核	P-178		覆土3	28-2	33	21	17	10.7	黒曜石	
IV-33	88	163	石核	P-021		覆土2	8	19	39	24	16.4	黒曜石	HD-X16
IV-33	88	164	石核		D9	II 2回目	4	21	20	14	6.8	黒曜石	
IV-33	88	165	石核		D10	II 3回目	7	31	24	17	11.1	黒曜石	
IV-33	88	166	石核		E29	II	3	30	33	25	21.1	黒曜石	
IV-33	88	167	石核		E8	II 上面1回目	1	36	35	23	29.2	黒曜石	HD-X30
IV-33	88	168	石核		E7	II 上面1回目	9	34	32	25	31.8	黒曜石	HD-X29
IV-34	88	169	石斧	P-082		覆土1	7	79	52	2	139.6	緑色泥岩	

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
IV-34	88	170	石斧	P-178		覆土3	25	49	38	13	43.2	泥岩	
IV-34	88	171	石斧	P-181		覆土	12	55	17	6	10.2	片岩	
IV-34	88	172	石斧		B22	II層上面	10	[66]	[39]	[13]	45.7	緑色泥岩	
IV-34	88	173	石斧		C20	II	2	[77]	[36]	20	107.0	緑色泥岩	
IV-34	88	174	石斧	P-166		覆土	10	[63]	[34]	11	37.1	泥岩	
IV-34	88	175	石斧		D13	II	2	96	38	9	56.1	片岩	
IV-34	88	176	擦り切り残片		B調表採		3	141	(42)	27	194.4	ロジン岩	
IV-35	88	177	たたき石		G31	II	1	193	39	41	543.9	泥岩	
IV-35	88	178	たたき石	H-1		覆土2	1	212	57	38	512.9	砂岩	
IV-35	88	179	たたき石	P-127		覆土下層	3	[52]	[55]	[54]	181.1	砂岩	
IV-35	88	180	たたき石	P-141		覆土1	2	[82]	[39]	[17]	79.6	泥岩	
IV-35	88	181	たたき石	P-021		覆土2	16	[63]	[49]	21	99.7	砂岩	
IV-35	88	182	たたき石	P-184		覆土3	1	100	74	66	708.1	安山岩	
IV-36	88	183	すり石		I31	III	3	86	179	63	1360.0	粗粒玄武岩	
IV-36	89	184	すり石		C15	II	1	[66]	[50]	25	93.3	砂岩	
IV-36	89	185	すり石		試掘坑No.17		2	123	115	48	1086.7	安山岩	
IV-36	89	186	すり石		J31	III	5	109	90	49	744.0	安山岩	
IV-36	89	187	台石		L9	I	1	[71]	[53]	22	137.4	安山岩	
IV-36	89	188	台石		C14	I	1	[57]	88	19	166.3	砂岩	
IV-37	89	189	台石		D14	II	1	[141]	[104]	60	1280.0	安山岩	
IV-37	89	190	砥石		K32	II2回目	14	[64]	82	34	326.4	砂岩	
IV-37	89	191	砥石		D11	II層上面	6	[45]	[31]	[8]	8.2	砂岩	
IV-37	89	192	砥石		H31	II	2	[62]	[43]	[19]	54.5	砂岩	
IV-37	89	193	砥石	P-038		覆土1	3	[95]	[70]	28	298.2	砂岩	
IV-37	89	194	砥石	P-093		坑底直上	2	[71]	[75]	[22]	163.7	安山岩	
IV-37	89	195	加工痕のある礫	P-010		覆土2(BY)	2	77	37	9	37.4	泥岩	
IV-37	89	196	石製品	P-140		覆土3下	7	150	38	14	122.1	砂岩	

表IV-10 遺構・包含層出土掲載玉類一覧

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	備考
IV-38	90-1	1	小玉	P-148		覆土1		3	3	1	0.01	滑石?	
IV-38	90-1	2	小玉	P-145		覆土3	5	4	5	2	0.1	滑石?	
IV-38	90-1	3	垂飾		C9	II層	19	[26]	16	9	1.6	琥珀	
IV-38	90-1	4a	非鉄金属製品		F15	焼土	4	3	[3]	1	0.01		
IV-38	90-1	4b	非鉄金属製品		F15	焼土	4	3	[3]	1	0.01		

表IV-11 遺構・包含層出土掲載金属製品一覧

挿図	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	備考
IV-39	90-2	1	刀子	P-51		覆土2	19	[39]	11	8			
IV-39	90-2	2	刀子	H-3		覆土3-1層	19	[94]	[19]	85			
IV-39	90-2	3	刀子		G8	II層	17	[65]	10	7			
IV-39	90-2	4	錐	P-114		坑底層	27	[21]	6	5			
IV-39	90-2	5	口金	P-114		坑底層	27	11	11	6			
IV-39	90-2	6	錐	P-101		覆土1	20	[20]	5	4			
IV-39	90-2	7	丸湯口鉄鍋片		C11	I層	27	(最大径)[258]	(器高)[60]	(底径)227			
IV-39	90-2	8	銅銭(洪武通宝?)		C21	I層	26	23	23	1	2.2		

## 報告書抄録

ふりがな	ながぬまちょう ほろないDいせき							
書名	長沼町 幌内D遺跡							
副書名	道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第308集							
編著者名	鈴木 信・菊池慈人・鈴木宏行・末光正卓							
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685番地 1							
発行年月日	平成26 (西暦2014) 年 3 月28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
幌内D遺跡	北海道夕張郡長沼町字幌内 2032-1 ほか	01428	E-17-4	42° 55' 17"	141° 42' 56"	20111018~ 20111111 20120507~ 20120629	4,438㎡ (H23年度 1,400㎡、 H24年度 3,038㎡)	道路建設に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
幌内D遺跡	遺物包含地	続縄文時代後葉後半期	土坑・土坑墓	土器 続縄文時代後葉 (北大Ⅰ式)、擦文前・後期 石器 石鏃・スクレイパー・楔形石器・石核・礫など		続縄文時代後葉北大Ⅰ式期の土坑・土坑墓が190基ほど検出される。また、北大式期の土器圧痕から鱗翅目幼虫の糞が検出される。		
		擦文文化期前・後期	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・土坑墓					
要約	<p>幌内D遺跡は石狩低地帯の東縁部に位置し、旧馬追沼を見下ろす低位段丘上に立地する。続縄文時代後葉北大Ⅰ式を主体とする4・5世紀代の土坑・土坑墓が181基、擦文文化期の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡2軒、土坑・土坑墓23基、焼土29か所などが検出された。</p> <p>続縄文期の土坑・土坑墓は調査区南側に分布し、直径80cm～100cm程度の円形のものでしばしば2kgを超える礫が多数出土する。擦文期の土坑墓は調査区北側に分布し、長方形で副製品はみられない。</p> <p>遺物は土器等が14,613点、石器等が8,402点、金属製品等が15点、その他が247点出土し、続縄文時代後葉北大Ⅰ式を主体とする円形刺突文土器が59%、前期を主体とする擦文土器が37%を占める。石器は円形を主体とするスクレイパーが多量に出土し、楔形石器、石核が次に多い。石材は角礫は赤井川産、転礫は上土幌産・赤井川産が利用される。動物遺存体はほとんどがシカの焼骨片で、擦文期の焼土からはコイ科やサケ目の椎骨が少量出土した。土器圧痕ではイヌビエなどの種子のほか、昆虫や鱗翅目幼虫の糞が検出された。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第308集

ながぬまちょう ほろない  
**長沼町 幌内D遺跡**

道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成26年 3月28日  
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地 1  
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238  
[E-mail] mail@domaibun.or.jp  
[URL] http://www.domaibun.or.jp  
印刷 三浦印刷株式会社  
〒064-0809 札幌市中央区南9条西6丁目  
TEL (011) 511-6191 FAX (011) 512-6041  
[E-mail] miura@jeans.ocn.ne.jp